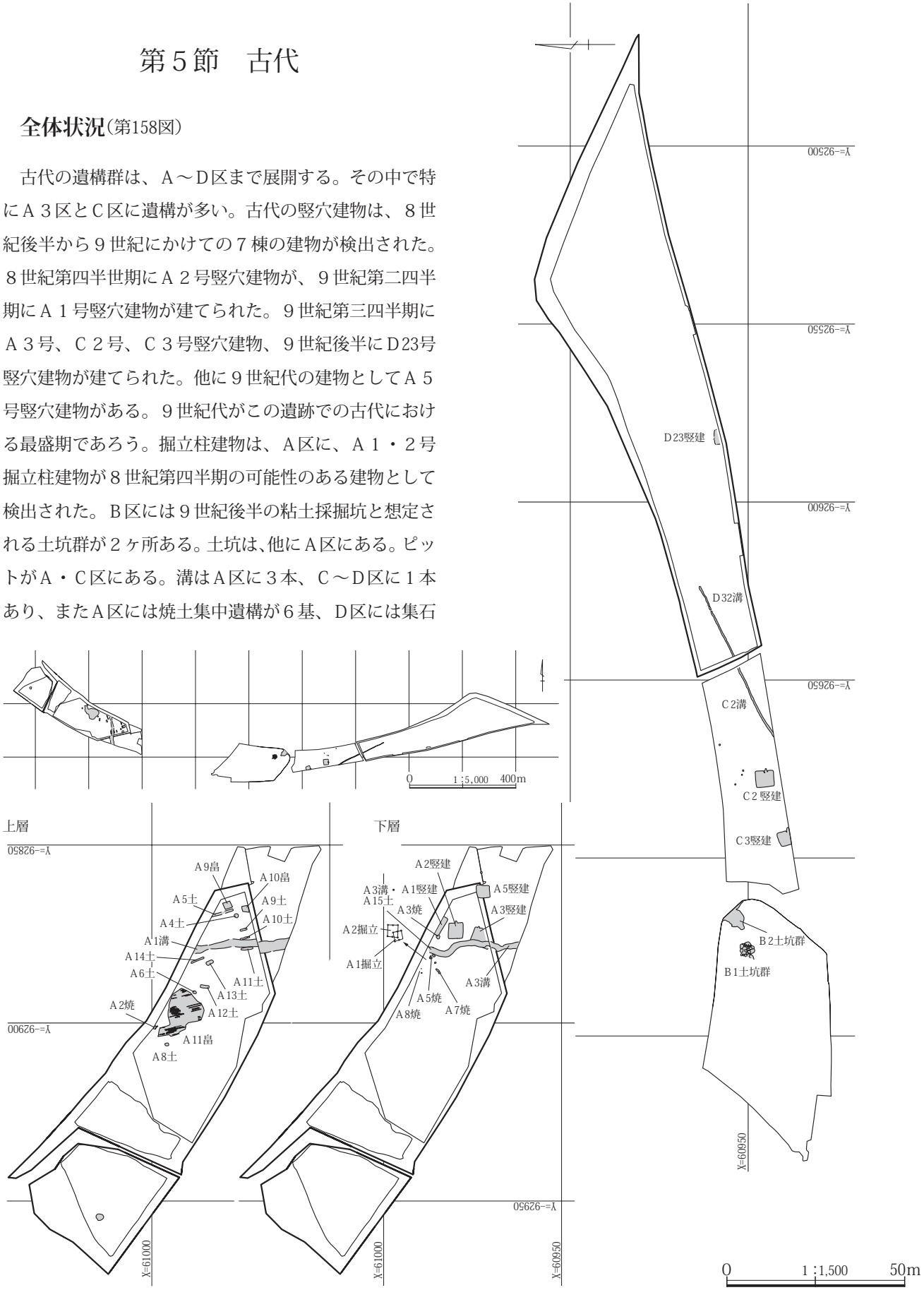
第５節　古代

全体状況（第158図）

古代の遺構群は、Ａ～Ｄ区まで展開する。その中で特にＡ３区とＣ区に遺構が多い。古代の竪穴建物は、８世紀後半から９世紀にかけての７棟の建物が検出された。８世紀第四半世期にＡ２号竪穴建物が、９世紀第二四半期にＡ１号竪穴建物が建てられた。９世紀第三四半期にＡ３号、Ｃ２号、Ｃ３号竪穴建物、９世紀後半にＤ23号竪穴建物が建てられた。他に９世紀代の建物としてＡ５号竪穴建物がある。９世紀代がこの遺跡での古代における最盛期であろう。掘立柱建物は、Ａ区に、Ａ１・２号掘立柱建物が８世紀第四半期の可能性のある建物として検出された。Ｂ区には９世紀後半の粘土採掘坑と想定される土坑群が２ヶ所ある。土坑は、他にＡ区にある。ピットがＡ・Ｃ区にある。溝はＡ区に３本、Ｃ～Ｄ区に１本あり、またＡ区には焼土集中遺構が６基、Ｄ区には集石



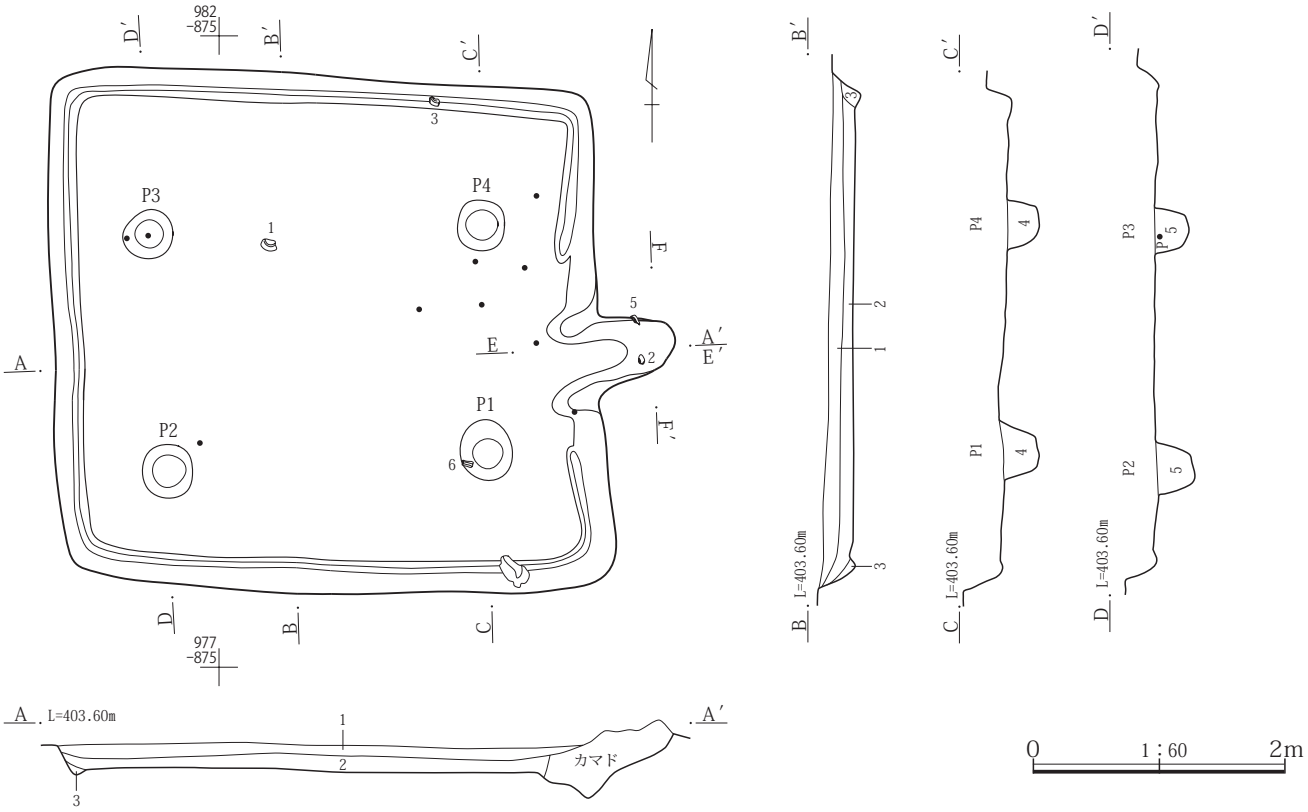
第158図　古代遺構分布図

遺構が２基ある。畠がＡ区Ａs-Ｂ下から検出された。

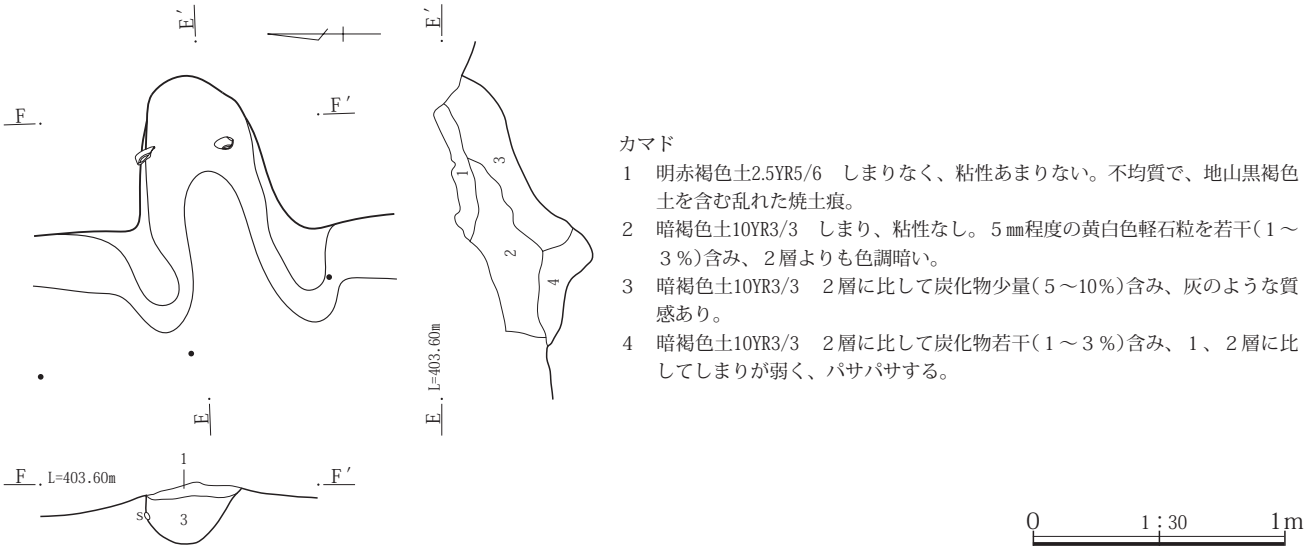
竪穴建物

Ａ２号竪穴建物(第159・160図　ＰＬ．103・104・184)

位　置　Ａ３区東南部に位置する。北にＡ２号・３号竪穴建物が建つ。**座標値**　Ｘ＝60977～60981　Ｙ＝-92878～--92876　**遺存状況・重複**　竪穴建物全体が調査対象である。**形　状**　隅円方形　**規　模**　東西4.33m、南北4.12m　**長軸方向**　Ｎ-90°-Ｅ　**床面積**　13.874m　**床面・壁**　床面は平坦である。特記すべき硬化面は無い。



1　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性なし。５㎜程度の炭化粒と黄白色軽石粒を若干(１～３％)含む。
2　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性なし。５㎜程度の黄白色軽石粒を若干(１～３％)含み、１層よりも色調暗い。
3　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性なし。黄白色軽石粒、炭化物を含まない。２層よりも色調くすみ暗い。
4　暗褐色土　10YR3/3　しまりあまりなく、粘性ややあり。ローム粒を含まない。５㎜程度の黄白色軽石粒を若干(１～３％)含む。
5　暗褐色土　10YR3/3　しまりあまりなく、粘性ややあり。ローム粒を含まない。５㎜程度の黄白色軽石粒を若干(１～３％)含む。地山は円礫を含む粘質土。ピット１には、土器(２竪建Ｐ３　№1)含む。



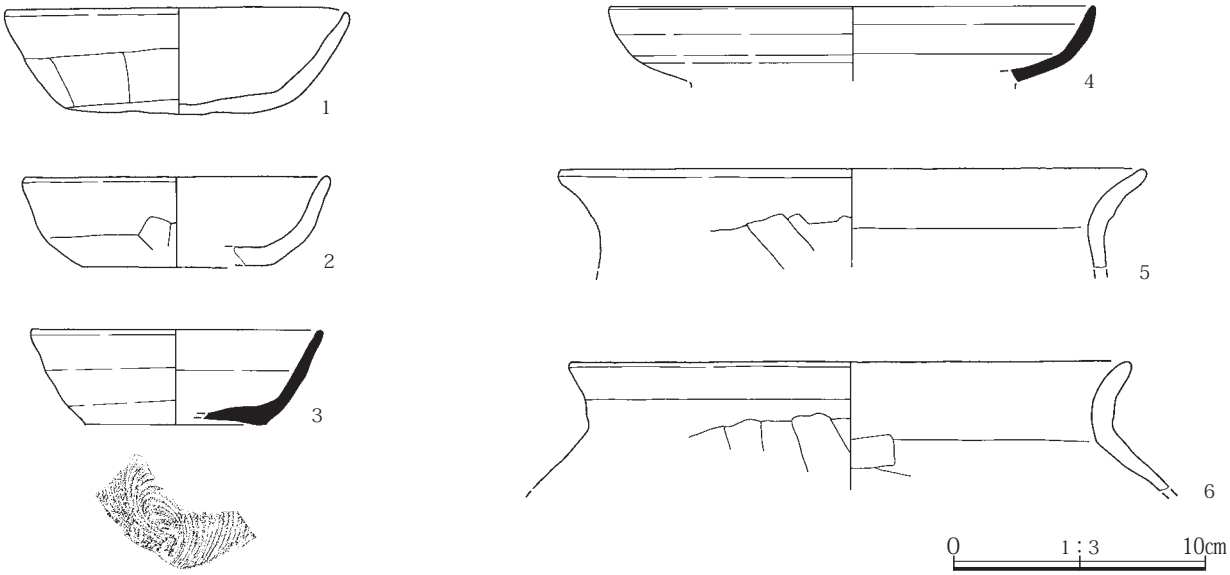
カマド
1　明赤褐色土2.5YR5/6　しまりなく、粘性あまりない。不均質で、地山黒褐色土を含む乱れた焼土痕。
2　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性なし。５㎜程度の黄白色軽石粒を若干(１～３％)含み、２層よりも色調暗い。
3　暗褐色土10YR3/3　２層に比して炭化物少量(５～10％)含み、灰のような質感あり。
4　暗褐色土10YR3/3　２層に比して炭化物若干(１～３％)含み、１、２層に比してしまりが弱く、パサパサする。

第159図　Ａ２号竪穴建物・カマド平面・遺物出土状況図・土層断面図

壁の残りはある程度あり、残存壁高12～26cmある。幅４～８cm、深さ４cmの壁際溝が全周する。**カマド**　カマド袖幅84cm、燃焼部幅30cm、長さ54cm、煙道幅32cm、長58cmである。**柱穴他**　４本主柱穴Ｐ１～Ｐ４である。長径40～48cm、短径38～42cm、深さ30～77cmである。**掘　方**　掘方は、認められない。**遺物出土状況**　カマドより土師器杯（２）、土師器甕（５）がカマド上部から出土した。土師器杯（１）・甕（６）、須恵器杯（３）が床面より10～34cm上から出土している。**遺　物**　出土遺物は、土師器杯（１・２）・甕（５・６）、須恵器杯（３・４）である。**時　期**　土器より８世紀第４四半期に比定される。

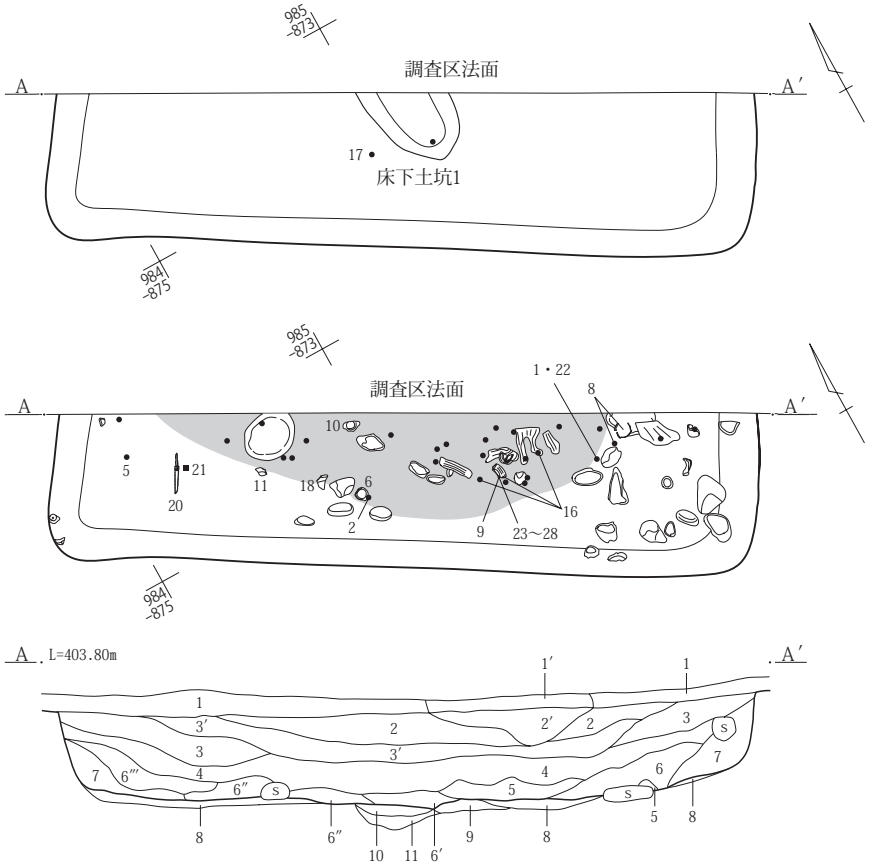
Ａ１号竪穴建物（第161～163図　ＰＬ．104・105・184）**位　置**　Ａ３区東部北側に位置する。南にＡ２号竪穴建物、Ａ３号竪穴建物が建つ。**座標値**　Ｘ＝60978～60982　Ｙ＝-92872～-92876　**遺存状況・重複**　竪穴建物の南側の一部が調査対象である。重複は無い。**形　状**　隅円方形と推定　**規　模**　東西5.60m、南北（1.30)+m　**長軸方向**　Ｎ-61°-Ｅ　**床面積**　5.112+㎡　**床面・壁**　床面は平坦である壁の残りは良く最大で40cmを有する。**掘　方**　床下土坑が中央部南にある。幅64cm、長さ84+cm、深さ10cmの土坑である。**カマド**　カマド・柱穴他は調査区外となる。**遺物出土状況**　全体に多くの遺物が出土している。土器類は、須恵器杯（１・２・５・６）、須恵器椀（８・９）、須恵器皿(11)、土師器甕(16)のうち、須恵器杯（１）・須恵器椀（９）が床面より出土し、他は７～31cm上からの出土である。石皿(19)は、床面からの出土である。鉄器は、短刀(20)が建物西部床から40cmほど上から切先を南に向けて出土した。刀装具(21)もそばから出土している。方頭鏃は、建物東部床から30cmほど上からの出土である。鉄滓が東部でまとまって出土している。**遺　物**　土器は、須恵器杯身（１～７）、須恵器椀（８・９）、須恵器皿(10・11)、須恵器杯蓋(12～14)、須恵器鉢(15)、須恵器甕(18)、土師器甕(16・17)と多種類の土器が出土した。石製品として石皿(19)が出土しており、鉄器として、有機質の刀装具及び鉄製の装具(21)も付けた短刀(20)、関東では珍しい方頭鏃(22)、鉄滓(23～28)が出土している。豊富な鉄製品と、鉄滓の出土は重要である。**時　期**　土器より９世紀第二四半期に比定される。

Ａ３号竪穴建物（第164～167図　ＰＬ．107～109・185）**位　置**　Ａ３区東部北側に位置する。南にＡ１号竪穴建物、Ａ２号竪穴建物が建つ。**座標値**　Ｘ＝60969～60976　Ｙ＝-92873～-92879　**調査状況**　平成26年度・平成27年度に分割調査　**遺存状況・重複**　竪穴建物の全体が調査対象である。重複は無い。**形　状**　隅円方形　**規　模**　東西　4.40m、南北 5.45m　**長軸方向**　Ｎ-70°-Ｅ　**床面積**　19.481㎡　**床面・壁**　床面は平坦である壁の残りは良く最大で50cmを有する。**壁際溝**　幅16cm、深さ４cmの溝が北壁際の中央のみにある。**掘　方**　掘方は、認められない。**カマド**　カマドは２ヶ所にある。いずれも東壁にある。同時使用の可能性がある。南東部の１号カマドは、袖幅80cm、カマド長(166)cm、燃焼部幅40cm、燃焼部長(76)cmである。北東部の２号カマドは、袖幅76



第160図　Ａ２号竪穴建物出土遺物図

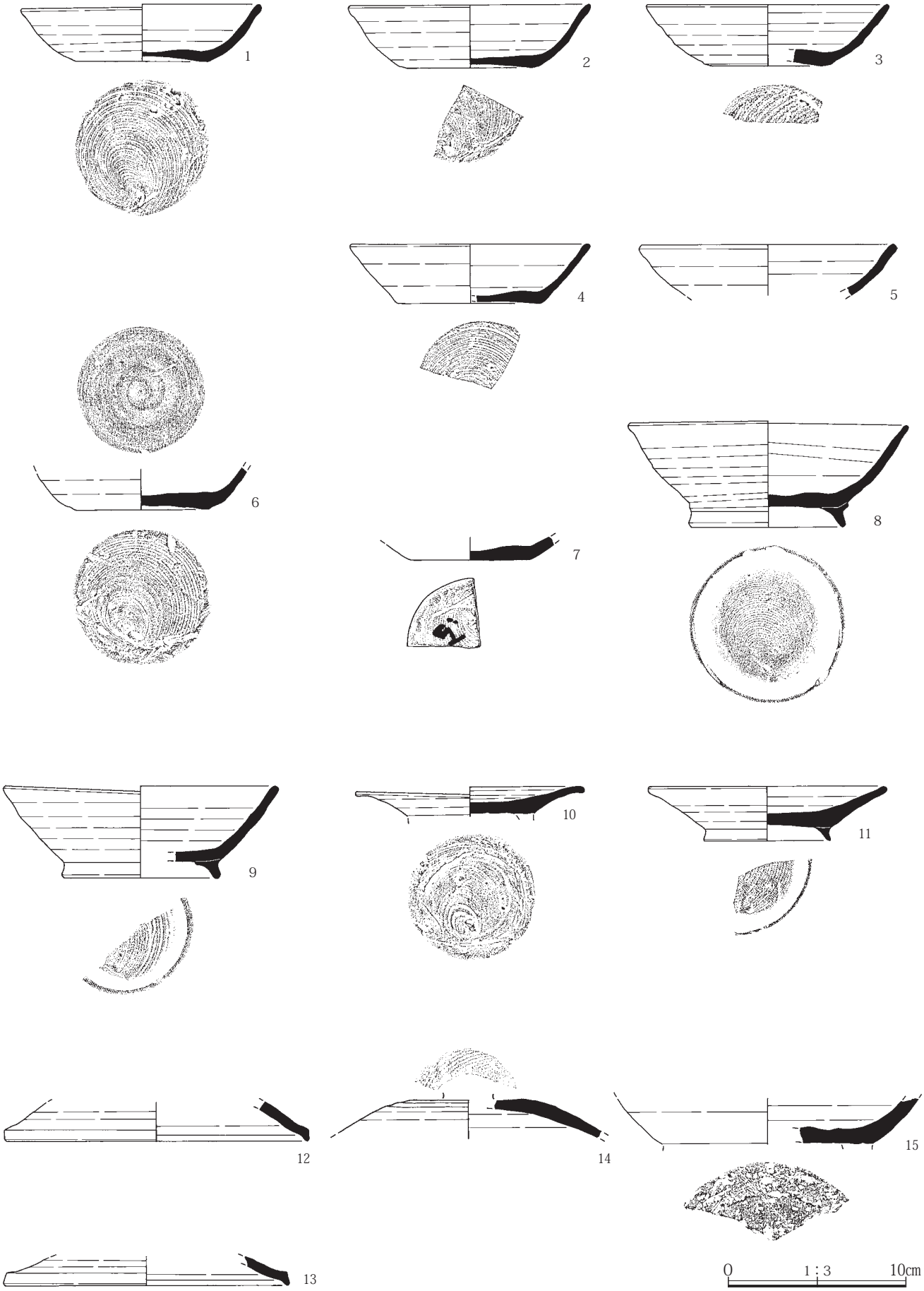
cm、カマド長(94)cm、燃焼部幅34cm、燃焼部長(66)cmである。焼土が、第１号カマドから1.2mほど離れた箇所で幅44～84cm、長さ126cmの範囲で集中している。**貯蔵穴**　長132cm、幅96cm、深さ８cmで、北側に土堤がある。**遺物出土状況**　１号カマド周辺に須恵器杯片(３)、須恵器大甕片(21)が覆土上層から出土した。２号カマド中から須恵器椀片(９)が覆土上層から出土した。貯蔵穴の覆土上層から須恵器杯(４)、底面から須恵器大甕口頸部(８)が出土している。床面直上からの出土で土師器甕(17)が出土している。床面から３～39cmほど上位から須恵器杯(６)、須恵器椀(７・10・11)、須恵器杯蓋(13)、須恵器甕片(19・20)・須恵器長頸壺(15)などが出土している。台石(22)は床面上より出土している。**遺　物**　遺物は須恵器杯(１～６)、須恵器椀(７～12)、須恵器杯蓋(13・14)、須恵器長頸壺(15)、須恵器甕片(19～22)、土師器甕(16～18)、台石(22)が出土している。非掲載で台石が他に３点ある。**時　期**　土器から、９世紀第３四半期に比定される。



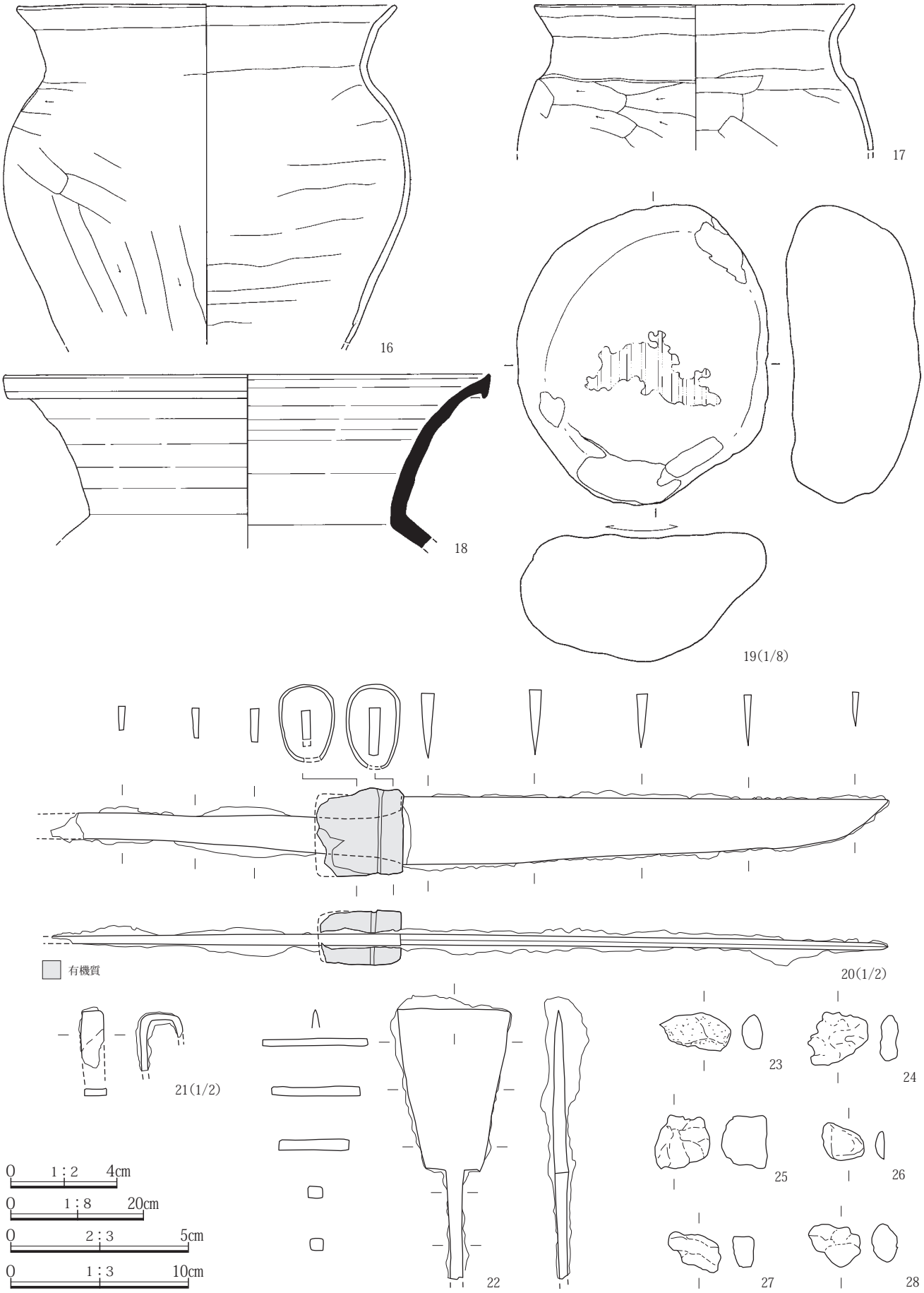
1　黒色土10YR2/1　乾燥すると強いしまりあり。保湿状態でしまり欠き、粘性あり。
1′　１層に加え、粕川テフラ間層中の褐灰色(10YR4/1)火山灰に似た灰層を斑に含む(樹痕ないしは風倒木等の作用か？)。
2′　黒褐色土10YR3/1　しまりなし。粘性ややあり。炭化粒、軽石含まない。１層よりも色調明るい。
2′　２層に加え、粕川テフラ間層中の褐灰色(10YR4/1)火山灰に似た灰層を斑に含む(樹痕ないしは風倒木等の作用か？)。
3　暗褐色土10YR3/3　しまりなし。粘性ややあり。ローム粒、若干炭化粒、黄色軽石(１～３％)含む。
3′　３層より炭化粒多い。
4　暗褐色土10YR3/3　しまりなし。粘性ややあり。３層に加え、炭(１～３cm大)を若干含む。
5　赤褐色土2.5YR4/8　しまりなし。粘性ややあり。焼土ブロックを主体とし、炭(１～３cm大)を不均質に若干含む。
6　暗褐色土10YR3/3　しまりなし。粘性ややあり。最大径４cm程度の焼失材と思われる炭が不規則に大量(30～50％)に含む。
6′　６層に比して、材は特定できず不均質。
6″　６層に比して、材と思われる炭化物が水平に近く含む。
6″　6′より不均質に炭化物を含む。
7　暗褐色土10YR3/3　しまりあまりなく、粘性ややあり。黄色軽石、炭化物を不均質に若干含む。
8　にぶい黄褐色土10YR4/3　しまり、粘性ややあり。７層より色調若干明るい。ローム？の若干の溶け込みあり。粗粒砂ブロック
9　暗褐色土10YR3/3　しまりなし。粘性ややあり。ローム粒、焼土ブロックを乱れて含む。
10　明赤褐色土2.5YR5/6　しまりなし。粘性ややあり。比較的良好な焼土層。
11　暗褐色土10YR3/3　しまりなし。粘性ややあり。焼土ブロックを少量(5～10％)に含む。

0　1：60　2m

第161図　Ａ１号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図



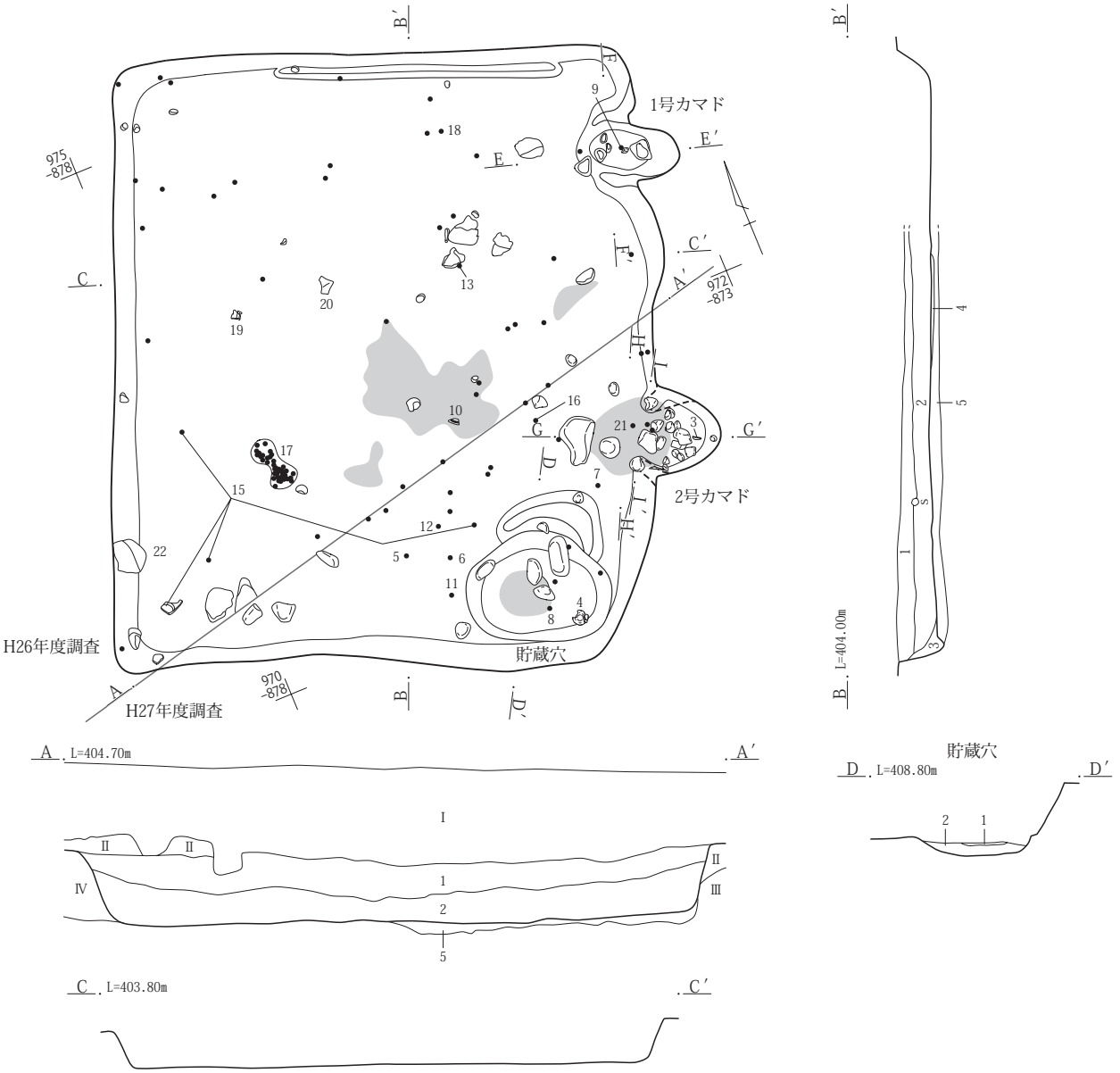
第162図　Ａ１号竪穴建物出土遺物図（１）



第163図　Ａ１号竪穴建物出土遺物図（２）

Ｃ２号竪穴建物（第168～170図　ＰＬ．110～112・185）

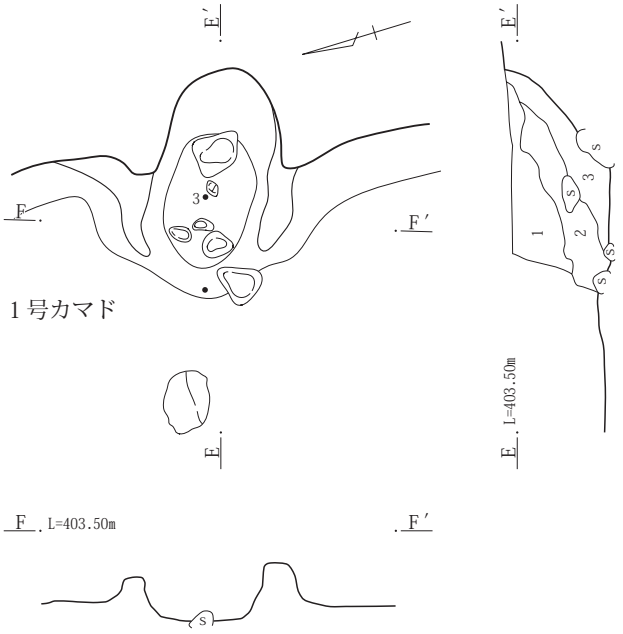
位　置　Ｃ区中央部やや南側に位置する。西15mにＣ３号竪穴建物が建つ。**座標値**　Ｘ＝60942～60947　Ｙ＝-92674～-92680　**遺存状況・重複**　竪穴建物の全体が調査対象である。重複は無い。**形　状**　隅円方形　**規　模**　東西　4.62m、南北 5.15m　**長軸方向**　N－88°－E　**床面積**　17.868㎡　**床面・壁**　床面は平坦である。壁の残りは良く最大で38㎝を有する。**壁際溝**　幅10～18㎝、深さ３～８㎝の溝がほぼ全周する。Ｕ字形鍬鋤先の掘削痕跡が溝付近に40個弱確認できた。**掘　方**　掘　方に伴う床下土坑がある。カマド前に１号床下土坑（１辺1.1m、深さ46㎝の隅円長方形）、南入口やや北側に２号床下土坑（長106㎝、幅70㎝、深さ20㎝）がある。**カマド**　南東部に位置する、長さ90㎝、袖幅102㎝、煙道部長96㎝の



Ⅰ　埋土　大形礫を多量に含む。
Ⅱ　黒褐色土10YR3/2　ローム粒少量含む。しまりは比較的良い。
Ⅲ　黒褐色土10YR3/3　ロームを15％程度含む。しまりは良い。
Ⅳ　黒褐色土10YR3/2　全体に砂を含み、砂質。しまりはやや弱い。
1　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性あまりなし。ロームの溶け込み若干（１～３％程度）あり。５㎜程度の炭化粒と黄白色軽石粒を若干（１～３％）含む。
2　暗褐色土10YR3/3　１層に比して、色調暗く粘性若干強い。
3　暗褐色土10YR3/3　２層に比して、粘性強く、均質。
4　黄褐色土2.5YR4/8　しまりあまりなく、粘性ややあり。ローム溶け込み少量あり。不均質な焼土ブロック。
5　黒褐色土10YR3/2　しまりややあり。粘性あり。ロームブロック、長１～３㎝の炭化物若干含む。白色粒・黄褐色粒１％未満含む。（３竪建貼床相当層）

貯蔵穴
1　橙色土2.5YR7/6（焼土）しまりは悪い。
2　黒褐色土10YR3/2　炭化物粒を３％程度含む。しまりは弱い。

第164図　Ａ３号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図　0　1：60　2m

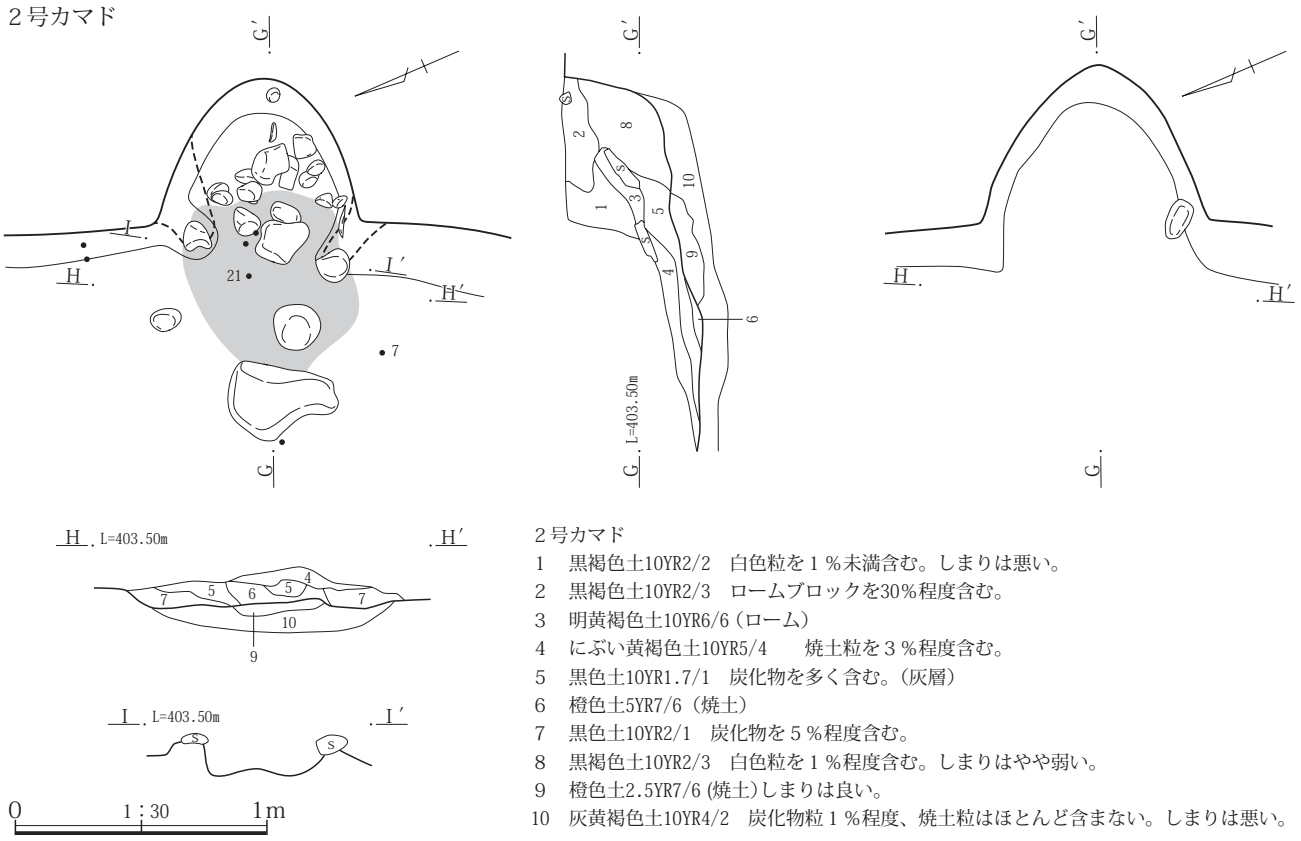


1号カマド

1　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性あまりなし。ロームの溶け込み若干(1～３％程度)あり。５㎜程度の炭化粒と黄白色軽石粒を若干(1～３％)含む。下位に鉄分凝集層あり。

2　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性あまりなく、ややポサポサ感あり。ロームの溶け込み若干(1～３％程度)あり。５㎜程度の炭化粒と黄白色軽石粒を若干(1～３％)含む。１層より色調暗い。

3　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性あまりなく、ややポサポサ感あり。ロームの溶け込み若干(1～３％程度)あり。５㎜程度の炭化粒を若干(1～３％)含み、黄白色軽石粒を含まない。僅かな焼土ブロックを含み、灰質味ありややポサポサ感あり。２層より色調暗い。



2号カマド

1　黒褐色土10YR2/2　白色粒を１％未満含む。しまりは悪い。

2　黒褐色土10YR2/3　ロームブロックを30％程度含む。

3　明黄褐色土10YR6/6（ローム）

4　にぶい黄褐色土10YR5/4　　焼土粒を３％程度含む。

5　黒色土10YR1.7/1　炭化物を多く含む。(灰層)

6　橙色土5YR7/6（焼土）

7　黒色土10YR2/1　炭化物を５％程度含む。

8　黒褐色土10YR2/3　白色粒を１％程度含む。しまりはやや弱い。

9　橙色土2.5YR7/6 (焼土)しまりは良い。

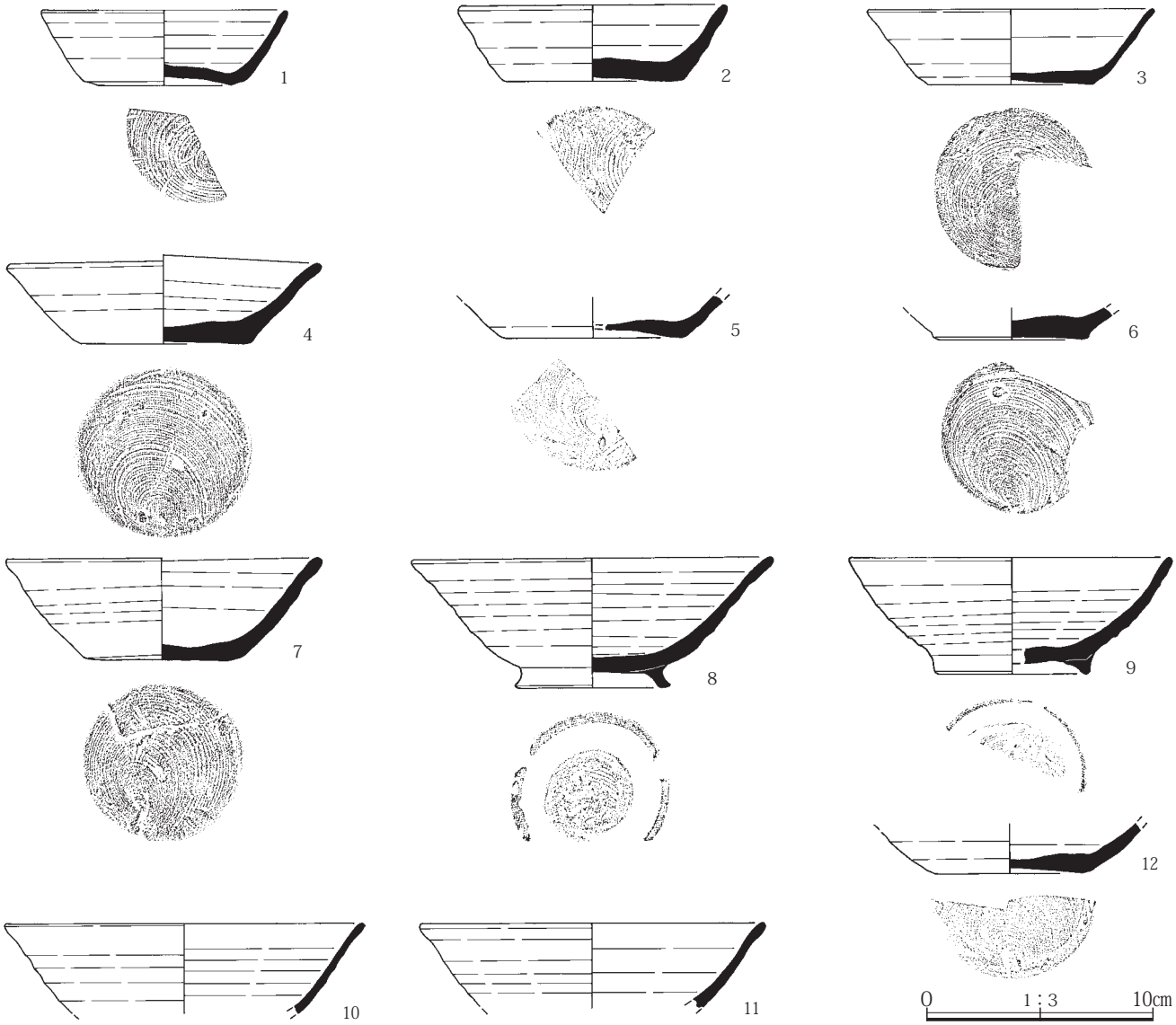
10　灰黄褐色土10YR4/2　炭化物粒１％程度、焼土粒はほとんど含まない。しまりは悪い。

第165図　Ａ３号竪穴建物１・２号カマド平面図・土層断面図

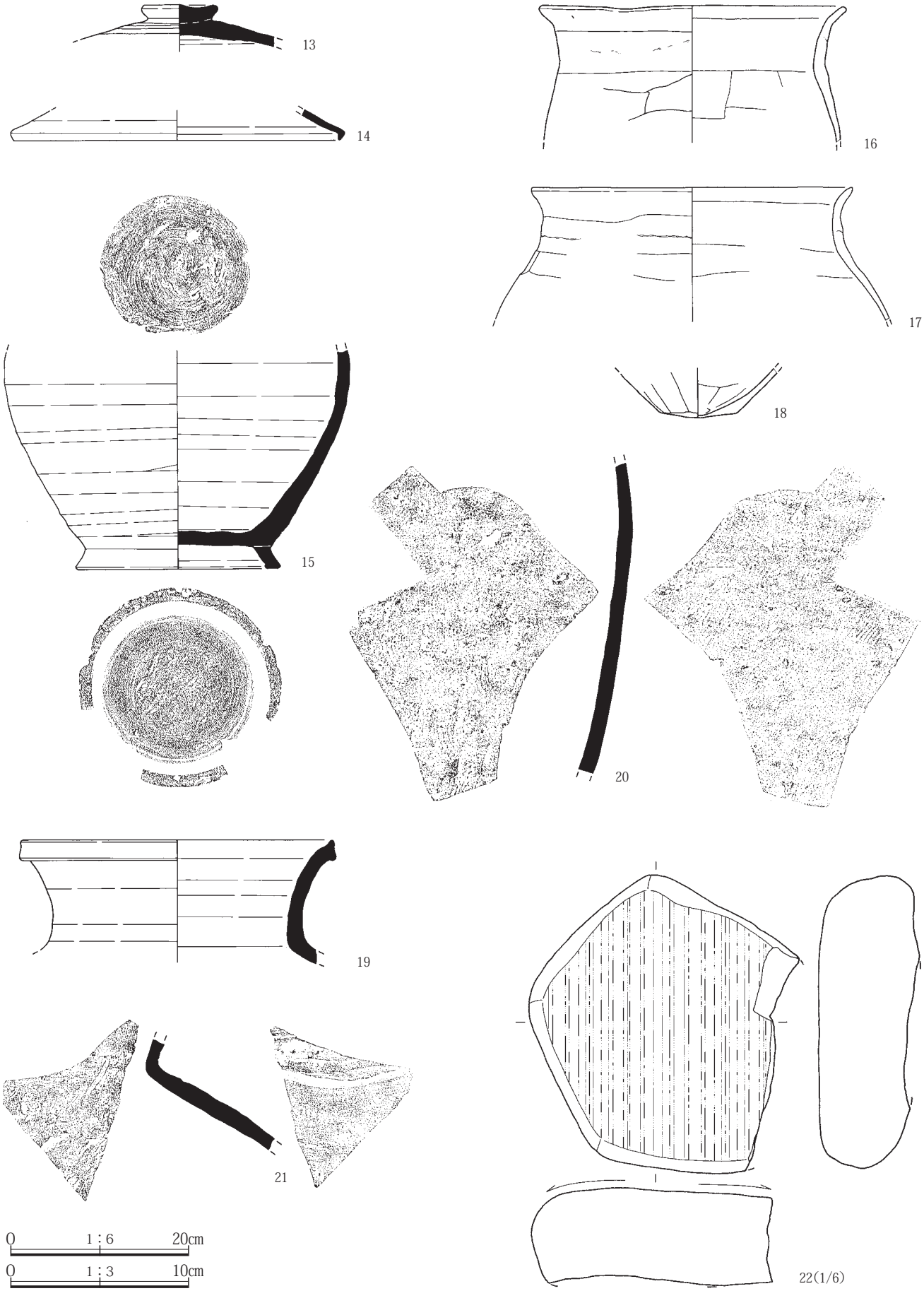
石組カマドがある。カマドは一部壊されている。平石が左右袖に６～７個立て並べその上に天井石を架構している。２個のみ天井石が遺存している。煙道が壁際を急角度で立ち上がる形態である。**柱穴他**　４本主柱穴のＰ１～４が検出されている。長径42～49㎝、短径37～41㎝、深さ23～30㎝である。**遺物出土状況**　南入口付近に須恵器杯(５・６)が、カマド左袖北側から台付土師器甕(８)が床面から出土している。カマド前小ピットＰ５の中から須恵器杯(３)が出土している。カマド左袖北から、床より30㎝上で須恵器杯(２)が出土している。鉄器は、刀子刃部(10)がカマド前より出土し、鉄滓がカマド左袖北側(14・16)および床下土坑西(12・13・15・17)より出土している。また、1号床下土坑より白色粘土が出土している。**遺　物**　須恵器杯(１)、須恵器椀(２～６)、土師器甕(７)、土師器台付甕(８)が出土している。うち５は、墨書で「矢」と書かれている。鉄器は、鏃頸・茎部片(９)、小型刀子刃部(10)、鉄滓(11～17)が出土している。**時　期**　土器より９世紀第３四半期に比定される。

Ｃ３号竪穴建物(第171～173図　ＰＬ．113～115・186)

位　置　Ｃ区西部南側に位置する。東15mにＣ２号竪穴建物が建つ。**座標値**　Ｘ＝60937～60941　Ｙ＝-92691～-92696　**遺存状況・重複**　竪穴建物の北部が調査対象で、全体の2/3程を調査する。**形　状**　隅円方形　**規　模**　東西　4.05m、南北 3.40+m　**長軸方向**　N－71°－E　**床面積**　10.095+㎡　**床面・壁**　床面は平坦である。壁の残りは良く最大で61㎝を有する。**壁際溝**　幅14～20㎝、深さ１～７㎝の溝が調査範囲内ではほぼ全周する。U字形鍬鋤先の掘削痕跡が溝付近に14個出土した。

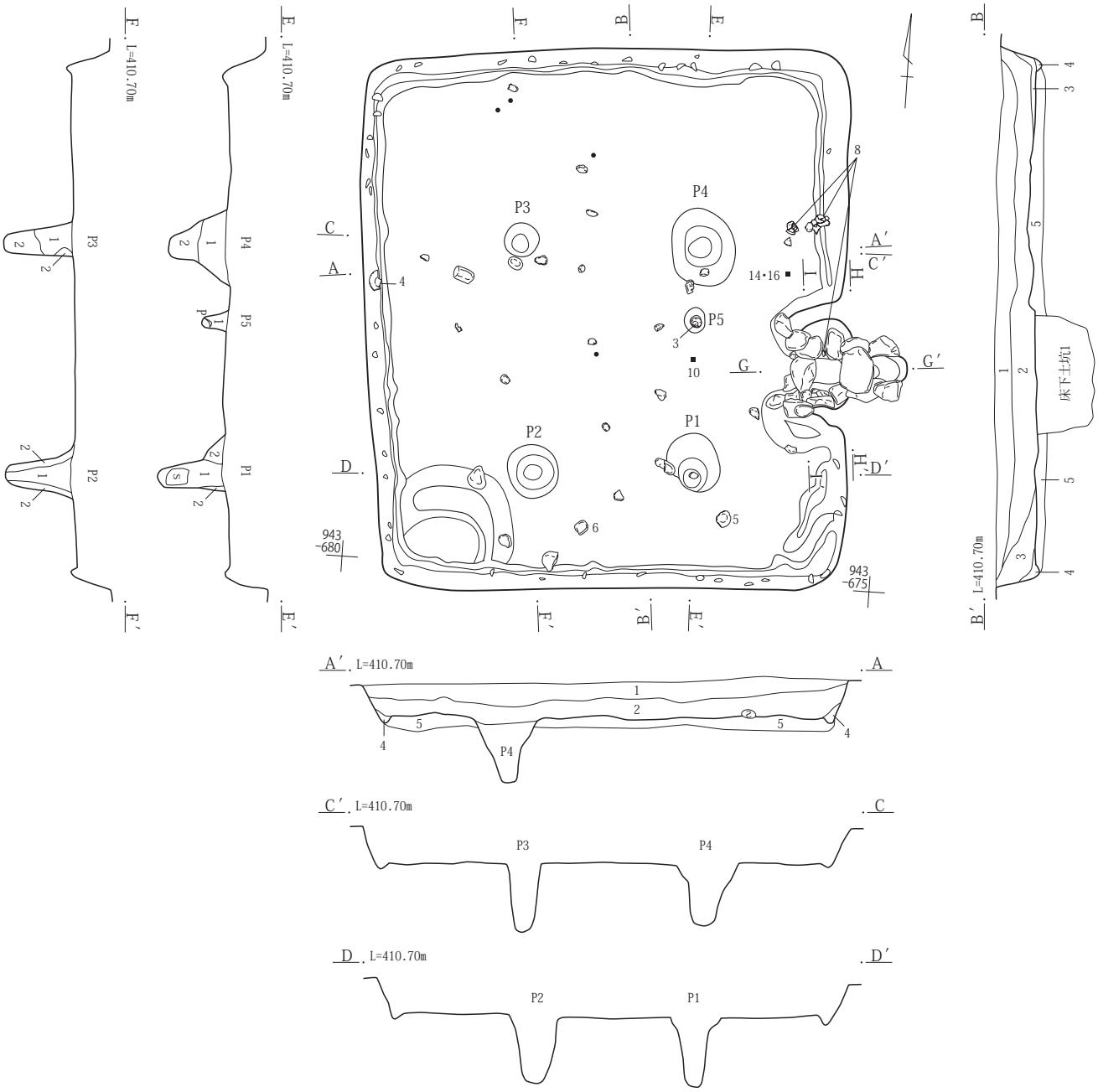


第166図　Ａ３号竪穴建物出土遺物図(１)



第167図　Ａ３号竪穴建物出土遺物図（２）

掘　方　掘方に伴う床下土坑がある。カマド前南部に１号(長60+cm、幅66cm)、２号(長48+cm、幅48+cm)、床中央やや北に３号(長72cm、幅63cm)、３号の南に４号(長75cm、幅cm)がある。また、掘方面には30個弱のＵ字形鍬鋤先の掘削痕跡がある。**カマド**　南東部に位置する、長さ140cm、袖幅80+cm、煙道部長60cmのカマドである。カマドは一部壊されている。平石がいくつか出土しているので、石を利用したカマドの可能性がある。**柱穴他**　柱穴はＰ１(長径30cm、短径26cm、深さ24cm)が、カマド前やや離れて確認できた。１号土坑(径24cm、深さ８cm)



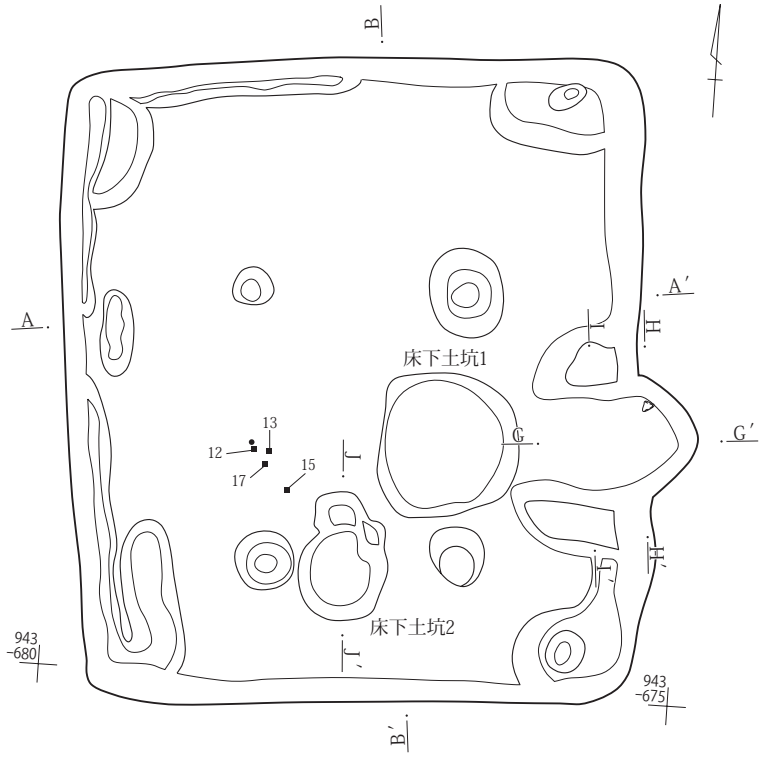
1　黒色土10YR1.7/1　φ１～３㎜の黄褐色粒を３％程度含む。しまりは弱い。やや粘性有り。
2　黒色土10YR2/1　φ１～３㎜の黄褐色粒を２％程度含む。しまりは１よりもやや良い。
3　黒褐色土10YR2/2　地山の暗褐色土ブロックを10％程度含む。しまりは良い。
4　黒褐色土10YR2/3　地山の暗褐色土粒を10％程度含む。しまりは弱い。
5　黒色土10YR2/1　ロームブロックを５％程度含む。しまりは良い。

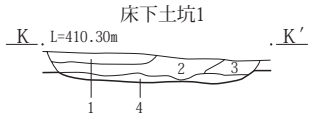
ピット１～４
1　黒色土10YR2/1　ローム粒を３％程度含む。しまりは弱い。
2　黒褐色土10YR2/2　ロームブロックを５％程度含む。しまりは良い。

ピット５
1　黒色土10YR2/1　ローム粒を１％未満含む。しまりは悪い。(須恵器杯出土)

0　1：60　2m

第168図　Ｃ２号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図



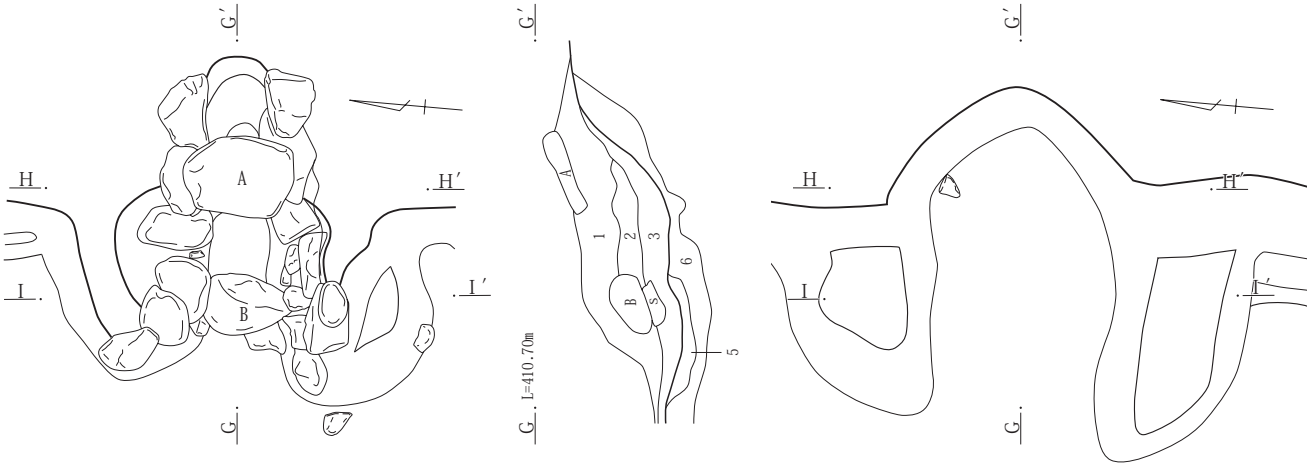


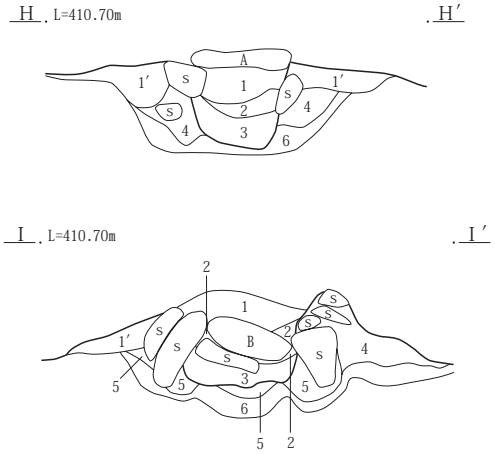
床下土坑１

1　黒褐色土10YR2/2　ロームブロックを５％程度、焼土粒１％未満、炭化物粒を１％未満含む。しまりは悪い。

2　黒色土10YR2/1　ロームブロックを５％程度含む。しまりは良い。

0　1：60　2m





カマド

1　黒色土10YR1.7/1　褐色土ブロック及び黄褐色粒を５％程度含む。しまりはやや良い。

1′黒色土10YR1.7/1　１に類似するが、１よりもしまりは良い。

2　黒色土10YR2/1　焼土ブロック及び同粒を10％程度含む。しまりは１よりも弱い。

3　にぶい橙色土5YR7/4　黒褐色土を40％程度含む。しまり１よりもは弱い。

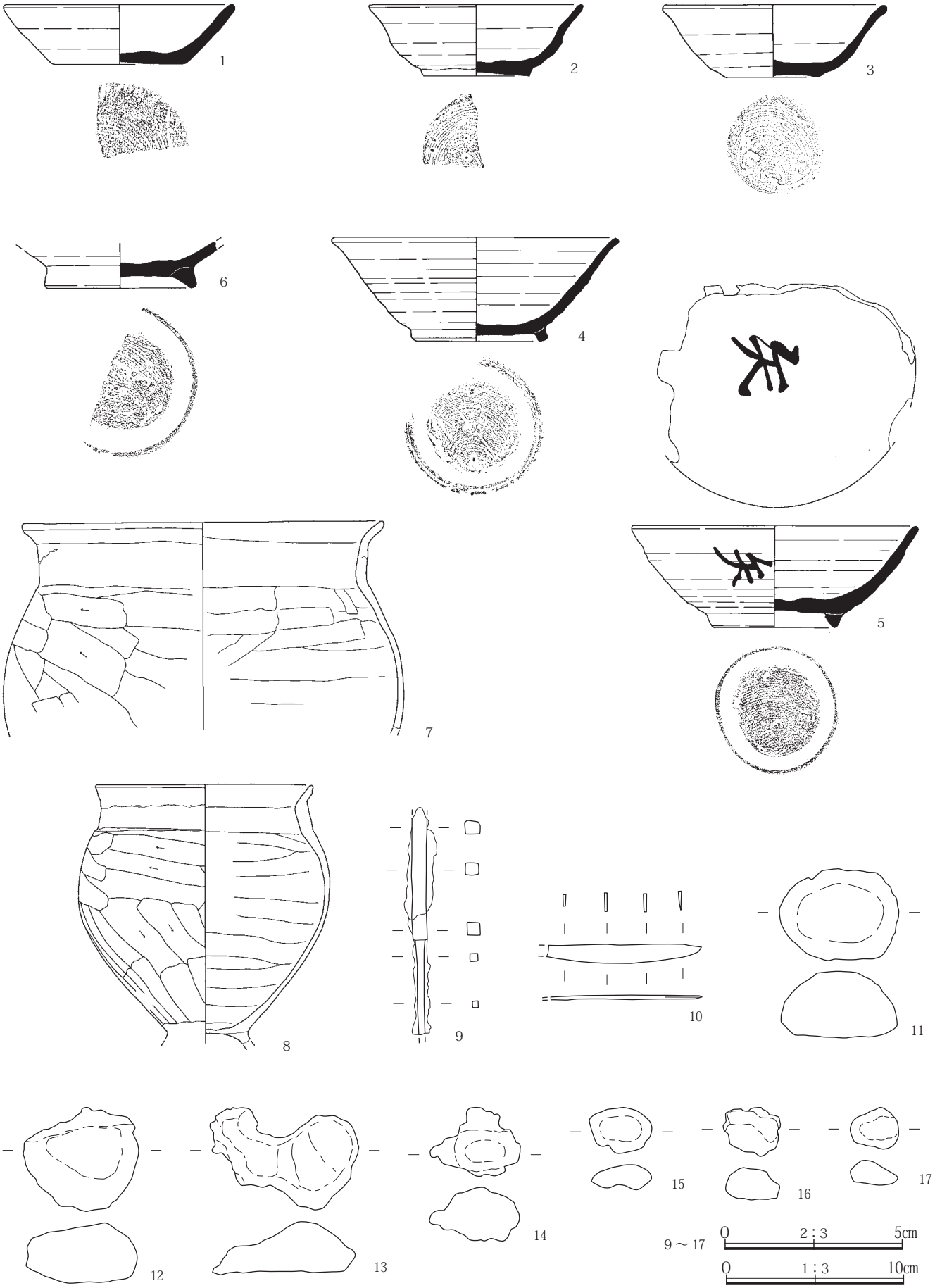
4　暗褐色土10YR3/3　黄褐色粒を１％未満含む。しまりは比較的良い。やや粘性有り。

5　黒褐色土10YR2/2　焼土粒を30％程度含む。しまりは弱い。

6　黒色土10YR1.7/1　極わずかに焼土粒を含む。黄褐色粒を１％程度含む。締まりは比較的良い

0　1：30　1m

第169図　Ｃ２号竪穴建物掘方平面・遺物出土状況図・カマド平断面図



第170図　Ｃ２号竪穴建物出土遺物図

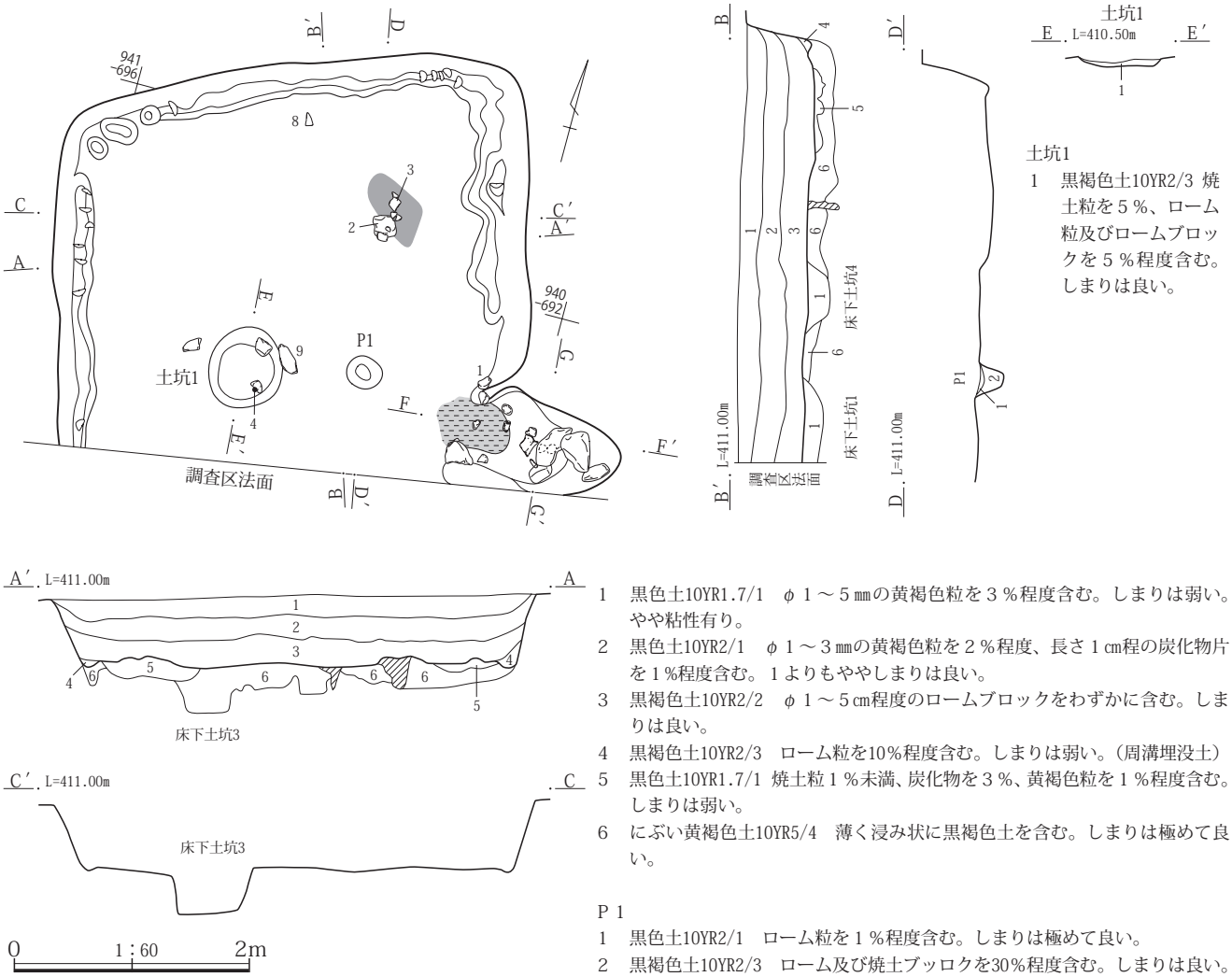
が検出されている。**遺物出土状況**　１号土坑内から須恵器杯(４)、カマド左袖やや上から須恵器杯(１)、須恵器甕(８)が覆土上層から出土している。石皿(９)が１号土坑横から床面より出土している。また、３号床下土坑内より、須恵器椀(２・３)が出土している。**遺　物**　須恵器杯(１・４)、須恵器椀(２・３)、須恵器甕(７・８)、土師器甕(５)、土師器台付甕(６)、石皿(９)が出土している。**時　期**　土器より９世紀第３四半期に比定される。

Ｄ23号竪穴建物(第174図　ＰＬ．116・117・186)

位　置　Ｄ区中央やや東の南側に位置する。**座標値**　Ｘ＝60958～60959　Ｙ＝-92579～-92583　**遺存状況・重複**　竪穴建物の北部、全体の1/３程が調査対象となる。**形状**　隅円方形　**規　模**　東西　4.27m、南北1.40+m**長軸方向**　N-86°-E　**床面積**　2.817+㎡　**床面・壁**　床面は平坦である。壁の残りは良く最大で59㎝を有する。壁際溝 幅6～24㎝、深さ６～15㎝の溝が調査範囲内ではほぼ全周する。**掘　方**　掘方は無い。**カマド**　調査区外にあると想定する。**柱穴他**　Ｐ１～Ｐ３が壁周溝外側に検出された。Ｐ１(長径35㎝、短径23㎝、深さ23㎝)が北西隅、Ｐ２(長径40㎝、短径30㎝、深さ53㎝)が北辺中央、Ｐ３(長径28㎝、短径25㎝、深さ23㎝)が北東隅にある。また、床面北西部にＰ４(長径88㎝、短径83+㎝、深さ37㎝)が、床面北東部にＰ５(長径78+㎝、短径37+㎝、深さ29㎝)に確認できた。**遺物出土状況**　Ｐ５内部から、土師器甕(７)、鉄刀子(10)が出土した。Ｐ５の際から須恵器椀(５)が出土している。**遺　物**　須恵器杯(１)、須恵器椀(２～６)、須恵器甕(８)、須恵器壺(９)土師器甕(７)、茎を折り曲げた刀子(10)が出土している。**時　期**　土器より９世紀後半に比定される。

Ａ５号竪穴建物(第175図　ＰＬ．117)

位　置　Ｄ区中央やや東の南側に位置する。**座標値**　Ｘ＝60979～60974　Ｙ＝-92862～-92866　**遺存状況・重**

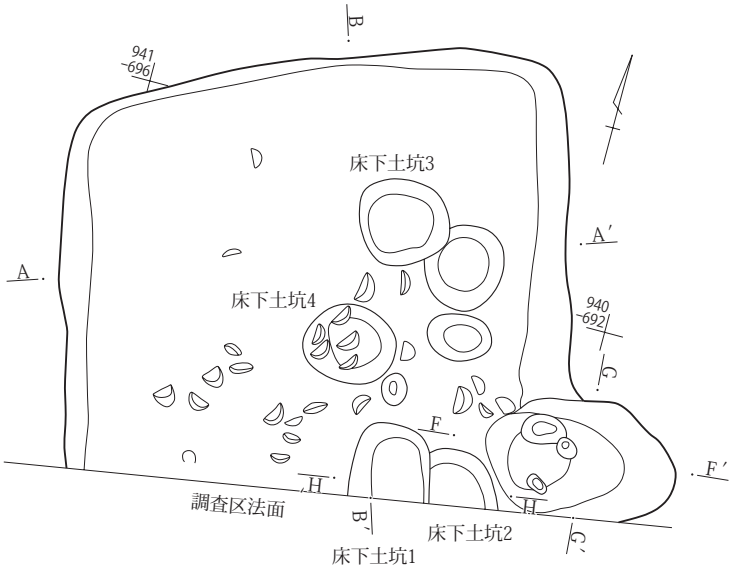


土坑1
1　黒褐色土10YR2/3 焼土粒を５％、ローム粒及びロームブロックを５％程度含む。しまりは良い。

1　黒色土10YR1.7/1　φ１～５㎜の黄褐色粒を３％程度含む。しまりは弱い。やや粘性有り。
2　黒色土10YR2/1　φ１～３㎜の黄褐色粒を２％程度、長さ１㎝程の炭化物片を１％程度含む。１よりもややしまりは良い。
3　黒褐色土10YR2/2　φ１～５㎝程度のロームブロックをわずかに含む。しまりは良い。
4　黒褐色土10YR2/3　ローム粒を10％程度含む。しまりは弱い。(周溝埋没土)
5　黒色土10YR1.7/1 焼土粒１％未満、炭化物を３％、黄褐色粒を１％程度含む。しまりは弱い。
6　にぶい黄褐色土10YR5/4　薄く浸み状に黒褐色土を含む。しまりは極めて良い。

Ｐ１
1　黒色土10YR2/1　ローム粒を１％程度含む。しまりは極めて良い。
2　黒褐色土10YR2/3　ローム及び焼土ブッロクを30％程度含む。しまりは良い。

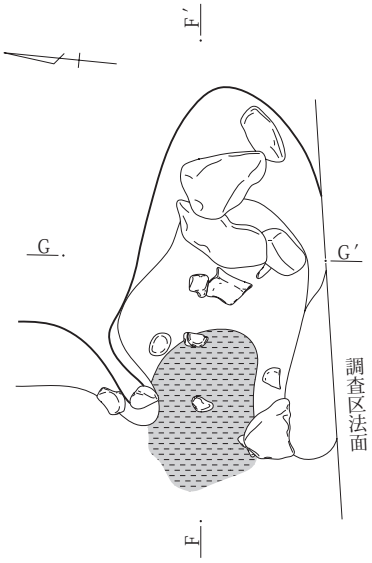
第171図　Ｃ３号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図

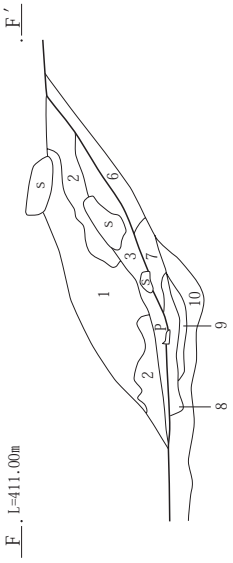


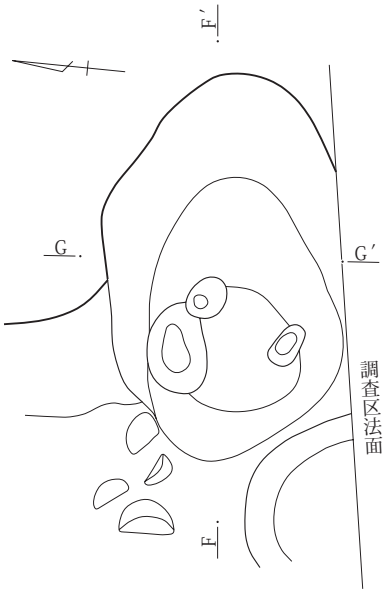
床下土坑1
1　黒褐色土10YR3/2　ロームブロック及び同粒を30％程度、焼土ブロックを５％、炭化物片を３％程度含む。しまりは悪い。
床下土坑2
2　黒色土10YR2/1　ロームブロックを５％程度含む。しまりは良い。
床下土坑4
1　黒褐色土10YR3/2　ローム小ブロック及び同粒を20％程度、焼土粒を３％程度、炭化物粒を３％程度含む。しまりは悪い。

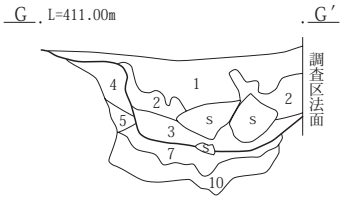
カマド

0　1：60　2m









1　黒色土10YR2/1 焼土粒をほとんど含まない。しまりは悪い。
2　暗黒色土10YR3/3　焼土ブロック及び同粒を30％程度含む。しまりは弱い。
3　暗黒色土10YR3/3　焼土ブロック及び同粒を40％程度、炭化物粒を５％程度含む。しまりは悪い。
4　黒褐色土10YR3/2　ロームブロックを20％程度含む。しまりは良い。
5　暗黒色土7.5YR3/3　７に類似するが、焼土粒を３％程度含む。
6　黒色土10YR1.7/1　ロームブロックを数点含む。しまりは良い。
7　暗褐色土7.5YR3/3　焼土粒を10％、炭化物粒を３％程度含む。しまりは悪い。
8　にぶい赤褐色土5YR5/3　焼土小ブロック及び粒を30％程度、炭化物粒を５％程度含む。しまりは悪い。
9　橙色土2.5YR6/6（焼土）　単一的。しまりは良い。
10　黒色土10YR1.7/1　ロームブロックを数点含む。しまりは良い。

0　1：30　1m

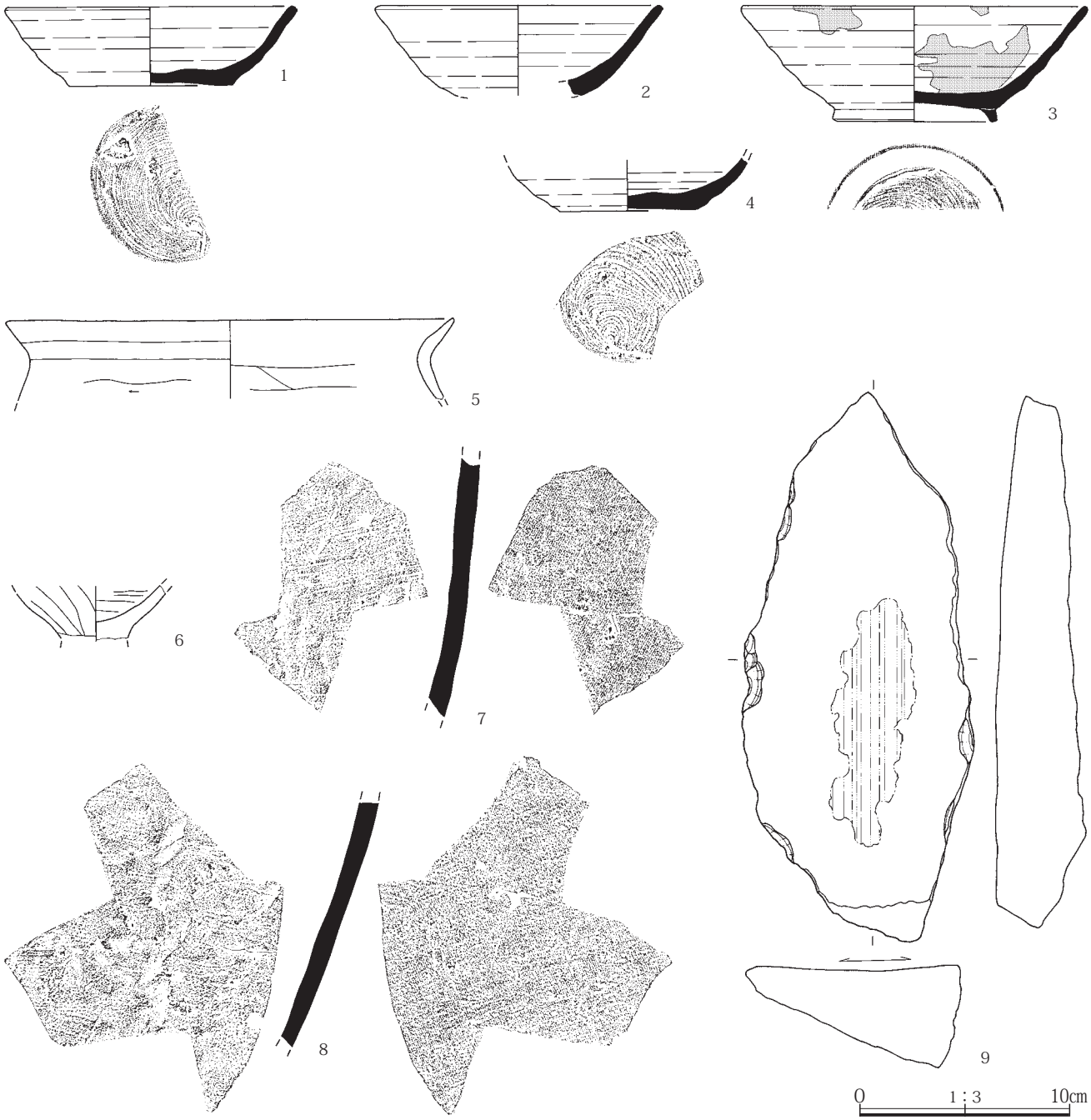
第172図　Ｃ３号竪穴建物掘方平面図、カマド平面・土層断面図

複　竪穴建物全体が調査対象となる。**形　状**　隅円方形　**規　模**　東西3.54m、南北3.66m　**長軸方向**　N－6°－E　**床面積**　12.861㎡　**床面・壁**　床面は凹凸がある。下層の礫層が中央部で露出している。壁の残りは悪く、６～12cmである。**壁際溝・掘方・カマド・柱穴他**　ともに確認できなかった。**遺　物**　須恵器杯(1)、須恵器甕(2)が出土している。**時　期**　土器より９世紀代に比定される。

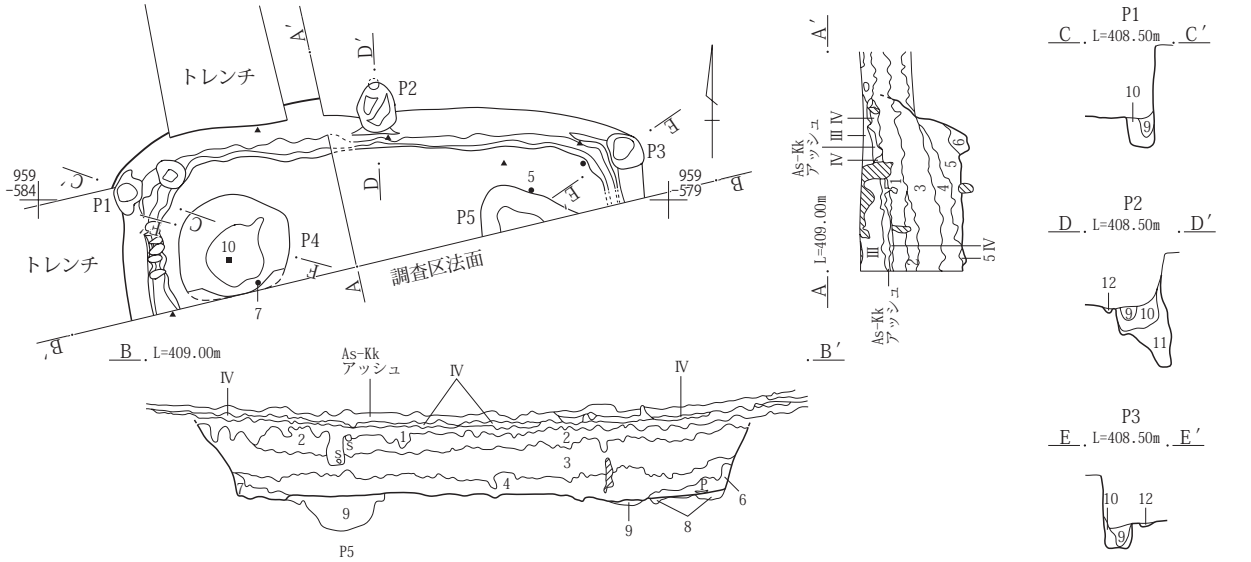
掘立柱建物

Ａ１号掘立柱建物(第176図、ＰＬ．118)

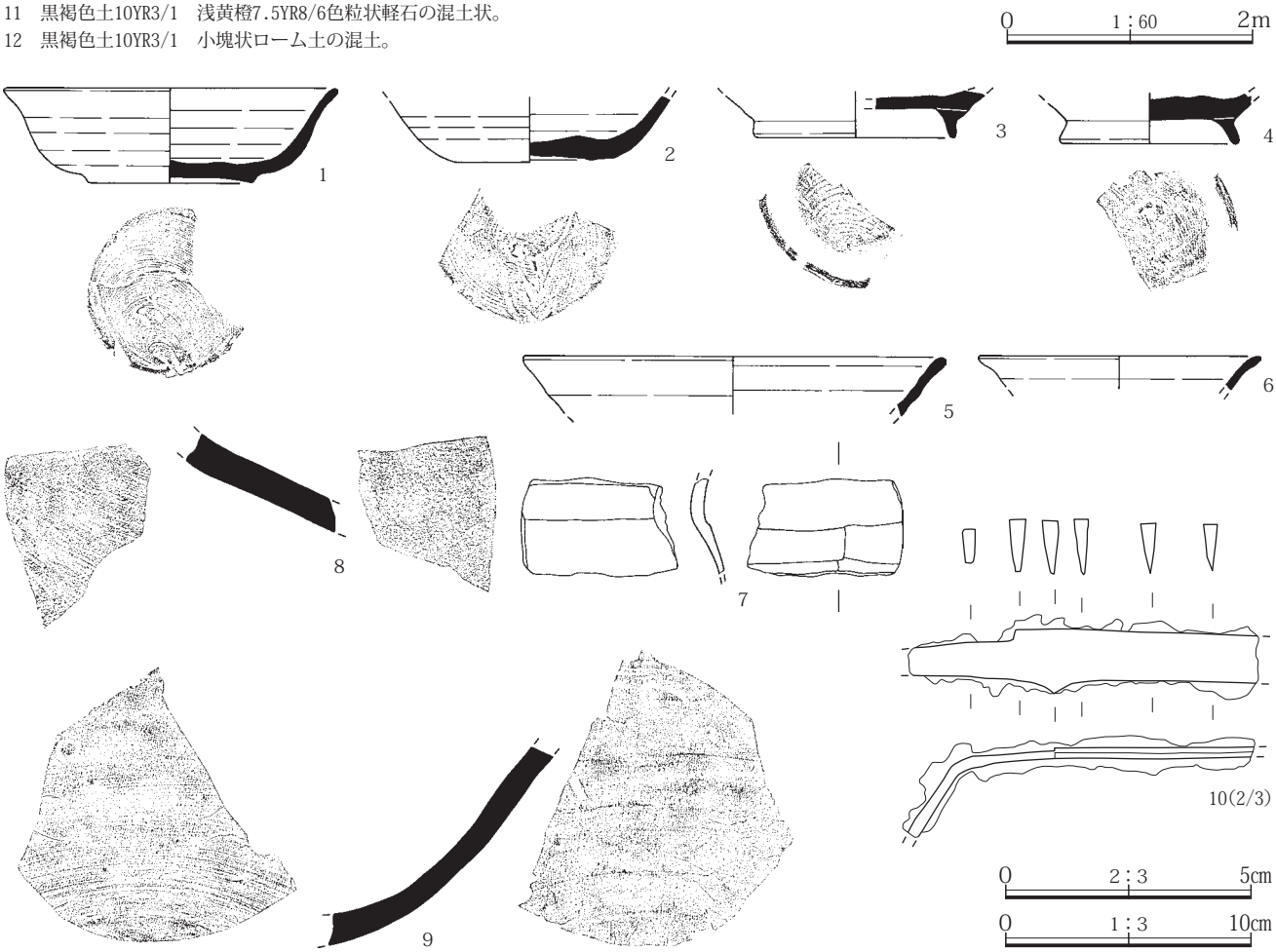
位　置　Ａ３区中央やや東にある。Ａ２号掘立柱建物が重なる。**座標値**　Ｘ＝60983～60986　Ｙ＝-92881～-92884　**遺存状況・重複**　Ａ２号掘立柱建物と重なるが、新古関係は不明。**形　状**　桁行２間×梁行１間　**規　模**　桁長(Ｐ１－Ｐ２)234cm、梁長252cm　柱間(Ｐ２－Ｐ３)24cm、柱間(Ｐ３－Ｐ４)110cm、(Ｐ１－Ｐ５)124cm　**長軸方向**　N-88°-W　**柱　穴**　Ｐ１～Ｐ５は長径34～39cm、短径29～34、深さ18～59cmである。南西隅の柱穴が検出



第173図　Ｃ３号竪穴建物出土遺物図



1　黒褐色土10YR2/2　橙5YR7/8色粒状軽石若干・浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石若干・白色軽石微量。
2　黒褐色土10YR2/2　橙5YR7/8色粒状軽石極少量・浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石微量。
3　黒褐色土10YR3/1　橙5YR7/8色粒状軽石極少量・浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石微量。
4　黒褐色土10YR3/1　橙5YR7/8色粒状軽石微量・浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石微量。
5　黒褐色土10YR3/1　橙5YR7/8色粒状軽石・浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石若干
6　黒褐色土10YR3/1　粒状ローム土少量・粗粒状ローム土少量。
7　５層近質。
8　黒褐色土10YR2/2　暗褐10YR3/3・橙5YR7/8色粒状軽石若干・浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石若干・小塊状ローム土少量の混土状。
9　黒褐色土10YR3/1　塊状ローム土含有。
10
11　黒褐色土10YR3/1　浅黄橙7.5YR8/6色粒状軽石の混土状。
12　黒褐色土10YR3/1　小塊状ローム土の混土。



第174図　Ｄ23号竪穴建物平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図

できなかった。**時　期**　不明だがＡ２号掘立柱建物からすると古代の可能性が高い。

Ａ２号掘立柱建物(第176図、ＰＬ．117)

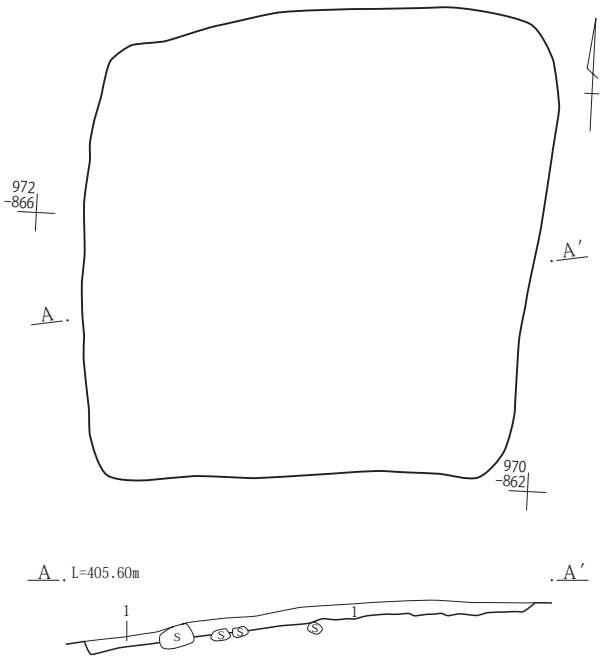
位　置　Ａ３区中央やや東にある。Ａ１号掘立柱建物が重なる。**座標値**　Ｘ＝60985～60988　Ｙ＝-92879～-92883　**遺存状況・重複**　Ａ１号掘立柱建物と重なるが、新古関係は不明。**形　状**　桁行２間×梁行１間　**規　模**　桁長(Ｐ１－Ｐ２)326㎝、(Ｐ４－Ｐ５)348㎝、西梁長288㎝　柱間(Ｐ１－Ｐ６)142㎝、柱間(Ｐ６－Ｐ５)146㎝、東梁長284㎝　柱間(Ｐ２－Ｐ３)142㎝、(Ｐ３－Ｐ４)142㎝　**長軸方向**　N-78°-W　**柱　穴**　Ｐ１～Ｐ６は長径26～37㎝、短径24～28㎝、深さ13～45㎝である。**遺　物**　須恵器杯(１)が出土している。**時　期**　土器からすると８世紀第４四半期である。

土坑群

土坑が複数重なって出土する土坑群がＢ区から２群検出された。

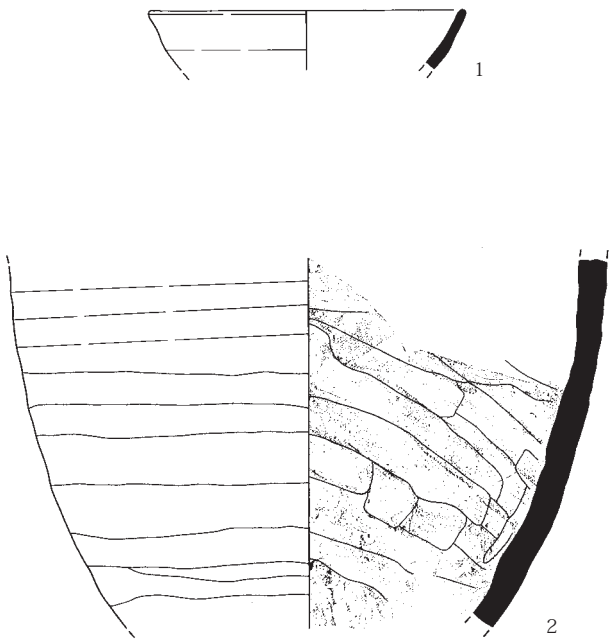
Ｂ１号土坑群(第177図、ＰＬ．119・186)

位　置　Ｂ区東部にある。Ｂ２号土坑群が東北８ｍの箇所にある。**座標値**　Ｘ＝60948～60952　Ｙ＝-92723～-9272　**遺存状況・重複**　遺構全体が調査対象となる。複数の土坑の重複がある。**形　状**　複数の土坑が掘られており、形態は不定形である。**規　模**　長軸 560㎝、短軸 455㎝、深さ143㎝　**長軸方向**　N－60°－E　**掘　方**　長径1.3～3.2ｍ、短径1.1～2.2ｍ、深さ34～143㎝と、大きな土坑が６つ掘削され、そこに小さな掘削痕跡である土坑状の穴が10数個掘られている。土坑の形状は楕円形に近い不整形である。**遺物出土状況**　須恵器類が土坑群南側から出土している。須恵器杯(１)、須恵器椀(３)が土坑底面直上から出土しており、須恵器椀(２)が底面やや上から出土している。**性　格**　大小の土坑群は、同じ箇所を数度繰り返して掘削した状況を示している。土坑の床面は粘性の強い灰黄色の粘性土である。その粘性土を採取するための土坑と推定する。**遺　物**　須恵器杯(１)、須恵器椀(２・３)、土師器甕(４)が出土している。須恵器椀(２)には墨書があり、「長」の異体字が底面に書かれている。覆土から龍泉窯系青磁と推定される小片(５・６)が出土している。**時　期** 土器から９世紀後半と推定する。



1　黒褐色土10YR2/2　白色粒１％程度含む。しまり弱い。

0　1：60　2m



0　1：3　10cm

第175図　Ａ５号竪穴建物平面・土層断面図・出土遺物図

Ｂ２号土坑群(第178図、ＰＬ．119・120)

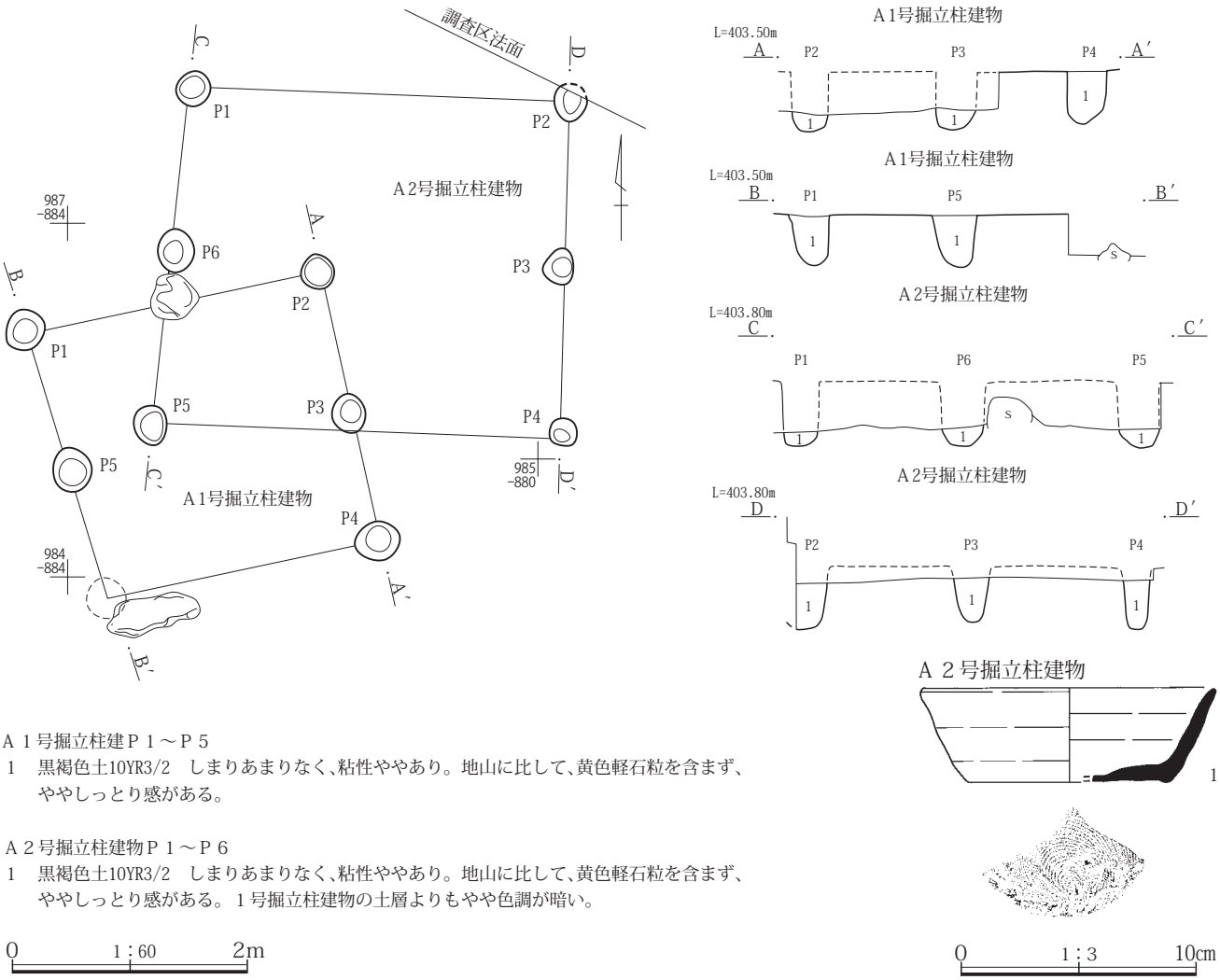
位　置　Ｂ区東部にある。Ｂ１号土坑群が南西８ｍの箇所にある。**座標値**　Ｘ＝60951～60957　Ｙ＝-92711～-9271　**遺存状況・重複**　北側が調査区外となる。複数の土坑の重複がある。**形　状**　複数の土坑が掘られており、形態は不定形である。**規　模**　長軸 800+cm、短軸600+cm、深さ108cm　**長軸方向**　N－55°－E　**掘　方**　長径0.9～3.5m、短径0.6～2.2m、深さ0.3～1.3mの大小の土坑群で、楕円形に近い不整形に掘削されている。**性　格**　Ｂ１号土坑群と同様、同じ箇所を複数回にわたり掘削しており、床面の粘性土の状況からみるとＢ１号土坑群同様、粘土採掘坑と想定する。**遺　物**　出土遺物は無い。**時　期**　時期は遺物が無く不明であるが、Ｂ１号土坑群と同じ古代と推定する。

土坑(第179・180図、ＰＬ．120・121・186)

位　置　Ａ３区中央から東部にかけて検出されている。１～３号溝、Ａ１～５号竪穴建物周辺から検出される。**形　状　・規　模**　長方形状の土坑(Ａ－５・９～14号土坑、長207～640+cm、幅47～108cm、深さ15～44cm)が７基検出されている。他に、円形・楕円形状の土坑(Ａ４・６～８・1長径55～118、短径49～114、深さ25～39cm)がある。**遺　物**　Ａ５号土坑から須恵器杯(１)、Ａ６号土坑から須恵器椀(２)が出土した。**時　期**　古代に比定される。

Ａ15号土坑(第179図、ＰＬ．120・186)

位　置　Ａ３区中央部にある。**座標値**　Ｘ＝60981～60983　Ｙ＝-92878～-9288　**遺存状況・重複**　遺構全体

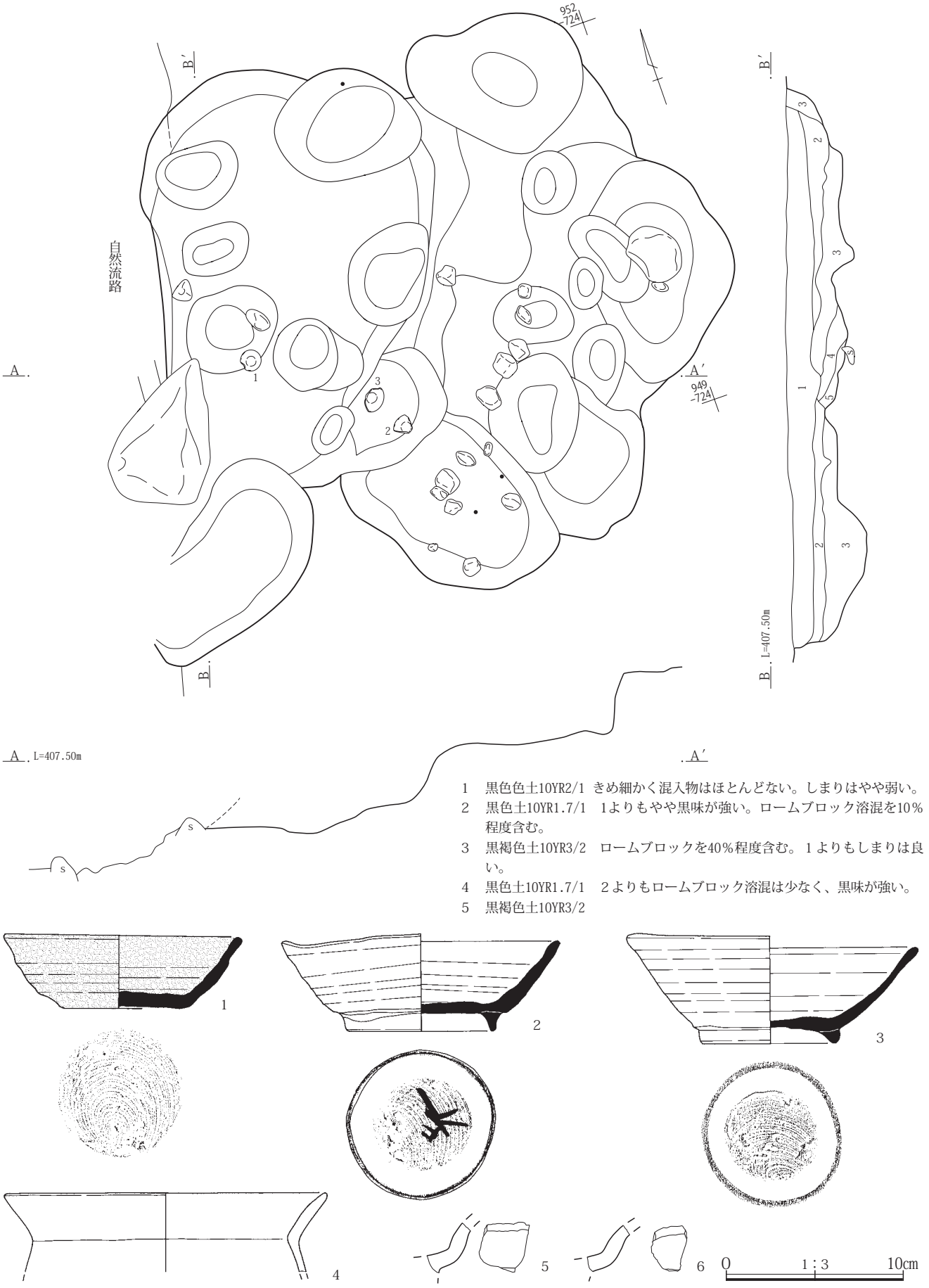


Ａ１号掘立柱建Ｐ１～Ｐ５
1　黒褐色土10YR3/2　しまりあまりなく、粘性ややあり。地山に比して、黄色軽石粒を含まず、ややしっとり感がある。

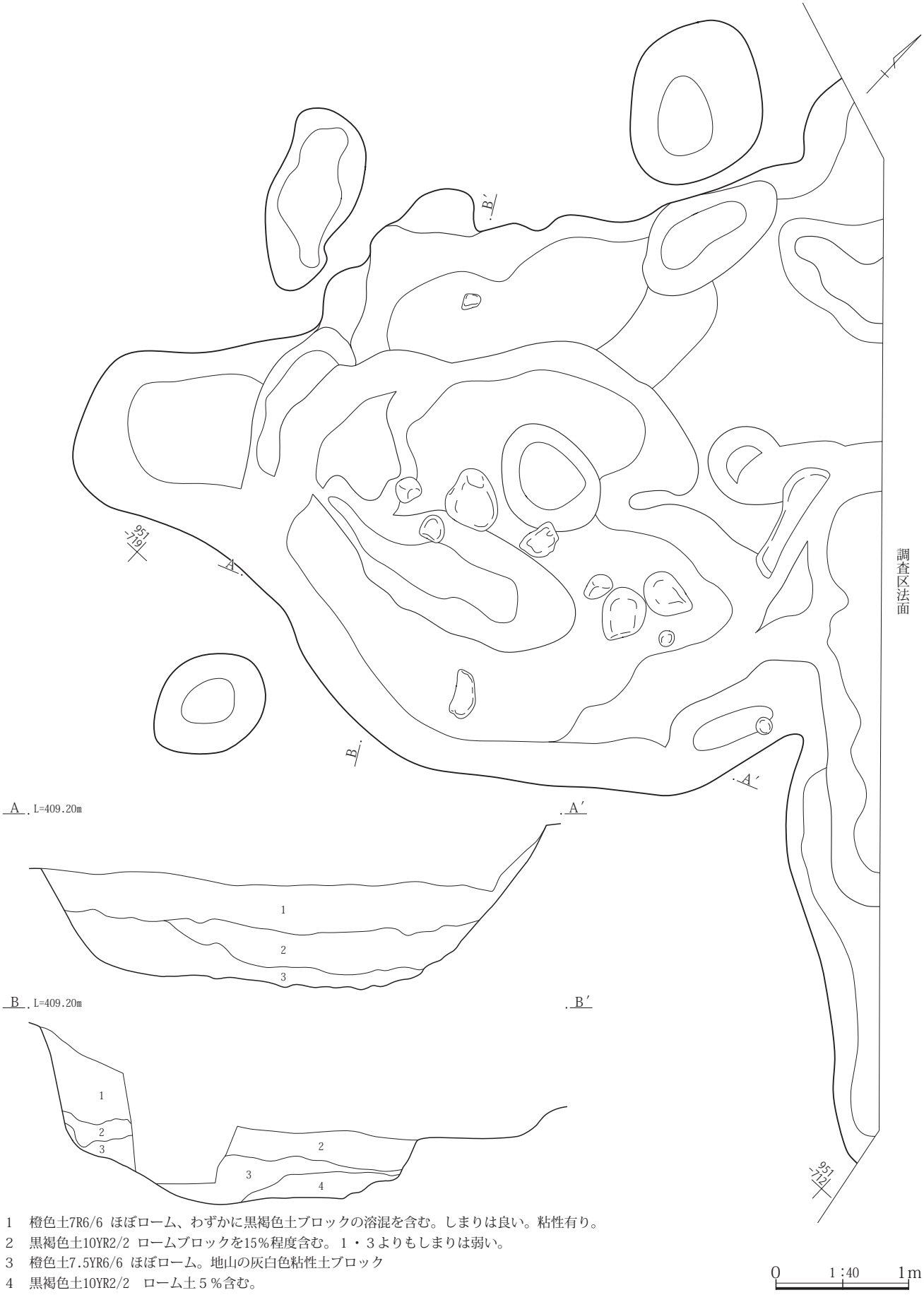
Ａ２号掘立柱建物Ｐ１～Ｐ６
1　黒褐色土10YR3/2　しまりあまりなく、粘性ややあり。地山に比して、黄色軽石粒を含まず、ややしっとり感がある。１号掘立柱建物の土層よりもやや色調が暗い。

0　1：60　2m　　0　1：3　10cm

第176図　Ａ１・２号掘立柱建物平面図・断面図・出土遺物図

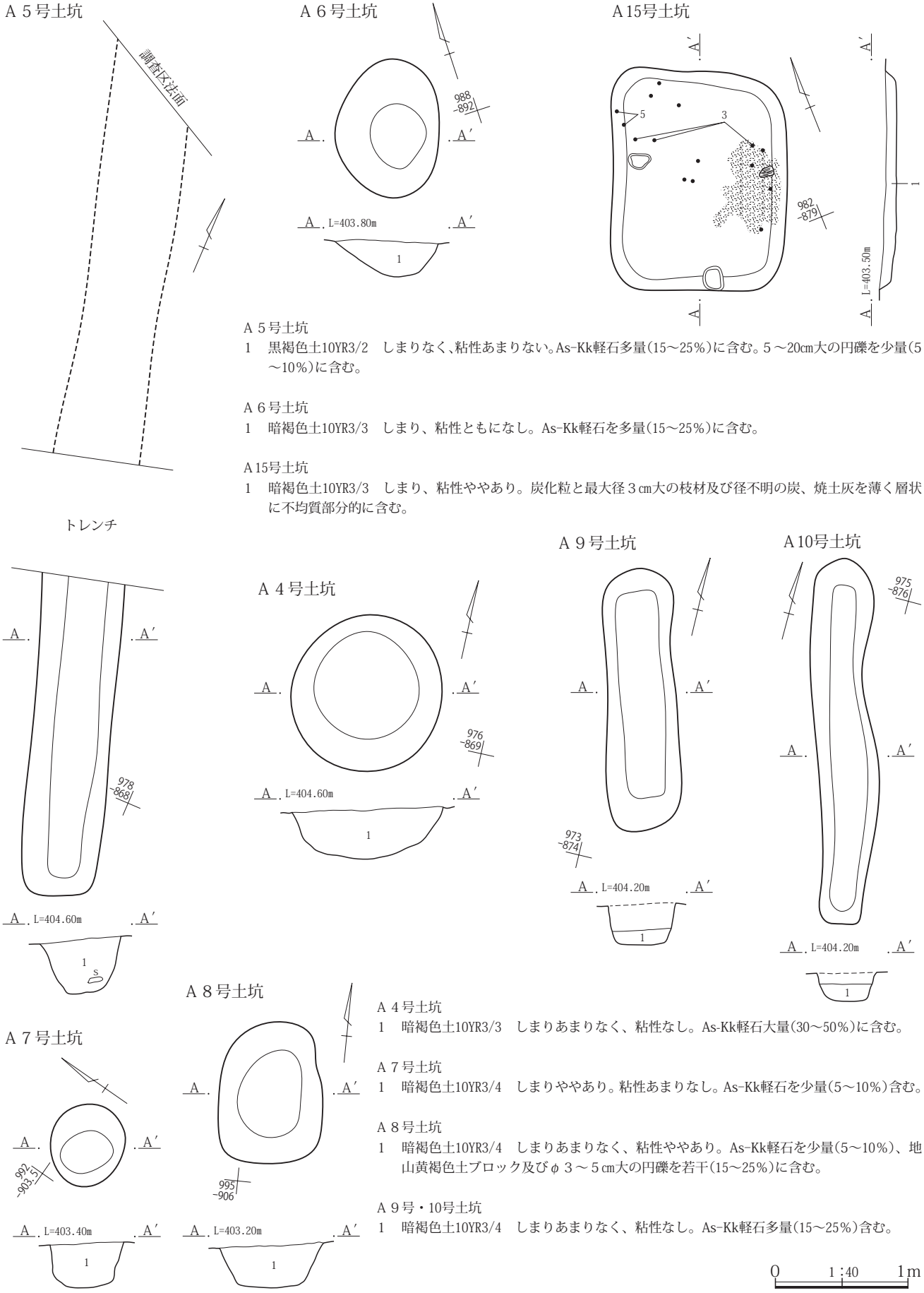


第177図　Ｂ１号土坑群平面・遺物出土状況図・土層断面図・出土遺物図



1　橙色土7R6/6 ほぼローム、わずかに黒褐色土ブロックの溶混を含む。しまりは良い。粘性有り。
2　黒褐色土10YR2/2 ロームブロックを15％程度含む。１・３よりもしまりは弱い。
3　橙色土7.5YR6/6 ほぼローム。地山の灰白色粘性土ブロック
4　黒褐色土10YR2/2　ローム土５％含む。

第178図　Ｂ２号土坑群平面図・土層断面図



Ａ５号土坑

1　黒褐色土10YR3/2　しまりなく、粘性あまりない。As-Kk軽石多量(15～25％)に含む。５～20㎝大の円礫を少量(5～10％)に含む。

Ａ６号土坑

1　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性ともになし。As-Kk軽石を多量(15～25％)に含む。

Ａ15号土坑

1　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性ややあり。炭化粒と最大径３㎝大の枝材及び径不明の炭、焼土灰を薄く層状に不均質部分的に含む。

Ａ４号土坑

1　暗褐色土10YR3/3　しまりあまりなく、粘性なし。As-Kk軽石大量(30～50％)に含む。

Ａ７号土坑

1　暗褐色土10YR3/4　しまりややあり。粘性あまりなし。As-Kk軽石を少量(5～10％)含む。

Ａ８号土坑

1　暗褐色土10YR3/4　しまりあまりなく、粘性ややあり。As-Kk軽石を少量(5～10％)、地山黄褐色土ブロック及びφ３～５㎝大の円礫を若干(15～25％)に含む。

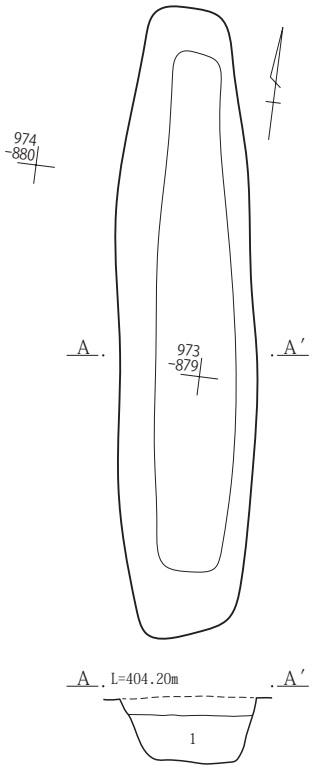
Ａ９号・10号土坑

1　暗褐色土10YR3/4　しまりあまりなく、粘性なし。As-Kk軽石多量(15～25％)含む。

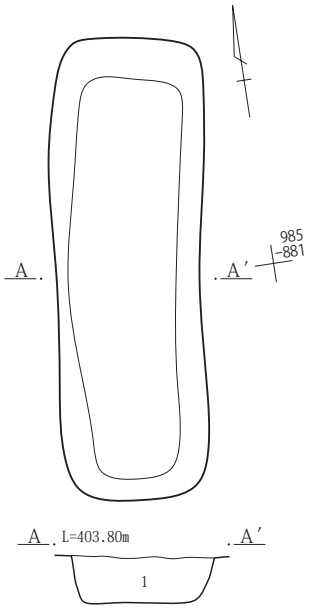
0　1:40　1m

第179図　Ａ４～10・15号土坑平面図・遺物出土状況図・土層断面図

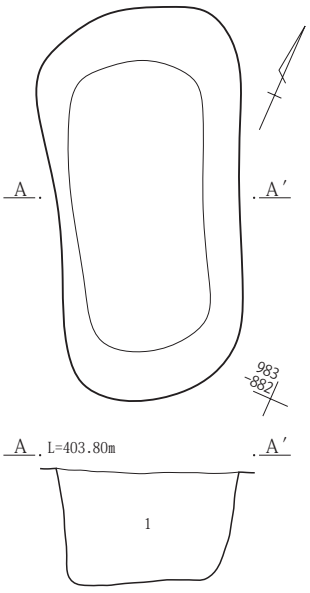
A11号土坑



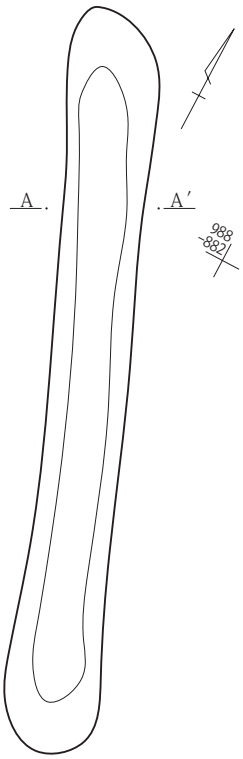
A12号土坑



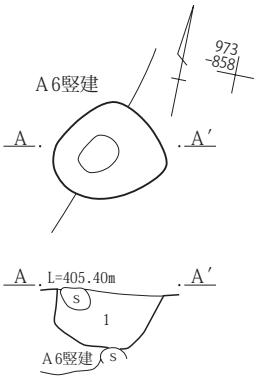
A13号土坑



A14号土坑



A16号土坑



A11号土坑
1　暗褐色土10YR3/4　しまりあまりなく、粘性なし。As-Kk軽石多量(15～25％)含む。φ10～20㎝大の亜円礫を底部に少量(5～10％)含む。

A12号土坑
1　暗褐色土10YR3/3　しまりややあり、粘性あまりない。As-Kk軽石少量(5～10％)に含む。

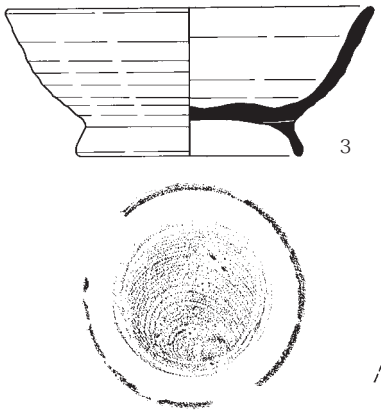
A13号土坑
1　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性ともにあまりない。As-Kk軽石少量(5～10％)に含む。

A16号土坑
1　黒褐色土10YR3/2　As-Kk混入・粒状ローム土含有。

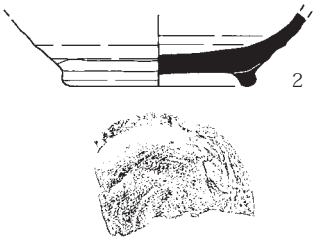
0　1:40　1m

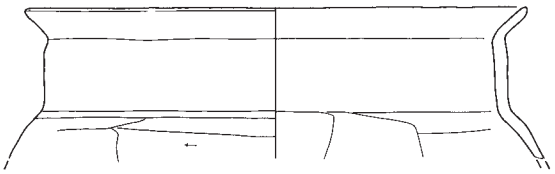
A５号土坑

A15号土坑



A６号土坑





0　1:3　10cm

第180図　A11～14・16号土坑平面図・土層断面図・土坑出土遺物図

が調査対象となる。Ａ１・２溝の下から検出された。**形状**　隅円長方形　**規　模**　長軸 166㎝、短軸 131㎝、深さ15㎝　**長軸方向**　N－22°－E　**遺　物**　床面やや上から、須恵器椀（３）、土師器甕（５）、覆土中より須恵器杯蓋（４）が出土している。**時　期**　土器より８世紀後半と推定する。

ピット（第181図、ＰＬ．121）

位　置　Ａ・Ｃ区から確認されている。Ｃ区は、Ｃ区中央北側、Ｃ２号竪穴建物の北側にある。Ｄ区では、東側全体から検出されている。Ａ区より１基（Ａ４号）、Ｃ区より４基（Ｃ207・235・236・246号）が検出された。**形　状・規　模**　平面形は、円形・楕円形で、径が30㎝前後ものが多く、深さは、10～20㎝に入るものが多い。**遺　物**　ピットからの遺物の出土は無い。**時　期**　遺構確認面などから古代としたが、中近世以降になるものも含まれる可能性がある。

溝（第182～184図、ＰＬ．122～125）

Ａ区東部に調査区北側から南側に向けて流れる溝が３本検出された。上下に重なり新旧関係にある。

Ａ３号溝（第182図、ＰＬ．122）

位　置　Ａ３区東部にある。**座標値**　Ｘ＝60982～60986　Ｙ＝-92877～-9287　**遺存状況・重複**　溝南北が調査区外となる。Ａ１・２号溝の下から検出された。Ａ15号土坑により壊される。**規　模**　長さ3.45+m、幅 0.4m、最大深さ0.11㎝　**走流方向**　N-28°－E　**遺　物**　須恵器杯（１）　**時　期**　溝内より出土した杯は９世紀後半に比定されるが、溝内出土の為大まかに古代と推定する。

Ａ２号溝（第182図、ＰＬ．122）

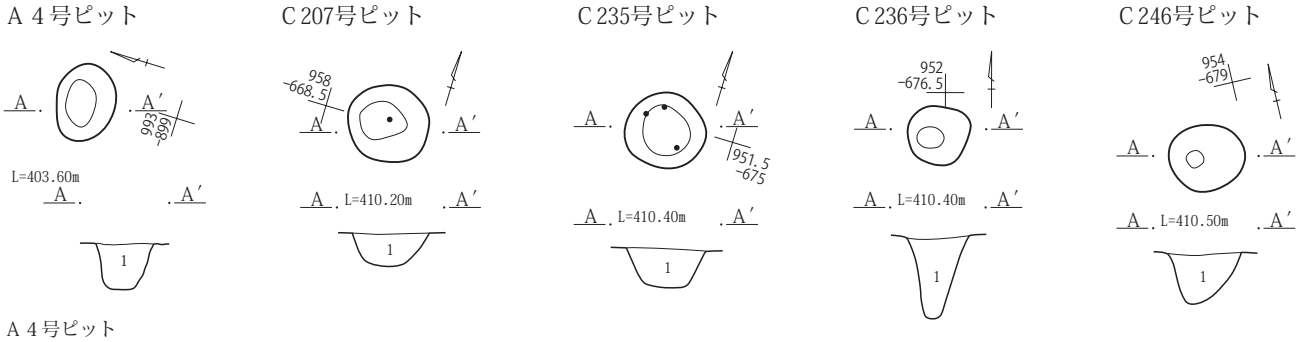
位　置　Ａ３区東部にある。**座標値**　Ｘ＝60961～60987　Ｙ＝-92876～-9288　**遺存状況・重複**　溝南北が調査区外となる。上からＡ１号溝、下からＡ３号溝が検出された。**規　模**　長さ26.88+m、幅 1.2～1.8m、最大深さ 1.16㎝　**走流方向**　N-10°-W～N-５°-E～ N-35°-W ～N-17°-E　**時　期**　遺物の出土なく不明。Ａ１号溝より古く、古代と推定した。

Ａ１号溝（第183図、ＰＬ．123）

位　置　Ａ３区東部にある。**座標値**　Ｘ＝60961～60988　Ｙ＝-92875～-9288　**遺存状況・重複**　溝南北が調査区外となる。下からＡ２・３号溝が検出された。**規　模**　長さ27.12+m、幅1.2～3.36m、最大深さ54㎝ 走流方向 N-７°-W　**時　期**　遺物の出土なく不明。Ａ２号溝より新しく、古代以降と推定した。

Ｃ２号・Ｄ32号溝（第184図、ＰＬ．124・125）

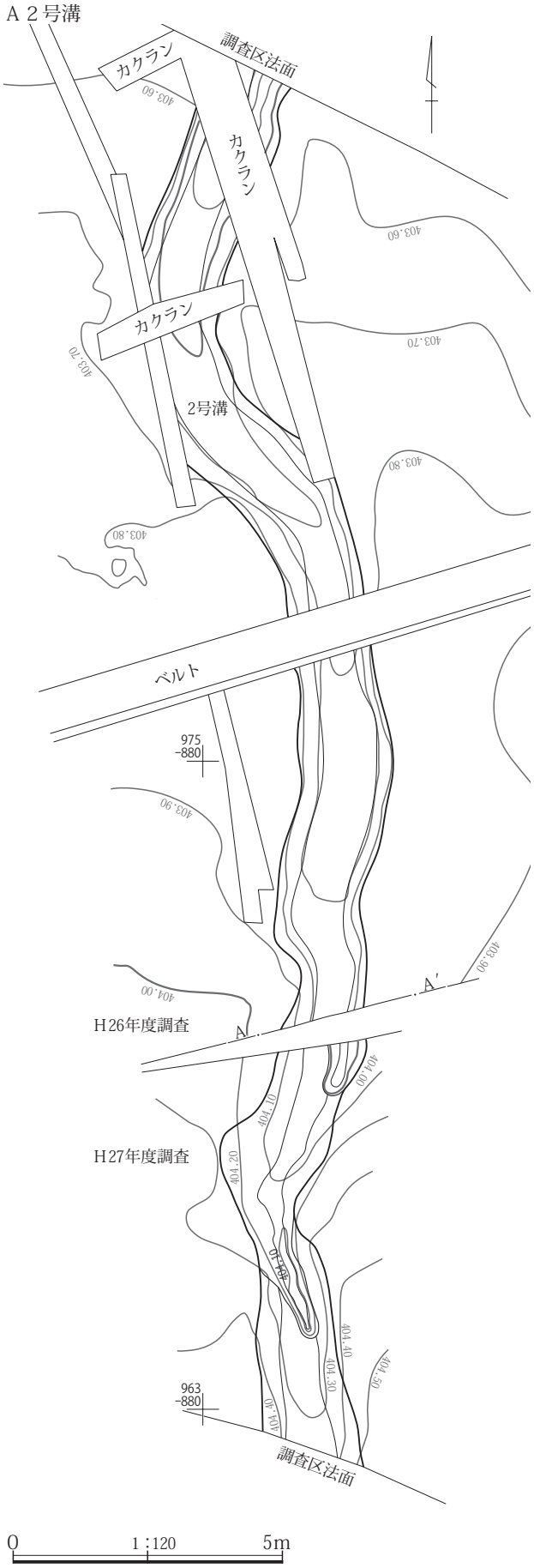
位　置　Ａ３区東部にある。すぐ南にＤ１号墳がある。**座標値**　Ｘ＝60942～6096Ｙ＝-92623～-9266　**遺存状況・重複**　溝北東部が途切れる。南西部端は南壁にあたり調査区外となる。**規　模**　長さ 32.58+m、幅 0.60m、最大深さ0.12㎝　**走流方向**　N-63°－E　**形　状**　幅60㎝と細長い溝であるが、北東部で途切れていることなどから、本来はもう少し幅があったが、上部削平で幅が狭くなっているものと思われる。**時　期**　As-Kk層の下面から出土したので古代と判断した。

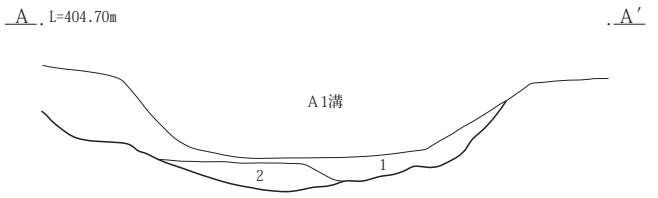


Ａ４号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　しまりややあり。粘性あまりなし。As-Kk軽石多量（15～25％）含む。
Ｃ235号ピット
1　黒色土10YR2/1　白色粒１％、黄褐色粒１％強含む。しまりはやや弱い。
Ｃ207・236・246号ピット
1　黒褐色土10YR2/2　白色粒１％程度、黄褐色粒１％程度含む。地山暗褐色土ブロックを10％程度含む。Ｃ235号ピットは良い。

0　1:40　1m

第181図　Ａ４、Ｃ207・235・236・246号ピット平面図・土層断面図





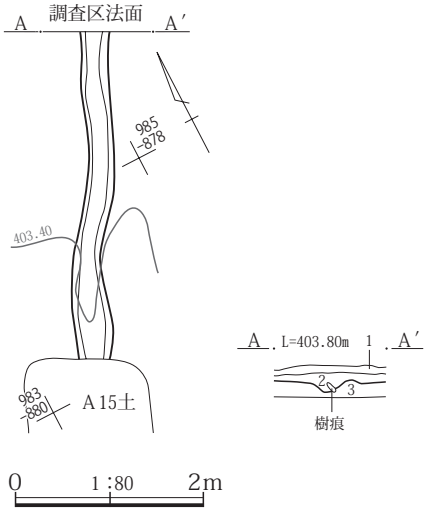
Ａ２号溝

1　明黄褐色土10YR6/8　しまり、粘性ともになし。流れ込みAs-Kk軽石に粗粒砂層を主体に、５～１㎝大の雑多な礫を若干(15～25％)に含む。

2　黒褐色土10YR3/2　粘性あり、しまり欠く。不均質で、粗粒砂層を斑に含む。

0　1:40　1m

Ａ３号溝



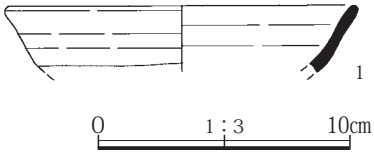
Ａ３号溝

1　黒褐色土10YR3/1　しまりなく、粘性あり。(乾燥すると、しまり顕著で、ひび割れする。)炭化粒、軽石粒含まない。

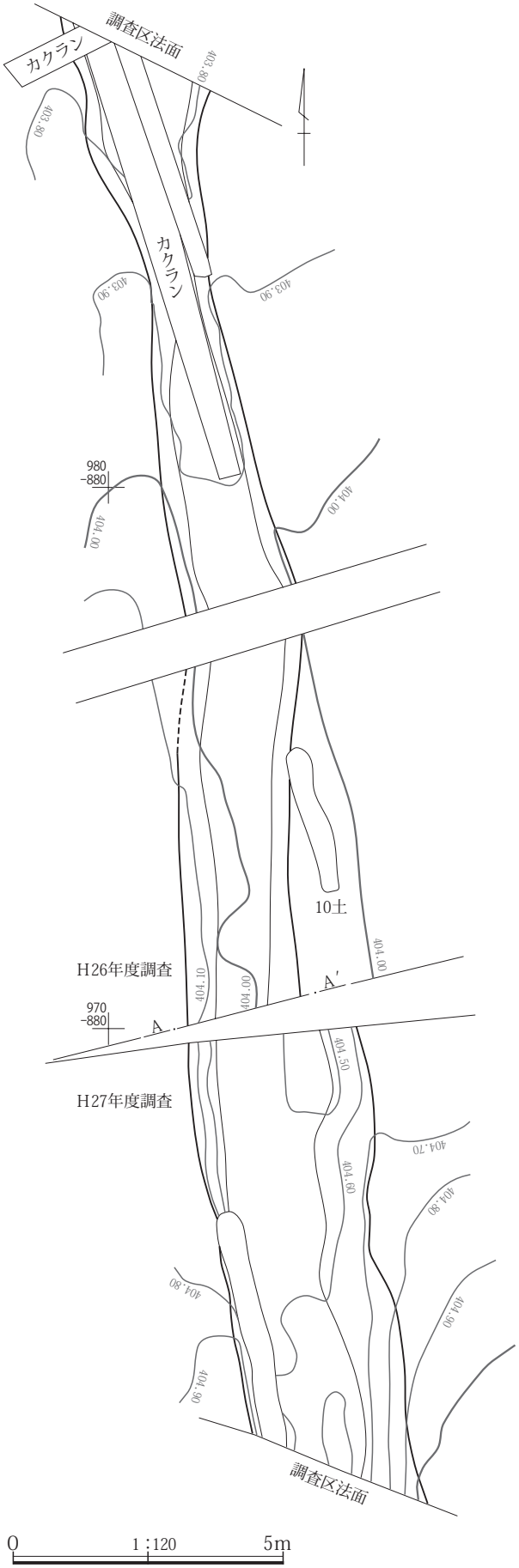
2　暗褐色土10YR3/3　しまりなく、粘性あり。１層に比べて、色調くすみ、５㎜大の炭化粒、３～５㎜大の白色・褐色土軽石を極僅か含む。

3　にぶい黄褐色土10YR4/3　しまりあまりなく、粘性ややあり。(15土坑を切るが、南側範囲不明。)

Ａ３号溝



第182図　Ａ２・３号溝平面図・土層断面図・出土遺物図



焼土集中（第185・186図、ＰＬ．126・186）

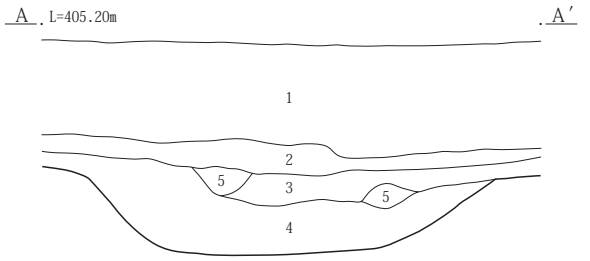
焼土集中は、Ａ区に集中して検出された。Ａ１区に１基（Ａ１号焼土）、Ａ３区に７基（２～８号焼土）ある。

Ａ３号焼土（第185図、ＰＬ．126）

位　置　Ａ３区中央部やや東、北壁付近にある。西隣にＡ１号竪穴建物がある。**座標値**　Ｘ＝60984・60985　Ｙ＝-92875・-9287　**遺存状況**　完存　**形　状**　不定形　**規　模**　長軸 107㎝、短軸 103㎝、深さ15㎝　**焼土の状況**　焼土が、平面的に拡がっている。底面は浅い土状である。下位の段丘礫層が露出する。**遺　物**　須恵器杯（１・２）、須恵器椀（３）、須恵器甕（５）、土師器小型甕（４）が出土した。**時　期**　土器より９世紀前半に比定される。

Ａ８号焼土（第185図、ＰＬ．126）

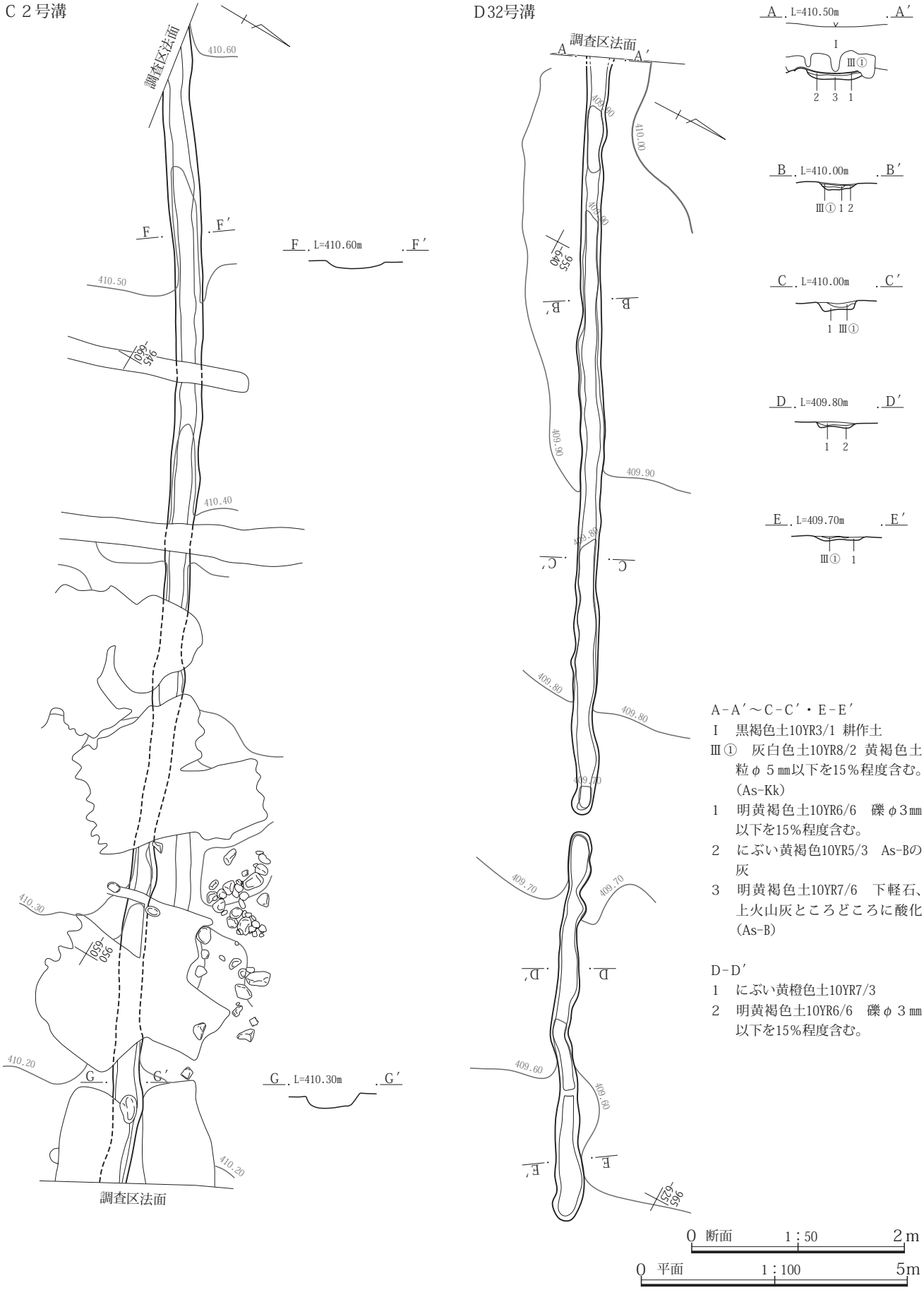
位　置　Ａ３区中央部、北壁付近にある。東４ｍにＡ５号焼土がある。**座標値**　Ｘ＝60989　Ｙ＝-92884・-9288　**遺存状況**　完存　**形　状**　不定形　２つに分かれている。**規　模**　西側長軸 30㎝、短軸 15㎝、深さ４㎝　東側長軸 13㎝、短軸 8㎝、深さ1㎝　**焼土の状況**　東西の焼土ともに焼土が平面的に拡がっている。底面は浅い土坑状である。**遺　物**　須恵器杯蓋（６）、土師器鉢（７）、土師器甕（８）が出土した。**時　期**　土器より９世紀前半に比定される。



1　黒褐色土10YR3/2　しまり、粘性ともにあまりない。As-Kk軽石多量（15～25％）に含む。
2　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性ともになし。As-Kk軽石少量（5～10％）に含む。１層よりも色調暗い。
3　暗褐色土10YR3/3　しまりなく粘性あまりない。As-Kk軽石多量（15～25％）に含む。１層よりも色調暗い。
4　暗褐色土10YR3/3　しまりなく粘性ややあり。As-Kk軽石多量（15～25％）に含む。１層よりも色調暗く、流れ込みと思われる粗粒砂層ブロック少量（5～10％）含み、鉄分凝集層を斑に含む。
5　暗褐色土10YR3/3　しまりややあり、粘性なし。As-Kk軽石大量（30～50％）に含む２次堆積軽石層ブロック。

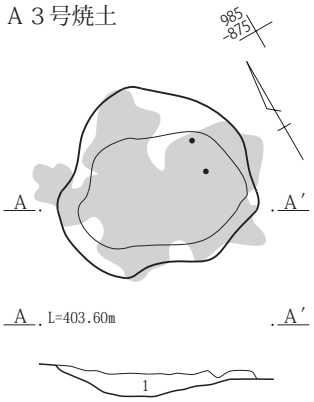
0　1:40　1m

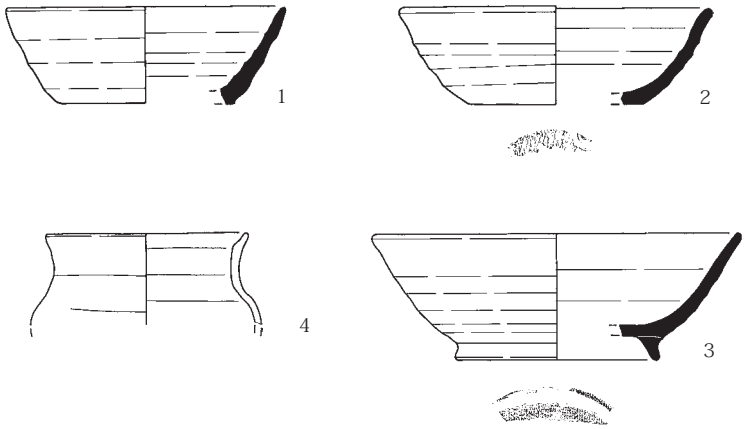
第183図　Ａ１号溝平面図・土層断面図



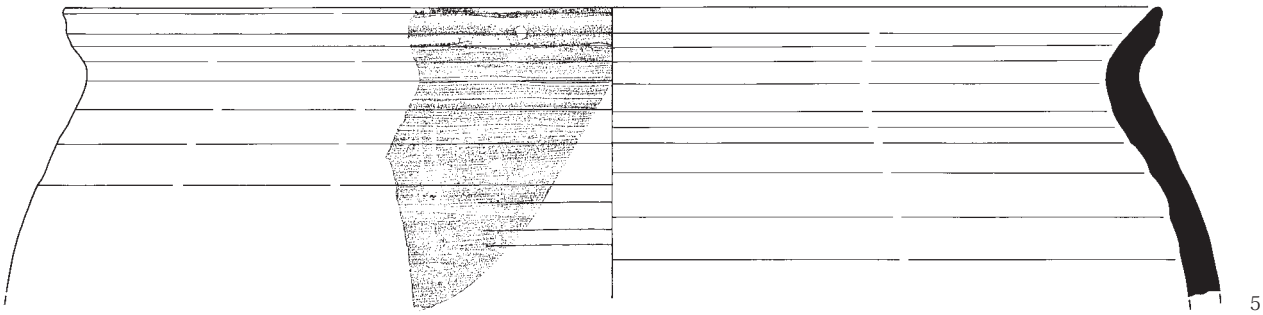
第184図　Ｃ２、Ｄ32号溝平面図・土層断面図

Ａ３号焼土

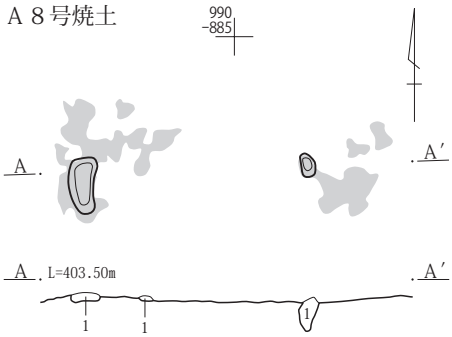


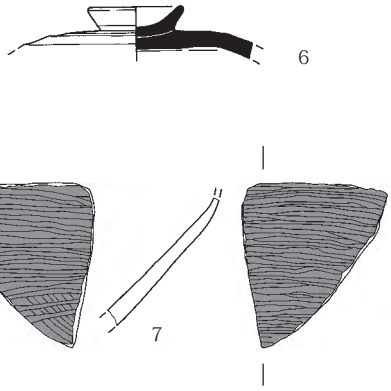


1　明赤褐色土2.5YR5/6　しまり、粘性あまりない。φ２～30㎜大の炭を不均質に若干含む。



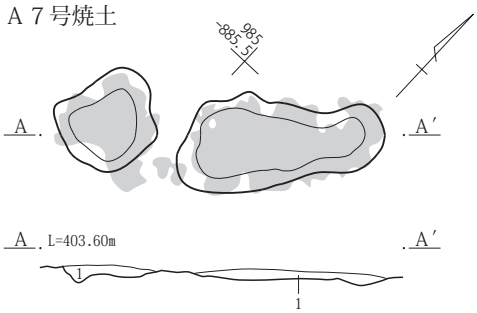
Ａ８号焼土

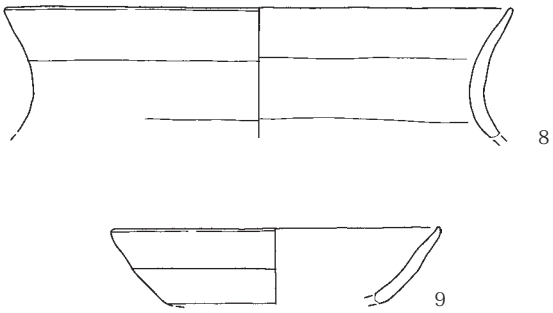




1　明赤褐色土2.5YR5/8　しまり、粘性あまりない。」地山暗褐色土を不均質に少量含む。

Ａ７号焼土



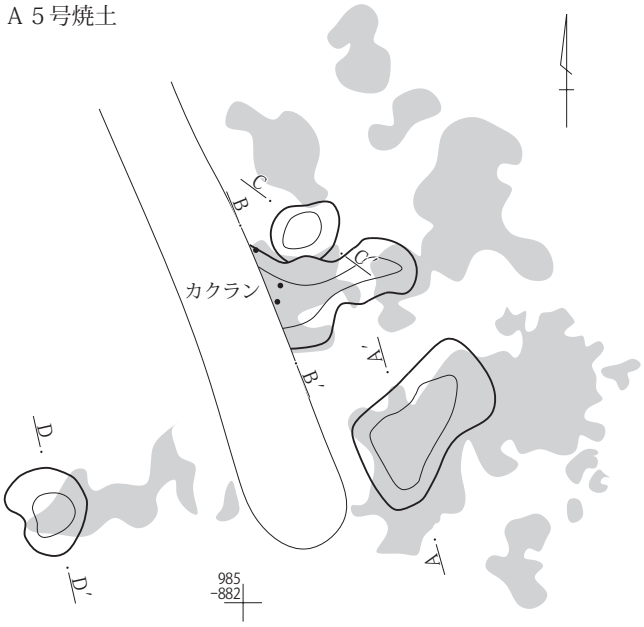


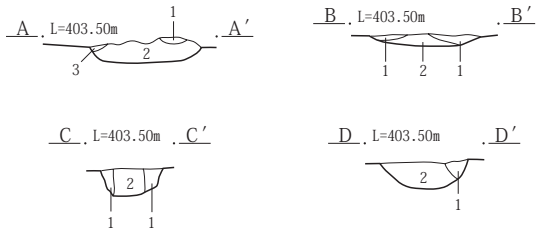
1　明赤褐色土2.5YR5/6　しまり、粘性あまりない。不均質で、地山黒褐色土を含む乱れた焼土痕。

0　1:40　1m　　0　1:3　10cm

第185図　Ａ３・７・８号焼土平面図・土層断面図・出土遺物図

Ａ５号焼土



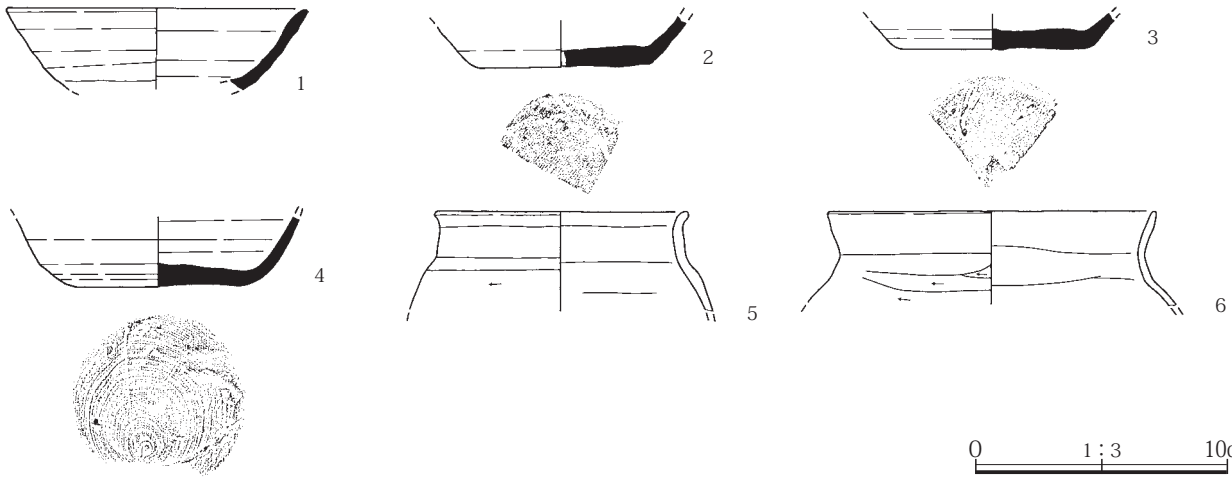


A－A′
1　橙色土2.5YR6/8　しまり、粘性あまりない。色調明るくよく焼けた焼土ブロック。
2　明赤褐色土2.5YR5/8　しまり、粘性あまりない。焼土灰を少量(５～10%)に含む。
3　暗赤褐色土2.5YR3/2　粘性あまりなく、粘性なし。地山暗褐色土に焼土多量(15～25%)含む。(土層乱れ、地山崩落土？)

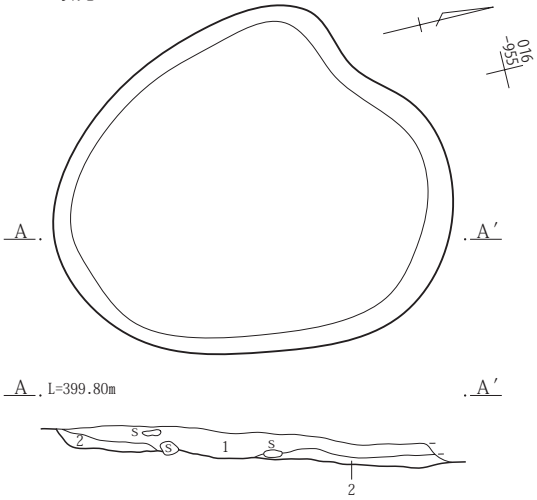
B－B′
1　橙色土2.5YR6/8　しまり、粘性あまりない。色調明るくよく焼けた焼土ブロック。
2　明赤褐色土2.5YR5/8　しまり、粘性あまりない。焼土灰を少量(5～10%)に含む。

C－C′
1　明赤褐色土2.5YR5/8　しまりややあり、粘性あまりない。やや焼締まった焼土ブロックを均質に大量(30～50%)に含む。(プラン内をめぐるように焼締まっている感がある。)
2　暗赤褐色土2.5YR3/2　粘性あまりなく、粘性ややあり。焼土ブロックを不均質に少量(５～10%)に含む。ややしっとりし、灰質味がある。

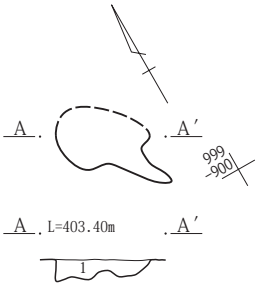
D－D′
1　明赤褐色土2.5YR5/8　しまりややあり、粘性あまりない。やや焼締まった焼土ブロックを乱れて大量(30～50%)に含む。
2　暗赤褐色土2.5YR3/2　粘性あまりなく、粘性ややあり。焼土ブロックを不均質に少量(５～10%)に含む。



Ａ１号焼土



Ａ２号焼土



1　橙色土2.5YR6/8　しまりややあり。粘性あまりない。地山黒色土と乱れた焼土ブロックの不均質な互層。

1　暗褐色土10YR3/3　しまりあまりなく、粘性ややあり。ロームブロック若干含む。１～５㎝大の炭を不規則に少量含む。
2　暗褐色土10YR3/3　しまりあまりなく、粘性ややあり。ロームブロック若干含む。１～５㎝大の炭を不規則に若干含む。

0　1：40　1m

第186図　Ａ１・２・５号焼土平面図・土層断面図・出土遺物図

Ａ７号焼土（第185図、ＰＬ．126）

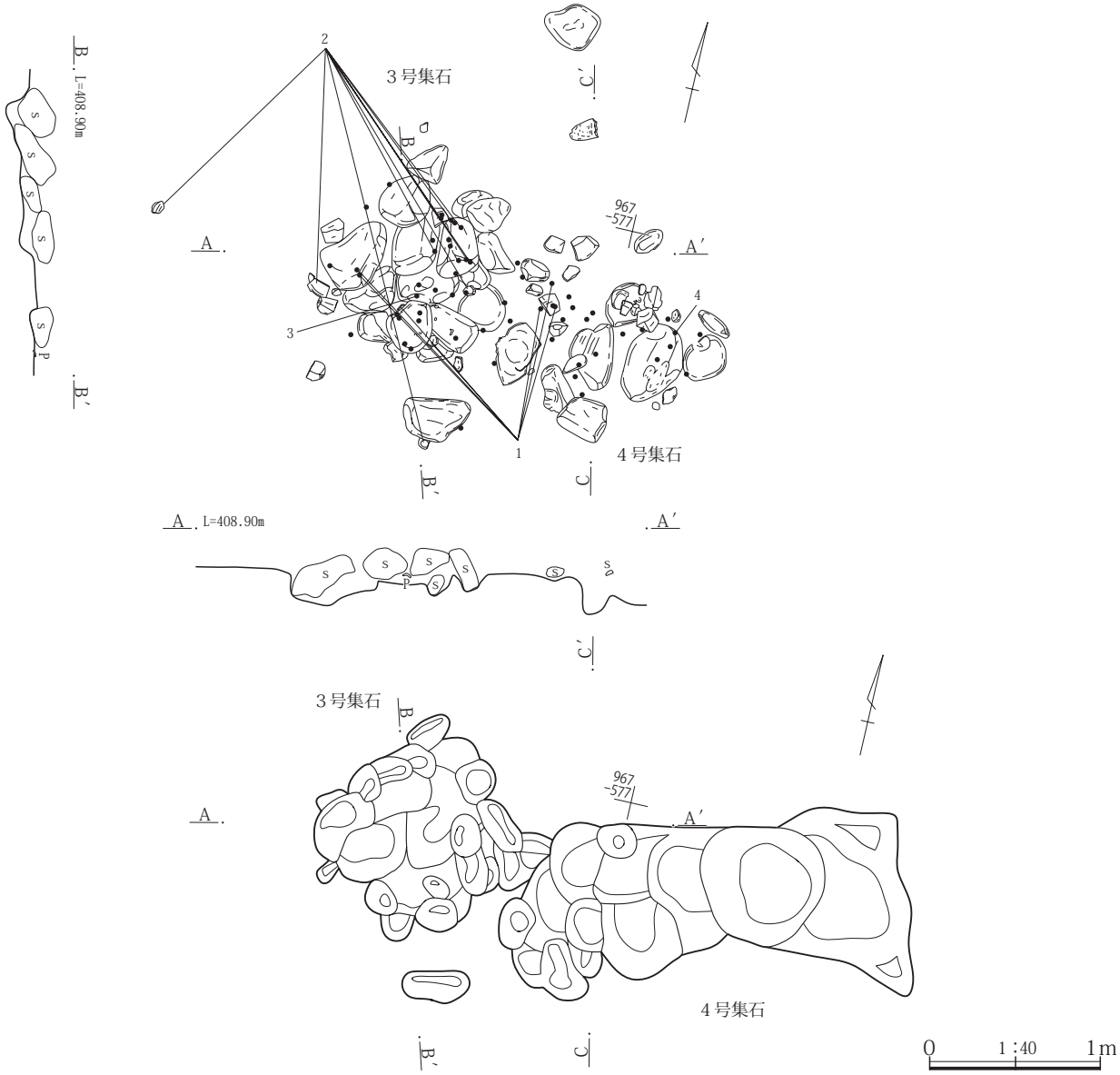
位　置　Ａ３区中央部、北寄りにある。北４ｍにＡ８号焼土がある。**座標値**　Ｘ＝60984・60985　Ｙ＝-92884～-92886　**遺存状況**　完存　**形　状**　不定形　２つに分かれている。**規　模**　西側長軸55㎝、短軸53㎝、深さ10㎝　東側長軸112㎝、短軸54㎝、深さ７㎝　**焼土の状況**　東西の焼土ともに焼土が平面的に拡がっている。深さ５㎝ほどの焼土層が形成される。底面は浅い土坑状である。**遺　物**　土師器杯（９）が出土した。**時　期**　土器より９世紀後半に比定される。

Ａ５号焼土（第186図、ＰＬ．126・186）

位　置　Ａ３区中央部やや東、北壁付近にある。西４ｍにＡ８号焼土がある。**座標値**　Ｘ＝60984～60987　Ｙ＝-92879～-92883　**遺存状況**　一部カクランにより壊されている。**形　状**　不定形　３つに分かれている。**規　模**　全体の長軸 315㎝、短軸 315㎝、深さ16㎝　**焼土の状況**　３つに区分したが全体的に焼土が平面的に拡がっている。深さ５㎝ほどの焼土層が形成される。底面は浅い土坑状である。**遺　物**　須恵器杯（１～４）、土師器甕（５・６）が出土した。**時　期**　土器より９世紀後半に比定される。

Ａ２号焼土（第186図、ＰＬ．126）

位　置　Ａ３区中央部にある。**座標値**　Ｘ＝61001　Ｙ＝-9290　**遺存状況**　北側残り悪い　**形　状**　不定形　**規　模**　長軸 69㎝、短軸 31㎝、深さ12㎝　**焼土の状況**　焼土は少ない。**時　期**　遺構確認面がＡｓ－Ｂ下面のため、古代に比定される。



第187図　Ｄ３号集石平面・遺物出土状況図・断面図・掘方図

Ａ１号焼土（第186図、ＰＬ．126）

位　置　Ａ１区西部やや南側にある。**座標値**　Ｘ＝61013～61015　Ｙ＝-92953～-9295　**遺存状況**　完存　**形　状**　楕円形　**規　模**　長軸 212㎝、短軸 183㎝、深さ15㎝　**焼土の状況**　焼土は少ないが、木炭片が覆土に含まれている。下位の段丘礫層が露出する。**時　期**　遺構確認面より古代に比定される。

集石（第187・188図、ＰＬ．127・187）

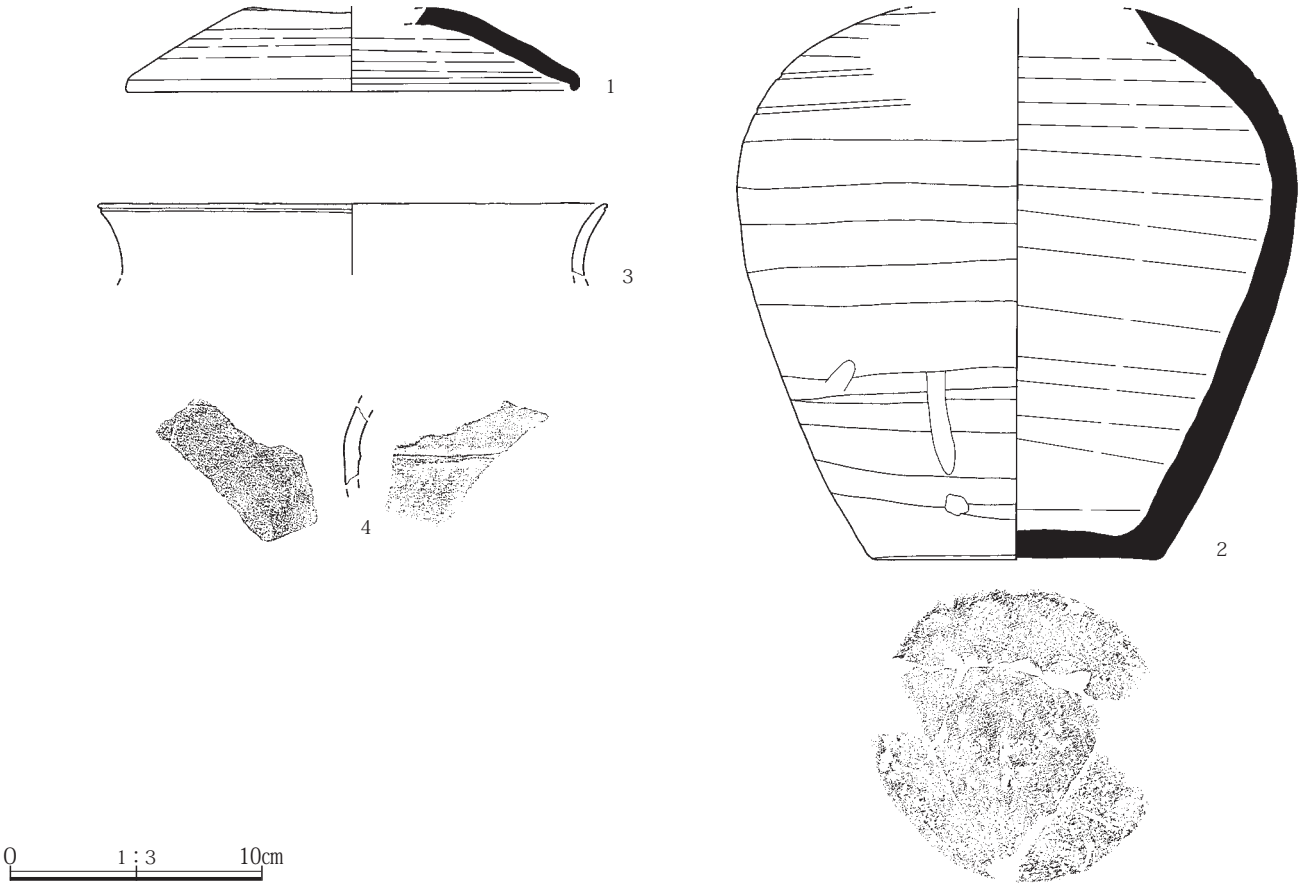
集石は、Ｄ区から検出された。２基が並列しているように見える。

Ｄ３号集石（第187・188図、ＰＬ．127・187）

位　置　Ｄ区中央部部やや西、南側にある。南西８ｍの箇所にＤ23号竪穴建物がある。Ｄ４号集石が東に隣接する。**座標値**　Ｘ＝60965　Ｙ＝-92577・-9257　**遺存状況**　完存　**形　状**　不定形　**規　模**　長軸172㎝、短軸120㎝、深さ４～７㎝　**集石状況**　現状では２段の石積みが残る。柔らかくした土の上に石を据え置いているのか、石を置いた痕跡が良く残っている。一部石の下を堀くぼめている。**遺物出土状況**　須恵器壺（２）、土師器甕（３）が、集石の中から破砕した状況で出土している。須恵器蓋杯（１）は、３号、４号の両集石の中から破片で出土している。**遺　物**　須恵器蓋杯（１）、須恵器椀（３）、土師器甕（３）が出土した。**時　期**　土器より９世紀に比定される。

Ｄ４号集石（第187図、ＰＬ．127）

位　置　Ｄ区中央部部やや西、南側にある。南西８ｍの箇所にＤ23号竪穴建物がある。Ｄ３号集石が西に隣接する。**座標値**　Ｘ＝60965～60967　Ｙ＝-92575～-9257　**遺存状況**　完存　**形　状**　不定形　**規　模**　長軸 135㎝、短軸 125㎝ 深さ４～８㎝　**集石状況**　現状では石は寄せ集められているが、石積みは無い。一部石の下を堀くぼめている。**遺物出土状況**　土師器甕（４）、３号、４号の両集石の中から破片で出土している須恵器蓋杯（１）が、集石の中から破砕した状況で出土している。**遺　物**　須恵器蓋杯（１）、土師器甕（４）が出土した。**時　期**　土器より９世紀に比定される。



第188図　Ｄ３号集石出土遺物図

畠（第189・190図、ＰＬ．128・129・186）

畠は、Ａ３区中央部～東部にＡ11・９・10号と検出されている。As-Ｂ下から、最大径８㎜程度の植物由来と想定される空洞があり、作物の痕跡と想定された跡が確認された。

Ａ11号畠（第189図、ＰＬ．128・186）

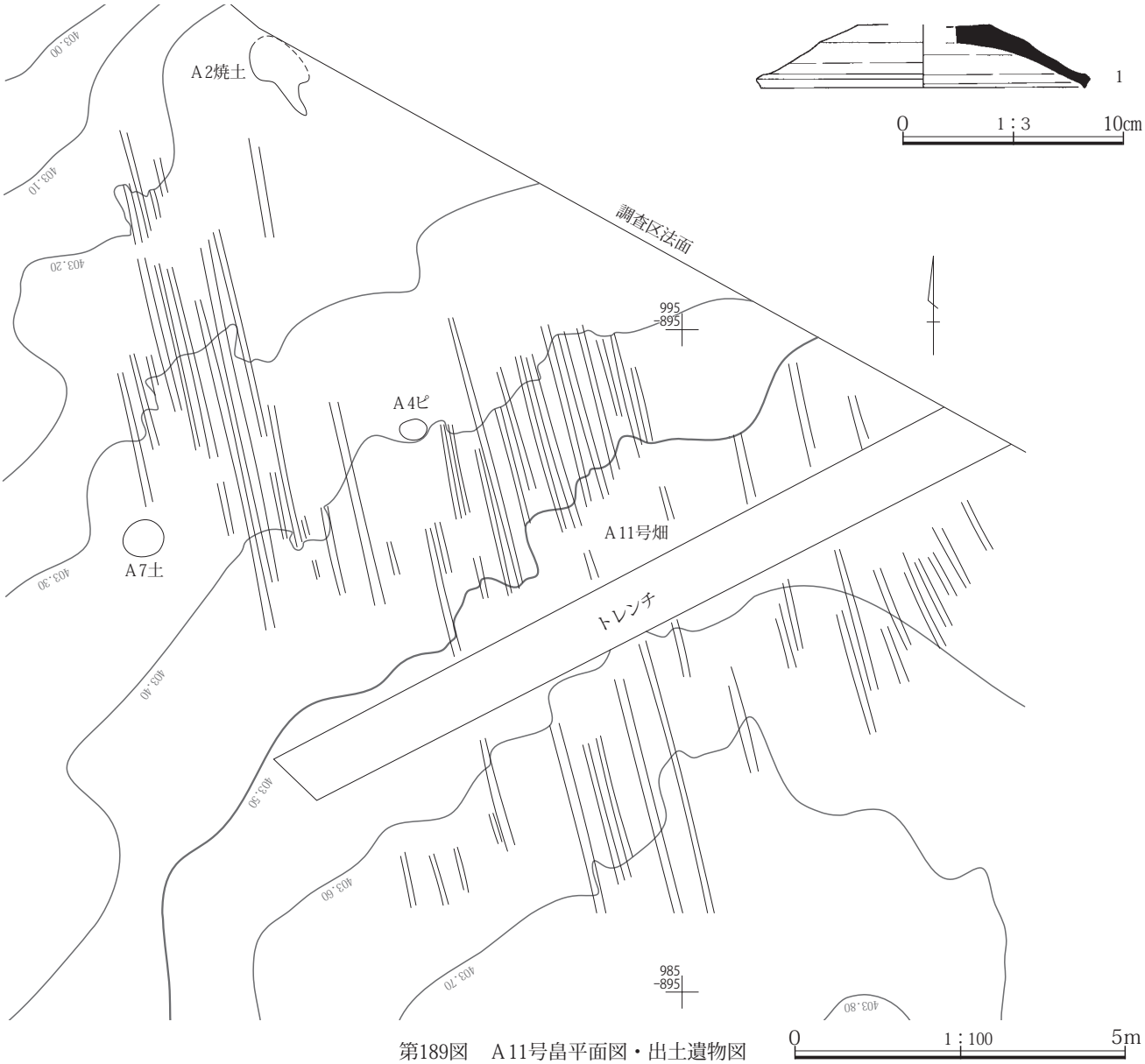
位　置　Ａ３区中央部部北側にある。北西２ｍの箇所にＡ２号焼土、西にＡ７・８号土坑がある。**座標値**　Ｘ＝60985～60997　Ｙ＝-92980～-9290　**遺存状況**　上部は削平され、さくの一部が線状に残存している。**形　状**　短冊形の畠である。10～13㎝のさく幅で、Ｎ-13°-Ｗの方向で耕されている。**面　積**　75.7+㎡　**遺物出土状況**　須恵器杯蓋（１）が畠上面から出土している。**時　期**　須恵器杯蓋は９世紀に比定される。

Ａ９号畠（第190図、ＰＬ．129）

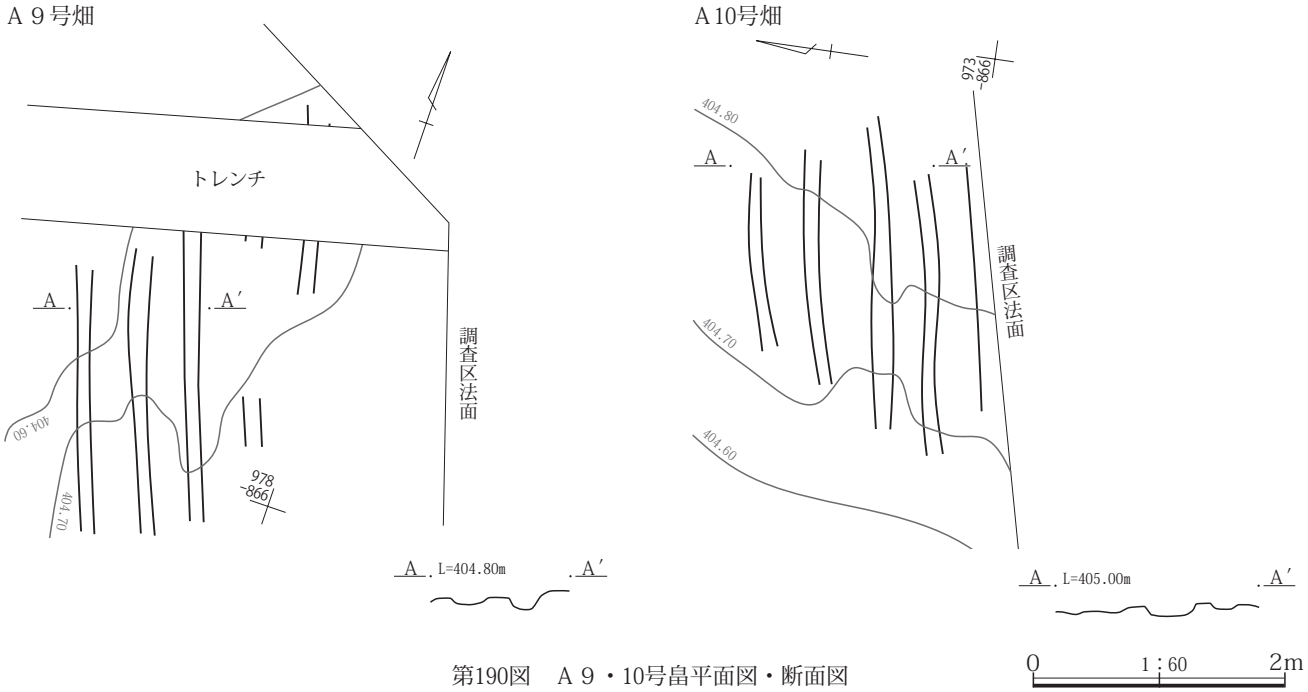
位　置　Ａ３区東部にある。南４ｍの箇所にＡ10号畠がある。西にＡ５号土坑がある。座標値　Ｘ＝60977～60981　Ｙ＝-92866～-9286　**遺存状況**　上部は削平され、さくの一部が線状に残存している。**形　状**　短冊形の畠である。20～23㎝の畝幅で、畝長は2.40+m、である。畝条数は４+本である。**主軸方向**　Ｎ-20°-Ｗの方向で耕されている。**面　積**　4.767+㎡　**時　期**　As-Ｂ下の遺構確認面から古代以降とする。

Ａ10号畠（第190図、ＰＬ．129）

位　置　Ａ３区東部にある。北４ｍの箇所にＡ９号畠



第189図　Ａ11号畠平面図・出土遺物図



第190図　Ａ９・10号畠平面図・断面図

がある。西にＡ５号土坑がある。**座標値**　Ｘ＝60972～60974　Ｙ＝-92866～-9286　**遺存状況**　上部は削平され、さくの一部が線状に残存している。**形　状**　短冊形の畠である。20～42㎝の畝幅で、畝長は2.40+mである。畝条数は４+本である。**主軸方向**　N-80°-Eの方向で耕されている。**面　積**　4.067+㎡　**時　期**　遺構確認面から古代以降と推定する。

遺構外遺物（第191～196図　ＰＬ．187・188）

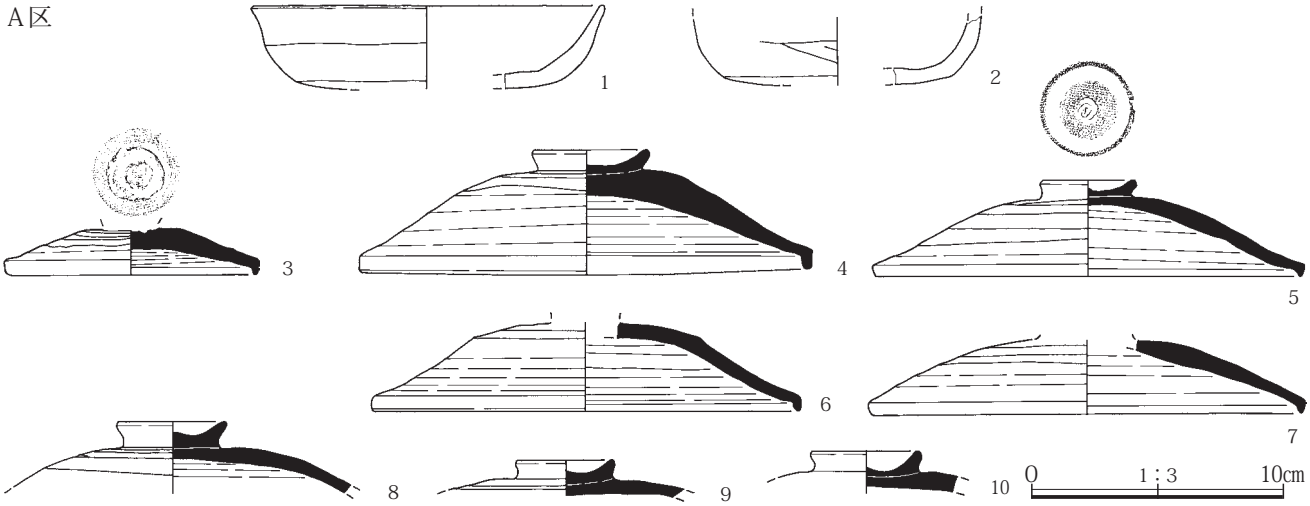
Ａ～Ｄ区まで遺構外遺物の出土を見るが、特にＡ区からの出土が多い。（第191～195図）

Ａ区（第191～195図）　須恵器杯蓋（３～10）、須恵器杯（11～43）、須恵器椀（44～58、60～62）、須恵器盤（59）、須恵器鉢（63）、須恵器瓶（68～69、71・72）、須恵器壺（70）、須恵器壷蓋（72）、須恵器長頸壺（73）、須恵器甕（78～86）、灰釉陶器（64～66）、土師器杯（１・２）、土師器甕（74～77）の土器出土がある。土製品の紡輪（87）、鉄製品で、刀子（88）、鑿状工具（89）がある。

Ｂ区（第196図）　須恵器杯（90）、須恵器瓶（91）を掲載した。

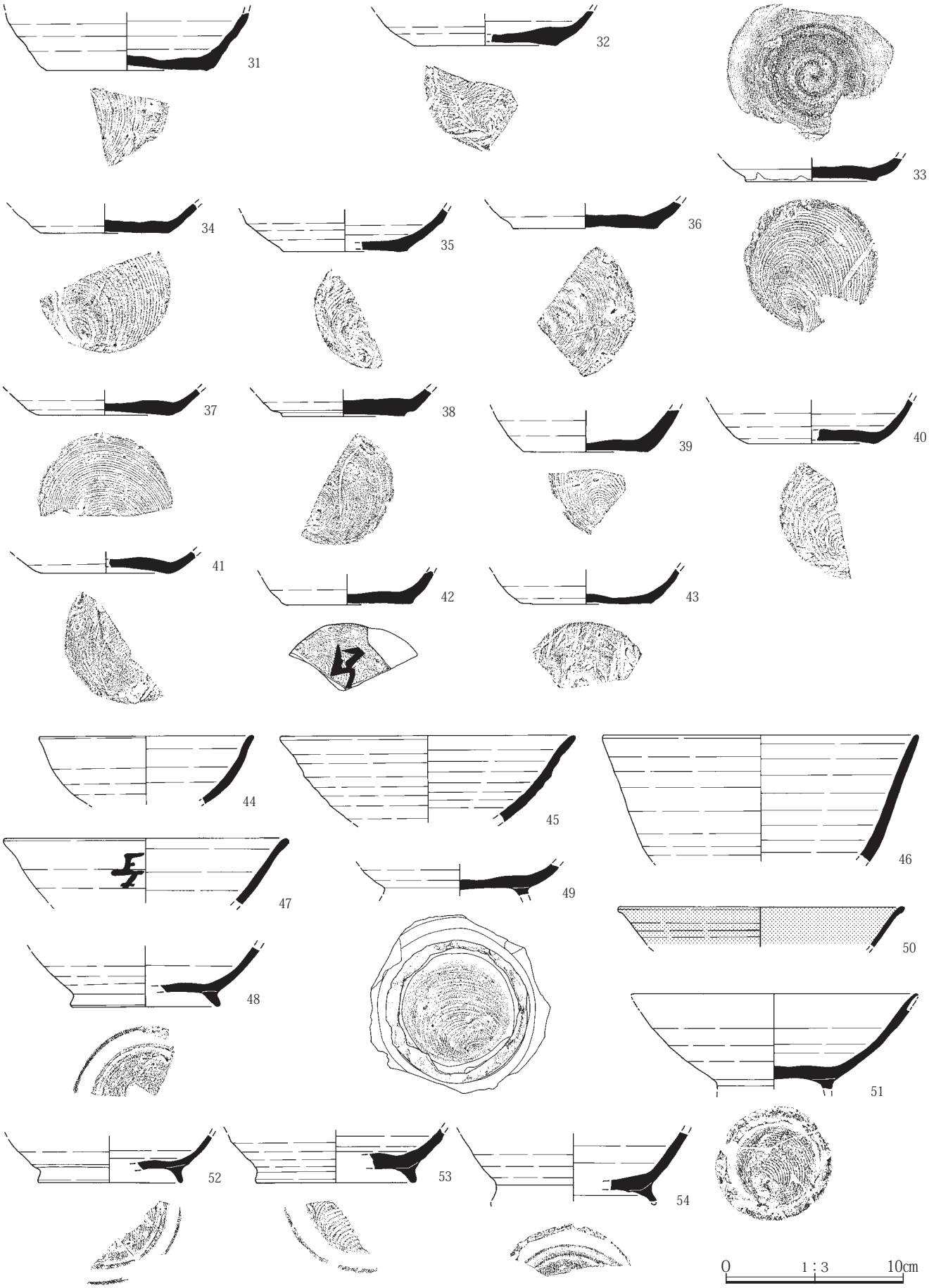
Ｃ区（第196図）　須恵器杯（92）、須恵器椀（93～95）、棒状鉄製品（釘の可能性高い）（96～99）を掲載した。

Ｄ区（第196図）　須恵器杯（100～103）、須恵器椀（104～107、109・110）、灰釉陶器（108）、土師器甕（111・112）、須恵器甕（113）を掲載した。古代８世紀後半から９世紀にかけての遺物が中心である。

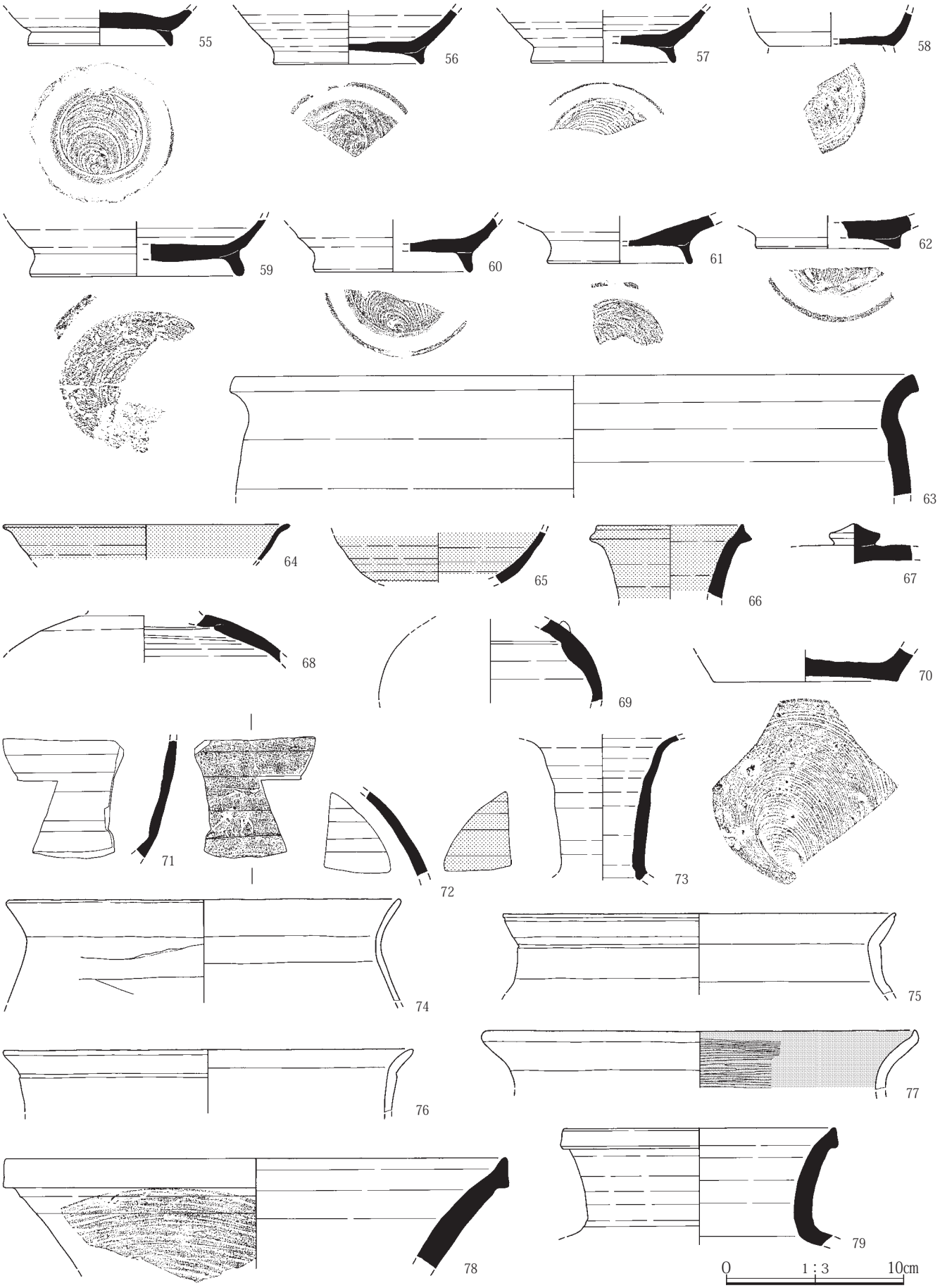


第191図　Ａ区遺構外出土遺物図（１）

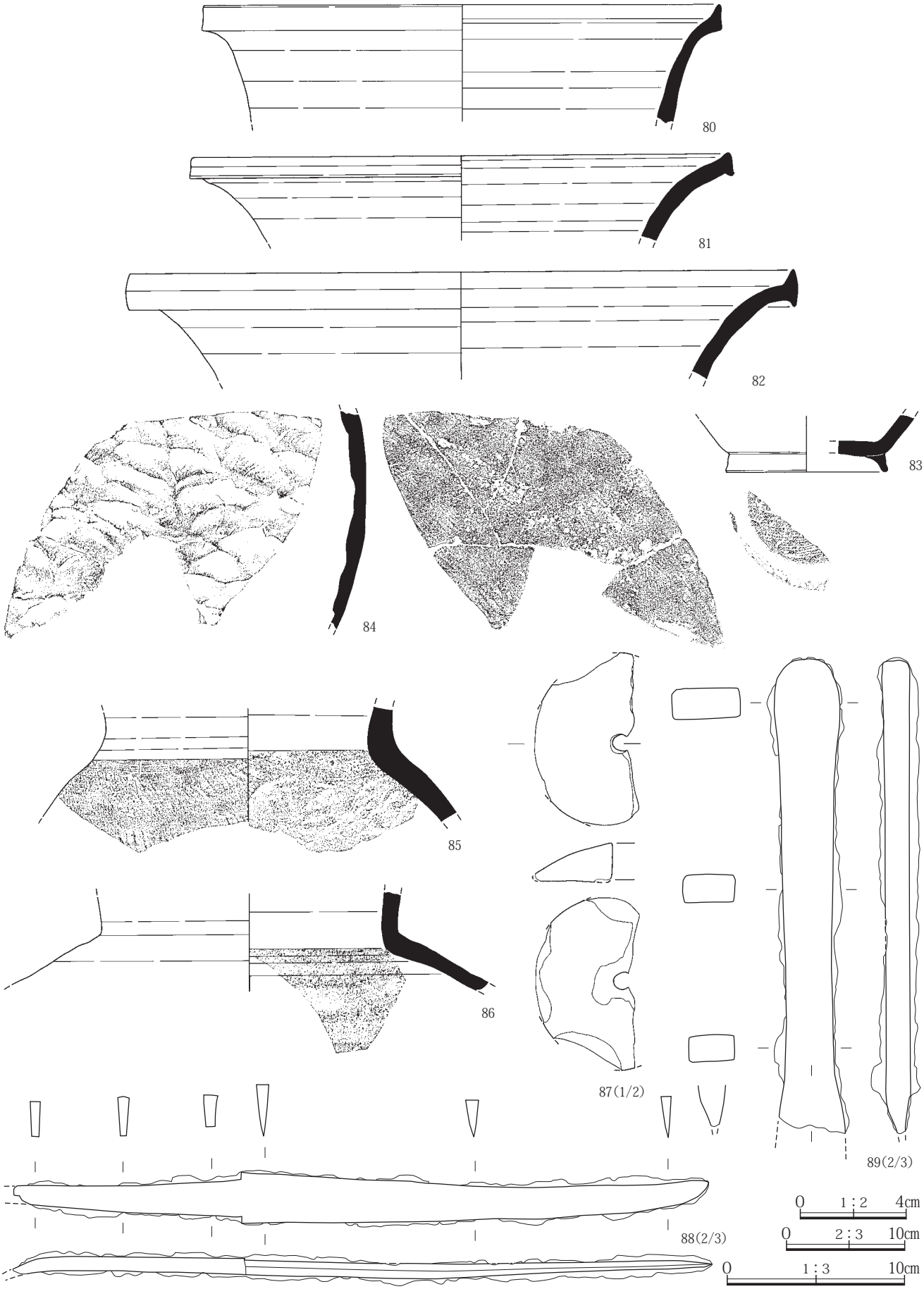
第192図　Ａ区遺構外出土遺物図（２）



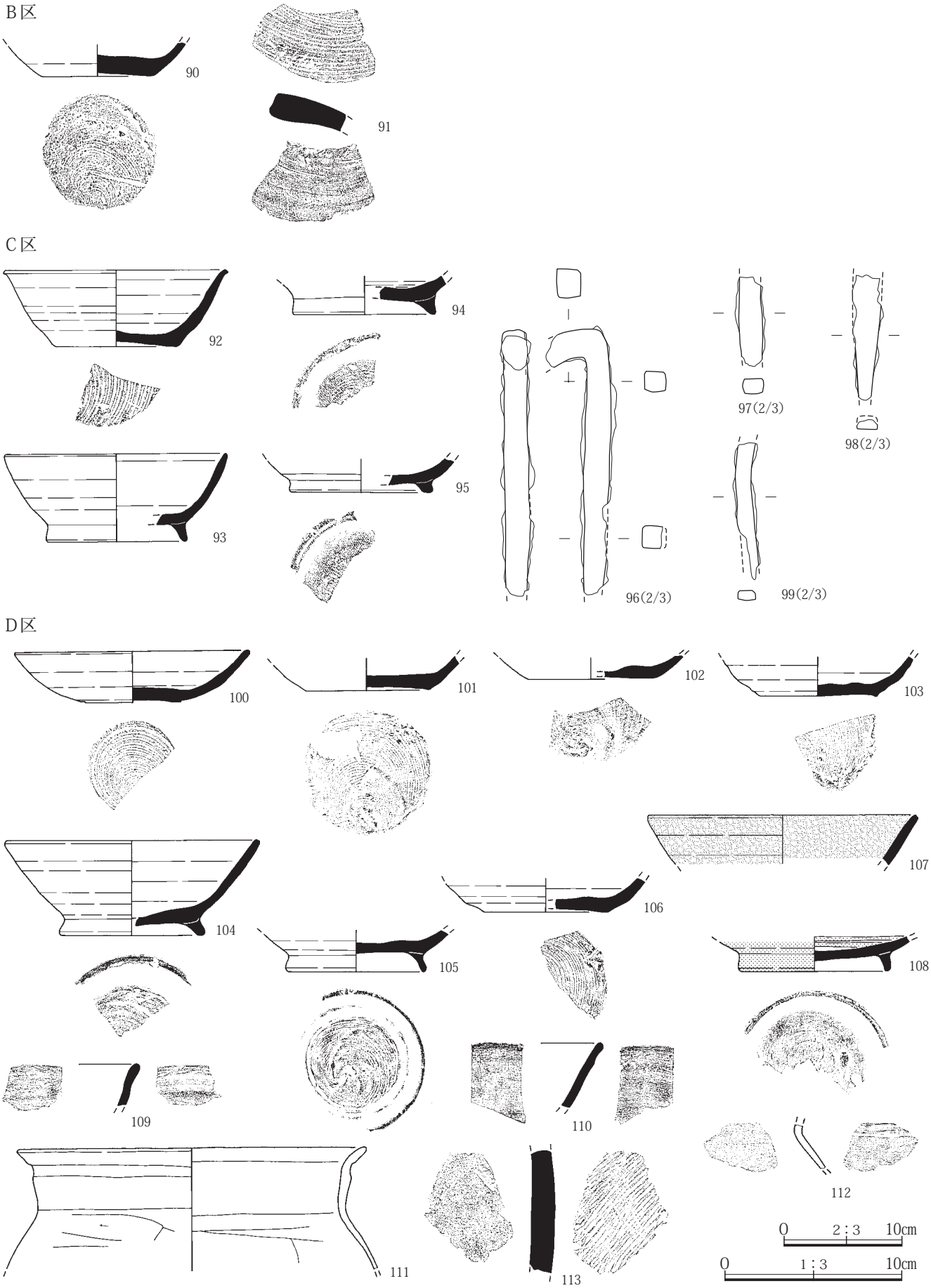
第193図　Ａ区遺構外出土遺物図（３）



第194図　Ａ区遺構外出土遺物図（４）



第195図　Ａ区遺構外出土遺物図（５）



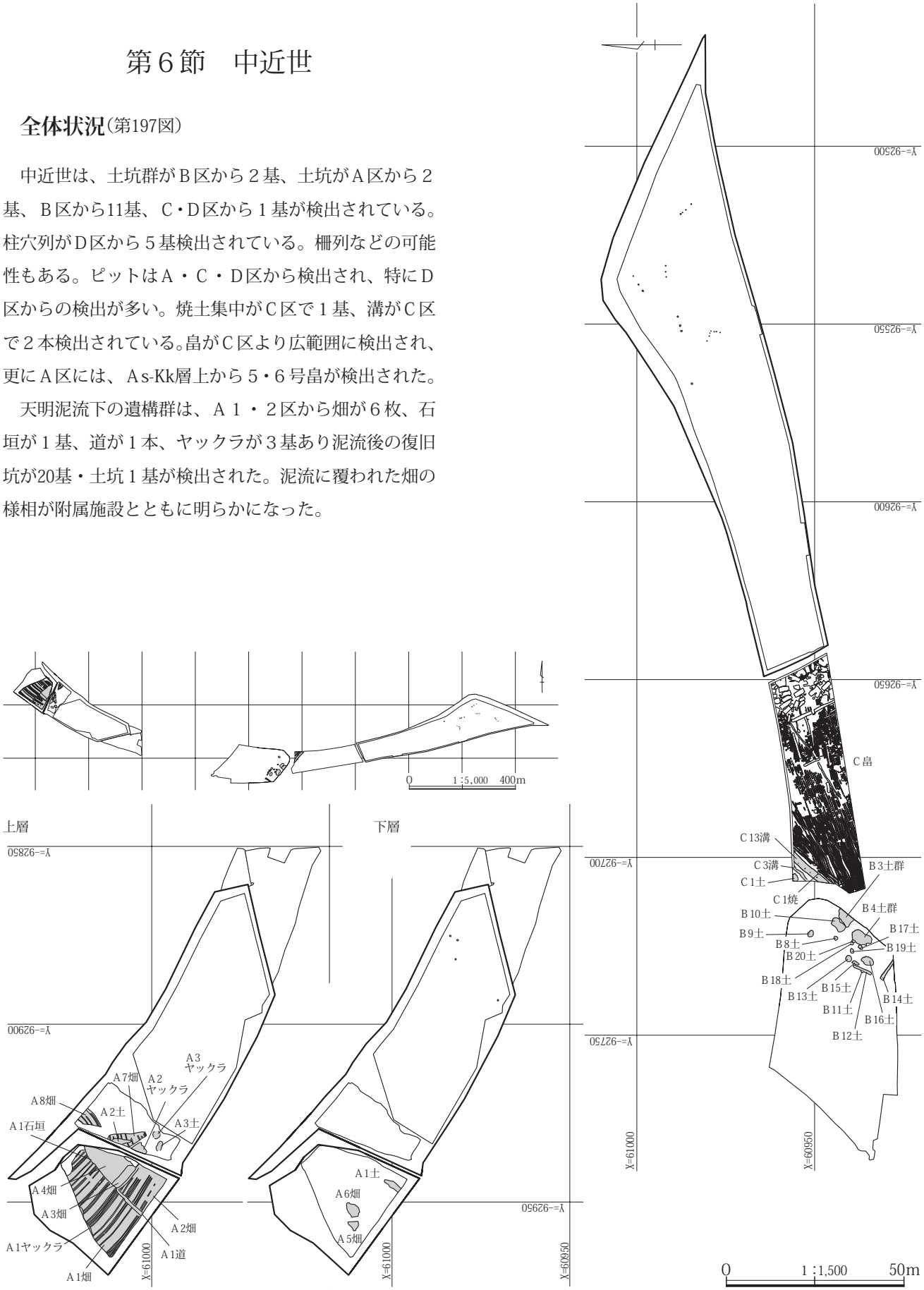
第196図　B～D区遺構外出土遺物図

第６節　中近世

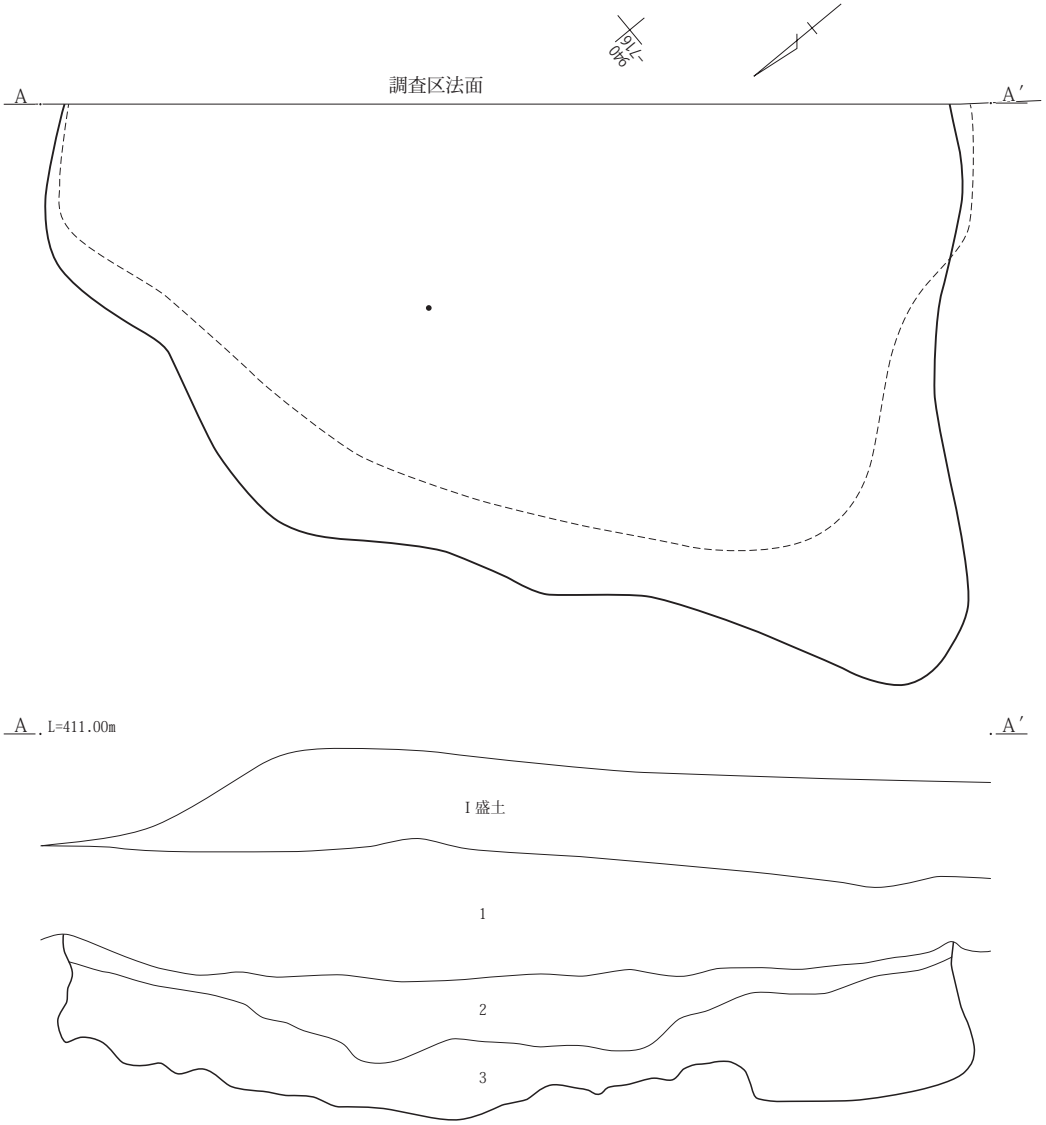
全体状況（第197図）

中近世は、土坑群がＢ区から２基、土坑がＡ区から２基、Ｂ区から11基、Ｃ・Ｄ区から１基が検出されている。柱穴列がＤ区から５基検出されている。柵列などの可能性もある。ピットはＡ・Ｃ・Ｄ区から検出され、特にＤ区からの検出が多い。焼土集中がＣ区で１基、溝がＣ区で２本検出されている。畠がＣ区より広範囲に検出され、更にＡ区には、Ａs-Kk層上から５・６号畠が検出された。

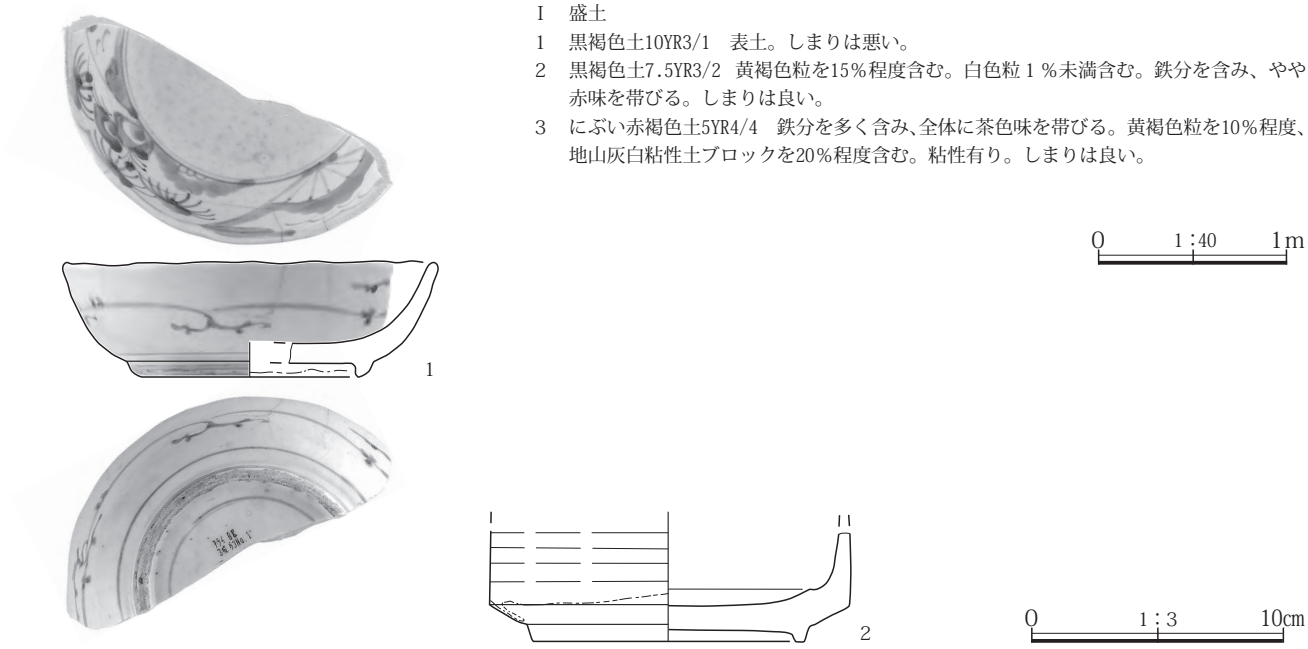
天明泥流下の遺構群は、Ａ１・２区から畑が６枚、石垣が１基、道が１本、ヤックラが３基あり泥流後の復旧坑が20基・土坑１基が検出された。泥流に覆われた畑の様相が附属施設とともに明らかになった。



第197図　中近世遺構分布図



Ⅰ　盛土
1　黒褐色土10YR3/1　表土。しまりは悪い。
2　黒褐色土7.5YR3/2　黄褐色粒を15％程度含む。白色粒１％未満含む。鉄分を含み、やや赤味を帯びる。しまりは良い。
3　にぶい赤褐色土5YR4/4　鉄分を多く含み、全体に茶色味を帯びる。黄褐色粒を10％程度、地山灰白粘性土ブロックを20％程度含む。粘性有り。しまりは良い。



第198図　Ｂ３号土坑群平面図・土層断面図・出土遺物図

土坑群

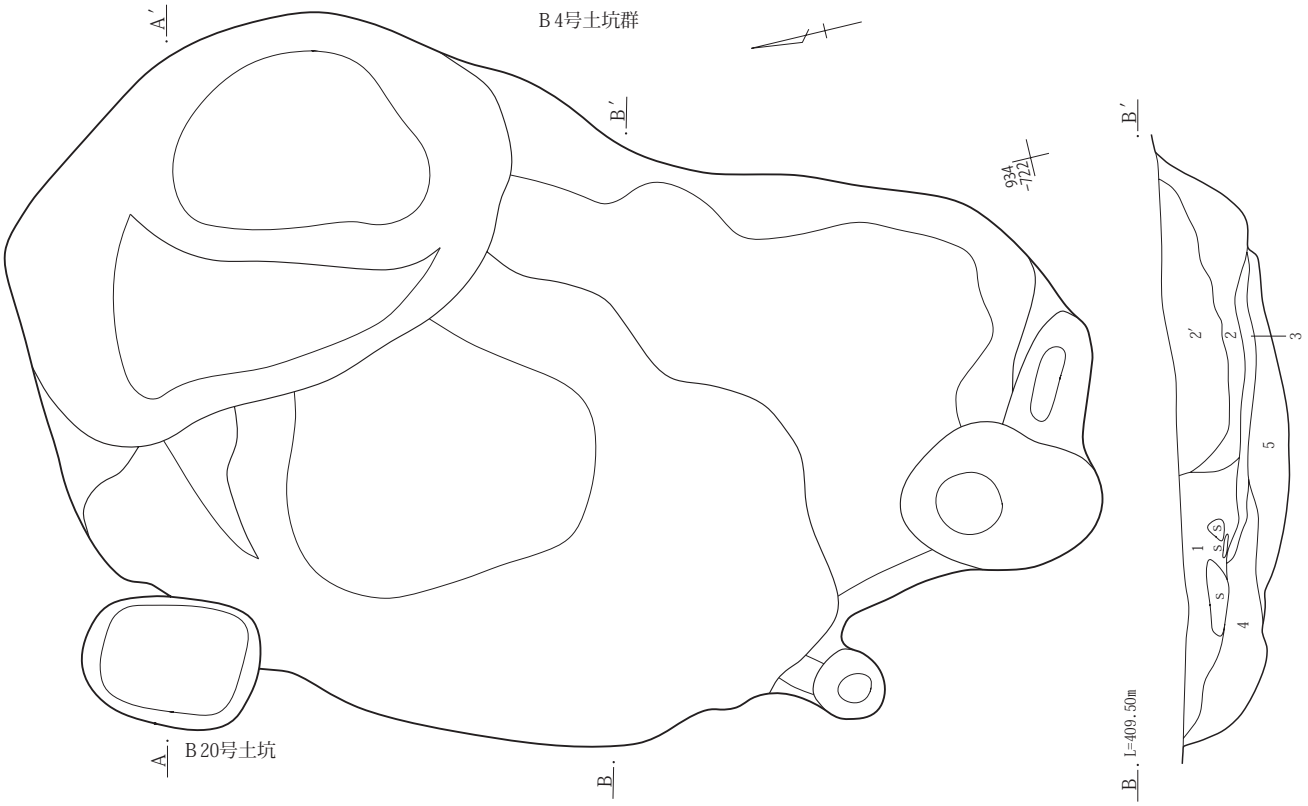
土坑が複数重なって出土する土坑群がＢ区から２基検出された。

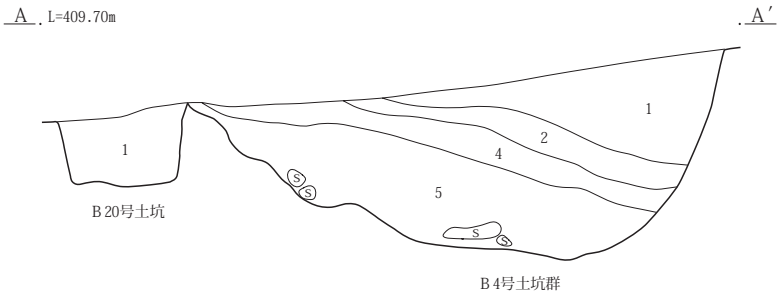
Ｂ３号土坑群(第198図　ＰＬ．129・188)

位　置　Ｂ区南東部端に位置し、東壁と接する。南西３ｍにＢ４号土坑群がある。**座標値**　Ｘ＝60938～60943　Ｙ＝-92714～-92719　**遺存状況**　土坑東側は調査区外である。**形　状**　不整形　**規　模**　東西3.08+m、南北5.22m　**長軸方向**　Ｎ-59°-Ｅ　**掘　方**　床面は凹凸が激しく、複数の土坑が掘削された様相を示す。**残存壁高**58～90㎝ある。**遺物出土状況**　肥前磁器の染付皿が床面やや上から出土している。**性　格**　大小の土坑群が掘削されていることなどや、土坑の床面は灰白色粘性土であり、この粘土を採掘するための土坑と推定する。**遺　物**　肥前磁器の染付皿(１)、非掲載だが、瀬戸・美濃陶器丸椀が出土している。**時　期**　肥前磁器の染付皿の年代が17世紀末から18世紀中葉であり、少なくともこの時期以降である。

Ｂ４号土坑群(第199図　ＰＬ．129)

位　置　Ｂ区南東部に位置し、東壁に近い。北東３ｍにＢ３号土坑群がある。**座標値**　Ｘ＝60933～60939　Ｙ＝-92720～-92724　**遺存状況**　遺構全体が調査対象となる。**形　状**　不整形　**規　模**　東西3.45m、南北5.95m





B20号土坑
1　黒褐色土10YR3/2 ローム小ブロックを15%程度含む。しまりは悪い。

Ｂ４号土坑群
1　黒褐色土10YR3/2　ロームブロックを7%程度含む。しまりは悪い。
2　にぶい褐色土7.5YR5/4　ほぼローム。地山灰白色性土ブロックを５%程度含む。
2′　2に類似するが、２よりもやや鉄分を多く含む。
3　灰白色粘性土の再堆積土10YR6/2　黒褐色土を20%程度含む。
4　黒褐色土10YR3/2　ロームブロックを10%程度含む。1よりもやや明るい。
5　褐色土7.5YR4/3　φ20㎝前後の大形ロームブロックを30%程度含む。大形礫(長さ30㎝程)を含む。

0　1:40　1m

第199図　Ｂ４号土坑群平面図・土層断面図

長軸方向　N-27°-E　**掘　方**　大きな土坑が南北方向に掘削された後に、南西部や北東部にやや小さめの土坑を掘削した痕跡がある。床面は凹凸が激しく、複数の土坑が掘削された様相を示す。残存壁高42～98cmある。**性　格**　Ｂ３号土坑群と同様、大小の土坑群が掘削されていることなどや、土坑の床面は灰白色粘性土であり、この粘土を採掘するための土坑と推定する。**時　期**　近くに所在するＢ３号土坑群と地形的にも近似するので、ほぼ同時期と推定する。

土坑

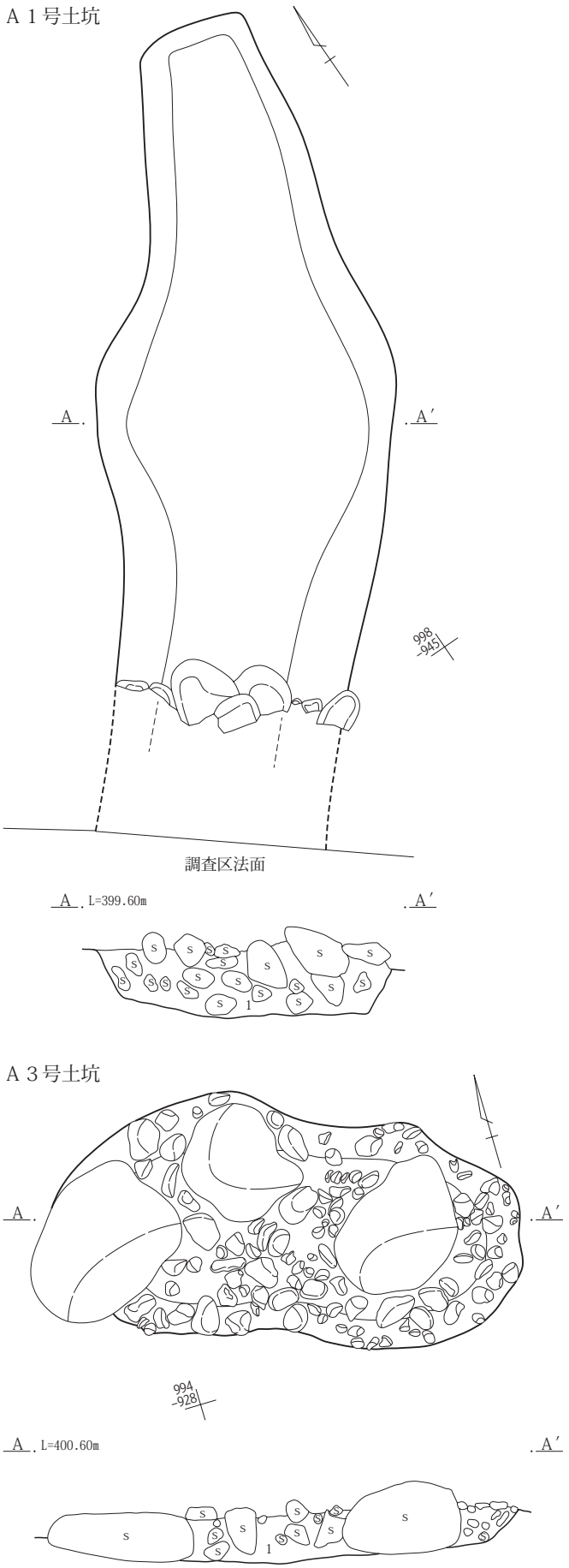
Ａ区には、礫を多く、覆土に含む土坑群がある。畑耕作中に出た礫を入れている。

Ａ１号土坑(第200図　ＰＬ．130)

位　置　Ａ１区南東部にある。**座標値**　Ｘ＝60997～61002　Ｙ＝-92943～-92947　**遺存状況**　南部は調査区外となる。天明泥流下の面から出土している。**形　状**　不整長楕円形　**規　模**　長軸 512+cm、短軸 188cm、深さ56cm　**長軸方向**　N-27°-E　**性　格**　礫が多く覆土に含まれており、畑開墾時に出てきた礫を埋めた土坑と想定する。**時　期**　天明泥流下の畑の下層から検出されたので、18世紀後半以前と推定する。

Ａ３号土坑(第200図　ＰＬ．130)

位　置　Ａ３区南部にある。**座標値**　Ｘ＝60996～60997　Ｙ＝-92932～-92935　**遺存状況**　全体が調査対象である。天明泥流下の畑の下層面から出土している。**形　状**　不整長楕円形　**規　模**　長軸290cm、短軸153cm、深さ28cm　**長軸方向**　N-74°-W　**性　格**　礫が多く覆土に含まれており、畑開墾時に出てきた礫を埋めた土坑と想定する。**時　期**　天明泥流下の畑の下層から検出されたので、18世紀後半以前と推定する。



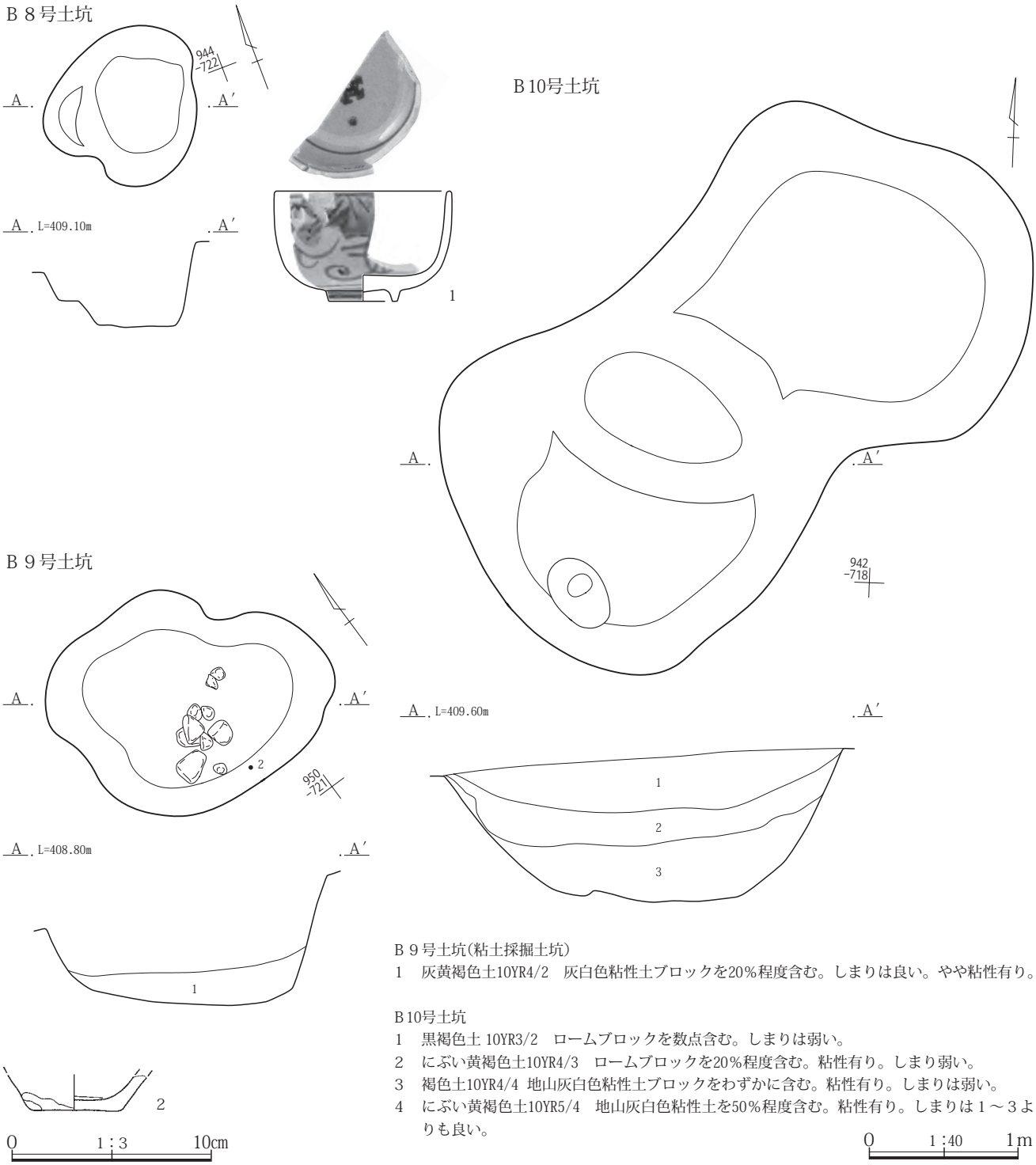
Ａ１号土坑
1　暗褐色土10YR3/3　φ10～50cm大の雑多な円礫を大量に含む。

Ａ３号土坑
1　暗褐色土10YR3/3　φ５～20cm大の雑多な円礫を大量(30～50％)に含む。加えて、70cm近い大礫３個を含む。

0　1:40　1m

第200図　Ａ１・３号土坑平面図・土層断面図

Ｂ区土坑　Ｂ３・４号土坑群の西側から、11基の土坑が検出された。うち、Ｂ10号土坑（長軸432㎝、短軸253㎝、深さ120㎝）は、灰白色粘土を地山として、複数の土坑が掘削された様子を示しているので、粘土採掘坑の可能性がある。Ｂ12・14号土坑のように溝状に長い土坑もある。それ以外は不定形の土坑である。遺物は、Ｂ８号土坑より肥前磁器染付小丸碗（第201図１）、Ｂ９号土坑より土師器小型壺底部（第201図２）、Ｂ11号土坑より瀬戸・美濃陶器丸椀底部（第202図１）、Ｂ19号土坑より、肥前磁器染付筒型碗（第203図１）が出土している。18世紀後葉から18世紀初頭にかけての遺物（肥前染付小丸碗、肥前染付筒型碗）が多い。



Ｂ９号土坑（粘土採掘土坑）
1　灰黄褐色土10YR4/2　灰白色粘性土ブロックを20％程度含む。しまりは良い。やや粘性有り。

Ｂ10号土坑
1　黒褐色土 10YR3/2　ロームブロックを数点含む。しまりは弱い。
2　にぶい黄褐色土10YR4/3　ロームブロックを20％程度含む。粘性有り。しまり弱い。
3　褐色土10YR4/4 地山灰白色粘性土ブロックをわずかに含む。粘性有り。しまりは弱い。
4　にぶい黄褐色土10YR5/4　地山灰白色粘性土を50％程度含む。粘性有り。しまりは１～３よりも良い。

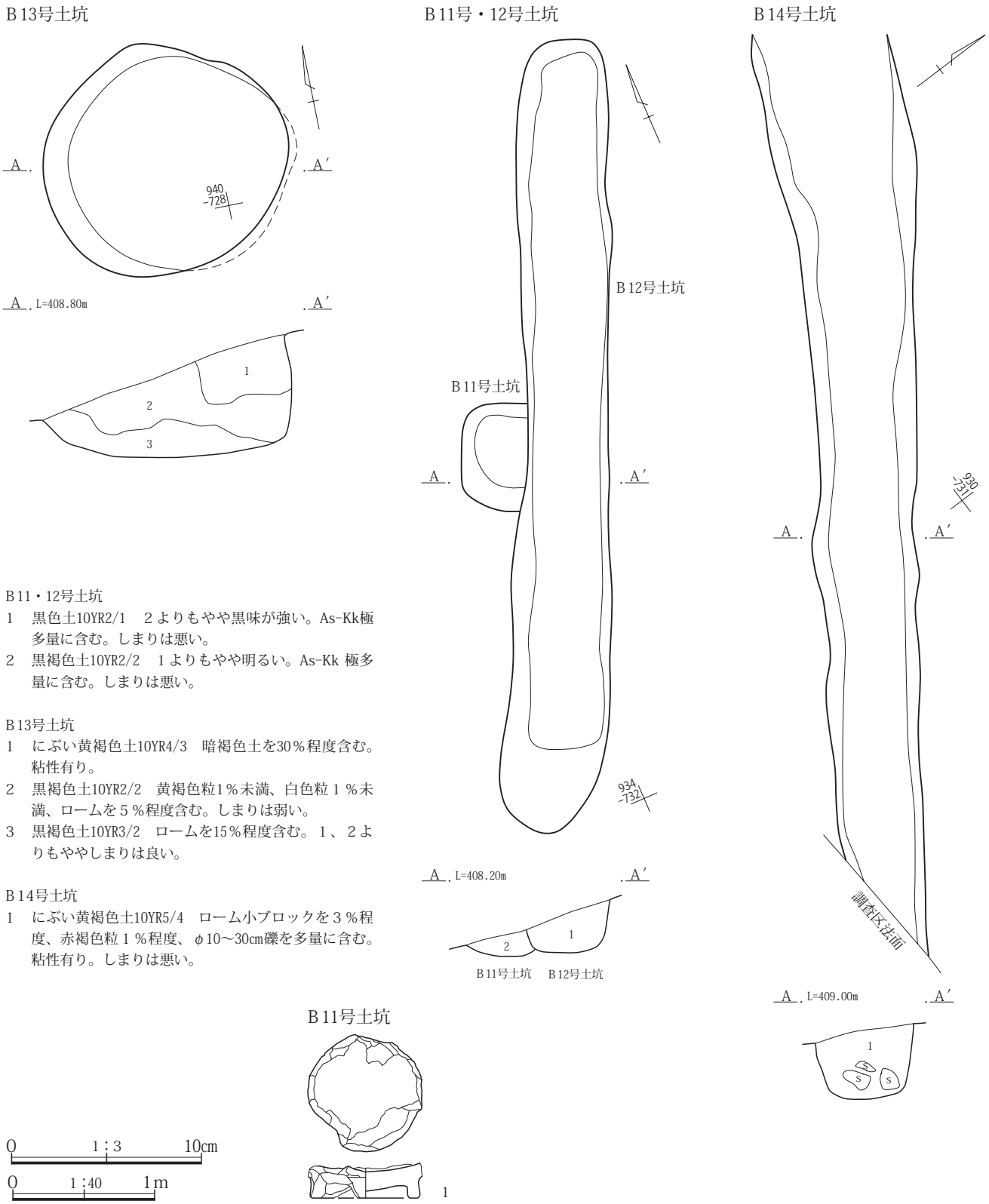
第201図　Ｂ８・９・10号土坑平面図・土層断面図・出土遺物図

Ｃ区土坑（第205図　ＰＬ．131）

Ｃ区土坑は１基あり、Ｃ区北西部端にあり、北側は調査区外である。不整形で、長軸214+cm、短軸151+cm、深さ45cmである。

Ｄ区土坑（第205図）

Ｄ区土坑は１基、Ｄ区西部にある。径42cm、深さ64cmである。この周辺にあるピットなども中近世の可能性が高い。

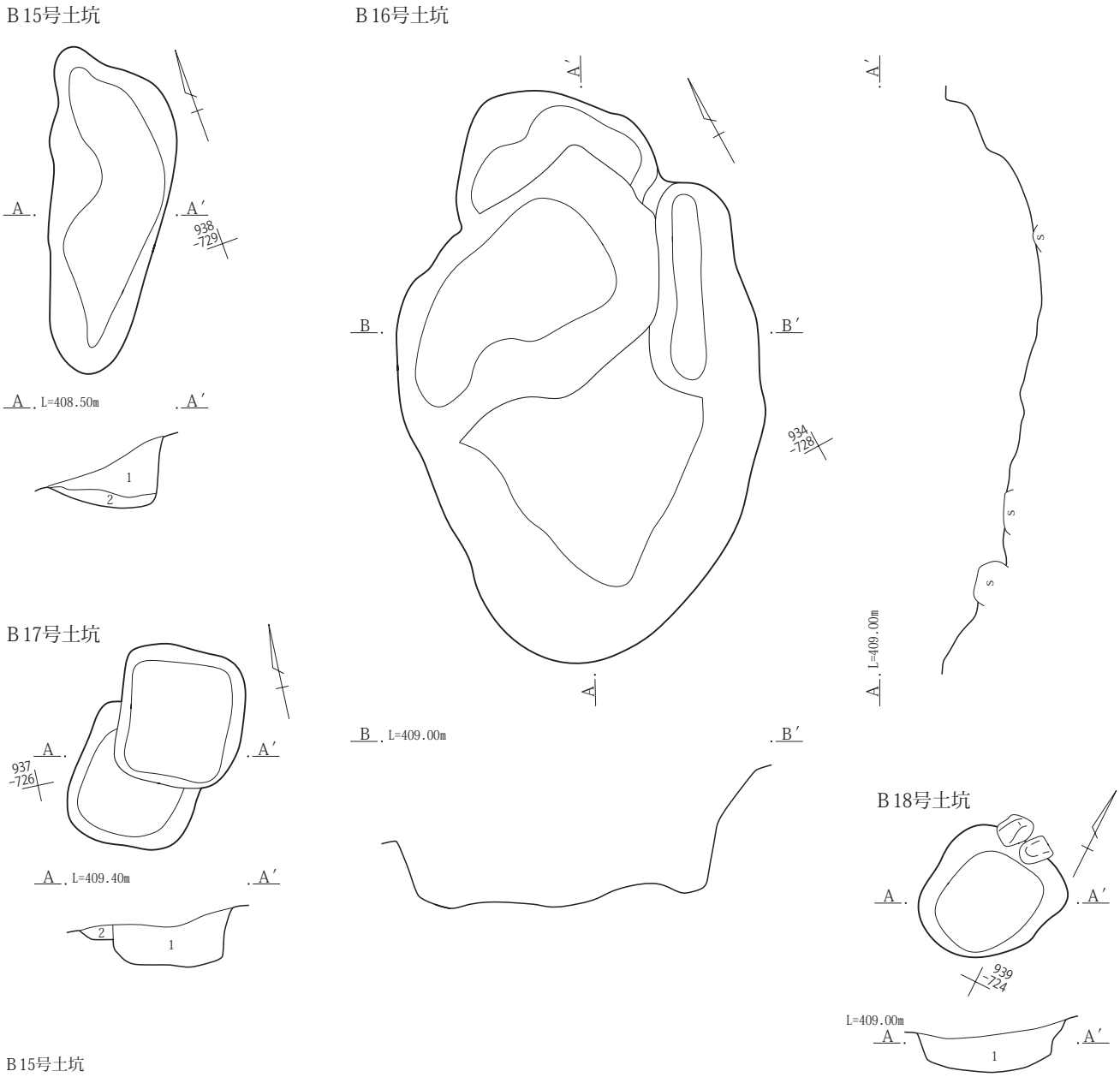


Ｂ11・12号土坑
1　黒色土10YR2/1　２よりもやや黒味が強い。As-Kk極多量に含む。しまりは悪い。
2　黒褐色土10YR2/2　１よりもやや明るい。As-Kk 極多量に含む。しまりは悪い。

Ｂ13号土坑
1　にぶい黄褐色土10YR4/3　暗褐色土を30％程度含む。粘性有り。
2　黒褐色土10YR2/2　黄褐色粒1％未満、白色粒１％未満、ロームを５％程度含む。しまりは弱い。
3　黒褐色土10YR3/2　ロームを15％程度含む。１、２よりもややしまりは良い。

Ｂ14号土坑
1　にぶい黄褐色土10YR5/4　ローム小ブロックを３％程度、赤褐色粒１％程度、φ10～30cm礫を多量に含む。粘性有り。しまりは悪い。

第202図　Ｂ11～14号土坑平面図・土層断面図・出土遺物図



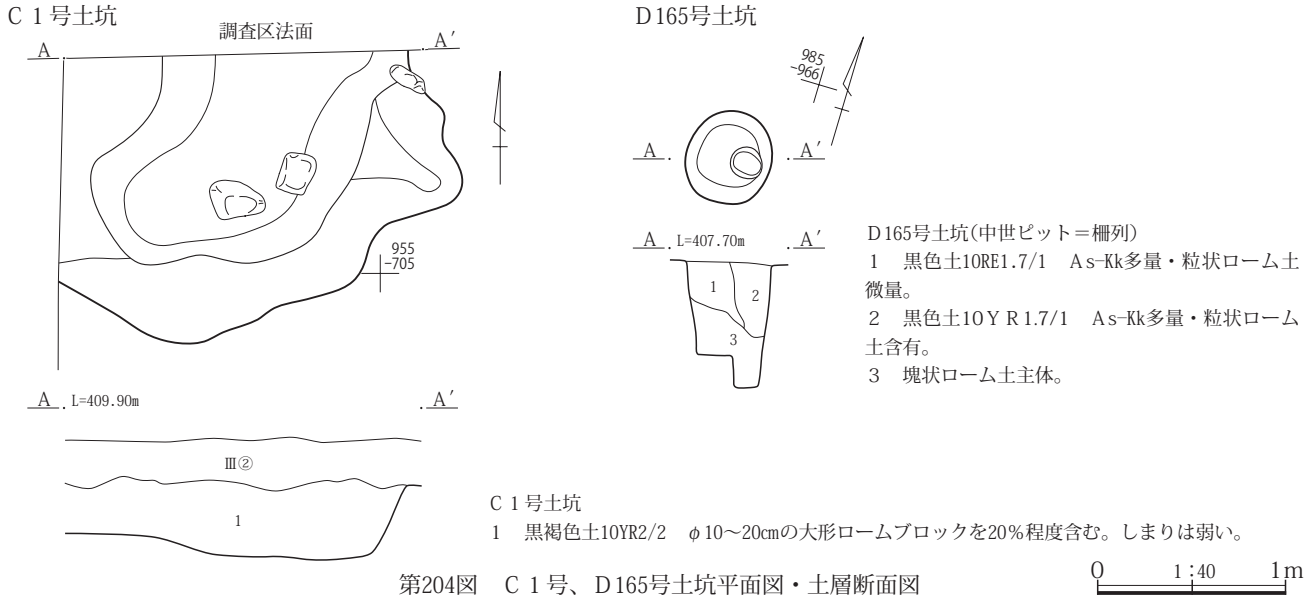
B15号土坑
1　黒褐色土10YR2/3　ロームブロックを10％程度含む。しまりは悪い。
2　にぶい黄褐色土10YR4/3　ほぼローム。黒褐色土を10％程度含む。しまりは悪い。粘性有り。

B17号土坑
1　黒褐色土10YR3/2　ローム小ブロックを15％程度含む。しまりは悪い。
2　黒褐色土10YR3/2　φ10cm程の礫を20％程度、ロームを10％程度含む。しまりは悪い。

B18号土坑
1　黒褐色土10YR3/2　ローム小ブロックを15％程度含む。しまりは悪い。

B19号土坑
1　黒褐色土10YR3/2　φ10cm程の礫を20％程度、ロームを10％程度含む。しまりは悪い。
2　灰黄褐色土10YR4/2　ロームを30％程度含む。しまりは悪い。粘性有り。

第203図　B15～19号土坑平面図・土層断面図・出土遺物図



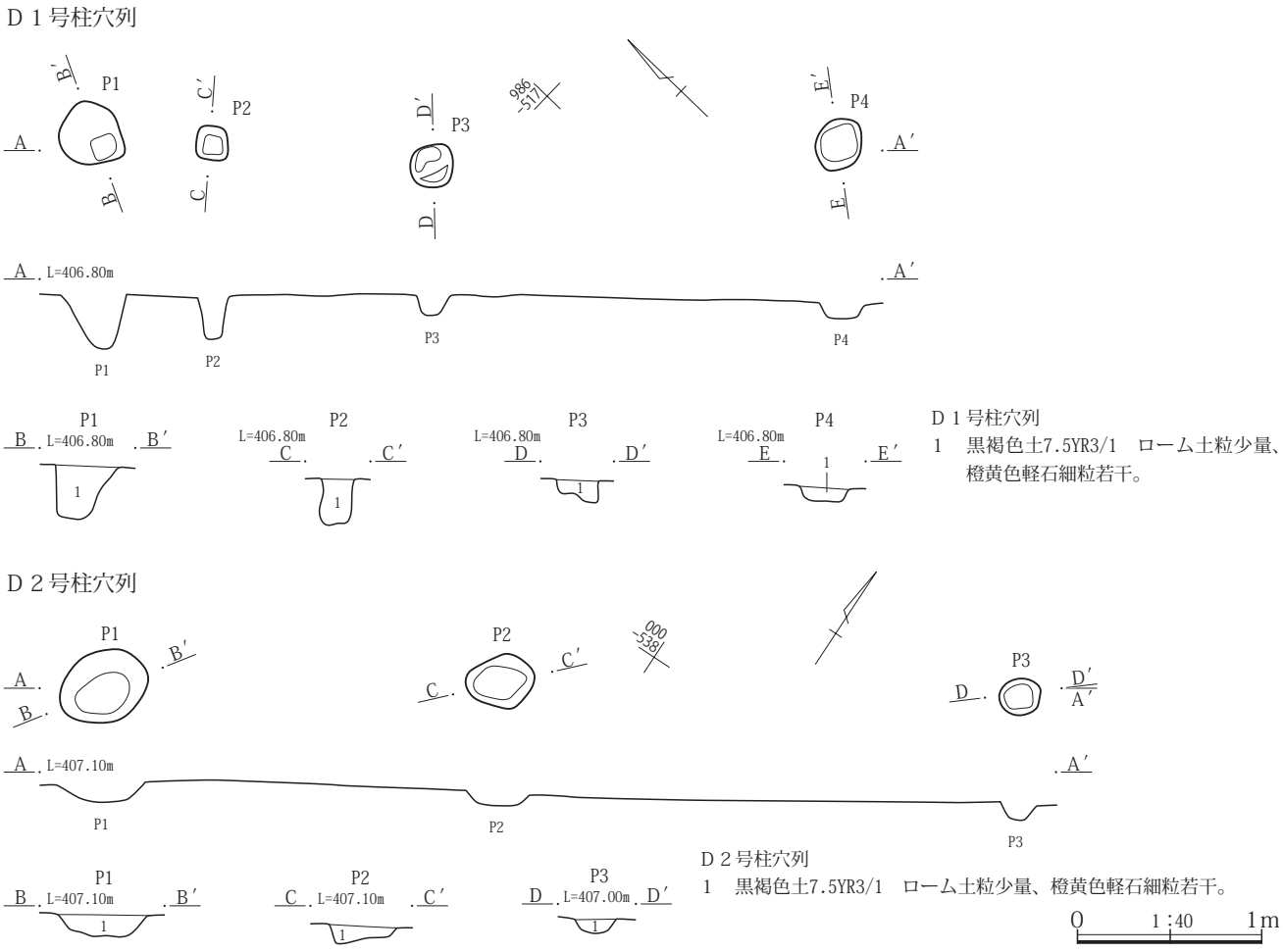
第204図　Ｃ１号、Ｄ165号土坑平面図・土層断面図

柱穴列

Ｄ区には柱穴列と想定したいくつかの遺構群がある。

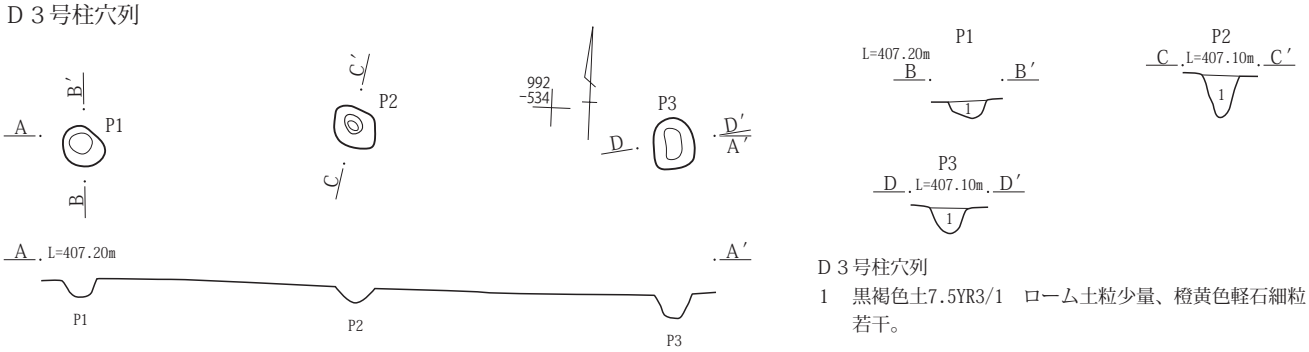
Ｄ１号柱穴列(第205図、ＰＬ．．133)

位　置　Ｄ区東端中央部にある。**座標値**　Ｘ＝61003～61023　Ｙ＝-92935～-92965　**遺存状況**　直線状に４つの柱穴が並ぶ　**規　模**　全長(Ｐ１－Ｐ４)404+cm、柱間(Ｐ１－Ｐ２)64cm、(Ｐ２－Ｐ３)120cm、(Ｐ３－Ｐ４)220cm　**長軸方向**　N-50°-W　**柱　穴**　Ｐ１～Ｐ４は長径18～34cm、短径12～32、深さ８～28cmである。



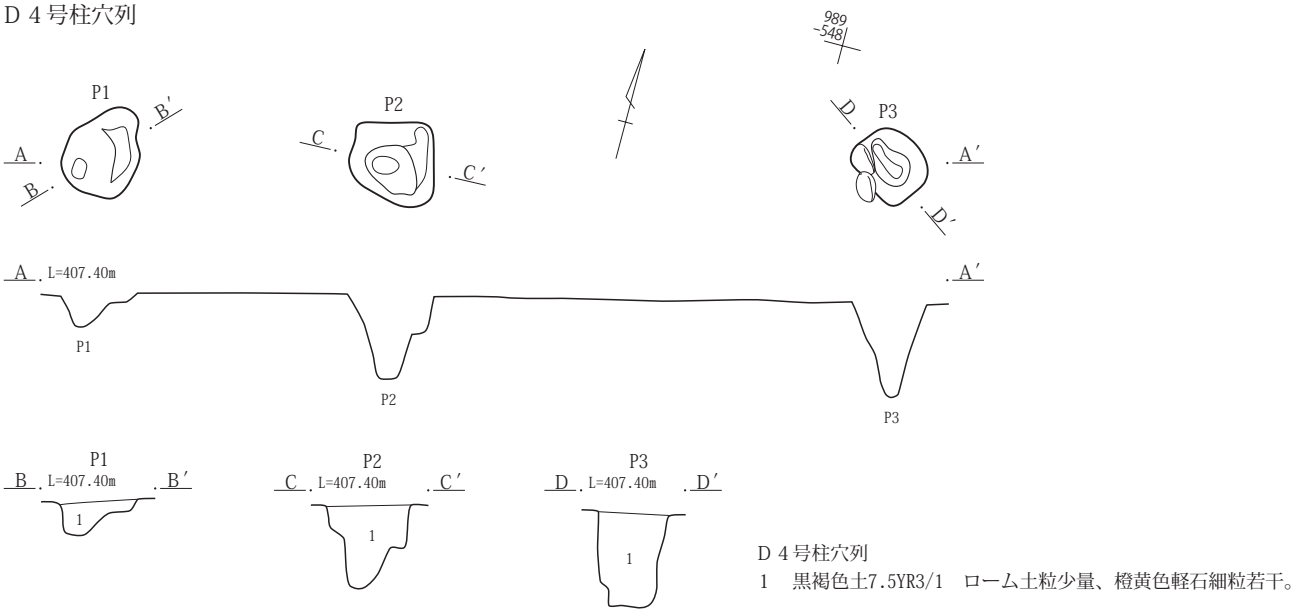
第205図　Ｄ１・２号柱穴列平面図・土層断面図

Ｄ３号柱穴列



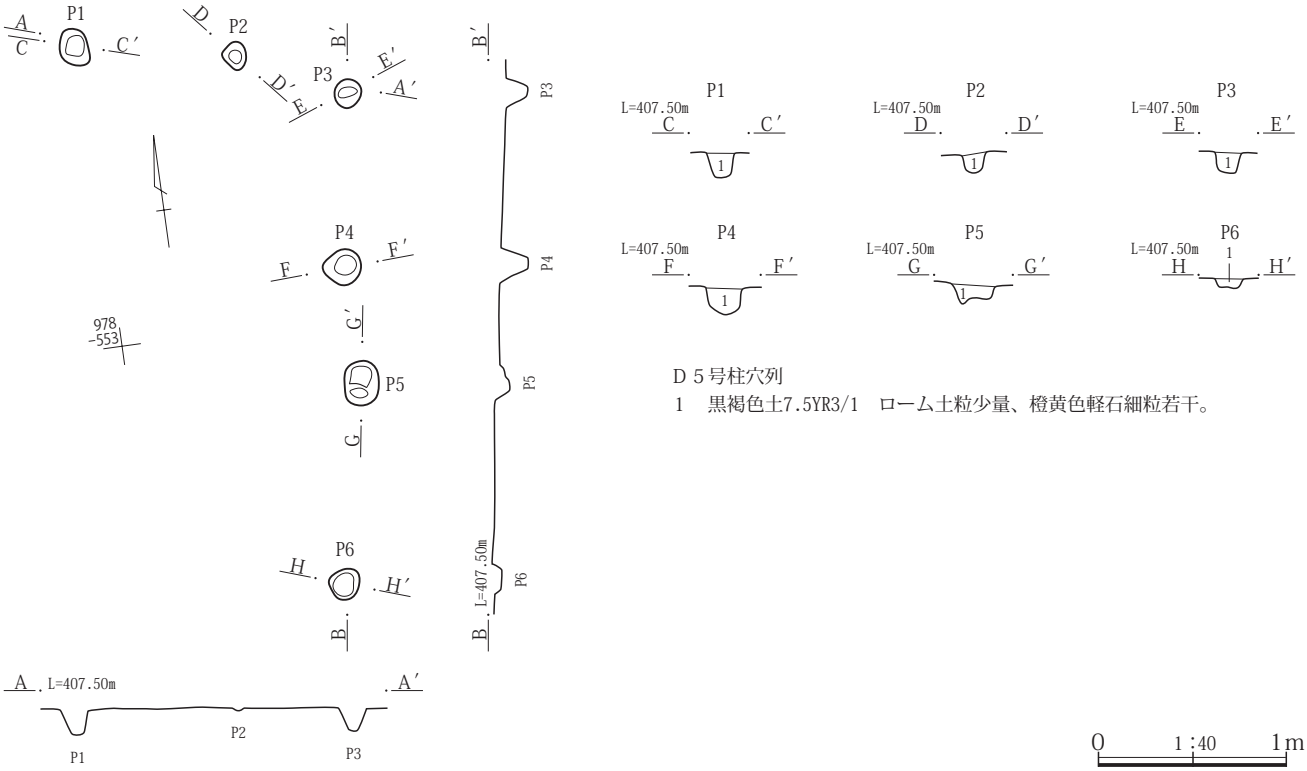
Ｄ３号柱穴列
1　黒褐色土7.5YR3/1　ローム土粒少量、橙黄色軽石細粒若干。

Ｄ４号柱穴列



Ｄ４号柱穴列
1　黒褐色土7.5YR3/1　ローム土粒少量、橙黄色軽石細粒若干。

Ｄ５号柱穴列

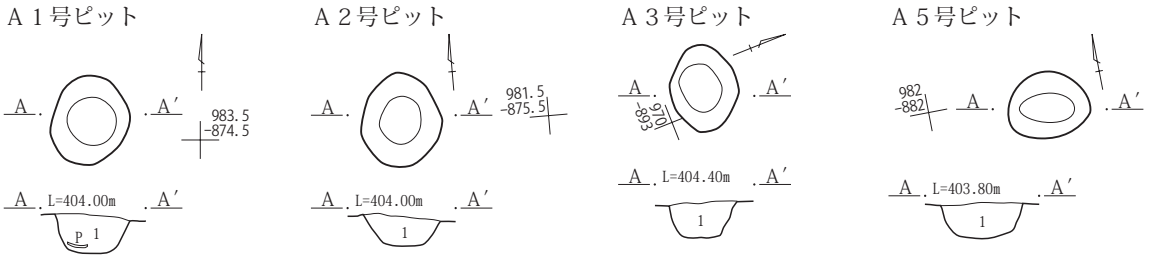


Ｄ５号柱穴列
1　黒褐色土7.5YR3/1　ローム土粒少量、橙黄色軽石細粒若干。

第206図　Ｄ３～５号柱穴列平面図・土層断面図・断面図

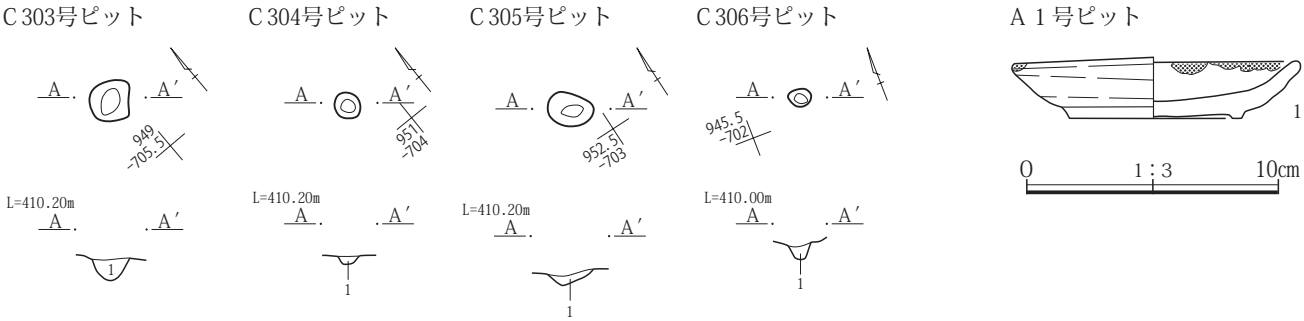
Ｄ２号柱穴列(第205図、ＰＬ．133)

位　置　Ｄ区東端北部にある。**座標値**　Ｘ＝60999～61008　Ｙ＝-92942～-92952　**遺存状況**　直線状に３つの柱穴が並ぶ　**規　模**　全長(Ｐ１-Ｐ３) 492+cm、柱間(Ｐ１－Ｐ２)212cm、(Ｐ２－Ｐ３)280cm　**長軸方向**　N-58°-W　**柱　穴**　Ｐ１～Ｐ３は長径18～34cm、短径12～32、深さ８～12cmである。

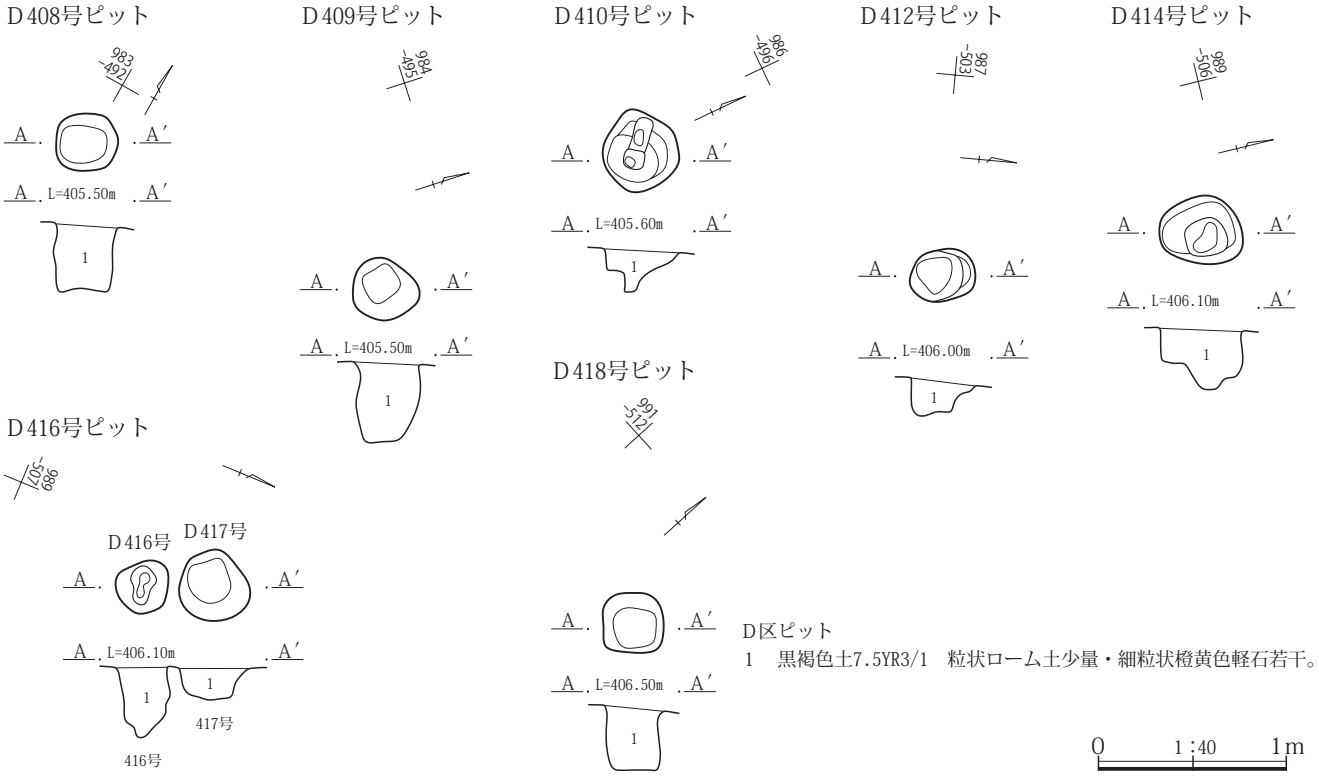


Ａ１・２号ピット
1　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性ともにあまりない。As-Kk軽石多量(15～25%)に含む。

Ａ３・５号ピット
1　暗褐色土10YR3/4　しまりややあり。粘性なし。As-Kk軽石多量(15～25%)含む。

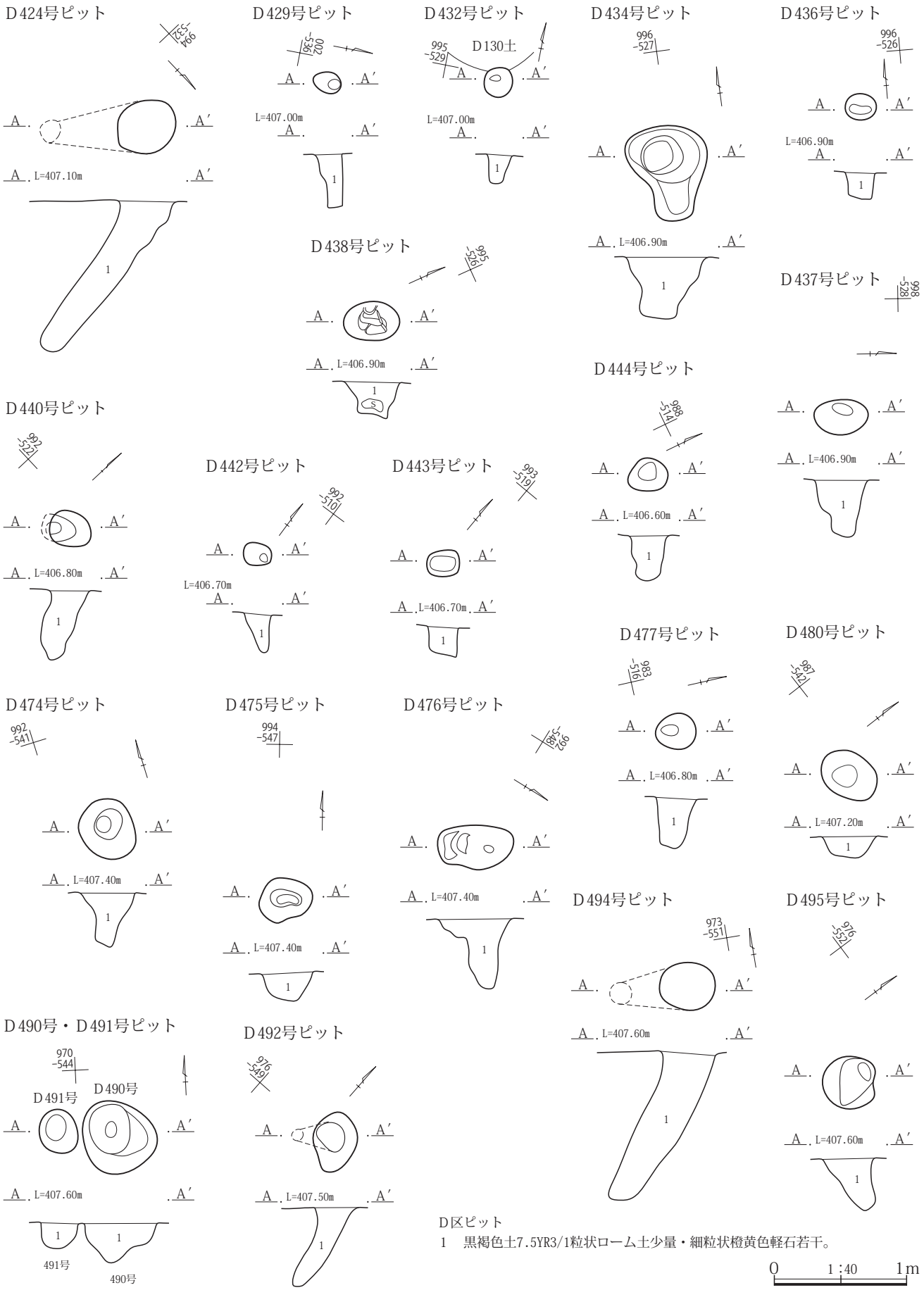


Ｃ303～306号ピット
1　黒色土10YR1.7/1　白色粒１%程度、黄褐色粒２%程度含む。しまり弱い。

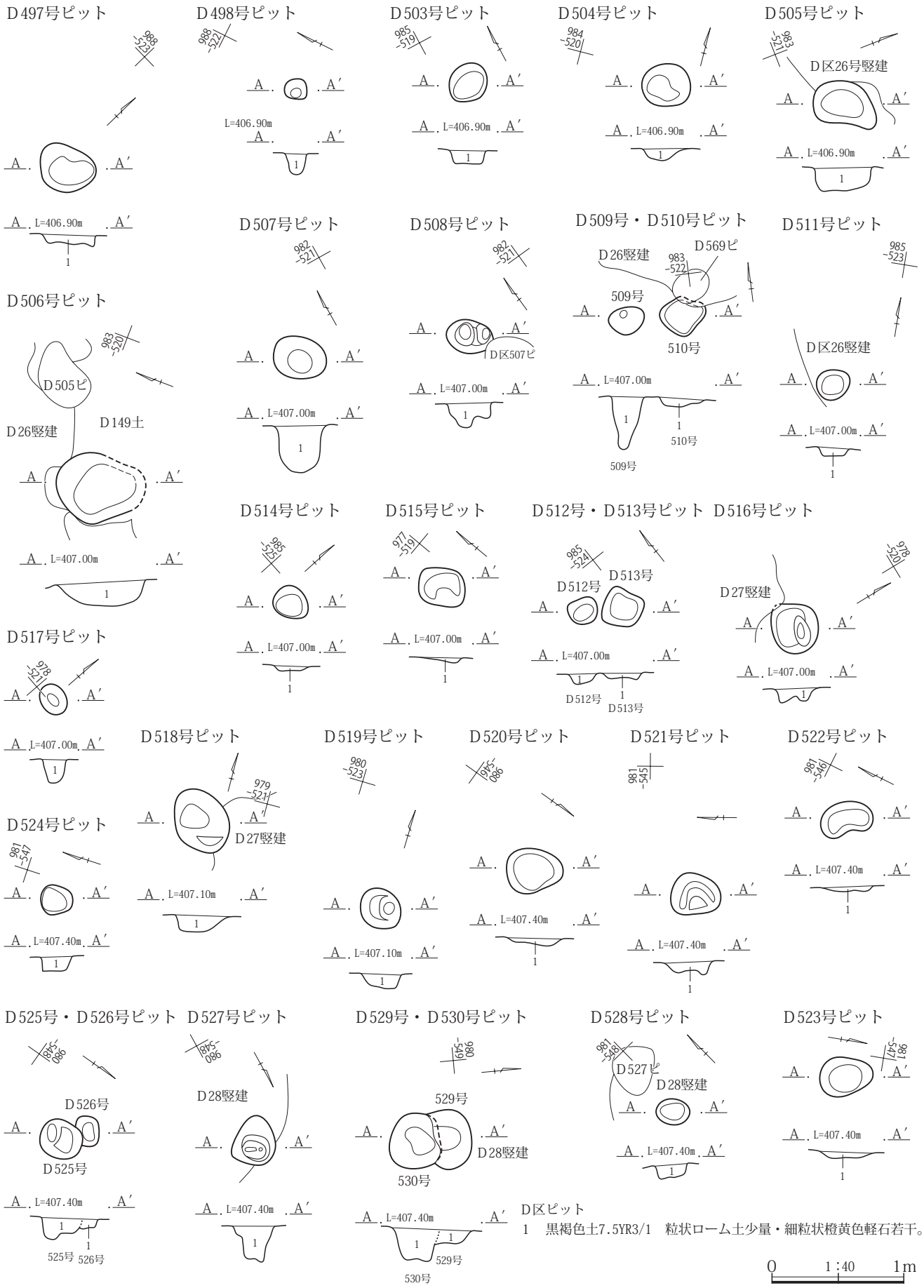


Ｄ区ピット
1　黒褐色土7.5YR3/1　粒状ローム土少量・細粒状橙黄色軽石若干。

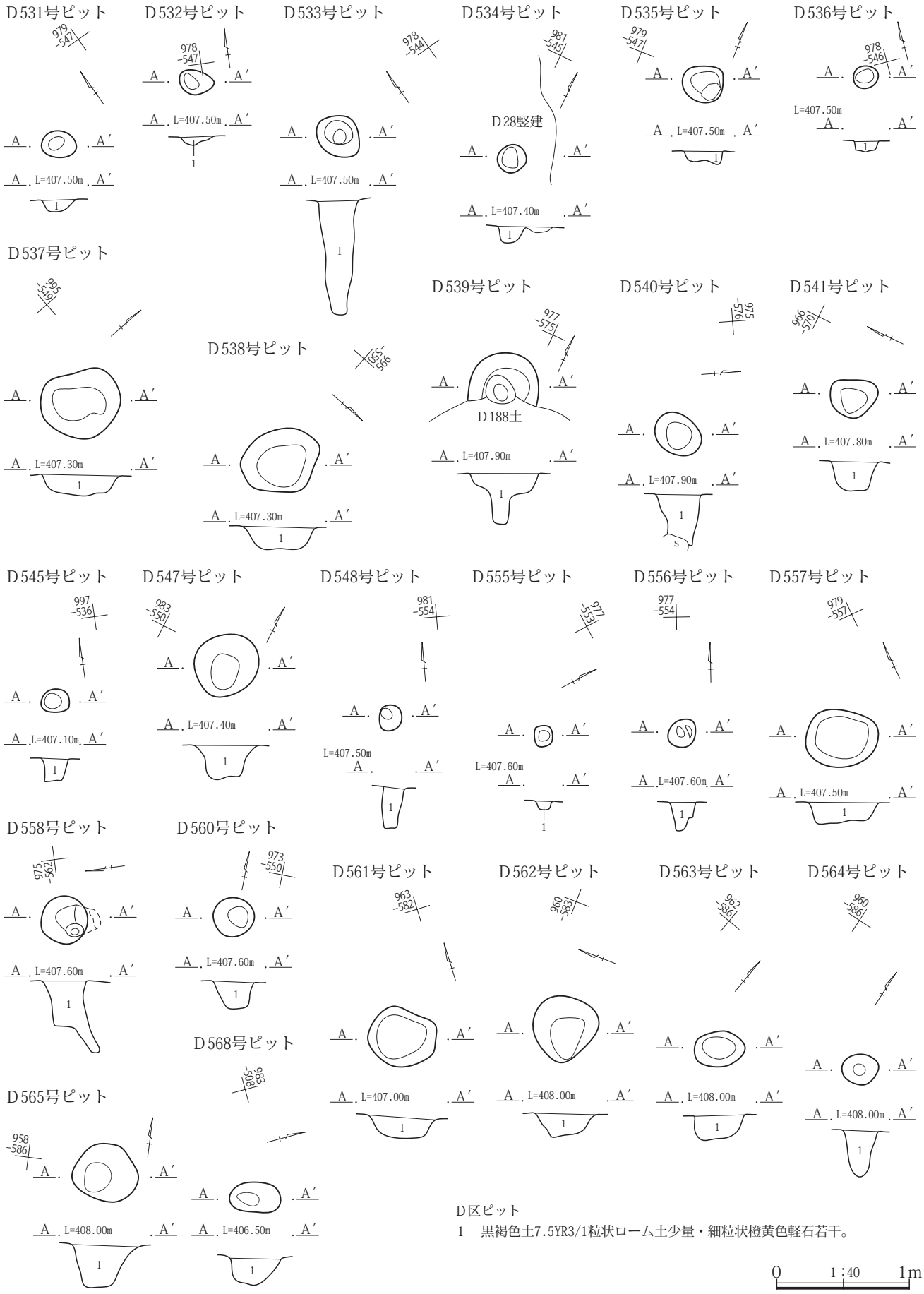
第207図　Ａ・Ｃ区、Ｄ区(１)ピット平面図・土層断面図



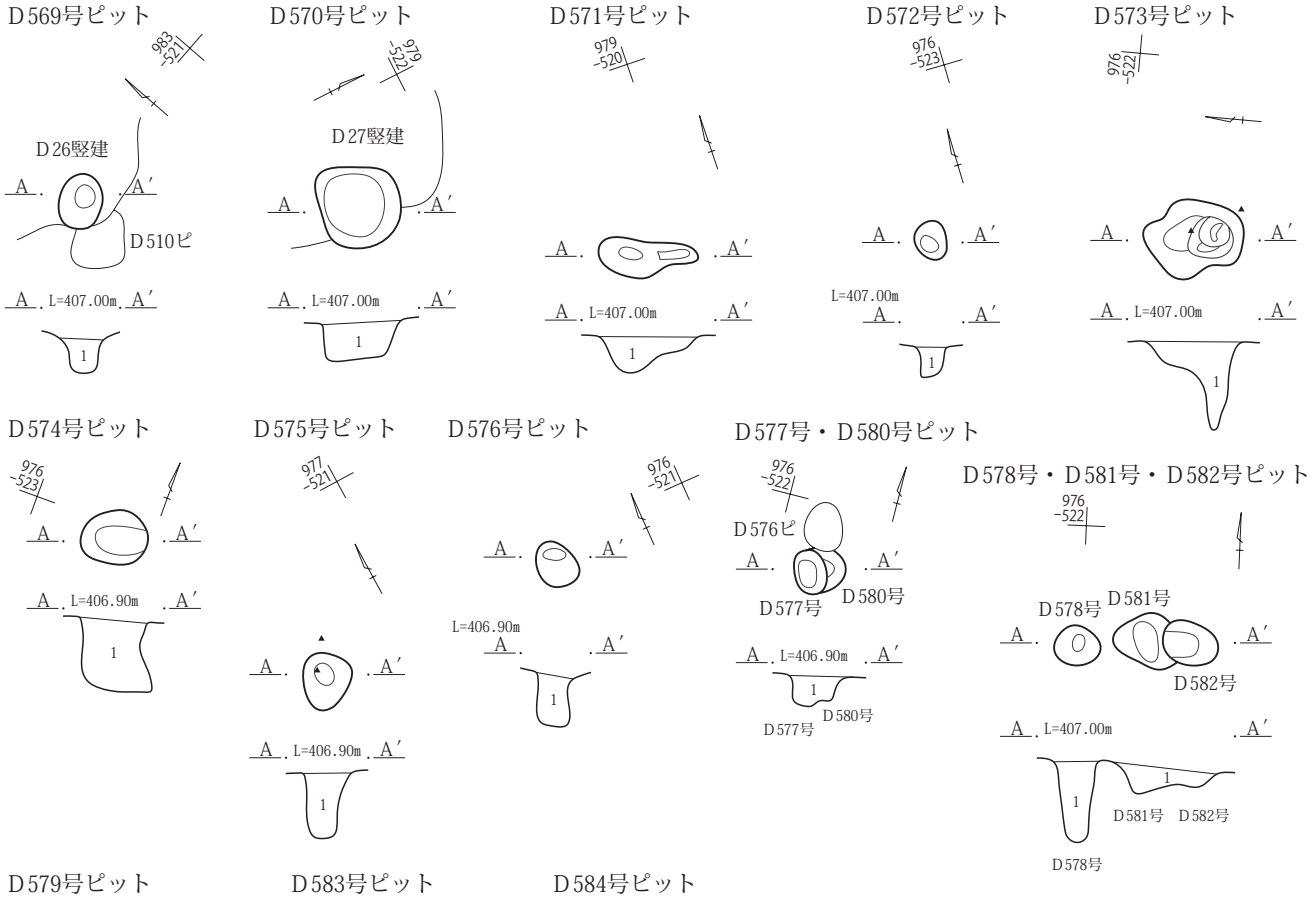
第208図　D区ピット平面図・土層断面図（２）



第209図　D区ピット平面図・土層断面図（３）



第210図　D区ピット平面図・土層断面図（４）



D569～584号ピット
1　黒褐色土7.5YR3/1　粒状ローム土少量・細粒状橙黄色軽石若干。

D587号ピット
1　黒褐色土10YR2/2　ロームブロックφ30㎜以下を５％程度含む。しまり有。粘性有。

D588・589号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ロームブロックφ10cm以下を５％程度含む。しまりとても強く、粘性やや弱。

D590号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ローム粒φ10㎜以下を５％程度含む。しまりとても強く、粘性やや弱。

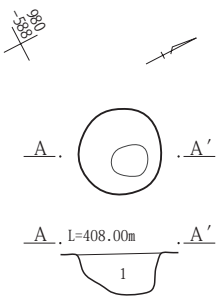
D591号ピット
1　黒褐色土10YR2/2　ローム粒φ５㎜以下を３％程度含む。しまりとても強く、粘性やや弱。

D592号ピット
1　黒褐色土10YR2/2　ローム粒φ５㎜以下を５％程度含む。しまりとても強く、粘性やや弱。

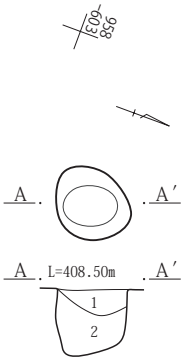
0　1:40　1m

第211図　D区ピット平面図・土層断面図（５）

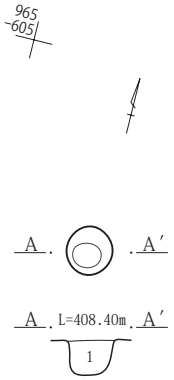
D594号ピット



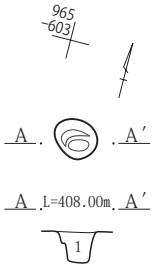
D596号ピット



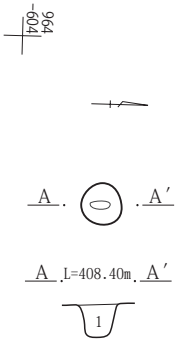
D597号ピット



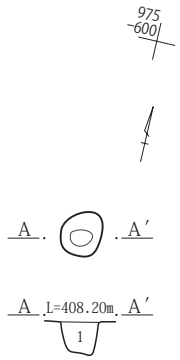
D598号ピット



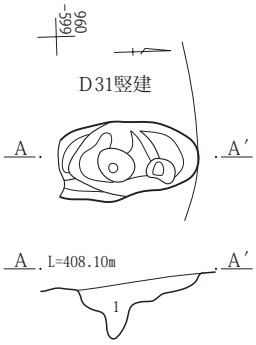
D599号ピット



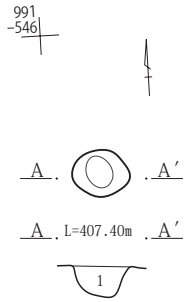
D600号ピット



D601号ピット

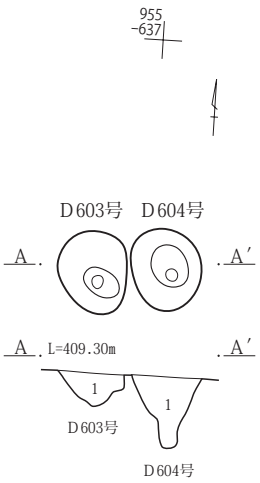


D610号ピット

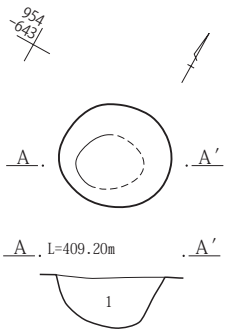


D594号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ローム粒φ５㎜以下を５％程度含む。しまりとても強く、粘性やや弱。
D596号ピット
1　黒褐色土10YR2/2　ローム粒φ３㎜以下を３％程度含む。しまり有。粘性弱。
2　黒色土10YR2/1　ローム粒φ５㎜以下を５％程度含む。しまり有。粘性弱。
D597号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ロームブロックφ20㎜以下を５％程度含む。ローム粒φ３㎜以下を３％程度含む。しまり弱。粘性有。
D598号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ロームブロックφ20㎜以下を３％程度含む。しまり有。粘性とても弱。
D599号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ローム粒φ５㎜以下を５％程度含む。しまり有。粘性とても弱。
D600号ピット
1　黒褐色土10YR2/3　ローム粒φ３㎜以下を３％程度含む。しまり有。粘性弱。
D601号ピット
1　黒褐色土10YR2/2　ローム粒φ５㎜以下を３％程度含む。しまり有。粘性有。
D610号ピット
1　黒褐色土7.5YR3/1　粒状ローム土少量・細粒状橙黄色軽石若干。

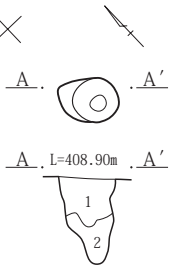
D603号・D604号ピット



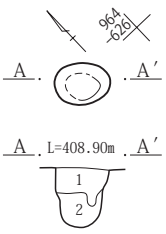
D605号ピット



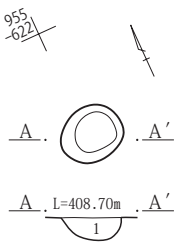
D606号ピット



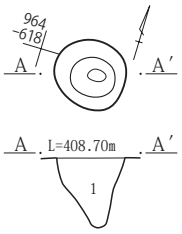
D607号ピット



D608号ピット



D609号ピット



D603～608号ピット
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒φ１㎜以下を５％含む。
2　暗褐色土10YR3/3　ロームブロックφ10～20㎜を３％含む。
D609号ピット
1　黒褐色土10YR3/1　白色粒φ１㎜以下を１％含む。

0　1:40　1m

第212図　D区ピット平面図・土層断面図（６）

Ｄ３号柱穴列(第206図、ＰＬ．133)

位　置　Ｄ区東端中央部にある。北にＤ２号柱穴列、南にＤ１号柱穴列がある。**座標値**　Ｘ＝60999～61008　Ｙ＝-92942～-92952　**遺存状況**　直線状に３つの柱穴が並ぶ。**規　模**　全長(Ｐ１-Ｐ３)316+cm、柱間(Ｐ１-Ｐ２)144cm、(Ｐ２-Ｐ３)168 cm　**長軸方向**　N- 58°-W　**柱　穴**　Ｐ１～Ｐ３は長径22～26cm、短径18～20cm、深さ12～15cmである。

Ｄ４号柱穴列(第206図、ＰＬ．133)

位　置　Ｄ区東部中央部にある。東にＤ３号柱穴列、南にＤ５号柱穴列がある。**座標値**　Ｘ＝60999～61008　Ｙ＝-92942～-92952　**遺存状況**　直線状に３つの柱穴が並ぶ。**規　模**　全長(Ｐ１-Ｐ３)432+cm、柱間(Ｐ１-Ｐ２)164cm、(Ｐ２-Ｐ３)268cm　**長軸方向**　N-58°-W　**柱　穴**　Ｐ１～Ｐ３は長径38～48cm、短径32～44cm、深さ16～48cmである。

Ｄ５号柱穴列(第206図、ＰＬ．133)

位　置　Ｄ区東部中央部にある。北にＤ４号柱穴列がある。**座標値**　Ｘ＝60999～61008　Ｙ＝-92942～-92952　**遺存状況**　Ｌ字状に６つの柱穴が並ぶ　**規　模**　全長(Ｐ１-Ｐ６)408cm　東西長(Ｐ１-Ｐ２)148+cm、南北長(Ｐ３-Ｐ６)260+cm　柱間(Ｐ１-Ｐ２)84cm、(Ｐ２-Ｐ３)64cm 、(Ｐ３-Ｐ４)94cm、(Ｐ４-Ｐ５) 60cm、(Ｐ５-Ｐ６)106cm　**長軸方向**　N-58°-W　**柱　穴**　Ｐ１～Ｐ６は長径12～24cm、短径10～18cm、深さ６～16cmである。**時　期**　以上の柱穴列は遺構確認面から古代～中近世までの可能性がある。

ピット(第207～212図、ＰＬ．134～139)

位　置　Ａ・Ｃ・Ｄ区から確認されている。Ａ３区東部から４基(Ａ１～３・５号)、Ｃ区はＣ１号溝内部から４基(Ｃ303～306号)検出されている。Ｄ区からの検出が多い。Ｄ区では、東側全体125基(Ｄ408～410、412・414・416・418・424・429・432・434・436～438・440・442～444・474～477・480・490～492・494・495・497・498・503～541、545・547・548・555・556～558・560～565・568～585・587～592・594・596～601・603～610号)が検出された。**形　状・規　模**　Ａ区出土ピットは、長径43～50cm、短径35～43cm、深さ16～21cmである。Ｃ区出土ピットは、長径12～20cm、短径８～20cm、深さ５～11cmである。Ｄ区ピットは、、径が30cm前後ものが多く、深さは10～20cmに入るものが多い。平面形は、円形・楕円形である。**遺　物**　Ａ１ピットの底面やや上から、瀬戸・美濃陶器志野丸皿(１)が出土した。**時　期**　志野丸皿は17世紀中葉に比定される。Ｄ区ピットはＡs-Ｋkを多く含むものが多いことなどから中世以降と判断した。

焼土

Ｃ１号焼土(第213図、ＰＬ．134)

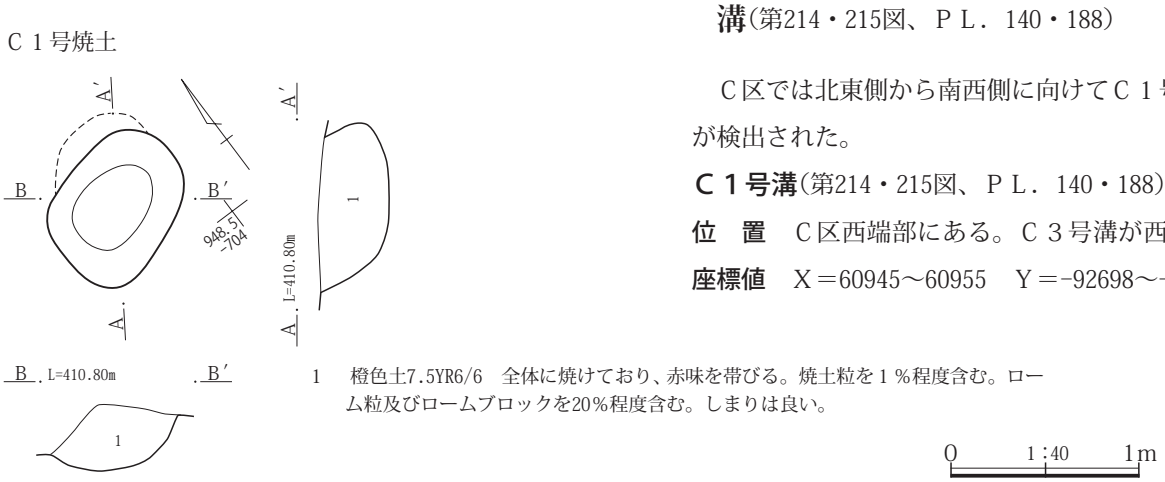
位　置　Ｃ区西端部Ｃ１号溝の立ち上がり部にある。**座標値**　Ｘ＝60948・60949　Ｙ＝-92704　**遺存状況**　Ｃ１号溝により一部壊されている。**形　状**　不定楕円形　**規　模**　長軸 90cm、短軸 68cm、深さ36cm　**焼土の状況**　焼土が覆土に全体的に入る。**時　期**　Ｃ１号溝より古く、遺構確認面から中近世の時期と判断した。

溝(第214・215図、ＰＬ．140・188)

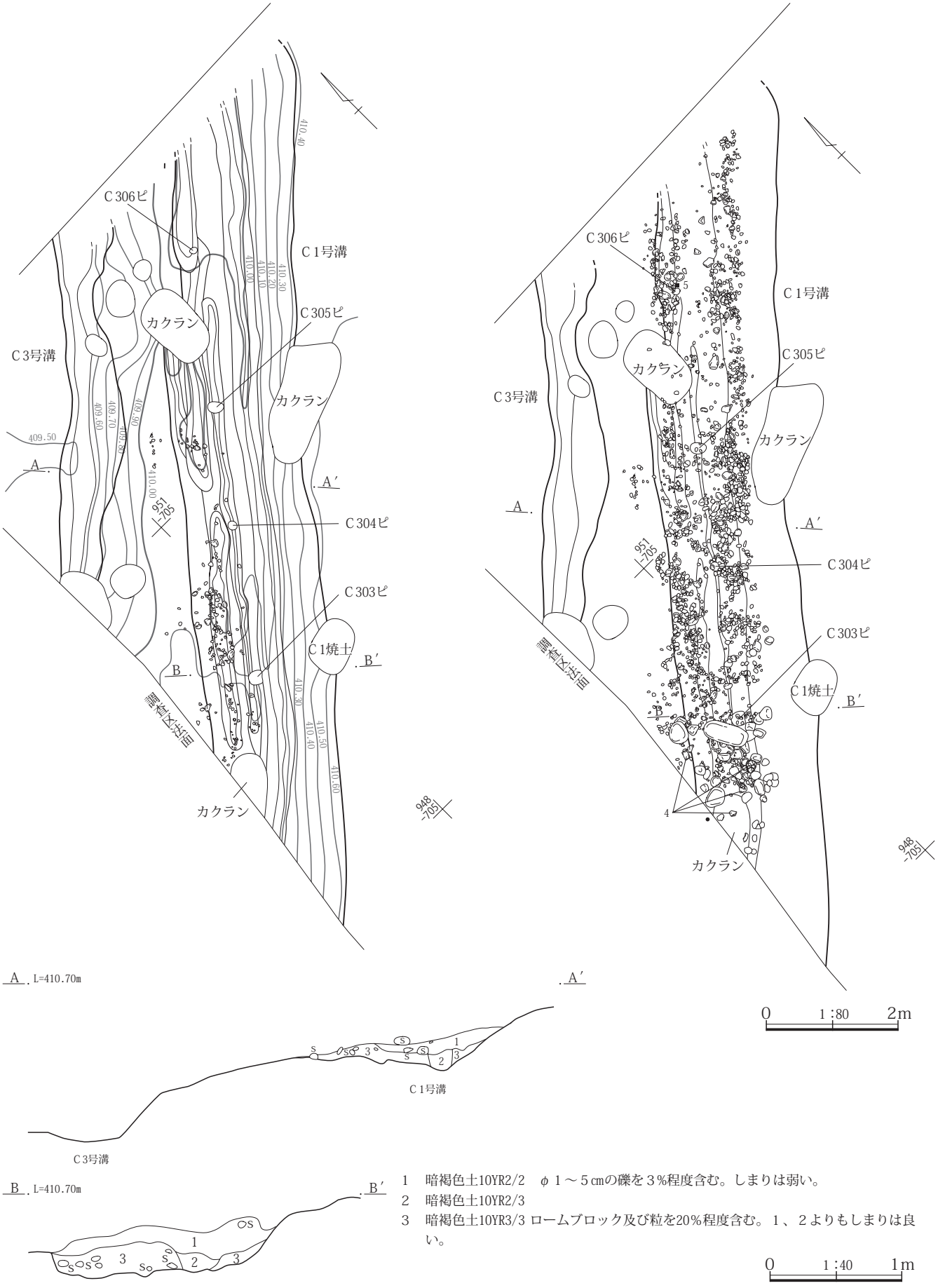
Ｃ区では北東側から南西側に向けてＣ１号、Ｃ３号溝が検出された。

Ｃ１号溝(第214・215図、ＰＬ．140・188)

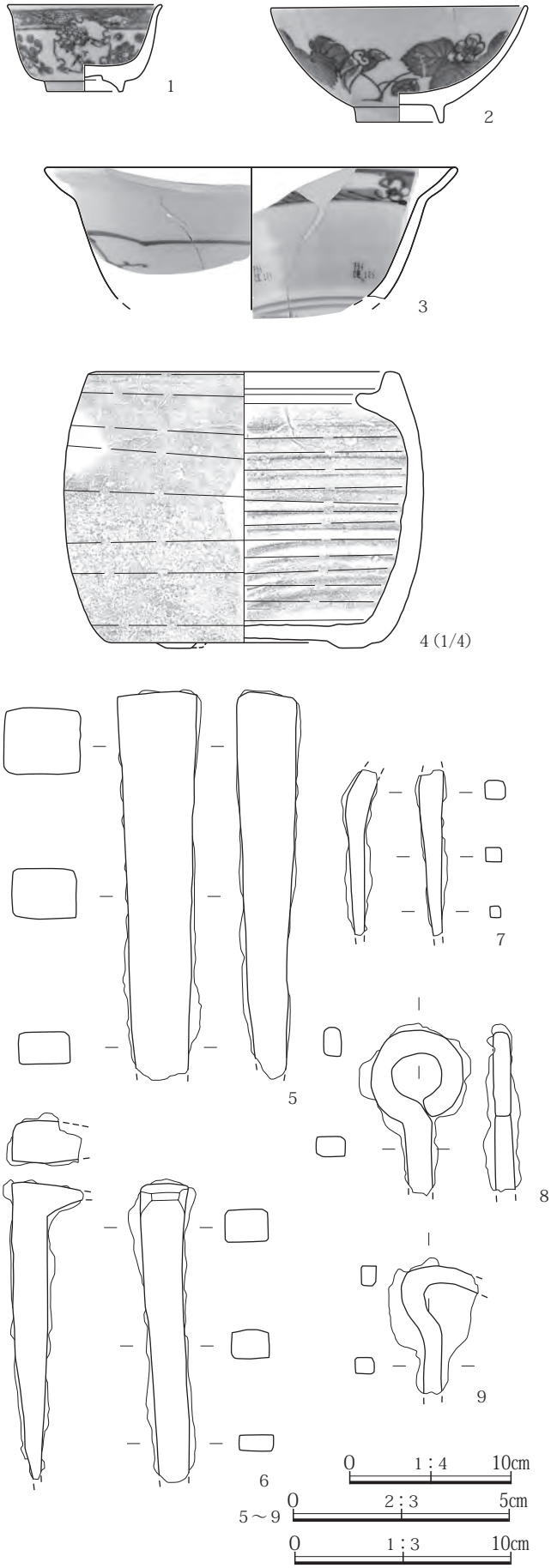
位　置　Ｃ区西端部にある。Ｃ３号溝が西に並走する。**座標値**　Ｘ＝60945～60955　Ｙ＝-92698～-92707　**遺存**



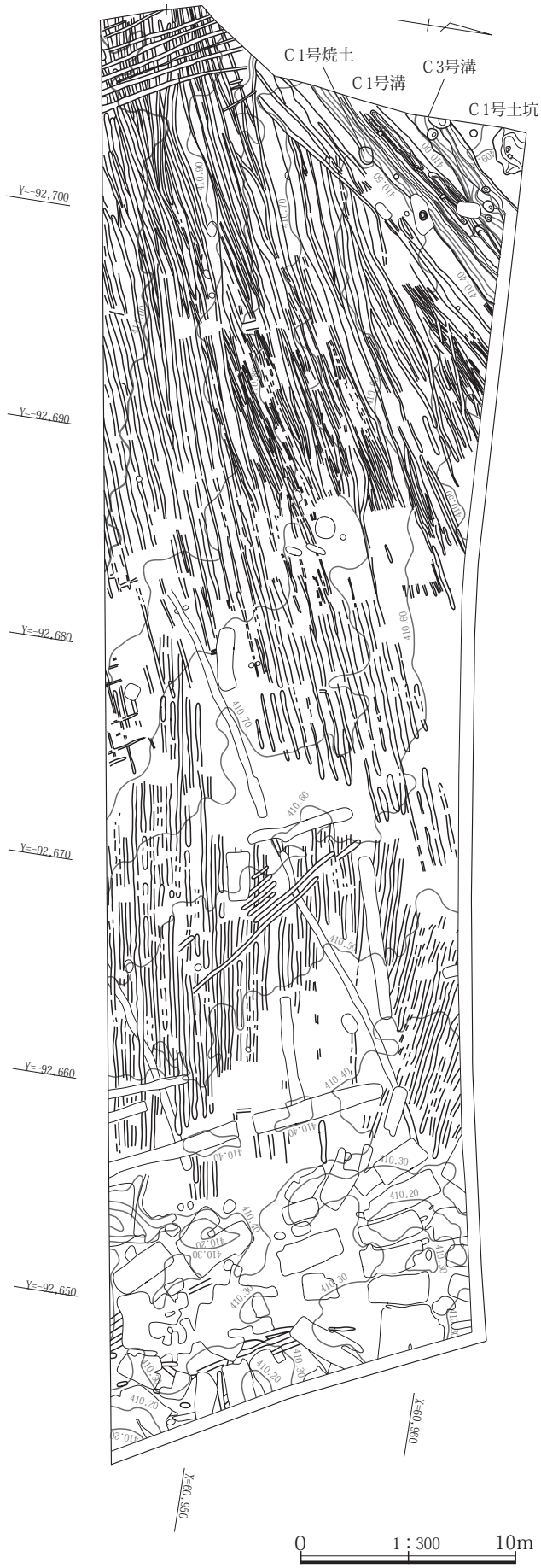
第213図　Ｃ１号焼土平面図・土層断面図



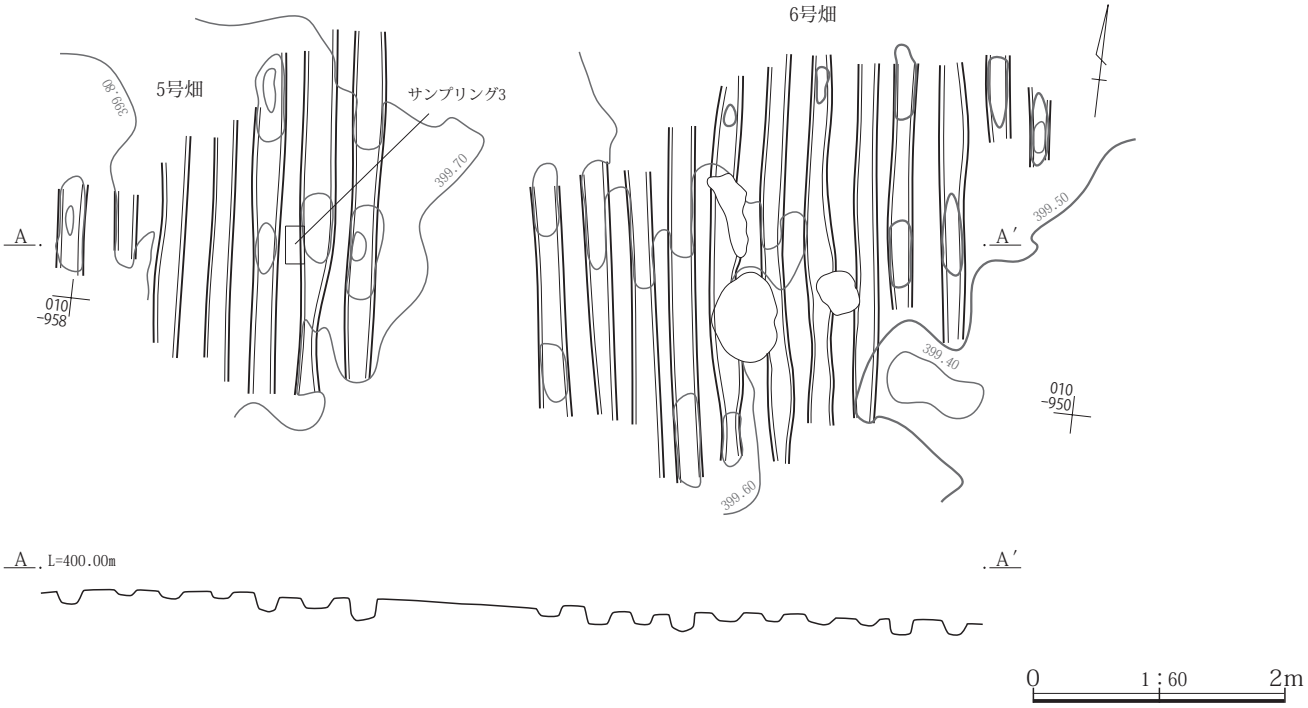
第214図　Ｃ１・３号溝　平面・遺物出土状況図・土層断面図



第215図　Ｃ１号溝出土遺物図



第216図　Ｃ１号畑平面図



第217図　Ａ５・６号畑平面図・断面図

状況・重複　溝南北が調査区外となる。**規　模**　長さ13.20+m、幅 0.6m、最大深さ0.61㎝　**走流方向**　N-41°-E　**遺　物**　瀬戸・美濃陶器染付小碗（１）、磁器平碗（２）、肥前磁器青磁染付鉢（３）、在地系土器火消壺（４）、鉄製品として、鑿（５）、大型釘（６）、小型釘（７）、引手状製品（８・９）が出土した。**時　期**　肥前磁器青磁染付鉢は18世紀のもので、それ以外は近現代に入る。18世紀以降～近現代とする。

Ｃ３号溝（第214図、ＰＬ．140）

位　置　Ｃ区西端部にある。Ｃ１号溝が東に並走する。**座標値**　Ｘ＝60952～60956　Ｙ＝-92702～-92706　**遺存状況・重複**　溝南北が調査区外となる。**規　模**　長さ5.50+m、幅 0.9m、最大深さ0.25㎝　**走流方向**　N-46°-E　**時　期**　遺物の出土が無いため難しいが、Ｃ１号溝と並走していることなどから、Ｃ１号溝とほぼ同時の18世紀以降～近現代と推定する。

畠（畑）（第216・217図、ＰＬ．141）

畠（畑）は、Ｃ区全面と、Ａ１区で検出された。

天明泥流下から検出された畑は周辺の畑関連施設とともに後述する。

Ｃ区畠（第216図、ＰＬ．141）

Ｃ区には、ほぼ全面にわたり、サクの痕跡が線状に残っている１号畠がある。ほとんど窪みはないが、幅20～30㎝ほどのサクの痕跡と想定できるラインが、**主軸方向**　N-64°-E～N-82°-Eで、遺存している。

Ａ区畠（第217～222図、ＰＬ．141～143）

Ａ区には、５・６号の畠が２枚検出された同一の畠の可能性もある。

Ａ５号畠（第217図、ＰＬ．141）

位　置　Ａ１区西南部にある。西に１mにＡ６号畠がある。上層に天明泥流下のＡ１号畠がある。**座標値**　Ｘ＝61009～61012　Ｙ＝-92955～-92958　**遺存状況**　上部は削平されるも、畝・さくの一部が残存している。**形　状**　短冊形の畠である。20～24㎝の畝幅で、畝長は2.85+mである。畝条数は３+本である。**主軸方向**　N-４°-Wの方向で耕されている。**面　積**　4.784+㎡　**時　期**　As-Kkより上面から検出され、中世以降と推定する。

Ａ６号畠（第217図、ＰＬ．141）

位　置　Ａ１区西南部にある。東に１mにＡ５号畠がある。上層に天明泥流下のＡ１号畑がある。**座標値**　Ｘ＝61009～61012　Ｙ＝-92950～-92954　**遺存状況**　上部は削平されるも、畝・さくの一部が残存している。**形　状**　短冊形の畠である。20～23㎝の畝幅で、畝長は3.35+m、である。畝条数は６+本である。**主軸方向**　N-７°-Wの方向で耕されている。**面　積**　9.064+㎡　**時　期**　As-Kkより上面から検出され、中世以降と推定する。

天明泥流直下の遺構群

（第218～222図、ＰＬ．142・143）

天明の大噴火に伴う泥流により埋まった、畑・道・石垣・ヤックラなどで構成された一群の遺構がＡ１・２区で検出された。泥流が起こった1783年８月の直前の時期である。

畑（第218～222図、ＰＬ．142・143）

畑はＡ区西端部のＡ１・２区から検出された。畝冊の走向方向や耕作の有無などにより畑は６枚に区分される。

Ａ１号畑（第218・219図、ＰＬ．142・143）

位　置　Ａ１区西部にある。北側は段丘崖により急激に落ち込んでいる。Ａ１号道を挟んで東側南部にＡ２号畑、Ａ１号石垣をはさんで東部北側にＡ３・４号畑がある。**座標値**　Ｘ＝61003～61023　Ｙ＝-92935～-92965　**遺存状況**　浅間天明泥流により30～40㎝覆われて遺存状況は良好である。西・南側は調査区外で不明である。**形 状**　短冊形の畠である。畝長西端部の狭小地点では、2.1～6.0m、Ａ１号ヤックラとＡ１号道により区画された幅広の南側地点で、12.10～12.75mを有する。畝幅は16～21㎝である。深さは４～６㎝である。畝条数は49+本である。**主軸方向**　N-50°-Wの方向で耕されている。**面　積**　278.8+㎡

Ａ２号畑（第218・220図、ＰＬ．142・143）

位　置　Ａ１区西部にある。Ａ１号道を挟んで西側にＡ１号畑、Ａ１号道、Ａ１号石垣をはさんで北側にＡ３号畑がある。**座標値**　Ｘ＝60999～61008Ｙ＝-92942～-92952　**遺存状況**　浅間天明泥流により30～40㎝覆われて遺存状況は良好である。東側はカクランで、南側は調査区外で不明である。**形　状**　短冊形の畠である。いずれも北側の狭小部を除いた、東南側がカクランで壊されていて畝長は不明のものが多い。北側狭小部で、畝長1.65～3.6mである。東南側の現状長は、5.1+～9.2+mである。畝幅は30～45㎝とＡ１号畑より幅広い。深さは深さは４～６㎝である。**主軸方向**　N-58°-Wの方向で耕されている。**面　積**　50.07+㎡

Ａ３号畑（第218・220図、ＰＬ．142・143）

位　置　Ａ１区西部にある。Ａ１号石垣をはさんで西にＡ１号畑、境界をはさん北にＡ２号畑、Ａ１号石垣とＡ１号道をはさんで南にＡ２号畑がある。東側はＡ２号ヤックラである。**座標値**　Ｘ＝61004～61011　Ｙ＝-92939～-92945　**遺存状況**　浅間天明泥流により30～40㎝覆われて遺存状況は良好である。**形　状**　畑の耕作痕跡が認められ無い。休耕地と推定する。Ａ１号畑と石垣により、区分けされるが、Ａ１号畑に比して40㎝ほど下段の耕作面となる。また、南のＡ１号道とも石垣による区分けされるが、30～40㎝Ａ３号畑の耕作面が低くなる。地形が北方向に向けて下がってきており、地形の変化に応じて、石垣を築いて、高低差を活かした耕作地の確保をしている。**主軸方向**　N-47°-Wの方向で耕されている。**面　積**　15.034㎡

Ａ４号畑（第218・220図、ＰＬ．142・143）

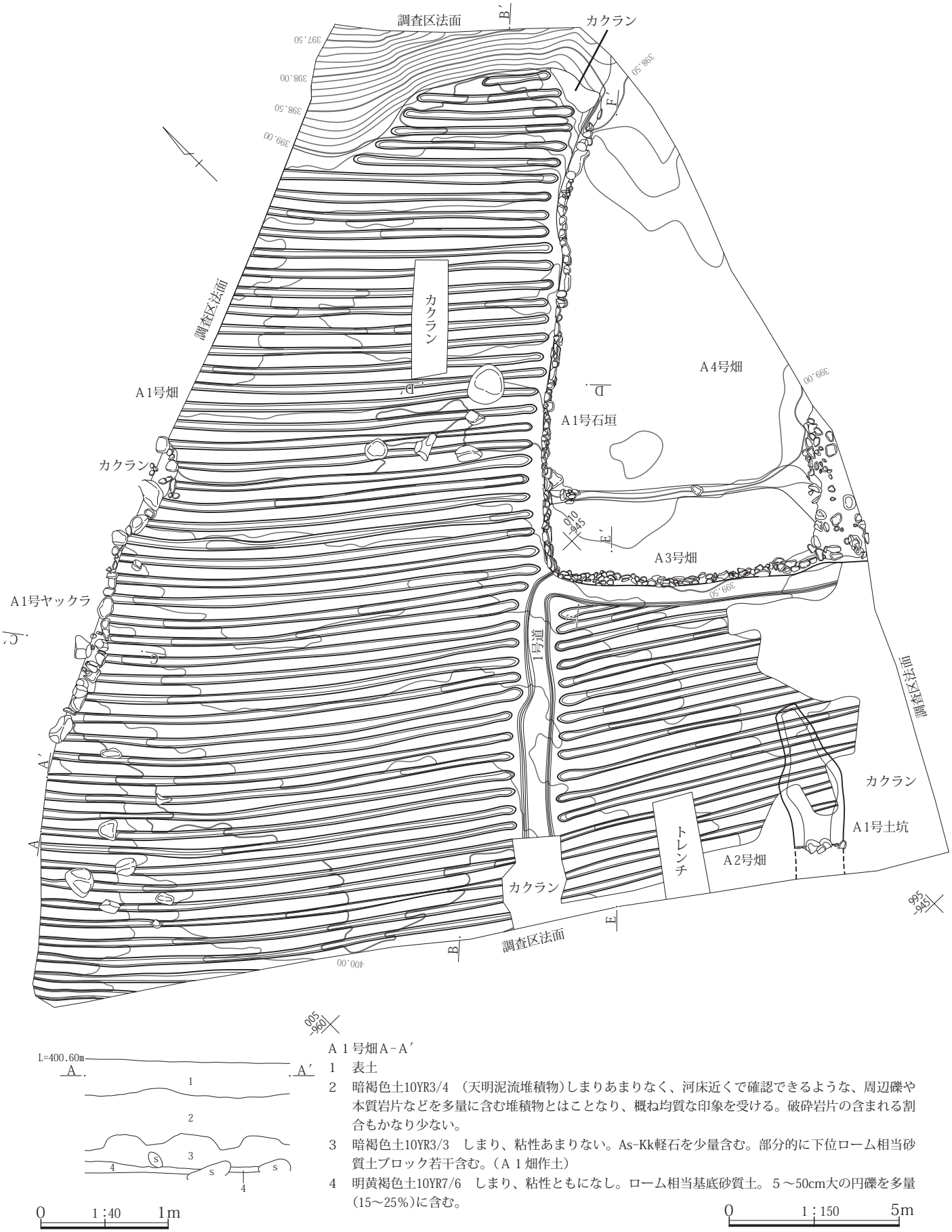
位　置　Ａ１区西部にある。南に境界をはさんでＡ３号畑、西にＡ１号石垣をはさんで、Ａ１号畑がある。**座標値**　Ｘ＝61007～61018　Ｙ＝-92934～-92945　**遺存状況**　浅間天明泥流により30～40㎝覆われて遺存状況は良好である。北から北東部は調査区外で不明である。**形　状**　畑の耕作痕跡が認められ無い。休耕地と推定する。Ａ１号畑と石垣により、区分けされるが、Ａ１号畑に比して40㎝ほど下段の耕作面となる。Ａ３号畑同様、高低差を活かした耕作地確保である。**主軸方向**　N-45°-Wの方向で耕されている。**面　積**　54.467+㎡

Ａ７号畑（第221・222図、ＰＬ．143）

位　置　Ａ２区中央部にある。南にＡ２号ヤックラがある。**座標値**　Ｘ＝61001～61012　Ｙ＝-92430～-92434　**遺存状況**　浅間天明泥流により30～40㎝覆われている。北側は復旧坑により掘削され、中央部はＡ２号土坑により掘削されている。**形　状**　短冊形の畠である。残存部からの畝長では、1.1+～6.1+mである。畝幅は12～30㎝である。深さは４～６㎝である。畝条数は24+本である。**主軸方向**　N-76°-Ｅの方向で耕されている。**面　積**　14.43+㎡

Ａ８号畑（第221・222図、ＰＬ．143）

位　置　Ａ２区北端部にある。南４ｍにＡ８号畑がある。西南部７ｍにＡ４号畑がある。**座標値**　Ｘ＝61054～61020　Ｙ＝-92924～-92929　**遺存状況**　浅間天明泥流により30～40㎝覆われている。東側は復旧坑により掘削されている。西南部は、残りが悪く畑は確認できない。



A１号畑A-A′

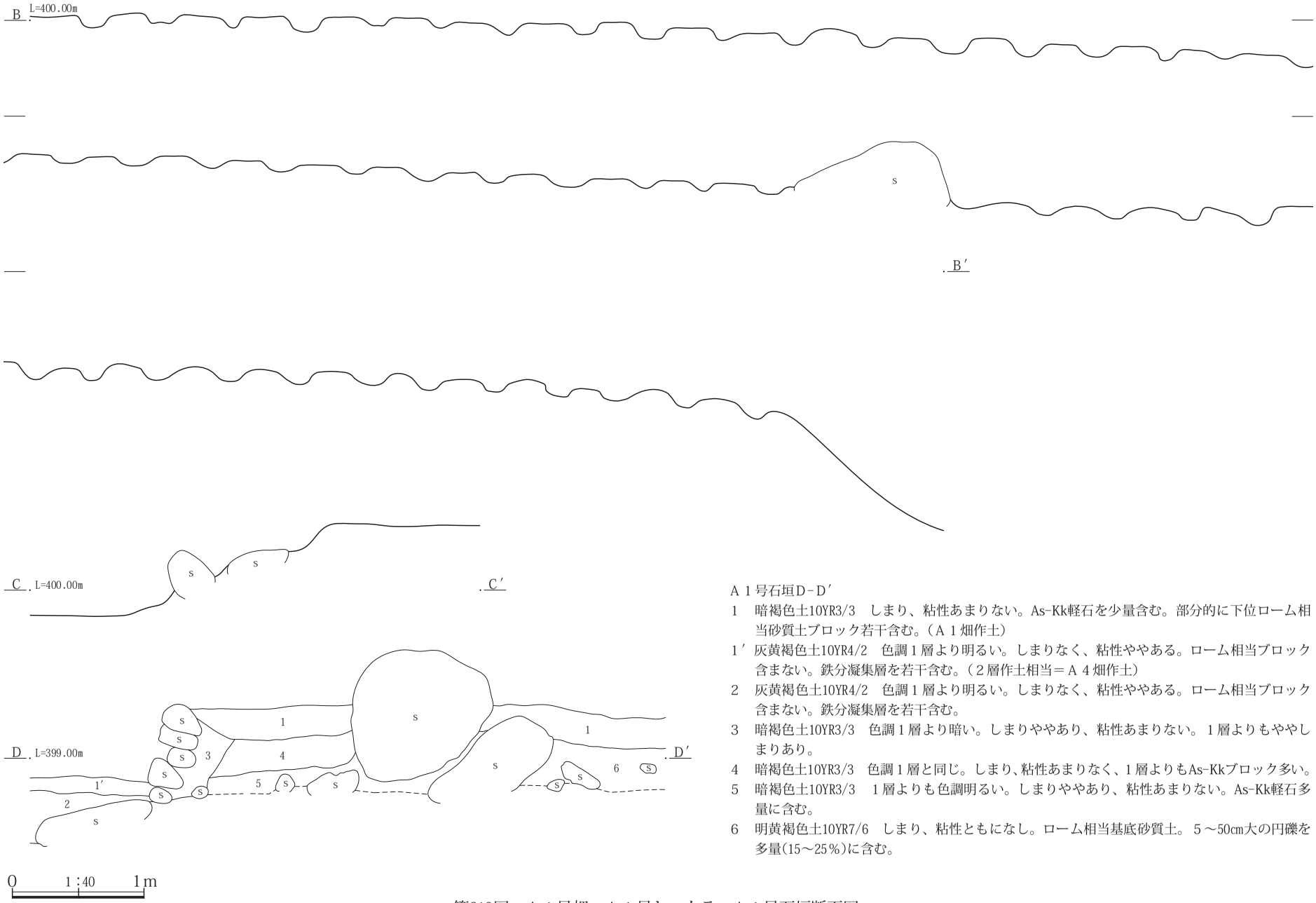
1　表土

2　暗褐色土10YR3/4　(天明泥流堆積物)しまりあまりなく、河床近くで確認できるような、周辺礫や本質岩片などを多量に含む堆積物とはことなり、概ね均質な印象を受ける。破砕岩片の含まれる割合もかなり少ない。

3　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性あまりない。As-Kk軽石を少量含む。部分的に下位ローム相当砂質土ブロック若干含む。(Ａ１畑作土)

4　明黄褐色土10YR7/6　しまり、粘性ともになし。ローム相当基底砂質土。５～50cm大の円礫を多量(15～25%)に含む。

第218図　"Ａ１～４号畑、Ａ１号道、Ａ１号石垣、Ａ１号ヤックラ平面図、Ａ１号畑土層断面図"



Ａ１号石垣Ｄ－Ｄ′

1　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性あまりない。As-Kk軽石を少量含む。部分的に下位ローム相当砂質土ブロック若干含む。（Ａ１畑作土）

1′灰黄褐色土10YR4/2　色調１層より明るい。しまりなく、粘性ややある。ローム相当ブロック含まない。鉄分凝集層を若干含む。（２層作土相当＝Ａ４畑作土）

2　灰黄褐色土10YR4/2　色調１層より明るい。しまりなく、粘性ややある。ローム相当ブロック含まない。鉄分凝集層を若干含む。

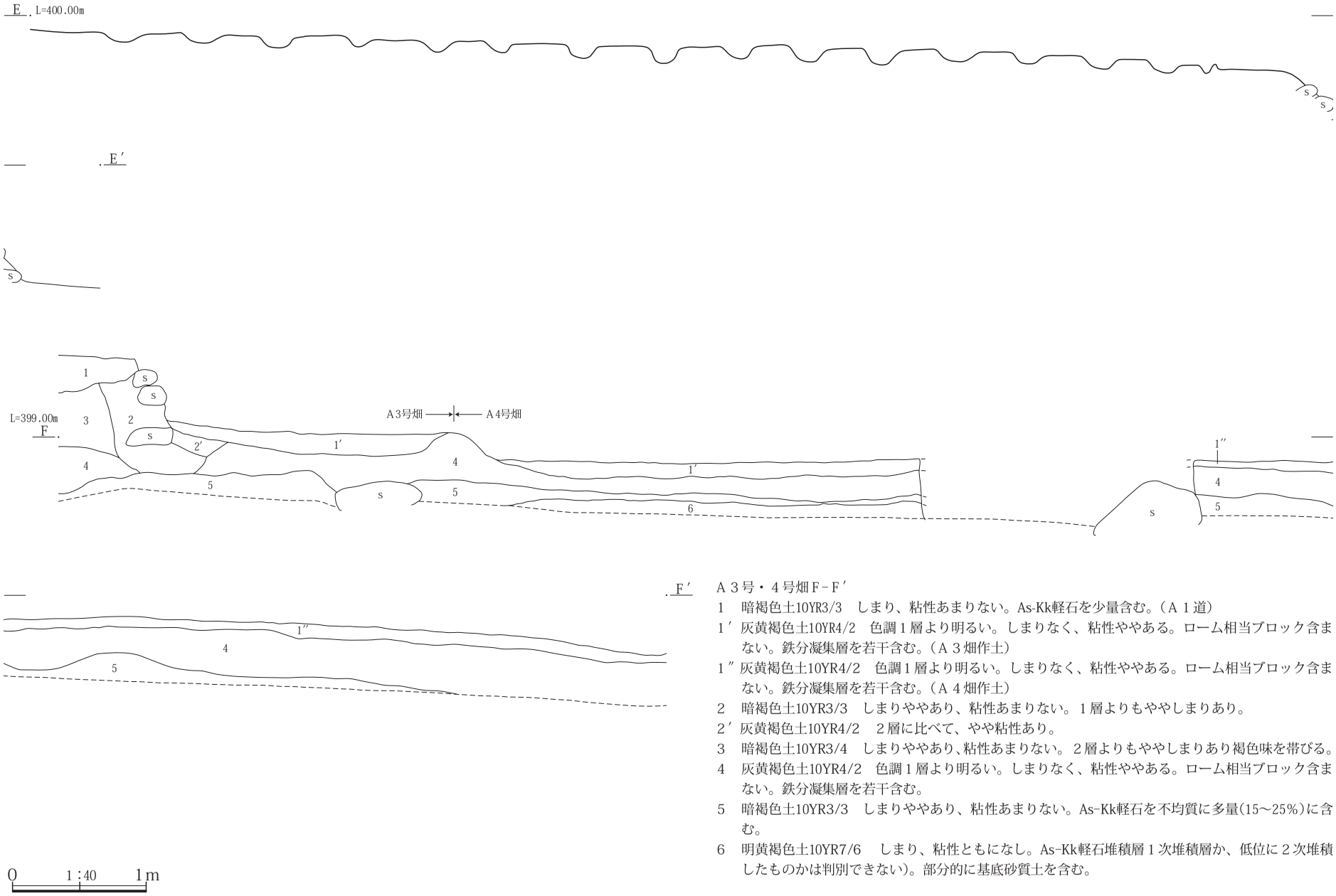
3　暗褐色土10YR3/3　色調１層より暗い。しまりややあり、粘性あまりない。１層よりもややしまりあり。

4　暗褐色土10YR3/3　色調１層と同じ。しまり、粘性あまりなく、１層よりもAs-Kkブロック多い。

5　暗褐色土10YR3/3　１層よりも色調明るい。しまりややあり、粘性あまりない。As-Kk軽石多量に含む。

6　明黄褐色土10YR7/6　しまり、粘性ともになし。ローム相当基底砂質土。５～50㎝大の円礫を多量(15～25％)に含む。

第219図　Ａ１号畑、Ａ１号ヤックラ、Ａ１号石垣断面図



Ａ３号・４号畑Ｆ－Ｆ′

1　暗褐色土10YR3/3　しまり、粘性あまりない。As-Kk軽石を少量含む。（Ａ１道）

1′灰黄褐色土10YR4/2　色調１層より明るい。しまりなく、粘性ややある。ローム相当ブロック含まない。鉄分凝集層を若干含む。（Ａ３畑作土）

1″灰黄褐色土10YR4/2　色調１層より明るい。しまりなく、粘性ややある。ローム相当ブロック含まない。鉄分凝集層を若干含む。（Ａ４畑作土）

2　暗褐色土10YR3/3　しまりややあり、粘性あまりない。１層よりもややしまりあり。

2′灰黄褐色土10YR4/2　２層に比べて、やや粘性あり。

3　暗褐色土10YR3/4　しまりややあり、粘性あまりない。２層よりもややしまりあり褐色味を帯びる。

4　灰黄褐色土10YR4/2　色調１層より明るい。しまりなく、粘性ややある。ローム相当ブロック含まない。鉄分凝集層を若干含む。

5　暗褐色土10YR3/3　しまりややあり、粘性あまりない。As-Kk軽石を不均質に多量(15～25％)に含む。

6　明黄褐色土10YR7/6　しまり、粘性ともになし。As-Kk軽石堆積層１次堆積層か、低位に２次堆積したものかは判別できない)。部分的に基底砂質土を含む。

第220図　Ａ２号畑、Ａ３・４号畑・１号石垣断面図

形　状　短冊形の畠である。残存部からの畝長では、1.9+～6.2+mである。畝幅は13～26cmである。深さは４～６cmである。畝条数は９+本である。**主軸方向**　N-35°-Wの方向で耕されている。**面　積**　14.7+㎡

Ａ１号道(第218図、ＰＬ．143)

位　置　Ａ１区西部南側にある。Ａ１号畑とＡ２号畑の間を北上して、Ａ１号石垣の所で90度東に屈曲して、そのまま東に向かって道が延びる。**座標値**　Ｘ＝61003～61009　Ｙ＝-92940～-92952　**遺存状況**　南側は調査区外で不明である。東へ屈曲した後に、東のＡ２区にはいると残りが悪くＡ１号道の続きは確認できない。**形　状**　道幅47～75cmで、Ａ１号石垣の箇所で、直角に東に曲がる。道の総延長は、16.18+mである。道路面は硬化している。**主軸方向**　S-47°-W～N-45°-Wの走向方向である。

Ａ１号石垣(第218図、ＰＬ．144)

位　置　Ａ１区西部北側にある。Ａ１号畑とＡ３・４号畑の境界及び、Ａ２号畑とＡ３号畑の境界のための施設である。間を北上して、Ａ１号石垣の所で90度東に屈曲して、そのまま東に向かって道が延びる。**座標値**　Ｘ＝61003～61009　Ｙ＝-92940～-92952　**遺存状況**　南側は調査区外で不明である。東へ屈曲した後に、東のＡ２区にはいると残りが悪くＡ１号道の続きは確認できない。**形　状**　地形が北方向に標高が下がるので、耕作地を維持するために、高さ23～67cmの石垣を築いて、Ａ１号、Ａ２号畑に対して、高さが平均で40cmほど低い耕作面を有するＡ３・４号畑を確保するための石垣である。石は地山の石をそのまま利用している。石垣の総延長は22+mで、南北方向の石垣の長さは14.0+m、東西方向の石垣の長さは8.0+mである。**主軸方向**　南北方向は、S-50°-E、東西方向は N-50°-Wである。

ヤックラ(第218・221図、ＰＬ．145)

ヤックラは３ヶ所にある。Ａ１号畑中央西側にあるＡ１号ヤックラ(Ｘ＝61016～61020　Ｙ＝-92951～-92959)、Ａ７号畑南部にあるＡ２号ヤックラ(Ｘ＝61001～61007　Ｙ＝-92933～-92940)、Ａ７号畑南西部にあるＡ３号ヤックラ(Ｘ＝60997～61000　Ｙ＝-92929～-92932)である。それぞれ耕作に伴い出てきた地山の石を積み上げているものである。規模は、Ａ１号が長9.52+m、幅1.28+m、Ａ２号が長6.0m、幅4.10m、Ａ３号が長2.40m、幅2.10mである。

以上、畑・石垣・道・ヤックラで構成された畑地が天明泥流下から現れ、当時の畑地の様相を知ることができた。

泥流後の復旧にともなう遺構群

(第221～223図、ＰＬ．146・189)

泥流後、いくつかの復旧にともなう復旧坑や土坑などの遺構が検出された。

復旧坑(第221・222図、ＰＬ．146)

位　置　Ａ２区中央部にある。**座標値**　Ｘ＝60999～61019　Ｙ＝-92935～-92945　**遺存状況**　北部及び東部が調査対象外である。**形　状**　隅円長方形、調査区内では18基の復旧坑を検出した。**規　模**　長軸 1.1～11.90m、短軸 0.75～1.50m、深さ20～42cm　**長軸方向**　N-52～66°-E　**性　格**　天明泥流に覆われた層を掘り抜き、泥流に伴い流されてきた砂礫を坑内に埋めたものである。**時　期**　天明泥流下の畑を壊して検出されたので、天明泥流の年代より新しいと推定する。

Ａ２号土坑(第223図、ＰＬ．146・184)

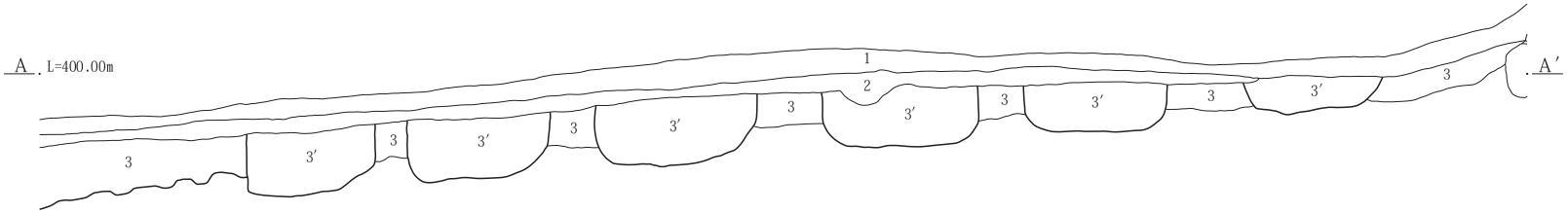
位　置　Ａ３区中央部西側にある。**座標値**　Ｘ＝61005～61011　Ｙ＝-92932～-92933　**遺存状況**　西北部が調査対象外である。天明泥流下畑を壊している。**形　状**　不整長楕円形　**規　模**　長軸540+cm、短軸160+cm、深さ52cm　**長軸方向**　N-0°　**性　格**　天明泥流に伴う礫が多く覆土に含まれており、泥流で流された礫を穴を掘って埋めたものと想定する。**遺　物**　柄部は細板状で、下部に平たい面を有する鉄器(１)が出土した。**時　期**　天明泥流下の畑を壊して検出されたので、天明泥流の年代より新しいと推定する。

遺構外出土遺物(第224・225図、ＰＬ．189)

Ａ～Ｄ区まで遺構外からも中近世遺物が出土している。

Ａ区(第224図、ＰＬ．189)　龍泉窯系の青磁碗(１・２)、肥前陶器呉器手碗(３)、肥前磁器染付碗(４)、肥前磁器呉器手碗(５)、瀬戸・美濃陶器尾呂碗(６)、在地系土器片口鉢(７)、在地系土器天神人形(９)、在地系土器箱庭道具植物(８)、寛永通寶(10)が出土した。

第221図　Ａ７・８号畑・復旧坑・Ａ２・３号ヤックラ・Ａ２号土坑平面図



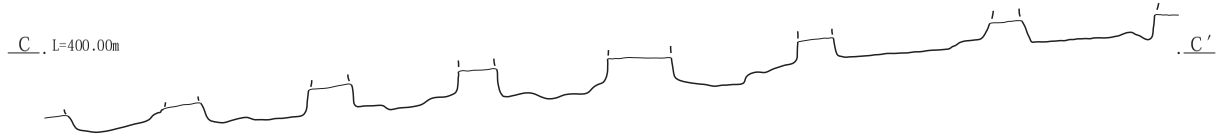
復旧坑

1　黒褐色土10YR3/2　しまりあまりなく、粘性なし。（破砕岩片や異質岩片をあまり含まない天明泥流堆積物と掘り上げた耕作土を含み、３層に比べ、黒色味が強い。表土）

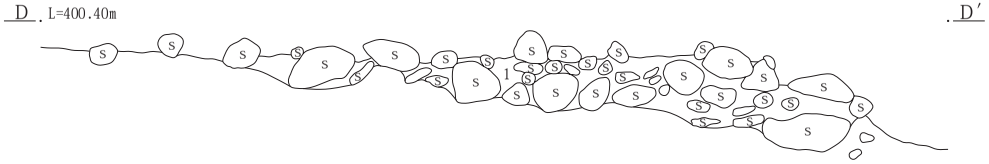
2　黒褐色土10YR3/2　色調１層と同じ。しまりややあり。（破砕岩片や異質岩片をあまり含まない天明泥流堆積物と掘り上げた耕作土を含み、３層に比べ、黒色味が強い。現耕作土。）

3　暗褐色土10YR3/3　色調１層より暗い。しまりやや弱い。（破砕岩片や異質岩片をあまり含まない天明泥流堆積物）

3′暗褐色土10YR3/3　色調１層より暗い。しまりやや弱い。（破砕岩片や異質岩片をあまり含まない天明泥流堆積物を主体に、極一部、黒褐色土ブロックを含む。掘り返された天明泥流堆積物を再充填したものと考えられる。）

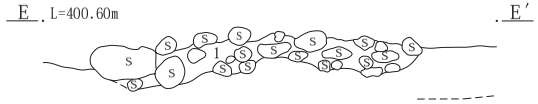


0　1:80　2m



Ａ２号ヤックラＤ-Ｄ′

1　黒褐色土10YR3/2　φ10～20cm大の円礫を中心に最大45cm程度の礫を大量（30～50％）に含む。



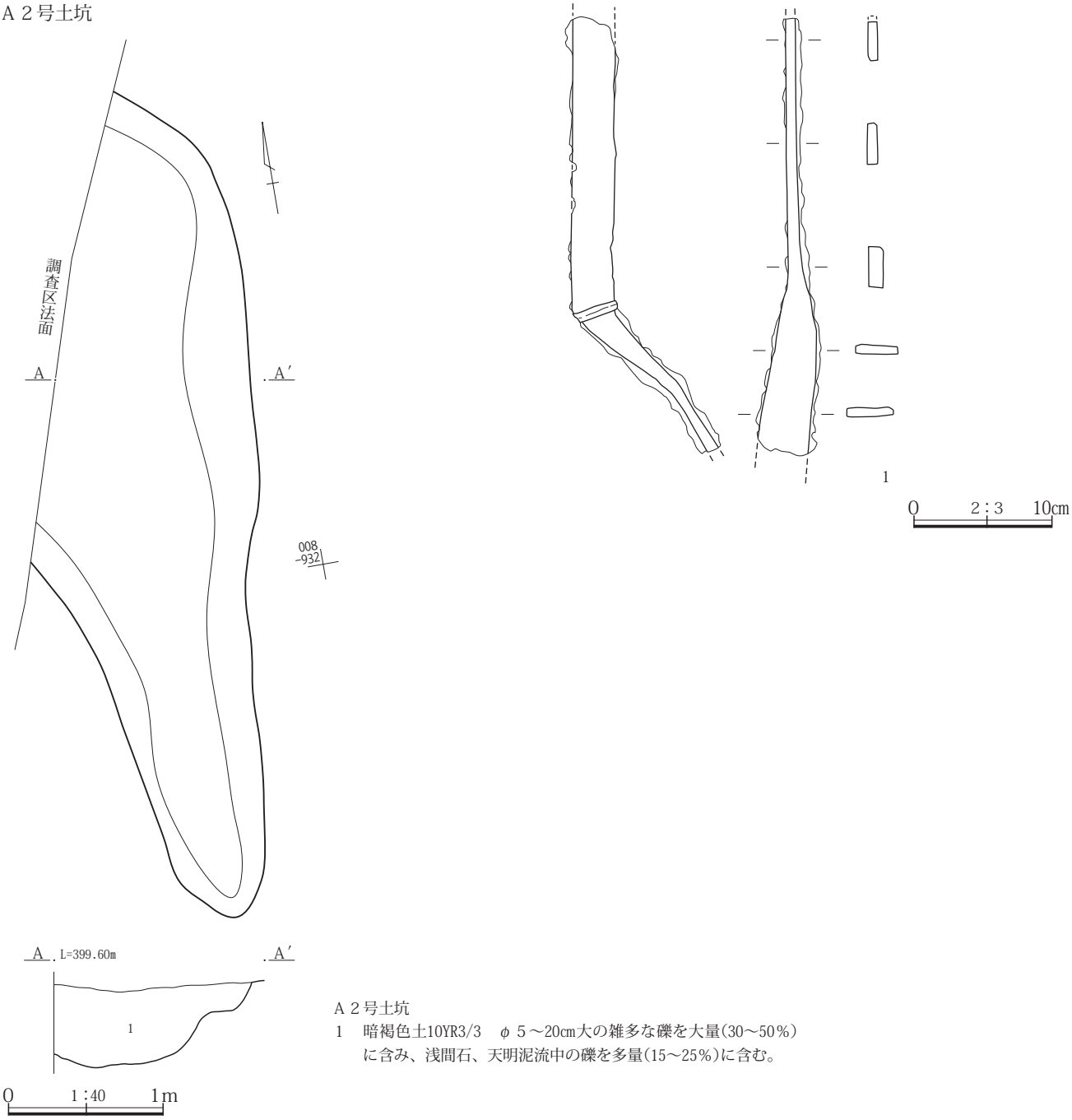
Ａ３号ヤックラＥ-Ｅ′

1　黒褐色土10YR3/2　φ10～20cm大の円礫を中心に最大45cm程度の礫を大量（30～50％）に含む。

0　1:40　1m

第222図　復旧坑、Ａ２・３号ヤックラ断面図

Ａ２号土坑



Ａ２号土坑
1　暗褐色土10YR3/3　φ５～20cm大の雑多な礫を大量(30～50％)に含み、浅間石、天明泥流中の礫を多量(15～25％)に含む。

第223図　Ａ２号土坑平面図・土層断面図・出土遺物図

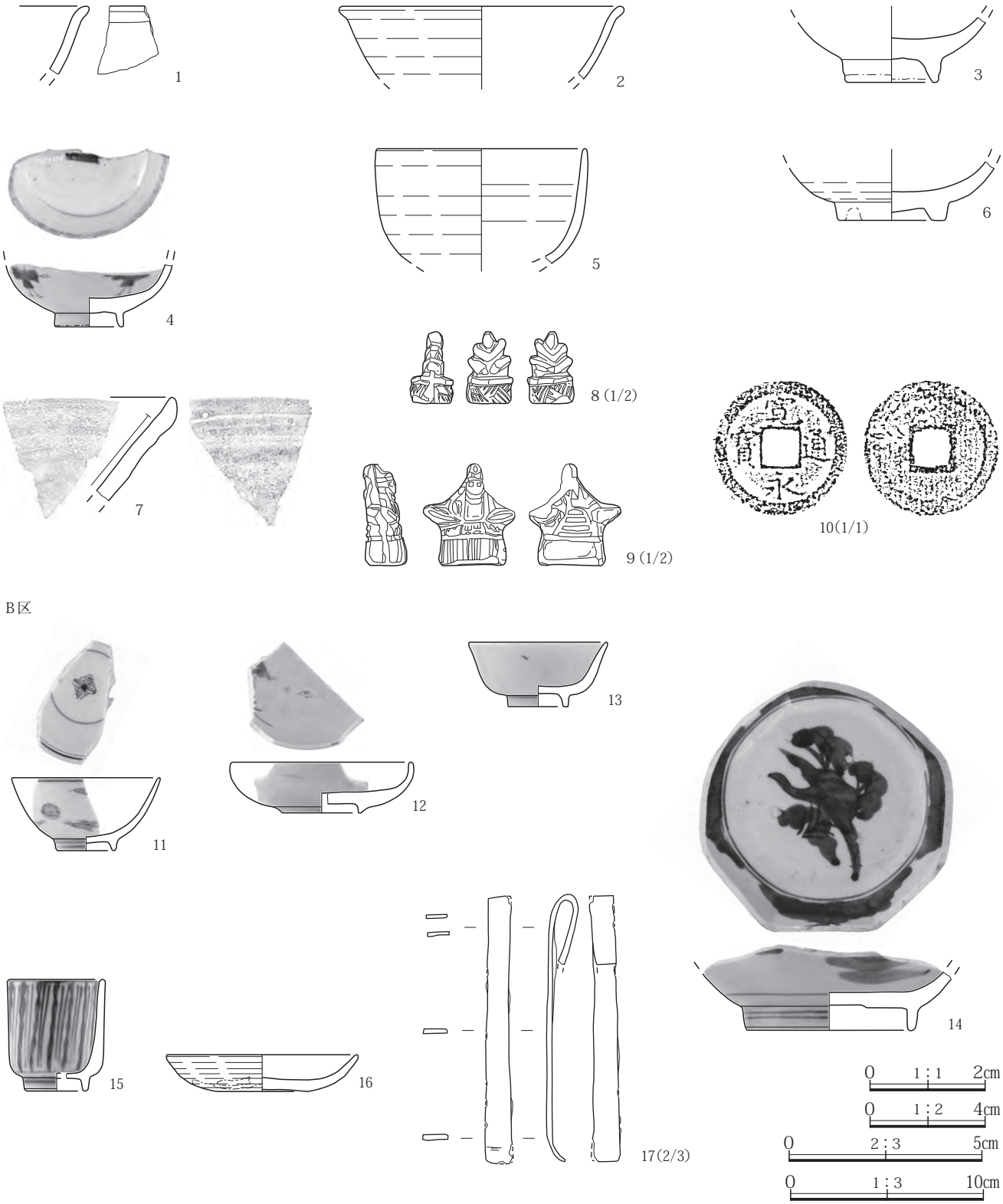
Ｂ区(第224図、ＰＬ．189)　肥前陶器染付小広東碗(11)、肥前磁器染付小皿(12)、製作地不詳赤絵小碗(13)、製作地不詳磁器染付鉢(14)、瀬戸・美濃陶器染付小杯(15)、瀬戸・美濃陶器灯火皿(16)、青銅製毛抜き(17)が出土した。

Ｃ区(第225図、ＰＬ．189)　瀬戸･美濃陶器仏飯器(18)、肥前磁器青磁鉢(皿)(19)、青銅製煙管(20)、鉄製引手状製品(21)、鉄製釘(22～26)、鉄滓(27･28)が出土した。

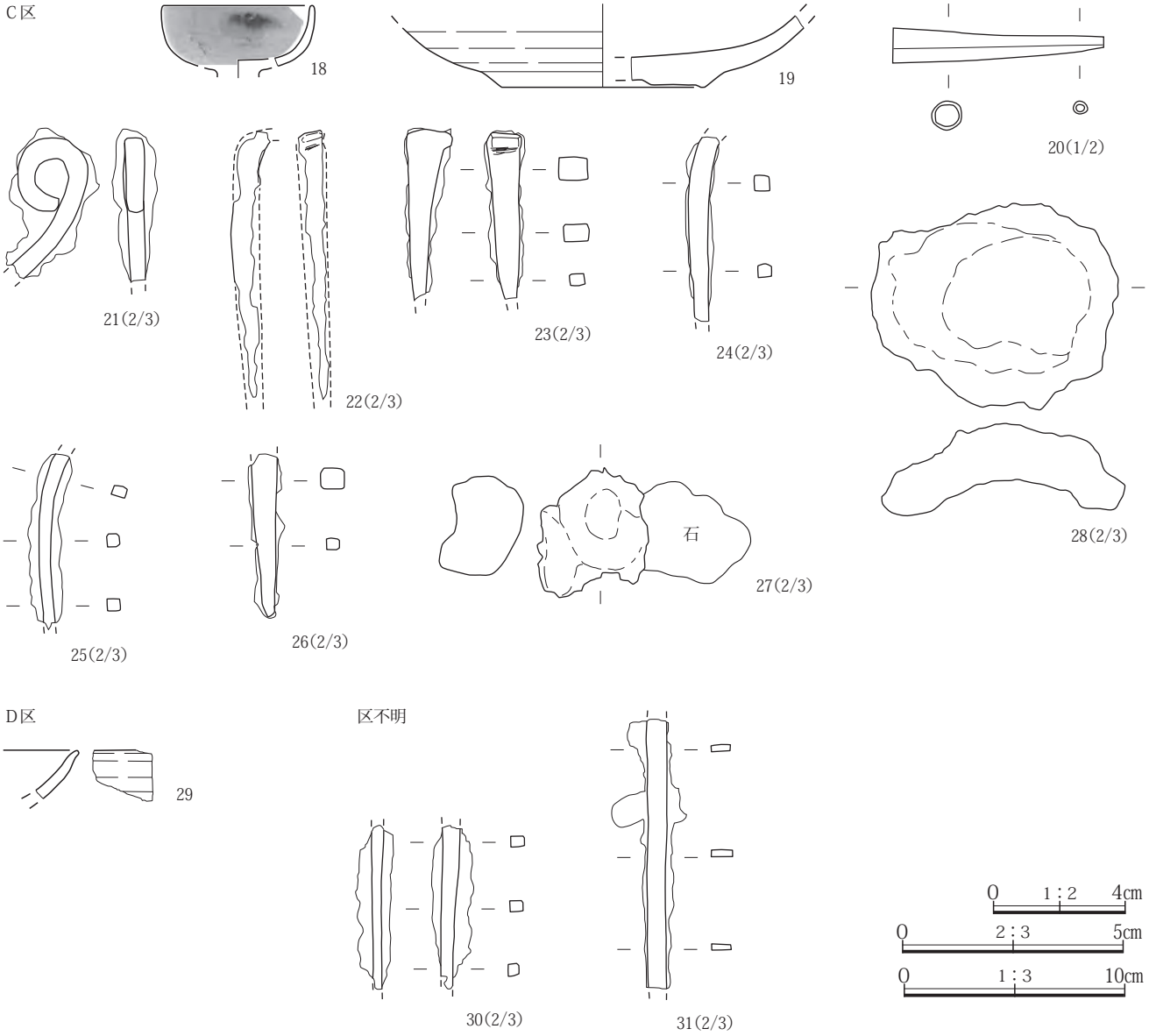
Ｄ区(第225図)瀬戸・美濃陶器碗(29)が出土した。

区不明(第225図、ＰＬ．189)鉄製鏃茎(30)、鉄製棒状品(31)が出土した。

A区



第224図　A・B区遺構外遺物



第225図　C区遺構外遺物

第７節　まとめ

各時代の状況（付図１～５）

新井遺跡の今回の調査で明らかとなった各時代の概要を述べる。

旧石器時代の遺物・遺構がある可能性が２次堆積ローム土の存在から考えられたので、試掘・確認調査を行った。Ａ・Ｃ・Ｄ区でトレンチを設定し調査した結果、旧石器時代の遺物は一切出土せず、旧石器時代の遺物・遺構ともに新井遺跡では確認できないことが分かった。

縄文時代の竪穴建物は、総数24棟が出土している。遺跡地の東方Ｃ・Ｄ区に偏在する。地形的な要因からＡ・Ｂ区には居住しなかったものと推定する。時代的に古い順に建物を並べて見ると、縄文早期が３棟（中葉Ｃ６、後葉Ｄ26・Ｃ19）、前期が11棟（前葉Ｃ16・Ｄ32・Ｃ８・Ｄ33・Ｃ17・Ｃ14、中葉Ｄ29・Ｄ30・Ｃ13・Ｃ10、後葉Ｃ15）となる。中期は２棟（中葉～後葉Ｃ９、後葉～後期初頭Ｃ11）、後期は１棟（初頭Ｃ18）、晩期は無い。時期不明の建物が７棟（Ｃ５・Ｃ７・Ｃ20・Ｄ27・Ｄ28・Ｄ31・Ｄ34）である。以上の時期的及び地区での変遷を追うと、Ｃ区が中心であり、早期～後期にかけて継続している。Ｄ区は、早期～前期にかけて建物が建てられるが、中期以降は、時期不明のものを除き確認できない。遺跡全体としては、早期後葉から前期中葉にかけてが総数で12棟あり最盛期と捉えられる。他に、竪穴状遺構がＤ区より１棟出土している。土坑は総数168基があり、Ｃ区で65基、Ｄ区で103基ある。土坑も早期から後期まであり、特に前期が多い。他に、焼土集中２基、集石・配石・列石が１基ずつある。

弥生時代の竪穴建物は、Ｄ区より中期後半の建物２棟（Ｄ24、Ｄ25）、Ｃ区より後期の建物１棟（Ｃ４）の計３棟が検出されている。また、後期の竪穴状遺構がＤ区で１棟（Ｄ１竪状）出土した。

中期後半の竪穴建物は、いずれも焼失住居で土器や有機質遺物が炭化して残りが良く、分析・考察編で紹介する、種実からの年代測定、炭化米塊から想定される米の調理法など様々な情報が提供された。

墓は、Ｄ区の後期後半に比定されるＤ１号円形周溝墓や、後期に比定されるＤ２号方形周溝墓１基、Ｄ２号円形周溝墓１基が検出されている。いずれも一部溝が途切れるもので、主体部が隅円長方形で長辺が短いものである。Ｄ１号円形周溝墓からは、主体部土坑上層から高杯と壷が出土し、Ｄ２号方形周溝墓からは、主体部からベンガラが床直上から出土している。また、周溝からガラス玉が出土した。Ｄ２号円形周溝墓からは主体部から管玉１個、ガラス玉６個が出土した。後期の土壙墓と推定されるＣ４号土坑よりは長剣が出土している。副葬品が豊富なことが特徴である。他にもＣ区で後期の土坑１基が検出された。

弥生時代中期後半～後期にかけて、遺跡の東側Ｃ・Ｄ区に竪穴建物・墓が少数出土しており、少ないながらも弥生時代の中期後半～後期にかけて人々が住んでいた。

古墳時代の竪穴建物は、Ａ区より前期の建物が１棟（Ａ６）、Ｃ区西側より５世紀後半の建物が１棟（Ｃ１）の計２棟のみが検出されている。居住域は新井遺跡では西部に限定されていた可能性がある。Ｄ区には方形周溝墓２基と古墳３基が集中する。方形周溝墓は、Ｄ区中央やや東にＤ１号方形周溝墓があり、西に50mの箇所にＤ４号方形周溝墓がある。土器などから前期と推定する。Ｄ１号方形周溝墓からは２つの主体部が調査された、中央の第１主体部からは、短剣が副葬品として納められていた。Ｄ４号方形周溝墓からは２基の主体部が調査された。中心主体である第２主体部からは、ヒスイ製勾玉、石英製算盤玉３点，ガラス玉18点などが出土した。第１主体部からは玉髄製棗玉、ガラス玉が７点出土している。ヒスイ・石英といった貴重な石材を使用しての玉類が出土したことは重要である。方形周溝墓から出土したガラス玉は、大賀克彦氏による同定で、弥生時代のＤ２号方形周溝墓・Ｄ２号円形周溝墓出土例が、銅着色のカリガラス製（GroupPⅡ）で、Ｄ４号方形周溝墓出土例がコバルト着色カリガラス製（GroupPⅠ）で、素材が異なっている。いずれも弥生時代後期から古墳時代前期に盛行するものである。また、Ｃ１号集石から、４世紀後半と推定される土器及び鉄製品が出土し、墓である可能性がある。

Ｄ区には、方形周溝墓に続いて３基の古墳が構築される。Ｄ１号古墳は、Ｄ区東側に位置し、弧状の周堀の北側一部のみの調査であるが、周堀内側の立ち上がりに葺石が葺かれている。周堀内側の立ち上がり部に葺石が葺

かれる例は少ないが、類例は、遠見山古墳例、前二子古墳例、７世紀代の総社古墳群例などがある。時期的には、５世紀後半から６世紀代に比定されるものである。

Ｄ２号墳は、Ｄ３号墳の西側45mに位置し、古墳北側のみが調査され、主体部の北側下部の一部が調査された。埴輪が２片周堀より出土している。周堀の側線が直線状であり、コーナー部の屈曲も急であり、方形を意識したものと考えた。復元長は、一辺17.4mの方墳と推定した。また主体部であるが、平石を敷石状に敷設している状況などを検討した結果、横穴式石室の基底部の可能性が高い。つまり、一辺17mほどの方墳で横穴式石室と少量の埴輪を有する古墳と推定した。また、埴輪は温川を挟んだ四戸古墳群とは異なり、藤岡産では無いことが肉眼観察や剥片作成胎土分析で分かった。埴輪産地の比定がこれからの課題である。年代は6世紀代と推定する。

Ｄ３号墳はＤ区西端に位置しており、周堀の北東部隅の一部と葺石が確認できた。須恵器が周堀より出土している。この古墳も側線が直線状に近いことや、コーナー部の屈曲の角度が急なことなど方墳の可能性がある。

Ｄ１～３号墳を古墳とした根拠は、考察でも述べるが、葺石の存在することや、周堀の幅・深さなどが、方形周溝墓と比べて規模が大きいことを根拠としている。

Ｄ２・３号古墳は、葺石・埴輪・須恵器などから、６世紀代と推定する。Ｄ区は基本的に古墳時代前期より後期にかけて墓域として利用された地区である。

古代の遺構群は、Ａ～Ｄ区まで展開する。その中で特にＡ３区とＣ区に遺構が多い。古代の竪穴建物は、８世紀後半から９世紀にかけての７棟の建物が検出された。８世紀第四半世期（Ａ２）、９世紀第二四半期（Ａ１）、９世紀第三四半期（Ａ３・Ｃ２・Ｃ３）、９世紀後半（Ｄ23）と継続的に竪穴建物が建てられた。他に９世紀代の建物としてＡ５号竪穴建物があり、９世紀代がこの遺跡での古代における最盛期である。掘立柱建物は、Ａ区に、Ａ１・２号掘立柱建物が８世紀第四半期の可能性のある建物として検出された。Ｂ区には９世紀後半の複数の土坑の掘削痕跡が集中するなど粘土採掘坑と想定される土坑群が２ヶ所ある。いずれも粘性の強い灰黄色粘土を採掘したものと推定される。土坑は、他にＡ区にある。ピットがＡ・Ｃ区にある。溝はＡ区のＡ１～３号竪穴建物のすぐ西側に３本あり、用水路などの用途が推定される。また、Ａ区には焼土集中遺構が６基、Ｄ区には集石遺構が２基ある。焼土遺構には、土器が伴うことが多く、９世紀前半～９世紀後半の９世紀代が中心である。焼土とともに土器が出土する在り方から、今後遺構の性格を想定する必要がある。集石遺構は、西隣の四戸の古墳群から古代の遺構として多くの例が調査され、一部の遺構からは人骨の可能性が高い骨が検出された。墓の可能性を四戸の古墳群では考えたが、新井遺跡でも集石遺構が２基検出され、この遺構も墓の可能性を考慮する必要があるだろう。耕作地としての畠が、Ａ３区の９～11号畠がＡs-Ｂ下から検出された。畝冊の残りが悪いものもあるが、植物を植えたと思われる空洞が確認された。Ａ３区の溝をはさんで西側に耕作地である畠があり、溝の東側に居住域である竪穴建物や掘立柱建物があったことが分る。

中近世は、土坑群がＢ区から２基、土坑がＡ区から３基、Ｂ区から11基、Ｃ・Ｄ区から１基が検出されている。土坑群は、古代の粘土採掘坑と推定した土坑群の南側にあり、同じような灰黄色粘土を採掘した可能性を考えている。Ｄ区には柱穴列が５基確認できた。ピットはＡ・Ｃ・Ｄ区から検出されている。特にＤ区からのピットが多く、先ほどの柱穴列が柵列などとすれば、中世城館などとの関連性も考慮する必要があるだろう。焼土集中がＣ区で１基、溝がＣ区で３本、Ｄ区で１本検出されている。畠はＣ区全面及び、Ａ１区には、Ａs-Kk上から５・６号畠が、が検出された。Ａ区では、古代から連続して、中近世の古段階から一部を耕作地として継続して使用されていたことが分る。

天明泥流下の遺構群は、Ａ１・２区から畑６枚、石垣１基、道１本、ヤックラ３基、土坑２基が検出された。地形的に、北東側に下がり、段丘崖となるので、その地形の変化に応じて、石垣を築き、畑に段差を設けて耕作地としている。Ａ１・２号畑が高位面にあり、低位面に休耕畑であるＡ３・４号畑がある。石垣を築き、更に道を設けることで、段差を利用した土地利用を行っているのである。

天明泥流後、復旧を行ったのは、北東部の一部で、そこに復旧坑が20基、土坑が１基検出されている。泥流に覆われた後に復旧を行うも、全体とまではいかず、一部のみ復興を行ったものと思われる。

第６章　自然科学分析

第１節　分析の目的と成果

新井遺跡では、様々な分析を行うことが必要な遺物群が出土した。以下、各種分析の目的と得られた成果について簡単に記す。詳細なデータ・結果については次節以降の分析報告を参照いただきたい。

１．火山灰検出同定分析（第２節）

目的：層位や年代が不明な土層・テフラ粒子について、その地質調査を行い、火山灰同定を行うものである。

分析方法：新井遺跡Ｄ区において、現地での地質調査により、土層やテフラ層の記載を行う。また、分析試料を採取し、実験室でテフラ検出（テフラ検出分析及び火山ガラスの屈折率測定）を行い、指標テフラとの検出同定を行う。

分析結果：新井遺跡Ｄ区での、現地地質調査及びテフラ分析により以下のことが分かった。

①厚い二次堆積ローム層を認めることができ、河岸段丘面を二次堆積ローム層が覆っていることが判明した。この二次堆積ローム層の形成には、地震など比較的広範囲に及ぶ事変が関係している可能性がある。

② 二次堆積ローム土の上の腐植質土壌の中に浅間Ｂテフラ（As-B、1108年）と浅間粕川テフラ（As-Kk、1128年）の一次堆積層が確認できた。

③ 同じ腐植質土壌の中に浅間Ｃ軽石や、Hr-FAに由来する可能性が高いテフラ粒子を検出した。

成　果：温川を挟んで対岸にある四戸遺跡での火山灰同定調査では、二次堆積ローム層と河岸段丘面の層位関係は不明確であったが、今回の調査で、河岸段丘面を二次堆積ロームが覆っている可能性が高いことが判明した。また、古墳時代以降のHr-FA、As-Ｃのテフラ粒子の確認や、As-ＢとAs-Kkの一次堆積層を明確にできた。

２．炭化種実試料の加速器質量分析法（ＡＭＳ法）による放射性炭素年代測定（第３節）

目的：弥生時代中期後半とされるＤ24・25号竪穴建物から良好な炭化した種実が出土しており、この炭化種実を試料として、弥生中期後半の放射性炭素年代測定により群馬における弥生時代中期後半の実年代について資料を得る。

分析方法：Ｄ24号竪穴建物から出土した土器内のクリ炭化子葉２点、床面から出土したアズキ炭化種子１点、25号竪穴建物から出土したイネ炭化種子２点の計５点を試料とする。試料を超音波洗浄した後に、加速器質量分析計を用いて測定する。得られた^{14}Ｃ濃度について同位体分別効果の補正後、^{14}Ｃ年代、暦年代を産出する。

分析結果：暦年較正の結果のうち、２σ暦年代範囲（確率95.4%）に着目して結果を整理する。

①Ｄ24号竪穴建物出土の土器内から採取されたクリ炭化子葉は、クリ子葉①が151-131calＢＣ（4.93％）、121calＢＣ-15calＡＤ（90.52％）、クリ子葉②が、149-136calＢＣ（2.58％）、112calＢＣ-18calＡＤ（92.87％）、である。

②Ｄ24号竪穴建物出土の床面出土アズキ炭化種子試料は、334-331calＢＣ（0.72%）、197-183calＢＣ（4.01%）179-51calＢＣ（90.72%）である。

③Ｄ25号竪穴建物のイネ炭化種子は、イネ種子①が、161-40calＢＣ（91.64%）、イネ種子②が、167-46calＢＣ（95.4%）である。

成果：以上の結果を見ると、いずれも弥生時代中期中葉から後期初頭におさまる暦年代である。加速度質量分析による暦年代のデータとして、群馬県内の試料として今までなかった年代データを得ることができ、想定される弥生時代中期後半の年代とも整合している。

３．炭化種実同定（第４節）

目的：Ｄ24・25号竪穴建物は焼失建物で、建物の中から当時の人々が利用した多くの種実が出土した。当時の種実利用を明らかにできる重要な試料として、どのような種実が利用されていたかを明らかにするために種実の同定を行う。

分析方法：肉眼及び実体顕微鏡下で、抽出・同定・計測を行う。破片で計数が困難な分類群は計量し、完形個体の重量から完形個体換算数を求めた。

分析結果

①Ｄ24号竪穴建物からは、土器内からクリ果実と子葉

が多く得られ、完形個体に換算すると。果実が27点強相当、子葉が381点強相当である。イネ炭化種子とアズキ炭化種子もわずかに得られた。

②Ｄ25号竪穴建物からは、イネの炭化種子塊が得られ、塊の重量から完形個体に換算すると、1422点強である。

成　果：Ｄ24号竪穴建物から土器内から出土したクリは、縄文時代の大型化したクリではない、小型の野生のクリと考えられる。このように多くのクリが弥生時代から出土した例はこれまでにほとんど無い。吾妻地域でのクリ利用を知ることができる重要な資料である。

床から出土したアズキは、袋に保管していたアズキが、火災にともない床に散らばったものと推定される。

25号竪穴建物から見つかった炭化米塊は、膨張と変形が著しく、端面が平坦に潰れている状況から炊かれた米と判断している。編組製品の一部がコメに付着しているので、かご類に入れられたご飯であった可能性も想定された。この炭化米塊についての詳しい分析は、考察編の炭化米塊のCT画像解析の項で行っている。

４．炭化材樹種同定（第５節）

目的：Ｄ24・25号竪穴建物は焼失建物で、建物の中から多くの炭化建築部材が出土した。当時の木材利用を明らかにできる重要な試料として、樹種利用の実態を明らかにするために炭化材の樹種の同定を行う。

分析方法：現地での資料採取時に形状の確認とサイズ計測を行う。採取した試料は、乾燥後、実体顕微鏡で観察大分類を行う。分類群の中から電子顕微鏡観察試料の抽出を行い、試料の３断面を割り出して、固定後、走査型電子顕微鏡で樹種同定及び写真撮影を行う。

分析結果：広葉樹のカツラとケンポナシ属、ケヤキ、クリ、ブナ属、ハンノキ鏃ヤシャブシ亜属、ハンノキ属ハンノキ亜属、カバノキ属、ヤナギ属、カエデ属、キハダ、トネリコ属シオジ節の12分類群と、単子葉類のイネ科草本があり、計13分類群が確認された。

成果：Ｄ24号竪穴建物の建築部材は、ケヤキ48点、クリ23点、ヤナギ属とキハダが各２点、ケンポナシ属とイネ科が各１点であった。

Ｄ25号竪穴建物の建築部材は、クリ53点、ケヤキ11点、ケンポナシ属４点、シオジ節２点、カツラとブナ属、ヤシャブシ亜属、ハンノキ亜属、カエデ属が各１点である。

Ｄ24号竪穴建物は、ケヤキが最も多く利用され、次にクリであるが、Ｄ25号竪穴建物は、クリが最も多く利用され次にケヤキが利用される。群馬県渋川周辺では、古墳時代の建築部材でクリの利用が多く確認されているが、西に吾妻川を遡った新井遺跡でもクリを利用することが分かった。さらにあまり利用例が無いケヤキを多用する例として挙げることができた。

Ｄ24号竪穴建物で織具が出土しているが、その材はカバノキ属であることが分かった。古墳時代以降の農工具の材としては利用されることが多いが弥生時代ではあまり見られないものである。

Ｄ25号竪穴建物の炭化米塊に付着していた編組製品はイネ科の草本であることが分かった。試料は幅２㎜、厚さ0.3㎜程度で、元の素材を２～３分割に裂いてヒゴ状にしたものと想定している。編組製品ではタケ亜科のササ類が多く確認され、イネ科草本の類例は少ない。

５．ガラス玉・石製管玉の蛍光Ｘ線分析（第６節）

目的：新井遺跡Ｄ２・４号方形周溝墓、Ｄ２号円形周溝墓、Ｄ２号古墳、Ｃ４号竪穴状遺構、遺構外から出土したガラス玉40点、石製管玉２点（同一個体）について、蛍光Ｘ線分析によりその素材を同定する。

分析方法：蛍光Ｘ線分析機器により、測定対象の物質に一定以上のＸ線を放射して、元素固有の蛍光Ｘ線が出ることから元素の比定を行うことができる。標準試料として計測したデータを使用し、定量を行う。

分析結果：ガラス玉40点のうち、大賀克彦氏の同定により、№１～３、７，10～14などは、0.7～1.0％程度のＣｕＯと若干のＰｂＯが検出され、銅着色のカリガラス（ＧroupＰⅡ）に比定される。№４、24、25、27～30、35～37、42は、１％程度のMnが検出され、ＣｕＯやＰｂＯが含まれていないので、コバルト着色のカリガラス（ＧroupＰⅠ）と推定される。石製管玉の№８・９・15は碧玉質で、ＮａＯとＣａＯが多く含まれ、SiO_2が若干含まれる組成である。

成果：ガラス玉の素材はカリガラスを中心にしており、銅着色のカリガラス（ＧroupＰⅡ）とコバルト着色のカリガラス（ＧroupＰⅠ）が含まれることが分かった。

６．赤色顔料分析（第７節）

目的：赤色顔料には水銀朱が主成分となる朱と、赤色の酸化鉄を主成分とするベンガラがある。ベンガラには鉄鉱石を中心とする鉱物系のベンガラ、水田の澱みなどで

形成されるパイプ状の鉄細菌を焼成して造られる生物系のベンガラの２種がある。さらに金井東裏遺跡において120個以上の「赤玉」が出土し、ベンガラの素材としたものは、県内のほぼ同時期のベンガラについても比較のため分析をした結果、含明礬石ベンガラ（不定形）と仮称する淡赤色を呈するものであることが分かった。ベンガラに３種類あることが判明したのである。新井遺跡の場所は金井東裏遺跡から19㎞吾妻川を遡った地点にあり、どの素材のベンガラを使用したのか、弥生時代中期後半～古墳時代後期の試料を分析して明らかにする。

分析方法：目視及び実体顕微鏡で直接観察後、赤色顔料を採取する。資料は弥生時代中期後半から古墳時代中期後半の試料８点から、極少量（耳かき１杯未満）の資料を採取する。実体顕微鏡及び生物顕微鏡で、パイプ状の有無などの観察を行い、主成分元素を知るために蛍光X線分析を行う。朱はHgが、ベンガラはFeが検出される。一部試料では、X線回折で更に詳細な主成分元素の比定を行う。

分析結果：弥生中期後半の土器の資料２点、後期の土器の試料２点、古墳時代前期の墓・土器に使用された試料３点、古墳時代５世紀後半の試料１点の計８点のうち、古墳時代５世紀後半の試料を除き、パイプ状の鉄細菌を焼成して赤化したパイプ状ベンガラであることが分かった。古墳時代５世紀後半の資料は、含明礬石ベンガラ（不定形）である。

成果：今までの群馬県内の弥生時代～古墳時代の赤彩土器・赤彩埴輪は全てベンガラであることが分かっている。特に弥生時代～４世紀後半まではパイプ状ベンガラが多いのが特徴で、今回の分析でも弥生中期後半から後期、古墳時代の前期まではその傾向の中にあり、パイプ状ベンガラである。興味深いのは、古墳時代５世紀後半のＣ１号竪穴建物の土坑より出土したベンガラが、含明礬石ベンガラ（不定形）であることである。このベンガラが群馬に特徴的なものであり、特に５世紀後半から７世紀代まで使用されていることが分かっており、ベンガラの生産が群馬で行われていることを示す資料である。

７．土師器・埴輪の薄片作製胎土分析（第８節）

目的：Ｄ24・25号竪穴建物から出土の弥生時代中期後半土器、Ａ区グリッド出土の弥生時代後期土器、Ｄ１号方形周溝墓出土の古墳時代前期土師器、Ｃ１号竪穴建物出土の古墳時代５世紀後半の土器、Ｄ２号墳出土の埴輪、Ｃ２号竪穴建物の土器ついて、どのような土を使用して作製したのか明らかにする。

分析方法：土器・埴輪の薄片試料の一部を岩石カッターで切断し、0.02㎜の厚さに研磨する。薄片を偏光顕微鏡により観察し、胎土中に含まれる微化石類（放散虫化石、珪藻化石、骨針化石など）、岩石、鉱物、大型砂粒の特徴、その他の混和物当について観察・記録して、それぞれの薄片の胎土の特徴を明らかにする。

分析結果：①薄片資料で特徴的な淡水種の珪藻類の微化石が３～７の資料から多く検出された。②会津系とした、１の弥生中期後半の壺は、淡水生の微化石や堆積岩・凝灰岩からなる砂粒の特徴がある。③Ｓ字状口縁台付甕は沼沢地生成の粘性土を原料とした他の土器の材料に近い。④内斜口縁杯・須恵器模倣杯は淡水生の粘土ではなく、堆積岩と凝灰岩類からなる砂粒で構成される。⑤円筒埴輪は、淡水成の粘土を材料としていない大型輝石類や角閃石類が目立ち、分析した土師器に近似する。西隣の四戸の古墳群の埴輪から出た藤岡産の片岩類は含まれない。

成果：会津系とした弥生時代中期後半の土器、古墳時代前期のＳ字状口縁台付甕、古墳時代５世紀後半の内斜口縁杯や須恵器模倣杯などの搬入品の可能性がある土器群は在地産の可能性が高い。Ｄ２号墳から出土した円筒埴輪は、他の土師器の胎土と近似し、少なくとも西隣の四戸の古墳群の埴輪で明らかとなった片岩類を多く含む藤岡産では無い。埴輪産地比定が今後の課題である。

８．縄文早期土器のＸ線ＣＴ撮影（第９節）

９．炭化米塊のＸ線ＣＴ撮影（第10節）

目的：上述のＣＴスキャニングは、それぞれ土器の製作技法、炭化米塊の内部構造を解明するための基礎データを得るために行う。

分析方法：Ｘ線ＣＴにより内部構造や断面形状を明らかにする。

分析結果：早期土器、炭化米塊ともに内部構造が明らかになった。

成果：早期土器においては、紐状のもので巻き上げた成形方法ではないことが分かった。炭化米塊は、内部のイネの状況及びその変形の様子が分かった。考察編でそれぞれ詳述する。

第２節　火山灰検出同定分析

１．はじめに

関東地方北西部に位置する吾妻川流域には、榛名や浅間など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ(いわゆる火山灰)が数多く降灰している。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ(町田・新井，2011)などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を行って年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古学的な遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

東吾妻町新井遺跡の発掘調査でも、層位や年代が不明な土層やテフラ粒子が認められたことから、地質調査を行って土層やテフラ層の層序を記載するとともに、高純度の分析試料を採取し、実験室内でテフラ分析(テフラ検出分析および火山ガラスの屈折率測定)を行い、すでに年代が明らかにされている指標テフラの検出同定を実施することになった。調査分析の対象はＤ区深掘トレンチおよびＤ区南壁の２地点である。

２．調査地点の土層層序

(１)Ｄ区深堀トレンチ

Ｄ区深堀トレンチでは、いわゆる二次堆積ローム層(層厚235cm，Ｘ層)を認めることができた(図１)。そのマトリクスは黄色砂質土で、黄褐色細粒火山灰を多く含む黄色軽石層(軽石の最大径20㎜)のブロックや、橙色軽石の濃集部(軽石の最大径17㎜)、それに褐色火山灰土のブロックが認められる。また、粗粒の黄色軽石(最大径61㎜)や橙色軽石(最大径22㎜)も含まれている。黄色軽石の中には、やや気泡が大きめでよく発泡した斑晶が少ないもの(軽石Ｂ)、細かくよく発泡し斑晶鉱物が少ないもの(軽石Ｃ)、風化がやや進み斑晶鉱物が多いもの(軽石Ｄ)が含まれている。ブロック状に含まれる黄色軽石層には、軽石Ｂが非常に多く含まれている。なお、この堆積物の下部40cmには最大径が１mを超える亜円礫が多く含まれている。

この二次堆積ローム層の上位には、下位より黄色や橙色の軽石を多く含むやや灰色がかった黄色土(層厚14cm，軽石の最大径21㎜，Ⅸ層)、黄色軽石(軽石Ａ，最大径23㎜)や橙色軽石(最大径12㎜)を少し含む灰褐色土(層厚18cm，Ⅷ層)、黄色や橙色の軽石を含む暗褐色土(層厚19cm，Ⅶ層)、黒褐色土(層厚14cm，Ⅵ層)、白色粒子混じり黒色土(層厚14cm，Ⅴ層)が認められる。

(２)Ｄ区南壁

Ｄ区南壁では、下位より灰褐色土(層厚７cm、暗褐色土(層厚16cm)、赤褐色軽石(最大径11㎜)を少し含む黄色軽石(最大径11㎜)混じりで色調が暗い暗褐色土(層厚20cm)、黒色土(層厚14cm)、黒灰色土(層厚12cm)、成層したテフラ層(層厚２cm)、灰色砂層(層厚２cm)、やや色調が明るい黒色土(層厚４cm)、黄灰色土(層厚８cm，軽石の最大径29㎜，石質岩片の最大径６㎜)、暗灰色土(層厚24cm)が認められる(図２)。このうち、成層したテフラ層は、下部の粗粒の褐色軽石混じり褐色細粒軽石層(層厚１cm，軽石の最大径24㎜，石質岩片の最大径10㎜)と、上部の黄灰色砂質細粒火山灰層(層厚１cm)からなる。

３．テフラ検出分析

(１)分析試料と分析方法

Ｄ区深堀トレンチにおいて、二次堆積ローム層(Ｘ層)に含まれる３種類の黄色軽石のうちの軽石Ｃと軽石Ｄ、その上位の土層(Ⅸ層)中の軽石Ａ、そして二次堆積ローム層の上位の腐植質土壌から採取された試料の合計10試料を対象に、テフラ粒子の特徴を明らかにするためにテフラ検出分析を行った。分析の手順は次のとおりである。

１)軽石試料に関しては適量を軽く粉砕。
２)土壌試料について、電子天秤により試料８gを秤量。
３)超音波洗浄装置を用いて泥分を除去。
４)恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
５)実体顕微鏡下で観察。

(２)分析結果

テフラ検出分析の結果を表１に示す。軽石Ｄはスポンジ状に発泡しており、不透明鉱物以外の重鉱物として斜方輝石や角閃石が多く含まれている。軽石Ｃは、スポン

ジ状または繊維束状に発泡しており、不透明鉱物以外の重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれている。軽石Ａは、スポンジ状に発泡しており、不透明鉱物以外の重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が含まれている。

腐植質土壌の試料には、いずれにおいても分厚い中間型ガラス(無色透明～淡灰色)が比較的多く含まれており､ほかに少量のスポンジ状軽石型ガラスも認められる。試料14(Ⅷ層)～試料５(Ⅵ層)では、さらに灰色のスポンジ状軽石型ガラスが認められる。これらの試料には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石のほかに、ごく少量の角閃石が含まれている。

試料４(Ⅵ層)には、灰白色のスポンジ状軽石型ガラスや、中間型ガラス(無色透明～淡灰色)が比較的多く含まれている。また､試料２には､暗褐色軽石(最大径3.1㎜)や、淡灰色、淡褐色、褐色、灰白色、白色スポンジ状軽石型ガラスが比較的多く含まれている。これらの試料に含まれる不透明鉱物以外の重鉱物としては、斜方輝石、単斜輝石、角閃石がある。

４．屈折率測定(火山ガラス)

(１)測定試料と測定方法

テフラ検出分析の対象試料のうち、二次堆積ローム層(Ｘ層)中の軽石Ｄのガラス部の屈折率測定を実施した。測定は温度変化型屈折率測定法(壇原，1993)で、測定対象はテフラ検出分析後に篩別して得た1/8～1/16㎜粒子中の火山ガラスである。

(２)測定結果

屈折率の測定結果を表２に示す。この表には、群馬県域の後期旧石器時代以降の代表的な指標テフラの火山ガラスの屈折率特性も合わせて示した。二次堆積ローム層(Ｘ層)中の軽石Ｄのガラス部(32粒子)の屈折率(n)は、1.502-1.505である。

５．考察

(１)テフラの起源について

二次堆積ローム層(Ｘ層)に含まれる軽石のうち、屈折率測定の対象になった軽石Ｄは、本遺跡の位置や鉱物組成から榛名系テフラと考えられる。風化がやや進んでいるために、約５万年前以前に榛名火山から噴出した榛名八崎軽石(Hr-HP，新井，1962，町田・新井，2011など)と比較すると、火山ガラスの屈折率の値はやや重なるものの、今回の軽石はやや低い傾向にある。詳細は不明であるが、Hr-HPの噴火の際に発生した白川軽石流堆積物(新井,1962)に由来するのかもしれない。榛名火山では、ほかにも中期更新世や後期更新世に火砕流が発生していることから、今後も調査分析を継続する必要がある。

軽石Ｃについては、岩相から約2.2万年前に浅間火山から噴出した榛名白糸軽石(As-Sr，町田ほか，1984，町田・新井，1992など)に由来すると考えられる。また、軽石Ｂについては､その岩相から浅間火山の軽石流期(荒牧，1968)のテフラと考えられる。本遺跡周辺では、この時期のテフラとして浅間草津軽石(As-K，町田・新井，1984，1992など)の堆積がよく知られているが、この軽石が多く含まれるテフラブロック中に細粒火山灰も混在していることから、As-Kの噴火に先行する約1.5～1.65万年前の浅間板鼻黄色軽石(As-YP，新井，1962，町田・新井，1992など)の一部、あるいはそれに関係する浅間小諸1火砕流堆積物(町田・新井，1992)やAs-YP火山泥流堆積物(早田,未公表資料)に由来するのかもしれない。

二次堆積ローム層を覆う風成堆積物に含まれるテフラのうち、Ⅸ層中の軽石Ａに関しては、岩相から軽石Ｂと起源を同じく可能性があるが、黄色部と灰色部からなる縞状軽石が認められることなどから、約1.2万年前に浅間火山から噴出した浅間総社軽石(As-Sj，早田，1990，1996など)に由来するのかもしれない。なお、橙色の軽石は、色調から、約2.4～2.9万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group，新井，1962，町田・新井，1992，早田，2016など)に由来すると考えられる。

テフラ検出分析により､試料４(Ⅵ層上部)や試料２(Ⅴ層)で少量認められた灰白色スポンジ状軽石型ガラスは、岩相から３世紀後半に浅間火山から噴出した浅間Ｃ軽石(As-C，荒牧，1968，新井，1979，町田・新井，1992，2003，坂口，2010)に由来する可能性がある。また、Ⅴ層中で発掘調査担当者により認められた白色粒子については、本試料中に白色のスポンジ状軽石型ガラスが認められ、下位の試料より角閃石が多い傾向にあること、それに本遺跡の位置とテフラの分布傾向を合わせると、６世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA，新井，1979，

坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992など)に由来すると思われる。

Ｄ区南壁で認められた２層のテフラのうち、下位の成層したテフラ層は、層相や軽石の岩相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Ｂテフラ(As-B，荒牧，1968，新井，1979，町田・新井，1991，2003，2011)に、また、上位の軽石層は、層相や軽石の岩相から1128（大治３)年に浅間火山から噴出した浅間粕川テフラ(As-Kk，早田，1991，1996，2004)に同定される。Ｄ区における発掘調査では、これら２層のテフラ層のうち、下位のAs-B直下で調査が実施されていることから、Ｄ区深掘の最上位の５層中に混在するテフラ粒子のうち、暗褐色軽石や、淡灰色、淡褐色、褐色のスポンジ状軽石型ガラスは、何らかの攪乱作用により上位より５層に混入したAs-Bと考えられよう。

なお、Ｄ区南壁においてAs-Bより下位の土層の中に認められた黄色や赤褐色の軽石に関しては、縄文時代の浅間系テフラに由来するように思われる。吾妻川流域における縄文時代の研究では、浅間系テフラを十分に活用できていないことから、今後その産状と遺物包含層との層位関係などに注意が払われると良い。

（２)二次堆積ローム層について

新井遺跡Ｄ区における深掘では二次堆積ローム層の基底を確認できなかったものの、その下部に亜円礫が多く含まれていることが判明した。このことから、二次堆積ローム層の下位に河川性堆積物のある可能性が考えられる。近接する四戸遺跡における調査では、二次堆積ローム層と四戸遺跡が位置する河岸段丘面との層位関係は不明確であったものの(火山灰考古学研究所，既報告)、今回の調査分析により河岸段丘面を二次堆積ローム層が覆っている可能性が高いことがわかった。このことから、本遺跡周辺の地形形成史に、二次堆積ローム層が大きく関わっている可能性がでてきた。

これまでの調査研究により、榛名火山の南を流れる烏川流域では、後期更新世末期から完新世中期にかけて、複数回の泥流が発生したことが知られている(古環境研究所，2000，早田，2011など)。このことから、地震など比較的広範囲に及ぶ地変が関係している可能性があり、広い地域の自然史また環境変遷史を語る上で重要と考えられる。今後、二次堆積ローム層のより明確な層位把握と、二次堆積現象の原因の解明が期待される。

６．まとめ

東吾妻町新井遺跡Ｄ区において、地質調査とテフラ分析(テフラ検出分析・火山ガラスの屈折率測定)を実施した。その結果、厚い二次堆積ローム層を認めることができた。また、その上位の腐植質土壌の中に浅間Ｂテフラ(As-B，1108年)と浅間粕川テフラ(As-Kk，1128年)の一次堆積層のほか、浅間Ｃ軽石やHr-FAに由来する可能性が高いテフラ粒子を検出することができた。

文献

新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.
新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p.254-269.
新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，№53，p.41-52.
新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法２」，東京大学出版会，　p.138-149.
荒牧重雄(1968)浅間火山の地質．地団研専報，№14，p.1-45.
壇原　徹(1993)温度変化型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法２」，東京大学出版会，　p.149-158.
古環境研究所(2000)中里見遺跡群の地質とテフラ．群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団・日本鉄道建設公団編「中里見遺跡群」，p.270-280.
町田　洋・新井房夫(1992)「火山灰アトラス」．東京大学出版会，276p.
町田　洋・新井房夫(2003)「新編火山灰アトラス」．東京大学出版会，336p.
町田　洋・新井房夫(2011)「新編火山灰アトラス(第２刷)．東京大学出版会，336p.
町田　洋・新井房夫・遠藤邦彦・小田静夫・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学－考古学に関係するテフラのカタログ．古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」，p.865-928.
早田　勉(1990)群馬の自然と風土.群馬県史編さん室編「群馬県史通史編１原始古代１」，p.37-129.
早田　勉(1991)浅間火山の生い立ち．佐久考古通信，№53，p.2-7.
早田　勉(1996)関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，７，p.256-267.
早田　勉(2004)火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史－とくに平安時代の噴火について－．かみつけの里博物館編「1108－浅間火山－中世への胎動」，p.45-56.
早田　勉(2011)榛名地域の自然環境とその歴史.榛名町誌編さん委員会編「榛名町誌通史編上巻　原始古代・中世」，p.7-56.
早田　勉(2014)渋川市有馬寺畑遺跡の土層とテフラ．渋川市教育委員会編「有馬寺畑遺跡」，p.197-211.

表１　新井遺跡におけるテフラ検出分析結果

地点名	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			おもな重鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	（不透明鉱物以外）
Ｄ区深堀トレンチ	2		暗褐	3.1		pm（sp，fb），md	淡灰，淡褐，褐，灰白，白	opx，cpx，am
	4					pm（sp），md	灰白，淡灰，無色透明	opx，cpx，am
	6					md，pm（sp）	無色透明，淡灰，白，灰	opx，cpx，（am）
	8					md，pm（sp）	無色透明，淡灰，白，灰	opx，cpx，（am）
	10					md，pm（sp）	無色透明，淡灰，灰，白	opx，cpx，（am）
	12					md，pm（sp）	無色透明，淡灰，白	opx，cpx，（am）
	14					md，pm(fb)	無色透明，淡灰，白	opx，cpx，（am）
	軽石A	（軽石を粉砕）				pm（sp）	白	opx，cpx
	軽石Ｃ	（軽石を粉砕）				pm（fb，sp）	白	opx，cpx
	軽石Ｄ	（軽石を粉砕）				pm（sp）	白	opx，am

：とくに多い，：多い，：中程度，：少ない．最大径の単位は，㎜．

bw：バブル型, pm：軽石型, md：中間型，sp：スポンジ状，fb：繊維束状，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，am：角閃石．()：量が少ないことを示す．

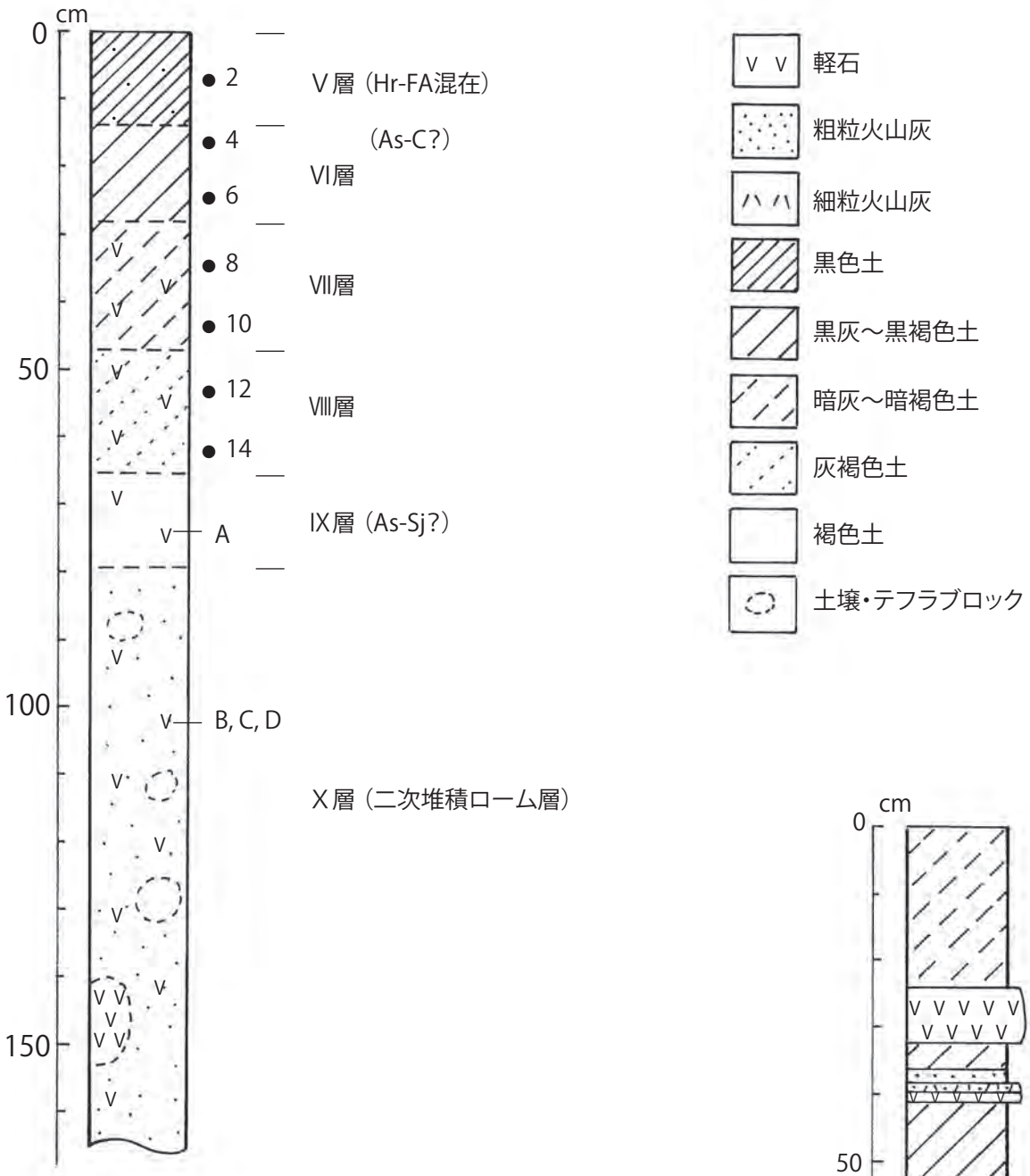
表２　屈折率測定結果

地点・テフラ	試料	火山ガラス		備考
		屈折率(n)	測定数	
新井遺跡Ｄ区深堀トレンチ	軽石Ｄ	1.502-1.505	32	本報告
<北関東地方の後期更新世後半以降の指標テフラ>				
浅間Ａ(As-A，1783年)		1.507-1.512		1)
浅間Ｂ(As-B，1108年)		1.524-1.532		1)
榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP，６世紀中葉)		1.501-1.504		1)
榛名二ツ岳渋川(Hr-FA，６世紀初頭)		1.500-1.502		1)
		1.498-1.505		3)
浅間Ｃ(As-C，３世紀後半)		1.514-1.520		1)
浅間Ｄ(As-D，約5,000年前)		1.513-1.516		1)
鬼界アカホヤ(K-Ah，約7,300年前)		1.506-1.513		1)
浅間総社軽石(As-Sj，約1.2万年前)		1.504-1.518		5)
浅間板鼻黄色(As-YP，約1.5～1.65万年前)		1.501-1.505		1)
浅間大窪沢1（As-Ok1，約２万年前）		1.500-1.502		1)，4)
浅間白糸軽石(As-Sr，約2.2万年前)		1.506-1.510		1)，4)
浅間板鼻褐色(群)	上部	1.515-1.520		1)，4)
(As-BP Group，約2.4～2.9万年前)	中部	1.508-1.511		1)，4)
	下部	1.505-1.515		1)，4)
姶良Tn（AT，約2.9～３万年前）		1.499-1.500		1)，4)
榛名箱田(Hr-HA，約３万年前[1])				2)
榛名八崎(Hr-HP，約５万年前)		1.505-1.508		1)
大山倉吉(DKP，約5.5万年前以前)				1)
阿蘇4（Aso-4，約8.5～９万年前）		1.509-1.510		1)

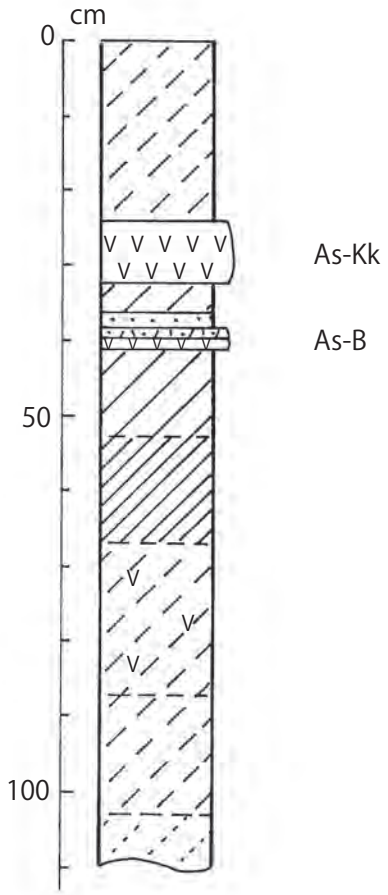
本報告・3)：温度変化型屈折率測定法(壇原，1993)．1)・2)：温度一定型屈折率測定法(新井，1972，1993)．

1)：町田・新井(2011)，2)：早田(1996)，3)：早田(2014)，4)：早田(2016)．5)早田(未公表)．

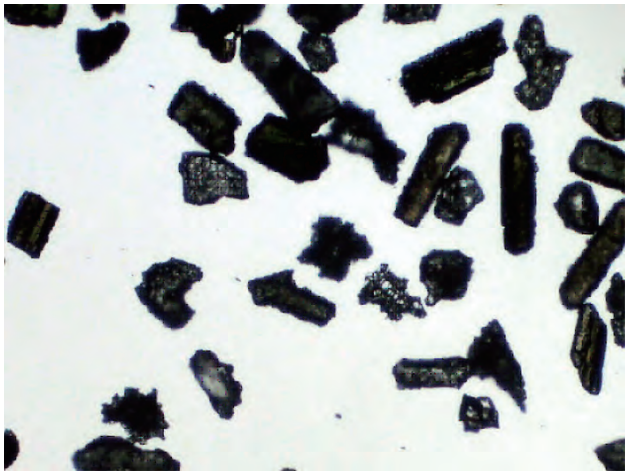
[1]：放射性炭素(^{14}C)年代．



１図　D区深堀トレンチの土層柱状図
●：テフラ分析試料の層位.数字：テフラ分析の試料番号.

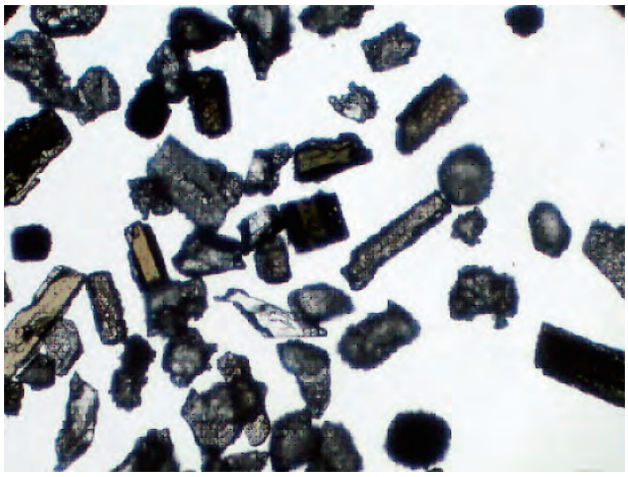


２図　D区南壁の土層柱状図



0.2㎜

写真１　Ｄ区深掘トレンチ・軽石Ｄ（透過光）
中央・中央右下：スポンジ状軽石型ガラス.
軽石の中でも発泡の程度が異なる.



0.2㎜

写真２　Ｄ区深掘トレンチ・軽石Ｄ（透過光）2
中央・中央上など（有色鉱物）：角閃石.
中央右など（有色鉱物）：斜方輝石.

第３節　炭化種実試料の（ＡＭＳ法）による放射性炭素年代測定

１．はじめに

群馬県吾妻郡に所在する新井遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

２．試料と方法

試料は、24号竪穴建物から出土した土器内のクリ炭化子葉が２点（PLD-33213、33214）と、同じく24号竪穴建物の床面から出土したアズキ炭化種子が１点（PLD-33217）、25号竪穴建物から出土したイネ炭化種子が２点（PLD-33215、33216）の、合計５点である。調査所見から、遺構の時期は弥生時代中期後半と推測されている。

測定試料の情報、調製データは表１のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

３．結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、暦年較正結果を、図１に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.27％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.4（較正曲線データ：IntCal20）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.27％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.45％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表１　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-33213	遺構名：24号竪穴建物 位置：土器内	種類：炭化種実（クリ子葉①） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-33214	遺構名：24号竪穴建物 位置：土器内	種類：炭化種実（クリ子葉②） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-33217	遺構名：24号竪穴建物 位置：床面	種類：炭化種実（アズキ種子） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-33215	遺構名：25号竪穴建物	種類：炭化種実（イネ種子①） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-33216	遺構名：25号竪穴建物	種類：炭化種実（イネ種子②） 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）

表２　放射炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-33213 24号竪建 クリ子葉①	-22.76±0.23	2056±22	2055±20	98-69 cal BC (27.53%) 58-37 cal BC (23.93%) 14 cal BC- 4 cal AD (16.81%)	151-131 cal BC (4.93%) 121 cal BC- 15 cal AD (90.52%)
PLD-33214 24号竪建 クリ子葉②	-25.87±0.20	2053±20	2055±20	95-73 cal BC (22.53%) 56-37 cal BC (25.35%) 14 cal BC- 4 cal AD (20.39%)	149-136 cal BC (2.58%) 112 cal BC- 18 cal AD (92.87%)
PLD-33217 24号竪建 アズキ種子	-29.72±0.22	2116±21	2115±20	169-101 cal BC (61.93%) 67- 59 cal BC (6.34%)	334-331 cal BC (0.72%) 197-183 cal BC (4.01%) 179- 51 cal BC (90.72%)
PLD-33215 25号竪建 イネ種子①	-26.23±0.24	2075±20	2075±20	146-140 cal BC (3.82%) 107- 45 cal BC (64.45%)	161-40 cal BC (91.64%) 10 cal BC- 1 cal AD (3.81%)
PLD-33216 25号竪建 イネ種子①	-27.94±0.21	2090±20	2090±20	149-134 cal BC (11.61%) 115- 51 cal BC (56.66%)	167-46 cal BC (95.45%)

４.考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち2σ暦年代範囲(確率95.45%)に着目して結果を整理する。なお、弥生時代の暦年代については小林(2009)を参照した。

24号竪穴建物出土の土器内から採取されたクリ炭化子葉は、クリ子葉①(PLD-33213)が151-131 cal BC (4.93%)および121 cal BC- 15 cal AD (90.52%)、クリ子葉②(PLD-33214)が149-136 cal BC (2.58%)および112 cal BC- 18 cal AD (92.87%)であった。これは、弥生時代中期中葉～後期初頭に相当する暦年代である。また、24号竪穴建物の床面から出土したアズキ炭化種子(PLD-33217)は、334-331 cal BC (0.72%)および197-183 cal BC (4.01%)、179- 51 cal BC (90.72%)であった。これは、弥生時代中期中葉～後葉に相当する暦年代である。

25号竪穴建物出土のイネ炭化種子は、イネ種子①(PLD-33215)が161-40 cal BC (91.64%)および10 cal BC- 1 cal AD (3.81%)、イネ種子②(PLD-33216)が167-46 cal BC (95.45%)であった。

いずれも弥生時代中期中葉～後期初頭におさまる暦年代で、24号竪穴建物と25号竪穴建物の出土炭化種実にははっきりした時期差は確認できなかった。調査所見による遺構の推定時期である弥生時代中期に対しては整合的であった。

引用・参考文献
Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
小林謙一(2009)近畿地方以東の地域への拡散．西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第４巻　弥生農耕のはじまりとその年代」：55-82，雄山閣.
中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」：3-20，日本第四紀学会.
Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

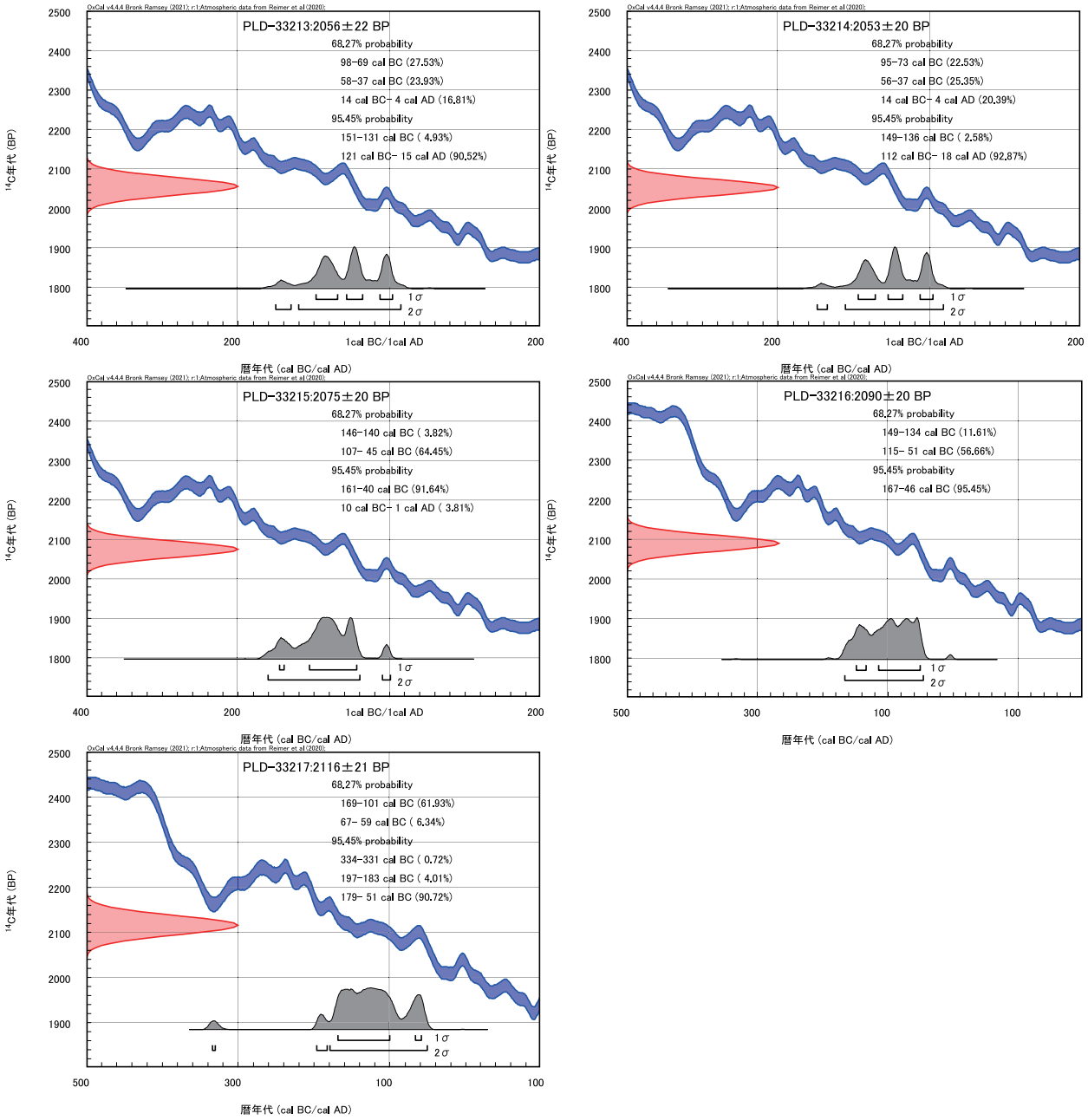

OxCal v4.4.4 Bronk Ramsey (2021); r:1;Atmospheric data from Reimer et al (2020);
PLD-33213:2056±22 BP
68.27% probability
98-69 cal BC (27.53%)
58-37 cal BC (23.93%)
14 cal BC- 4 cal AD (16.81%)
95.45% probability
151-131 cal BC (4.93%)
121 cal BC- 15 cal AD (90.52%)
PLD-33214:2053±20 BP
68.27% probability
95-73 cal BC (22.53%)
56-37 cal BC (25.35%)
14 cal BC- 4 cal AD (20.39%)
95.45% probability
149-136 cal BC (2.58%)
112 cal BC- 18 cal AD (92.87%)
PLD-33215:2075±22 BP
68.27% probability
146-140 cal BC (3.82%)
107- 45 cal BC (64.45%)
95.45% probability
161-40 cal BC (91.64%)
10 cal BC- 1 cal AD (3.81%)
PLD-33216:2090±20 BP
68.27% probability
149-134 cal BC (11.61%)
115- 51 cal BC (56.66%)
95.45% probability
167-46 cal BC (95.45%)
PLD-33217:2116±21 BP
68.27% probability
169-101 cal BC (61.93%)
67- 59 cal BC (6.34%)
95.45% probability
334-331 cal BC (0.72%)
197-183 cal BC (4.01%)
179- 51 cal BC (90.72%)
14C年代 (BP)
1σ
2σ
1cal BC/1cal AD
暦年代 (cal BC/cal AD)

図１　暦年較正結果

第４節　炭化種実同定

１．はじめに

群馬県吾妻郡東吾妻町厚田に所在する新井遺跡は、吾妻川右岸の段丘上に立地する、弥生時代中期後半の集落跡である。ここでは、弥生時代中期後半の竪穴建物から出土した炭化種実の同定を行い、当時の利用植物について検討した。なお、一部の試料については放射性炭素年代測定も行われている(第３節参照)。

２．試料と方法

試料は、24号竪穴建物と25号竪穴建物から肉眼で確認・採取された炭化種実である。年代測定の結果、炭化種実は弥生時代中期中葉～後葉に相当する年代を示した。両竪穴建物共に焼失住居である。

抽出・同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。破片で計数が困難な分類群は計量し、完形個体の重量から完形個体換算数を求めた。試料は、群馬県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

３．結果

同定の結果、木本植物ではクリ炭化果実・炭化子葉(塊含む)の１分類群、草本植物ではイネ炭化種子(塊含む)とアズキ炭化種子の２分類群の、計３分類群が得られた。同定結果を表１に示す。

以下に、出土傾向について遺構別に記載する。

24号竪穴建物：土器内(№５；長径9.88cm、短径8.98cm、厚さ2.36cmの範囲内)から塊状のクリ果実と子葉が多く得られ、完形個体は果実が３点、子葉が52点得られた。クリの破片は、完形個体に換算すると、果実が27点強相当、子葉が381点強相当であった。イネ炭化種子とアズキ炭化種子がわずかに得られた。

25号竪穴建物：イネの炭化種子塊が得られ、塊の重量から完形個体に換算すると、1422点強であった。

次に、炭化種実の記載を示し、図版に写真を掲載して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は、米倉・梶田(2003-)に準拠し、APGⅢリストの順とした。

(１)クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　炭化果実・炭化子葉　ブナ科

果実は、側面観は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。高さ18.3㎜、幅19.3㎜、厚さ12.1㎜。子葉は、完形ならば側面観が広卵形で、表面一面に縦方向のしわ状の溝がある。しわ以外の面は平坦でやや光沢があり、硬質。計測可能なクリ子葉52点の大きさは、高さ10.4～16.3(平均13.6±1.5)㎜、幅9.6～18.3(平均14.6±1.7)㎜、厚さ5.4～18.6（平均8.8±2.7)㎜、厚さ5.4～18.6(平均8.8±2.7)㎜(表２)。１図-４には中央部に棒で穴をさしたような穴が空いている。

(２)イネ　*Oryza sativa* L.　炭化種子(頴果)・炭化種子(頴果)塊　イネ科

種子は、上面観が両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の２本の浅い溝がある。種子塊の大きさは、長径6.43㎝、短径4.47㎝、

表１　新井遺跡から出土した炭化種実(括弧内は破片数)

	遺構	24号竪穴建物			25号竪穴建物	
	時期	弥生時代中期中葉～後葉				
分類群	採取方法	現地採取				
クリ	炭化果実	3	≧27※1	4.49g		
	炭化子葉	52	≧381※2	214.20g		
イネ	炭化種子塊				≧1422※3	11.21g
	炭化種子	1				
アズキ	炭化種子	1		(8)		

※1　クリ炭化果実1個体の重量0.162g（約半分の重量0.081g)からの完形個体換算数
※2　クリ炭化子葉10個体の重量（5.62g)からの完形個体換算数
※3　イネ炭化種子10個体の重量（0.79g)からの完形個体換算数

厚さ2.30㎝。種子塊内の粒は変形している。種子塊の底面は湾曲し、側面には割り裂いた素材を用いた編組製品の一部が残る。種子１点の大きさは、長さ4.6㎜、幅3.0㎜（１図-８）と長さ5.2㎜、幅2.9㎜（１図-９）。

（３）アズキ　*Vigna angularis* (Willd.) Ohwi et H.Ohashi var. *angularis*　炭化種子　マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。臍は全長の半分から2/3ほどの長さで、片側に寄ると推定されるが、残存していない。初生葉は中央に向かって伸びる。完形個体の大きさは、長さ6.2㎜、幅4.4㎜、厚さ4.3㎜。半割れの個体の大きさは、長さ5.4㎜、幅4.1㎜。小畑(2008)に示された現生種と大きさを比較すると、栽培種の大きさである。

４．考察

弥生時代中期中葉～後葉の竪穴建物と考えられる遺構から出土した炭化種実を同定した結果、栽培植物や野生植物で利用可能な種実が得られた。

24号竪穴建物からは、野生植物のクリと栽培植物のイネ(いわゆる炭化米)とアズキが得られた。クリは土器内からまとまって出土しており、果実や果皮が大量に含まれるため、子葉の状態で取り上げられた個体も埋没時には果実の状態であったと推定される。すなわち、クリは殻斗(いわゆるイガの部分)を取り除き、果実の状態で土器内に保管され、焼失に伴って炭化したと考えられる。弥生時代にクリが大量に出土した例はこれまでにほとんどなく、また50点を超える計測値は報告されていないが、東北地方の縄文時代のいくつかの遺跡ではクリの炭化子葉が計測されている。吉川(2011)で計測された数値の平均値と比較すると、新井遺跡のクリ炭化子葉の大きさは、高さが平均13.6±1.5㎜、幅が平均14.6±1.7㎜で、縄文時代前期から晩期の５遺跡よりも小さく、標準偏差も小さかった。吉川(2011)では、縄文時代晩期には現在の栽培種と比較してもかなり大きいクリから前期と同じような小さいクリまで様々なサイズが存在していたと指摘されているが、弥生時代中期中葉～後葉の新井遺跡ではかなり小さいクリが利用されており、縄文時代に大型化したクリが引き継がれているような様相は見られなかった。

また、24号竪穴建物の床面にはアズキ大の種子が一定の箇所に散在しており、一部について同定をしたところ、アズキがほとんどでイネも１点含まれていた。袋などに保管されていたマメが火災に伴って、床面に散らばった可能性などが考えられる。

25号竪穴建物からは、イネ炭化種子塊が得られた。全て種子(いわゆる炭化米)であり、膨張と変形が著しく、端面は平坦に潰れている状況から炊かれた米と判断した。側面には編組製品の一部がコメに付着して残存しており、かご類に入れられたご飯であった可能性がある。これまで、かご類に入れられたご飯やおにぎりは、山梨県笛吹市前付遺跡の古墳時代前期の竪穴建物(山梨文化財研究所，2015)や神奈川県横浜市北川表の上遺跡の古墳時代後期の竪穴建物から出土した例(佐々木ほか，2009)が古いが、弥生時代の例は知られていない。本例は、編組製品に調理中または調理後の米が入れられた可能性があり、食品をどのような容器に入れていたのかを示す好例といえよう。

今回検討したのは肉眼で確認され、取り上げられた炭化種実であったが、栽培植物か、もしくは野生植物でも利用可能な植物のみで、穀類とマメ類、堅果類が確認され、遺存状態も良好であった。今後、土壌中に含まれている微細な種実もあわせて検討すれば、当時の食生活や周辺の植生について、より具体的な様相が明らかになると考えられる。

引用文献

小畑弘己(2008)マメ科種子同定法．小畑弘己編「極東先史古代の穀物３」：225-252，熊本大学．

佐々木由香・バンダリ スダルシャン・米田恭子・村田健太郎・小石川　篤(2009)北川表の上遺跡出土炭化種実同定および炭化種実塊のX線CT画像解析による検討．財団法人　横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター編「港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告42　北川表の上遺跡」：423-435，横浜市教育委員会．

山梨文化財研究所(2015)前付遺跡・大祥寺遺跡．330p，笛吹市教育委員会．

吉川純子(2011)縄文時代におけるクリ果実の大きさの変化．植生史研究18-2，57-63．

米倉浩司・梶田　忠(2003-) BG Plants 和名－学名インデックス(YList)，http://ylist.info

表２　クリ炭化子葉の大きさ　（単位㎜）

	高さ	幅	厚さ	図版番号
クリ52点	16.0	16.5	11.0	
	14.9	18.3	9.8	
	15.6	13.9	8.2	
	15.8	15.6	8.8	
	14.2	14.9	8.5	
	14.6	13.7	9.5	
	12.6	14.9	6.1	
	14.7	16.2	10.3	
	16.3	17.9	9.2	１図-３
	15.0	14.6	8.5	
	15.4	14.3	8.0	
	11.8	16.7	7.1	
	14.7	16.1	7.5	
	14.4	17.1	8.5	
	13.0	12.6	7.2	
	13.1	14.6	7.6	
	15.8	15.1	9.9	
	10.8	14.2	8.0	
	13.5	14.4	9.0	
	11.4	14.2	7.1	
	13.5	15.3	9.3	
	16.0	14.3	8.5	
	12.6	14.2	7.3	
	11.5	14.7	6.8	
	13.3	14.7	8.8	
	14.4	15.4	7.5	
	10.7	13.5	6.3	
	11.3	13.2	9.2	
	10.4	12.6	5.8	
	12.4	14.8	7.1	
	13.3	17.4	10.0	
	13.1	18.3	8.3	
	12.0	12.9	7.5	
	14.6	14.4	9.7	
	14.2	14.4	8.5	
	15.1	(14.1)	15.6	
	14.2	13.7	18.6	
	13.0	15.9	8.4	
	(11.3)	11.1	6.1	
	12.8	12.1	8.2	
	14.3	13.6	10.2	
	13.1	13.3	16.2	
	12.7	13.4	8.1	
	15.0	15.5	(8.2)	１図-４
	15.4	14.5	(8.0)	
	13.9	15.1	(6.7)	
	13.1	15.7	7.8	
	14.7	13.8	15.9	
	11.3	15.3	7.6	
	14.0	12.9	6.7	
	12.3	(13.7)	5.4	
	13.1	9.6	7.3	
最小	10.4	9.6	5.4	
最大	16.3	18.3	18.6	
平均	13.6	14.6	8.8	
標準偏差	1.5	1.7	2.7	

括弧は破片値で、統計には含めていない

1.　クリ炭化果実・炭化子葉塊(24号竪穴建物)、2.　クリ炭化果実(24号竪穴建物)、3・4.　クリ炭化子葉(24号竪穴建物)、5.　クリ炭化子葉(24号竪穴建物、PLD-33213)、6.　クリ炭化子葉(24号竪穴建物、PLD-33214)、7.　イネ炭化種子塊(25号竪穴建物)、8.　イネ炭化種子塊(25号竪穴建物、PLD-33216)、9.　イネ炭化種子塊(25号竪穴建物、PLD-33215)、10.　アズキ炭化種子(24号竪穴建物)、11.　アズキ炭化種子(24号竪穴建物、PLD-33217)

１図　新井遺跡から出土した炭化種実

第５節　炭化材樹種同定

１．はじめに

群馬県吾妻郡東吾妻町厚田に位置する新井遺跡から出土した炭化材について、樹種同定を行った。

２．試料と方法

試料は、24号竪穴建物と25号竪穴建物から出土した建築部材の炭化材162点と、24号竪穴建物から出土した木器１点、25号竪穴建物出土の炭化米に付着していた編組製品１点の、合計164点である。調査所見によると、遺構の時期は弥生時代中期後半と推定されており、放射性炭素年代測定でも推定時期に対して整合的な結果が得られた（第３節参照）。

樹種同定は、現場での試料採取時に形状の確認とサイズ計測を行った。試料は、乾燥させた後、実体顕微鏡で観察して大まかな分類群に分けた。各分類群から電子顕微鏡観察試料を抽出し、カミソリまたは手で３断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径１㎝の真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

３．結果

樹種同定の結果、広葉樹のカツラとケンポナシ属、ケヤキ、クリ、ブナ属、ハンノキ属ヤシャブシ亜属（以下、ヤシャブシ亜属）、ハンノキ属ハンノキ亜属（以下、ハンノキ亜属）、カバノキ属、ヤナギ属、カエデ属、キハダ、トネリコ属シオジ節（以下、シオジ節）の12分類群と、単子葉類のイネ科草本があり、合計13分類群が確認された。結果の一覧を表３に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図１～３に示す。

（１）カツラ　*Cercidiphyllum japonicum* Siebold et Zucc. ex Hoffm. et Schult.　カツラ科　図１　1a-1c（25竪建-３）

小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に分布する散孔材である。道管の穿孔は階段状で30段程度となる。放射組織は１～３列幅で、平伏細胞と方形細胞からなる異性である。

カツラは暖帯から温帯に分布する落葉高木である。材は軽軟で靭性があり、加工は容易である。

（２）ケンポナシ属　*Hovenia*　クロウメモドキ科　図１　2a-2c（24竪建-21）

やや大型の道管が年輪はじめに配列し、晩材部では厚壁で小型の道管が単独もしくは２～３複合して散在する

表１　遺構と器種別の樹種同定結果

遺構名	24号竪穴建物		25号竪穴建物		
樹種 器種	建築部材	木器	建築部材	編組製品	計
カツラ			1		1
ケンポナシ属	1		4		5
ケヤキ	48		11		59
クリ	32		53		85
ブナ属			1		1
ハンノキ属ヤシャブシ亜属			1		1
ハンノキ属ハンノキ亜属			1		1
カバノキ属		1			1
ヤナギ属	2				2
カエデ属			1		1
キハダ	2				2
トネリコ属シオジ節			2		2
イネ科草本	1			1	2
同定不可	1				1
総計	87	1	75	1	164

環孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は異性で、１～３列幅である。

ケンポナシ属は暖帯から温帯に分布する落葉高木で、ケンポナシとケケンポナシの２種がある。材は重さおよび堅さは中庸で、切削加工は容易で狂いや割れは少ない。

（３）ケヤキ　*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino　ニレ科　図１　3a-3c（25竪建-１）

大型の道管が年輪のはじめに１列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は３～５列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や渓畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

（４）クリ　*Castanea crenata* Siebold et Zucc.　ブナ科　図１　4a-4c（24竪建-19）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

（５）ブナ属　*Fagus*　ブナ科　図１　5a-5c（25竪建-28）

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のものと階段状の2種類がある。放射組織はほぼ同性で、単列のもの、２～数列のもの、広放射組織の3種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は、堅硬および緻密で、靭性があるが保存性は低い。

（６）ハンノキ属ヤシャブシ亜属　*Alnus* subgen. *Alnaster*　カバノキ科　図１・２　6a-6c（25竪建-50）

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは散在状となる。道管の穿孔は10～20段程度の階段状である。放射組織は単列で、同性である。

ヤシャブシ亜属は主に温帯に分布する落葉高木または低木で、ミヤマハンノキやヤシャブシなど４種がある。材の硬さと重さは中庸である。

（７）ハンノキ属ハンノキ亜属　*Alnus* subgen. *Alnus*　カバノキ科　図２　7a-7c（25竪建-68）

小型の道管が放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは散在状となる。道管の穿孔は10～20段程度の階段状である。放射組織は単列同性で、集合放射組織が存在する。

ハンノキ亜属は主に温帯に分布する落葉高木または低木で、ハンノキやヤマハンノキなど７種がある。材は全般に硬さおよび重さが中庸で、加工は容易である。

（８）カバノキ属　*Betula*　カバノキ科　図２　8a-8c（24竪建-26）

やや小型で丸い道管が、ほぼ単独でまばらに分布する散孔材である。道管の穿孔は10～20段程度の階段状である。放射組織はほぼ同性で１～３列幅である。道管相互壁孔は交互状で極めて小さく、密に分布する。

カバノキ属は温帯から亜寒帯に分布する落葉高木もしくは低木で、カバノキやミズメなど11種がある。材は全般的にやや重厚で、切削および加工は中庸である。

（９）ヤナギ属　*Salix*　ヤナギ科　図２　9a-9c（24竪建-44）

やや小型の道管が、単独もしくは数個複合してやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列で、異性である。

ヤナギ属は暖帯から寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケショウヤナギやコゴメヤナギ、シダレヤナギなど、日本では90種程がある。材は全般に軽軟で、強度は低いが靭性があり、切削加工は容易である。

(10) カエデ属　*Acer*　ムクロジ科　図版２　10a-10c（25竪建-14）

径が中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。横断面において木部繊維の壁厚の違いによる雲紋状の模様がみられる。道管の穿孔は単一で、道管壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織はほぼ同性で、１～５列幅である。

カエデ属は主に温帯に分布する落葉高木で、オオモミジやハウチワカエデ、イタヤカエデなど26種がある。材は全体的に緻密で靭性がある。

(11) キハダ　*Phellodendron amurense* Rupr.　ミカン科　図２・３　11a-11c（24竪建-68）

大型で丸い道管が早材部に配列し、晩材ではごく小型で薄壁の小道管が集団をなして帯状～斜線状に配列する環孔材である。道管に赤褐色の樹脂が見られ、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、１～６列幅できれいな紡錘形となる。

キハダは温帯に分布する落葉高木である。材はやや軽軟で加工容易だが、水湿に強い。

(12)トネリコ属シオジ節　*Fraxinus* sect. *Fraxinaster*
モクセイ科　図３　(25竪建-11)

年輪のはじめに大型の道管が数列並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小道管が単独もしくは放射方向に２～３個複合して散在する。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、１～３列幅である。

シオジ節は温帯に分布する落葉高木で、シオジとヤチダモがある。材はやや重硬で粘りがあり、加工性および保存性は中庸である。

(13)イネ科草本　Poaceae　図３　13a (25竪建-76)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は薄い。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。小径で、維管束鞘が薄いため、草本と判断した。

４．考察

遺構と器種別の樹種同定結果を表１、建築部材の木取りを表２に示す。建築部材は、24号竪穴建物ではケヤキが48点、クリが32点、ヤナギ属とキハダが各２点、ケンポナシ属とイネ科が各１点であった。なお、試料が消滅して採取できなかった同定不能が１点ある。木取りでは、ケヤキとクリは柾目が多く、その他に板目と角材、割材、丸木も見られた。ケンポナシ属は柾目、キハダは柾目と板目、ヤナギ属は柾目と角材であった。25号竪穴建物ではクリが53点、ケヤキが11点、ケンポナシ属が４点、シオジ節が２点、カツラとブナ属、ヤシャブシ亜属、ハンノキ亜属、カエデ属が各１点であった。クリは柾目が多く、板目と角材、追柾目もみられた。ケヤキは柾目が多く、板材と割材もある。その他の樹種では、ケンポナシ属は柾目と板目、シオジ節は丸木と柾目、カツラとヤシャブシ亜属は板目、ハンノキ亜属とカエデ属は角材であった。

24号竪穴建物と25号竪穴建物の結果を比較すると、樹種構成は比較的類似しているが、24号竪穴建物ではケヤキが最も多くクリが２番目で、25号竪穴建物ではクリが最も多くケヤキが２番目であった。関東地方における弥生時代中期～古墳時代の建築部材にクヌギ節やコナラ節が多く利用される傾向があるが、群馬県の渋川市周辺では古墳時代の建築部材でクリの利用が多く確認されている(高橋，2012)。群馬県内の弥生時代中期の建築部材や炭化材で樹種同定された分析事例は確認できなかったが、新井遺跡周辺では弥生時代にもクリが多用されていた可能性がある。しかし、弥生時代の建築部材でケヤキを多用する事例は関東地方では確認できなかった。遺跡周辺に生育していた樹木が活用されたと推測される。ケヤキは重硬だが加工はそれほど困難ではなく、保存性も高い有用な材である。

24号竪穴建物出土の木器はカバノキ属で、木取りは横木取りであった。カバノキ属は群馬県では古墳時代以降の農工具に比較的多く見られるが、弥生時代以前ではあまり使用が確認されていない(伊東・山田編，2012)。カバノキ属は比較的重硬で緻密な材であり、近世の江戸周辺では挽物木地として利用されている(伊東・山田編，2012)。

25号竪穴建物出土の炭化米に付着して残存していた編組製品は、イネ科の草本であった。試料は幅２㎜、厚さ0.3㎜程で、元の素材を２～３分割程に割裂いてヒゴ状にしたと思われる。本試料は調理後の米が入れられた可能性があり(炭化種実同定の項参照)、容器として利用されていたと推測される。弥生時代の編組製品の出土例はあまり多くないが、比較的タケ亜科のササ類が多く確認されている(佐々木,2015)。イネ科草本の出土例は少ないが、タケ亜科などに比べて残存しにくいことも一因として考えられる。

参考・引用文献
平井信二(1996)木の大百科．394p，朝倉書店．
伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学－出土木製品用材データベース－．449p，海青社．
佐々木由香(2015)縄文・弥生時代の編組製品製作技法の特徴と時代差．あみもの研究会編「シンポジウム縄文・弥生時代の編組製品研究の新展開－植物資源利用・技法・用途－要旨集」：27-34，あみもの研究会．
高橋　敦(2012)北関東・甲信－茨城県・栃木県・群馬県・山梨県・長野県－．伊東隆夫・山田昌久編「木の考古学－出土木製品用材データベース－」：157-178，海青社．

表２　建築部材の樹種と木取り

樹種	24号竪穴建物										25号竪穴建物								計
	丸木	柾目		板目		角材		割材		不明	丸木	柾目	追柾目	板目	角材		割材	不明	
カツラ														1					1
ケンポナシ属		1										1		3					5
ケヤキ	1	34	(1)		(1)	6	(2)		(1)	2		8		1			1	1	59
クリ	1	10		4		8	(2)	2	(2)	3		23	3	10	16	(1)			85
ブナ属											1								1
ハンノキ属ヤシャブシ亜属														1					1
ハンノキ属ハンノキ亜属															1				1
ヤナギ属		1				1													2
カエデ属															1				1
キハダ		1		1															2
トネリコ属シオジ節											1	1							2
総計	2	47	(1)	5	(1)	15	(4)	2	(3)	5	2	33	3	16	18	(1)	1	1	160

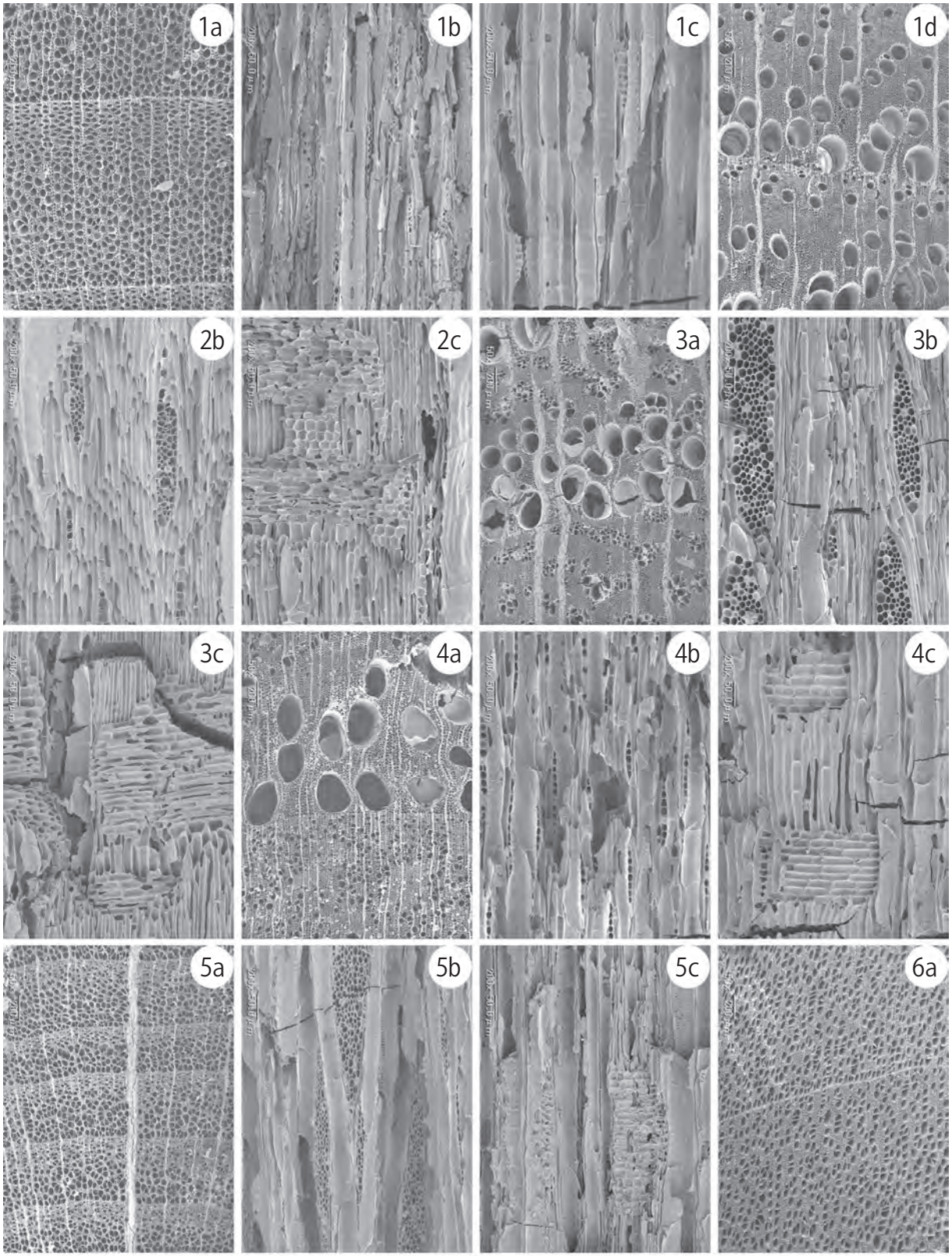
括弧内は形状が不明確（？付き）

表３　樹種同定結果一覧

遺構	試料No.	器種	サイズ(cm)			木取り	樹種
			長	幅	厚		
24号竪穴建物	24竪建-1	建築部材	29	10	3	角材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-2	建築部材	60	12.5	4.5	角材	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-3	建築部材	50	14	2.3	角材	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-4	建築部材	95	16	8	丸木	クリ
24号竪穴建物	24竪建-5	建築部材	15	17	4.5	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-6	建築部材	16	4.5	0.8	割材？	クリ
24号竪穴建物	24竪建-7	建築部材	22	6	1.8	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-8	建築部材	22	6	1.8	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-9	建築部材	26	4.5	1.5	割材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-10	建築部材	37	4.7	2.8	角材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-11	建築部材	18	5	2.3	角材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-12	建築部材	60	5	4.3	角材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-13	建築部材	21	8	3.8	板目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-14	建築部材	19	3	1.2	割材？	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-15	建築部材	12	12	3.7	角材	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-16	建築部材	11.5	13	2.3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-17	建築部材	21	19	4.3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-18	建築部材	21	19	4.3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-19	建築部材	17	5	3.5	角材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-20	建築部材	29	4.5	4	角材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-21	建築部材	4.5	5	2	柾目	ケンポナシ属
24号竪穴建物	24竪建-22	建築部材	15	6	2.8	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-23	建築部材	8	4.5	2.4	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-24	建築部材	75	8	5	角材？	クリ
24号竪穴建物	24竪建-25	建築部材	13	6.5	2.4	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-26	木器	13	6	1	横木取り	カバノキ属
24号竪穴建物	24竪建-27	建築部材	17	5	3	柾目？	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-28	建築部材	14	12	3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-29	建築部材	8	3	2.6	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-30_1	建築部材	4.5	4	3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-30_2	建築部材	φ5mm	-	-	-	イネ科
24号竪穴建物	24竪建-31	建築部材	9	5	1.8	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-32	建築部材	13	10	3.5	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-33	建築部材	114	6	4.7	角材	ヤナギ属
24号竪穴建物	24竪建-34	建築部材	20	4.5	1	板目	キハダ
24号竪穴建物	24竪建-35	建築部材	15	3.5	1	割材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-36	建築部材	30	13	2.5	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-37	建築部材	2.3	9	1.5	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-38	建築部材	16	10.5	2.3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-39	建築部材	13	4.5	1.5	角材	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-40	建築部材	19	8	2.5	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-41	建築部材	28	13	1.8	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-42	建築部材	40	12	2.7	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-43	建築部材	29	7	2	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-44	建築部材	9	11	2	柾目	ヤナギ属
24号竪穴建物	24竪建-45	建築部材	7	12	2.4	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-46	建築部材	12	5	4.8	丸木	ケヤキ

遺構	試料№	器種	サイズ(cm)			木取り	樹種
			長	幅	厚		
24号竪穴建物	24竪建-47	建築部材	19	8	4	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-48	建築部材	9	9	4	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-49	建築部材	15	9	3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-50	建築部材	8	3.2	1.6	角材	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-51	建築部材	14	5	7	板目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-52	建築部材	25	3	1.6	角材？	クリ
24号竪穴建物	24竪建-53	建築部材	6	3	2.5	角材？	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-54	建築部材	11	6	3.7	角材	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-55	建築部材	3	10	3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-56	建築部材	10	6.5	2.3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-57	建築部材	12	3	1.8	角材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-58	建築部材	6	3	1	割材？	クリ
24号竪穴建物	24竪建-59	建築部材	4	2	1.2	不明	クリ
24号竪穴建物	24竪建-60	建築部材	7	7	6	不明	クリ
24号竪穴建物	24竪建-61	建築部材	25	14	2.5	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-62	建築部材	6	9	2.5	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-63	建築部材	7	6	1	板目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-64	建築部材	61	18	4	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-65	建築部材	2.5	2	1.5	不明	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-66	建築部材	18	6	2	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-67	建築部材	12	8	3	板目？	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-68	建築部材	12	13	3	柾目	キハダ
24号竪穴建物	24竪建-69	建築部材	—	—	—	—	—
24号竪穴建物	24竪建-70	建築部材	25	9	2.5	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-71	建築部材	31	9	3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-72	建築部材	45	24	3.5	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-73	建築部材	2	1.5	2	不明	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-74	建築部材	5	5	1.8	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-75	建築部材	5	4.5	1.4	板目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-76	建築部材	18	8	2.8	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-77	建築部材	87	11	3.4	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-78	建築部材	26	5	2.4	角材？	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-79	建築部材	13	8	4.7	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-80	建築部材	28	7	3.8	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-81	建築部材	(15)	(8)	(3.2+)	不明	クリ
24号竪穴建物	24竪建-82	建築部材	8	5	4.5	角材	クリ
24号竪穴建物	24竪建-83	建築部材	6	4	0.8	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-84	建築部材	19	7	4.5	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-85	建築部材	40	21	3	柾目	ケヤキ
24号竪穴建物	24竪建-86	建築部材	40	8	2	柾目	クリ
24号竪穴建物	24竪建-87	建築部材	19	9	3.5	柾目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-1	建築部材	70	11	3.4	柾目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-2	建築部材	65	16	2.5	追柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-3	建築部材	49	17	6	板目	カツラ
25号竪穴建物	25竪建-4	建築部材	78	18	1.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-5	建築部材	8	10	5	板目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-6	建築部材	6	4	1.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-7	建築部材	55	8	1	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-8	建築部材	8	5	0.5	板目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-9	建築部材	17	7	1	柾目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-10	建築部材	7	6	1.2	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-11	建築部材	15	4.5	1.2	柾目	トネリコ属シオジ節
25号竪穴建物	25竪建-12	建築部材	7	7	2.5	柾目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-13	建築部材	8	4	2	板目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-14	建築部材	36	7	3.5	角材	カエデ属
25号竪穴建物	25竪建-15	建築部材	15	10	3	柾目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-16	建築部材	42	10	2	柾目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-17	建築部材	42	7	3	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-18	建築部材	5	4.5	1	柾目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-19	建築部材	43	9	3.4	柾目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-20	建築部材	—	—	—	不明	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-21	建築部材	18	6	2.4	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-22	建築部材	8	8	2	柾目	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-23	建築部材	14	9	3	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-24	建築部材	9	6	1	追柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-25	建築部材	25	9	2	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-26	建築部材	44	4	3.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-27	建築部材	6	5	1.2	板目	クリ

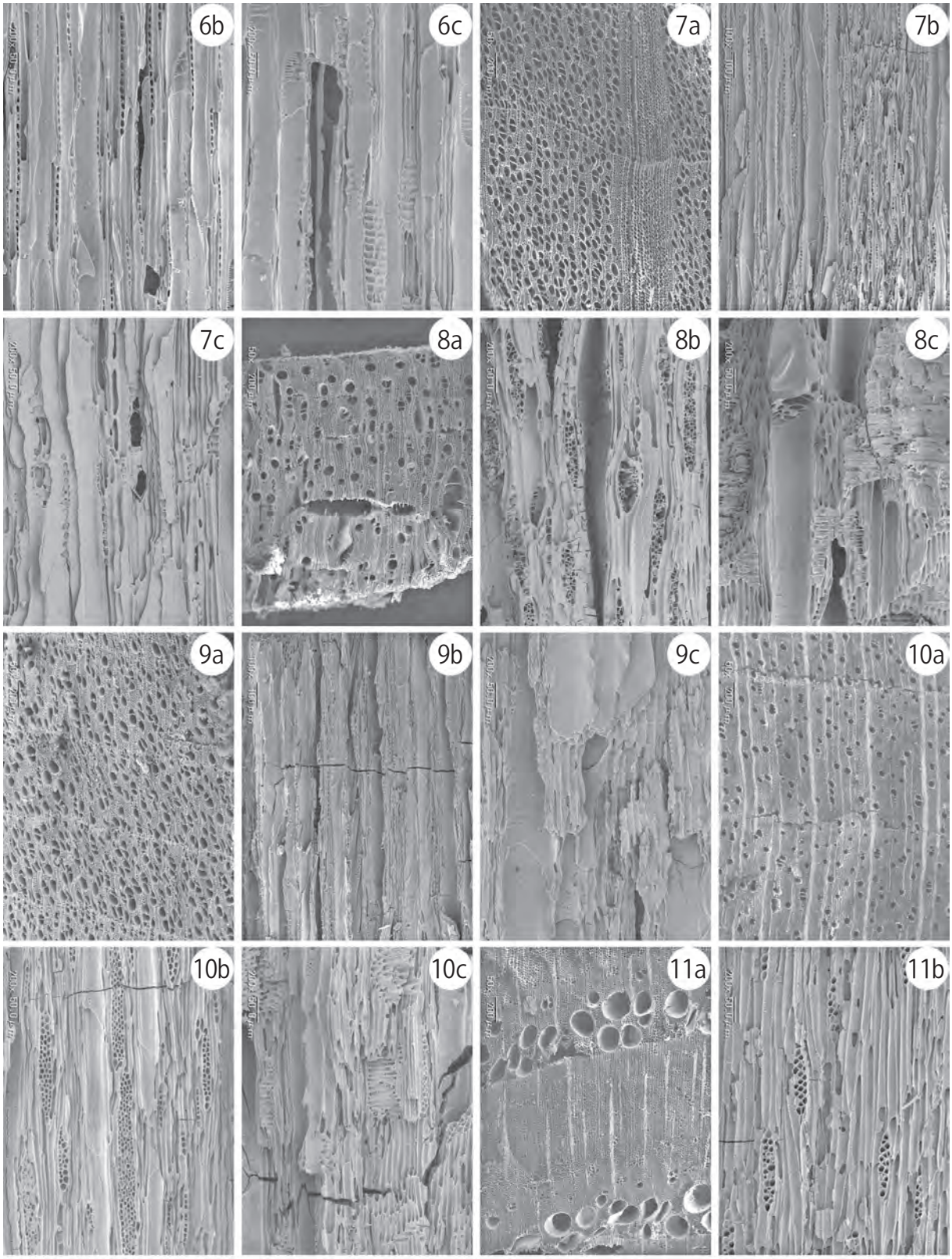
遺構	試料No.	器種	サイズ(cm)			木取り	樹種
			長	幅	厚		
25号竪穴建物	25竪建-28	建築部材	23	5	1.5	丸木	ブナ属
25号竪穴建物	25竪建-29	建築部材	13	12	2	板目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-30	建築部材	20	12	1.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-31	建築部材	20	9	4.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-32	建築部材	8	5	1.2	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-33	建築部材	11	7	3.5	割材	ケヤキ
25号竪穴建物	25竪建-34	建築部材	25	3	3	丸木	トネリコ属シオジ節
25号竪穴建物	25竪建-35	建築部材	11	5	3.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-36	建築部材	9	4	2	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-37	建築部材	25	12	3.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-38	建築部材	37	15	3.5	追柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-39	建築部材	9	5	5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-40	建築部材	13	5	4.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-41	建築部材	28	7	5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-42	建築部材	9	8	2.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-43	建築部材	22	7	3.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-44	建築部材	11	7	2.4	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-45	建築部材	40	24	1.5	板目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-46	建築部材	8	12	2.5	柾目	ケンポナシ属
25号竪穴建物	25竪建-47	建築部材	24	7	2	板目	ケンポナシ属
25号竪穴建物	25竪建-48	建築部材	17	11	2	板目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-49	建築部材	31	14	2.4	板目	ケンポナシ属
25号竪穴建物	25竪建-50	建築部材	20	12	4	板目	ハンノキ属ヤシャブシ亜属
25号竪穴建物	25竪建-51	建築部材	26	11	3.5	板目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-52	建築部材	5	6	1.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-53	建築部材	13	12	3.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-54	建築部材	21	4	1.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-55	建築部材	73	17	3.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-56	建築部材	12	10	3	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-57	建築部材	52	8	3.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-58	建築部材	40	9	5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-59	建築部材	48	10	3	板目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-60	建築部材	17	6	2.8	板目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-61	建築部材	25	8	1.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-62	建築部材	12	7	3.5	板目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-63	建築部材	12	8	0.5	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-64	建築部材	9	5	2.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-65	建築部材	24	6	2.8	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-66	建築部材	7	2.5	2	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-67	建築部材	15	4	2.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-68	建築部材	4	4	3.5	角材	ハンノキ属ハンノキ亜属
25号竪穴建物	25竪建-69	建築部材	14	8	3	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-70	建築部材	15	6	4.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-71	建築部材	46	9	2	角材？	クリ
25号竪穴建物	25竪建-72	建築部材	9	5	2	柾目	クリ
25号竪穴建物	25竪建-73	建築部材	18	12	2	板目	ケンポナシ属
25号竪穴建物	25竪建-74	建築部材	7	4	3	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-75	建築部材	6	6	2.5	角材	クリ
25号竪穴建物	25竪建-76	編組製品	－	0.5	－	割裂	イネ科



1a-1c　カツラ　(25竪建-３)、2a-2c　ケンポナシ属　(24竪建-21)、3a-3c　ケヤキ　(25竪建-１)、4a-4c　クリ　(24竪建-19)、
5a-5c　ブナ属　(25竪建-28)、6a　ハンノキ属ヤシャブシ亜属　(25竪建-50)
a:横断面、b:接線断面、a:放射　断面

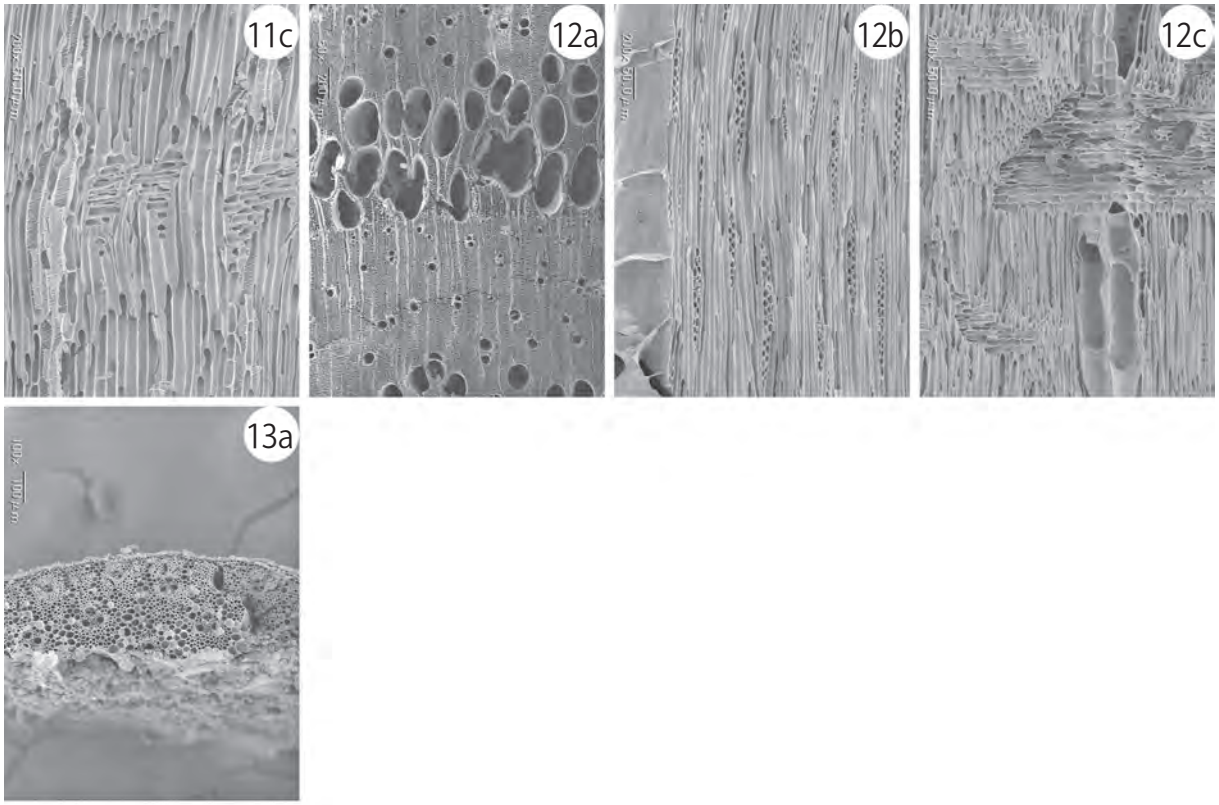
図１　新井遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真（１）

273



6b-6c　ハンノキ属ヤシャブシ亜属　(25竪建-50)、7a-7c　ハンノキ属ハンノキ亜属　(25竪建-68)、8a-8c　カバノキ属　(24竪建-26)、9a-9c　ヤナギ属　(24竪建-44)、10a-10c　カエデ属　(25竪建-14)、11a-11b　キハダ　(24竪建-68)
a:横断面、b:接線断面、a:放射　断面

図２　新井遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真（２）



11c　キハダ　(24竪建-68)、12a-12c　トネリコ属シオジ節　(25竪建-11)、13a　イネ科　(25竪建-76)
a:横断面、b:接線断面、a:放射　断面

図３　新井遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真（３）

第６節　ガラス玉・石製管玉の蛍光X線分析

【測定装置】

蛍光X線分析装置（XRF、日立ハイテクサイエンス製 エレメントモニタSEA1200VX）

【測定条件】

・使用管球：ロジウム

・加速電圧＋

1次フィルタ：15 kV＋フィルタなし（Na～Sの測定に使用）、

15 kV＋Crフィルタ（Cl～Crの測定に使用），

50kV+Pbフィルタ（Mn～Y，Hf～Uの測定に使用），

50kV+Cd（Zr～Baの測定に使用）

・ピーキングタイム：1.0 μsec

・コリメータ：φ1㎜

・雰囲気：真空（13Pa以下）30min

・測定時間：300s（フィルタごと）

【解析方法】

ガラス試料の解析にはNIST-620 Soda-Lime Flat Glassを標準試料として計測したデータを適用し、ガラス以外の試料の解析には装置に搭載されている汎用的な標準試料のデータを適用し、ファンダメンタルパラメータ法による定量を行った。

【コメント】

表２に検出された元素と割合を、表３に元素を単一の酸化物と仮定し再計算したものを示した。

　Coに関して、CoのKα線はFeのKβ線、ZnのエスケープピークとCoのKβ線から計算を行った。

表１　奈良文化財研究所（以後、奈文研とする）標準試料XRF分析結果

試料	奈文研標準試料
濃度	Wt%
SiO2	52.73
Na2O	11.65
K2O	7.89
CaO	11.17
MgO	4.52
Al2O3	3.70
Fe2O3	0.33
MnO	0.33
Sb2O5	0.20
PbO	0.19
CuO	0.22
CoO	0.05
BaO	0.06
TiO2	0.53
SnO2	0.02
SrO	0.03
Rb2O	0.00
V2O5	0.03
Cr2O3	0.00
NiO	0.03
ZnO	0.05
ZrO2	0.00
Ag2O	0.00
Bi2O3	0.00
P2O5	5.74
Cl	0.23
S1O3	0.29

※参考：奈文研標準試料

SiO2	55.24
Na2O	1.32
K2O	11.46
CaO	15.05
MgO	4.09
Al2O3	5.43
Fe2O3	0.50
MnO2	0.57
Sb2O5	0.96
PbO	0.27
CuO	0.40
CoO	0.02
BaO	0.33
TiO2	0.40
SnO2	0.13
SrO	0.05
Rb2O	0.01
Li2O	0.01
V2O5	0.02
Cr2O3	0.00
NiO	0.06
ZnO	0.10
ZrO2	0.01
Ag2O	0.01
Bi2O3	0.00
P2O5	4.02
Cl	0.40
SO2	0.30

※参考は、奈文研での標準試料の測定データである。群馬大の機器で測定した、奈文研より貸与された標準試料の測定データと比較する意味で提示する。なお、XRF分析ではLiの検出ができないので、表１ではLiの記載は無い。

表２　新井遺跡から出土ガラス玉・玉類のXRF分析結果（検出された元素）

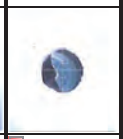
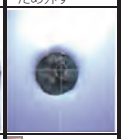
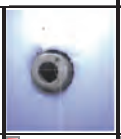
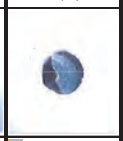
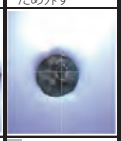
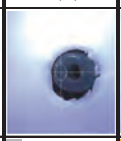
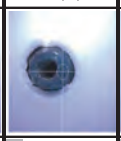
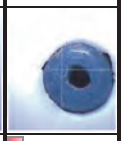
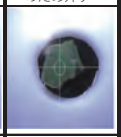
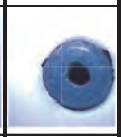
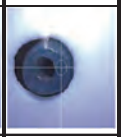
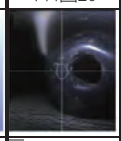
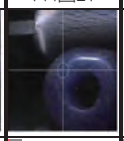
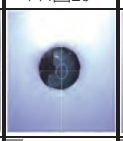
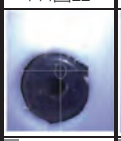
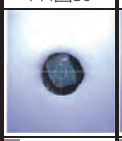
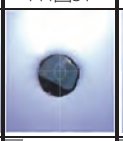
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
玉種類	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	管玉	管玉	ガラス玉	ガラス玉
玉色調	淡紺	淡紺	淡紺	紺	淡紺	紺	淡紺	灰緑色	灰緑色	淡紺	淡紺
区分	C区	C区	C区	C区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区
出土遺構名	4号竪状	4号竪状	4号竪状	遺構外	27号土坑	2号墳主体部	2号方形周溝墓Bベ南	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓
図番号	119図6	119図7	119図8	157図7	新しいガラスのため外す	154図3	125図1	126図1 同一個体		126図2	126図3
											
Na	9.63	11.01	9.81	11.58	10.39	9.44	10.92	9.82	8.89	12.13	10.20
Mg	2.31	2.71	1.90	2.24	2.43	2.30	2.48	2.58	2.33	2.46	2.65
Al	3.56	3.17	3.12	2.82	2.99	2.57	3.38	5.60	6.61	3.31	3.62
Si	62.28	58.68	70.36	59.88	63.42	64.25	62.10	68.66	64.08	62.37	62.71
P	1.81	1.69	1.94	1.63	2.01	2.00	1.68	2.07	2.03	2.06	1.80
K	13.74	15.03	6.41	13.48	4.70	3.25	14.95	2.45	3.31	11.21	13.74
Ca	1.07	1.96	1.29	2.22	3.50	10.41	0.85	5.19	6.69	0.89	1.01
Ti	0.42	0.34	0.45	0.40	0.15	0.71	0.41	0.66	0.75	0.34	0.40
Mn	0.02	0.04	0.01	2.85	0.08	0.25	0.02	0.02	0.10	0.02	0.02
Fe	1.31	0.99	0.90	2.63	0.49	3.73	0.76	2.18	4.28	0.77	0.91
Co	0.20	0.23	0.22	0.19	0.14	0.20	0.15	0.03	0.03	0.21	0.15
Cu	2.66	2.85	2.35	0.03	1.39	0.31	1.70	0.01	0.00	2.59	1.96
Rb	0.13	0.07	0.12	0.02	0.04	0.00	0.07	0.03	0.04	0.14	0.08
Sr	0.00	0.01	0.00	0.02	0.02	0.12	0.00	0.69	0.85	0.01	0.00
Zr	0.04	0.03	0.04	0.01	0.03	0.05	0.05	0.00	0.00	0.06	0.04
Pb	0.82	1.18	1.07	0.00	8.22	0.40	0.47	0.01	0.01	1.44	0.70

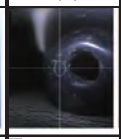
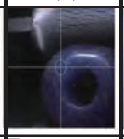
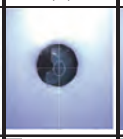
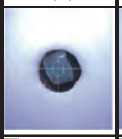
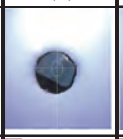
表３　新井遺跡から出土ガラス玉・玉類のXRF分析結果（元素を単一の酸化物と仮定し再計算したもの）

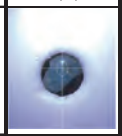
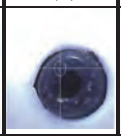
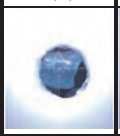
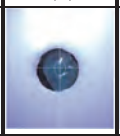
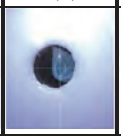
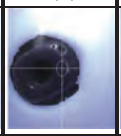
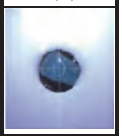
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
玉種類	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	管玉	管玉	ガラス玉	ガラス玉
玉色調	淡紺	淡紺	淡紺	紺	淡紺	紺	淡紺	灰緑色	灰緑色	淡紺	淡紺
区分	C区	C区	C区	C区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区
出土遺構名	4号竪状	4号竪状	4号竪状	遺構外	27号土坑	2号墳主体部	2号方形周溝墓Bベ南	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓
図番号	119図6	119図7	119図8	157図7	新しいガラスのため外す	154図3	125図1	126図1 同一個体		126図2	126図3
											
Na2O	9.62	11.06	9.74	11.55	10.48	9.28	11.03	9.87	8.83	12.15	10.27
MgO	2.49	2.93	1.99	2.42	2.64	2.45	2.67	2.74	2.50	2.61	2.86
Al2O3	4.07	3.65	3.45	3.23	3.42	2.91	3.85	6.18	7.44	3.72	4.12
SiO2	72.06	69.21	77.31	70.06	73.39	73.36	71.40	73.98	71.21	71.17	71.86
P2O5	1.80	1.73	1.75	1.63	2.03	1.93	1.64	1.84	1.93	2.01	1.75
K2O	6.84	7.72	2.92	6.85	2.24	1.59	7.32	1.09	1.57	5.45	6.71
CaO	0.56	1.06	0.65	1.19	1.85	5.67	0.43	2.61	3.55	0.46	0.52
TiO2	0.26	0.22	0.26	0.25	0.09	0.42	0.25	0.37	0.44	0.21	0.24
MnO	0.01	0.02	0.01	1.35	0.04	0.11	0.01	0.01	0.05	0.01	0.01
Fe2O3	0.68	0.53	0.44	1.37	0.25	1.86	0.39	1.04	2.14	0.40	0.47
CoO	0.09	0.11	0.09	0.08	0.06	0.08	0.07	0.01	0.01	0.10	0.07
CuO	1.16	1.28	0.97	0.01	0.61	0.13	0.73	0.00	0.00	1.13	0.85
Rb2O	0.04	0.02	0.04	0.01	0.01	0.00	0.03	0.01	0.02	0.05	0.03
SrO	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	0.05	0.00	0.25	0.31	0.00	0.00
ZrO2	0.02	0.01	0.02	0.00	0.01	0.02	0.02	0.00	0.00	0.02	0.02
PbO	0.29	0.43	0.36	0.00	2.85	0.14	0.17	0.00	0.00	0.50	0.25

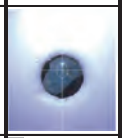
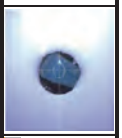
No.	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
玉種類	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	管玉片	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉
玉色調	淡紺	淡紺	淡紺	緑	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺
区分	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区
出土遺構名	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓主体部	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部
図番号	126図4	126図5	126図6	新しい人工物のため外す	126図7	144図13	144図14	144図16	144図17	144図15	144図19
											
Na	10.57	10.94	12.41	26.18	11.83	10.84	10.11	10.84	11.70	10.56	11.14
Mg	2.59	2.16	1.95	0.00	2.30	1.94	1.88	2.23	2.55	2.43	2.08
Al	4.75	3.37	3.28	4.00	3.01	3.16	4.40	2.79	3.05	3.14	3.22
Si	56.91	62.61	63.04	12.76	64.21	61.95	62.35	63.49	62.53	61.69	66.07
P	1.95	1.71	2.93	3.70	1.99	1.57	2.03	1.59	1.46	1.80	2.23
K	14.87	13.94	11.61	0.49	9.91	14.79	12.57	13.41	13.43	13.69	9.59
Ca	1.33	0.82	1.12	41.35	0.99	0.95	1.28	0.85	0.88	1.33	1.10
Ti	0.48	0.42	0.22	2.90	0.35	0.37	0.56	0.41	0.42	0.41	0.41
Mn	0.03	0.02	0.02	1.59	0.04	0.01	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02
Fe	1.61	0.96	0.71	6.30	1.01	0.86	1.25	0.70	0.72	0.87	0.76
Co	0.34	0.17	0.15	0.23	0.22	0.24	0.21	0.21	0.19	0.24	0.16
Cu	3.52	1.84	1.37	0.20	2.73	2.43	2.27	2.34	2.00	2.78	2.19
Rb	0.08	0.12	0.14	0.00	0.13	0.08	0.08	0.09	0.09	0.10	0.09
Sr	0.00	0.00	0.00	0.24	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
Zr	0.03	0.04	0.06	0.00	0.05	0.04	0.03	0.03	0.05	0.06	0.03
Pb	0.94	0.87	0.97	0.03	1.24	0.78	0.96	1.01	0.92	0.87	0.90

No.	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
玉種類	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	管玉片	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉
玉色調	淡紺	淡紺	淡紺	碧	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺
区分	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区
出土遺構名	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓主体部	2号円形周溝墓	2号円形周溝墓	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 1号主体部
図番号	126図4	126図5	126図6	新しい人工物のため外す	126図7	144図13	144図14	144図16	144図17	144図15	144図19
											
Na2O	10.57	11.01	12.54	27.34	11.78	10.87	10.13	10.87	11.77	10.57	11.13
MgO	2.81	2.33	2.07	0.00	2.43	2.09	2.02	2.39	2.73	2.61	2.19
Al2O3	5.48	3.84	3.69	5.29	3.37	3.61	5.01	3.17	3.45	3.58	3.60
SiO2	67.24	71.94	71.28	18.55	72.71	71.85	71.55	72.93	71.66	71.50	73.94
P2O5	2.03	1.67	2.79	5.49	1.91	1.55	1.99	1.55	1.42	1.79	2.09
K2O	7.77	6.81	5.51	0.37	4.77	7.36	6.18	6.55	6.56	6.83	4.51
CaO	0.73	0.42	0.57	34.45	0.52	0.50	0.67	0.44	0.45	0.70	0.56
TiO2	0.31	0.25	0.13	2.50	0.21	0.23	0.34	0.25	0.25	0.25	0.25
MnO	0.01	0.01	0.01	1.04	0.02	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
Fe2O3	0.88	0.49	0.35	4.54	0.52	0.45	0.65	0.36	0.37	0.45	0.38
CoO	0.16	0.08	0.07	0.14	0.10	0.11	0.09	0.09	0.08	0.11	0.07
CuO	1.61	0.79	0.58	0.12	1.18	1.06	0.98	1.01	0.87	1.22	0.93
Rb2O	0.03	0.04	0.05	0.00	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.03
SrO	0.00	0.00	0.00	0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ZrO2	0.02	0.02	0.03	0.00	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01
PbO	0.35	0.31	0.34	0.02	0.43	0.28	0.34	0.36	0.33	0.31	0.31

No.	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
玉種類	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉
玉色調	淡紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺
区分	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区
出土遺構名	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部
図番号	144図18	144図20	144図21	144図26	144図23	144図22	破片のため実測なし	144図33	144図36	144図31	144図30
											
Na	10.54	9.28	8.36	11.08	11.36	9.74	10.81	11.01	9.48	11.48	9.73
Mg	2.02	1.95	2.19	2.72	2.52	1.86	2.50	2.44	2.02	2.71	2.35
Al	3.31	2.98	2.79	3.67	2.36	2.45	2.48	2.73	3.50	4.77	3.48
Si	65.37	66.18	69.68	62.81	61.45	64.84	66.14	63.17	62.70	66.62	63.17
P	1.94	1.89	2.04	1.99	1.55	1.90	1.99	1.65	1.64	2.13	1.58
K	12.22	8.34	5.27	12.37	12.16	13.36	8.93	10.74	14.23	5.58	14.21
Ca	0.95	3.20	2.78	0.94	2.34	1.91	2.35	2.67	1.16	1.40	0.99
Ti	0.44	0.37	0.50	0.47	0.35	0.31	0.38	0.40	0.45	0.47	0.40
Mn	0.01	2.36	2.94	0.02	3.33	1.65	2.15	2.58	0.01	0.03	0.01
Fe	0.79	3.25	3.27	0.92	2.41	1.84	2.13	2.37	0.88	1.08	0.96
Co	0.15	0.12	0.07	0.17	0.07	0.08	0.06	0.13	0.21	0.22	0.20
Cu	1.70	0.03	0.03	1.99	0.03	0.02	0.03	0.03	2.43	2.20	1.92
Rb	0.07	0.03	0.04	0.09	0.03	0.02	0.02	0.02	0.10	0.11	0.11
Sr	0.00	0.02	0.03	0.00	0.02	0.02	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00
Zr	0.04	0.01	0.00	0.03	0.01	0.00	0.01	0.01	0.04	0.04	0.04
Pb	0.42	0.00	0.00	0.73	0.00	0.00	0.01	0.01	1.13	1.14	0.84

No.	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
玉種類	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉
玉色調	淡紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺
区分	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区
出土遺構名	4号方形周溝墓 1号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部
図番号	144図18	144図20	144図21	144図26	144図23	144図22	破片のため実測なし	144図33	144図36	144図31	144図30
											
Na2O	10.60	9.15	8.18	11.15	11.29	9.76	10.76	10.95	9.51	11.45	9.78
MgO	2.16	2.08	2.32	2.91	2.71	2.00	2.65	2.61	2.18	2.85	2.54
Al2O3	3.73	3.37	3.11	4.13	2.69	2.79	2.77	3.09	4.02	5.24	3.98
SiO2	73.77	74.94	77.35	71.43	71.35	74.33	74.26	72.36	72.66	72.92	72.69
P2O5	1.83	1.78	1.86	1.92	1.53	1.80	1.85	1.59	1.63	1.96	1.54
K2O	5.80	4.01	2.45	5.99	6.10	6.45	4.22	5.27	7.05	2.57	6.96
CaO	0.48	1.67	1.44	0.48	1.25	0.98	1.20	1.41	0.61	0.71	0.51
TiO2	0.26	0.22	0.30	0.28	0.21	0.18	0.23	0.24	0.28	0.28	0.24
MnO	0.01	1.07	1.32	0.01	1.57	0.74	0.97	1.19	0.01	0.01	0.00
Fe2O3	0.39	1.63	1.61	0.47	1.24	0.91	1.05	1.20	0.46	0.54	0.49
CoO	0.06	0.05	0.03	0.08	0.03	0.03	0.02	0.06	0.09	0.10	0.09
CuO	0.72	0.01	0.01	0.85	0.01	0.01	0.01	0.01	1.06	0.93	0.83
Rb2O	0.02	0.01	0.01	0.03	0.01	0.01	0.01	0.01	0.04	0.04	0.04
SrO	0.00	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00
ZrO2	0.02	0.00	0.00	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.02	0.02	0.01
PbO	0.15	0.00	0.00	0.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.40	0.39	0.30

No.	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
玉種類	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉
玉色調	紺	紺	紺	紺	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺	紺	紺
区分	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区
出土遺構名	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 周溝	4号方形周溝墓 周溝
図番号	144図29	144図24	144図32	144図34	144図25	144図28	144図27	144図35	144図37	144図38
										
Na	11.11	12.95	9.52	9.64	10.49	10.28	10.86	10.23	11.93	11.00
Mg	2.54	2.66	2.09	1.80	2.43	2.48	2.16	2.07	2.57	2.47
Al	3.33	2.63	2.55	2.51	3.23	3.37	3.32	3.51	2.32	3.48
Si	62.07	60.89	72.20	71.70	69.46	63.47	64.07	63.96	64.14	62.25
P	1.56	3.69	2.27	2.17	2.44	1.76	1.80	2.03	1.78	2.22
K	13.72	11.49	2.52	3.08	6.93	13.48	12.38	13.45	8.37	13.50
Ca	0.87	1.75	3.07	3.09	1.03	0.90	0.94	0.82	2.86	0.79
Ti	0.41	0.46	0.50	0.48	0.47	0.43	0.39	0.44	0.41	0.42
Mn	0.01	1.57	2.51	2.66	0.01	0.01	0.01	0.03	2.29	0.01
Fe	0.72	1.69	2.60	2.63	0.72	0.88	0.78	0.77	3.11	0.70
Co	0.19	0.10	0.07	0.13	0.14	0.18	0.17	0.15	0.13	0.22
Cu	2.23	0.01	0.03	0.04	1.95	1.80	2.03	1.63	0.03	2.17
Rb	0.10	0.05	0.02	0.02	0.08	0.11	0.07	0.11	0.02	0.07
Sr	0.00	0.03	0.03	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00
Zr	0.07	0.01	0.02	0.01	0.03	0.04	0.05	0.03	0.02	0.04
Pb	1.07	0.00	0.00	0.01	0.60	0.81	0.95	0.77	0.00	0.67

No.	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43
玉種類	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉	ガラス玉
玉色調	紺	紺	紺	紺	淡紺	淡紺	淡紺	淡紺	紺	紺
区分	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区	D区
出土遺構名	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 2号主体部	4号方形周溝墓 周溝	4号方形周溝墓 周溝
図番号	144図29	144図24	144図32	144図34	144図25	144図28	144図27	144図35	144図37	144図38
										
Na2O	11.18	13.05	9.34	9.44	10.48	10.35	10.90	10.31	11.80	11.07
MgO	2.73	2.84	2.18	1.88	2.56	2.67	2.31	2.22	2.71	2.64
Al2O3	3.78	2.96	2.79	2.76	3.55	3.83	3.76	3.99	2.59	3.94
SiO2	71.45	69.27	78.32	78.22	75.86	72.56	72.90	72.91	72.68	71.27
P2O5	1.54	3.53	1.98	1.92	2.18	1.70	1.73	1.94	1.69	2.16
K2O	6.75	5.53	1.13	1.39	3.13	6.53	5.96	6.46	4.05	6.59
CaO	0.45	0.90	1.55	1.57	0.51	0.46	0.48	0.41	1.51	0.41
TiO2	0.25	0.28	0.29	0.28	0.27	0.26	0.23	0.26	0.25	0.25
MnO	0.01	0.71	1.10	1.17	0.01	0.01	0.00	0.02	1.05	0.01
Fe2O3	0.37	0.84	1.25	1.27	0.35	0.45	0.40	0.39	1.57	0.36
CoO	0.08	0.04	0.03	0.05	0.06	0.08	0.08	0.07	0.06	0.10
CuO	0.97	0.01	0.01	0.01	0.80	0.77	0.87	0.69	0.01	0.94
Rb2O	0.03	0.02	0.01	0.01	0.03	0.04	0.03	0.04	0.01	0.02
SrO	0.00	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
ZrO2	0.03	0.00	0.01	0.00	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02
PbO	0.38	0.00	0.00	0.00	0.20	0.28	0.33	0.27	0.00	0.24

第７節　赤色顔料分析

志賀智史（九州国立博物館）

１．はじめに

群馬県吾妻郡東吾妻町大字厚田字新井にある新井遺跡から出土した赤色顔料について分析調査を行った。

古墳の埋葬施設や埴輪、特殊な形態の土器等は赤彩がなされているものが多いことから、考古学においては赤色は祭祀や儀礼と密接に関わる色と考えられている。この赤色は、赤色鉱物の粉末によるもので、考古資料としては赤色顔料と呼ばれる。古墳時代以前の赤色顔料は、これまでの調査によって水銀を主成分とする朱（化学組成はHgS，鉱物名称は辰砂（Cinnabar））と、赤色の酸化鉄を主成分とするベンガラ（化学組成はα-Fe2O3，鉱物名は赤鉄鉱（Hematite）等）の二種類が知られている。

２．調査資料

調査資料は８点。赤色顔料の可能性が高いものとして土壌とともに取り上げられていたものと、赤く塗られた土器がある。資料の所属時期は、弥生時代中期後半が３点、同後期が２点、古墳時代前期が２点、古墳時代中期後半が１点である（第１表）。

３．調査方法

赤色顔料か否かは、実体顕微鏡観察、生物顕微鏡観察および蛍光Ｘ線分析の結果から判断した。また、より詳しい調査としてＸ線回折を行った。

（１）顕微鏡観察

顕微鏡観察は赤色物の有無、付着状況、二種類の赤色顔料や遺跡土壌の混在状況、粒子形態、有機物の有無等を知るために行った。調査前に資料を自然乾燥させた。実体顕微鏡観察（７-100倍）では、白色光に近い光で資料を直接観察した。赤色顔料が単体で塊状に遺存する場合、朱はショッキングピンク色～オレンジ色に、ベンガラは暗赤色等に見える。

生物顕微鏡観察（50-1000倍）では、サンプリングして合成樹脂オイキットを用いてプレパラートに封入した資料を、側射光及び透過光を用いて観察した。側射光では朱はルビー色の樹脂状光沢を持つ透き通った粒子に、ベンガラは暗赤色等の微粒子で、直径約１μmのパイプ状、螺旋状、不定形等の粒子が観察される。

（２）蛍光Ｘ線分析（ＸＲＦ）

主成分元素を知るために行った。朱はHg（水銀）が、ベンガラはFe（鉄）が検出される。測定は、資料調整を行わずに行ったため、土壌や土器に含まれるFeも検出されている可能性がある。測定には、据置型のHORIBA XGT-5200（Rh,50kv,100ｓ，ＳＤＤ,測定径約100μm,検出器付近真空,検出元素Na-Ｕ）を用いた。第１表には、赤色顔料に関連すると思われる元素のみを記載した。

（３）Ｘ線回折（ＸＲＤ）

結晶構造を知るために行った。朱は辰砂（Cinnabar,HgS）が、ベンガラは赤鉄鉱（Hematite,α-Fe203）他が同定される。微量のものは測定を行っていない。測定は、資料で資料調整を行わずに行ったため、土壌に含まれる鉱物も検出されている可能性がある。測定機器は、RIGAKU RINT UltimaⅢ（Cu,40kV,40mA,平行法）を用いた。第１表には、赤色顔料に関連すると思われる鉱物のみを記載した。

４．調査結果のまとめと考察

調査結果を第１表に示す。特徴的な写真とスペクトルを第１～３図に示す。

（１）赤色顔料の種類

８点の赤色物はすべて実体顕微鏡観察で土壌や胎土よりも明確に赤く、明らかに赤色顔料と判断できるもののほか、これまでの群馬県内での調査から赤色顔料として使用例のある淡赤色のものであった。

赤色顔料の種類は、すべてベンガラであった。Ｘ線回折では、微量の資料７を除いて赤鉄鉱を同定した（第３図）。

（２）ベンガラの細分

今回検出したベンガラについては、ベンガラ粒子の形態から、ベンガラ（Ｐ）とベンガラ（不定形）の２種類に細

表１　新井遺跡出土の赤色顔料分析結果一覧

資料	区	遺構名	出土位置	状態	時代	各結果			赤色顔料の種類	観察所見、備考
						生物顕微鏡	蛍光X線分析	X線回折		
1	D	25号竪穴建物	赤色顔料1	単体	弥生中期後半	ベンガラ(P)	Fe	赤鉄鉱	ベンガラ(P)	赤色系統色のベンガラ小塊あり(最大径約3㎜)。
2	D	25号竪穴建物	赤色顔料2	単体	弥生中期後半	ベンガラ(P)	Fe	赤鉄鉱 磁赤鉄鉱	ベンガラ(P)	赤色系統色のベンガラ小塊あり(最大径約2㎜)。
3	A3	3号竪穴建物	覆土	椀に塗布	弥生中期後半	ベンガラ(P)	Fe,As	赤鉄鉱	ベンガラ(P)	遺物番号020007
4	D	1号円形周溝墓	2区	高杯に塗布	弥生後期	ベンガラ(P)	Fe	赤鉄鉱	ベンガラ(P)	遺物番号020631
5	5	60G		高杯に塗布	弥生後期	ベンガラ(P)	Fe	赤鉄鉱	ベンガラ(P)	遺物番号030174
6	D	4号方形周溝墓	ブロック	単体	古墳前期	ベンガラ(P)	Fe	赤鉄鉱	ベンガラ(P)	赤色系統色のベンガラ小塊あり(最大径約7㎜)。
7	D	4号方形周溝墓	2号主体部床面	単体	古墳前期	ベンガラ(P)	Fe	-	ベンガラ(P)	赤色系統色のベンガラ小塊あり(最大径約1㎜)。
8	C	1号竪穴建物	3号土坑	単体	古墳5世紀後半	ベンガラ(不定形)	Fe,As	赤鉄鉱 石英 明礬石	ベンガラ(不定形)	1.5×1.5×0.2㎝の板状のベンガラ小塊(群?)。透明・白色粒子が混在し全体として淡赤色。

分できた。

①ベンガラ(Ｐ)

直径約１μmのパイプ状粒子(第１図３，７)を含むものである。このパイプ状粒子については、湖沼等に棲む鉄細菌Leptothrixに由来するものと考えられている(岡田1997)。これを含む黄褐色の沈殿物を採取、焼成、赤化したものがベンガラとして使用されたと想定される。日本列島では、ベンガラ(Ｐ)の採用が一般的で、縄文時代草創期から認められる。

本遺跡の資料は、８点中７点(資料１～７)がベンガラ(Ｐ)であり、ほとんどがベンガラ(Ｐ)であった。

蛍光Ｘ線分析では、Fe以外に特徴的な元素は確認できないものが多かったが(第２図１，２，４～６)、資料３のみ砒素(As)を検出した(第２図３)。Ｘ線回折では赤鉄鉱以外のベンガラ由来と考えられる鉱物は同定できなかった(第３図１～６)。

ベンガラ(Ｐ)に含まれる砒素については、鉄細菌が水生のため砒素を含む温泉地から得られた鉄細菌がベンガラ素材となったのであれば十分理解可能である。将来的には砒素の有無によるベンガラ(Ｐ)のさらなる細分が可能となるかもしれない。ただし、これまで全国各地のベンガラ(Ｐ)の調査においては、明瞭な砒素のピークを確認した事例は少なく、現状では砒素を含むベンガラ(Ｐ)を積極的に評価することは難しい。

②ベンガラ(不定形)

通常のベンガラ(不定形)は、不定形粒子だけで構成され、特徴的な元素や鉱物を含まないものが一般的である。このベンガラ(不定形)は、鉱山から採掘された鉄鉱石(褐鉄鉱、赤鉄鉱、磁赤鉄鉱、磁鉄鉱等)が原料になったと推定され、これをそのまま、もしくは焼成、赤化したものがベンガラとして使用されたと想定される。日本列島では、ベンガラ(Ｐ)の採用が一般的であるものの、時期や地域によってはベンガラ(不定形)が採用されることが明らかになっている。

本遺跡の資料では、資料８のみがベンガラ(不定形)であったが、上述のような鉄鉱石素材のものではなく、筆者が「含明礬石ベンガラ(不定形)」と仮称している淡赤色を呈するものであった(志賀2021ｂ)。この含明礬石ベンガラ(不定形)は、火砕岩の酸性熱水変質作用によって生成された赤鉄鉱が原料と考えられ、淡赤色の要因である透明や白色系統色の鉱物が多数含まれ(第１図７)、蛍光Ｘ線分析では、Fe以外に微量のAsが特徴的に含まれ、Ｘ線回折(第３図７)では、赤鉄鉱(α-Fe_2O_3)以外に石英(SiO_2)と明礬石($KAl_3(SO_4)2(OH)_6$)が同定されるという特徴を持つ。

同様なベンガラは、群馬県の縄文時代前期～古代に一定数見られ、特に古墳時代中期、後期に顕著に採用されている(志賀2019ａ,2021ａ,2021ｂ)。

(３)ベンガラの遺存状況

①赤彩土器(資料３～５)

弥生時代中期後半の椀が１点(資料３)、と後期の高杯(資料４・５)が２点。赤色顔料はいずれもベンガラ(Ｐ)であった。本遺跡の対岸にある四戸の古墳群から出土した弥生時代後期後半の赤彩土器６点もベンガラ(Ｐ)が採用されていた(志賀2020)。

ベンガラの塗布範囲は、椀は土器外面および内面、高杯は土器外面と椀部の内面であり、使用時に見える部分にのみ赤彩が施されている。赤彩後に器面にヘラミガキが行われており、土器焼成前にベンガラを塗布し、ベンガラを焼き付けた土器、いわゆる焼成前塗彩の土器と考えられる。丹塗土器とも呼ばれる須玖式土器、パレススタイル土器、箱清水式土器などの一般的な赤彩土器は、ベンガラの焼成前塗彩である。

②単体で出土した資料(資料１，２，６～８)

弥生時代中期後半の２点(資料１、２)と古墳時代前期の２点(資料６、７)がベンガラ(Ｐ)、古墳時代中期後半の１点(資料８)は含明礬石ベンガラ(不定形)であり、ここでも主にベンガラ(Ｐ)が採用されていた。

ベンガラ(Ｐ)は、直径数㎜の赤色系統色(赤、橙、紫、焦茶など)で完全に粉になっていないベンガラ小塊がみられる(第１図１，５)。中には磁性のあるものもみられる。Ｘ線回折では、赤鉄鉱以外に磁赤鉄鉱を同定したものがある。色調の差や赤鉄鉱以外の酸化鉄の存在は、ベンガラ焼成時の焼き斑によるものと思われる。

含明礬石ベンガラ(不定形)は、1.5×1.5×0.2㎝で板状を呈していた。この中にも完全に粉になっていない小塊がみられたが、全体で一つの小塊なのか、小塊の集合体であるのか十分確認できなかった。

以上のような小塊を含み未完成品とも思えるベンガラの遺存状況は、墳墓などのベンガラの使用の場においても一般的なものである。

単体で出土したベンガラの用途については、４号方形周溝墓２号主体部床面の資料(資料７)が、遺骸頭部が推定される位置から出土したものであれば、遺骸に施されたものである可能性が考えられる。その場合遺骸に施される赤色顔料は朱であることが多い(本田1988,1995)ので、本資料のベンガラは朱の代用であったと考えられよう。その他、遺構や遺物との関係が明確であれば、ベンガラの用途が推定できる可能性があるが、多くの場合は用途の推定は困難である。

５．おわりに

本遺跡では二種類の赤色顔料のうち、ベンガラの採用が明らかになった。ベンガラは、ベンガラ(Ｐ)と含明礬石ベンガラ(不定形)の二種類みられ、ベンガラ(Ｐ)の採用が主体であった。このベンガラ(Ｐ)の採用は、日本列島全域の特徴である。

また、群馬県内のベンガラは上記以外に、鉄細菌の螺旋状粒子を素材としたベンガラ(Ｒ)や蛇紋岩由来の暗赤色土を素材とした含滑石ベンガラ(不定形)が知られている(志賀2015,2019ａ,2021ｂ)が、主体となるのはベンガラ(Ｐ)と含明礬石ベンガラ(不定形)である。本遺跡のベンガラは、群馬県内のベンガラの使用動向と一致するものであった。

〈謝辞〉

本研究は、九州国立博物館が群馬県埋蔵文化財調査事業団から依頼を受けた受託研究として行われました。研究を実施するにあたり、群馬県埋蔵文化財調査事業団ならびに同所属の杉山秀宏氏には大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。

また、本研究は、科研費　基盤研究(Ｃ) 21Ｋ00967の研究成果を含みます。

〈引用・参考文献〉

岡田文男1997「パイプ状ベンガラ粒子の復元」『日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集』日本文化財科学会

志賀智史2015「ベンガラ粒子の形態からみた北関東の前期古墳出土の丹塗土器について」『日本文化財科学会第32回大会研究発表要旨集』

志賀智史2019a「金井東裏遺跡から出土した赤色顔料について」『金井東裏遺跡《古墳時代編》理学分析編・考察編』群馬県埋蔵文化財調査事業団

志賀智史2019b「金井東裏遺跡出土１号甲の赤色顔料について」『金井東裏遺跡《古墳時代編》理学分析編・考察編』群馬県埋蔵文化財調査事業団

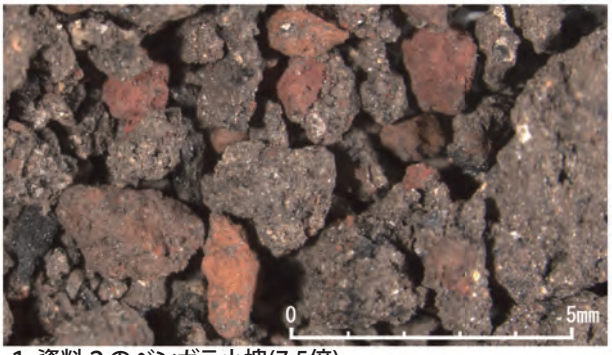
志賀智史2020「赤色顔料分析」『四戸の古墳群』群馬県埋蔵文化財調査事業団

志賀智史2021a「赤色顔料分析」『前橋0107遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団

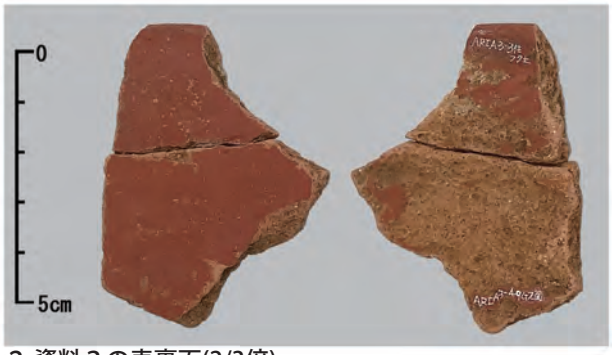
志賀智史2021b「金井下新田遺跡から出土した赤色顔料について」『金井下新田遺跡《古墳時代以降編》分析・論考編』群馬県埋蔵文化財調査事業団

本田光子1988「弥生時代の墳墓出土赤色顔料-北九州地方にみられる使用と変遷-」『九州考古学』62,九州考古学会

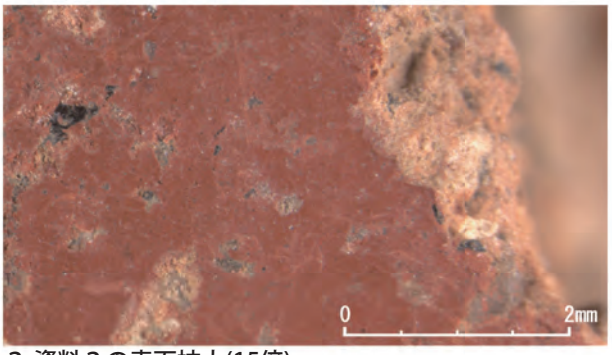
本田光子1995「古墳時代の赤色顔料」『考古学と自然科学』第31・32号(合併号),日本文化財科学会



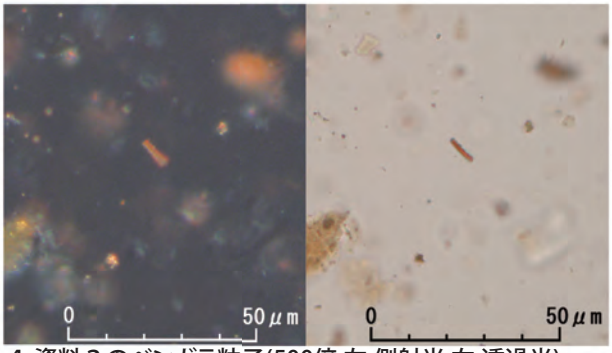
１.資料２のベンガラ小塊(7.5倍)
Ｄ区25号竪穴建物出土。素材の形状を残すベンガラ小塊が見られる。小塊は、焼成時の焼き斑により赤色や橙色を呈する。ベンガラ(P)であった。



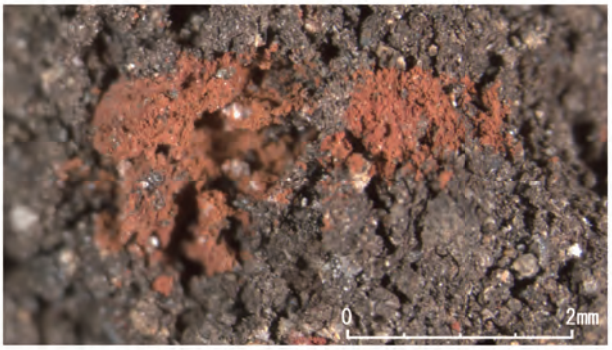
２.資料３の表裏面(2/3倍)
A3区３号竪穴建物覆土出土。椀のため、内外面が赤い。



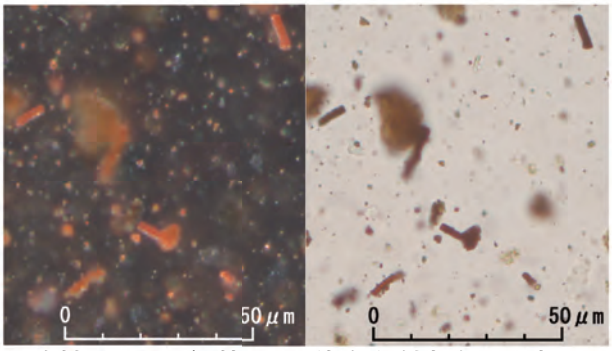
３.資料３の表面拡大(15倍)
赤色層は明瞭に赤く、土器胎土の色調とは異なる。



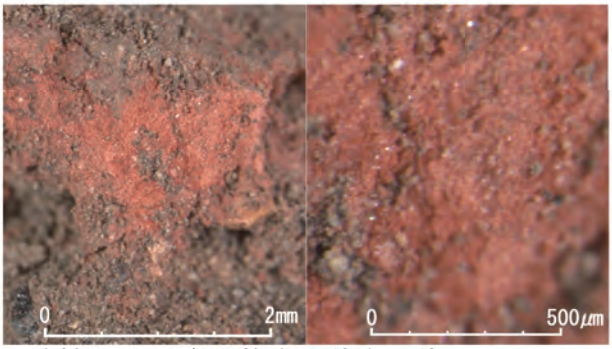
４.資料３のベンガラ粒子(500倍,左:側射光,右:透過光)
ベンガラ(P)であった。



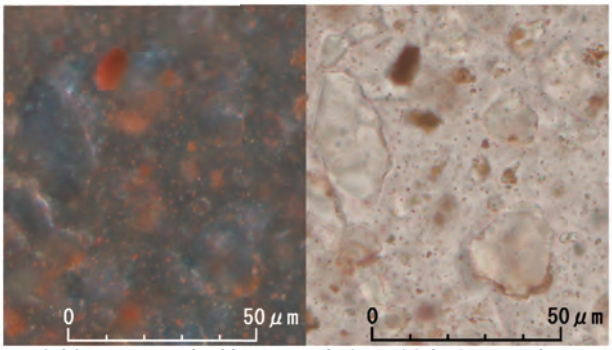
５.資料７のベンガラ小塊(15倍)
Ｄ区４号方形周溝墓２号主体部床面出土。素材の形状を残す赤色や橙色のベンガラ小塊が見られる。



６.資料７のベンガラ粒子(500倍,左:側射光,右:透過光)
ベンガラ(P)であった。

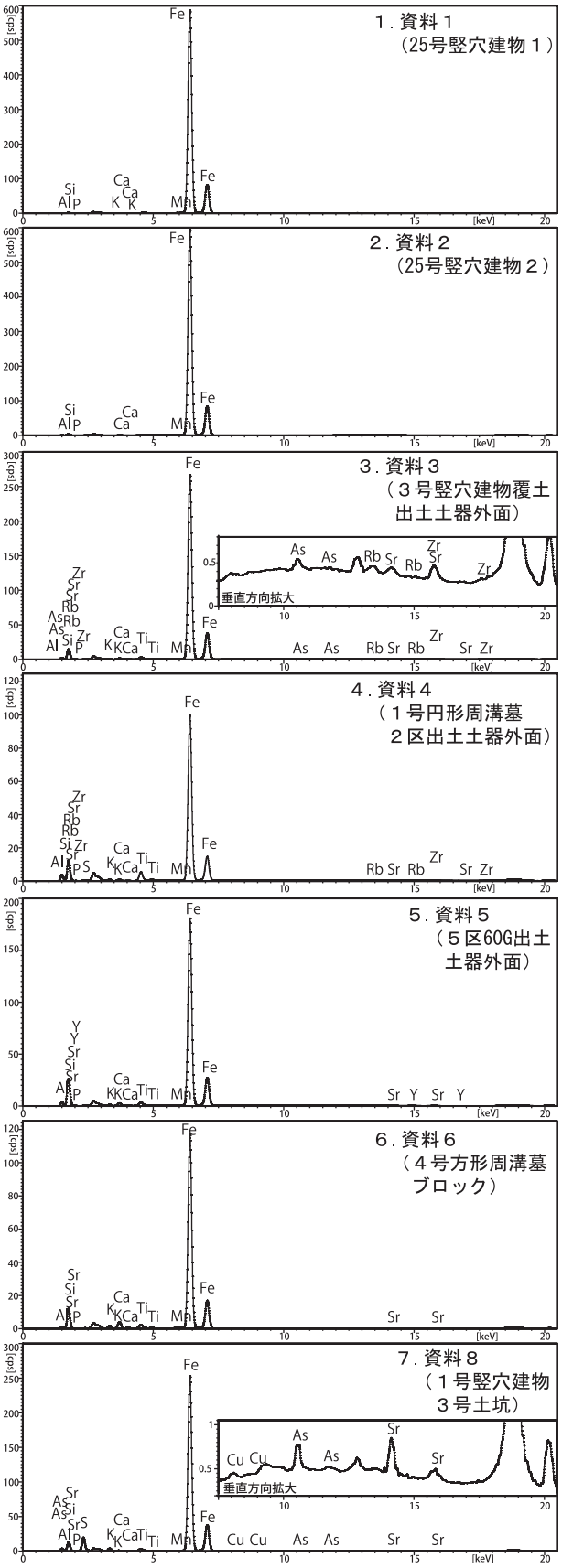


７.資料８のベンガラ小塊(左:15倍,右:50倍)
Ｃ区１号竪穴建物３号土坑出土。素材の形状を残す淡赤色のベンガラ小塊が見られる。拡大すると小塊の中に白色や半透明鉱物が混在している。

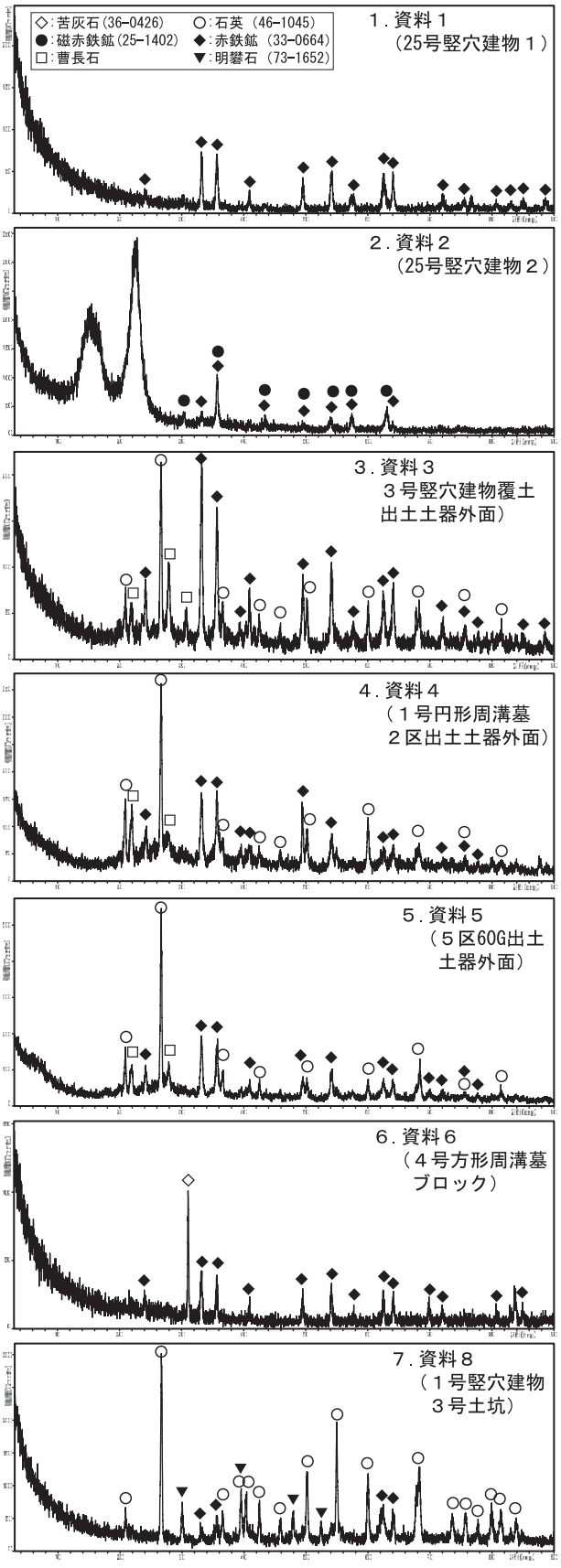


８.資料８のベンガラ粒子(500倍,左:側射光,右:透過光)
ベンガラ(不定形)であった。透明、半透明鉱物は、ベンガラに含まれる不純物で、石英を中心に明礬石もある。(第３図７を参照)

１図　赤色顔料の顕微鏡写真



２図　蛍光Ｘ線スペクトル図
生物顕微鏡観察の結果と合わせFe(鉄)はベンガラに由来するものと考えられるが、土壌や土器胎土由来の鉄も含まれている。



３図　Ｘ線回折図
資料が微量のため測定しなかった資料７以外は、ベンガラ由来と考えられる赤鉄鉱を同定した。

第８節　土師器・埴輪の薄片作製胎土分析

１．はじめに

土器などの焼物は、基本材料として粘土と砂粒などの混和物で構成されるが、粘土材料は比較的良質と思える粘土層から採取された状況が、粘土採掘坑の調査から推察される(藤根・今村，2001)。また、粘土自体に珪藻化石や放散虫化石が混在している場合があり、使用した粘土の堆積環境を推定できる。

縄文土器や弥生土器などの焼物材料としては、粘土が重要である。焼物の粘土として利用できる粘土材料は、固結していない地層、すなわち、およそ第三紀中新統以降の地層堆積物、第四紀鮮新統～更新統の段丘堆積物中の粘土質堆積物、そして断層粘土に限定できると考えられる(藤根，1998；藤根・小坂，1997)。

土器胎土中の砂粒物は、これらの粘土質堆積物に付随する砂粒の可能性が高いが、祭祀用とされる土器では、意図的に混和している場合も考えられる。例えば、東海地域の弥生時代後期の赤彩されたパレススタイル土器では、パレススタイル土器のうち３分の１程度に砂粒物として火山ガラスが多量に含まれている(藤根，1998)。これらの火山ガラスは、粘土採取場所の上下層や周辺に分布するテフラ層由来と考えられる。このように胎土分析においては、粘土や混和材について、岩石・鉱物のほか微化石類やテフラなどの記載が重要であり、粘土や砂粒物、混和物の特徴について調べたうえで、周辺地質と比較・検討する必要がある。

ここでは、群馬県吾妻郡東吾妻町大字厚田地内に所在する新井遺跡より出土した弥生時代～古代の土器や埴輪について、薄片の偏光顕微鏡観察を行い、粘土の種類と砂粒組成等の特徴を調べ、土製品の胎土材料について検討した。

２．試料と方法

分析試料は、弥生時代～古代の土器12点と、埴輪２点の、合計14点である(表１)。

試料は、岩石カッターを用いて切断整形し、全体にエポキシ系樹脂を含浸させて固化処理を行った。精密岩石薄片作製機で整形し、研磨フィルムを用いて研磨し、厚さ0.02㎜前後の薄片を作製した。最後に、仕上げとしてコーティング剤を塗布した。

薄片試料は、偏光顕微鏡を用いて薄片全面に含まれる微化石類(放散虫化石、珪藻化石、骨針化石など)、鉱物、大型砂粒の特徴、その他の混和物等について、観察と記載を行った。微化石類は、全体を300倍で観察した後、1500倍(油浸)で観察した。

なお、ここで採用した微化石類や岩石、鉱物の各分類群の特徴は、以下の通りである。

[放散虫化石]

放散虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放散虫化石は、海生浮遊性珪藻化石とともに外洋性堆積物中に含まれる。

表１　分析試料の詳細

分析№	器種	分析試料	遺物番号	区	遺構名	出土位置	遺構の時期	備考
1	壺(会津系)	胴部破片	20578	D区	24号竪穴建物		弥生時代中期後半	外来土器？
2	小型甕	口辺部破片	20590	D区	24号竪穴建物		弥生時代中期後半	
3	大型甕	胴部破片	20596	D区	24号竪穴建物		弥生時代中期後半	
4	甕	胴部破片	20610	D区	25号竪穴建物	8区	弥生時代中期後半	
5	甕	口辺部破片		A3区	Ⅳ-Ⅲ-15	黒色土中	弥生時代後期	
6	壺	胴部破片	2	D区	1号方形周溝墓	2区	古墳時代前期	
7	S字甕	口縁部片	30258	A3区	5号竪穴建物		古墳時代前期	外来土器？
8	壺	胴部破片	30255	A3区	5号竪穴建物		古墳時代前期	
9	内斜口縁杯	口辺部破片		C区	1号竪穴建物	覆土	古墳時代中期後半	外部土器？
10	須恵器模倣杯	口辺部破片		C区	1号竪穴建物	覆土	古墳時代中期後半	外部土器？
11	甕	胴部破片		C区	1号竪穴建物	覆土	古墳時代中期後半	
12	円筒埴輪	胴部破片	30243	D区	2号墳	周堀	古墳時代後期	藤岡産？
13	円筒埴輪	底部破片	30244	D区	2号墳	周堀	古墳時代後期	藤岡産？
14	甕	胴部破片		C区	2号竪穴建物	覆土	古代(9世紀)	

［**珪藻化石**］

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは10～数百μm程度である。珪藻は、海水域から淡水域に広く分布する。小杉(1988)や安藤(1990)は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石(海水種、淡水種)を分類した。

［**骨針化石**］

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状である。海綿動物の多くは海水産であるが、淡水産も23種ほどが知られ、湖や池、川の底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

［**植物珪酸体化石**］

主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10～50μm前後である。一般にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在する。

［**胞子化石**］

胞子は、直径約10～30μm程度の珪酸質の球状粒子である。胞子は、水成堆積物中に多く見られるが、土壌中にも含まれる。

［**石英・長石類**］

石英および長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶などのように、光学的な特徴をもたないものは石英と区別するのが困難な場合が多く、一括して扱う。

［**長石類**］

長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)によく見られる。パーサイト構造を示すカリ長石は、花崗岩などケイ酸分の多い深成岩などに産出する。

［**雲母類**］

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開(規則正しい割れ目)にそって板状に剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩などケイ酸分の多い火成岩に普遍的に産し、変成岩類や堆積岩類にも産出する。

［**輝石類**］

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石(主に紫蘇輝石)は、肉眼ではビール瓶のような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩類に産する。単斜輝石(主に普通輝石)は、肉眼では緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類や、ケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

［**角閃石類**］

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類、火山岩類に産出する。

［**ガラス質**］

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く湾曲したガラス(バブル・ウォール型：記載ではバブル型と略す)や、小さな泡をたくさんもつガラス(軽石型)などがある。主に火山噴火により噴出した噴出物(テフラ)である。なお、凝灰岩類中においても含まれる。

［**緑れん石**］

緑色～淡緑色のサイコロ状鉱物で、屈折率が高く、異常干渉色を示す。緑色片岩に特徴的に含まれる。

［**ザクロ石**］

無色透明の屈折率の高いサイコロ状鉱物である。変成岩中にごく普通に産出し、火山岩中にも含まれる。

［**片理複合石英類**］

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。雲母片岩や結晶片岩、片麻岩や粘板岩、千枚岩と考えられる。

［**複合石英類**］

複合石英類は、石英が集合している粒子で、基質(マトリックス)の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は、粗粒から細粒までさまざまである。ここでは便宜的に、粒径が0.01㎜未満の粒子を微細、0.01～

0.05㎜の粒子を小型、0.05～0.10㎜の粒子を中型、0.10㎜以上の粒子を大型と分類した。微細結晶の集合体である場合には、堆積岩類のチャートなどに見られる特徴がある。

［**砂岩質・泥岩質**］

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約0.06㎜以上のものを砂岩質、約0.06㎜未満のものを泥岩質とした。

［**斑晶質・完晶質**］

斜長石や輝石・角閃石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。直交ニコルの観察において結晶度が高い岩石片である。

［**流紋岩質**］

石英や長石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり、主に流理構造を示す岩石である。

［**凝灰岩質**］

ガラス質で斑晶質あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、直交ニコルの観察において結晶度が低く、全体的に暗い岩石片である。

［**不明粒子**］

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

３．結果および考察

偏光顕微鏡による各薄片の観察結果を述べる。粒子組成については、微化石類や岩石片、鉱物を記載するために、プレパラート全面を精査した。以下では、粒度組成や、0.1㎜前後以上の岩石片・鉱物の砂粒組成、微化石類などの記載を示す。なお、表2における不等号は、量比の概略を示す。また、表3の記号については、●は極めて多い、◎は非常に多い、○は多い、△は検出、―は不検出を示す。

以下に、粘土材料の分類、砂粒組成による分類、器種と胎土材料の特徴、周辺の地質環境、胎土材料の地域性、

表２　試料の粘土中の微化石類と砂粒組成の特徴記載

分析№	器種	粒度	最大粒径	微化石類の特徴	砂粒物岩石・鉱物組成
1	壺（会津系）	200μm～650μm	2.07㎜	珪藻化石(淡水種*Pinnularia*属、*Cymbella*属、不明種)、胞子化石、植物珪酸体化石(ヨシ属)	石英・長石類(ガラス付着有)、複合石英類(微細)、斑晶質、斜長石(累帯・双晶))ガラス質(バブル型・軽石型、淡褐色ガラス含む)>砂岩質、凝灰岩質、単斜輝石、角閃石類(大型)、斜方輝石(大型、ガラス付着有)、雲母類
2	小型甕	150μm～360μm	1.73㎜	骨針化石(1)、胞子化石、植物珪酸体化石	斜長石(累帯・双晶)、石英・長石類)斑晶質>凝灰岩質、複合石英類(微細)、砂岩質>ガラス質(バブル型・軽石型、淡褐色ガラス有)、単斜輝石(大型、ガラス付着有)、角閃石類(大型)、緑れん石、カリ長石(パーサイト)、複合石英類(大型)、雲母類
3	大型甕	180μm～480μm	1.73㎜	珪藻化石(淡水種*Pinnularia lata*、*Cymbell*属、D*iploneis*属、*Pinnularia*属、*Eunotia*属、不明種破片多い)、骨針化石(5)、胞子化石、植物珪酸体化石多産	石英・長石類、凝灰岩質、斑晶質、斜長石(双晶・累帯)、複合石英類(微細)>砂岩質、単斜輝石(大型、ガラス付着有)、角閃石類(大型)、ガラス質(バブル型・軽石型、淡褐色ガラス有)、緑れん石、カリ長石(パーサイト)、雲母類
4	甕	170μm～480μm	1.13㎜	珪藻化石(淡水種*Pinnularia*属、*Cymbella*属、*Eunotia*属、不明種破片多い)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石	斜長石(累帯・双晶、ガラス付着有)、石英・長石類)斑晶質>複合石英類(微細)、凝灰岩質、砂岩質、ガラス質(バブル型)、単斜輝石(大型)、角閃石類(大型)、斜方輝石、複合石英類(大型)、カリ長石(パーサイト)、流紋岩質、緑れん石、雲母類、ジルコン
5	甕	90μm～420μm	1.35㎜	珪藻化石(沼沢湿地付着生*Eunotia praerupta* var.*bidens*、同*Navicula elginensis*、同*Pinnularia viridis*、同*Cymbella aspera*、陸域*Hantzschia amphioxys*、淡水種*Pinnularia lata*、*Aulacoseira*属、*Cymbell*属、*Diploneis*属、*Eunotia*属、*Pinnularia*属多産、不明種破片多産)、骨針化石、胞子化石多産、植物珪酸体化石多産	石英・長石類)斜長石(累帯・双晶)、斑晶質>複合石英類(微細)、凝灰岩質、単斜輝石(大型目立つ)、角閃石類、斜方輝石、ガラス質(バブル型・軽石型)、複合石英類(大型)、雲母類、ジルコン
6	壺	150μm～530μm	1.19㎜	珪藻化石(沼沢湿地付着生*Eunotia praerupta* var.*bidens*、*Cymbella aspera*、同*Pinnularia viridis*、淡水種*Amphora ovalis*、*Diploneis ovalis*、*Aulacoseira*属、*Cymbell*属多い、*Diploneis*属、*Eunotia*属、*Navicula*属、*Pinnularia*属多い、不明種)、骨針化石(4)、胞子化石多産、植物珪酸体化石多産	ガラス質(バブル型・軽石型)、石英・長石類、斜長石(双晶・累帯、ガラス付着有)、斑晶質>複合石英類(微細)、砂岩質、凝灰岩質、角閃石類、単斜輝石(大型、ガラス付着有)、斜方輝石、緑れん石
7	S字甕	160μm～480μm	1.12㎜	珪藻化石(沼沢湿地付着生*Eunotia praerupta* var.*bidens*、同*Cymbella aspera*、同*Neidium iridis*、同*Eunotia pectinalis* var.*undulata*、淡水種*Eunotia diodon*、*Eunotia*属、*Diploneis*属、*Pinnularia*属、*Surirella*属目立つ、*Nitzschia*属、陸域*Hantzschia amphioxys*、不明種多い)、胞子化石多産、植物珪酸体化石	斑晶質・石英・長石類)斜長石(双晶・累帯)、複合石英類(微細)>凝灰岩質、複合石英類(大型)、角閃石類、単斜輝石、斜方輝石、ガラス質(バブル型)、流紋岩質、緑れん石、泥岩質(放散虫化石含む)
8	壺	180μm～480μm	1.23㎜	珪藻化石(淡水種*Pinnularia*属、*Cymbella*属、*Diploneis*属、陸域*Pinnularia subcapitata*、*Hanzschia amphioxys*、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石多産	石英・長石類)斑晶質、斜長石(双晶・累帯、ガラス付着有)、複合石英類(微細)>凝灰岩質、砂岩質、単斜輝石(大型)、斜方輝石(大型)、角閃石類、カリ長石(パーサイト)、完晶質、流紋岩質、複合石英類(大型)、ガラス質(バブル型)、緑れん石、ジルコン
9	内斜口縁杯	110μm～320μm	1.45㎜	胞子化石、植物珪酸体化石多産	斑晶質)斜長石(累帯・双晶)、石英・長石類、複合石英類(微細)>凝灰岩質、複合石英類(大型)、角閃石類、単斜輝石(大型)、斜方輝石、カリ長石(パーサイト)、ガラス質(バブル型・軽石型)、流紋岩質
10	須恵器模倣杯	160μm～470μm	1.47㎜	骨針化石(5)、植物珪酸体化石、イネ科植物遺体(珪酸体伴う)	石英・長石類、斜長石(双晶・累帯)>角閃石類(大型)、凝灰岩質)ガラス質(バブル型)、複合石英類(微細)、砂岩質、斜方輝石(大型)、複合石英類(小型)、ジルコン、ザクロ石、完晶質
11	甕	160μm～460μm	1.51㎜	植物珪酸体化石	石英・長石類、斜長石(双晶・累帯)>角閃石類(大型)、凝灰岩質)複合石英類(微細)、単斜輝石(大型、ガラス付着有)、斜方輝石(大型)、ガラス質(バブル型)、複合石英類(大型)、完晶質
12	円筒埴輪	150μm～420μm	1.47㎜	砂粒付着珪藻(陸域*Hantzschia amphioxys*,*Navicula ignota*)、胞子化石	石英・長石類)斜長石(累帯・双晶)、複合石英類(微細)>凝灰岩質、単斜輝石(大型)、斑晶質、完晶質、斜方輝石、泥岩質、角閃石類(大型)、複合石英類(大型)、ガラス質(バブル型)、ジルコン
13	円筒埴輪	140μm～460μm	1.49㎜	珪藻化石(淡水種*Pinnularia*属)、骨針化石(4)、胞子化石多産、植物珪酸体化石	石英・長石類)斜長石(双晶・累帯)、複合石英類(微細)>単斜輝石(大型、ガラス付着有)、斜方輝石(大型)、斑晶質、角閃石類(大型)、凝灰岩質、複合石英類(大型)、ガラス質(バブル型・軽石型)、カリ長石(パーサイト)、雲母類、ジルコン、ザクロ石
14	甕	230μm～620μm	1.54㎜	珪藻化石(淡水種*Pinnularia*属、不明種)、骨針化石(2)、胞子化石、植物珪酸体化石	斜長石(双晶・累帯)、複合石英類(微細)、砂岩質)石英・長石類、斑晶質、ガラス質(バブル型)、斜方輝石、単斜輝石(大型、ガラス付着有)、角閃石類(大型)、複合石英類(大型)、片理複合石英類、完晶質、緑れん石

その他の特徴について述べる。

３．１．粘土材料の分類

土器の薄片の全面を観察した結果、微化石類(珪藻化石、骨針化石)が検出された。微化石類の大きさは、珪藻化石が10～数100μm、骨針化石が10～100μm前後である(植物珪酸体化石は10～50μm前後)。一方、砕屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9μm以下、シルトが約3.9～62.5μm、砂が62.5μm～2mmである(地学団体研究会・地学事典編集委員会編，1981)。主な堆積物の粒度分布と微化石類の大きさの関係から、微化石類は粘土中に含まれると考えられる。植物珪酸体化石以外の微化石類は、粘土の起源(粘土層の堆積環境)を知るのに有効な指標になる。植物珪酸体化石については、土器製作の場で灰質に伴って多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を必ずしも指標しない。

今回の試料の胎土は、粘土中に含まれていた微化石類により、a)淡水成粘土、b)水成粘土、c)その他粘土、の3種類に分類された(表3)。以下では、それぞれの粘土の特徴について述べる。

表３　胎土中の粘土および砂粒の特徴一覧表

分析No.	器種	粘土の特徴								砂粒の特徴								鉱物の特徴								植物珪酸体化石	その他特徴
		種類	放散虫化石	珪藻化石	海水種	珪藻化石	淡水種	珪藻化石	不明種	骨針化石	胞子化石	分類	A・a 片岩類	B・b 深成岩類	C・c 堆積岩類	D・d 火山岩類	E・e 凝灰岩類	F・f 流紋岩類	G・g テフラ	石英	斜長石（双晶・累帯）	斜長石（パーサイト）	カリ長石	ジルコン	角閃石類	輝石類	雲母類	
1	壺(会津系)	淡水成	-	-	△	△	-	△	Ce	-	△	○	○	○	-	○	◎	◎	-	-	○	○	△	○	大型輝石類・角閃石類目立つ、淡褐色ガラス含む、凝灰岩起源のガラス・斑晶質有
2	小型甕	水　成	-	-	-	-	△	△	Ec	-	△	○	○	◎	-	△	○	○	△	-	○	○	△	○	大型輝石類・角閃石類目立つ、緑れん石
3	大型甕	淡水成	-	-	○	◎	△	○	Ec	-	△	○	○	◎	-	△	○	○	△	△	○	○	△	◎	大型輝石類・角閃石類目立つ、緑れん石、イネ籾珪酸体化石含む
4	甕	淡水成	-	-	○	◎	△	○	Ce	-	△	○	○	○	△	△	◎	◎	△	△	△	○	△	○	大型輝石類・角閃石類目立つ、緑れん石、ガラス質(有色含む)
5	甕	淡水成	-	-	●	●	△	●	Dc	-	△	○	◎	△	-	△	◎	○	-	△	△	○	△	●	沼沢湿地成粘土、大型輝石類目立つ
6	壺	淡水成	-	-	●	●	△	◎	Gd	-	△	△	○	△	△	◎	○	○	-	-	△	△	-	◎	沼沢湿地成粘土、大型輝石類目立つ、緑れん石
7	S字甕	淡水成	-	-	●	●	-	◎	Dc	-	△	○	◎	○	△	△	○	○	△	-	△	△	-	△	沼沢湿地成粘土、大型輝石類目立つ、緑れん石、泥岩質(放散虫化石含む)
8	壺	淡水成	-	-	△	△	△	○	Ce	-	△	◎	○	○	△	△	◎	○	△	△	○	○	-	◎	大型輝石類目立つ、緑れん石
9	内斜口縁杯	その他	-	-	-	-	-	-	Ec	-	-	○	△	○	-	△	◎	○	△	△	◎	△	-	◎	大型輝石類目立つ、赤～黒色粒子多い、ザクロ石
10	須恵器模倣杯	水　成	-	-	-	-	△	△	Ec	-	-	○	△	○	-	△	○	○	-	△	○	△	-	○	大型輝石類・角閃石類目立つ、イネ科植物遺体、赤～黒色粒子多い、ザクロ石
11	甕	その他	-	-	-	-	-	-	Ec	-	△	○	△	○	-	△	○	○	-	-	○	△	-	○	大型輝石類・角閃石類目立つ、赤～黒色粒子多い
12	円筒埴輪	その他	-	-	-	-	-	△	Ce	-	△	◎	△	○	-	△	◎	○	-	△	○	○	-	△	大型輝石類・角閃石類目立つ、貝化石含む泥岩質、焼成温度やや高い(溶融発泡)、黒色粒子多い、砂粒付着珪藻
13	円筒埴輪	淡水成	-	-	△	-	-	△	Ce	-	△	◎	○	○	-	△	◎	○	△	△	○	○	△	○	大型輝石類・角閃石類目立つ、赤褐色粒子やや多い、ザクロ石
14	甕	淡水成	-	-	△	△	△	△	Cd	△	△	○	○	△	-	△	○	○	△	△	△	○	-	△	大型輝石類目立つ、磁鉄鉱類、緑れん石

a)淡水成粘土(９胎土：分析№１、３～８、13、14)

これらの胎土中には、淡水種珪藻化石や骨針化石が含まれていた。特に、№３～７の胎土中には、多くの淡水種珪藻化石が含まれていた。また、№５～７の胎土中には、沼沢湿地指標種群の*Eunotia praerupta* var.*bidens*や*Pinnularia viridis*などが特徴的に多く含まれ、沼沢湿地成の粘土を利用したと推定される。また、分析№３と№４の胎土中にも淡水種珪藻化石が多く含まれていた。

b)水成粘土(２胎土：分析№２、10)

これらの胎土中には、骨針化石が僅かに含まれていた。

c)その他粘土(３胎土：分析№９、11、12)

これらの胎土中には、水成環境を指標する珪藻化石や骨針化石は含まれていなかった。

３．２．砂粒組成による分類

本稿で設定した分類群は、構成される鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。したがって、胎土中の鉱物と岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。特に、深成岩類を構成する鉱物群は粒度が大きいため、細粒質の砂粒からなる胎土の場合には、深成岩類の推定が困難な場合が多い。

ここでは、比較的大型の砂粒と鉱物群の特徴により、起源岩石の推定を行った(表３)。岩石の推定では、片理複合石英類が片岩類(A/a)、複合石英類(大型)が深成岩類(B/b)、複合石英類(微細)などが堆積岩類(C/c)、斑晶質・完晶質が火山岩類(D/d)、凝灰岩質や結晶度の低い火山岩が凝灰岩類(E/e)、流紋岩質が流紋岩類(F/f)、ガラス質がテフラ(G/g)である。

胎土中の砂粒組成は、表４の組み合わせに従って、１）Cd群またはDc群、２）Ce群またはEc群、３）Gd群の3群に分類された。以下に、分類された砂粒物の特徴について述べる。

１)主にCd群またはDc群(３胎土：分析№５、７、14)

これらの胎土の砂粒は、複合石英類(微細)や砂岩質からなる堆積岩類や、斑晶質や完晶質からなる火山岩類で

構成される。これらの胎土中には、凝灰岩質からなる凝灰岩や、ガラス質からなるテフラも普遍的に含まれていた。なお、分析№14の甕胎土中には、片理複合石英類からなる片岩類が少量含まれていた。

２）主にCe群またはEc群（10胎土：分析№1～4、8～13）

これらの胎土の砂粒は、複合石英類（微細）や砂岩質からなる堆積岩類や、凝灰岩質からなる凝灰岩で構成される。これらの胎土中には、斑晶質や完晶質からなる火山岩類や、ガラス質からなるテフラも普遍的に含まれていた。

３）主にGd群（1胎土：分析№6）

この胎土の砂粒は、ガラス質（バブル型・軽石型）のテフラや、斑晶質や完晶質からなる火山岩類で構成される。この胎土中には、複合石英類（微細）や砂岩質からなる堆積岩類や、凝灰岩質からなる凝灰岩も含まれていた。

３．３．器種と胎土材料の特徴

表５に、器種別の砂粒組成と粘土の種類についてまとめた。

新井遺跡から出土した土器および埴輪の胎土材料は、粘土材料において淡水成粘土9胎土、水成粘土２胎土、その他粘土3胎土を用いていた。また、砂粒組成では、主にCd群またはDc群が3胎土、主にCe群またはEc群が10胎土、主にGd群が1胎土であった。

分析№７のＳ字甕、分析№５や分析№14の胎土は、淡水成粘土を用い、主に堆積岩類と火山岩類からなるCd群またはDc群の砂粒で構成される。

分析№１の壺（会津系）、分析№３の大型甕、分析№４の甕、分析№８の壺、分析№13の円筒埴輪では、淡水成粘土を用い、主に堆積岩類と凝灰岩類からなるCeまたはEc群の砂粒で構成される。

分析№２の小型壺、分析№10の須恵器模倣杯は、水成粘土を用い、主に堆積岩類と凝灰岩類からなるCeまたはEc群の砂粒で構成される。

分析№９の内斜口縁杯、分析№11の甕、分析№12の円筒埴輪は、その他粘土を用い、主に堆積岩類と凝灰岩類からなるCeまたはEc群の砂粒で構成される。

分析№６の壺は、淡水成粘土を用い、主にテフラと火山岩類からなるGd群の砂粒からなる（表5）。

表４　岩石片の起源と組み合わせ

			第1出現群						
			A	B	C	D	E	F	G
			片岩類	深成岩類	堆積岩類	火山岩類	凝灰岩類	流紋岩類	テフラ
第2出現群	a	片岩類		Ba	Ca	Da	Ea	Fa	Ga
	b	深成岩類	Ab		Cb	Db	Eb	Fb	Gb
	c	堆積岩類	Ac	Bc		Dc	Ec	Fc	Gc
	d	火山岩類	Ad	Bd	Cd		Ed	Fd	Gd
	e	凝灰岩類	Ae	Be	Ce	De		Fe	Ge
	f	流紋岩類	Af	Bf	Cf	Df	Ef		Gf
	g	テフラ	Ag	Bg	Cg	Dg	Eg	Fg	

３．４．遺跡周辺の地質環境

遺跡周辺の第四紀では、後期更新世～完新世の礫・砂及び泥からなる新期段丘堆積物（図１の凡例ty）や礫・砂・泥及び泥炭からなる湖成堆積物または中期更新世の凝灰質シルト及び砂（礫を伴う）からなる萩生層（下司・竹内，2012；凡例I）、後期更新世の礫・砂・泥及び粘土からなる伊勢崎砂層など（凡例T）や安山岩岩塊・礫・砂及び泥からなる前橋泥流堆積物（凡例mm）、中期更新世の礫・砂及び泥からなる沼田湖成層（凡例N）、前期更新世の礫岩・砂岩・泥岩及び凝灰岩からなる西河原層など（凡例Nh）が分布する。この沼田湖成層の珪藻化石では、円形型の中心類に分類される*Cyclostephanos numataensis*や*Aulacoseira Subarctica*などの湖沼浮遊性の珪藻化石が優勢である（田中・南雲，2015）。また、第四紀の榛名火山では、火山砕岩からなる火山麓扇状地堆積物（凡例vd）、中期更新世～完新世の安山岩溶岩及び火砕岩からなる主成層火山及び側火山など（凡例Vh1）、前期-中期更新世の安山岩溶岩及び火砕岩からなる鼻曲-剣の峰火山岩類など（V1）が分布する。新第三紀では、鮮新世の安山岩溶岩及び火砕岩からなる火山岩類（凡例Vp）、中期中新世の礫岩・凝灰岩・砂岩及び泥岩からなる赤坂層（凡例As）が分布する。

富岡-藤岡地域では、第四紀中期更新世の礫・砂及び泥からなる古期段丘堆積物（凡例to）が分布する。新第三紀では、後期更新世の礫岩・砂岩及びシルト岩からなる板鼻層（凡例It）、中期中新世のシルト岩及び砂岩からな

表５　器種別の砂粒組成と粘土の種類

砂粒	粘土	小型甕	大型甕	S字甕	甕	壺	壺（会津系）	須恵器模倣杯	内斜口縁杯	円筒埴輪	総計
Cd/Dc	淡水成			1	2						3
Ce/Ec	淡水成		1		1	1	1			1	5
	水　成	1						1			2
	その他				1				1	1	3
Gd	淡水成					1					1
総計		1	1	1	4	2	1	1	1	2	14

る吉井層(凡例Ys)、礫岩・凝灰岩・シルト層及び泥岩からなる福島層及び赤谷層(凡例Fk)、砂岩泥岩互層からなる井戸沢層(凡例Id)、前期中新世の砂岩泥岩互層からなる小幡層(凡例Ob)などが分布する。また、閃緑斑岩からなる貫入岩類(凡例p)も分布する。

さらに、富岡-藤岡地域の古生代では、石炭紀-ジュラ紀の岩塊(凡例b)、ジュラ紀のチャート・石灰岩の岩塊を伴う含礫泥岩からなる秩父累帯万場・神吉田ユニット(凡例Ma)、玄武岩溶岩及び火砕岩からなる御荷鉾緑色岩類(凡例Mk)、石英片岩及び砂質片岩を伴う苦鉄質片岩及び泥質片岩からなる三波川変成岩類(凡例Sm)が分布する(図１：中野ほか，1998；須藤ほか，1991)。

なお、片理複合石英類に近い組織を示す頁岩は、赤城火山に東側では、中生代ジュラ紀の頁岩等からなる足尾帯(足尾帯の堆積岩コンプレックス)に含まれ、広く分布する(須藤ほか，1991)。

３．５．胎土材料の地域性

前述の地質環境から、遺跡周辺では、新期段丘堆積物(凡例ty)、湖成堆積物(凡例I)、前期更新世の西河原層(凡例Nh)、中期中新世の赤坂層など(凡例As)が粘土材料として利用可能である。また、これらの堆積層に関連する砂粒組成は、火山岩類、堆積岩類、凝灰岩類が優勢と考えられる。分析№14の甕を除いた土器あるいは埴輪は、これらの砂粒からなる組成を示していると考えられる。

なお、外来土器？とされる土器群が含まれているが、分析№14の甕を除いた土器あるいは埴輪は、大まかに地質学的に群馬県内の砂粒組成としても矛盾がないと思われる。

分析№14の甕は、片岩類を僅かに含む砂粒組成を示し、淡水成粘土を用いている。南側の富岡-藤岡地域では、新期段丘堆積物(凡例ty)、古期段丘堆積物(凡例to)、後期・中期・前期の板鼻層(凡例It)・吉井層(凡例Ys)・福島層及び赤谷層(凡例Fk)・井戸沢層(凡例Id)・小幡層(凡例Ob)あるいは風化した堆積物が利用可能である。これらの堆積物は、中新統の海成層であり(高橋・林，2004)、放散虫化石や海水種珪藻化石、骨針化石が特徴的である。分析№14の甕は、片岩類を僅かに含むが、放散虫化石や海水種珪藻化石は含まれず、骨針化石も少ないため、富岡-藤岡地域の材料の特徴とは断定できない。むしろ、片岩類とした砂粒は、石英片岩及び砂質片岩を伴う苦鉄質片岩及び泥質片岩からなる三波川変成岩類とは異なり、頁岩類の可能性がある。

分析№５の甕、分析№６の壺、分析№７のS字甕胎土中には、沼沢湿地付着生指標種群の*Eunotia praerupta* v.*bidens*などが特徴的に含まれ、沼沢湿地成の粘土が用いられていた。沼沢湿地成の粘土材料は、後期更新世～完新世の湖成堆積物または中期更新世の凝灰質シルト及び砂(礫を伴う)からなる萩生層(凡例I)、前期更新世の礫岩・砂岩・泥岩及び凝灰岩からなる西河原層など(凡例Nh)や赤城火山南麓の期更新世の伊勢崎砂層など(凡例T)の可能性がある。赤城火山南麓の後期更新世の伊勢崎砂層は、波志江中宿遺跡の古墳時代の粘土採掘坑の調査において、榛名八崎テフラ(Hr-HP)、姶良Tnテフラ(AT)、浅間黄褐色テフラ(As-BP)が挟在する沼沢湿地成粘土層が採掘対象であった(藤根・今村，2001)。この伊勢崎砂層は、波志江中宿遺跡のほか、舞台遺跡においても粘土採掘坑の採掘対象の地層であった(財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団，2001)。これらの土器では、火山岩類の砂粒を含む点で共通している。さらに、波志江中宿遺跡の粘土採掘坑と同時期に堆積した同様の堆積物は、東側に位置する萩原遺跡においても確認されている(東日本高速道路株式会社・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団，2010)。この萩原遺跡は、渡良瀬川扇状地と大間々扇状地に挟まれた地域であり、河川により上流域から運ばれてきた堆積岩類起源の砂粒を含むことが考えられる。分析№５と№7の砂粒組成がDc群であるが、萩原遺跡が位置する東側地域の砂粒組成と推定される。

分析№３の大型甕や分析№４の甕は、淡水種珪藻化石を多く含むが、主に堆積岩類と凝灰岩類からなるCeまたはEc群の砂粒で構成されており、前述の分析№５～７の土器胎土の特徴とは異なると考えられる。

中期更新世の沼田湖成層(凡例N)は、円形型の中心類に分類される*Cyclostephanos numataensis*などの湖沼浮遊性の珪藻化石が優勢の湖沼成粘土であるが、今回の分析対象とした土器群には見られなかった。

吾妻郡東吾妻町大字三島地内に所在する四戸の古墳群の埴輪胎土分析では、結晶片岩を特徴的に多く含むことから、三波川変成帯が分布する地域が想定された。一方、同時期の土師器は、結晶片岩を含まない砂粒組成を示し、

在地的材料の可能性が高いと推定されている。なお、一部の土師器胎土中には、頁岩類の砂粒が含まれている（パリノ・サーヴェイ株式会社，2020）。

３．６．その他の特徴

分析№12の円筒埴輪では、溶融を示す発泡した粒子が見られ、焼成温度がやや高いと推定される。

４．おわりに

土器や埴輪などは、土製品の製作に必要な良質と思われる粘土材料が不可欠である。なお、調査では、古代の粘土採掘坑が検出され、灰黄色粘土が確認されている。ここで確認された土器胎土の粘土材料の特徴は、対象とした粘土層の特徴である。今後、周辺域の地層堆積物中の微化石類あるいは付随する砂粒物の特徴を調べることにより、具体的な土器材料のイメージが明らかになると考えられる。

引用文献

安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42（２），73-88.

地学団体研究会・地学事典編集委員会編(1981)増補改訂 地学事典．1612p，平凡社.

藤根　久(1998)東海地域(伊勢－三河湾周辺)の弥生および古墳土器の材料．東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会編「土器・墓が語る：美濃の独自性 弥生から古墳へ」：108-117，東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会.

藤根　久・今村美智子(2001)第３節　土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴．群馬県埋蔵文化財調査事業団編「波志江中宿遺跡」：262-277，日本道路公団・伊勢崎市・群馬県埋蔵文化財調査事業団.

藤根　久・小坂和夫(1997)生駒西麓(東大阪市)産の縄文土器の胎土材料―断層内物質の可能性―．第四紀研究，36，55-62.

小杉正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，1-20.

東日本高速道路株式会社･財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2010)『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第500集：萩原遺跡』．財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団.

中野　俊・竹内圭史・加藤碩一・酒井　彰・浜崎聡志・広島俊男・駒沢正夫(1998) 20万分の１地質図幅「長野」．地質調査所.

パリノ・サーヴェイ株式会社(2020)第６節．四戸の古墳群．公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　第669集「四戸遺跡」，公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団.

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(2001)財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書282：舞台遺跡(１)，329p，財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団.

下司信夫・竹内圭史(2012)榛名山地域の地質．地域地質研究報告(５万分の１地質図幅)．産総研地質調査総合センター，79p.

須藤定久・牧本　博・秦　光男・宇野沢　昭・滝沢文教・坂本　亨・駒沢正夫・広島俊男(1991) 20万分の１地質図幅「宇都宮」．地質調査所.

田中宏之・南雲　保(2015)沼田湖成層(中部更新統，群馬県)から見出された珪藻群集．Bulletin of the Mizunami Fossil Museum，41，19-29.

高橋雅紀・林　宏樹(2004)群馬県富岡地域に分布する中新統の地質と複合年代層序．地質学雑誌，110，175-194.

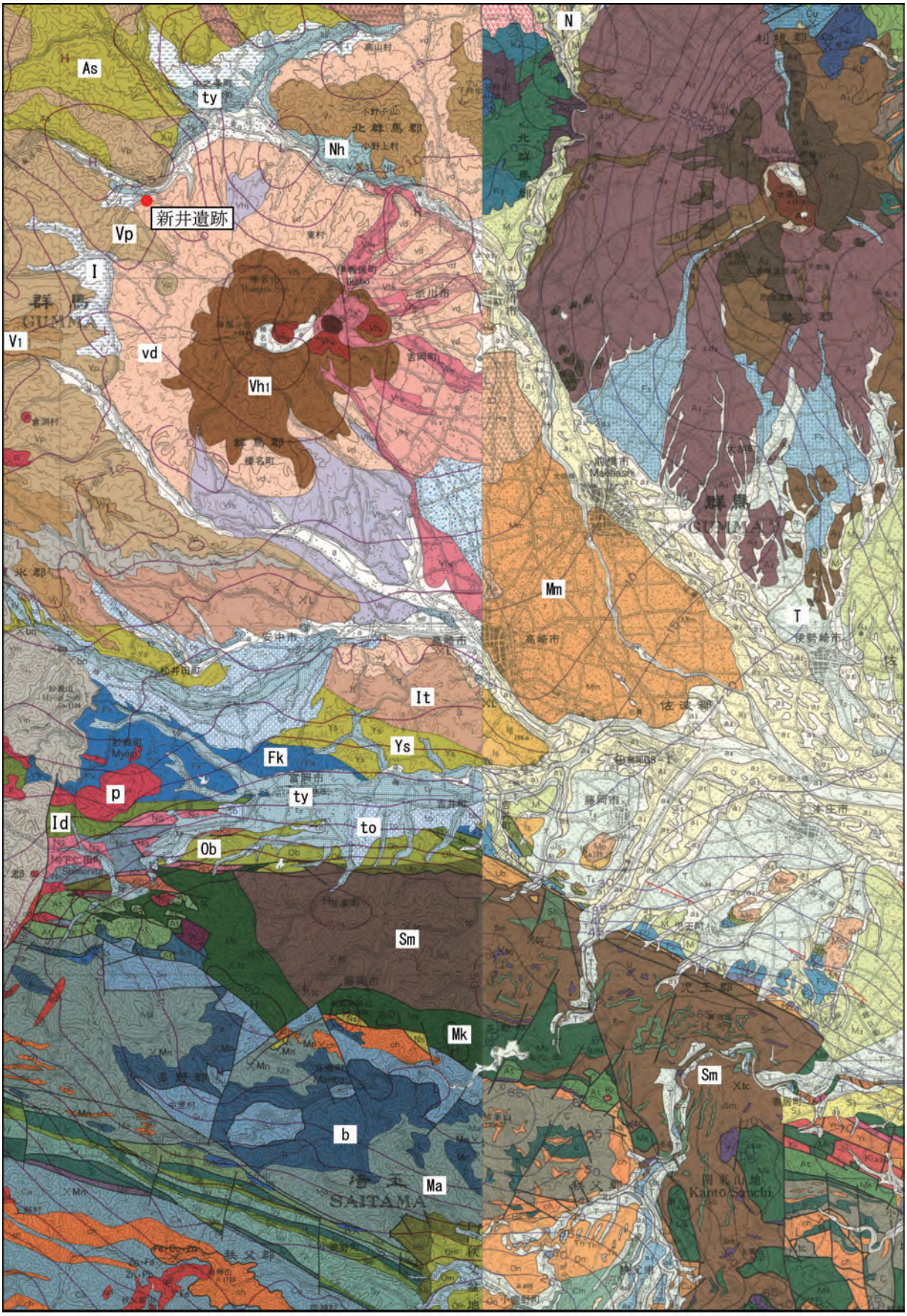
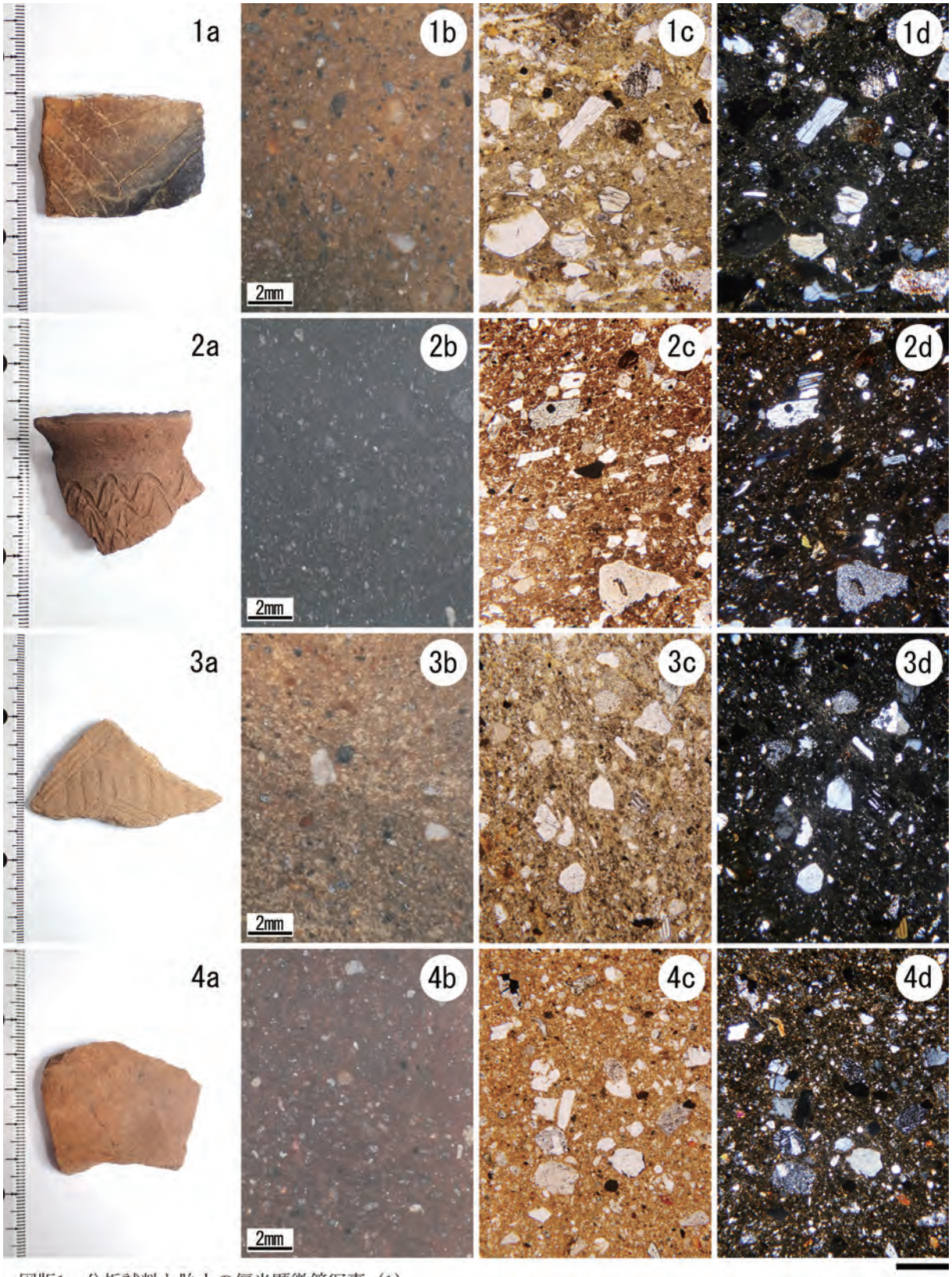


図1　新井遺跡と周辺の地質

（中野ほか（1998）20万分の1地質図幅「長野」と須藤ほか（1991）20万分の1地質図幅「宇都宮」を編集）



図版1　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（1）

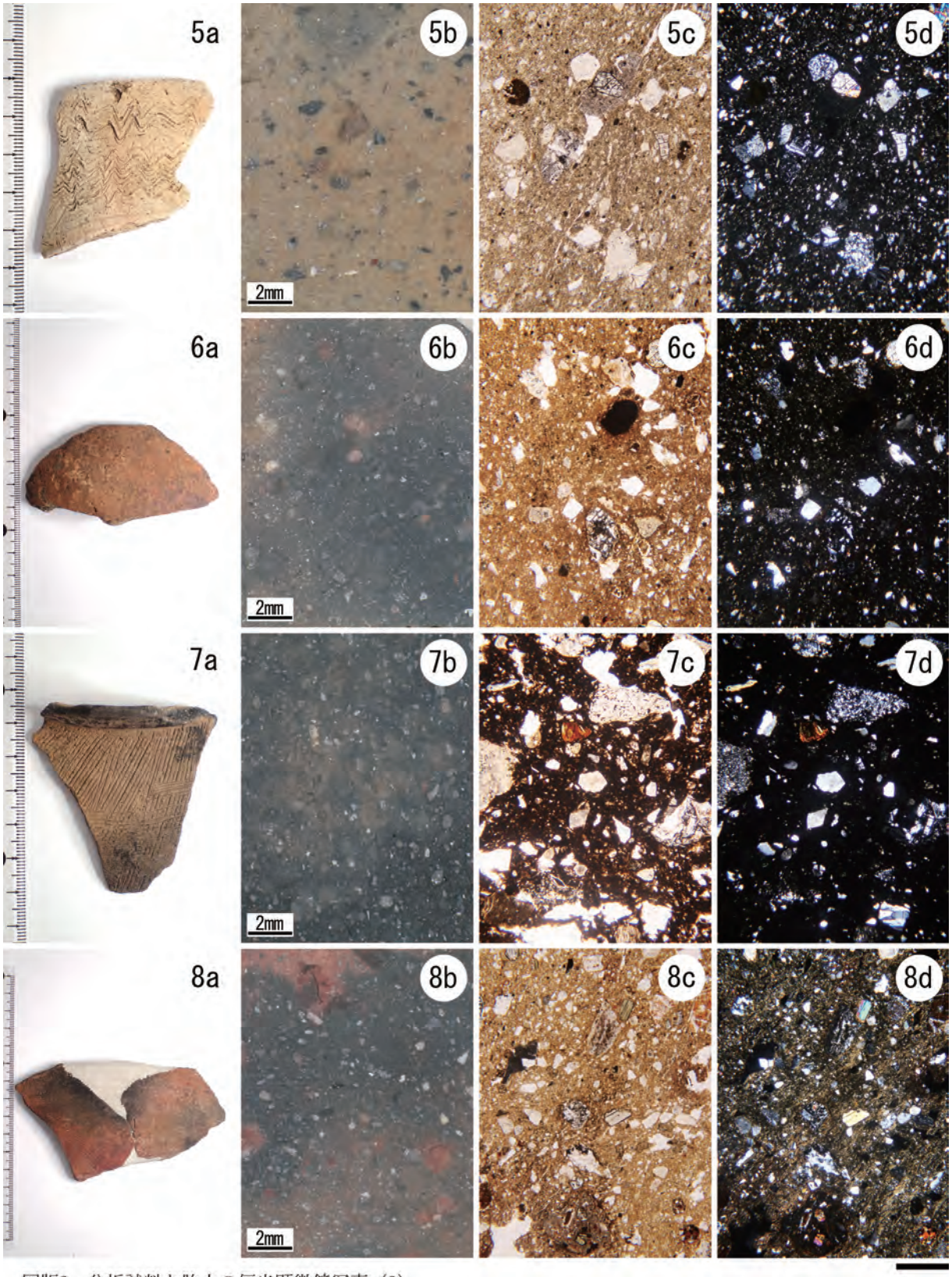
（スケール;1c, 1d, 2c, 2d, 3c, 3d, 4c, 4d:500μm）

1a. 分析No. 1　1b. 分析No. 1（断面）　1c. 分析No. 1（解放ニコル）　1d. 分析No. 1（直交ニコル）

2a. 分析No. 2　2b. 分析No. 2（断面）　2c. 分析No. 2（解放ニコル）　2d. 分析No. 2（直交ニコル）

3a. 分析No. 3　3b. 分析No. 3（断面）　3c. 分析No. 3（解放ニコル）　3d. 分析No. 3（直交ニコル）

4a. 分析No. 4　4b. 分析No. 4（断面）　4c. 分析No. 4（解放ニコル）　4d. 分析No. 4（直交ニコル）



図版2　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（2）

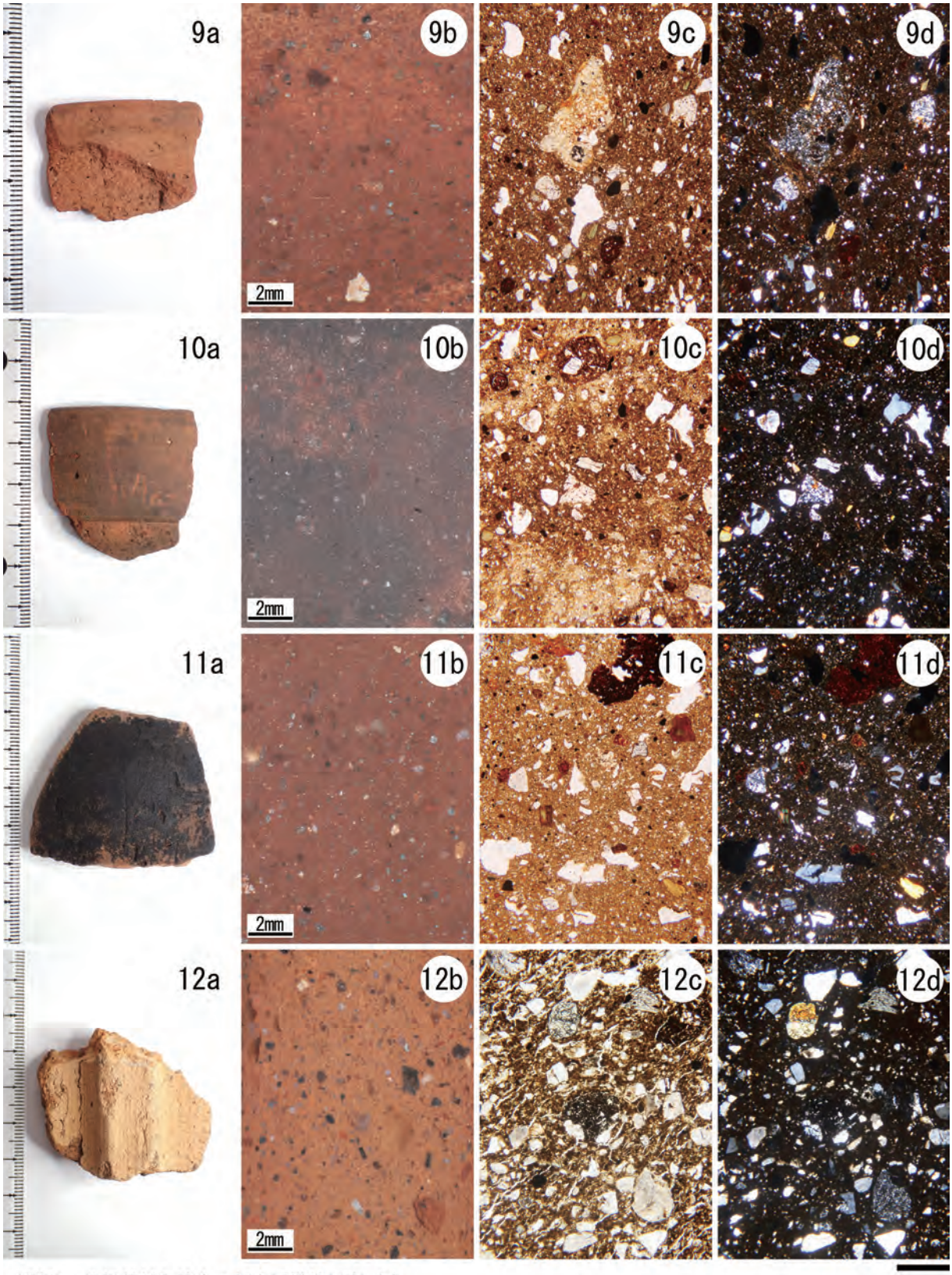
（スケール;5c, 5d, 6c, 6d, 7c, 7d, 8c, 8d:500μm）

5a. 分析No. 5　5b. 分析No. 5（断面）　5c. 分析No. 5（解放ニコル）　5d. 分析No. 5（直交ニコル）

6a. 分析No. 6　6b. 分析No. 6（断面）　6c. 分析No. 6（解放ニコル）　6d. 分析No. 6（直交ニコル）

7a. 分析No. 7　7b. 分析No. 7（断面）　7c. 分析No. 7（解放ニコル）　7d. 分析No. 7（直交ニコル）

8a. 分析No. 8　8b. 分析No. 8（断面）　8c. 分析No. 8（解放ニコル）　8d. 分析No. 8（直交ニコル）



図版3　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（3）

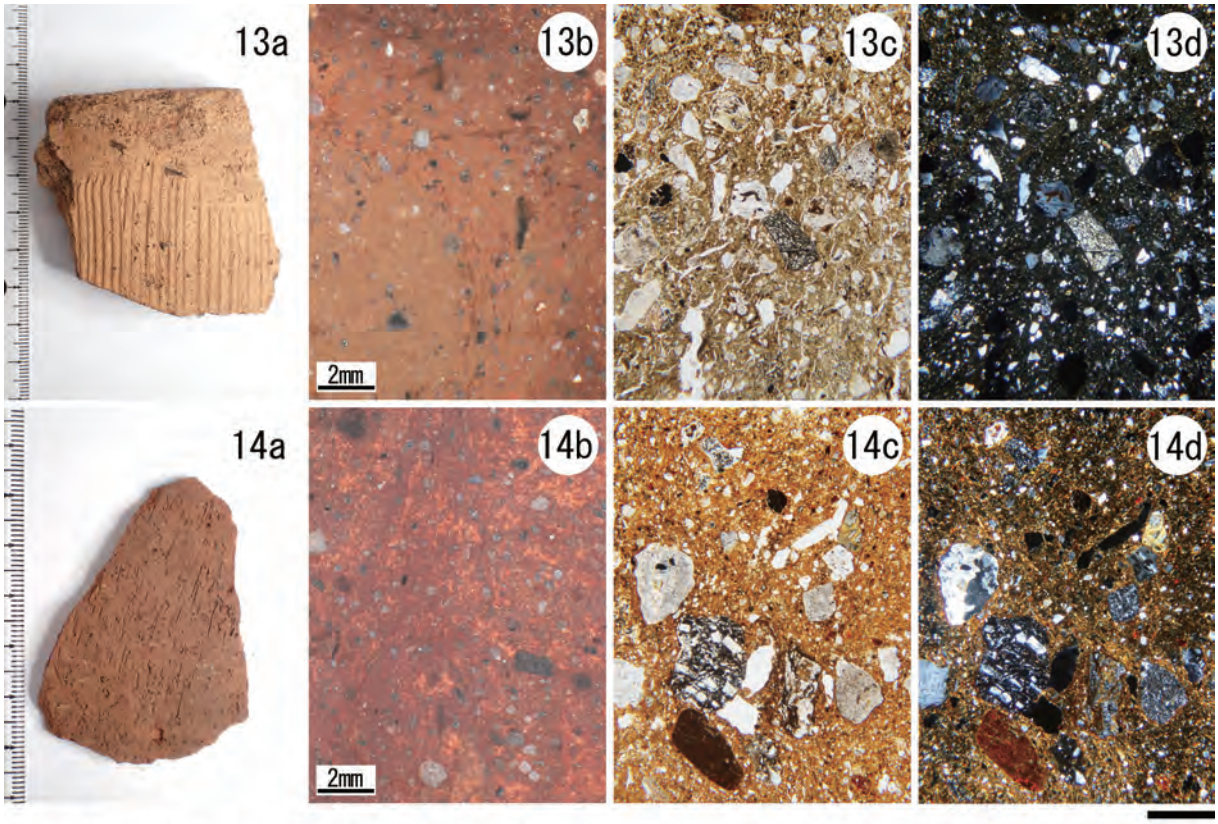
（スケール;9c, 9d, 10c, 10d, 11c, 11d, 12c, 12d:500μm）

9a. 分析No. 9　9b. 分析No. 9（断面）　9c. 分析No. 9（解放ニコル）　9d. 分析No. 9（直交ニコル）

10a. 分析No. 10　10b. 分析No. 10（断面）　10c. 分析No. 10（解放ニコル）　10d. 分析No. 10（直交ニコル）

11a. 分析No. 11　11b. 分析No. 11（断面）　11c. 分析No. 11（解放ニコル）　11d. 分析No. 11（直交ニコル）

12a. 分析No. 12　12b. 分析No. 12（断面）　12c. 分析No. 12（解放ニコル）　12d. 分析No. 12（直交ニコル）

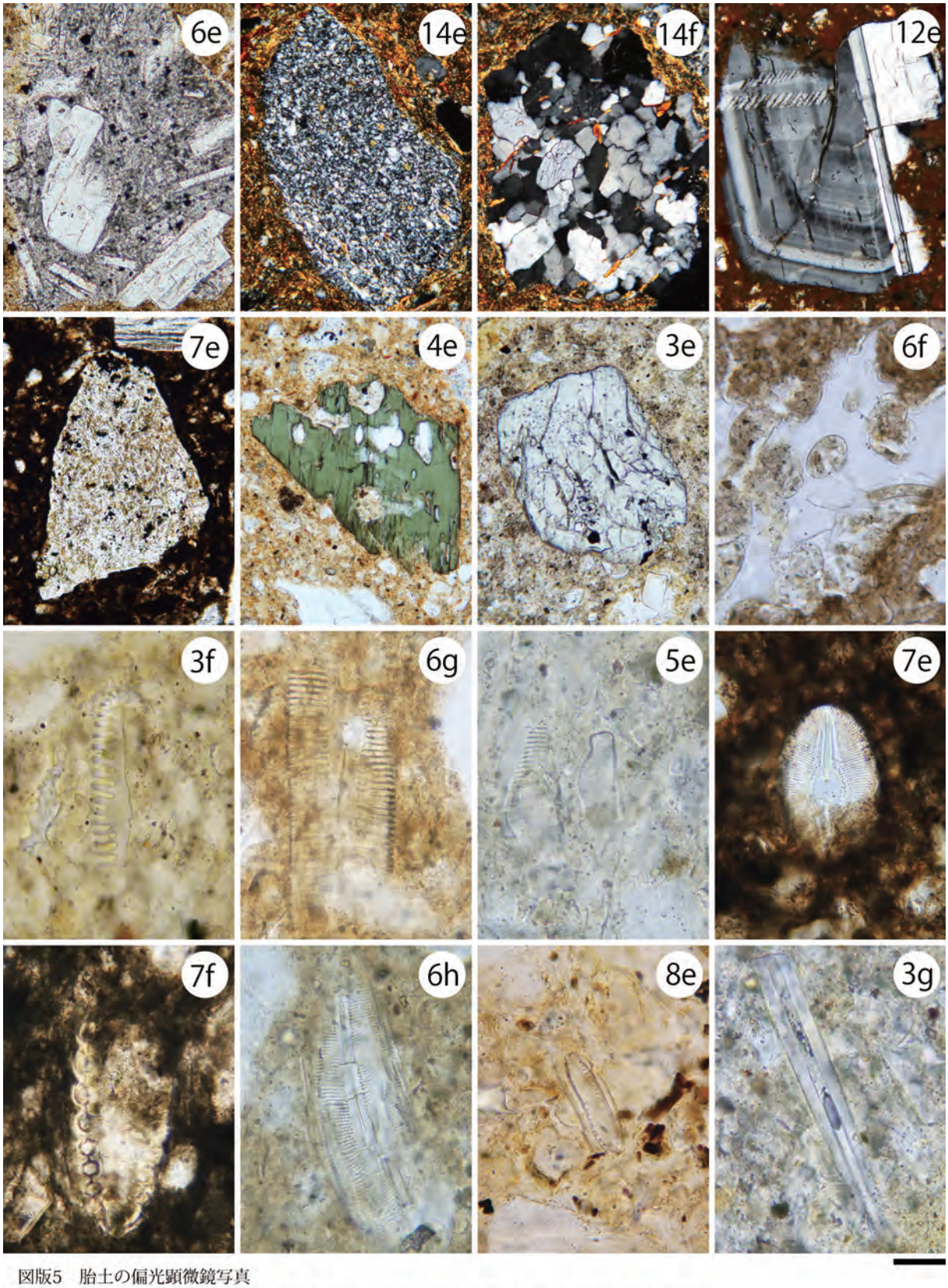


図版4　分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真（4）

（スケール;13c, 13d, 14c, 14d:500μm）

13a. 分析No. 13　13b. 分析No. 13（断面）　13c. 分析No. 13（解放ニコル）　13d. 分析No. 13（直交ニコル）

14a. 分析No. 14　14b. 分析No. 14（断面）　14c. 分析No. 14（解放ニコル）　14d. 分析No. 14（直交ニコル）



図版5　胎土の偏光顕微鏡写真

（スケール; 6e,14e,14f,12e,7e,4e,3e:100μm、6f:50μm、3f,6g,5e,7e,7f,6h,8e,3g:20μm）

6e.斑晶質　14e.複合石英類（微細）　14f.複合石英類（大型）　12e.斜長石（累帯）

7e.複合石英類（微細）　4e.角閃石類　3e.単斜輝石　6f.火山ガラス（バブル型）　3f.珪藻化石*Pinnularia lata*　6g.珪藻化石*Pinnularia viridis*　5e.珪藻化石*Eunotia praerupta* var.*bidens*

7e.珪藻化石*Diploneis*属　7f.珪藻化石*Surirella*属　6h.珪藻化石*Cymbella aspera*　8e.珪藻化石*Hazschia amphioxys*

3g.骨針化石

第９節　縄文早期土器のＸ線ＣＴ撮影

Ｄ135号土坑出土の縄文早期土器の成形技法を解明するためのデータを得るために内部構造を明らかにするＸ線ＣＴ撮影を行った。

撮影機器及び撮影条件

Ｘ線ＣＴ撮影は日本ベーカーヒューズ株式会社製のPhoenix ｖ|tome|x m 240/180を使用した。最大管電圧240kVのマイクロフォーカスＸ線発生装置である。

早期土器１の撮像条件は管電圧を170kV、管電流を230μA、露光時間を250ms、投影画像取り込み数を2300枚とし、Ｘ線焦点と遺物の間に金属フィルタ0.5㎜ Snを設置した。再構成した３次元画像のボクセルサイズは0.0999μm3である

早期土器２の撮像条件は管電圧を160kV、管電流を240μA、露光時間を250ms、投影画像取り込み数を2300枚とし、Ｘ線焦点と遺物の間に金属フィルタ0.5㎜ Snを設置した。再構成した３次元画像のボクセルサイズは0.0999μm3である。

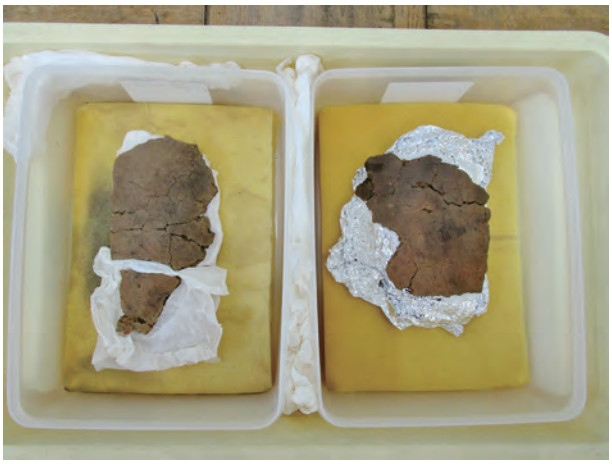
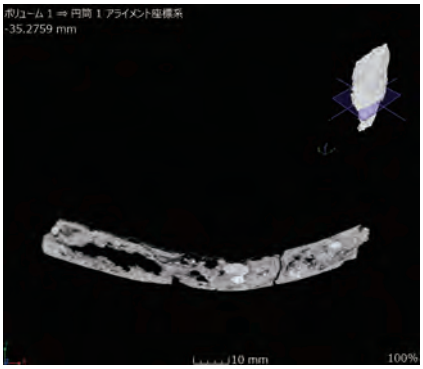
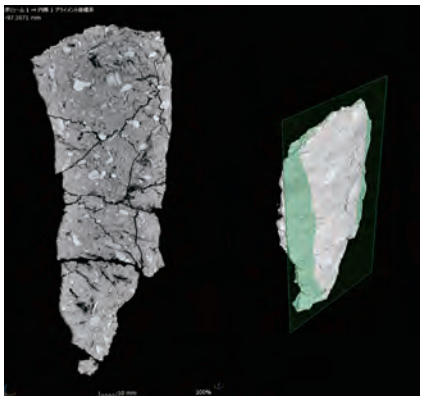


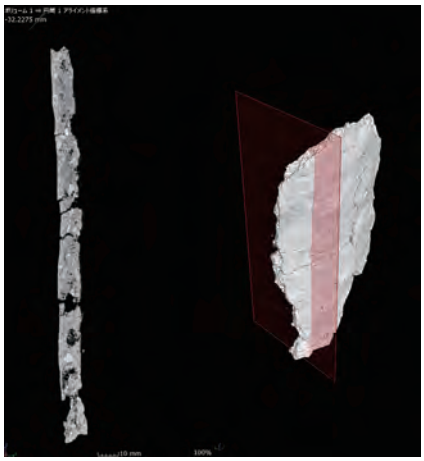
写真１　試料土器１・２検査前



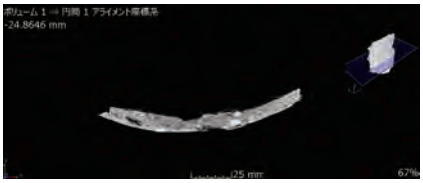
ＣＴ画像１　試料土器１　xy-plane0734



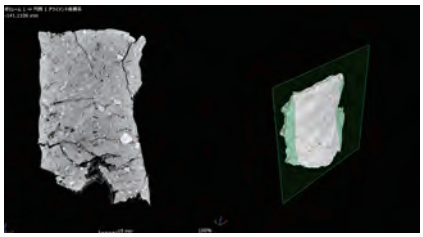
ＣＴ画像２　試料土器１　xz-plane069



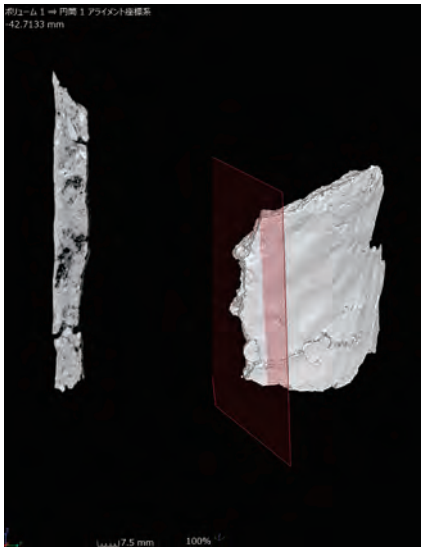
ＣＴ画像３　試料土器１　yz-plane0266



ＣＴ画像４　試料土器２　xy-plane0625



ＣＴ画像５　試料土器２　xz-plane103



ＣＴ画像６　試料土器２　yz-plane0129

第10節　炭化米塊のＸ線ＣＴ撮影

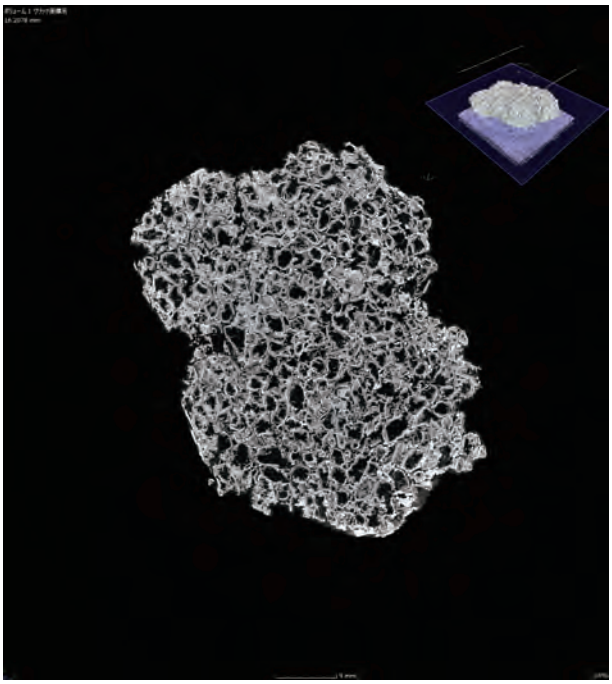
Ｄ25号竪穴建物出土の炭化米塊の生成過程を解明するために内部構造を明らかにするＸ線ＣＴ撮影を行った。

撮影機器及び撮影条件

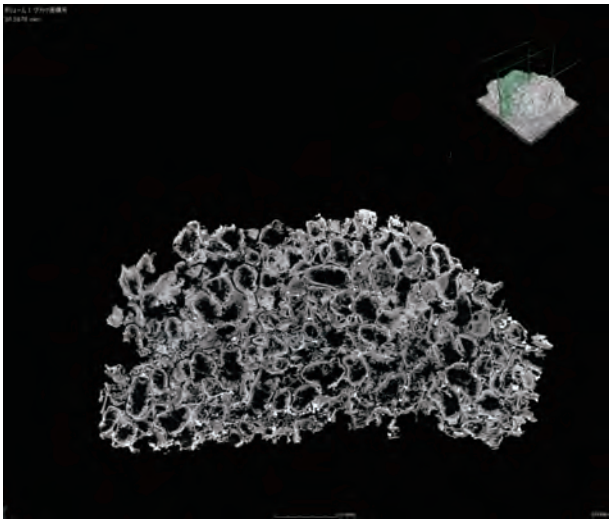
Ｘ線ＣＴ撮影は日本ベーカーヒューズ株式会社製のPhoenix ｖ|tome|x m 240/180を使用した。この装置は最大管電圧240kVのマイクロフォーカスＸ線発生装置である。

炭化米塊の撮像条件は管電圧を40kV、管電流を400μA、露光時間を250ms、投影画像取り込み数を2200枚とし、Ｘ線焦点と遺物の間に金属フィルタは設置しない。再構成した３次元画像のボクセルサイズは0.0381μm3である

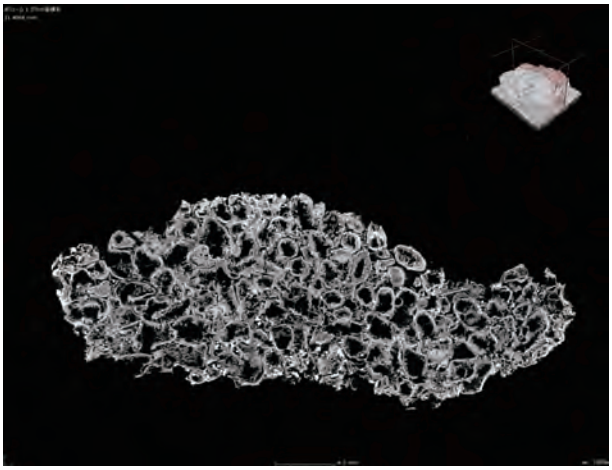
写真１　炭化米塊（上から）



ＣＴ画像１　xy-plane344



ＣＴ画像２　xz-plane0766



ＣＴ画像３　yz-plane0735

第７章　考察

第１節　縄文早期土器のＸ線ＣＴ画像分析による成形技法の検討

1.はじめに

対象としたＤ153号土坑から出土した縄文土器(第71図６)は押しつぶされた様な状態で発見された(写真１)。土器は非常に脆弱で単独での取り上げが困難と判断され、周りの土ごと硬質発泡ウレタンにより保護・梱包し取り上げを行った。本遺跡の整理作業にあたり、各破片自体が脆くそのまま接合・復元作業を行うことが困難なため、保存処理室に搬入し土器破片を強化等の保存処理を行いながら復元作業を行うことになった(写真２)。この作業を進める中で土器の断面および内側表面に溝状に延びる空洞(写真３・４・５)が見つかり、表面を精査した結果繊維の痕跡であることが判明した。またこの他に土器の縦方向断面にもまるで縄目のように捻じれた穴状の空洞(写真６・７)の存在が確認された。これらの空洞・繊維痕跡等はその後の接合・復元作業に伴い調査・観察することができなくなることから、非破壊検査であるＸ線ＣＴ撮影を実施し土器内部の繊維痕跡の調査を行った。

2.試料と方法

Ｘ線ＣＴ撮影は群馬県立産業技術センターに委託し下記の装置・条件にて撮影を行った。

Ｘ線ＣＴ撮影対象は縄文土器(第71図６)破片中から選別した２点(写真８)で、試料は事業団において保護養生を行ったうえでそれぞれプラスチック製密閉容器に収納・産業技術センターに搬入しその容器のままＸ線ＣＴ撮影する方法で行った。

Ｘ線ＣＴ撮影装置

ＧＥセンシング＆インスペクション・テクノロジーズ(株)

型式　Phoenix vltomelx m 240/180

マイクロホーカス高精度ＣＴ

試料１(写真８の右側)	試料２(写真８の左側)
管電圧 170kV	管電圧 160kV
管電流 230μA	管電流 240μA
露光時間 250ms	露光時間 250ms
取り込み数 2300	取り込み数 2300
金属フィルタ 0.5㎜ Sn	金属フィルタ 0.5㎜ Sn
ボクセルサイズ 0.0999	ボクセルサイズ 0.0999

得られた画像

試料１	試料2
Xz-plane　279枚	Xz-plane　443枚
Yz-plene　1158枚	Yz-plene　1454枚
Xy-plane　2092枚	Xy-plane　1532枚

この膨大な量の画像から、３Ｄ画像を構築し、ビュアーソフト「mayVGL」で観察が可能であるが、本稿ではその中から試料１についてＰＣソフトから作成した画像を用いて報告する。

ＣＴ画像は３方向(面)種類の画像を作成している。

今回のＸ線ＣＴ撮影の設定では

ｘｚ　土器表面に対して平行な断面画像

表面側から約0.1㎜間隔で断面画像を作成

ｙｚ　土器に対し垂直断面画像

左側から縦に約0.1㎜間隔で断面画像を作成

ｘｙ　土器に対し水平断面画像

下側から上に約0.1㎜間隔で断面画像を作成

としている。本稿では以後便宜上ｘｚ画像を平断面ｙｚを縦断面 ｘｙを横断面と表記する。

３．観察結果

Ｘ線ＣＴ画像では、黒色部分は空洞(空間)となり画像が灰色から白色に代わるとともに密度が高くなる形で表示されている。土器内部に存在する空洞化した繊維痕跡は黒色に。加えて実際の土器表面の状況とＣＴ画像を比較検討し、土器内部に細かい繊維痕跡が存在した場合その部分は細い黒色すじとして表示されることから、その色調から土器内部の繊維痕跡を推定した。

掲載したＸ線ＣＴ画像は画面左または下側に断層写真画面右側にＣＴ撮影により作成した試料の立体画像を配

し、その立体画像を横断する形で断面位置を網掛で（ｘｚでは緑・ｙｚでは赤・ｘｙでは青で表現）表示している。

ＣＴ画像１は土器平断面、ＣＴ画像２は土器縦断面、ＣＴ画像３は土器横断面で、その断面位置はそれぞれ緑・赤・青色の網掛けで表示している。ＣＴ画像１の平断面の上部にはやや山形にループする空洞が見られ、ＣＴ画像２の縦断面上部に上下に広がる空洞、そしてＣＴ画像３の横断面中央土器表面付近に横に広がる空洞として観察できる。繊維は土器内部で水平方向に延びるばかりではなく複雑に広がっている様子がうかがえる。

ＣＴ画像４は最初に見つかった空洞部分の横断面で幅７㎜ほどの土器厚さの半分近くにおよび水平方向に６㎝程に延びる大きな空洞となっている。その空洞の下端の横断面画像写真ＣＴ画像５を見ると黒色の空洞から派生する斜めに伸びる細かい空洞が複数見られる。この部分を平断面で見ると写真ＣＴ画像６の中央下に横に延びる空洞から派生するように上下斜め方向にも延びる複数の細い空洞が観察される。そしてこの水平方向の空洞は土器内を一周するように延びることなく途中で消滅する（観察されなくなる）。この水平方向空洞の状況は縦断面写真ＣＴ画像７・８・９・10・11にも現れておりＣＴ画像７では中央やや下より断面に最初の空洞断面その下に別の空洞が見られ、ＣＴ画像8ではその2つの空洞の下にもう一つの淡い空洞が出現するがＣＴ画像９・10 では下側の空洞は薄れＣＴ画像10では最初の水平空洞痕跡も淡くなってくる。

次に土器内部の土器表面に沿った横方向繊維の拡がりおよび分布を見てみる。平断面写真ＣＴ画像１・６・12・13・14は土器表面よりから徐々に奥側（内側）にずらしていった断面画像である。円筒状に内湾する土器を縦にスライスする形で断層画像を作成しているため画像の左右端は土器表面の状況を示すことになり、土器内を横に（水平方向）延びる空洞・繊維痕跡については斜め断面となり一枚の画像でこれを把握することが出来ないため、深さ異なる複数を比較して確認する。

ＣＴ画像1は前述の様にループ状に巻いた形で空洞が存在し、ＣＴ画像６では下部に最初に見つかった水平空洞から派生するように斜めに延びる細かい空洞が広がる。ＣＴ画像12・13では薄い色合いであるが横方向・斜め方向に延びる細かい空洞が全体に分布する。

繊維痕跡による空洞は、一部水平方向に大きく長くなるものも有るが、その端部では厚み方向および土器面に沿った方向へもひろく広がっている様子が観察される。この試料１を観察したところでは、土器内部に見られる繊維痕跡（空洞）は大きいもので幅２～５㎜長さは７～８㎝程である。この繊維痕跡は壁面に筋状の凹凸が斜めに巡り、一見すると縄・ひも状を呈する（写真５）が、Ｘ線ＣＴ画像を精査した結果、撚り等の構造は認められず、その空洞から枝分かれするように細い空洞が多数分枝周囲に延びている様子が観察された。Ｘ線ＣＴ画像で土器内部をくまなく観察した結果土器内全体に幅１㎜前後の細い空洞が存在することが確認できたが、この空洞に特別の規則性は認められなかった。この土器内部に多量に存在する繊維（痕跡）は一部捻じれは見られるもののひも・縄状のものではなく、土器の製作時に所謂つなぎとして作業性・成形性を向上させるために付与したものと考えられる。なお、このＸ線ＣＴ画像からは多くの微細な繊維の痕跡を観察できたものの、所謂土器の輪積み・巻き上げ等の痕跡は確認出来なかった。この土器胎土に含まれる大量の繊維は土器焼成に伴い燃焼・消失し、細かい空洞となり、一部は土器内部に大きなトンネル状の空洞（写真６・７）として存在している。このうち土器内面付近に存在した一部の繊維は焼成に伴い土器内側表面に溝・穴となって現れ、その後土器の使用に伴い、この溝および穴内に所謂「お焦げ」と見られる炭化物が付着・残存している状況が観察された（写真７・８）。この土器内部の「お焦げ」状の炭化物は土器口縁部より下側の内面にだけ存在しており、食材等との関係を含め新たな分析調査の可能性を持っている。

４．おわりに

近年出土遺物に対するＸ線ＣＴ撮影による調査分析事例は大型のＸ線ＣＴ撮影設置の増加とともにしてきている。しかしその一方出土遺物を直接撮影可能な大型のＸ線ＣＴ撮影装置は全国でも数少なく、その利用機会は限定される。

今回の事例ではＸ線が透過しやすい縄文土器でなおかつ縦横20㎝厚さ１㎝程度の小型の破片であったため、一般的な工業用Ｘ線ＣＴ撮影装置で撮影が可能となった。特殊な治具等を必要とせず、一般的なプラスチック製密

閉ケースとクッション材で梱包することで、完全非破壊で安全かつ短時間でＸ線ＣＴ撮影を行うことができた。その画像は高精細で肉眼観察では得られない多くの情報を取得し、デジタルデータとして保存することが可能となった。材質・サイズ等に制約が有るがこのＸ線ＣＴ撮影による分析･調査は今後活用が期待される手法である。

写真１　Ｄ153号土坑縄文土器の出土状況

写真２　土器の室内搬入状態

写真３　土器断面に残る溝状空洞

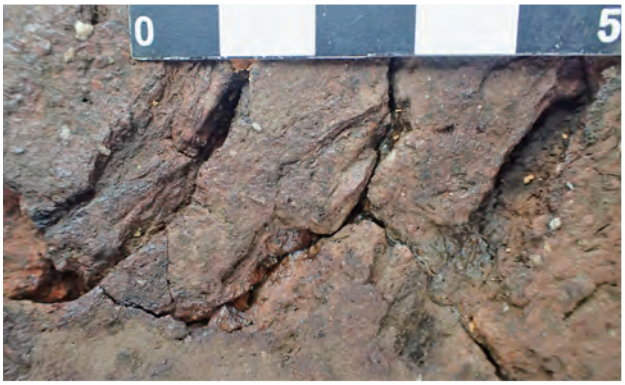


写真４　土器内面に残る溝状の窪み

写真５　土器断面に残る溝状空洞拡大

写真６　土器縦方向断面に見られる穴状空洞

写真７　土器縦方向断面に見られる穴状空洞拡大

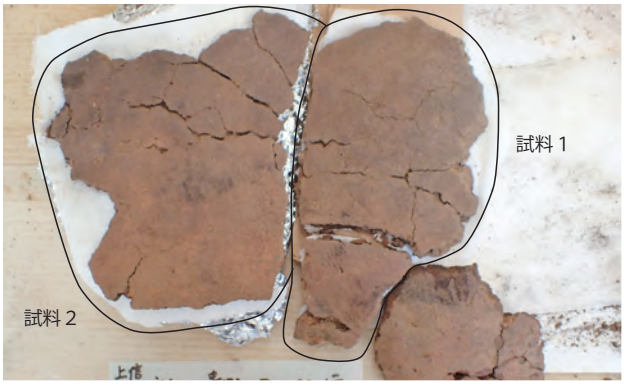


写真８　CT撮影破片、試料１(右)および試料２(左)

写真９　土器断面内側に見られるお焦げ状炭化物

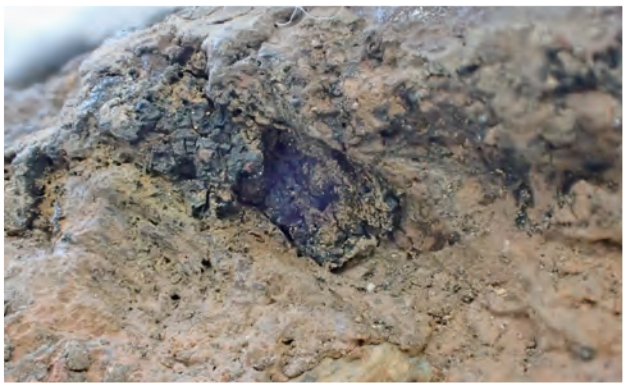
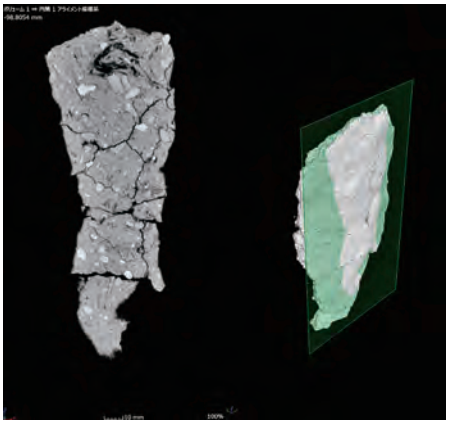
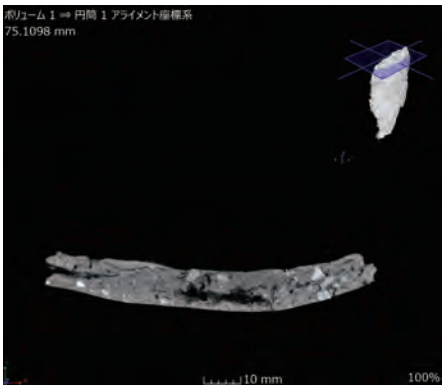


写真10　土器断面内側に見られるお焦げ状炭化物拡大

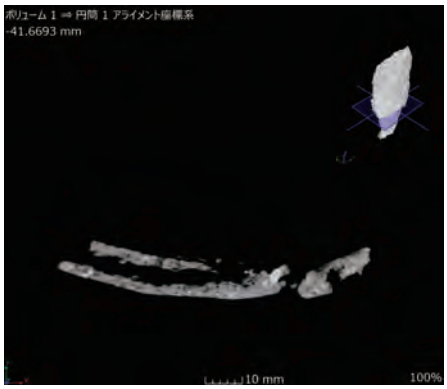


CT画像１　XZ－plane052

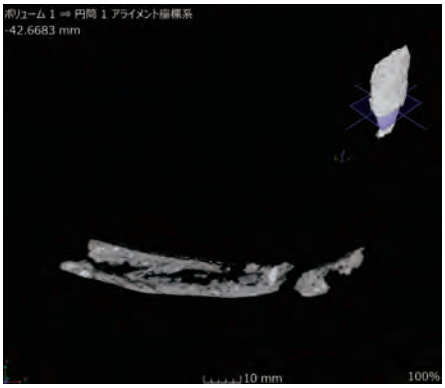
CT画像２　YZ－plane0538



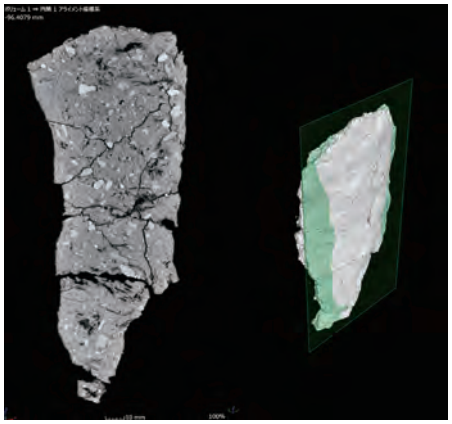
CT画像３　XY－plane1839



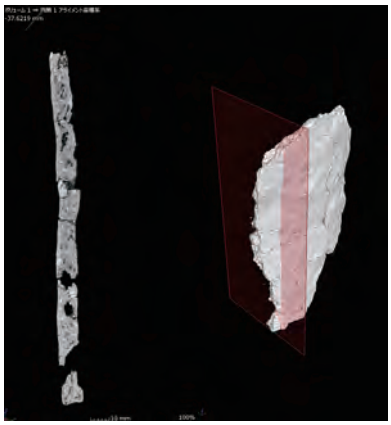
CT画像４　XY－plane0670



CT画像５　XY－plane0660



CT画像６　XZ－plane076



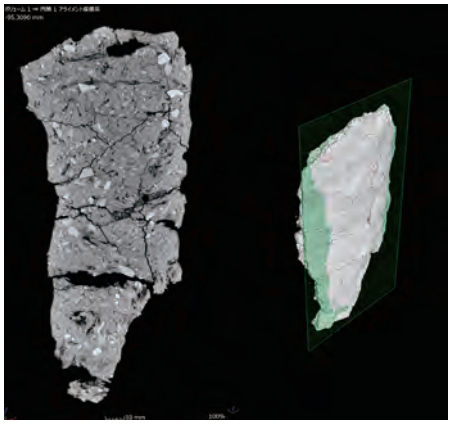
CT画像７　YZ－plane0212

CT画像８　YZ－plane0280

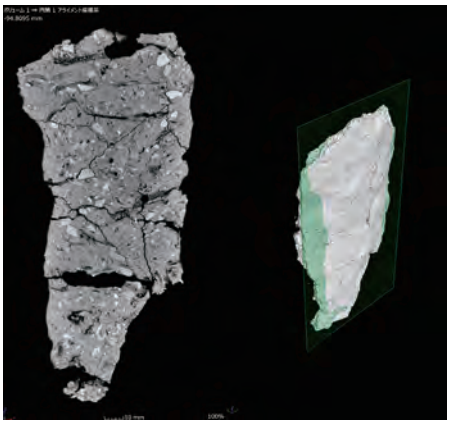
CT画像９　YZ－plane0350

CT画像10　YZ－plane0415

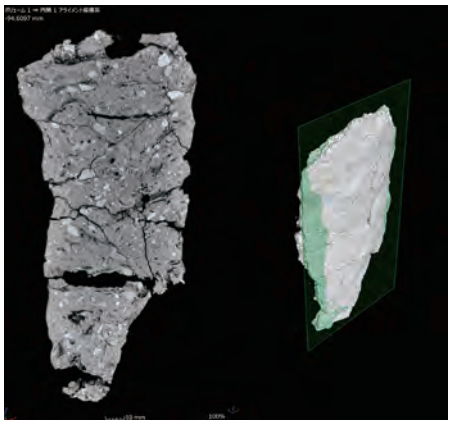
CT画像11　YZ－plane0500



CT画像12　XZ－plane087



CT画像13　XZ－plane092



CT画像14　XZ－plane094

第２節　炭化米塊のX線CT画像解析

佐々木由香（金沢大学）・片岡 太郎（弘前大学）

１．はじめに

群馬県吾妻郡東吾妻町厚田に所在する新井遺跡は、吾妻川右岸の段丘上に立地する弥生時代中期の集落跡である。弥生時代中期後半の25号住居跡の床面からは、炭化種実塊が出土した。表面の形態観察の結果、全てがイネの炭化種子（いわゆる炭化米）と同定された。炭化種子は、膨張と変形が著しく、端面は平坦に潰れている状況から炊かれた米と判断された。さらに、編組製品の一部がコメに付着して残存しており、炊いた米がかご類に入れられた可能性が指摘された（本書第６章自然科学分析第４節炭化種実同定）。ここでは、イネ炭化種子塊のＸ線ＣＴ画像解析を行い、塊内部の状況から形成過程を検討した。

２．資料と方法

資料は、Ｄ区25号住居跡から出土した炭化米塊１点である。表面の観察からイネの炭化種子のみで形成されたと推定され、完形種子の換算数は1422点強である（本書第６章自然科学分析第４節炭化種実同定）。塊の大きさは、長径6.43㎝、短径4.47㎝、厚さ2.30㎝、種子１点の大きさは、長さ4.6㎜、幅3.0㎜と長さ5.2㎜、幅2.9㎜である。

Ｘ線ＣＴ撮影は、群馬県立産業技術センター所蔵のマイクロフォーカスX線発生装置（日本ベーカーヒューズ株式会社製の Phoenix ｖ|tome｜Xm 240/180）を使用した。ＣＴ像を再構成した３次元画像のボクセルサイズは0.0381μｍである。Ｘ線ＣＴの撮影条件は、Ｘ線管電圧40kV、Ｘ線管電流400μAである。ＣＴ像の表示ならびに解析は、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センターのＸ線マイクロＣＴスキャナー付属のＣＴ Analyzer、ＣＴ Vox、DataViewerを使用した。ＣＴ像は、白黒の８bit（256色）のグレースケールで、白色へ近づくほど密度が高く、黒色へ近づくほど密度が低い。

３．結果

イネ炭化種子塊の底面は緩く湾曲し、上・下長側面には割り裂いたヘギ材を用いた編組製品の一部が残る。湾曲を呈する面を底面として、実体像とCT画像を用いて展開図を作成した（図版１）。長側面の上下と上面の三面には編組製品と推定されるヘギ材の破片が数本見られ、特に下長側面において残り方が顕著である（図版１－２）。

塊の平面と長側面、短側面のCT断層像のいずれにもイネ炭化種子かそれ以上の大きさの楕円形の空隙が観察され、他の種実が混入している状況は観察できなかった。また、表面観察されたイネ炭化種子と同様、内部にも膨張や変形している種子状の空隙が多数確認できた。上面から底面への断層像におけるヘギ材の残りが良い面（図版２－１の右側面）にはやや密度が高い箇所が確認できた。

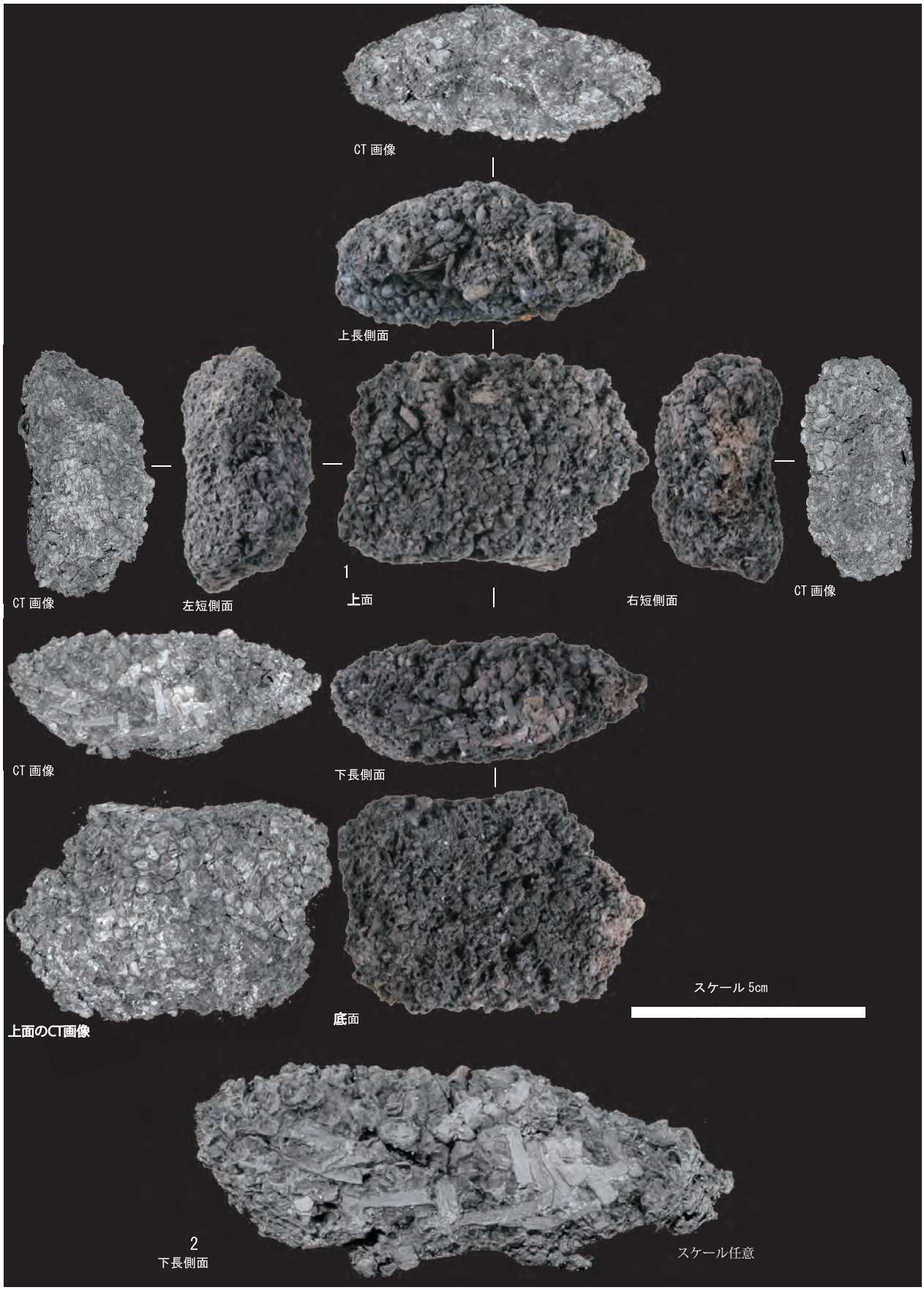
４．考察

おにぎり状の炭化種実塊の場合は、炊いた種実を手で握った外周側の密度が高くなり、粒の粒径が変形する。この結果、CT画像において外周側が白色を呈する（佐々木2019）。新井遺跡の炭化米塊は、塊の底面が湾曲して米が潰れている以外は膨張・変形している米粒が多い。また、編組製品が接していた側面にはやや中実で密度が高い米がある傾向が観察されるものの、おにぎりほどの密度が高い面を構成していない。したがって、土器に底が湾曲したかご状の編組製品を入れて、米を蒸した状態で焦げて炭化した可能性や、炊いたか蒸した米を編組製品に入れた状態で炭化した可能性がある。ただし、塊に伴う土器は出土していない。

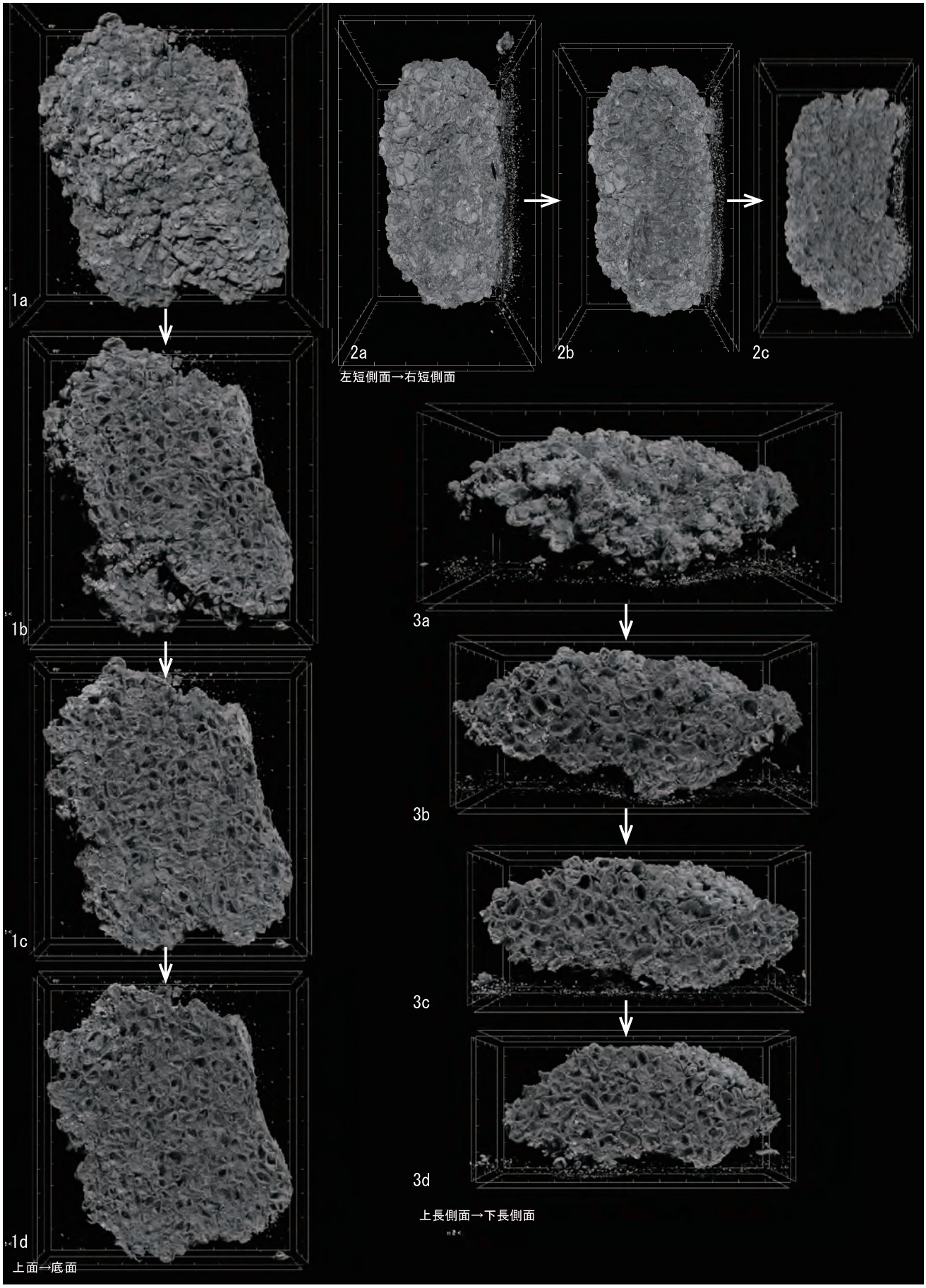
ヘギ材はタテ・ヨコ材共に平坦で、直角で隙間なく交差するように見える点から、タテ材とヨコ材に隙間のない網代で製作されたかご状の容器であった可能性がある。用途としては、蒸し器や保管容器が推定できる。

調理された状態の炭化米塊で、編組製品が付着した最も古い例は、神奈川県真田北金目遺跡から出土した弥生時代後期の炭化ごはん塊であったが（横浜市歴史博物館監修2019）、本出土例はさらに遡り、弥生時代中期中葉～後葉の年代が得られており、当時の米の調理法もしくは保管方法を示唆する例として重要である。

引用文献
佐々木由香2019「炭化種実塊から見た穀類利用」横浜市歴史博物館監修『おにぎりの文化史』ｐ.114-117，河出書房新社
パレオ・ラボ（佐々木由香・バンダリ スダルシャン）2022「炭化種実同定」群馬県埋蔵調査事業団編『新井遺跡』ｐ.263-266
横浜市歴史博物館監修2019『おにぎりの文化史』河出書房新社



図版１　新井遺跡出土炭化米塊とＸ線 CT 画像（１）（1：展開像、２：下長側面の編組製品強調画像）



図版２　新井遺跡出土炭化米塊のＸ線 CT 画像（2）（a：表面、b-d：断層像）

第3節　新井遺跡の周溝墓と古墳について

はじめに　新井遺跡からは、遺跡地東部のＤ区より弥生時代と想定する円形周溝墓２基､方形周溝墓１基と、古墳時代に想定される方形周溝墓２基、方墳２基、円墳１基が調査された。弥生時代後期後半から古墳時代後期に至る時期まで継続して墓域として利用されている。ここでは、吾妻川中流域では、初めて確実に調査された例として新井遺跡から検出された周溝墓と、それに引き続いて構築された方墳という特徴ある古墳を中心に、吾妻川下流域にある渋川地区も含めた周溝墓・古墳と比較検討する中でその意義づけを行う。

弥生時代の周溝墓(図１)新井遺跡では、円形周溝墓２基、方形周溝墓１基がある。

円形周溝墓で確実に弥生時代と証明できるのは、Ｄ１号円形周溝墓(４)である。内周で南北4.52m､東西3.40mあり、片側が円弧状で、もう一方がやや直線状に近いが中央部で溝が途切れている。主体部は、隅円長方形で、土坑上部で長205㎝、西部幅195㎝、東部幅178㎝と、長辺があまり長くなく、西部がやや幅広くなっている。高坏と赤彩壺が、上より転落しているような状況で出土しており、この土器から後期後半と推定できる。

もう１基、円形周溝墓が当遺跡では調査されている。Ｄ２号円形周溝墓(５)で、円弧状の周溝が形成されるが、２箇所で溝が途切れているものである。規模は内周で南北6.0m､東西6.15mである。主体部が､Ｄ１号同様、隅円長方形で、土坑の規模は長181㎝、東部幅138㎝、西部幅140㎝と長辺があまり長くなく、西部がやや幅広である。珪質頁岩製の管玉１，ガラス玉６点が出土し、ガラス玉は銅着色のカリガラス(GroupPⅡ)製である。

他に、Ｄ２号方形周溝墓(第１図12)がある。規模は内周で、南北4.75m、東西5.10mあり、２～３か所で溝が途切れている。主体部が隅円長方形で、土坑の規模は長190㎝、東部幅134㎝、西部幅163㎝と長辺があまり長くなく、西部がやや幅広である。西部の幅がやや広く、ベンガラが西にあることから西頭位の可能性があり、さらに周溝から出土したガラス玉は銅着色カリガラス(GroupPⅡ)製である。Ｄ２号円形周溝墓とＤ２号方形周溝墓は、溝が切れていること、主体部の長辺が短かめで、西側が幅広で西頭位の可能性が高いこと、ガラス玉が銅着色のカリガラス(GroupPⅡ)であることなどの特徴が共通しており、弥生時代後期と推定できる。

吾妻川下流域の渋川地区における円形周溝墓は、有馬遺跡Ⅱ５・６・８号墓(１～３)、中村遺跡円形周溝墓、空沢遺跡１・２号円形周溝墓(６・７)、神宮寺西遺跡円形周溝墓、金井下新田遺跡３区１号円形周溝墓(８)などが弥生時代に比定できるものである。図１に示したように比較をすると新井遺跡の円形周溝墓は小型で、主体部が土坑状を呈しているなど空沢遺跡の円形周溝墓に規模・形態ともに近似している。北部地域の特に渋川地区は円形周溝墓の出土例が多く､地域の特徴となっている。その円形周溝墓が吾妻川中流域まで分布域が増えたことは、吾妻川下流域の渋川から吾妻川中流域までの地域での墓制における共通性を示すものとして重要である。

方形周溝墓も溝が切れていることや､ガラス玉の素材、長辺が短い土壙墓などから、弥生時代の墓であることは間違いない。渋川地域では､有馬Ⅱ遺跡の１～４・７・９・10・16号墓(11)、田中遺跡１号方形周溝墓(10)などの溝が切れる弥生時代の方形周溝墓が検出されている。主体部は礫床・礫囲いのものが多いのが特徴であり、新井遺跡の主体部の土壙墓とは系統が異なる。

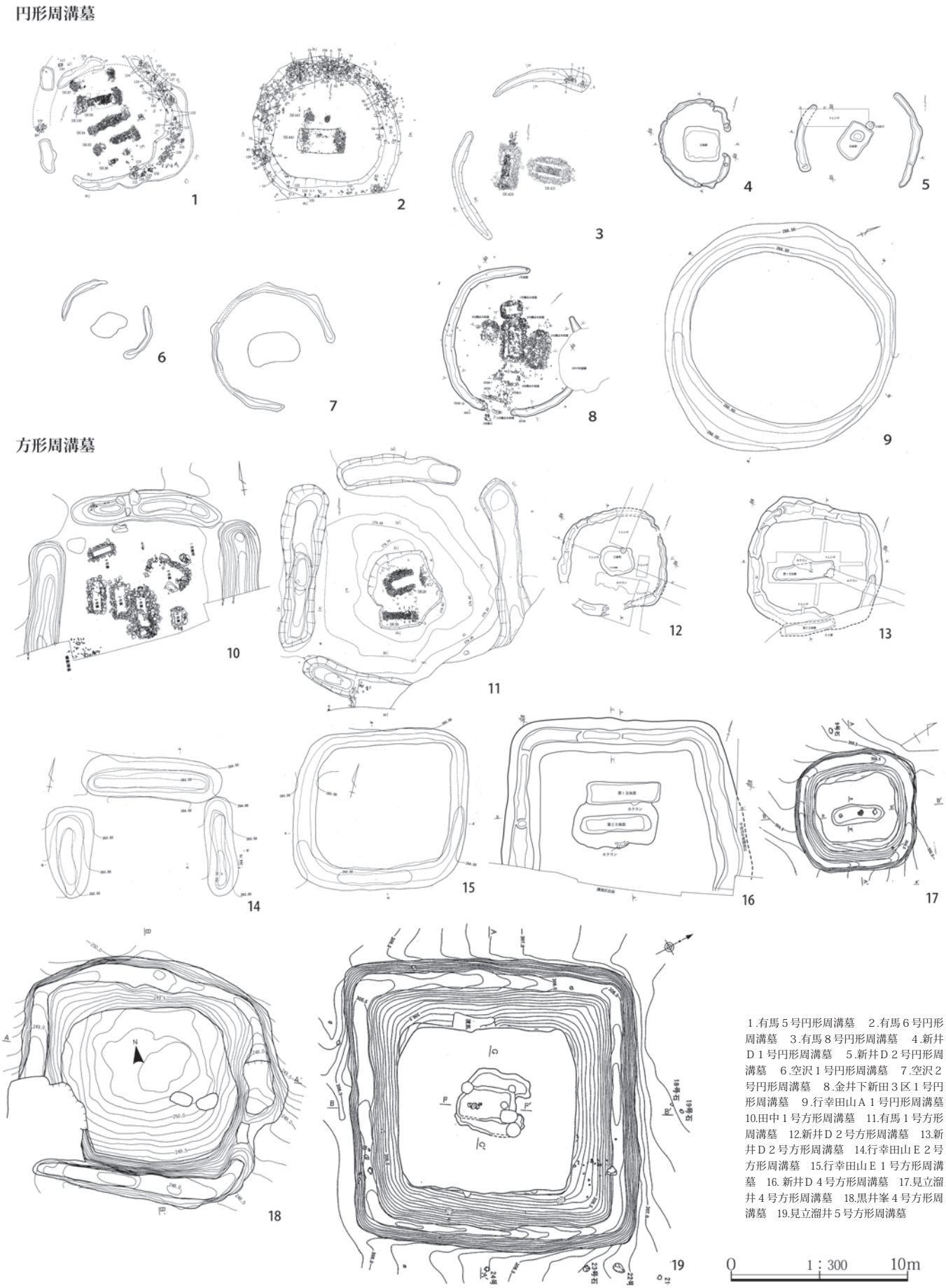
以上、弥生時代後期の墓として円形周溝墓と方形周溝墓があることが判明した。さらに周溝を持たない長辺の短い土坑から長30㎝ほどの長剣が出土するＣ４号土坑のような土坑墓も検出され、周溝の有無や規模と副葬品の組成について今後検討すべき資料である。

古墳時代の周溝墓と古墳(図１・２)新井遺跡では方形周溝墓２基と方墳２基・円墳１基がある。

方形周溝墓は２基あり、うち１基は完掘であるが、もう１基は南側1/3が調査区外である。

Ｄ１号方形周溝墓(第１図13)は、周溝が全周するもので、規模は内周で、南北5.28m、東西5.92mを有する。第１主体部は、墳丘中心部やや南側から、底面長318㎝、東部幅75㎝、西部幅54㎝で、東部が幅広く、東頭位の可能性が高い。

周溝の中に第２主体部が検出され、底面が長276㎝、東部幅32㎝、西部幅45㎝で、西部が幅広く、西頭位の可能性がある。第１主体部からは、長18㎝の短剣が腰部と想定される部位から切先を西(足先)に向けて出土してい



１.有馬５号円形周溝墓　２.有馬６号円形周溝墓　３.有馬８号円形周溝墓　４.新井Ｄ１号円形周溝墓　５.新井Ｄ２号円形周溝墓　６.空沢１号円形周溝墓　７.空沢２号円形周溝墓　８.金井下新田３区１号円形周溝墓　９.行幸田山Ａ１号円形周溝墓　10.田中１号方形周溝墓　11.有馬１号方形周溝墓　12.新井Ｄ２号方形周溝墓　13.新井Ｄ２号方形周溝墓　14.行幸田山Ｅ２号方形周溝墓　15.行幸田山Ｅ１号方形周溝墓　16. 新井Ｄ４号方形周溝墓　17.見立溜井４号方形周溝墓　18.黒井峯４号方形周溝墓　19.見立溜井５号方形周溝墓

図１　吾妻川中・下流域の周溝墓平面図

る。周溝から出土した壺から古墳時代前期と推定される。

Ｄ４号方形周溝墓(図１-16)は、南側1/3が調査区外であるが、おそらく周溝は全周していると推定している。規模は内周で、南北7.60+m、東西13.60mである。主体部は、墳丘中心から２つ主体部が検出された。第２主体部が中心主体で底面は、長292㎝、東部幅90㎝、西部幅94㎝である。木棺の痕跡から、木棺長221㎝、東部幅71㎝、西部幅54㎝で東頭位である。パイプ状ベンガラが床面に敷かれていた。副葬品は、被葬者の頭～胸の部位から出土している。ヒスイ製勾玉、石英製算盤玉３、ガラス玉25が出土している。ヒスイ・石英といった貴重な石材の玉類を保持した被葬者である。

第１主体部は、第２主体部より新しい主体部で、第２主体部北側に並行して造られている。底面は、長360㎝、東部幅96㎝、西部幅98㎝である。西部がほんの少し幅広である。棺上より鉢や玉髄性棗玉が崩落した状況で出土している。他にガラス玉が７個出土している。周溝からもガラス玉２個、高坏坏部、小型甕口辺部が出土しており、玉類の構成と土器の様相から前期に比定する。Ｄ４号方形周溝墓は、玉類を中心とする副葬品が豊富で、今後副葬品の組成を考える上で重要な資料である。

上述した２基の方形周溝墓は、全周するタイプで、古墳時代に特徴的である。吾妻川下流の渋川地域にも古墳時代の溝が全周する方形周溝墓はいくつか類例がある。行幸田山Ｅ区１号墓(図１-15)、黒井峯１～４号墓(図１-18)、押手方形周溝墓、見立溜井Ⅱ１・２・４～６号墓(図１-17・19)などである。規模は、5.5mから15mまであるが、いずれも幅は狭いが深めの溝を有しているもので、墳丘部の残りの良い例からすると1.5mほどの高さがある。主体部は木棺直葬のものが多い。副葬品は黒井峯遺跡からは、管玉・ガラス玉、見立溜井遺跡からは工具としての斧・鑿が出土している。

以上の２基の方形周溝墓は、短剣や勾玉などの時期がさかのぼる可能性のあるものが含まれるが、共伴の土器や全周する周溝などの特徴から、古墳時代の前期に比定した。渋川地域の方形周溝墓のうち、黒井峯遺跡や見立溜井遺跡例は、５世紀に入るものであるが、５世紀前半までのものである。古式群集墳へと移行する前の墓制として捉えることができるであろう。

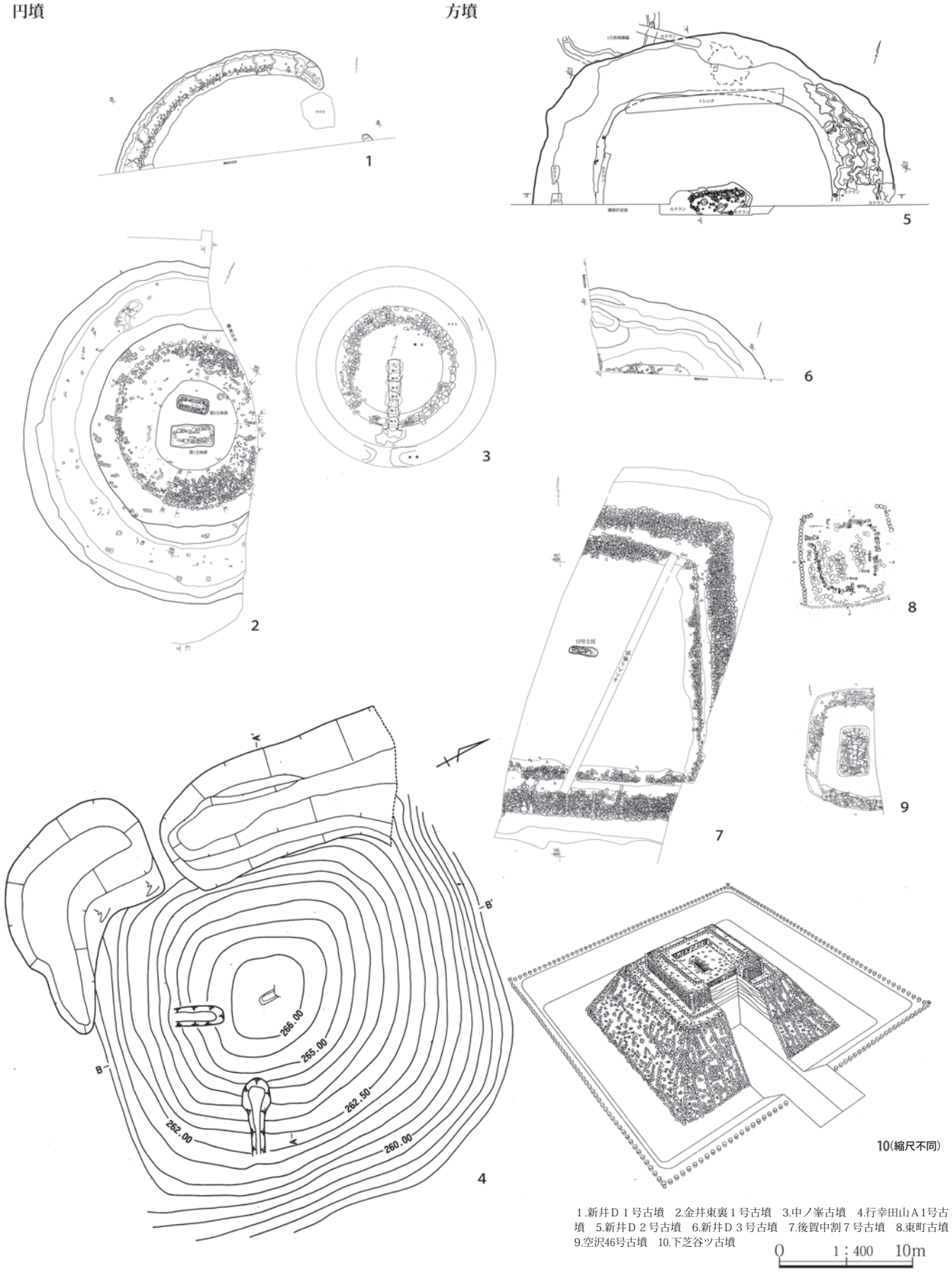
古墳が３基検出された。円墳１基と方墳２基である(図２-１・５・６)。特に方墳に関しては希少なものであり、この地で確認されたことは重要である。まず、円墳のＤ１号墳は、周堀の一部しか確認できていないが、復元すると径15mとなる。この円形墓を円形周溝墓ではなく、円墳としたのは、周堀内側立ち上がりに葺石が並んでいることからである。遺物が一切出土していないので、年代の比定は難しいが、周堀の掘削が丁寧で、周堀外縁の円弧形が崩れていないことなどから、５世紀後半～６世紀の間と想定している。

Ｄ２号墳は、南部は調査区外で未確認であるが、周堀の特に内側測線の直線状の形態や、コーナー部での屈曲の状況から方形墳と判断した。内周で、一辺が17.4mの方墳と推定している。主体部は、本文でも記述したが、横穴式石室の基底部が残っていると推定しており、周堀から出土した埴輪と併せて考えると６世紀前半から中頃にかけての古墳と推定される。

もう１基のＤ３号墳は、周堀のごく一部しか出土していないが、周堀内側の側線が直線的で、そのコーナー部の屈曲が直角に近いことなどから、やはり方墳の可能性がある。周堀から須恵器が２片出土している。時期比定は難しいが６世紀代と推定する。

方墳は、前期に渋川地域で行幸田山Ａ１号古墳(図２-４)や東毛地域太田市の成塚向山第１号古墳などがある。５世紀に入ると、富岡市後賀中割７号古墳(図２-７)、高崎市下芝谷ツ古墳(図２-10)などの渡来系の古墳として積石塚とともに特徴的な墳墓として構築される。しかし、６世紀に入ると利根地域の一部のみで方形の積石塚(岩下清水１・２号古墳)が築かれる。このように限定的に築造されている方墳が、時期比定において難しい部分があるとは言え、６世紀代に比定される方墳が２基、吾妻川中流域で検出されたことが重要である。方墳の系統は５世紀においては、渡来人との関係性でとらえられている。そして、吾妻川流域では、やはり渡来人との関係が指摘されている無袖横穴式石室が多く分布しており注目されており、渡来人との関係でこの方墳を捉えることができるであろう。

このように、３基の古墳が検出されたが、年代的には、方墳は６世紀代、円墳は５世紀後半～６世紀代に比定される。方形周溝墓が前期に比定されるが、それから100年以上の間を経て古墳が築かれたことになる。弥生後期



1.新井Ｄ１号古墳　2.金井東裏１号古墳　3.中ノ峯古墳　4.行幸田山Ａ1号古墳　5.新井Ｄ２号古墳　6.新井Ｄ３号古墳　7.後賀中割７号古墳　8.東町古墳　9.空沢46号古墳　10.下芝谷ツ古墳

図２　吾妻川中・下流域他円墳・方墳平面図

後半から古墳時代後期まで、一部間隔は開くが、墓域として使用された遺跡として重要である。

吾妻川中・下流域の周溝墓と古墳(図３・４)　次に、この新井遺跡と周辺遺跡での墓域の変遷の様子を図３・４により紹介していく。吾妻川中流域では、今まで５世紀後半に突如、古墳が出現して６世紀に入り無袖横穴式石室が入り、中頃以降に両袖横穴式石室となり、７世紀にいたるという墓の変遷が見られた。今回、新井遺跡により、図３にあるように、方形周溝墓・円形周溝墓の確実な例として弥生時代後期後半から溝が途切れる形態の周溝墓が築かれ、さらに後期の土壙墓からも長剣が出土するなど、弥生時代後期の墓制についての情報が明らかとなった。渋川地域で円形・方形周溝墓の隆盛が認められる弥生後期に、吾妻川中流域でも周溝墓の構築がなされていたことが判明したのである。

古墳時代前期に入っても溝が全周する方形周溝墓が存続することが今回明らかとなり、今のところ前期までは、古墳の構築は無く、方形周溝墓が墓として築かれたことが判明した。対して、渋川地域では、方墳として行幸田山Ａ１号古墳(17)が築かれており、前期後半段階において古墳の構築がなされている。もちろん溝が全周する方形周溝墓も渋川地区では継続して構築され、先述したように行幸田山Ｅ区１号墓(16)、黒井峯１～４号墓(19)、押手方形周溝墓、見立溜井Ⅱ１・２・４～６号墓(18・20)などがある。これらは前期から中期の前半まで構築されているもので、古式群集墳の構築が始まる前の墳墓形態である。

先述したように、新井遺跡の古墳時代の溝が全周する方形周溝墓の出土により、渋川地域と同様に方形周溝墓という弥生時代以来の伝統的な墓制が引き継がれたことを示している。吾妻川中流域でそれが古墳へと変化したのが、５世紀後半の机古墳、石ノ塔古墳である。墳丘は不分明であるが、古墳として竪穴系の石槨を主体部として持ち、石ノ塔古墳では、剣・鹿角装刀子・斧など豊富な副葬品が出土している。そして６世紀に入ると、四戸の古墳群群大Ⅰ号・Ⅳ号墳に見られるように無袖横穴式石室が構築される。横穴式石室の中で、両袖型に先行する小型墳での横穴式石室導入期の石室である。この無袖横穴式石室が、渋川地区と吾妻川中流域では多く確認されており、この地域の特徴となっている。今回の新井遺跡では、先述したように、方墳と推定したＤ２号墳(25)において、横穴式石室の構築は確認されたが、横穴式石室の形態までを明らかにすることができなかった。埴輪などから見ると６世紀前半～中頃と推定できるものである。また、もう１基の方墳と推定したＤ３号墳(26)は周堀の外縁部の形態から６世紀代と推定している。円墳としたＤ１号墳は、出土遺物が全く無いが周堀の外縁形態などから、５世紀後半～６世紀代とする。

Ｄ２・３号墳は方墳と推定されるが、先述したように、今まで明らかとなった前期の方墳としての成塚向山１号古墳や、行幸田山Ａ１号古墳(17)などの方墳とは異なる系統で、渡来人との関係性が想定される、富岡市後賀中割遺跡７号古墳(21)や、下芝谷ツ古墳(24)の方形墳の系統と考えたい。渋川地区では、やはり渡来人との関係性が想定される方形の積石塚として、東町古墳(23)、坂下古墳群などがあり、５世紀後半に比定されている。これらの方形墳の流れを受け継いで、吾妻川中流域に新井遺跡の方形墳が築かれたものと想定している。

また、特異な馬具と素環頭大刀を出土した下郷71号墳や、同じく馬具を出土したとされる四戸古墳群群大Ⅰ号墳などから馬の飼育に係る集団の存在の可能性が想定される。大規模な馬牧を展開した白井牧が、Hr-FPにより壊滅すると、それに代わる牧場の展開を吾妻川中流域に求めた可能性がある。それが後世の市城の牧などに繋がっていく想定をしている。そこに渡来人の関与があったと考えることができ、方形墳の築造という現象が生まれたと想定している。

６世紀後半以降は、両袖横穴式石室が隆盛し、７世紀代も引き続き横穴式石室が構築され続ける。その中で、初期官衙に関係する遺構群や、金井廃寺などの初期寺院がこの地に展開するのは、以上述べた様な、先進的な知識・技術を持つ渡来系の集団がこの吾妻川中流域に存在し、彼らの力を活かして土地開発及び馬・鉄器生産を行う中でこの中之条盆地周辺が一大拠点となり繁栄したことを示すものである。その要因としては、新井遺跡のあるこの地を含めた周辺全体が、長野・新潟と榛名山の北麓、南西麓を通じて関東平野に通じる重要な交通拠点であったことが大きいと推定する。

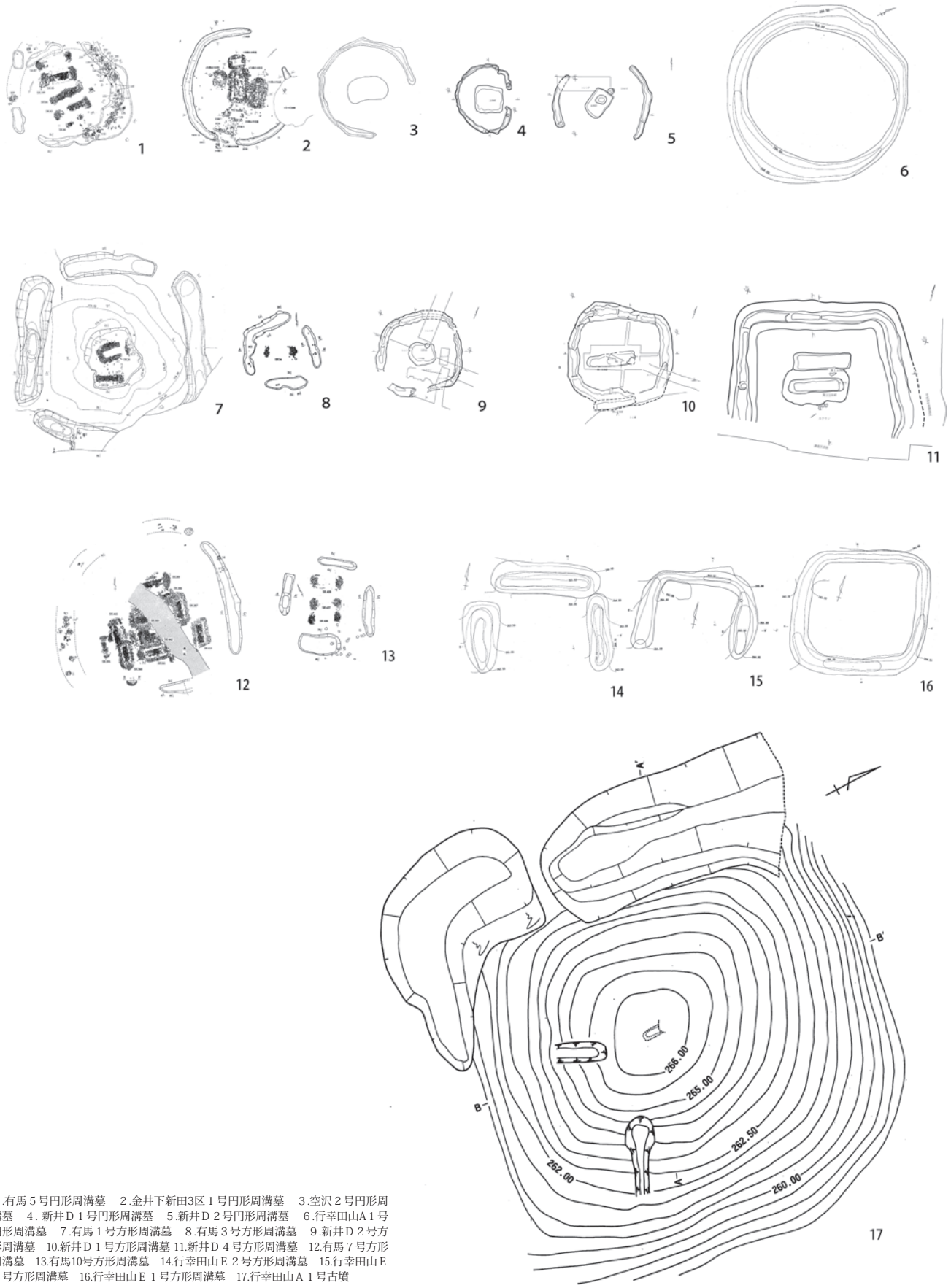
※参考文献は、表１の下段に掲載した。

弥生時代後期　　古墳時代前期

円形周溝墓

方形周溝墓

方墳

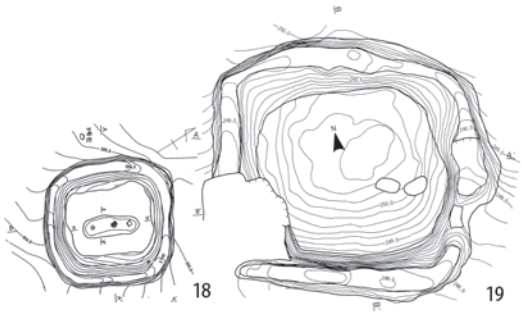


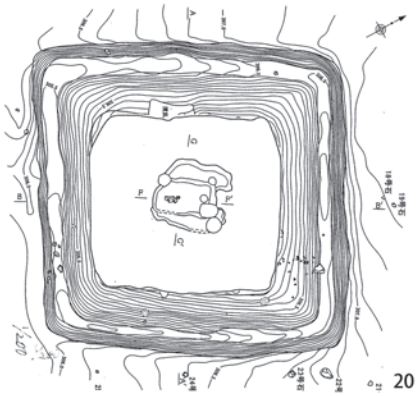
１.有馬５号円形周溝墓　２.金井下新田3区１号円形周溝墓　３.空沢２号円形周溝墓　４. 新井Ｄ１号円形周溝墓　５.新井Ｄ２号円形周溝墓　６.行幸田山A１号円形周溝墓　７.有馬１号方形周溝墓　８.有馬３号方形周溝墓　９.新井Ｄ２号方形周溝墓　10.新井Ｄ１号方形周溝墓 11.新井Ｄ４号方形周溝墓　12.有馬７号方形周溝墓　13.有馬10号方形周溝墓　14.行幸田山Ｅ２号方形周溝墓　15.行幸田山Ｅ３号方形周溝墓　16.行幸田山Ｅ１号方形周溝墓　17.行幸田山Ａ１号古墳

図３　吾妻川中・下流域他周溝墓・方墳編年図（１）

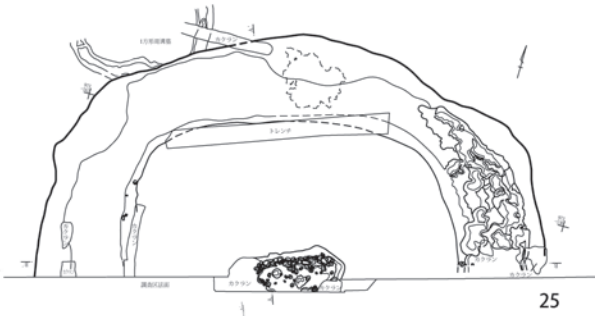
400　古墳時代中期

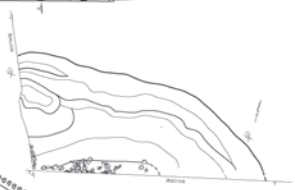
500　古墳時代後期





18.見立溜井４号方形周溝墓　19.黒井峯４号方形周溝墓　20.見立溜井５号方形周溝墓　21.後賀中割７号古墳　22.空沢46号古墳　23.東町古墳　24.下芝谷ツ古墳　25.新井Ｄ２号古墳　26.新井Ｄ３号古墳





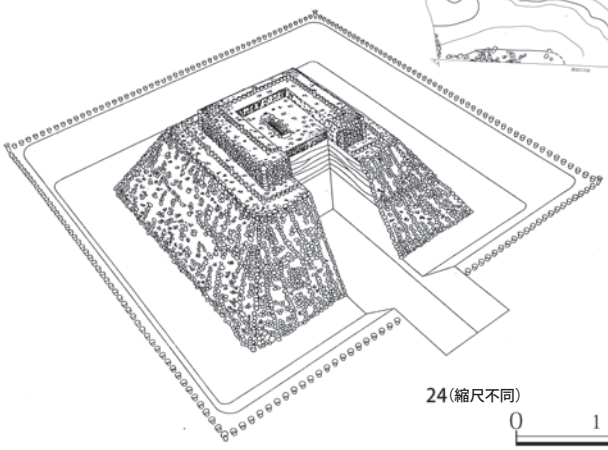


図４　吾妻川中・下流域他周溝墓・方墳編年図（２）

表１　考察使用周溝墓・円墳・方墳一覧表

考察使用　周溝墓

No.	No.	遺跡名	遺構名	規模(m) 長径	短径	丘高	溝(cm) 幅	深さ	主体部名		出土遺物 周溝墓	主体部	時期	文献
1	1	新井	Ｄ１号円形周溝墓	4.52	(3.40)	0+	15～42	2～8		土坑墓			弥生時代	1
	2		Ｄ２号円形周溝墓	6.15	(6.00)	0+	33～60	3～12		土坑墓			弥生時代	
	3		Ｄ１号方形周溝墓	5.92	5.28	0+	57～144	12～47	第１	土坑墓			古墳時代	
									第２	土坑墓				
	4		Ｄ２号方形周溝墓	5.10	4.75	0+	28～74	42		土坑墓			弥生時代	
	5		Ｄ４号方形周溝墓	4.70	3.80+	0.17～0.5	80～105	61～120	第１	土坑墓			古墳時代	
									第２	土坑墓				
2		黒井峯	４号方形周溝墓	9.60	9.40	0.70	210～300	80	東側	土坑墓	壺・椀		古墳時代	2
									西側	土坑墓				
3	1	空沢第2次	１号円形周溝墓	4.50		0+	30～40	20～30		礫床墓	弥生土器		弥生時代	3
	2		２号円形周溝墓	6.24		0+	60～70	30～40		礫床墓		鉄剣	弥生時代	
4	1	行幸田山	Ａ区１号円形周溝墓	13.80	13.20	0.24	100～240	30～50					古墳時代	4
	2		Ｅ区１号方形周溝墓	7.50	7.00	0+	70～120	40～60					古墳時代	
	3		Ｅ区２号方形周溝墓	6.40	6.00+	0+	150～280	85～100			坩		古墳時代	
	4		Ｅ区３号方形周溝墓	5.60	5.00	0+	80～190	60～100			坩		古墳時代	
5		田中	１号方形周溝墓	9.00	(7.6+)	0.10	180～200	40～80	６基	木棺		壺	弥生時代	5
									１基	壺棺				
6	1	見立溜井Ⅱ	４号方形周溝墓	5.79	5.52	0.33	92～128	28～52		土坑墓	小型甕		古墳時代	6
	2		５号方形周溝墓	10.79	10.02	0.32	101～196	36～85		土坑墓	高杯・小型甕・坩・鑿・斧		古墳時代	
7	1	有馬Ⅱ	１号墓	11.05	10.24	0.50	120～240	24～90	１基	礫槨墓	ガラス玉	歯	弥生時代	7
									１基	礫床墓		壺・小型台付甕・高杯・歯		
	2		３号墓	4.08	3.92	0+	90	15	１基	礫端	高杯	壺・高杯・台付甕・管玉・ガラス玉	弥生時代	
	3		５号墓	6.080	6.00	0+	120	30	３基	礫床墓	壺・甕・台付甕・高杯	ガラス玉・勾玉・鉄剣	弥生時代	
									２基	礫端		ガラス玉		
									１基	壺棺		ガラス玉		
	4		６号墓	3.98	3.80	0+	110～115	25	２基	礫端		鉄剣・骨・歯・ガラス玉	弥生時代	
	5		７号墓	(11.00)	(10.85)	0+	90～100	30	10基	礫床墓	壺・甕・ガラス玉	釧・歯・ガラス玉・管玉・骨・高杯・銅鏃	弥生時代	
	6		８号墓			0+	68～110	23～27	２基	礫床墓	壺・甕・石製鋤鍬	ガラス玉	弥生時代	
	7		10号墓	5.20	4.90	0+			３基	礫端		台付甕・小型台付甕・ガラス玉	弥生時代	
8		金井下新田	３区１号周溝	7.60	6.70	0+	40～64	15～40	２基	礫床木棺墓	壺・甕・高杯・紡錘車・管玉・銅鏃	土器片	弥生時代	8
									４基	礫槨墓		土器片・骨	弥生時代	
									３基	礫床墓		石鏃・石製品	弥生時代	
									10号	不明			弥生時代	

考察使用　古墳

No.	No.	遺跡名	遺構名	規模(m) 長径	短径	丘高	溝(cm) 幅	深さ	主体部名		出土遺物 周堀	主体部	時期	文献
1	1	新井	Ｄ1号墳(円)	15.68+	5.92+	0+	60～285	34～81					古墳時代	1
	2		Ｄ2号墳(方)	17.36+	8.96+	0+	312～496	17～65		横穴式石室	埴輪片	ガラス玉	古墳時代	
	3		Ｄ3号墳(方)	9.92+	4.40+	0+	422～595	59～84			須恵器片		古墳時代	
2		金井東裏	1号墳(円)	φ17.40		1.70	418～570	84	２基	周石主体部		剣・素環頭大刀・鏃	古墳時代	9
3		中ノ峯	中ノ峯(円)	φ9.00		1.20	115～150	56		無袖横穴式石室		大刀・鏃・刀子・勾玉・管玉・切子玉・算盤玉・棗玉・臼玉・空玉	古墳時代	10
4		行幸田山	Ａ１号墳(方)	25.50	20.80	2.80	75～85	110～140		木棺直葬		剣・銅鏃・鉋・ガラス玉・管玉	古墳時代	4
5		後賀中割	2区７号墳(方)	27.80		(3.5～4.0)	150～480	80		墳丘内土坑墓	墳丘　鏃・工具片・板状品	石製品模造刀子	古墳時代	11
6		東町	東町(方)	5.80	5.50	0.75			2基	箱式棺状石室		刀子・鏃	古墳時代	12
7		空沢	46号墳(方)	6.00		0+	100～120	25		竪穴式石槨		勾玉・管玉・臼玉・ガラス玉	古墳時代	13
8		下芝谷ツ	下芝谷ツ(方)	一辺 21.80		4.20	600	200		竪穴式石槨		飾履・杏葉・鏡板・小札	古墳時代	14

表１参考文献

1　本報告書
2　黒井峯遺跡Ⅰ　1985
3　空沢遺跡第2次・諏訪ノ木遺跡発掘調査概報　1980
4　行幸田山遺跡　1987
5　田中遺跡　1997
6　見立溜井Ⅱ遺跡　2005
7　有馬遺跡Ⅱ　1990
8　金井下新田遺跡＜状・弥生時代編＞　2021
9　金井東裏遺跡＜古墳時代編＞　2019
10　中ノ峯古墳発掘調査報告書　1980
11　後賀中割遺跡（Ｔ007遺跡）　2021
12　群馬県史　資料編３　原始古代３　1981
13　空沢遺跡第９次　Ｔ・Ｕ地点発掘調査報告書　1990
14　日本考古学協会第64回総会　研究発表要旨　1998

本文参考文献

小島敦子1986「群馬県の方形周溝墓」『荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
平野進一1988「群馬県における弥生周溝墓の様相」『三県シンポジウム東日本の弥生墓制』
小島敦子1990「墓域からみた集落論研究の基礎調査」『古代』90号早稲田考古学会
梅澤重昭1994「毛野の周溝墓と前方後方形周溝墓」『駿台史学』92号　駿台史学会
友廣哲也1995「櫛描文文化圏の弥生時代終末から古墳時代初頭の墓制」『古代』100号
相京建史1996「群馬県の方形周溝墓」『関東の方形周溝墓』同成社
田口一郎1996「樽式期墓制」『群馬県考古学手帳』6
深澤敦仁2016「方形周溝墓と前方後方形周溝墓との関係性について」『専修考古学』15号専修大学考古学会
右島和夫2021「後賀中割遺跡７号墳の意義」『後賀中割遺跡（Ｔ007遺跡）』（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団

新井遺跡　遺構計測表

縄文時代

竪穴建物

No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C6	C	60938～60943	-92695～-92700	N-62°-E	台	4.46	3.98	22	10.173+	6
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有		やや東	なし	縄文時代早期中葉	C3・C7号竪建C25号土坑重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D26	D	60982～60987	-92518～-92524	N-44°-E	長方	(5.18)	(3.70)	—	(18.132)	26
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	なし	なし	なし	中央	なし	縄文時代早期後葉	D148・D149・D151号土坑 505・D506・D510？D・D569号ピット重複			2
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C16	C	60948～60953	-92984～-2690		円	5.35	5.20	10	13.23+	16
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	炉2基	中央・やや西	なし	縄文時代前期	C5・C19号竪建　C77・C93号土坑重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C19	C	60947～90954	-92683～-92691	N-43°-W	隅丸長方	6.82	6.00	9	8.631+	19
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	不明	—	不明	縄文時代早期	C5・C16号竪建　77・C93号土坑重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D32	D	60950～60956	-92622～-92628	N36°-W	長方	5.90	4.09	23	20.907+	32
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	4	なし		中央	なし	縄文時代前期	南壁接　D286号土坑重複			3
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C8	C	60954～60957	-92677～-92682	N-51°-W	不整	5.08	4.67	—	13.59+	8
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	石囲	やや西	なし	縄文時代前期	北壁接　C240・C244号ピット重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D33	D	60963～60966	-92633～-92637	—	不明	3.75	2.38+	27	6.444+	33
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	2＋	なし	不明	—	不明	縄文時代前期	北壁接			3
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C17	C	60958～60960	-92659～-92663	N-83°-E	不明	4.28	2.23+	24	6.881+	17
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	不明	—	不明	縄文時代前期	北壁接　C82号土坑重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C14	C	60956～60958	-92674～-92675	—	不明	1.57+	1.55+	10	0.99+	14
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	なし	なし	不明	—	不明	縄文時代前期	北壁接　C87・C88号土坑重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D29	D	60969～60972	-92599～-92602	N-70°-E	方	3.17	3.00	14	6.647	29
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	なし	—	なし	縄文時代前期				2
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D30	D	60955～60959	-92596～-92601	N-3°-E	隅丸長方	5.20+	4.48	35	16.68+	30
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	なし	—	なし	縄文時代前期	南壁接　D26号竪建下　D31号竪建重複			2
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D31	D	60955～60960	-92596～-92602	N-2°-W	不整	6.20	5.80+	22	6.216+	31
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			2
		有	不明	—	不明	縄文時代時期不明	南壁接　D26号竪建下　D30号竪建　601号ピット重複			
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C13	C	60956～60959	-92666～-92671	—	方か	5.05+	4.94+	30	5.532+	13
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	不明	—	不明	縄文時代前期	北壁接			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C10	C	60944～60945	-92652～-92657	—	方か	5.15	1.23+	20	2.487+	10
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	—	有	不明	—	不明	縄文時代前期	南壁接			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C15	C	60951～60956	-92978～-92984	N-83°-E	不整	5.02	5.00	27	15.741+	15
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	不明	やや北	なし	縄文時代前期	C８号竪建　C74～C76号土坑重複			4

遺構計測表

No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C9	C	60951～60956	-92664～-2698	N-15°-W	楕円	(5.40)	(3.40)	―	(17.922)	9
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		不明	なし	―	なし	縄文時代前期	C18号竪建C14・C70号土坑C118・C119・C191～C194・C198～C200号ピット重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C11	C	60948～60953	-92669～-92676	N-73°-W	柄鏡	6.34	4.85	44	10.398 柄有11.814	11
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	石囲	中央	なし	縄文時代中期後葉～後期初頭	C18号竪建C96～C99号土坑・C359号ピット重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C18	C	60948～60956	-92665～-92671	N-12°-E	楕円	7.56	5.08	―	25.475+	18
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	なし	―	なし	縄文時代後期	C9・C11号竪建　C14・C84～C86・C89・C90号土坑　C343・C3444号ピット重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C5	C	60943～60948	-92684～-92689	N-23°-W	台	4.43	4.23	39	14.508	5
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		一部あり		中央	なし	縄文時代時期不明	C19・C20号竪建重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D27	D	60973～60978	-92514～-92524	N-51°-W	方か	(4.90)	(4.43)	―	(19.338)	27
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	なし	なし	なし	―	なし	縄文時代時期不明	南壁接　D516・D618・D570・D572～D584号ピット重複			2
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C7	C	60938～60945	-92693～-92698	N-25°-E	長方形	5.90	4.45	15	14.234+	7
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	不明	―	―	縄文時代時期不明	C3・C6号竪建C19・C20・C23・C29号土坑重複			4
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C20	C	60944～60947	-92688～-92691	N-55°-W	隅丸長方	3.28+	2.50	12	3.078+	
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	なし	有	なし	―	不明	縄文時代時期不明	C5号竪建重複			
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D28	D	60977～60981	-92544～-92548		円	φ4.10		―	10.44	28
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		有	なし	―	なし	縄文時代時期不明	D208号土坑　D520～D532・D534～D536号ピット重複			2
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D34	D	60987～60992	-92527～-92532	N-11°-W	隅丸方	(5.20)	(5.10)	―	(27.927)	34
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
		なし	なし	―	なし	縄文時代時期不明				2

竪穴状遺構

遺構名	座標		平面形状	規模(m)				長軸方位	時期	時期
				長軸	短軸	深さ	面積			
D2	X＝60960～60964	Y＝-92623～-92626		3.85	3.5	32～42	9.324	N-2°-W	縄文時代	縄文時代

土坑

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			長軸方位	時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ			
C2	X＝60947～60949	Y＝-92686～-92688	隅丸方形	195	176	38	N-74°-E	縄文時代	
C5	X＝60952・60953	Y＝-92688・-92689	楕円形	108	98	29	N-19°-W	縄文時代	
C10	X＝60949～60952	Y＝-92679～-92682	隅丸長方形	235	192	54	N69°-W	縄文時代	
C14	X＝60953	Y＝-92666・-92667	円形	82	80	66	N-0°	縄文時代	
C15	X＝60946～60948	Y＝-92671～-92673	隅丸長方形	287	163	47	N-70°-E	縄文時代	
C16	X＝60947～60949	Y＝-92671～-92674	不整形	245	200	46	N-52°-E	縄文時代	
C19	X＝60942・60643	Y＝-92692・-92693	円形	124	110	101	N-77°-E	縄文時代	

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			長軸方位	時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ			
C 20	X＝60942・60643	Y＝-92692・-92693	円形	134	127	92	N－0°	縄文時代	
C 21	X＝60945・60946	Y＝-92705・-92706	円形	110	106	23	N-10°－E	縄文時代	
C 23	X＝60942・60643	Y＝-92693・-92694	円形	148	143	27	N－0°	縄文時代	
C 25	X＝60941・60942	Y＝-92698・-92699	円形	116	115	79	N－0°	縄文時代	
C 27	X＝60937・60938	Y＝-92696・-92697	円形か	120	69+	100	―	縄文時代	南壁接
C 28	X＝60948～60950	Y＝-92703～-92705	楕円形	128	106	65	N-44°-W	縄文時代	
C 29	X＝60942・60943	Y＝-92696・-92697	円形	133	117	21	N－2°-W	縄文時代	
C 30	X＝60947～60949	Y＝-92643・-92644	不整形	180	81+	13	―	縄文時代	北壁接
C 33	X＝60952・60953	Y＝-92646・-92647	不整形	145	85	30	N-81°－E	縄文時代	
C 36	X＝60947～60948	Y＝-92646・-92647	円形	106	102	27	N－0°	縄文時代	
C 37	X＝60947	Y＝-92650・-92651	不整形	100	60	26	N-75°－E	縄文時代	
C 40	X＝60944・60945	Y＝-92659・-92660	不整形	112	104	36	N-12°－E	縄文時代	
C 44	X＝60946～60948	Y＝-92662～-92664	円形	217	208	38	N-33°-W	縄文時代	
C 45	X＝60943・60944	Y＝-92663・-92664	不整形	104	95	17	N-35°-W	縄文時代	
C 46	X＝60945・60946	Y＝-92668・-92669	円形	90	86	70	N－0°	縄文時代	
C 48	X＝60944・60945	Y＝-92671・-92672	円形	85	79	60	N-42°－E	縄文時代	
C 49	X＝60946～60947	Y＝-92671・-92672	不整形	103	95	60	N-66°－E	縄文時代	
C 51	X＝60946・60947	Y＝-92675	不整形	90	63	70	N-31°-W	縄文時代	
C 53	X＝60952・60953	Y＝-92655～-92657	楕円形	195	125	10	N-40°-W	縄文時代	
C 55	X＝60943	Y＝-92663・-92664	不整形	78+	33+	21	―	縄文時代	南壁接
C 59	X＝60956・60957	Y＝-92657	不整形	92	69	26	N－0°	縄文時代	
C 60	X＝60956・60957	Y＝-92659・-92660	不整形	150	133	61	N－0°	縄文時代	C 61号土坑
C 61	X＝60955・60956	Y＝-92659・-92660	不整形	117	91+	12	―	縄文時代	C 60・C 62・C 63・C 80号土坑
C 62	X＝60954・60955	Y＝-92658・-92660	円形	148	141	30	N－0°	縄文時代	C 61号土坑・C 63・C 80号土坑
C 63	X＝60954・60956	Y＝-92660・-92661	円形	131	126+	21	N－0°	縄文時代	C 61・C 62号土坑
C 64	X＝60956・60957	Y＝-92658・-92659	円形	φ79	―	38	N－0°	縄文時代	C 81号土坑
C 65	X＝60960・60961	Y＝-92657・-92659	不整形	102+	101	14	―	縄文時代	北壁接
C 66	X＝60952	Y＝-92658・-92659	楕円形	111	71	41	N-53°－E	縄文時代	
C 67	X＝60952・60953	Y＝-92661・-92662	不整形	117	94	20	N-82°－E	縄文時代	
C 68	X＝60953・60954	Y＝-92671	円形	100	92	46	N-10°-W	縄文時代	
C 69	X＝60955・60956	Y＝-92669・-92670	円形	106	102	31	N－0°	縄文時代	C 13号竪建
C 70	X＝60952・60953	Y＝-92667・-92668	隅丸長方形	126	88	46	N-15°－E	縄文時代	C 9号竪建
C 71	X＝60955・60956	Y＝-92671・-92672	楕円形	125	97	51	N-12°-W	縄文時代	
C 72	X＝60954・60955	Y＝-92673・-92674	円形	140	139	23	N－0°	縄文時代	
C 73	X＝60952～60954	Y＝-92677・-92678	不整形	140	134	21	N-28°－E	縄文時代	
C 74	X＝60950～60952	Y＝-92678～-92680	円形	195	182	65	N-70°－E	縄文時代	C 15号竪建・C 78号土坑
C 75	X＝60951・60952	Y＝-92681・-92682	楕円形	109	96	31	N-75°-W	縄文時代	C 15号竪建
C 76	X＝60953・60954	Y＝-92983～-92685	不整形	173	125	50	N-79°-W	縄文時代	C 16号竪建
C 77	X＝60950・60951	Y＝-92688・-92689	円形	104	100	40	N－0°	縄文時代	C 16号竪建
C 78	X＝60950・60951	Y＝-92658・-92659	不整形	136	114+	25	―	縄文時代	C 74号土坑
C 80	X＝60955・60956	Y＝-92658・-92659	不整形	84	53+	14	N-35°-W	縄文時代	C 61～C 63号土坑
C 81	X＝60956・60957	Y＝-92658	不整形	70	55+	48	―	縄文時代	C 64号土坑
C 82	X＝60959・60960	Y＝-92660・-92661	不整形	93+	90	30	N－8°-W	縄文時代	北壁接
C 84	X＝60953～60955	Y＝-92665・-92666	不整形	221	135	31	N－8°－E	縄文時代	C 9号竪建
C 85	X＝60952・60953	Y＝-92665・-92666	円形	78	75	31	N－0°	縄文時代	C 9号竪建
C 86	X＝60955・60956	Y＝-92667・-92668	円形	110	98	50	N－0°	縄文時代	C 9号竪建・C 90号土坑
C 87	X＝60956・60957	Y＝-92676～-92678	円形	193	190	50	N－0°	縄文時代	北壁接　C 14号竪建
C 88	X＝60957・60958	Y＝-92674・-92675	円形か	117	69+	25	―	縄文時代	北壁接　C 8・C 14号竪建
C 89	X＝60951・60952	Y＝-92667・-92668	円形	113	109	38	N－0°	縄文時代	C 18号竪建
C 90	X＝60954・60955	Y＝-92667・-92668	不整形	127	110	50	―	縄文時代	C 9号竪建・C 86号土坑
C 91	X＝60956・60957	Y＝-92680・-92681	円形	127	122	55	―	縄文時代	北壁接
C 92	X＝60941・60942	Y＝-92695・-92696	円形	96	95	53	N－0°	縄文時代	
C 93	X＝60952・60953	Y＝-92688・-92689	円形	89	86	44	N－0°	縄文時代	C 16号竪建
C 96	X＝60949～60950	Y＝-92675	楕円形	90+	57	28	N 11°－E	縄文時代	C 11号竪建
C 97	X＝60952・60953	Y＝-92674・-92675	不整形	115	90	20	N-60°－E	縄文時代	C 11号竪建
C 98	X＝60950	Y＝-92671・-92672	隅丸方形	100	86	47	N-18°－E	縄文時代	
C 99	X＝60950	Y＝-92674	円形	56	55	37	N－0°	縄文時代	
C 100	X＝60955・60956	Y＝-92661・-92662	円形	84	81	17	N－0°	縄文時代	
D 114	X＝60986	Y＝-92496・-92497	円形	φ64	―	24	N－0°	縄文時代	
D 115	X＝60988	Y＝-92598・-92599	不整形	72	59	26	N-70°－E	縄文時代	
D 117	X＝60979～60982	Y＝-92503～-92505	不整形	279	245	86	N-27°-W	縄文時代	
D 119	X＝60980～60982	Y＝-92592～-92575	隅丸長方形	292	148	73	N-69°－E	縄文時代	
D 120	X＝60977・60978	Y＝-92570・-92571	隅丸長方形	113	85	83	N-90°	縄文時代	
D 122	X＝60973	Y＝-92580～-92582	隅丸長方形	234	47	40	N-80°－E	縄文時代	
D 124	X＝60965～60967	Y＝-92592～-92594	隅丸長方形	254	92	17	N-48°－E	縄文時代	
D 125	X＝60956・60957	Y＝-92590・-92591	楕円形	120	81	17	N-87°-W	縄文時代	
D 126	X＝60967～60969	Y＝-92593～-92595	不整形	257	68	21	N-62°－E	縄文時代	
D 127	X＝61001・61002	Y＝-92537	円形	82	77	35	N-68°-W	縄文時代	

遺構計測表

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			長軸方位	時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ			
D129	X＝60998	Y＝-92526・-92527	楕円形	90	68	43	N-65°-E	縄文時代	東壁接
D130	X＝60995	Y＝-92528・-92529	楕円形	107	92	23	N-84°-W	縄文時代	
D131	X＝60954・60955	Y＝-92524・-92525	円形	108	105	67	N-65°-W	縄文時代	
D133	X＝60983・60984	Y＝-92516・-92517	円形	97	90	46	N-75°-W	縄文時代	
D134	X＝60987・60988	Y＝-92530・-92531	不整形	75	73	9	N-81°-E	縄文時代	
D136	X＝60986・60987	Y＝-92531・-92532	楕円形	74	60	67	N-60°-E	縄文時代	
D141	X＝60974・60975	Y＝-92536・-92537	不整形	109	97	41	N-75°-E	縄文時代	
D146	X＝60970	Y＝-92551・-92552	不整形	91	73	29	N-3°-W	縄文時代	
D147	X＝60975・60976	Y＝-92551・-92552	円形	98	95	33	N-30°-W	縄文時代	
D148	X＝60985～60986	Y＝-92522～-92523	―	95	91	29	N-0°	縄文時代	D26号竪建
D149	X＝60981～60983	Y＝-92519～-92521	不整形	202	172	26	N-53°-E	縄文時代	
D150	X＝60970	Y＝-92573・-92574	円形	φ50	―	10	N-0°	縄文時代	
D153	X＝60968・60969	Y＝-92556・-92557	不整形	107	96	17	N-73°-E	縄文時代	
D157	X＝60967・60968	Y＝-92563・-92564	楕円形	55	52	17	N-35°-E	縄文時代	
D160	X＝60986	Y＝-92535	楕円形	55	47	20	N-68°-W	縄文時代	
D162	X＝60987・60988	Y＝-92559・-92560	不整形	128	112	36	N-10°-E	縄文時代	
D163	X＝60986・60987	Y＝-92561・-92562	楕円形	123	107	36	N-25°-W	縄文時代	
D168	X＝60980～60982	Y＝-92553・-92554	円形	149	145	40	N-29°-E	縄文時代	
D170	X＝60974・60975	Y＝-92555	楕円形	48	45	17	N-86°-W	縄文時代	
D171	X＝60968	Y＝-92563・-92564	双円形	63	42	16	N-25°-W	縄文時代	
D176	X＝60975～60977	Y＝-92565・-92566	不整形	135	134	52	N-5°-W	縄文時代	D178・D179号土坑
D177	X＝60977・60978	Y＝-92565・-92566	不整形	140	120	39	N-33°-E	縄文時代	D178・D179号土坑
D179	X＝60976～60978	Y＝-92565・-92566	不明	186	94	29	N-43°-W	縄文時代	D176・D177・D178号土坑
D180	X＝60975・60976	Y＝-92572・-92573	円形	118	97	50	N-30°-W	縄文時代	
D182	X＝60968・60969	Y＝-92567・-92568	円形	97	95	34	N-77°-E	縄文時代	
D184	X＝60966・60967	Y＝-92570～-92572	不整形	127	102	27	N-75°-E	縄文時代	
D185	X＝60967・60968	Y＝-92572・-92573	不整形	95	87	15	N-60°-W	縄文時代	
D188	X＝60975・60976	Y＝-92574・-92575	円形	137	115	65	N-55°-E	縄文時代	D212・D213号土坑D539号ピット
D195	X＝60967・60968	Y＝-92574・-92575	不整形	112	97	20	N-58°-W	縄文時代	
D199	X＝60967・60968	Y＝-92581～-92583	不整形	128	127	46	N-5°-W	縄文時代	D543号ピット
D204	X＝60963	Y＝-92568	楕円形	49	40	31	N-13°-W	縄文時代	
D207	X＝60977・60978	Y＝-92576	円形	φ71	―	13	N-0°	縄文時代	
D208	X＝60979・60980	Y＝-92546・-92547	不整形	107	56	13	N-63°-E	縄文時代	D28号竪建
D209	X＝60974・60975	Y＝-92529・-92530	円形	127	123	27	N-64°-E	縄文時代	
D211	X＝60967・60968	Y＝-92552・-92553	楕円形	90	74	20	N-65°-W	縄文時代	
D212	X＝60975・60976	Y＝-92573・-92574	不整形	121+	113	43	N-88°-E	縄文時代	D188・D213号土坑
D213	X＝60974・60975	Y＝-92573～-92575	不明	172+	91+	29	N-77°-W	縄文時代	D188・D212号土坑
D214	X＝60972・60973	Y＝-92526～-92528	不明	195	73+	47	N-73°-E	縄文時代	南壁接
D215	X＝60968・60969	Y＝-92589・-92590	円形	114	108	41	N-0°	縄文時代	D25号竪建
D216	X＝60960・60961	Y＝-92602・-92603	不整形	93	84+	87	N-11°-W	縄文時代	
D218	X＝60957・60958	Y＝-92589・-92590	円形	125	113	32	N-90°	縄文時代	
D225	X＝60968・60969	Y＝-92594・-92595	不整形	96	52	17	N-51°-E	縄文時代	
D226	X＝60971～60973	Y＝-92591～-92593	隅丸長方形	187	114	27	N-52°-E	縄文時代	D227号土坑
D230	X＝60969・60970	Y＝-92602～-92604	楕円形	170	138	47	N-86°-E	縄文時代	
D232	X＝60970・60971	Y＝-92605・-92606	不整形	126	115	17	N-21°-W	縄文時代	
D234	X＝60969・60970	Y＝-92604・-92605	楕円形	67	53	30	N-80°-E	縄文時代	
D237	X＝60961～60964	Y＝-92613～-92615	楕円形	238	215	42	N-38°-E	縄文時代	
D238	X＝60957・60958	Y＝-92640・-92642	円形	142	117	31	N-69°-E	縄文時代	
D239	X＝60954・60955	Y＝-92638・-92639	楕円形	109	89	20	N-75°-E	縄文時代	
D240	X＝60952・60953	Y＝-92939・-92640	円形	φ105	―	31	N-0°	縄文時代	
D241	X＝60955・60956	Y＝-92630・-92631	円形	φ95	―	12	N-0°	縄文時代	
D242	X＝60957・60958	Y＝-92628・-92629	円形	120	116	29	N-30°-E	縄文時代	
D243	X＝60960・60961	Y＝-92628・-92629	円形	φ102	―	13	N-0°	縄文時代	
D244	X＝60958・60959	Y＝-92627～-92629	円形	130	122	31	N-61°-W	縄文時代	D284号土坑
D245	X＝60956～60958	Y＝-92627・-92628	楕円形	120	105	32	N-10°-E	縄文時代	
D246	X＝60951～60953	Y＝-92620・-92621	円形	130	118	28	N-33°-W	縄文時代	
D247	X＝60953～60955	Y＝-92621・-92622	楕円形	170	120	21	N-7°-E	縄文時代	D608号ピット
D248	X＝60953～60955	Y＝-92619・-92620	楕円形	144	135	19	N-00°	縄文時代	
D249	X＝60952・60953	Y＝-92618・-92619	円形	123	116	47	N-39°-E	縄文時代	D280号土坑
D250	X＝60952・60953	Y＝-92614・-92615	円形	56	55	12	N-0°	縄文時代	
D252	X＝60954・60955	Y＝-92612・-92613	不整形	135	128	50	N-8°-W	縄文時代	
D253	X＝60961	Y＝-92614・-92615	円形	100	97	11	N-0°	縄文時代	D254号土坑
D254	X＝60961・60962	Y＝-92613・-92614	円形	φ111	―	14	N-0°	縄文時代	D253号土坑
D255	X＝60963・60964	Y＝92611・-92612	円形	φ98	―	12	N-0°	縄文時代	
D256	X＝60963・60964	Y＝-92609	円形	80	69	16	N-79°-E	縄文時代	
D257	X＝60955・60956	Y＝-92617	不明	86+	38+	44	―	縄文時代	D4号方周D275号土坑
D258	X＝60957・60958	Y＝-92611	楕円形	84	63	14	N-78°-E	縄文時代	
D259	X＝60958・60959	Y＝-92611・-92612	楕円形	82	56	39	N-75°-W	縄文時代	

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			長軸方位	時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ			
D260	X＝60961・60962	Y＝-92612・-92613	円形	67	62	14	N-0°	縄文時代	
D261	X＝60965。60966	Y＝-92625・-92626	楕円形	102	82	24	N-18° -W	縄文時代	
D262	X＝60964・60965	Y＝-92628～-92630	不整形	113	108	38	N-72° -W	縄文時代	
D264	X＝60962・60963	Y＝-92634・-92635	楕円形	91	68	24	N-50° -E	縄文時代	
D265	X＝60963・60964	Y＝-92637・-92638	不整形	120	100	36	N-10° -E	縄文時代	
D266	X＝60962・60963	Y＝-92636	楕円形	80	63	66	N-45° -E	縄文時代	
D268	X＝60965～60967	Y＝-92617・-92618	円形	144	137	19	N-77° -E	縄文時代	
D269	X＝60963・60964	Y＝-92633・-92634	楕円形	130	110	23	N-27° -W	縄文時代	
D270	X＝60959・60960	Y＝-92619・-92620	楕円形	146	128	10	N-24° -E	縄文時代	
D271	X＝60961～60963	Y＝-92620～-92622	楕円形	220	158	16	N-45° -E	縄文時代	
D272	X＝60966・60967	Y＝-92615・-92616	円形	120	117	19	N-0°	縄文時代	
D273	X＝60966・60967	Y＝-92614～-92616	不整形	148	124	18	N-67° -E	縄文時代	
D274	X＝60968・60969	Y＝-92613・-92614	円形	φ 144	―	70	N-0°	縄文時代	
D275	X＝60955・60956	Y＝-92617・-92618	不明	92+	95	14	N-80° -E	縄文時代	
D276	X＝60961・60962	Y＝-92644・-92645	楕円形	160	114	39	N-83° -W	縄文時代	
D277	X＝60959・60960	Y＝-92641・-92642	不整形	124	92	32	N-76° -W	縄文時代	
D278	X＝60961・60962	Y＝-92641・-92642	隅丸長方形	128	84	37	N-56° -W	縄文時代	
D279	X＝60962・60963	Y＝-92632・-92633	円形	150	145	51	N-0°	縄文時代	
D280	X＝60952	Y＝-92618・-92619	不明	91	50+	20	―	縄文時代	D249号土坑
D281	X＝60956・60957	Y＝-92613・-92614	隅丸長方形	111	59	37	N-72° -W	縄文時代	D251号土坑
D282	X＝60958	Y＝-92643	円形	59	52	24	N-83° -W	縄文時代	
D283	X＝60957・60958	Y＝-92636・-92637	円形	102	98	14	N-0°	縄文時代	
D284	X＝60968	Y＝-92627・-92628	不明	82	56+	21	―	縄文時代	D244号土坑
D285	X＝60595・60960	Y＝-92644・-92645	不整形	150+	115	54	N-89° -E	縄文時代	西壁接
D286	X＝60953	Y＝-92628	不明	100	59+	16	―	縄文時代	D32号竪建

ピット

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ		
C329	X＝60957	Y＝-92653	楕円形	81	50	61	縄文時代	
C331	X＝60950・60951	Y＝-92659	楕円形	47	37	42	縄文時代	
C343	X＝60950・60951	Y＝-92666・-2667	円形	70	59	36	縄文時代	
C344	X＝60950・60951	Y＝-92666・-2667	楕円形	50	42	37	縄文時代	
C348	X＝60937	Y＝-92705	不整形	33	33	43	縄文時代	
C359	X＝60949	Y＝-92670・-92671	不整形	49	44	28	縄文時代	
C360	X＝60946	Y＝-92674	不整形	62	35	59	縄文時代	
C363	X＝60955	Y＝-92669・-92670	円形	37	37	65	縄文時代	
C366	X＝60944	Y＝-92693・-92694	楕円形	40	33	53	縄文時代	
C367	X＝60944	Y＝-92693・-92694	不整形	41	30	34	縄文時代	

焼土

遺構名	座標		規模(cm)			時期	備考
			長軸	短軸	深さ		
C 2	X＝60946	Y＝-92672	62	47	6	古代	
C 3	X＝60954	Y＝-92667	68	58	13	縄文時代	

集石

遺構名	座標		規模(cm)			時期	備考
			長軸	短軸	深さ		
C 2	X＝60950	Y＝-92659	120	72	24	縄文時代	

列石

遺構名	座標		全長(m)	方向	石大(cm)	数	時期	備考
C 1	X＝60949～60956	Y＝-92647～-92651	8.34	N-27° -W	22～65	19	縄文時代	

配石

遺構名	座標X	座標Y	石個数	時期	備考
D 1	60966	-92608・-92609	2	縄文時代	
D 2	60953	-92618	1	縄文時代	
D 3	60959	-92624・-92625	1	縄文時代	
D 4	60960・60961	-92697	1	縄文時代	
D 5	60956・60957	-92639・-92367	4	縄文時代	

風倒木

遺構名	座標X	座標Y	方向	長(m)	幅(m)	深さ(cm)	時期	備考
D 1	60982～60984	-92533～-92535		2.36	1.93	59	縄文時代	

弥生時代

竪穴建物

No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D24	D	60955～60962	-92592～-92599	N-48°-W	隅丸長方	6.23	4.24	37	25.182	24
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	5	なし		中央	なし	弥生時代中期後葉				1下
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D25	D	60963～60971	-92583～-92591	N-47°-W	隅丸長方	6.90	5.26	54	30.879	25
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	5	なし		中央	なし	弥生時代中期後葉	D25号土坑重複			1下
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C4	C	60946～60950	-92670～-92673	N-22°-W	隅丸長方	3.38	2.15	34	5.616	4
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	なし	なし	なし	—	なし	弥生後期				3

竪穴状遺構

遺構名	座標		平面形状	規模(m)				長軸方位	時期	時期
				長軸	短軸	深さ	面積(㎡)			
D1	X＝60968～60971	Y＝-92577～-92580		2.90+	2.7	28～53	4.457	N-25°-W	弥生時代	弥生時代

土坑

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			長軸方位	時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ			
C4	X＝60954～60956	Y＝-92656～-92659	隅丸方形	221	200	33	N-64°-E	弥生時代	D78号ピット
C17	X＝60950～60953	Y＝-92652～-92654	隅丸長方形	230	190	44	N-79°-W	弥生時代	

ピット

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ		
C302	X＝60952	Y＝-92657	楕円形	29	24	24	弥生時代	

方形周溝墓

No.	座標値	規模(m)			面積(㎡)	周溝上幅(cm)	周溝下幅(cm)	周溝深さ(cm)	備考
			南北	東西					
D2	X＝60962～60969	外周	5.68	6.20	30.184	28～74	9～34	42	
	Y＝-92597～-92603	内周	4.75	5.10	21.704				
	主体部		全長(cm)	東部幅(cm)	中央部(cm)	西部(cm)	面積(㎡)		
		上場	190	134	150	163	2.680		
		床面	155	108	110	107	1.488		

円形周溝墓

No.	座標値	規模(m)			面積(㎡)	周溝上幅(cm)	周溝下幅(cm)	周溝深さ(cm)	備考
			南北	東西					
D1	X＝60.975～60980	外周	5.00	(4.00)	16.016	15～42	4～27	2～8	
	Y＝-92528～-92532	内周	4.52	(3.40)	12.320				
	主体部		全長(cm)	東部幅(cm)	中央部(cm)	西部(cm)	面積(㎡)		
		上場	205	178	193	195	3.632		
		床面	176	135	152	138	2.480		
No.	座標値	規模(m)			面積(㎡)	周溝上幅(cm)	周溝下幅(cm)	周溝深さ(cm)	備考
			南北	東西					
D2	X＝60962～60969	外周	(6.80)	7.12	(37.552)	33～60	10～33	3～12	
	Y＝-92597～-92603	内周	(6.00)	6.15	(29.184)				
	主体部		全長(cm)	東部幅(cm)	中央部(cm)	西部(cm)	面積(㎡)		
		上場	207	138	144	140	2.728		

古墳時代

竪穴建物

No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
A 6	A	60969～60975	-92858～-92863	N-75°-W	隅丸方	5.33	4.90	27	19.481	6
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	4	有	なし	―	有	古墳時代前期	A5号竪建・A16号土坑重複			3
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C 1	C	60945～60952	-92691～-92697	N-36°-W	方	5.22	5.15	52	20.957	1
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	4	有	袖内に石	北壁中央	２基有	古墳時代中期				3

方形周溝墓

No.	座標値	規模(m)			面積(㎡)	周溝上幅(cm)	周溝下幅(cm)	周溝深さ(cm)	備考
			南北	東西					
D 1	X＝60974～60981	外周	7.36	7.68	47.584	57～144	11～54	12～47	
	Y＝-92556～-92564	内周	5.28	5.92	28.448				
	１号主体部		全長(cm)	東部幅(cm)	中央部(cm)	西部(cm)	面積(㎡)		
		上場	350	92	(92)	73	2.848		
		床面	318	75	(79)	54	2.144		
	２号主体部		全長(cm)	東部幅(cm)	中央部(cm)	西部(cm)	面積(㎡)		
		上場	310	(50)	(70)	(66)	2.008		
		床面	276	32	(46)	45	1.184		
No.	座標値	規模(m)			面積(㎡)	周溝上幅(cm)	周溝下幅(cm)	周溝深さ(cm)	備考
			南北	東西					
D 4	X＝60952～60962	外周	9.60+	13.60+	113.024+	160～210	13～39	61～120	
	Y＝-92603～-92618	内周	7.60+	9.40+	66.603+				
	第１主体部		全長(cm)	東部幅(cm)	中央部(cm)	西部(cm)	面積(㎡)		
		上場	404	112	110	126	4.565		
		床面	360	96	86	98	30243		
	第２主体部	上場	390	90	92	94	3.200		
		床面	292	74	72	56	1.899		

古墳

No.	座標値	規模(m)			面積(㎡)	周溝上幅(cm)	周溝下幅(cm)	周溝深さ(cm)	備考
			南北	東西					
D 1	X＝60974～60984	外周	7.80+	19.40+	108.544+	60～285	30～117	34～81	
	Y＝-92500～-92519	内周	5.92+	15.68+	68.608+				
No.	座標値	規模(m)			面積(㎡)	周溝上幅(cm)	周溝下幅(cm)	周溝深さ(cm)	備考
			南北	東西					
D 2	X＝60963～60979	外周	13.60+	26.96+	260.843+	312～496	155～268	17～65	
	Y＝-92536～-92562	内周	8.96+	17.36+	117.696+				
	主体部		全長(cm)	東部幅(cm)	中央部(cm)	西部(cm)	面積(㎡)		
		上場	232+	120+	100+	―	8.32+		
		床面	220+	79+	78+	―	―		
No.	座標値	規模(m)			面積(㎡)	周溝上幅(cm)	周溝下幅(cm)	周溝深さ(cm)	備考
			南北	東西					
D 3	X＝60947～60953	外周	6.32+	12.16+	55.872+	422～595	55～210	59～84	
	Y＝-92628～-92642	内周	4.40+	9.92	11.392+				

古代

竪穴建物

No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
A 2	A	60977～60981	-92871～-92876	N-90°-E	隅丸方	4.33	4.12	26	13.874	2
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	4	有	不明	東壁中央	なし	古代				3
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
A 3	A	60969～60976	-92873～-92879	S-70°-E	隅丸長方	5.45	4.40	50	19.481	3
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	なし	有	竈２基	東壁北・やや南	有	古代				3
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C 2	C	60942～60947	-92674～-2680	N-88°-E	隅丸長方	5.15	4.62	38	17.868	2
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	4	有	石組竈	東壁やや南	なし	古代				3
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
C 3	C	60937～60941	-92691～-92696	N-71°-E	不明	4.05	3.40+	61	10.095+	3
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	1	有	不明	東壁	不明	古代	南壁接			3

遺構計測表

No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
D23	D	60958～60959	-92579～-92583	―	不明	4.27+	1.40+	59	2.817+	23
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	―	有	―	―	―	古代	南壁接			1下
No.	区	位置X	位置Y	主軸方位	形状	長辺(m)	短辺(m)	最大壁高(cm)	面積	建物番号
A5	A	60979-60974	-92862~-92866	―	不明	3.68	3.65		12.861	5
	柱穴数	周溝有無	カマド・炉構造	カマド・炉位置	貯蔵穴	時期	備考			面
	―	不明	―	―	―	古代				3

掘立柱建物

遺構名	座標		平面形状	規模(m)				桁行方向	重複関係	時期
				桁行	梁行	面積（㎡）	柱間距離			
A1	X＝60983～60986	Y＝-92881～-92884		2間	1間		桁行 梁行		A2号掘立	古代
A2	X＝60985～60988	Y＝-92879～-92883		2間	1間		桁行 梁行		A1号掘立	古代

土坑群

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			長軸方位	時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ			
B1	X＝60948～60952	Y＝-92723～-92728		560+	455	143	N-60°-E	古代	
B2	X＝60951～60957	Y＝-92711～-92719		800+	600+	108	N-55°-E	古代	

土坑

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			長軸方位	時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ			
A4	X＝60975・60976	Y＝-92869・-92870	円形	118	114	39	N-0°	古代	
A5	X＝60977～60983	Y＝-92868～-92870	隅丸長方形	640+	62	44	N-17°-W	古代	
A6	X＝60987・60988	Y＝-92890・-92891	楕円形	104	78	25	N-21°-E	古代	
A7	X＝60991・60992	Y＝-92902・-92903	円形	62	50	34	N-0°	古代	
A8	X＝60995・60996	Y＝-92905・-92906	楕円形	106	78	34	N-6°-W	古代	
A9	X＝60973～60975	Y＝92873・-92874	隅丸長方形	197	55	41	N-16°-W	古代	
A10	X＝60972～60975	Y＝-92875・-92876	隅丸長方形	275	47	15	N-14°-W	古代	
A11	X＝60971～60974	Y＝-92878・-92879	隅丸長方形	334	72	39	N-8°-W	古代	
A12	X＝60983～60986	Y＝-92881・-92882	隅丸長方形	245	82	26	N-9°-E	古代	
A13	X＝60982～60984	Y＝-92882・-92883	隅丸長方形	207	108	60	N-28°-W	古代	
A14	X＝60985～60988	Y＝-92881～-92883	隅丸長方形	395	51	36	N-24°-W	古代	
A15	X＝60981～60983	Y＝-92878～-92880	隅丸長方形	166	131	15	N-22°-E	古代	
A16	X＝60972	Y＝-92858	楕円形	55	49	28	N-44°-E	古代	A6号竪建

ピット

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ		
A4	X＝60993	Y＝-92892・-92893	楕円形	42	32	23	古代	
C207	X＝60957・60957	Y＝-92667・-92668	円形	43	42	18	古代	
C235	X＝60951	Y＝-92675	円形	41	41	20	古代	
C236	X＝60951	Y＝-92676	円形	32	31	53	古代	
C246	X＝60953	Y＝-92679	円形	40	34	32	古代	
D408	X＝60982	Y＝-92491・-92493	円形	32	30	32	古代	
D409	X＝60983	Y＝-92493・-92494	不整形	35	32	45	古代	
D410	X＝60985	Y＝-92495・-92496	円形	42	40	24	古代	
D412	X＝60986・60987	Y＝-92501・-92502	楕円形	35	27	17	古代	
D414	X＝60988・60989	Y＝-92505	楕円形	42	37	33	古代	
D416	X＝60989	Y＝-92506	不整形	30	27	38	古代	
D417	X＝60989・60990	Y＝-92506・-92507	不整形	37	35	18	古代	
D418	X＝60990	Y＝-92511	隅丸方形	30	30	35	古代	
D424	X60993・60994	Y＝-92530・-92531	円形	103	40	62	古代	
D432	X＝60994・62995	Y＝-92528	不整形	22	20	21	古代	
D434	X＝60994・62995	Y＝-92526・-92527	不整形	72	63	47	古代	
D436	X＝60996	Y＝-92526	円形	24	20	21	古代	
D437	X＝60997	Y＝-92526・-92527	楕円形	40	26	34	古代	
D438	X60993・60994	Y＝-92525・-92526	楕円形	43	29	28	古代	
D440	X＝60991	Y＝-92521	不整形	38	26	53	古代	
D442	X＝60991	Y＝-92519	隅丸方形	20	17	30	古代	
D443	X＝60992	Y＝-92519	隅丸長方形	25	18	23	古代	
D444	X＝60987	Y＝-92513	不整形	27	26	35	古代	
D474	X＝60990・60991	Y＝-92540	不整形	48	40	39	古代	
D475	X＝60992	Y＝-92546・-92547	不整形	42	33	20	古代	

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ		
D476	X＝60991・60992	Y＝-92546・-92547	楕円形	56	34	52	古代	
D477	X＝60983	Y＝-92515	楕円形	30	26	37	古代	
D480	X＝60986・60987	Y＝-92541	楕円形	45	35	15	古代	
D490	X＝60969	Y＝-92543	楕円形	58	52	30	古代	
D491	X＝60969	Y＝-92544	楕円形	33	29	20	古代	
D492	X＝60975・60976	Y＝-92548	不整形	50	47	62	古代	
D494	X＝60972	Y＝-92551	円形	79	35	111	古代	
D495	X＝60975・60976	Y＝-92550・-92551	円形	42	40	39	古代	
D497	X＝60986・60987	Y＝-92522・-92523	楕円形	42	37	9	古代	
D498	X＝60987	Y＝-92522	円形	16	15	16	古代	
D503	X＝60984	Y＝-92518	楕円形	30	27	11	古代	
D504	X＝60983・60984	Y＝-92519	円形	38	32	9	古代	
D505	X＝60983	Y＝-92520	不整形	48	32	16	古代	D26号竪建　D149号土坑
D506	X＝60982・60983	Y＝-92520・-92521	不整形	68	55	20	古代	D26号竪建　D149号土坑
D507	X＝60981	Y＝-92521	楕円形	40	31	36	古代	D508号ピット
D508	X＝60981	Y＝-92521	楕円形	36	25	17	古代	D507号ピット
D509	X＝60982	Y＝-92522	不整形	28	20	40	古代	
D510	X＝60982	Y＝-92521・-92522	隅丸方形	31	30	6	古代	D26号竪建　D569号ピット
D511	X＝60983・60984	Y＝-92523	円形	25	23	6	古代	
D512	X＝60984	Y＝-92524	不整形	23	20	7	古代	
D513	X＝60984	Y＝-92522・-92523	隅丸方形	29	28	3	古代	
D514	X＝60984・60985	Y＝-92524	不整形	25	25	4	古代	
D515	X＝60976	Y＝-92518・-92519	隅丸方形	35	27	4	古代	
D516	X＝60976・60977	Y＝-92519・-92520	楕円形	38	35	10	古代	
D517	X＝60977・60978	Y＝-92520	楕円形	22	18	19	古代	
D518	X＝60978	Y＝-92522	楕円形	52	40	12	古代	
D519	X＝60978・60979	Y＝-92522	円形	35	28	10	古代	
D520	X＝60980	Y＝-92545	不整形	41	33	6	古代	D28号竪建
D521	X＝60980	Y＝-92545・-92546	不整形	37	30	10	古代	D28号竪建
D522	X＝60980	Y＝-92546	楕円形	40	25	4	古代	D28号竪建
D523	X＝60980	Y＝-92546	楕円形	40	30	6	古代	D28号竪建
D524	X＝60980	Y＝-92547	楕円形	25	22	12	古代	D28号竪建
D525	X＝60980	Y＝-92547	隅丸方形	32	28	17	古代	D28号竪建　D526号ピット
D526	X＝60980	Y＝-92547	隅丸方形	22	18+	7	古代	D28号竪建　D525号ピット
D527	X＝60980・60981	Y＝-92547・-92548	不整形	35	31	28	古代	D28号竪建
D528	X＝60980	Y＝-92547・-92548	楕円形	26	20	9	古代	D28号竪建
D529	X＝60979・60980	Y＝-92548	円形	45	30+	11	古代	D28号竪建　D530号ピット
D530	X＝60979	Y＝-92548	円形	42	38	26	古代	D28号竪建　D529号ピット
D531	X＝60978	Y＝-92547	楕円形	28	21	10	古代	D28号竪建
D532	X＝60977	Y＝-92546・-92547	楕円形	25	20	7	古代	D28号竪建
D533	X＝60977・60978	Y＝-92544・-92545	楕円形	30	30	88	古代	
D534	X＝60980	Y＝-92544・-92545	円形	22	21	13	古代	D28号竪建
D535	X＝60978・60979	Y＝-92546	円形	30	27	6	古代	D28号竪建
D536	X＝60977・60978	Y＝-92546	円形	19	18	9	古代	D28号竪建
D537	X＝60994・62995	Y＝-92548	不整形	59	53	18	古代	
D538	X＝60994・62995	Y＝-92548・-92549	不整形	60	48	19	古代	
D539	X＝60976	Y＝-92574・-92575	円形	53	38+	37	古代	D188号土坑
D540	X＝60974	Y＝-92575	円形	37	29	32	古代	
D541	X＝60965	Y＝-92570	不整形	37	31	23	古代	
D543	X＝60968	Y＝-92580	円形か	60+	20+		古代	D199号土坑
D545	X＝60997	Y＝-92536	隅丸方形	21	17	8	古代	
D547	X＝60982・60983	Y＝-92549	円形	51	47	24	古代	
D548	X＝60980	Y＝-92554	円形	18	16	32	古代	
D555	X＝60976	Y＝-92552	隅丸方形	15	13	7	古代	
D556	X＝60976	Y＝-92553・-92554	円形	24	20	22	古代	
D557	X＝60977・60978	Y＝-92557	楕円形	55	42	17	古代	
D558	X＝60975・60976	Y＝-92562	円形	54	36	53	古代	
D559	X＝60979・60980	Y＝-92572・-92573	円形	58	52	12	古代	
D560	X＝60972	Y＝-92550	円形	32	30	21	古代	
D561	X＝60961・60962	Y＝-92582	不整形	51	45	18	古代	
D562	X＝60959	Y＝-92583・-92584	不整形	51	50	16	古代	
D563	X＝60961	Y＝-92585	楕円形	38	26	18	古代	
D564	X＝60958・60959	Y＝-92585	円形	25	23	35	古代	
D565	X＝60957・60958	Y＝-92585	不整形	56	43	33	古代	
D568	X＝60982・60983	Y＝-92507	楕円形	40	20	22	古代	
D570	X＝60978	Y＝-92521	不整形	45	44	23	古代	
D571	X＝60977・60978	Y＝-92519・-92520	不整形	55	20	20	古代	
D572	X＝60975	Y＝-92523	楕円形	20	18	18	古代	D27号竪建

遺構計測表

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ		
D573	X＝60975	Y＝-92522・-92523	不整形	53	43	49	古代	D28号竪建
D574	X＝60975・60976	Y＝-92522	楕円形	39	29	39	古代	D29号竪建
D575	X＝60975・60976	Y＝-92521	楕円形	29	25	35	古代	D30号竪建
D576	X＝60975	Y＝-92521	楕円形	25	20	31	古代	D31号竪建
D577	X＝60975	Y＝-92521	楕円形	24	17	13	古代	D32号竪建
D578	X＝60975	Y＝-92521・-92522	楕円形	25	20	44	古代	D33号竪建
D579	X＝60975	Y＝-92522	楕円形	25	20	39	古代	D34号竪建
D580	X＝60975	Y＝-92521	不明	24	13+	14	古代	D35号竪建
D581	X＝60975	Y＝-92521	不整形	33+	30	16	古代	D36号竪建
D582	X＝60975	Y＝-92521	楕円形	29	23	7	古代	D37号竪建
D583	X＝60975	Y＝-92520	不整形	28	25	3	古代	D38号竪建
D584	X＝60974	Y＝-92520	楕円形	25	20	8	古代	D39号竪建
D585	X＝60974・60975	Y＝-92590・-92591	不整形	49	44	8	古代	D３号方形周溝墓
D587	X＝60969・60970	Y＝-92595・-92596	不整形	65	51	29	古代	
D588	X＝60969・60970	Y＝-92591	楕円形	52	37	33	古代	
D589	X＝60970・60971	Y＝-92591・-92592	楕円形	56	44	28	古代	
D590	X＝60971	Y＝-92590・-92591	楕円形	75	58	6	古代	
D591	X＝60970・60971	Y＝-92590・-92591	楕円形	43	34	33	古代	
D592	X＝60978	Y＝-92585	不整形	45	40	20	古代	
D594	X＝60979・60980	Y＝-92587	円形	φ45	―	22	古代	
D596	X＝60958	Y＝-92601・-92602	円形	40	38	34	古代	D31号竪建
D597	X＝60963・60964	Y＝-92604	円形	φ25	―	20	古代	
D598	X＝60964	Y＝-92602	円形	23	20	17	古代	
D599	X＝60964	Y＝-92603	円形	22	21	18	古代	
D600	X＝60973・60974	Y＝-92600	不整形	26	23	17	古代	
D601	X＝60959・60960	Y＝-92598	楕円形	75+	44	38	古代	D31号竪建
D603	X＝60953	Y＝-92637	楕円形	45	38	44	古代	
D604	X＝60953	Y＝-92636・-92637	円形	44	37	40	古代	
D605	X＝60953	Y＝-92642	円形	60	55	76	古代	
D606	X＝60964	Y＝-92626・-92627	円形	33	24	49	古代	
D607	X＝60963・60964	Y＝-92626	円形	30	23	35	古代	
D608	X＝60954	Y＝-92621・-92622	円形	34	29	10	古代	D247号土坑
D609	X＝60963・60964	Y＝-92617	円形	39	35	40	古代	
D610	X＝60990	Y＝-92545	不整形	32	25	15	古代	

溝

遺構名	座標		方向	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)	時期	備考
A１	X＝60961～60988	Y＝-92875～-92881	N-7°-w	27.12+	3.36	54	古代	
A２	X＝60961～60987	Y＝-92876～-92881	N-10°-W➡N-5°-E➡N-35°-W➡N-17°-E	26.88+	1.60	116	古代	
A３	X＝60982～60986	Y＝-92877～-92879	N-28°-E	3.45	0.40	11	古代	A15号土坑
C２・D32	X＝60942～60963	Y＝-92623～-92666	N-63°-E	32.58+	0.60	12	古代	C２・D32号溝同一

焼土

遺構名	座標		規模(cm)			時期	備考
			長軸	短軸	深さ		
A１	X＝61013～61015	Y＝-92953～-92955	212	183	15	古代	
A２	X＝61001	Y＝-92900	69	31	12	古代	
A３	X＝60984・60985	Y＝-92875・-92876	107	103	15	古代	
A５	X－60984～60987	Y＝-92879～-92883	315	315	16	古代	
A７a	X＝6098460985	Y＝-92884～-92886	112	54	7	古代	
A７b			53	55	10	古代	
A８a	X＝60989	Y＝-92884・-92885	30	15	4	古代	
A８b			13	8	16	古代	

集石

遺構名	座標		規模(cm)			時期	備考
			長軸	短軸	深さ		
D３	X＝60965	Y＝-92577・-92578	172	120	―	古代	
D４	X＝60965～60967	Y＝-92575～-92577	135	125	8	古代	

畠

遺構名	座標X	座標Y	方向	面積(㎡)	畝長(m)	畝幅(m)	深さ(cm)	畝条数	時期	備考
A11	60985～60997	-92980～-92904	N-13°-W	75.7+	―	―	―	―	古代	畝不明瞭
A９	60977～60981	-92866～-92868	N-20°-W	4.767+	2.40	0.23		4+	古代	
A10	60972～60974	-92866～-92869	N-80°-E	4.067+	2.40	0.42		4+	古代	

中近世

土坑群

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			長軸方位	時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ			
B 3	X＝60938～60943	Y＝-92714～-92719		522	308+	―	N-50°-E	近世	
B 4	X＝60933～60939	Y＝-92720～-92724		595	345	114	N-27°-E	近世	

土坑

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			長軸方位	時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ			
A 1	X＝60997～61002	Y＝-92943～-92947	不整形	512+	188	56	N-27°-E	中近世	調査区壁接　A２畑
A 3	X＝60996・60997	Y＝-92932～-92935	不整形	290	153	28	N-74°-W	中近世	
B 8	X＝60943・60944	Y＝-92772・-92773	不整形	110	108	60	N-0°	中近世	
B 9	X＝60950・60951	Y＝-92720～-92722	不整形	192	150	86	N-53°-W	中近世	
B10	X＝60941～60645	Y＝-92716～-92720	双円形	432	253	120	N-47°-E	中近世	
B11	X＝60936	Y＝-92731・-92732	不明	75	47+	24	―	中近世	
B12	X＝60934～60939	Y＝-92730～-92732	隅丸長方形	557	73	46	N-25°-E	中近世	
B13	X＝60939～60941	Y＝-92727～-92729	円形	177	162	93	N-0°	中近世	
B14	X＝60927～60930	Y＝-92728～-92734	隅丸長方形	654+	99	53	N-56°-W	中近世	
B15	X＝60937～60939	Y＝-92929・-92930	不整形	200	77	43	N-25°-E	中近世	
B16	X＝60933～6036	Y＝-92727～-92730	不整形	354	228	88	N-27°-E	中近世	
B17	X＝60936・60937	Y＝-92724・-92725	不整形	129	98	43	N-26°-E	中近世	
B18	X＝60939～60941	Y＝-92723・-92724	不整形	84	77	40	N-15°-E	中近世	
B19	X＝60938・60939	Y＝-92725・-92726	楕円形	135	90	66	N-67°-E	中近世	
B20	X＝60938・60939	Y＝-92723	楕円形	95	68	42	N-24°-E	中近世	Ｂ４号土坑群接
C 1	X＝60954・60955	Y＝-92704～-92706	不整形	214+	151+	45	―	中近世	北西端部壁接
D165	X＝60984	Y＝-92566	円形	49	45	67	N-0°	中近世	
A 2	X＝61005～61011	Y＝-92932・-92933	不整形	540+	160+	52	N-0°	中近世	調査区壁接　天明泥流以降

柱穴列

遺構名	座標		方位	規模(cm)			時期	備考
				距離	径	深さ		
D 1	X=60984～60987	Y=-92515～-92519	N-47°-W	400	18～35	9～30	中近世	
D 2	X=60998~601000	Y=-92536~-92540	N-51°-E	500	20～50	8～13	中近世	
D 3	X=60990～60991	Y=-92533～-92536	N-87°-E	315	24～27	10～24	中近世	
D 4	X=60987・60988	Y=-92547~-92551	N-75°-E	410	38～51	19～51	中近世	
D 5	X=60976~60979	Y=-92551~-92553	S-73°-E➡ S-8°-W	146+260	15~20	5～13	中近世	

ピット

遺構名	座標		平面形状	規模(cm)			時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ		
A 1	X＝60983	Y＝-92874・-92875	円形	49	39	21	中近世	
A 2	X＝60981	Y＝-92876	円形	50	43	16	中近世	
A 3	X＝60970	Y＝-92892・-92893	楕円形	47	35	19	中近世	
A 5	X＝60981・60982	Y＝-9292881	楕円形	43	36	19	中近世	
C303	X＝60949	Y＝-92705	円形	20	20	11	中近世	Ｃ１号溝内
C304	X＝60951	Y＝-92704	円形	14	14	5	中近世	Ｃ１号溝内
C305	X＝60952	Y＝-92703	楕円形	25	16	5	中近世	Ｃ１号溝内
C306	X＝60954	Y＝-92701	楕円形	12	8	10	中近世	Ｃ１号溝内

焼土

遺構名	座標		規模(cm)			時期	備考
			長軸	短軸	深さ		
C 1	X＝60948・60949	Y＝-92704	90	68	―	中・近世	

溝

遺構名	座標		方向	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)	時期	備考
C 1	X＝60945～60955	Y＝-92698～-92707	N-41°-E	13.20+	0.60	61	中近世	北西端
C 3	X＝60952～60956	Y＝-92702～-92706	N-46°-E	5.50+	0.90	25	中近世	

畑

遺構名	座標X	座標Y	方向	面積(㎡)	畝長(m)	畝幅(m)	深さ(cm)	畝条数	時期	備考
A 1	61003～61023	-92935～-92965	N-50°-W	278.8+	5.50	038	6	49+	中近世	
A 2	60999～61008	-92942～-92952	N-58°-W	50.067+	3.60	0.40	6	15+	中近世	
A 3	61004～61011	-92939～-92945	N-47°-W	15.034					中近世	

遺構計測表

遺構名	座標X	座標Y	方向	面積(㎡)	畝長(m)	畝幅(m)	深さ(㎝)	畝条数	時期	備考
A 4	61007～61018	-92934～-92945	N-45°-W	54.467+					中近世	
A 5	61009～61012	-92955～-92958	N-4°-W	4.784+	2.85	0.20	3	6+	中近世	
A 6	61009～61012	-92950～-92954	N-7°-W	9.064+	3.35	0.23	6	11+	中近世	
A 7	61001～61012	-92430～-92434	N-76°-E	14.434+	6.10	0.30		24+	中近世	
A 8	61054～61020	-92924～-92929	N-35°-W	14.7+	6.00	0.28	22	9+	中近世	

道

遺構名	座標		方向	長さ(m)	幅(m)	深さ(㎝)	時期	備考
A 1	X＝61003～61009	Y＝-92940～-92952	N-45°-W　S-47°-W	16.18+	0.74	―	中・近世	

石垣

遺構名	座標	全長(m)	長壁(m)	短壁(m)	深さ(㎝)	時期	備考
A 1	X＝61004～61013	22	14.0	8.0	23～67	中近世	
	Y＝-92935～-92945	方向	N-50°-E	N-50°-W			

ヤックラ

遺構名	座標X	座標Y	方向	長(m)	幅(m)	深さ(㎝)	時期	備考
A 1	61016～61020	-92951～-92959		9.52+	1.28+		中近世	
A 2	61001～61007	-92933～-92940		6.00	4.10		中近世	
A 3	60997～61000	-92929～-92932		2.40	2.10		中近世	

復旧坑

座標	規模			深さ(㎝)	面積(㎡)	畝条数	時期	備考
		畝長(m)	畝幅(m)					
X＝60999～61019	最大	11.90	1.50	42	15.634	18+	中近世	
Y＝-92916～-92933	最小	1.10	0.75	20	0.70			

欠番　土坑

C区　３・６～９・11～13・18～22・24・26・31・32・34・35・38・39・41～43・47・50・52・54・56～58・79・94・95・101

D区　116・118・121・123・128・132・135・137～140・124～145・151・152・154～156・158・159・164・166・167・169・172～175・178・181・183・186・187・189～194・196・197・200～203・205・206・210・217・220～224・227・229・231・233・235・236・251・263・267

変更　ピット

D446～D470よりD34号竪穴建物へ

D500➡１号柱穴列Ｐ１・D501➡１号柱穴列Ｐ２・D502➡１号柱穴列Ｐ３・D445➡１号柱穴列Ｐ４へ

D546➡２号柱穴列Ｐ１・D428・２号柱穴列Ｐ２・D544➡２号柱穴列Ｐ２へ

D473➡３号柱穴列Ｐ１・D472➡３号柱穴列Ｐ２・D473➡３号柱穴列Ｐ３へ

D479➡４号柱穴列Ｐ１・D478➡４号柱穴列Ｐ２・D484➡４号柱穴列Ｐ３へ

D549➡５号柱穴列Ｐ１・D550➡５号柱穴列Ｐ２・D551➡５号柱穴列Ｐ３・D552➡５号柱穴列Ｐ４・D553➡５号柱穴列Ｐ５・D554➡５号柱穴列Ｐ６へ

欠番　ピット

C区　１～206・208～234・237~245・247～301・307～328・330・332～342・345～347・349～358・361・362・364・365

D区　411・413・415・419～423・425～427・430・431・433・435・439・441・445・446・448～473・478・479・481～489・493・499～501・542・559・566・567・593・595・602

変更　方形周溝墓→円形周溝墓

Ｄ３方形周溝墓➡Ｄ２円形周溝墓

Ｄ３方形周溝墓は欠番

縄文・弥生土器遺物観察表凡例

－縄文土器・弥生土器－

２名の担当者が観察したため、胎土などの属性、型式名、文様の表現などに差がある。Ａ～Ｃ区出土の縄文・弥生土器の胎土や縄文原体は別表にある通りである。Ｄ区に関しては、以下に記載した。

胎土：土器の夾雑物を記した。混和材としての砂粒が２㎜以上を粗砂粒、２㎜以下は細砂粒とした。混和剤中の特徴的な鉱物粒として、石英、輝石を基準とし片岩、チャートなどが含まれた場合も明記した。また繊維も胎土の一つとして記している。

焼成：良好な例を標準とし、焼成温度が低く土器胎土が弱い順に、軟質（脆弱）、やや軟質、良好と記した。

色調：土器の表面色調を優先し、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠したが、色調名を優先し、マンセル値は併記していない。

計測値：土器は口径・高さ・底径を基準に現存した部位を計測した。1/2 以下の復元値は（）で記した。破片資料の現**存値は記していない**。

文様の特徴：器形、文様構成を主とした記載で , 文様要素や原体、内面整形などを併記した。

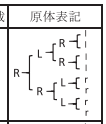
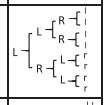
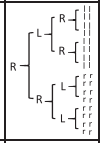
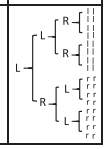
備考：土器の時期の目安として、縄文時代六期区分と区分内の大凡の段階必要に応じて型式名を記した。弥生土器も中期と後期の大区分を基本に中葉と後葉段階を記し、一部型式名を付した。

表１　縄文・弥生土器の胎土分類表

No	分類		特徴	備考
1	A類	A1	少量の灰白色岩片・珪質乳白色岩片・輝石の細砂と繊維を含むやや緻密な胎土。	主として繊維を含有するグループ。
2		A2	少量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片・石英・輝石の粗・細砂や赤色岩片礫・粗砂と繊維を含むやや緻密な胎土。	
3		A3	少量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂や珪質乳白色岩片粗・細砂と繊維を含むやや緻密な胎土。	
4		A4	中量の円磨度の進んだ灰白色岩片の礫・粗砂や少量の珪質乳白色岩片・輝石・石英の粗・細砂と繊維を含むやや粗雑な胎土。	
5		A5	中量の円磨度の進んだ灰白色・珪質乳白色岩片の礫・粗砂や輝石粗・細砂と繊維を含むやや緻密な胎土。	
6		A6	多～中量の円磨度の進んだチャート・赤色岩片の礫・粗砂や中量の珪質乳白色岩片・灰白色岩片の粗・細砂と繊維を含むやや粗雑な胎土。	
7		A7	中～少量の円磨度の進んだ灰白色・珪質乳白色岩片や輝石の粗・細砂と繊維を含むやや緻密な胎土。	
8		A8	中量の円磨度の進んだ赤色岩片の礫・粗砂と珪質乳白色岩片や灰白色岩片の粗・細砂および繊維を含むやや緻密な胎土。	
9		A9	多量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片の礫・粗砂と繊維を含むやや粗雑な胎土。	
10		A10	多～中量の円磨度の進んだ結晶片岩や珪質乳白色岩片の礫・粗砂と少量の灰白色岩片粗・細砂及び繊維を含む滑り感ある胎土。	
11		A11	多量の円磨度の進んだ長石・石英・角閃石・雲母の粗・細砂と微量の繊維を含むやや緻密な胎土。	
12		A12	多量の円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片礫・粗砂や中量の珪質灰白色岩片・輝石・石英の粗・細砂と繊維を含むやや緻密な胎土。	
13		A13	中量の円磨度の進んだ赤色岩片や珪質乳白色岩片の礫・粗砂と少量の灰白色岩片粗・細砂および繊維を含むやや緻密な胎土。	
14		A14	多量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や少量の石英・赤色岩片の粗・細砂と微量の繊維を含むやや緻密な胎土。	
15		A15	少量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片礫・粗砂や灰白色岩片粗・細砂と繊維を含むやや緻密な胎土。	
16		A16	中量の円磨度の進んだ灰白色岩片と少量の石英礫・粗砂や少量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂および繊維を含むやや粗雑な胎土。	
17		A17	多量の円磨度の進んだ灰白色岩片の礫・粗砂や少量の珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂と繊維を含むやや粗雑な胎土。	
18	B類	B1	少量の長石・石英・角閃石や灰白色岩片の粗・細砂と微量の雲母細砂を含む緻密な胎土。	主として雲母を含有し、繊維を含まないグループ。
19		B2	多量の円磨度の進んだ長石・石英・角閃石の粗・細砂や少量の雲母粗・細砂を含む緻密な胎土。	
20	C類	C1	中量の円磨度の進んだ結晶片岩や灰白色・黒色岩片の礫・粗砂と珪質乳白色岩片粗・細砂、雲母細砂を含む滑り感ある緻密な胎土。	主として結晶片岩を含有し、繊維を含まないグループ。
21		C2	中量の円磨度の進んだ結晶片岩礫・粗砂や少量の灰白色・黒色岩片、珪質乳白色岩片の粗・細砂を含む滑り感のある緻密な胎土。	
22		C3	多量の円磨度の進んだ結晶片岩・珪質灰白色岩片や暗灰色岩片の礫・粗砂を含む滑り感のあるやや緻密な胎土。	
23	D類	D1	少量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片・輝石の細砂を含む緻密な胎土。	主として灰白色・珪質乳白色岩片や輝石を含有し、繊維を含まないグループ。
24		D2	少量の珪質灰白色岩片・輝石や円磨度の進んだ灰白色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
25		D3	中量の円磨度の進んだ珪質灰白岩片・輝石や少量の灰白色岩片等の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
26		D4	少量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片の礫・粗砂と輝石細砂を含む緻密な胎土。	
27		D5	少量の円磨度の進んだチャート礫や灰白色岩片・珪質乳白色岩片・輝石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
28		D6	多量の円磨度の進んだ珪質乳白色・灰白色岩片および輝石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
29		D7	多量の輝石と中量の円磨度の進んだ灰白色岩片および少量の珪質乳白色岩片・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
30		D8	多量の円磨度の進んだ灰白色岩片礫・粗砂や中量の珪質乳白色岩片・輝石・黒色岩片の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
31		D9	多量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や灰白色・黒色岩片の礫・粗砂と少量の輝石粗砂を含むやや緻密な胎土。	
32	E類	E1	中量の円磨度の進んだ珪質乳白色岩片や灰白色岩片と少量の輝石・石英の粗・細砂を含む緻密な胎土。	主としてＤ類＋石英を含有するグループ。
33		E2	中量の石英の細砂や微量の円磨度の進んだ灰白色岩片粗・細砂を含む緻密な胎土。	
34		E3	多量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片と少量の石英・輝石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
35		E4	多量の珪質乳白色岩片・輝石・石英と少量の灰白色岩片の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
36	F類	F1	少量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片・輝石・石英の粗・細砂や赤色岩片礫・粗砂を含む緻密な胎土。	主としてＤ類＋赤色岩片を含有するグループ。
37		F2	中量の円磨度の進んだ灰白色岩片・珪質乳白色岩片・赤色岩片・輝石・石英等の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
38		F3	多量の円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片礫・粗砂と中量の珪質灰白色岩片・輝石・石英の細砂を含むやや緻密な胎土。	
39	G類	G1	中量の珪質乳白色岩片・石英・輝石の粗・細砂や少量の灰白・赤色岩片礫・粗砂を含む緻密な胎土。	主としてＥ類＋赤色岩片を含有するグループ。
40		G2	中量の円磨度の進んだ赤色岩片の礫・粗砂と少量の灰白色・黒色・珪質乳白色岩片や輝石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
41	H類	H1	少量の円磨度の進んだ灰白色・黒灰色岩片や輝石の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	主としてＥ類の石英・珪質乳白色岩片が欠落するグループ。
42		H2	多量の円磨度の進んだ灰白色岩片や少量の輝石粗・細砂を含む緻密な胎土。	
43	I類	I1	少量の灰白色岩片・輝石・石英・赤色岩片の細砂を含む緻密な胎土。	主としてＨ類＋赤色岩片を含有するグループ。
44		I2	中量の円磨度の進んだ灰白色・赤色岩片の礫・粗砂と少量の珪質灰白色岩片・輝石の粗・細砂を含む緻密な胎土。	
45		I3	多量の円磨度の進んだ灰白色・赤色・黒色岩片の礫・粗砂と少量の輝石・石英の粗・細砂を含むやや緻密な胎土。	
46	K類	K1	中～多量の円磨度の進んだ珪質乳白色・赤色・黒色岩片の礫・粗砂を含む緻密な胎土。	主としてＦ類の灰白色岩片が欠落するグループ。

※ルーペ等を使用した肉眼観察による分類。

表２　縄文原体分類表

No	原体名	観察表記載	原体表記
1	直前段合撚り	直前合2R	
2	直前段合撚り	直前合2L	
3	直前段合撚り	直前合2R (0段多条)	
4	直前段合撚り	直前合2L (0段多条)	

土師器・須恵器等観察表凡例

1　種類

文化庁文化財部記念物課監修2010年『発掘調査のてびき』に準じて土師器、須恵器、黒色土器、施釉陶器(奈良三彩、灰釉陶器、緑釉陶器)、土製品等に種別している。

なお、古墳時代に黒色処理を施された土器については、その成整形から土師器とした。

その後の奈良時代中頃から出現する内面及び内外面を黒色処理された土器については、成整形から黒色土器として種別してある。

2　器種

文化庁文化財部記念物課監修2010年『発掘調査のてびき』に準じて杯、椀、高杯、盤、皿、鉢、坩、器台、壺・瓶(長頸壺、短頸壺、平瓶、横瓶、提瓶、瓏)、甕、硯等の名称を使用している。なお、杯と椀の区分は、器高/口径比が大きいものを椀としているが、明確に数値化できていない。壺と甕との区分は、頸部/胴部最大径比によって区分しているが、例外として胴部最大径より頸部系径の大きい形態である広口壺と呼称しているものも存在する。

3　残存率

概ね全体の比率で「完形」、「3/4」、「1/2」等で表示している。なお、1/4 以下については、「口縁部片」、「底部片」等の部位片で表示している。

4　計測値

計測カ所は、以下のように省略している。

口：口径、底：底径、高：器高、台：高台径、摘：摘径、カ：杯蓋等のカエリ径、頸：頸部径、胴：胴部最大径、孔：甑・有孔鉢などの底部に設けられた孔径等である。この他の略称についてはそれぞれ備考等に表示した。

なお、単位はcmである。

5　胎土

載中の表現にある細砂粒は、径２㎜以下、粗砂粒は２～５㎜のものを表す。５㎜以上は、礫と表示した。

6　焼成

土師器は、比較的硬質に焼成されているものを「良好」、軟質や脆い状態のものを「軟質」、「不良」で表示してある。

須恵器は、「還元焔」、「酸化焔」で表示してある。

7　色調

林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色調帖』に準拠している。

8　特徴

整形を中心に記載している。

9　備考

灰釉陶器は、猿投古窯跡群と東濃古窯跡群とを区分し、可能な限り各窯式期を判断して記載している。

釉陶器は、東海産、畿内産、近江産を区分し、可能な限り年代または窯式期を判断して記載している。

10　掲載縮尺

原則　1/3 で掲載している。大きさによっては、1/1 ～ 1/4 の縮尺で掲載しているものがある。その場合は、それぞれの遺物図に明示してある。

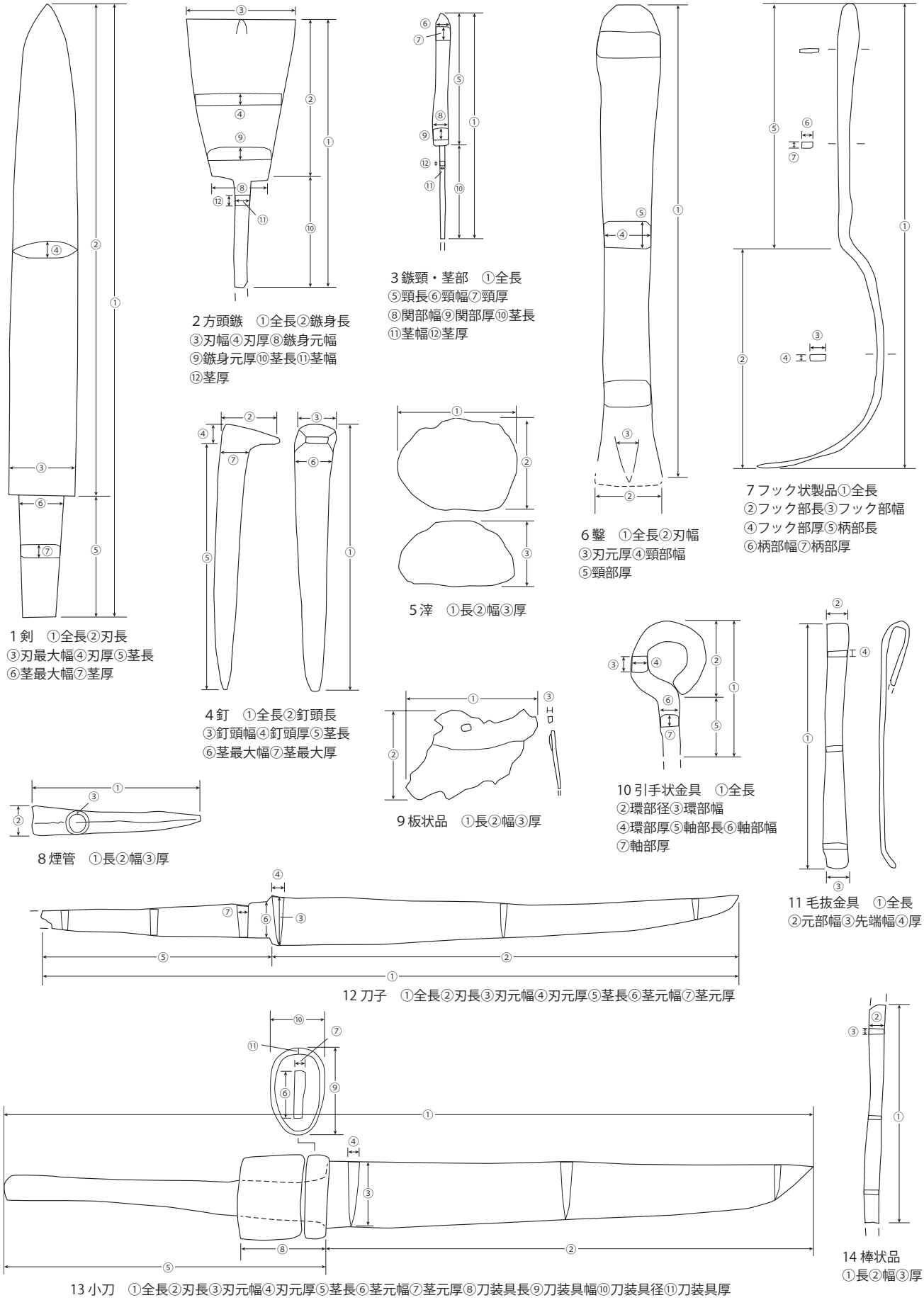


図 1　鉄器計測部位位置図

縄文時代

C６号竪穴建物

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第18図 PL.147	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					Ｄ２	無文土器。内外面共に被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着。	早期中葉
第18図 PL.147	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					Ｄ９	無文土器。外面丁寧な縦位磨き、内面横位磨き。	早期中葉
第18図 PL.147	3	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	12.5 9.6	厚 重	6.5 1106.9	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面の中央付近に磨面が認められる。表面の中央やや上方に敲打痕が認められる。	

C26号竪穴建物

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第19図 PL.147	1	縄文土器 深鉢	炉内 口縁部片					粗:繊維・石英・白色粒/やや軟質/暗褐色	口縁部外反。口唇部に斜位刻みを施す。幅20㎜ほどの小口状工具による斜位条痕文が覆う。体部は撫でが加わる。内面も弱い横位条痕を見るが器面摩滅する。１～６は同一個体。	早期後葉
第19図 PL.147	2	縄文土器 深鉢	炉内 口縁部片							早期後葉
第19図 PL.147	3	縄文土器 深鉢	炉内 体部片							早期後葉
第19図 PL.147	4	縄文土器 深鉢	炉内 体部片							早期後葉
第19図 PL.147	5	縄文土器 深鉢	炉内 体部片							早期後葉
第19図 PL.147	6	縄文土器 深鉢	炉内 体部片							早期後葉
第19図 PL.147	7	剥片石器 打製石斧	フク土 1/4	長 幅	(6.7) 5.9	厚 重	2.3 111.7	黒色頁岩	両面加工により整形する。表面の中央付近に摩滅部分が認められ着柄痕の可能性がある。下部折断面からの加工痕が表裏面に認められ打製石斧からの転用を意図した可能性がある。	

C16・C19号竪穴建物

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第20図 PL.147	1	縄文土器 深鉢	底面 胴部片					Ａ４	LR・RL縄文を横位・交互に施文して菱形モチーフを構成。内外面共にやや被熱風化。	関山Ⅱ式
第20図 PL.147	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					Ａ４	LR縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	関山Ⅱ式
第20図 PL.147	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					Ａ１	RL縄文を横位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面丁寧な横位磨き。	関山Ⅱ式
第20図 PL.147	4	剥片石器 楔形石器	フク土 完形	長 幅	3 1.7	厚 重	1 4.8	黒曜石	上下端部付近に両極加撃による剥離痕が集中する。	
第20図 PL.147	5	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	12.6 8.1	厚 重	6.6 997.9	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面の中央付近と裏面の左半分に磨面が認められる。	
第20図 PL.147	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					Ａ８	条痕文を斜位に施す。内面被熱風化・剥離。	鵜ヶ島台式
第20図 PL.147	7	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					Ａ７	円形竹管状具による襷掛け状文や刺突文を施す。内外面共に横位条痕文。	鵜ヶ島台式
第20図 PL.147	8	礫石器 磨石	フク土 2/3	長 幅	(9.1) 7.1	厚 重	5.7 583.0	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面、左側面、裏面に磨面が認められる。表面と側面の境界及び裏面と側面の境界には稜が形成される。	

D32号竪穴建物

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第22図 PL.147	1	縄文土器 深鉢	床直 口縁部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/褐色	口唇部に浅い刻み。口縁部はＬとＲの撚糸圧痕文による蕨手状意匠が配され刺切文が施される。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第22図 PL.147	2	縄文土器 深鉢	床直 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい黄褐色	０段多条ＬＲとＲＬによる幅狭の横位羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第22図 PL.147	3	縄文土器 深鉢	床直 口縁部破片					細:繊維・石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄褐色	波状縁。口唇部に円形刺突文を連続する。以下軸縄をＬＲとした撚糸Ｌの付加条縄文(２種)が施される。内面は弱い撫で調整	前期初頭
第22図 PL.147	4	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					粗:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい黄褐色	口唇部横位隆線に矢羽状の連続刺突文を加える。以下、撚糸圧痕文と刺切文を施す。内面横位研磨。外面器面磨滅。	前期初頭
第22図 PL.147	5	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英少・輝石少・白色粒/良好/橙色	口縁部に棒状貼付文を２条付しＲＬを施す。内面丁寧な研磨を加える。外面器面磨滅。	前期初頭
第22図 PL.147	6	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/黒褐色	薄手の器厚を呈す。口縁部は幅狭の横位平行沈線で画し、同沈線で横位山形文が施される。体部はＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面は横位研磨を加える。	前期初頭
第22図 PL.147	7	縄文土器 深鉢	床上 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/黒褐色	０段多条ＬＲとＲＬの横位羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整も凹凸を見る。	前期初頭
第22図 PL.147	8	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・石英多・白色粒/良好/黒褐色	撚糸ＬとＲによる矢羽状の撚糸圧痕文と刺切文を施す。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第22図 PL.147	9	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/橙色	原体幅が短い０段多条ＬＲとＲＬの横位羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整。	前期初頭

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第22図 PL.147	10	縄文土器 深鉢	床直 底部1/4残存			底	(6.7)	細:繊維・石英少・白色粒/良好/橙色	直立気味の体部下半。底面は上げ底を呈す。体部は原体幅が短い０段多条ＬＲとＲＬの横位羽状縄文構成。底面もＲＬを施す。内面弱い撫で調整。被熱のため器壁剥落。	前期初頭
第22図 PL.147	11	剥片石器 石鏃	床直 ほぼ完形	長 幅	2.7 (1.3)	厚 重	0.4 0.8	チャート	細身・長身の凹基無茎鏃。加工は丁寧で、全面を押圧剥離が覆う。左辺側の返し部を欠損する。完成状態。	
第22図 PL.147	12	剥片石器 石鏃	フク土 2/3	長 幅	(1.5) (1.5)	厚 重	0.4 0.7	流紋岩	三角形状を呈する凹基無茎鏃。器体先端１/３程度を破損する。加工は丁寧。完成間際で破損したものか。	
第22図 PL.147	13	剥片石器 スクレイパー	フク土 ほぼ完形	長 幅	3.7 7.6	厚 重	1.2 23.7	黒色頁岩	縦長剥片を横位に用いる。打面側を除く側縁裏面側に微細な加工を施す。器体端部の剥離は階段状となっており、使用の結果、刃部がダーメージを受けている。	
第22図 PL.148	14	剥片石器 二次加工ある剥片	床直 完形	長 幅	11.5 11.9	厚 重	3.3 423.3	粗粒輝石安山岩	幅広剥片を用いる。加工部位は左辺側に偏り、加工は粗い。加工意図は明らかでない。	
第22図 PL.148	15	礫石器 凹石	床直 ほぼ完形	長 幅	10.5 8.2	厚 重	4.9 553.7	粗粒輝石安山岩	背面側に漏斗状の窪み２か所、アバタ状の集合打痕１ヶ所がある。裏面側は弱く摩耗する。裏面側の破損採集以前で、層理面で割れたもの。	
第22図 PL.148	16	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	9.7 5.7	厚 重	3.5 324.1	粗粒輝石安山岩	表裏面に大きく摩耗面が広がる。このほか、アバタ状の打痕が側縁等にも残る。	
第22図 PL.148	17	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	8.9 8.7	厚 重	4.2 470.9	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗するほか、中央付近にアバタ状の打痕が広がる。表裏面とも煤けている。偏平礫素材。	
第22図 PL.148	18	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	9.5 6.1	厚 重	4.4 433.1	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗面が広がっている。背面側原礫面の摩耗が著しいほか、上端側には集合打痕も見られる。	
第22図 PL.148	19	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	12.3 6.9	厚 重	3.9 499.8	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗面が広がる。激しく使い込んでおり、多孔質石材の目が潰れるほどである。このほか裏面側には礫中央からやや離れて集合打痕がある。	
第22図 PL.148	20	礫石器 敲石	フク土 完形	長 幅	7.6 6.2	厚 重	6 355.9	粗粒輝石安山岩	摩耗範囲は全面に及び、右辺側に著しく摩耗した平坦面がある。稜上にも打痕と摩耗痕が広がり、礫形状を意識した使われ方が窺われる。	
第22図 PL.148	21	礫石器 敲石	フク土 1/2	長 幅	(9.9) 7.5	厚 重	3 314.6	粗粒輝石安山岩	表裏両面とも摩耗する。石材は若干多孔質気味で、凹部にはベンガラ？が残る。偏平楕円礫を用いる。上半部を大きく欠損する。	

Ｃ８号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第23図 PL.148	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					Ａ５	口縁部に２本の横位細隆線文を施し、半截竹管状具の連続刺突を施文。内外面共にやや被熱風化。	関山Ⅰ式
第23図 PL.148	2	縄文土器 深鉢	床直 胴部片					Ａ１	括れ部に横位隆帯を複数本施し、０段多条の横位RL縄文やその間隙に円形刺突文を施文。内外面共にやや被熱風化。	関山Ⅰ式
第23図 PL.148	3	縄文土器 深鉢	竪建東 胴部片					Ａ１	０段多条RL・LR縄文を横位・交互に多段施文か。内外面共に被熱風化。	関山Ⅱ式
第23図 PL.148	4	縄文土器 深鉢	床直 口縁部片					Ａ１	波状口縁。半截竹管状具の連続爪形文により菱形意匠を構成か。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第23図	5	縄文土器 深鉢	床直 底部1/3	底	(6.0)			Ａ１	RL縄文を横位施文。内外底面共に丁寧な磨き。	有尾式
第23図 PL.148	6	礫石器 磨石	周溝内 完形	長 幅	12.4 8.6	厚 重	5.3 840.8	粗粒輝石安山岩	ほぼ全面が磨面で構成される。表面の中央に敲打痕がわずかに認められる。	
第23図 PL.148	7	礫石器 石皿	竪建南 1/3	長 幅	(24.3) (20.0)	厚 重	(8.5) 3906.6	粗粒輝石安山岩	側面部は全体的に風化が進行しておらず打割面あるいは破損面と考えられる。裏面全体は風化が進行しており自然面と考えられる。亜円礫を利用する。表面は皿状の形態であり全体的に滑らかである。暗褐色の物質が広範囲に付着する。	

Ｄ33号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第24図 PL.148	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/暗灰黄色	口唇部の様相から片口か。口縁部直下にコンパス文、以下０段多条の横位ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。内面丁寧な研磨を加える。	前期前葉
第24図 PL.148	2	縄文土器 深鉢	床直 片口部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/褐灰色	片口部側面か。縁辺に棒状工具による撫でが施される。内面平滑な撫で調整。	前期前葉
第24図 PL.148	3	縄文土器 深鉢	床直 体部破片					粗:繊維・石英・白色粒/良好/褐灰色	直前段反撚りＲＲＬの横位施文。内面弱い研磨を施す。	前期前葉
第24図 PL.148	4	縄文土器 深鉢	フク土 底部破片			底	(7.5)	細:繊維・石英・白色粒/良好/黄灰色	体部は直立気味に開き、底面は上げ底。０段多条のＬＲ・ＲＬによる羽状縄文構成。内面撫で。	前期前葉
第24図 PL.148	5	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/橙色	ＬＲとＲＬによる直前段合撚(直前合２L)。内面丁寧な研磨を加える。	前期前葉
第24図 PL.148	6	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/褐色	横位沈線で頸部を画し口縁部は弧状沈線を施す。地文は横位ＬＲを施す。内面平滑な撫で調整	前期中葉
第24図 PL.148	7	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい黄褐色	波状縁。波頂部に刻みを付すＶ字状貼付文と円形刺突文を配す。撚糸ＬとＲによる撚糸圧痕文や刺切文を施す。内面研磨を加える。	前期前葉
第24図 PL.148	8	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・白色粒/良好/灰褐色	内外面浅い条痕文を施す。	早期後葉
第24図 PL.148	9	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・石英・輝石・白色粒/良好/橙色	体部屈曲部に横位細隆線を設け、円形刺突文を基点に結節文を施す。内面横位撫で調整。	早期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第24図 PL.148	10	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	19.1 12.2	厚 重	5.9 2009	粗粒輝石安山岩	背面側および右辺に摩耗痕があるほか、小口部分に敲打痕を伴う摩耗痕が広がる。礫重量が２Kgを超え、主に地面に据え置き使用したものと見られる。	
第24図 PL.148	11	礫石器 磨石	床下 4/5	長 幅	12.6 (10.8)	厚 重	4.6 849.3	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗する。左辺側の欠損は最終段階というより使用段階のそれであり、弱く摩耗している。	

C 17号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第25図 PL.149	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 2	Ｌ縄文を横位・多段に施文。外面やや被熱風化、内面丁寧な縦位磨き。	関山Ⅱ式
第25図 PL.149	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 2	０段多条RL・LR縄文を交互に施文して羽状のモチーフを構成。内面煤状炭化物付着。	関山Ⅱ式
第25図 PL.149	3	縄文土器 深鉢	フク土 底部ほぼ完存	底	9.5			A 2	上げ底状の底部。０段縄丸組紐を横位・多段に施文。外面被熱風化、内面煤状炭化物付着。	関山Ⅱ式
第25図 PL.149	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A10	円形竹管状具の刺突文や押し引き状沈線文を施す。内面横位条痕文。	鵜ヶ島台式
第25図 PL.149	5	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A 8	口唇部および口縁部に絡条体圧痕文を横位に施文。内面被熱風化。	早期末葉
第25図 PL.149	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴下半～底部 4/5	底	5.4			D 5	RL縄文を横位・多段に施文。外面胴下半部に被熱剥離・煤状炭化物付着、内面やや粗い縦位磨き。	諸磯ａ式

C 14号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第26図 PL.149	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A 1	口縁部に半截竹管状具のコンパス文を施し、以下にRL縄文を横位施文。	関山Ⅱ式
第26図 PL.149	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					直前合２R・２L/A 1	２種類の直前段合撚り縄文を横位・多段に交互施文。内外面共に被熱風化。	関山Ⅱ式
第26図 PL.149	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					直前合２R・２L（０段多条）/A 1	２種類の直前段合撚り縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。推定６本櫛歯状具のコンパス文を施す。内面やや被熱風化。	関山Ⅱ式
第26図 PL.149	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 1	RL縄文を横位施文。外面一部に煤状炭化物付着。	関山Ⅱ式
第26図 PL.149	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 1	RL・LR縄文を横位・交互に施文して羽状の意匠を構成。	関山Ⅱ式
第26図 PL.149	6	剝片石器 石鏃	フク土 完形	長 幅	1.7 1.4	厚 重	0.4 0.6	黒曜石	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。	凹基無茎鏃
第26図 PL.149	7	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	9.9 9	厚 重	5.5 658.4	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面の中央付近に磨面が認められる。側面部には敲打痕が散在する。	

D 29号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第27図 PL.149	1	縄文土器 深鉢	床直 口縁部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/褐色	小型深鉢。薄手の器厚を呈す。口唇部欠損。ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面研磨。口唇部に補修孔を見る。	前期中葉
第27図 PL.149	2	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい黄褐色	横位ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。やや乱雑な施文。内面弱い研磨を施す。	前期中葉
第27図 PL.149	3	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・石英少・輝石少・白色粒/良好/明黄褐色	やや薄手の器厚を呈す。横位ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。内面縦位撫で調整。	前期中葉
第27図 PL.149	4	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					粗:繊維・石英・片岩・白色粒/良好/暗灰黄色	０段多条ＬＲとＲＬの羽状縄文構成。原体端部も見る。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第27図 PL.149	5	礫石器 台石	床上 1/2	長 幅	(22.1) (15.7)	厚 重	(9.2) 4017.9	粗粒輝石安山岩	表面は平坦でありほぼ全面に滑らかな面が認められる。裏面全体は表面が剥落している。大形円礫を利用していると考えられる。	

D 30・D 31号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第28図 PL.149	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/黒褐色	波状縁か。０段多条のＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。規則性が伴わず菱形文をなさない。内面撫で調整。	前期中葉
第28図 PL.149	2	縄文土器 深鉢	床直 口縁部破片					細:繊維・石英・輝石・白色粒/良好/黒褐色	横位無節Ｌが覆う。内面丁寧な研磨を加える。	前期中葉
第28図 PL.149	3	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/灰褐色	横位ＬＲを施す。内面平滑な横位撫で調整。外器面磨滅。	前期中葉
第28図 PL.149	4	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・輝石・白色粒/良好/褐色	０段多条のＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。規則性が伴わず顕著な菱形文をなさない。内面弱い研磨を施す。	前期中葉
第29図 PL.149	5	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/橙色	０段多条のＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面丁寧な研磨を加える。	前期中葉
第29図 PL.149	6	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・輝石・白色粒/良好/褐色	体部中位か。無節Ｌと結節部が施される。内面平滑な縦位撫で調整。	前期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第29図 PL.149	7	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					粗:繊維・輝石少・白色粒/良好/明黄褐色	２条の刻みを付す横位隆線間に強い横位刺突文を施す。以下ＲＬを施す。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第29図 PL.149	8	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・白色粒/良好/明褐色	直前段合撚(直前合２Ｒ)とＬＲによる横位羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第29図 PL.149	9	縄文土器 深鉢	フク土 体部下半破片					細:繊維・石英・輝石・白色粒/良好/橙色	無節Ｌが横位施文される。内面縦位撫でにより平滑。	前期中葉
第29図 PL.149	10	縄文土器 深鉢	フク土 底部破片			底	(9.0)	細:繊維・石英少・白色粒/良好/橙色	上げ底を呈す。体部はＲＬ、底面はＬＲを施す。内面弱い撫で。	前期中葉
第29図 PL.149	11	縄文土器 深鉢	フク土 底部破片			底	(10.0)	細:繊維・輝石・白色粒/良好/黄褐色	上げ底を呈す。体部は無文で撫で、底面は研磨を加える。内面弱い撫で調整。	前期中葉
第29図 PL.150	12	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・輝石・白色粒/良好/灰褐色	波状縁。やや厚手の器厚。連続爪形文と平行沈線による菱形状意匠。内面弱い斜位研磨を加える。	前期中葉
第29図 PL.150	13	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/黒褐色	平縁か。連続爪形文による小型の菱形状意匠が配される。内面弱い研磨を加える。	前期中葉
第29図 PL.150	14	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/暗赤褐色	波状縁。やや薄手の器厚。連続爪形文による菱形状意匠が波頂部に配される。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第29図 PL.150	15	縄文土器 深鉢	フク土 体部上半破片					細:繊維・石英少・輝石少・白色粒/良好/暗褐色	頸部～体部に設けられる横位内皮平行沈線群。おそらく菱形状意匠下端か。内面研磨を施す。	前期中葉
第29図 PL.150	16	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/橙色	０段多条のＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。菱形状意匠を意図するか。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第29図 PL.150	17	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/橙色	平縁。撚糸ＬとＲを一組とした側面圧痕が横位多段に配され、斜位刺切文も施される。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第29図 PL.150	18	縄文土器 深鉢	床直 体部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/褐色	横位隆線に円形刺突文が沿う。縄文は横位ＬＲ。内面は平滑な撫で、外器面磨滅。	前期初頭
第29図 PL.150	19	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					粗:繊維・石英少・白色粒/良好/黄褐色	０段多条のＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面研磨を施す。	前期前葉
第29図 PL.150	20	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/明赤褐色	斜位内皮沈線群をやや乱雑に施す。地文は丸組紐。内面平滑な横位撫で調整。	前期前葉
第29図 PL.150	21	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	波状縁波頂部。３・４条単位の内皮平行沈線による施文。矩形意匠や半円意匠が組み込まれる。地文に丸組紐が施される。内面研磨を加える。	前期前葉
第29図 PL.150	22	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/明黄褐色	横位内皮平行沈線群以下斜位沈線群による小区画文。地文は丸組紐。内面平滑な横位撫で調整。	前期前葉
第29図 PL.150	23	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:石英・白色粒/良好/明褐色	横位ＬＲとＲＬの羽状縄文構成。内面は弱い撫で調整に止まる。	前期後葉
第29図 PL.150	24	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:石英・白色粒/良好/明褐色	縦位ＬＲを施す。内面弱い撫で調整に止まる。	前期後葉
第29図 PL.150	25	縄文土器 深鉢	フク土 体部破片					細:石英・白色粒/良好/暗褐色	横位ＬＲとＲＬの羽状縄文構成。内面は弱い撫で調整に止まる。	前期後葉
第29図 PL.150	26	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/暗褐色	口唇部に縦位結節文、以下横位結節文を施す。極めて薄手で異質な感が強く異系統土器と思われる。	前期中葉
第29図 PL.150	27	剥片石器 石鏃	ほぼ完形	長 幅	2.5 1.2	厚 重	0.3 0.5	黒曜石	両面加工により整形する。	凹基有茎鏃
第29図 PL.150	28	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	6.9 6.9	厚 重	5.2 327.5	粗粒輝石安山岩	表面のほぼ全面に磨面が認められる。円礫を利用していると考えられる。	
第29図 PL.150	29	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	13.5 8.4	厚 重	4.6 725.4	粗粒輝石安山岩	表面のほぼ全面及び裏面の中央付近に磨面が認められる。円礫を利用していると考えられる。	

Ｃ13号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第31図 PL.150	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A 5	口縁波頂部下に刻み目を付加した垂下隆帯を施し、半截竹管状具の並行沈線文で菱形意匠を構成。外面一部に煤状炭化物付着、内面やや被熱風化。	有尾式
第31図 PL.150	2	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A10	波状口縁。幅広の半截竹管状具の並行沈線文により菱形意匠を構成。内面横位磨き。	有尾式
第31図 PL.150	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 5	半截竹管状具の並行沈線文により菱形意匠を構成。内面丁寧な横位磨き。	有尾式
第31図 PL.150	4	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A 5	内削ぎ状口唇部外端に刻み目を施す。半截竹管状具の連続爪形文を複数状施して菱形意匠を構成か。内面丁寧な横位磨き。	有尾式
第31図 PL.150	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 5	幅広半截竹管状具の連続爪形文により菱形意匠を構成。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第31図 PL.150	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A10	幅広半截竹管状具の横位連続爪形文を複数条施文し、下位に０段多条RL・LR縄文を横位・交互に施文して菱形意匠を構成か。により菱形意匠を構成か。内外面共にやや被熱風化。	有尾式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第31図 PL.150	7	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A 6	0段多条RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して羽状の意匠を構成。内外面共にやや被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着。	有尾式
第31図 PL.150	8	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A10	R縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	有尾式
第31図 PL.150	9	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A 5	L状文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	有尾式
第31図 PL.150	10	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 5	幅広半截竹管状具の連続爪形文により菱形意匠を構成か。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第31図 PL.150	11	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A 5	LR・RL縄文を横位・交互に多段施文して羽状の意匠を構成。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第31図 PL.150	12	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					E 2	半截竹管状具の並行沈線文を複数条施し、その間隙に同工具の刺突文を横位施文。内面丁寧な横位磨き。	田戸下層式
第31図 PL.150	13	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 7	く字状に強く屈折する器形。円形竹管状具の刺突文を施す。内面やや被熱風化。	鵜ヶ島台式
第31図 PL.150	14	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 5	複数条の横位刻み目隆帯文やR・Lの側面押圧縄文や円形竹管刺突文を施す。内外面共にやや被熱風化。	二ツ木式
第31図 PL.150	15	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 5	原体長10㎜前後の短い0段多条RL・LR縄文を横位・多段に交互に施文して羽状意匠を構成。内外面共にやや被熱風化。	二ツ木式
第31図 PL.150	16	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A 1	口唇部上面に鋸歯状の刻み目を施す。以下に0段多条RLの環付き縄文を横位施文し、円形貼付文を施す。	関山Ⅰ式
第31図 PL.150	17	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 7	胴括れ部に刻み目を持つ隆帯2条を横位に施し、その間隙に同隆帯を円形状に施文。下位に0段多条RLの環付き縄文を横位に施す。	
第31図 PL.151	18	剥片石器 石鏃	フク土 ほぼ完形	長 幅	2.2 (1.5)	厚 重	0.3 0.9	黒曜石	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。	凹基無茎鏃
第31図 PL.151	19	剥片石器 石匙	フク土 完形	長 幅	3.3 4.1	厚 重	0.8 7.3	褐色碧玉	表裏面に素材剥片の剥離面を大きく残し、横長剥片を素材とする。つまみ部分は両面加工であるが、両側辺及び下部末端は片面加工が主体的である。	
第31図 PL.151	20	剥片石器 石匙	フク土 完形	長 幅	7.4 2.6	厚 重	1.1 22.1	珪質頁岩	表裏面に素材剥片の剥離面を大きく残す。縦長剥片を素材とし、打面は単剥離面である。左側辺の二次加工は両面加工であるが、右側辺は片面加工が主体的である。	
第31図 PL.151	21	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	13.1 7.9	厚 重	4.3 616.5	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。表面の中央付近に敲打痕がわずかに認められる。	
第31図 PL.151	22	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	14.9 9.1	厚 重	4.5 890.2	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。表裏面と側面との境界はわずかに稜を形成する。表裏面の中央付近及び上下端部には敲打痕が集中する。	
第31図 PL.151	23	礫石器 石皿	フク土 ほぼ完形	長 幅	(25.8) (31.2)	厚 重	11 11600	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央付近に滑らかな部分が認められる。表裏面は自然面である。右側面は細かい凹凸で構成され敲打により整形されたと考えられる。その他の側面は剥離面で構成される。	

C10号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第32図 PL.151	1	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 1	0段多条のLR縄文を横位施文。外面一部に煤状炭化物付着。	有尾式
第32図 PL.151	2	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 1	半截竹管状具の連続爪形文を横位施文。内面横位磨き。	有尾式
第32図 PL.151	3	剥片石器 石錐	フク土 4/5	長 幅	(2.8) 1.5	厚 重	1.1 3.1	黒曜石	一部に自然面を残し角礫を利用する。両面加工により尖頭部を作出する。先端部欠損。	
第32図 PL.151	4	剥片石器 磨製石斧	フク土 完形	長 幅	17.2 4.2	厚 重	2.9 290.1	変玄武岩	先端刃部付近を中心に丁寧に研磨整形される。先端刃部では刃部に直行する細かい線条痕が表裏面でわずかに認められ使用痕の可能性がある。	

C15号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第33図 PL.151	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					D 2	波状口縁。半截竹管状具の横位連続爪形文を複数条施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面丁寧な横位磨き。	諸磯a式
第33図 PL.151	2	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					G 1	波状口縁。RL・LR縄文を横位・交互に施文して羽状の意匠を構成か。内面やや粗い横位磨き。	諸磯a式
第33図 PL.151	3	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					G 1	波状口縁。RL縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	諸磯a式
第33図 PL.151	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					C 1	RL縄文を横位・多段に施文。内面一部に被熱剥離。	諸磯a式
第33図 PL.151	5	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A10	条痕文を外面縦・斜位に、内面横位に施す。内外面共にやや被熱風化。	早期末葉
第33図 PL.151	6	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					A 2	半截竹管状具の横位連続爪形文を複数条施し、下位に0段多条RL・LR縄文を横位・交互に施文。内面横位磨き。	有尾式
第33図 PL.151	7	礫石器 凹石	フク土 完形	長 幅	9.9 7.5	厚 重	4.3 486.7	粗粒輝石安山岩	亜円礫を利用する。表面の中央に2カ所の凹みが認められる。上方の凹み底部には断面U字形の線条の痕跡が認められる。縁辺部には敲打痕が散在する。裏面のほぼ全面に磨面が認められる。	
第33図 PL.151	8	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	8.5 8.1	厚 重	4.4 426.1	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面の中央付近に磨面が認められる。	

C９号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第34図 PL.151	1	縄文土器 深鉢	床直 胴部下半～底部 完存	底	7.2			F３	微隆起帯の懸垂文を施し、LR縄文を縦位・充填的に施文。内外面共にやや被熱風化・剥離。	加曽利E４式
第34図 PL.151	2	縄文土器 深鉢	床直 胴部中位1/3					D８	LR縄文を縦位に全面施文。内外面共に被熱風化。	加曽利E４式
第34図 PL.151	3	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					D８	口縁部に横位の微隆起帯を施し、LR縄文を充填的に施文。内面横位磨き。	加曽利E４式
第34図 PL.151	4	礫石器 磨石	床下 完形	長 幅	10.5 6.5	厚 重	3.6 393.1	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。	

C11号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第37図 PL.151	1	縄文土器 深鉢	床下 口縁部片					E１	口縁波頂部に橋状の８字状隆帯文を施し、Ｌ縄文を充填施文。口縁部に横位微隆起帯を周らせ、以下にＬ縄文を縦位施文。内外面共に煤状炭化物付着。	称名寺Ｉ式併行
第37図 PL.151	2	縄文土器 深鉢	床下 口縁部片					D８	波頂部の中空状突起内外面に８字状の捻転貼付文を施し、口縁部の沈線区画文内にLR縄文を充填施文。	称名寺Ｉ式
第37図 PL.151	3	縄文土器 深鉢	床上 口縁部片					D２	外面から内面の口縁波頂部に８字状の捻転隆帯文を施す。口縁部に横位微隆起帯を施文。外面煤状炭化物付着。	称名寺Ｉ式併行
第37図 PL.151	4	縄文土器 深鉢	床直 口縁部片					D８	口縁部にやや幅広の無文部を置いて横位の微隆起帯を施し、Ｒ縄文を充填的に施文。内面横位磨き。	称名寺Ｉ式併行
第37図 PL.151	5	縄文土器 深鉢	床直 口縁部片					G１	波状口縁。口縁部に断面蒲鉾状の横位隆帯を施す以外は無文。内外面共に被熱風化、内面口縁部に煤状炭化物付着。	称名寺Ｉ式併行
第37図 PL.151	6	縄文土器 深鉢	床直 口縁部片					E１	２本の横位微隆起帯間に尖頭状の棒工具で刺突文を２列施す。内面横位磨き。	称名寺Ｉ式併行
第37図 PL.151	7	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					E１	短く内折する口縁部に細い棒工具の刺突文を２列周らせる。内外面共にやや被熱風化。	称名寺Ｉ式併行
第37図 PL.151	8	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					B１	外削ぎ状の口唇下に無文部を置いてLR縄文を充填的に施文。	称名寺Ｉ式
第37図 PL.151	9	縄文土器 鉢	床直 胴部片					D８	大形の橋状把手が破損・欠落。LR縄文を充填的に施文。外面一部に煤状炭化物付着。	称名寺Ｉ式併行
第37図 PL.151	10	縄文土器 深鉢	床直 胴部片					D２	環状の小突起や微隆起帯を施し、LR縄文を充填的に施文。外面一部に煤状炭化物付着。	称名寺Ｉ式併行
第37図 PL.151	11	縄文土器 深鉢	床直 口縁部片					D８	沈線区画文を施し、やや細かいLR縄文を充填施文。内外面共に被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着。	称名寺Ib式
第37図 PL.152	12	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					E１	Ｊ字状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化。	称名寺Ｉ式
第37図 PL.152	13	縄文土器 深鉢	床下 胴部片					D８	Ｓ字または８字状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填的に施文。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着。	称名寺Ｉ式併行
第37図 PL.152	14	縄文土器 深鉢	床直 胴部片					D８	微隆起帯に沿って８字状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。外面一部に煤状炭化物付着。	称名寺Ｉ式
第37図 PL.152	15	縄文土器 深鉢	床直 胴部片					D８	Ｓ字状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化。	称名寺Ic式
第38図 PL.152	16	縄文土器 ミニチュア 深鉢	床直 口縁部1/6	口	(7.0)			E１	口唇下に幅狭の無文帯を置き、以下に異条のRL縄文を縦位に施す。内面粗い横位撫で、指頭状圧痕を残す。	称名寺Ｉ式併行
第38図	17	縄文土器 深鉢	床上 底部1/2	底	(6.0)			D２	内外面共に丁寧な横位磨き。	称名寺Ｉ式併行
第38図 PL.152	18	縄文土器 深鉢	床直 底部1/2	底	(12.6)			D８	内外面共にやや被熱風化、外面に灰付着。	称名寺Ｉ式併行
第38図	19	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					D８	LR縄文を縦位に施文し、幅広の磨消帯でＶ字状のモチーフを構成。内面一部に煤状炭化物付着。	加曽利E４式
第38図 PL.152	20	縄文土器 深鉢	床直 胴部片					D８	LR縄文を縦位施文し、沈線懸垂文を施す。内面被熱風化・剥離。	加曽利E４式
第38図 PL.152	21	剥片石器 石鏃	フク土 完形	長 幅	1.3 1.2	厚 重	0.3 0.4	黒曜石	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。	凹基無茎鏃
第38図 PL.152	22	剥片石器 石鏃	フク土 4/5	長 幅	(2.3) (1.1)	厚 重	0.4 0.5	チャート	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。先端を尖頭状に作出加工する。先端部及び両脚部先端欠損。	凹基無茎鏃
第38図 PL.152	23	剥片石器 石鏃	床直 ほぼ完形	長 幅	(2.2) (1.5)	厚 重	0.4 1.2	珪質頁岩	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。先端部及び両脚部先端欠損。	凹基無茎鏃
第38図 PL.152	24	剥片石器 石匙	フク土 完形	長 幅	4.6 6.5	厚 重	1.1 15.1	珪質頁岩	表裏面に素材剥片の剥離面を大きく残す。打面は単剥離面である。つまみ部は両面加工であるが、機能部と推定される下部末端は片面加工が主体的である。表面の左側辺上方に微細剥離痕が認められる。	
第38図 PL.152	25	礫石器 凹石	床直 完形	長 幅	11.5 9.6	厚 重	4.3 705.8	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面の中央に浅い漏斗状の凹みが認められる。表面の凹みは２カ所に分別することができるが、裏面の凹みは１カ所である。	
第38図 PL.152	26	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	10.8 6.4	厚 重	4 409.1	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められ、表面の中央には敲打痕が認められる。	
第38図 PL.152	27	礫石器 多孔石	床直 完形	長 幅	18.2 12.7	厚 重	8.8 2482	粗粒輝石安山岩	粗粒の円礫を利用する。表面のやや上方に漏斗状の孔が３カ所認められる。	
第38図 PL.152	28	礫石器 多孔石	フク土 2/3	長 幅	21.2 -15.6	厚 重	10.1 3528.9	粗粒輝石安山岩	亜角礫を利用する。表裏面に漏斗状の凹みが認められる。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第38図 PL.152	29	石製品 石製品	床直 1/3	長 幅	(3.8) (1.0)	厚 重	(0.5) 2.2	葉ろう石	外面は丁寧に研磨整形されており光沢がある。孔の内部は中央やや上方に稜が形成されており、稜より上は横方向の擦痕が主体的であり、稜より下は横方向と縦方向の擦痕が混在する。	

C18号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第40図 PL.152	1	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					E 4	口縁波頂部に付された橋状把手に連接して横位の微隆起帯を施す。胴部はL縄文を点て・斜位に施文。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	称名寺Ⅰ式併行
第40図 PL.152	2	縄文土器 鉢	フク土 胴部片					G 1	把手部が欠損するが、両耳壺的な無文土器。内面横位磨き・一部に煤状炭化物付着。	称名寺Ⅰ式併行
第40図 PL.152	3	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					E 4	細い沈線懸垂文を施し、LR縄文を充填的に縦位施文。内外面共にやや被熱風化。	称名寺Ⅰ式併行
第40図 PL.152	4	縄文土器 深鉢	フク土 胴部片					E 4	LR縄文を縦位施文。内外面共にやや被熱風化、内面一部に煤状炭化物付着。	称名寺Ⅰ式併行
第40図 PL.152	5	縄文土器 瓢形土器	フク土 口縁部片					D 2	微隆起帯により文様構成。内外面共に赤色塗彩・丁寧な磨き。	称名寺Ⅰ式併行
第40図 PL.152	6	縄文土器 深鉢	フク土 口縁部片					A 3	波状口縁。半截竹管状具のコンパス文や並行沈線文・連続刻み目文を施文し、円形貼付文を施す。	関山Ⅰ式
第40図 PL.152	7	礫石器 凹石	フク土 完形	長 幅	12.5 7.6	厚 重	3.6 449.7	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められ、側面部との境界には稜が形成される。表面の中央には浅い漏斗状の凹みが３カ所認められ、裏面の中央にも漏斗状の凹みが２カ所認められる。	
第40図 PL.152	8	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	13.9 5.7	厚 重	3.6 481.3	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。右側面の一部にも磨面が認められる。表面の中央付近に敲打痕が認められる。	
第40図 PL.152	9	礫石器 凹石	フク土 完形	長 幅	13.6 9.9	厚 重	5.7 1214.4	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面の中央に凹みが２カ所認められ、その上下に敲打痕が残る。裏面の中央にも敲打痕が集中する。表裏面と右側面の中央付近に磨面が認められ、表裏面と右側面との境界は稜を形成する。	
第40図 PL.152	10	礫石器 多孔石	フク土 完形	長 幅	24 26.7	厚 重	9.6 8000	粗粒輝石安山岩	扁平な円礫を利用すると考えられる。表裏面に漏斗状の孔が多数認められる。孔の内面は細かい凹凸で構成されており比較的滑らかである。	

C５号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第42図 PL.153	1	剥片石器 石匙	フク土 完形	長 幅	7.6 4.2	厚 重	1.7 35.1	黒色頁岩	表裏面に素材剥片段階の剥離面を大きく残す。打面は単剥離面である。縦長剥片を素材とし、二次加工は片面加工を主体とする。	
第42図 PL.153	2	石製品 石製品	P10内 4/5	長 幅	7 3.3	厚 重	0.9 36.6	変質蛇紋岩	全体的に丁寧に研磨整形されており光沢がある。表裏面には細かい線条痕が多数認められる。	
第42図 PL.153	3	礫石器 石皿	床直 完形	長 幅	31.2 30.3	厚 重	11.2 15950	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面のほぼ全面と裏面の下半部に滑らかな部分が認められる。表面の中央には帯状に炭化物がわずかに付着する。	

D27号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第43図 PL.153	1	剥片石器 石鏃	フク土 完形	長 幅	1.6 1.4	厚 重	0.5 0.6	黒色安山岩	両面加工により整形する。	凹基無茎鏃
第43図 PL.153	2	剥片石器 凹石	床直 完形	長 幅	10.6 8.4	厚 重	4.6 592.6	粗粒輝石安山岩	表面のほぼ中央に凹みが１箇所認められ周囲に目面が形成される。裏面のほぼ全面に磨面が認められる。亜円礫を利用していると考えられる。	
第43図 PL.153	3	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	11.3 9.9	厚 重	4.2 699.2	粗粒輝石安山岩	表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。円礫を利用していると考えられる。	
第43図 PL.153	4	礫石器 磨石	床直 2/3	長 幅	(10.5) (8.0)	厚 重	(4.6) 599.7	ひん岩	表面のほぼ全面及び右側面の一部に磨面が認められる。裏面は全体的に表皮が剥落しており敲打による剥落の可能性がある。円礫を利用していると考えられる。	

D２号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第48図 PL.153	1	剥片石器 石鏃	フク土 ほぼ完形	長 幅	(1.5) (1.4)	厚 重	0.4 0.6	チャート	剥離面の稜を器体中央に取り込み製作された小形の石鏃。剥片の打面部を基部側に用い、粗く加工して形状を整える。凹基無茎鏃。	
第48図 PL.153	2	礫石器 敲石	フク土 完形	長 幅	6.7 6.3	厚 重	2.5 148.1	粗粒輝石安山岩	側縁には全周するように敲打痕を伴う剥離痕が巡る。背面側には著しい摩耗痕。小形扁平礫を用いる。	

縄文時代土坑

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第71図 PL.153	1	縄文土器 深鉢	D117号土坑 口縁部片					細:輝石・白色粒/良好/黒褐色	口唇部角頭状を呈し口縁部僅かに外反。浅い横位沈線が数条配される。口唇部のみ研磨。内面平滑な撫で調整。	早期中葉
第71図 PL.153	2	縄文土器 深鉢	C19号土坑 口縁部片					A7	波状口縁。内削ぎ状口唇部外端に刻み目を施す。竹管状具の襷状区画文内や交点に押引状結節沈線文と円形刺突文を施文。外面横位条痕文・煤状炭化物付着、内面被熱風化。	鵜ヶ島台式
第71図 PL.153	3	礫石器 磨石	C19号土坑 完形	長幅	12.2 8.8	厚重	7.4 995.5	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面の中央付近に磨面が認められる。	
第71図 PL.153	4	縄文土器 深鉢	C20号土坑 口縁部片					A 7	口唇部外端に刻み目を施す。半截竹管状具の押引状結節沈線文を縦位施文。内外面共に横位条痕文、外面一部に煤状炭化物付着。	鵜ヶ島台式
第71図 PL.153	5	縄文土器 深鉢	C23号土坑 口縁部片					A 7	波状口縁。内削ぎ状口唇部内・外端に刻み目を施す。箆状具の曲線文や襷状区画文内に押引状結節沈線文と円形刺突文を施文。内外面共に横位条痕文。	鵜ヶ島台式
第71図 PL.153	6	縄文土器 深鉢	D153号土坑 体部上半～底部 1/3残存			底	5.6	粗:繊維・石英・白色粒/やや軟質/暗褐色	底部は平底。体部下半が僅かに内湾し上半は強く開く。幅25㎜程の小口状工具による斜位条痕文が覆う。内面も弱い条痕文を見るが器面摩滅する。	早期後葉
第71図 PL.153	7	縄文土器 深鉢	D180号土坑 体部破片					細:繊維・石英多・白色粒/良好/にぶい黄褐色	外面は斜位条痕後撫で調整。内面は横位・斜位条痕を施す。	早期後葉
第71図 PL.153	8	縄文土器 深鉢	D180号土坑 体部破片					細:繊維・片岩・雲母末・白色粒/良好/褐色	外面は横位・斜位条痕後撫で調整。内面は横位・斜位条痕を施す。	早期後葉
第71図 PL.153	9	縄文土器 深鉢	D188号土坑 体部破片					粗:繊維・石英大・片岩・白色粒/良好/にぶい褐色	外面斜位条痕を施す。内面は弱い撫で調整に止まる。内外面とも器面凹凸顕著。	早期後葉
第71図 PL.153	10	縄文土器 深鉢	C78号土坑 口縁部片					A 7	波状口縁。口唇部内・外端に刻み目を施す。箆状具の襷状区画文内や交点に押引状結節沈線文と円形竹管文を施文。内外面共に横位条痕文、やや被熱風化・剥離。	鵜ヶ島台式
第71図 PL.153	11	縄文土器 深鉢	C78号土坑 胴部片					A14	０段多条のRL縄文を横位施文。内面やや粗い横位磨き。	黒浜式
第71図 PL.153	12	縄文土器 深鉢	C5号土坑 口縁部片					I 2	無文土器。外面やや粗い撫で状の横位磨き、内面やや被熱風化。	早期後半
第71図 PL.153	13	縄文土器 深鉢	C5号土坑 胴部片					A 5	RL縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第71図 PL.153	14	縄文土器 深鉢	C25号土坑 胴部片					K 1	内外面共に横位条痕文、被熱風化。	早期末葉
第71図 PL.153	15	縄文土器 深鉢	C119号土坑 口縁部破片					粗:繊維・石英・小礫/良好/赤褐色	薄手の器厚を呈す。波状縁で口唇部に横位の刻みを加える。以下結節ＲＬを施す。内面弱い撫で調整	前期初頭？
第71図 PL.153	16	縄文土器 深鉢	C249号土坑 口縁部破片					細:繊維・白色粒/良好/灰黄褐色	口縁部弧状小隆線を貼付。口唇部に撚糸ＬとＲによる撚糸圧痕文が沿い蕨手状意匠へ変化する。小型円形刺突文が周縁及び内縁に施される。内面研磨。	前期初頭
第71図 PL.153	17	縄文土器 深鉢	C262号土坑 体部破片					粗:繊維・石英大・白色粒/良好/明黄橙色	０段多条のＲＬとＬＲによる横位多段羽状縄文構成。原体幅は短い。内面研磨。	前期前葉
第71図 PL.153	18	縄文土器 深鉢	D269号土坑 体部破片					粗:繊維・石英・褐色粒・白色粒/良好/暗褐色	０段多条のＲＬとＬＲによる横位多段羽状縄文構成。原体幅は短い。内面平滑な撫で調整。	前期前葉
第72図 PL.153	19	縄文土器 深鉢	D257号土坑 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/黒褐色	口縁部内湾。環付ＲＬ閉端部の横位多段施文。内面丁寧な研磨を加える。	前期前葉
第72図 PL.154	20	縄文土器 深鉢	C89号土坑 口縁部片					A 7	波状口縁。口縁部に箆状具の鋸歯文や櫛状具のコンパス文を施す。内面横位磨き。	関山Ⅱ式
第72図 PL.154	21	縄文土器 深鉢	C89号土坑 口縁部片					A 7	波状口縁下に円形貼付文を施す。口唇部上面に竹管状具の押引状結節沈線文を施し、以下に０段多条の環付RL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	関山Ⅱ式
第72図 PL.154	22	縄文土器 深鉢	C89号土坑 口縁部片					A 5	半截竹管状具の連続爪形文を複数条施文して菱形意匠を構成か。外面一部に煤状炭化物付着、内面丁寧な横位磨き。	有尾式
第72図 PL.154	23	縄文土器 深鉢	D243号土坑 口縁部破片					細:繊維・石英・チャート・白色粒/良好/明赤褐色	厚手の器厚を呈す。外反する口縁部。横位ＲＬが覆う。内面丁寧な研磨を加える。	前期中葉
第72図 PL.154	24	縄文土器 深鉢	D243号土坑 口縁部破片					細:繊維・白色粒/良好/明黄褐色	肥厚口唇部に強い刻み。口縁部二横位平行沈線３条を設け以下斜位沈線と円文による小菱形状意匠が横位に連接する。内面丁寧な研磨を加える。	前期前葉
第72図	25	縄文土器 深鉢	C66号土坑 胴部片					A 4	半截竹管状具の平行沈線文やコンパス文を施す。内面横位磨き。	黒浜式
第72図 PL.154	26	縄文土器 深鉢	C48号土坑 口縁部片					A 7	波状口縁下に半截竹管状具の平行沈線文を縦位、口唇下に横位に施す。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	黒浜式
第72図 PL.154	27	縄文土器 深鉢	C48号土坑 胴部片					A 7	半截竹管状具の平行沈線文を横・縦位に施し、端部に同具の刺突文を施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面丁寧な縦位磨き。	黒浜式
第72図 PL.154	28	礫石器 磨石	C48号土坑 完形	長幅	10.5 8.3	厚重	4.8 576.3	流紋岩	円礫を利用する。表裏面の中央付近に磨面が認められる。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第72図 PL.154	29	礫石器 敲石	C48号土坑 完形	長 幅	22.8 6.1	厚 重	3.6 751.1	変玄武岩	全体的に研磨整形されており磨製石斧の転用品と考えられる。下部先端方向からの剥離面が数多く認められ、先端部にはつぶれが認められる。表裏面に長さ５㎜、幅１㎜程度の線条の痕跡が集中する箇所が認められ敲打痕の可能性がある。	
第72図 PL.154	30	縄文土器 深鉢	C59号土坑 口縁～胴部1/3	口	(24.4)			A 7	波状口縁。口縁部に半截竹管状具のやや弛緩したコンパスを多段に施文。胴部にはLR・RL縄文を横位・交互に多段施文して羽状の意匠を構成。内外面共に被熱風化、外面煤状炭化物付着。	黒浜式
第72図 PL.154	31	礫石器 磨石	C59号土坑 完形	長 幅	8.9 7.3	厚 重	3.4 329	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。	
第72図 PL.154	32	縄文土器 深鉢	C77号土坑 口縁部片					A14	RL縄文を横位施文。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	黒浜式
第72図 PL.154	33	縄文土器 深鉢	D125号土坑 体部破片					粗:繊維・石英・チャート・白色粒/良好/黄褐色	内皮平行沈線による横位沈線群と弧状意匠。内面弱い研磨を加える。	前期中葉
第72図 PL.154	34	縄文土器 深鉢	D215号土坑 口縁～体部上半破片					粗:繊維・石英・輝石少・白色粒/良好/明褐色	波頂部。ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。内面横位研磨。36と同一個体か。	前期中葉
第72図 PL.154	35	縄文土器 深鉢	D215号土坑 体部下半～底部破片					粗:繊維・石英・輝石少・白色粒/良好/明褐色	内湾気味に開く体部下半。０段多条のＬＲと直前段合撚(直前合２R)による羽状縄文構成。内面縦位研磨を加える。	前期中葉
第72図 PL.154	36	縄文土器 深鉢	D215号土坑 口縁～体部上半破片					粗:繊維・石英・輝石少・白色粒/良好/褐色	緩やかな波状縁。０段多条のＬＲとＲＬによる羽状縄文構成による大柄な菱形文が配される。内面口縁部は横位研磨、体部は弱い撫で調整。	前期中葉
第72図 PL.154	37	縄文土器 深鉢	D218号土坑 体部下半～底部1/3残存			底	(9.0)	粗:繊維・石英少・白色粒/良好/明黄褐色	底面僅かに上げ底で平滑な撫で。体部はＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。内面は平滑な撫で調整。煤付着。	前期中葉
第73図 PL.154	38	縄文土器 深鉢	D182号土坑 体部破片					細:繊維・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	やや薄手の器厚を呈す。横位無節Ｒを施す。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第73図 PL.154	39	縄文土器 深鉢	D271号土坑 口縁～体部下半1/3残存	口	(32.0)			細:繊維・石英・白色粒/良好/明赤褐色	口唇部角頭状を呈す。体部に緩やかな括れを持たせ底部は突出する。反撚無節ＲとＬＲによる横位羽状縄文構成で菱形状意匠を意図する。内面は口縁部は平滑な研磨、体部は弱い研磨。被熱のため体部色調は赤化、口縁部は黒色を呈す。	前期中葉
第73図 PL.154	40	剥片石器 磨製石斧	D271号土坑 完形	長 幅	25.2 8	厚 重	5.2 1665.2	変玄武岩	刃部側の研磨は丁寧で、ほとんど打痕が残らないほどであるが、両側縁から頭部にかけては研磨は弱く敲打痕が良く残る。大型品で、形状は乳棒状を呈する。	
第73図 PL.154	41	縄文土器 深鉢	D232号土坑 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/褐色	０段多条横位ＬＲを施す。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第73図 PL.154	42	縄文土器 深鉢	D248号土坑 体部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい黄橙色	無節ＲとＬＲによる羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第73図 PL.154	43	縄文土器 深鉢	D283号土坑 体部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/褐灰色	横位ＬＲを施す。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第73図 PL.154	44	礫石器 台石	D283号土坑 完形	長 幅	18.6 15.3	厚 重	5.9 2490.9	粗粒輝石安山岩	厚い板状礫で、形状は略三角形状を呈す。全面が被熱赤化、剥落痕も生じている。背面側中央付近に敲打痕が、裏面側平坦面には摩耗面が広がる。	
第73図 PL.155	45	礫石器 石皿	D283号土坑 ほぼ完形	長 幅	(30.6) 19.2	厚 重	6.4 3819	粗粒輝石安山岩	河床礫を長軸上で二分、石皿の素材としたもの。機能面は浅く窪む。摩耗痕は全域に広がっているが、特に中央より上半が強く摩耗する。	
第73図 PL.155	46	縄文土器 深鉢	D199土坑 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/橙色	無節ＬとＲの横位施文による羽状縄文構成。内面弱い撫で調整。凹凸顕著。	前期中葉
第73図 PL.155	47	縄文土器 深鉢	D199号土坑 体部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/橙色	０段多条ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面平滑な横位撫で調整。	前期中葉
第73図 PL.155	48	縄文土器 深鉢	D199号土坑 体部破片					細:繊維少・石英・輝石・白色粒/良好/明赤褐色	網目状撚糸文。やや乱雑な横位施文。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第74図 PL.155	49	縄文土器 深鉢	D247号土坑 口縁部破片					細:繊維・石英・チャート・白色粒/良好/明黄褐色	薄手の器厚で口唇部内削状を呈す。無文で内外面とも撫で調整。	前期中葉
第74図 PL.155	50	縄文土器 深鉢	D247号土坑 口縁部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい黄橙色	やや薄手の器厚。ＲＬとＲによる付加条横位施文。内面丁寧な研磨を加える。	前期中葉
第74図 PL.155	51	縄文土器 深鉢	D247号土坑 口縁部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/黒褐色	内削状の口唇部。以下横位ＲＬを施す。内面平滑な撫で。	前期中葉
第74図 PL.155	52	縄文土器 深鉢	D247号土坑 体部破片					細:繊維・石英少・輝石少・白色粒/良好/灰黄褐色	外反する体部上半か。横位ＲＬを施す。内面研磨。	前期中葉
第74図 PL.155	53	縄文土器 深鉢	D247号土坑 体部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/黒褐色	直前段合撚(直前合２Lと直前合２Ｒ)による横位羽状縄文構成。内面丁寧な研磨を加える。	前期中葉
第74図 PL.155	54	縄文土器 深鉢	D247土坑 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/褐色	０段多条のＬＲ・ＲＬによる羽状縄文による菱形意匠を配す。内面弱い研磨を施す。	前期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第74図 PL.155	55	縄文土器 深鉢	D247号土坑 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/褐灰色	横位ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。内面丁寧な研磨を施す。	前期中葉
第74図 PL.155	56	縄文土器 深鉢	D247号土坑 体部上半破片					細:繊維・石英少・チャート・白色粒/良好/褐色	外反する体部上半。屈曲部に横位内皮平行沈線を設ける。地文に横位ＬＲを施す。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第74図 PL.155	57	縄文土器 深鉢	D247号土坑 底部のみ残存			底	7.6	粗:繊維・石英・輝石・白色粒/良好/明褐色	小型の深鉢か。内外面とも撫で調整。	前期中葉
第74図 PL.155	58	縄文土器 深鉢	D247号土坑 底部のみ残存			底	7.9	粗:繊維・石英多・白色粒/良好/にぶい褐色	直立気味の体部下半。上げ底を呈す。体部はＬＲを施す。内面弱い撫で調整。	前期中葉
第74図 PL.155	59	縄文土器 深鉢	D247号土坑 口縁部破片					細:繊維・チャート少・白色粒少/良好/明黄褐色	口唇部内削状。幅広の内皮平行沈線を横位に施す。内面平滑な研磨を加える。	前期中葉
第74図 PL.155	60	縄文土器 深鉢	D247号土坑 体部破片					粗:輝石多・白色粒/良好/暗褐色	体部上半か。幅狭の横位平行沈線群を設け以下横位ＬＲを施す。内面平滑な撫で調整。	前期後葉
第74図 PL.155	61	剥片石器 磨製石斧	D247号土坑 完形	長 幅	(23.5) 6.9	厚 重	4.4 1184.5	変玄武岩	刃部側の研磨は丁寧だが、側縁から頭部の研磨は省力化して雑である。器体頭部を破損、刃部は敲打され、潰れている。頭部が破損したことで敲打具に転用したのかもしれない。	
第74図 PL.155	62	縄文土器 深鉢	C97号土坑 胴部1/3					Ａ７	半截竹管状具の平行沈線文を横位・多段に施す。外面被熱風化・剥離、内面やや被熱風化・横位磨き。	黒浜式
第74図 PL.155	63	縄文土器 深鉢	C97号土坑 胴部片					Ａ７	RL縄文を横位施文。外面被熱風化・一部剥離、内面横位磨き。	黒浜式
第74図 PL.155	64	縄文土器 深鉢	C97号土坑 胴部片					Ｋ１	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化・一部剥離。	諸磯ａ式
第74図 PL.155	65	縄文土器 深鉢	C97号土坑 胴部片					Ｃ３	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化、内面横位磨き。	諸磯ａ式
第74図 PL.155	66	礫石器 磨石	C97号土坑 完形	長 幅	11.5 9.5	厚 重	6.2 871.2	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。表裏面の中央付近に敲打痕が散在する。	
第74図 PL.156	67	縄文土器 深鉢	C16号土坑 底部片					Ａ１	半截竹管状具の平行沈線文を多段に全面施文。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着。	黒浜式
第74図 PL.156	68	縄文土器 深鉢	C16号土坑 胴部片					Ｆ２	RL縄文を横位・多段に施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯ｂ式
第74図 PL.156	69	縄文土器 深鉢	C16号土坑 胴部片					Ｄ３	開端自縄自縛のRL縄文を横位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯ｂ式
第74図 PL.156	70	剥片石器 石鏃	C16号土坑 1/2	長 幅	(2.6) (1.9)	厚 重	(0.4) 1.5	黒色安山岩	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。下部欠損。	
第74図 PL.156	71	縄文土器 深鉢	D255号土坑 体部破片					細:繊維・石英・輝石少・白色粒/良好/明赤褐色	薄手の器厚を呈し、やや異質な感を受ける。横位ＬＲ・ＲＬによる羽状縄文構成。内面横位撫で調整。	前期中葉
第75図 PL.156	72	縄文土器 深鉢	D276号土坑 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒少/良好/にぶい黄褐色	やや厚手。小型の竹管による円形刺突文が施される。内面研磨を加える。	前期中葉
第75図 PL.156	73	縄文土器 深鉢	D276号土坑 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/灰黄褐色	横位撚糸ＬとＲＬによる羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第75図 PL.156	74	縄文土器 深鉢	D276号土坑 口頸部破片					細:輝石少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	薄手の器厚を呈す。靴先状突起下位か。横位浮線文２条を体部境に設け、口頸部に細浮線文による弧状意匠を配す。横位浮線文→横位ＲＬ→細浮線文の施文順位。内面弱い研磨。煤付着。	前期後葉
第75図 PL.156	75	剥片石器 石鏃	D276号土坑 4/5	長 幅	(2.9) (1.7)	厚 重	0.3 1.2	黒色頁岩	凹基無茎鏃。返し部の両端を欠く。やや風化が進んでいるが、薄手で優品の部類に属す。完成度は高い。	
第75図 PL.156	76	縄文土器 深鉢	C60号土坑 口縁部片					Ａ２	半截竹管状具の連続爪形文を施す。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第75図 PL.156	77	縄文土器 深鉢	C60号土坑 口縁部片					A10	波状口縁。半截竹管状具の連続爪形文により菱形意匠を構成か。外面被熱風化、内面横位磨き。	有尾式
第75図 PL.156	78	縄文土器 深鉢	C60号土坑 胴部片					Ａ７	Ｒ縄文を横位・多段に施文。外面煤状炭化物付着、内面被熱風化・剥離。	有尾式
第75図 PL.156	79	縄文土器 深鉢	C60号土坑 口縁部片					Ａ７	箆状具の細沈線文で斜格子状の意匠を構成し、円形竹管文を施す。外面やや被熱風化、内面横位磨き。	関山Ⅱ式
第75図 PL.156	80	剥片石器 石匙	C60号土坑 完形	長 幅	6.1 3.9	厚 重	1 19.5	珪質頁岩	表裏面に素材剥片段階の剥離面を大きく残す。打面は自然面であり縦長剥片を素材とする。	
第75図 PL.156	81	縄文土器 深鉢	D237号土坑 体部破片					粗:繊維・石英少・輝石少・白色粒/良好/にぶい赤褐色	横位ＬＲを施す。外器面磨滅。内面平滑な撫で。	前期中葉
第75図 PL.156	82	縄文土器 深鉢	D237号土坑 体部破片					粗:繊維・石英・白色粒/良好/灰黄褐色	０段多条のＬＲとＲＬによる縦位羽状縄文構成。あるいは菱形状意匠か。内面研磨。	前期中葉
第75図 PL.156	83	縄文土器 深鉢	D237号土坑 体部破片					細:石英少・輝石少/良好/にぶい黄褐色	２・３条単位の横位浮線文を多段に配す。横位ＲＬを加える。内面平滑な研磨。	前期後葉
第75図 PL.156	84	縄文土器 深鉢	C84号土坑 胴部片					Ａ７	Ｒ縄文を横位・多段に施文。外面やや被熱風化、内面縦位磨き。	黒浜式

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第75図 PL.156	85	縄文土器 深鉢	C84号土坑 胴部片					A 2	０段多条のRL縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第75図 PL.156	86	縄文土器 深鉢	C84号土坑 胴部片					A11	外面縦位・内面横位のやや粗雑で微弱な条痕文。内外面共にやや被熱風化。	鵜ヶ島台式
第75図 PL.156	87	礫石器 磨石	C84号土坑 ほぼ完形	長 幅	8.7 8.4	厚 重	6 545.5	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。表裏面の中央付近に敲打痕が集中する。表面から左側面にかけてはやや黒変しており受熱の可能性がある。	
第75図 PL.156	88	縄文土器 深鉢	C91号土坑 胴部片					A 7	０段多条のRL・LR縄文を横位・交互に施文。内外面共に被熱風化。	有尾式
第75図 PL.156	89	縄文土器 深鉢	C91号土坑 胴部片					A 7	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成か。内外面共に被熱風化・一部剥離、内面煤状炭化物付着。	有尾式
第75図 PL.156	90	縄文土器 深鉢	C91号土坑 胴部片					A15	０段多条のRL・LR縄文を横位・交互に施文。外面被熱風化、内面横・斜位磨き。	有尾式
第75図	91	縄文土器 深鉢	C91号土坑 底部1/2	底	10.0			A 7	やや上げ底状。内外面共に被熱風化。	有尾式
第75図 PL.156	92	縄文土器 深鉢	C91号土坑 胴部片					A 1	０段多条のRL・LR縄文を横位・交互に施文し、箆状具のコンパス文を施す。内面横位磨き。	関山Ⅱ式
第75図 PL.156	93	縄文土器 深鉢	C91号土坑 底部1/3	底	(12)			D 8	内外面共に被熱風化、内面煤状炭化物付着。	諸磯ａ式
第75図 PL.156	94	剥片石器 磨製石斧	C91号土坑 4/5	長 幅	19.5 (4.4)	厚 重	2.7 331.7	変玄武岩	全体的に研磨整形される。先端部右側辺に破損面が認められるが先端刃部付近に打点が観察され、使用時の衝撃剥離の可能性がある。	
第76図 PL.156	95	縄文土器 深鉢	D230号土坑 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/黄褐色	小型の内皮平行沈線と連続爪形文が横位多段に配される。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第76図 PL.156	96	縄文土器 深鉢	D230号土坑 口縁部破片					粗:輝石・片岩・白色粒/良好/灰黄褐色	口縁部外反する。横位ＬＲが覆う。内面弱い研磨。	前期
第76図 PL.156	97	縄文土器 深鉢	D230号土坑 体部破片					粗:繊維・石英少・輝石・白色粒/良好/灰黄褐色	横位ＬＲが覆う。内面研磨。被熱のため下半はにぶい黄橙色を呈す。	前期中葉
第76図 PL.157	98	礫石器 磨石	D230号土坑 ほぼ完形	長 幅	11.5 7.8	厚 重	7 784.9	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央付近に磨面が認められる。円礫を利用していると考えられる。	
第76図 PL.157	99	礫石器 凹石	D230号土坑 完形	長 幅	9.9 7	厚 重	3.5 352.7	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央に凹みが認められる。表裏面の凹みの周囲には磨面が形成される。側面に敲打痕が散在する。円礫を利用していると考えられる。	
第76図 PL.157	100	縄文土器 深鉢	C44号土坑 口縁部片					A 7	半截竹管状具の平行沈線文を複数条施す。内外面共に被熱風化、一部剥離。	有尾式
第76図 PL.157	101	縄文土器 深鉢	C44号土坑 口縁部片					A12	波状口縁。RL・LR縄文を横位・交互に施文し、半截竹管状具の平行沈線文により菱形意匠を構成か。内外面共にやや被熱風化、内面横位磨き。	有尾式
第76図 PL.157	102	縄文土器 深鉢	C44号土坑 胴部片					A 7	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成か。内外面共に被熱風化、一部剥離。	有尾式
第76図 PL.157	103	縄文土器 深鉢	C44号土坑 口縁部片					A 7	半截竹管状具の連続爪形文により菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化、外面煤状炭化物付着、内面一部剥離。	有尾式
第76図 PL.157	104	縄文土器 深鉢	C44号土坑 口縁部片					A 7	小波状口縁下に鎖状隆帯文を施し、半截竹管状具の平行沈線文や波状文を施文。内面口唇部下に横線文。内外面共にやや被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着、内面一部剥離。	黒浜式
第76図 PL.157	105	縄文土器 深鉢	C44号土坑 口縁部片					A 2	半截竹管状具の平行沈線文を複数条施す。内面やや被熱風化、やや粗い撫で状の磨き。	黒浜式
第76図 PL.157	106	礫石器 石皿	C44号土坑 完形	長 幅	30.9 24.3	厚 重	10.2 11600	粗粒輝石安山岩	亜円礫を利用する。表面のほぼ全面に滑らかな部分が認められる。表面の中央付近に薄い剥離痕が集中し敲打による痕跡と考えられる。	
第76図 PL.157	107	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口縁部～体部上半破片					細:繊維・石英・片岩・白色粒/良好/にぶい赤褐色	波状縁。幅広の口縁部に太い平行沈線による大柄の菱形状意匠を配す。頸部屈曲部に横位平行沈線を設け以下、０段多条のＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成による菱形文。内面弱い撫で。口縁部内面器面剥落著しい。	前期中葉
第76図 PL.157	108	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口縁部～体部上半破片					粗:繊維・石英・白色粒/やや軟質/明黄褐色	口唇部内削状で刻みを加える。口縁部及び体部上半に横位連続爪形文を配す。口頸部に０段多条ＬＲとＲＬによる崩れた菱形状意匠を配す。内面平滑な研磨。外面被熱により磨滅。	前期中葉
第76図 PL.157	109	縄文土器 深鉢	D279号土坑 体部上半破片					粗:繊維・石英少・輝石少・白色粒/良好/にぶい黄褐色	横位連続爪形文２条を配し、０段多条ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。菱形状意匠か。内面弱い研磨を加える。	前期中葉
第76図 PL.157	110	縄文土器 深鉢	D279号土坑 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい黄褐色	横位０段多条ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。内面平滑な横位研磨を加える。	前期中葉
第76図 PL.157	111	縄文土器 深鉢	D279号土坑 体部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい褐色	０段多条ＬＲとＲＬの羽状縄文構成。顕著な菱形状ではない。内面平滑な研磨を加える。	前期中葉
第77図 PL.157	112	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口縁部破片					細:繊維・白色粒/良好/にぶい黄褐色	波状縁か。幅広の内皮平行沈線が口唇部に沿う。地文は横位ＬＲ。内面研磨を加える。	前期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第77図 PL.157	113	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口縁部破片					細:繊維・白色粒/良好/にぶい黄褐色	薄手の器厚。角頭状の口唇部で波状縁を呈す。口縁部に小型の連続爪形文を多段に配す。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第77図 PL.157	114	縄文土器 深鉢	D279号土坑 体部破片					細:繊維・石英・チャート・白色粒/良好/にぶい黄褐色	体部上半に幅広の内皮平行沈線を設け以下ＬＲを施す。内面研磨を加える。	前期中葉
第77図 PL.157	115	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口頸部破片					細:繊維・石英少・輝石少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	連続爪形文による口頸部菱形状・三角形状意匠を配す。内面横位研磨。	前期中葉
第77図 PL.157	116	縄文土器 深鉢	D279号土坑 体部上半破片					細:繊維・石英少・白色粒/やや軟質/にぶい黄橙色	横位無節Ｒが覆う。内面研磨を加えるも凹凸が顕著。	前期中葉
第77図 PL.157	117	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口縁部破片					細:繊維・白色粒/やや軟質/にぶい黄橙色	口唇部内削状を呈す。以下横位無節Ｌが覆う。原体端部の痕跡も見る。内面研磨を加えるも凹凸が顕著。	前期中葉
第77図 PL.157	118	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口縁部破片					細:繊維・石英・チャート・白色粒/良好/明赤褐色	口唇部僅かに残る角頭状をなす。以下横位ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。菱形状意匠か。内面弱い横位撫で。	前期中葉
第77図 PL.157	119	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口縁部破片					粗:繊維・片岩・白色粒・海綿状骨針/良好/にぶい黄橙色	口唇部内削状を呈す。横位ＬＲとＲＬを施すが顕著な羽状ではない。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第77図 PL.157	120	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口縁部破片					粗:繊維・片岩・白色粒・海綿状骨針/良好/にぶい黄橙色	口唇部内削状を呈す。横位ＬＲとＲＬを施すが顕著な羽状ではない。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第77図 PL.157	121	縄文土器 深鉢	D279号土坑 体部破片					粗:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい黄褐色	横位沈線２条以下に斜位弧状短沈線を施す。地文に横位ＬＲ。内面無調整に近く凹凸がある。	前期中葉
第77図 PL.157	122	縄文土器 深鉢	D279号土坑 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	幅広の平行沈線を斜位に施す。地文に横位ＬＲを施す。内面弱い撫で調整で凹凸顕著。	前期中葉
第77図 PL.157	123	縄文土器 深鉢	D279号土坑 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	横位隆線２条を口唇部に付し細かな連続爪形文を加える。以下２条の撚糸圧痕文と矢羽状刺切り文を施す。内面研磨。	前期前葉
第77図 PL.157	124	縄文土器 深鉢	D279号土坑 体部破片					細:繊維・石英・チャート・白色粒/良好/にぶい黄橙色	横位０段多条ＬＲとＲＬによる幅狭の羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第77図 PL.157	125	縄文土器 深鉢	D279号土坑 底部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	外反気味に開く体部下半。底面は上げ底状で体部と共にＬＲを施す。内面撫で調整。	前期初頭
第77図 PL.158	126	剥片石器 石匙	D279号土坑 完形	長 幅	3 3.6	厚 重	1 5.8	黒色安山岩	やや幅広の横型石匙。多孔質石材だが、見た目よりも剥離面の稜はシャープに見える。刃部再生は明らかで、当初の形状は大きく変形してしまっている。	
第77図 PL.158	127	礫石器 磨石	D279号土坑 完形	長 幅	5.8 5.1	厚 重	3.9 163.3	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗する。礫面は煤けて赤化しており、一部ヒビ割れている。	
第77図 PL.158	128	礫石器 磨石	D279号土坑 完形	長 幅	6.9 5.8	厚 重	4.6 266.4	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗面が広がる。球形礫にはならないが、やや甲高で摩耗面は石材の目が潰れる程度に摩耗している。	
第77図 PL.158	129	礫石器 凹石	D279号土坑 完形	長 幅	9.4 8.1	厚 重	6.1 608.9	粗粒輝石安山岩	表裏面に摩耗した浅い窪み部２ヶ所がある。より平坦な裏面側礫面の摩耗が著しい。礫の小口部分に敲打痕がある。	
第77図 PL.158	130	礫石器 凹石	D279号土坑 完形	長 幅	11.8 9.5	厚 重	5.7 883.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗するほか、背面側上半に漏斗状の窪み部がある。窪み部は摩耗せず新鮮であり、通常の摩耗した漏斗状の窪み部とは異なる。	
第77図 PL.158	131	礫石器 台石	D279号土坑 完形	長 幅	37.2 13.7	厚 重	8.8 6500	粗粒輝石安山岩	背面側に敲打痕と弱い摩耗痕がある。裏面側には広い平坦面となっており、弱い摩耗痕が広がる。	
第77図 PL.158	132	礫石器 磨石	D279号土坑 完形	長 幅	17.8 16.4	厚 重	15.2 6300	粗粒輝石安山岩	表裏面に弱い摩耗痕がある。全面に打痕が広がるようにも見えるが、実態は分からない。大形の球形礫で、中期列石などに伴う丸石に似る。	
第78図 PL.158	133	縄文土器 深鉢	C36号土坑 口縁部片					Ｉ２	半截竹管状具の連続爪形文を複数条施す。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着。	有尾式
第78図 PL.158	134	縄文土器 深鉢	C36号土坑 胴部片					Ａ７	RL縄文を横位施文し、沈線文を斜位に施す。内外面共に被熱風化。	有尾式
第78図	135	縄文土器 深鉢	C36号土坑 底部1/2	底	(6.5)			Ａ７	０段多条のRL縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第78図 PL.158	136	縄文土器 深鉢	C36号土坑 胴部片					Ａ２	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化、内面一部に煤状炭化物付着。	有尾式
第78図 PL.158	137	縄文土器 深鉢	C21号土坑 口縁部片					A10	半截竹管状具の連続爪形文を横・斜位に施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	有尾式
第78図 PL.158	138	礫石器 磨石	C21号土坑 完形	長 幅	9.9 8	厚 重	5 571.7	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面の中央付近と裏面の一部に磨面が認められる。下側面を中心に敲打痕が認められる。	
第78図 PL.158	139	縄文土器 深鉢	C40号土坑 胴部片					Ａ７	０段多条のLR縄文を横位施文。外面被熱風化・一部剥離、内面横丁寧な位磨き。	有尾式

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第78図 PL.158	140	縄文土器 深鉢	C40号土坑 胴部片					A 1	半截竹管状具の連続爪形文を施す。内外面共に被熱風化、一部剥離。	有尾式
第78図 PL.158	141	縄文土器 深鉢	C45号土坑 口縁～胴部上位 1/4	口	(38)			A 7	0段多条のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。外面被熱風化・煤状炭化物付着、内面やや被熱風化・横位磨き。	有尾式
第78図 PL.158	142	縄文土器 深鉢	C63号土坑 胴部片					A 7	RL縄文を横位施文。内外面共に被熱風化、一部剥離。	有尾式
第78図 PL.158	143	縄文土器 深鉢	C63号土坑 口縁～頸部1/4	口	(35)			A 6	波状口縁。半截竹管状具の平行沈線文で菱形意匠を構成。胴部にLR縄文を横位施文。内外面共に被熱風化、一部剥離。	有尾式
第78図 PL.158	144	縄文土器 甕	C63号土坑 胴部1/3					A13	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文で菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化、一部煤状炭化物付着。	有尾式
第78図 PL.158	145	縄文土器 深鉢	C63号土坑 口縁～頸部1/4					A 4	波状口縁。半截竹管状具の平行沈線文で菱形意匠を構成か。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第78図 PL.158	146	縄文土器 深鉢	C63号土坑 胴部片					A 6	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化・一部剥離。	有尾式
第78図 PL.158	147	礫石器 磨石	C63号土坑 完形	長 幅	11.8 7.6	厚 重	4.3 492.2	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面のほぼ全面及び裏面の一部に磨面が認められる。右側面のほぼ全面にも磨面が認められる。表面の中央にわずかに敲打痕がある。	
第79図 PL.159	148	縄文土器 深鉢	C69号土坑 口縁部片					A12	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化。	有尾式
第79図 PL.159	149	縄文土器 深鉢	C69号土坑 胴部片					A 7	R・L縄文を横位・交互に施文。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	有尾式
第79図 PL.159	150	剥片石器 石鏃	C69号土坑 完形	長 幅	(1.4) (1.2)	厚 重	0.4 0.4	黒曜石	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。両脚部先端欠損。	凹基無茎鏃
第79図 PL.159	151	縄文土器 深鉢	C73号土坑 口縁部片					A 1	波状口縁。RL縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化、一部剥離。	有尾式
第79図 PL.159	152	縄文土器 深鉢	C93号土坑 胴部片					A 1	0段多条のLR縄文を横位施文。内外面共に被熱風化。	有尾式
第79図 PL.159	153	縄文土器 深鉢	C87号土坑 口縁部片					A 2	波状口縁。半截竹管状具の平行沈線文を複数条施す。内外面共に被熱風化・一部剥離。	有尾式
第79図 PL.159	154	縄文土器 深鉢	C87号土坑 口縁部片					A 7	R・L縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化、外面煤状炭化物付着。	有尾式
第79図 PL.159	155	縄文土器 深鉢	C87号土坑 胴部片					A 7	半截竹管状具の連続爪形文により菱形意匠を構成か。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第79図	156	縄文土器 深鉢	C87号土坑 底部1/5	底	(9)			A 7	0段多条のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。やや上げ底状。内外面共に被熱風化。	有尾式
第79図 PL.159	157	縄文土器 深鉢	C87号土坑 底部2/3	底	10.8			A 8	0段多条LR縄文を横位施文。やや上げ底状。内外面共にやや被熱風化、内面一部に煤状炭化物付着。	有尾式
第79図 PL.159	158	縄文土器 深鉢	C88号土坑 口縁～胴部1/5	口	(15.5)			A 7	0段多条のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化、外面口縁部に煤状炭化物付着。	有尾式
第79図 PL.159	159	縄文土器 深鉢	C88号土坑 胴部片					A 1	R・L縄文を横位・交互に施文。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	有尾式
第79図 PL.159	160	縄文土器 深鉢	C88号土坑 胴部片					A 7	0段多条のLR・RL縄文を横位・交互に多段施文。内外面共に被熱風化、内面煤状炭化物付着。	有尾式
第79図 PL.159	161	礫石器 磨石	C88号土坑 完形	長 幅	11.5 6.4	厚 重	4 471.3	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。表裏面の中央付近に敲打痕が集中する。	
第79図 PL.159	162	縄文土器 深鉢	D270号土坑 口頸部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい黄橙色	頸部に横位平行沈線群を設け、口頸部には平行沈線による小型の菱形状意匠が横位に連接する。内面平滑な横位ヘラ撫で。	前期中葉
第79図 PL.159	163	剥片石器 石鏃	D270号土坑 ほぼ完形	長 幅	(2.5) (1.5)	厚 重	0.5 1.3	黒色安山岩	基部が弱く窪む凹基無茎鏃。加工は丁寧で、完成状態にある。石鏃先端部はロケット状に尖る。右辺側の返し部を欠損する。	
第79図 PL.159	164	礫石器 磨石	D270号土坑 ほぼ完形	長 幅	9.4 7.7	厚 重	(4.7) 385	粗粒輝石安山岩	背面側中央付近から左辺に摩耗痕が広がる。表裏面とも被熱して煤ける。裏面側も摩耗したものと思われるが、薄く爆ぜて摩耗の有無は不明。	
第79図 PL.159	165	礫石器 石皿	D270号土坑 2/3	長 幅	38.8 (26.4)	厚 重	13.3 18800	粗粒輝石安山岩	背面側に広い摩耗面が広がる。被熱して1/3ほどを欠く。裏面側縁辺のみが煤けており、置いた状態で被熱したものと見られる。	
第80図 PL.159	166	縄文土器 深鉢	D252号土坑 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/褐灰色	内皮工具による横位連続爪形文が2条配される。内面研磨。	前期中葉
第80図 PL.159	167	剥片石器 打製石斧	D252号土坑 4/5	長 幅	(10.3) 6.1	厚 重	3.4 250.5	黒色頁岩	裏面側に大きく礫面を残す。刃部および左側縁の加工は粗く、完成状態には遠い。また、右辺は礫面が取り切れず、上半部を欠いた段階で製作を放棄したものと思われる。	
第80図 PL.159	168	礫石器 石皿	D252号土坑 完形	長 幅	24.4 21.2	厚 重	6.8 4590	粗粒輝石安山岩	背面側平坦面が摩耗するほか、中央付近に敲打痕が集中する。稼働範囲は狭く、製粉具には適していない。無縁の石皿。	
第80図 PL.159	169	縄文土器 深鉢	C15号土坑 口縁部片					A 7	波状口縁。LRの異条縄文を横位施文。内面縦位磨き。	有尾式
第80図 PL.159	170	縄文土器 深鉢	C15号土坑 胴部片					D 6	RL縄文を横位施文。内面縦位磨き。	諸磯a式
第80図 PL.159	171	礫石器 磨石	C15号土坑 完形	長 幅	12.2 9	厚 重	3.9 708.5	粗粒輝石安山岩	亜円礫を利用する。表面のほぼ全面に磨面が認められる。	
第80図 PL.159	172	礫石器 石皿	C15号土坑 完形	長 幅	21.2 16.4	厚 重	8.5 4668.5	粗粒輝石安山岩	亜円礫を利用する。表面のほぼ全面及び裏面の中央付近に滑らかな部分が認められる。	

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第80図 PL.160	173	縄文土器 深鉢	C10号土坑 口縁部片					A 1	RL縄文を横位施文。内面横位磨き。	有尾式
第80図 PL.160	174	縄文土器 深鉢	C10号土坑 口縁部片					A 3	0段多条のRL縄文を横位施文。外面やや被熱風化、内面横位磨き。	有尾式
第80図 PL.160	175	縄文土器 深鉢	C10号土坑 胴部片					A 3	0段多条のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して羽状の意匠を構成。内外面共にやや被熱風化、内面横位磨き。	有尾式
第80図	176	縄文土器 深鉢	C10号土坑 底部1/5	底	(13.5)			A 2	付加条第1種RL＋L縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第80図 PL.160	177	縄文土器 深鉢	C10号土坑 口縁部片					F 1	LR縄文を横位施文。外面やや被熱風化、内面横位磨き。	諸磯a式
第80図 PL.160	178	縄文土器 深鉢	C10号土坑 胴部片					F 2	RL縄文を横位・多段に施文。内面縦位磨き。	諸磯a式
第80図 PL.160	179	縄文土器 深鉢	C10号土坑 胴部片					F 2	RL縄文を横位施文。外面煤状炭化物付着、内面縦位磨き。	諸磯a式
第80図 PL.160	180	縄文土器 深鉢	C10号土坑 胴部片					F 1	RL縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	諸磯a式
第80図 PL.160	181	剥片石器 石鏃	C10号土坑 ほぼ完形	長 幅	-1.2 1.2	厚 重	0.2 0.1	流紋岩	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。先端欠損。	凹基無茎鏃
第80図 PL.160	182	礫石器 磨石	C10号土坑 完形	長 幅	9.1 6.2	厚 重	4.9 372.7	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面の中央付近に磨面が認められる。	
第80図 PL.160	183	縄文土器 深鉢	C74号土坑 胴部片					A 1	0段多条のLR縄文を横位施文し、半截竹管状具の平行沈線文を施す。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第80図 PL.160	184	縄文土器 深鉢	C74号土坑 胴部片					A 7	0段多条のLR・RL縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内面横位磨き。	有尾式
第80図 PL.160	185	縄文土器 深鉢	C74号土坑 胴部片					D 3	LR・RL縄文を横位・交互に多段施文して羽状の意匠を構成か。内外面共にやや被熱風化、内面一部剥離。	諸磯a式
第80図 PL.160	186	礫石器 凹石	C74号土坑 完形	長 幅	11.5 8.1	厚 重	4.3 640.6	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。表面の中央に浅い漏斗状の凹みが2カ所認められる。裏面の中央には敲打痕が集中する。	
第80図 PL.160	187	礫石器 磨石	C74号土坑 完形	長 幅	12 8.3	厚 重	4.7 684.3	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面の中央付近と裏面のほぼ全面に磨面が認められる。	
第81図 PL.160	188	縄文土器 深鉢	C37号土坑 完形	口 底	13.6 5.5	高	20.6	D 3	開端自縄自縛のRL縄文を横位・多段に施文。外面に煤状炭化物付着、内面やや粗い横位磨き。	諸磯a式
第81図 PL.160	189	縄文土器 深鉢	C68号土坑 胴部片					E 1	RL縄文を横位・多段に施文。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯b式
第81図 PL.160	190	縄文土器 深鉢	C72号土坑 口縁部片					C 3	RL縄文を横位・多段に施文。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯b式
第81図 PL.160	191	縄文土器 深鉢	C273号土坑 体部破片					粗:繊維・石英・チャート・白色粒/良好/橙色	横位無節Lが施される。内面平滑な撫で調整、煤付着。	前期中葉
第81図 PL.160	192	縄文土器 深鉢	C273号土坑 体部破片					粗:石英・輝石・白色粒・角安/良好/黒褐色	横位隆線以下斜位隆線が派生する。縦位無節Lが充填施文される。内面撫で調整。	中期末葉
第81図 PL.160	193	縄文土器 深鉢	D150号土坑 口縁～体部上半 1/4残存	口	35.6			粗:石英少・輝石・白色粒/良好/にぶい橙色	沈線で画された施文部と磨消部。施文部逆U字状意匠と楕円状区画文。磨消部に蕨手状懸垂文を配す。施文部縄文は縦位RL充填施文。内面は平滑な撫で調整。	中期後葉
第81図 PL.160	194	縄文土器 深鉢	D272号土坑 口縁部破片					粗:石英多・輝石・白色粒/良好/橙色	無文。口唇部凹凸あり。外面弱い研磨、内面弱い撫で調整。	後期初頭～前葉
第81図 PL.160	195	縄文土器 深鉢	C70号土坑 体部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/褐色	外面縦位RL。内面撚糸Rによる撚糸圧痕文。	早期後葉か？
第81図 PL.160	196	縄文土器 深鉢	C70号土坑 口縁部1/5	口	(23.5)			D 9	無文土器。外面被熱風化、内面横位磨き。	称名寺Ⅰ式併行
第81図 PL.160	197	縄文土器 深鉢	C70号土坑 口縁部1/5	口	(31)			F 3	逆U字状の沈線区画文を施し、外縁部にRL縄文を充填施文。内外面共に被熱風化。	称名寺Ⅰ式併行
第81図 PL.160	198	縄文土器 瓢形土器	C70号土坑 胴部1/3					E 3	微隆起帯により渦巻文や横位の橋状把手を施す。外面上半部・内全面に赤色塗彩。	称名寺Ⅰ式併行
第81図 PL.160	199	縄文土器 深鉢	C70号土坑 口縁部1/3	口	(37.5)			F 3	口縁部に横位の微隆起帯を施し、下位にLR縄文を縦位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面やや被熱風化・煤状炭化物付着。	称名寺Ⅰ式併行
第81図 PL.160	200	礫石器 磨石	C14号土坑 完形	長 幅	9.5 7.4	厚 重	5.6 575.1	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面のほぼ全面に磨面が認められる。左右両側面及び下側面にも磨面が認められる。	
第82図 PL.161	201	縄文土器 深鉢	C86・90号土坑 胴部片					G 1	微隆起線の区画文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共に被熱風化。	称名寺Ⅰ式併行
第82図 PL.161	202	縄文土器 深鉢	C86・90号土坑 胴部片					D 3	RL縄文を斜位に施文。	諸磯a式
第82図 PL.161	203	縄文土器 深鉢	C285号土坑 口縁～胴部上位 1/3	口	(35.5)			F 3	口縁部に横線文を施し、LR縄文を1段横位、以下に縦位施文。内外面共に被熱風化、外面口縁部に煤状炭化物付着。	加曽利E 4式
第82図 PL.161	204	縄文土器 深鉢	C285号土坑 体部下半～底部 残存			底	7.6	粗:石英・輝石・角安・白色粒/良好/褐色	強く開く体部下半。縦位LRが覆う。下端及び底面は研磨。内面は平滑な撫で調整。	中期末葉
第82図 PL.161	205	礫石器 磨石	C2号土坑 完形	長 幅	14 11.1	厚 重	7.4 1836.6	粗粒輝石安山岩	球形状を呈す背面側礫面に摩耗痕が広がる。礫頂部は荒れて見える。ここが使用部となることも考えておきたいが、判然とせず詳細は不明。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第82図 PL.161	206	縄文土器 深鉢	C2号土坑 胴部片					A 5	0段多条のRL・LR縄文を横位・交互に施文。外面やや被熱風化、内面横位磨き。内外面共に被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着。	有尾式
第82図 PL.161	207	縄文土器 深鉢	C2号土坑 胴部片					D 6	微隆起線文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化。	加曽利E 4式
第82図 PL.161	208	縄文土器 深鉢	C2号土坑 胴部片					F 2	沈線区画文を施し、RL縄文を充填施文。外面煤状炭化物付着、内面やや被熱風化。	称名寺Ⅰ式併行
第82図 PL.161	209	剥片石器 石鏃	C2号土坑 4/5	長	-2.6	厚	0.4	珪質頁岩	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。両側辺は鋸歯状を呈する。茎部欠損。	
				幅	1.6	重	1.2			
第82図 PL.161	210	縄文土器 深鉢	D216号土坑 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/暗褐色	幅広の縦位沈線２条を配し地文にＬＲを施す。内面弱い撫で、器面凹凸顕著。	前期中葉
第82図 PL.161	211	縄文土器 深鉢	D216号土坑 体部下半～底部残存			底	8.0	粗:石英・チャート・白色粒/良好/にぶい黄橙色	体部下半は強く開き、無文。削り調整後撫でを加える。被熱痕跡著しく、内外面とも器面磨滅する。内面煤付着。	中期末葉～後期初頭
第82図 PL.161	212	剥片石器 磨製石斧	D239号土坑 ほぼ完形	長	17.8	厚	3.6	変玄武岩	使用時に破損したことで、裏面側に大きな剥離面が残る。頭部側に剥離痕が残ってしまっているが、残る部分は丁寧に全面研磨されている。乳房状を呈す。	
				幅	5.6	重	560.7			
第82図 PL.161	213	礫石器 凹石	D141号土坑 完形	長	9.5	厚	7.5	粗粒輝石安山岩	表裏面にそれぞれ凹みが１箇所認められる。表面のほぼ全面及び側面から裏面全体に磨面が認められる。円礫を利用していると考えられる。	
				幅	8.6	重	887.9			
第83図 PL.161	214	礫石器 石皿	D244号土坑 完形	長	24.8	厚	12.8	粗粒輝石安山岩	厚い板状礫を用いる。背面側平坦面に広く摩耗痕が広がる。摩耗範囲には同時にアバタ状の打痕も広がり、石皿様の機能を果したものと見られる。	
				幅	27.2	重	12000			
第83図 PL.161	215	礫石器 石皿	D245号土坑 完形	長	36.2	厚	9.5	粗粒輝石安山岩	厚い板状礫を用いる。背面側平坦面に広く摩耗痕が広がる。裏面側礫面には凹凸があり安定していないが、地面に据え置かれたのであろうか稜部が擦れる。	
				幅	26.4	重	13300			
第83図 PL.162	216	礫石器 磨石	D246号土坑 完形	長	6.5	厚	4.9	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗するほか、礫の小口部分や側縁に敲打痕がある。被熱してヒビ割れる。	
				幅	5.8	重	233.7			
第83図 PL.162	217	礫石器 磨石	D246号土坑 4/5	長	8.9	厚	(4.5)	粗粒輝石安山岩	表裏面とも著しい摩耗面が広がる。背面側右辺には煤が付着、表裏面とも礫面が爆ぜて剝れている。	
				幅	7	重	350.8			
第83図 PL.162	218	剥片石器 磨製石斧	D246号土坑 完形	長	8.6	厚	5.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗する。側縁に敲打痕があるほか、上端側にベンガラ状の付着物がある。	
				幅	7.2	重	439.2			
第83図 PL.162	219	礫石器 敲石	D246号土坑 完形	長	13.8	厚	5.2	粗粒輝石安山岩	小口部上端に敲打痕があるほか、小口部下端に敲打痕、摩耗痕が複合する。礫形状は角柱状を呈する。	
				幅	6.7	重	760.7			
第83図 PL.162	220	礫石器 石皿	D281号土坑 ほぼ完形	長	(31.6)	厚	10.8	粗粒輝石安山岩	背面側礫面が弱く窪んでおり、この部分に摩耗痕が広がる。礫の側面は被熱して剥落している。	
				幅	27.1	重	13600			

縄文時代ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第84図 PL.162	1	縄文土器 深鉢	C329号ピット 胴部片					A16	箆状具の細沈線文と円形竹管文を施す。内外面共に微弱な横位条痕文。外面煤状炭化物付着、内面被熱風化。	鵜ヶ島台式

縄文時代焼土

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第85図 PL.162	1	縄文土器 深鉢	C2号焼土 胴部片					D 3	ＲＬ縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	諸磯ａ式
第85図 PL.162	2	縄文土器 深鉢	C3号焼土 胴部片					E 3	沈線懸垂文を施し、ＬＲ縄文を充填的に縦位施文。内面被熱風化・剥離。	加曽利E 4式

縄文時代集石

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第86図 PL.162	1	縄文土器 深鉢	C2号集石 胴部片					A 1	LR縄文を横位施文。外面被熱風化、内面横位磨き。	有尾式
第83図 PL.162	2	縄文土器 深鉢	C2号集石 胴部片					A 1	0段多条のRL・LR縄文を横位・交互に施文して菱形意匠を構成か。外面被熱風化、内面縦位磨き。	有尾式
第83図 PL.162	3	礫石器 磨石	C2号集石 完形	長	11.7	厚	4.6	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面の下方右側に磨面が認められる。	
				幅	8.2	重	666.9			
第83図 PL.162	4	礫石器 磨石	C2号集石 完形	長	9.8	厚	5.4	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面のほぼ全面に磨面が認められる。側面部に敲打痕が散在する。表面の右側から裏面全体にかけて黒変しており受熱の可能性がある。	
				幅	8	重	649.6			

縄文時代配石

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第88図 PL.162	1	礫石器 石皿	D1号集石 完形	長	41.6	厚	9.2	粗粒輝石安山岩	背面側平坦面が広く摩耗するほか、部分的に敲打痕がある。これにも増して裏面側左辺が摩耗しており、両面とも石皿としての機能を果したものと思われる。	
				幅	26	重	16750			
第88図 PL.163	2	礫石器 石皿	D4号配石 2/3	長	(31.4)	厚	11.9	粗粒輝石安山岩	背面側礫面は弱く窪み、摩耗痕が広がる。大形の楕円礫で下半部を大きく欠損する。欠損面の稜は風化気味で、破損後も使われ続けたものと見られる。	
				幅	30.2	重	16700			
第88図 PL.163	3	礫石器 石皿	D5号配石 完形	長	28.2	厚	7.3	粗粒輝石安山岩	背面側平坦面に摩耗痕が広がる。このほか、裏面側凸部が擦れ、据え置かれたことが分かる。背面側は赤化して大きく剥落、背面側が強く被熱する。	
				幅	23.2	重	6475			

D区風倒木

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第89図 PL.162	1	剥片石器 スクレイパー	フク土 ほぼ完形	長 幅	6 3.1	厚 重	1.5 24.3	黒色頁岩	幅広剥片を用いる。上端の打面側も加工されているが、凹刃状に加工した下端側が刃部になる。	

縄文時代遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第90図 PL.163	1	縄文土器 深鉢	A区 胴部片					D 3	RL縄文を横位施文。内面横位磨き。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第90図 PL.163	2	縄文土器 深鉢	A区 口縁部片					C 3	波状口縁。RL縄文を横位・多段に施文。内面やや被熱風化。	諸磯a式
第90図 PL.163	3	縄文土器 深鉢	A区 胴部片					F 1	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の集合平行沈線文を密集させて横位に施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯b式
第90図 PL.163	4	縄文土器 深鉢	A区 胴部片					F1	RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の集合平行沈線文を横位に施す。内面丁寧な横位磨き。	諸磯b式
第90図 PL.163	5	縄文土器 深鉢	A区 口縁部片					D 7	波状口縁。半截竹管状具の集合平行沈線文を施文し、波頂部下に耳状貼付文を施す。内外面共にやや被熱風化。	諸磯c式
第90図 PL.163	6	縄文土器 深鉢	A区 胴部片					C 3	半截竹管状具の縦位集合平行沈線文や横位刺突文を施す。内面横位磨き。	諸磯c式
第90図 PL.163	7	縄文土器 深鉢	A区 胴部片					D 1	半截竹管状具の集合平行沈線文を縦位施文。内面煤状炭化物付着。	諸磯c式
第90図 PL.163	8	縄文土器 深鉢	A区 胴部片					D 9	RL縄文を縦位施文し、隆線の横線文や蛇行懸垂文を施す。内外面共にやや被熱風化。	加曽利E 1式
第90図 PL.163	9	縄文土器 深鉢	A区 胴部片					D 2	RL縄文を縦位施文し、沈線懸垂文や曲線文を施す。内面一部に煤状炭化物付着。	加曽利E 2式
第90図 PL.163	10	縄文土器 深鉢	A区 胴部片					I 2	やや深い単沈線文を施す。内面横位磨き。	称名寺Ⅱ式
第90図 PL.163	11	縄文土器 深鉢	A区 口縁部1/4	口	(16.0)			E 1	波状口縁。く字状に強く内折する口縁に単沈線文を施す。内面横位磨き。	堀之内1式
第90図 PL.163	12	縄文土器 深鉢	A区 口縁部片					D 5	口縁内面に横位沈線文を施す。内外面共に丁寧な横位磨き。	堀之内2式
第90図 PL.163	13	剥片石器 磨製石斧	A区 1/3	長 幅	(6.4) (4.0)	厚 重	(2.3) 84.8	変質蛇紋岩	全体的に丁寧に研磨整形されておりわずかに光沢がある。	
第90図 PL.163	14	縄文土器 深鉢	B区 胴部片					A 9	粗大な楕円押型文を横位施文。内面に凹線状の幅広沈線文を斜位に施す。内外面共にやや被熱風化。	押型文
第90図 PL.163	15	縄文土器 深鉢	B区 胴部片					E 3	RL縄文を横位施文し、上位に半截竹管状具の横位連続爪形文を施す。内外面共にやや被熱風化・一部被熱剥離。	諸磯a式
第90図 PL.163	16	縄文土器 深鉢	B区 胴部片					D 1	RL縄文を横位施文。内外面共に被熱風化。	諸磯a式
第90図 PL.163	17	縄文土器 深鉢	B区 胴部片					E 4	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第90図 PL.163	18	縄文土器 深鉢	B区 胴部片					D 8	やや深い単沈線文を施す。内外面共に被熱風化。	称名寺Ⅱ式
第91図 PL.163	19	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					H 1	R絡条体を斜位に施文。内外面共にやや被熱風化。	夏島式？
第91図 PL.163	20	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 2	口唇部の内外端に刻み目。格子状沈線区画文の交点・区画内に円形竹管文や押引状結節沈線文を施す。内外面共に横位条痕文。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.163	21	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 5	く字状に強く屈折する。竹管状具の押引状結節沈線文を縦位に施す。外面横位条痕文、内面被熱風化・剥離。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.163	22	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A14	口唇部外端に刻み目を施す。口縁部に角棒状具の押引状結節沈線文や竹管状具の沈線文を施文。内外面共に微弱な条痕文。内面やや被熱風化。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.163	23	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A10	口唇部上面に刻み目。竹管状具の沈線文や押引状結節沈線文を施す。内外面共に横位条痕文。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.163	24	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 7	小波状口縁。襷状沈線区画文の交点・区画内に円形竹管文や押引状結節沈線文を施す。内外面共に微弱な横位条痕文、外面一部に煤状炭化物付着。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.163	25	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 4	波状口縁。口唇部の内・外端に刻み目を施文。口縁部に箆状具の沈線文を施し、その区画内や交点に竹管状具の押引状結節沈線文や円形刺突文を施文。内外面共に微弱な横位条痕文。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.163	26	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 4	箆状具の襷状区画文内や交点に押引状結節沈線文と円形竹管文を施す。内外面に横位条痕文、やや被熱風化。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.163	27	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 5	口唇部外端に刻み目を施す。口縁部に竹管状具の押引状結節沈線文を縦位施文。内面横位条痕文、やや被熱風化。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.163	28	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 2	口唇部の内・外端に刻み目を施文。口縁部に円形竹管状具の刺突文帯と縦位沈線文。内外面共に条痕文は微弱で、やや被熱風化。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.163	29	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 4	胴部上位がく字状に強く屈折。幅広凹線文の側線に沿って竹管状具の押引状結節沈線文を施す。内外面共に横位の条痕文。外面一部に煤状炭化物付着、内面やや被熱風化。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.164	30	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A16	く字状に強く屈折。箆状具の細沈線文や円形竹管文・刺突文を施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面被熱風化。	鵜ヶ島台式

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第91図 PL.164	31	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 4	外削ぎ状の口唇外端に刻み目を施す。口縁部から括れ部にかけて箆状具の細沈線文で格子状意匠を構成。内外面共に横位の条痕文、内面被熱風化。32と同一個体。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.164	32	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 4	胴部上位がく字状に強く屈折。口縁部から括れ部にかけて箆状具の細沈線文で格子状意匠を構成。内外面共に横位の条痕文、内面被熱風化。31と同一個体。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.164	33	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A10	幅広半截竹管状具の連続爪形文で菱形意匠を構成か。内面横位磨き。	有尾式
第91図 PL.164	34	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 5	RL縄文を横位・多段に施文。内面横位条痕文。内外面共にやや被熱風化。	早期末葉
第91図 PL.164	35	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A16	竹管状具の爪形状刺突文や円形竹管文を施す。外面煤状炭化物付着、内面被熱風化。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.164	36	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 1	円形竹管文や沈線文を施す。内面横位条痕文。内外面共にやや被熱風化。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.164	37	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A14	縦位の微隆起線文に重ねて円形竹管文を施す。内面横位条痕文、やや被熱風化。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.164	38	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 7	内外面共に微弱な条痕文を横位施文。内面被熱風化。	鵜ヶ島台式
第91図 PL.164	39	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 2	内外面に条痕文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	早期後半
第91図 PL.164	40	縄文土器 深鉢	C区 底部片					A 7	外面横・斜位の条痕文、内面被熱風化。	早期後半
第91図	41	縄文土器 深鉢	C区 底部1/3	底	(9.0)			A 4	外面横・斜位の条痕文、煤状炭化物付着。内面被熱風化、煤状炭化物付着。	早期後半
第91図 PL.164	42	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					D 1	無文土器。内外面共に横位磨き。	早期後半
第91図 PL.164	43	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 7	条痕文を縦位施文。内面被熱風化。	早期後半
第92図 PL.164	44	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 6	内外面共に粗雑な条痕文を縦位施文。	早期後半
第92図 PL.164	45	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A10	内外面共に横位の条痕文を施し、被熱風化・一部剥離。	早期末葉
第92図 PL.164	46	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 7	口縁部に横位の隆帯を付し、口唇部上面やその下位に絡条体圧痕文を施す。内外面共に被熱風化。	早期末葉
第92図 PL.164	47	縄文土器 深鉢	C区 底部片					A 1	R・L原体の側面圧痕を施す。内外面共にやや被熱風化。	二ッ木式
第92図 PL.164	48	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A15	半截竹管状具の連続爪形文を施す細隆線や円形竹管文、3～4本単位の短沈線文、R・L原体の側面圧痕文等を施文。内面横位磨き。	二ッ木式
第92図 PL.164	49	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A15	原体長の短い0段多条RL・LR縄文を横位・交互に多段施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	二ッ木式
第92図 PL.164	50	縄文土器 深鉢	C区 胴部上位1/3					A 5	0段多条のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して、部分的に菱形意匠を構成。内外面共にやや被熱風化、内面煤状炭化物付着。	関山Ⅰ式
第92図 PL.164	51	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 7	双頭状の波状口縁。梯子状沈線文により菱形状の意匠を構成し、円形貼付文を施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	関山Ⅰ式
第92図 PL.164	52	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	0段多条の環付きRL縄文を横位・多段に施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	関山Ⅰ式
第92図 PL.164	53	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 7	R・L原体の網代状圧痕文または絡条体回転文を横位に施す。内外面共にやや被熱風化。	関山Ⅰ式
第92図 PL.164	54	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A10	r縄の網目状絡条体を横位施文。外面やや被熱風化、内面横位磨き。	関山Ⅰ式
第92図 PL.164	55	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 7	半截竹管状具の重ね引き並行沈線文で鋸歯状の意匠を構成。内外面共にやや被熱風化。	関山Ⅱ式
第92図 PL.164	56	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	半截竹管状具により菱形状の単沈線文や連続爪形文を施す。外面煤状炭化物付着、内面丁寧な横位磨き。	関山Ⅱ式
第92図 PL.164	57	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	環付きRL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	関山Ⅱ式
第92図 PL.164	58	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 7	1段縄丸組紐を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	関山Ⅱ式
第92図 PL.164	59	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 1	箆状具のやや粗大なコンパス文を横位施文。内外面共にやや被熱風化。	関山Ⅱ式
第92図 PL.164	60	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 2	原体長のやや短い0段多条RL・LR縄文横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化。	関山Ⅱ式
第92図 PL.164	61	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 1	0段多条の環付きRL縄文を横位・多段に施文。内面横位磨き。	関山Ⅱ式
第92図 PL.164	62	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 3	0段多条の環付きLR縄文を横位・多段に施文し、半截竹管状具の沈線三角文を施す。内外面共に被熱風化。	関山Ⅱ式
第92図 PL.164	63	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 7	1段縄丸組紐を横位施文し、半截竹管状具の鋸歯文や並行沈線文を施す。内外面共に被熱風化・煤状炭化物付着。	関山Ⅱ式
第92図 PL.165	64	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 8	LR縄文を横位施文し、半截竹管状具の横位連続爪形文や縦位沈線文を施す。外面やや被熱風化、内面丁寧な横位磨き。	黒浜式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第92図 PL.165	65	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 7	半截竹管状具のコンパス文を２段に施す。LR縄文を横位施文。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	黒浜式
第92図 PL.165	66	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	半截竹管状具の横位コンパス文を複数条施す。内面横位磨き。	黒浜式
第92図 PL.165	67	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 7	Ｌ縄文を横位・多段に施文。内外面共に被熱風化、外面煤状炭化物付着。	黒浜式
第92図 PL.165	68	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	緩やかな波頂部に小突起を付す。RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成か。外面やや被熱風化、内面横位磨き。	黒浜式
第92図 PL.165	69	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して羽状意匠を構成。外面一部に煤状炭化物付着、内面やや被熱風化・一部剥離。	黒浜式
第92図 PL.165	70	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 6	半截竹管状具の横帯文を施す。内外面共に被熱風化。	黒浜式
第92図 PL.165	71	縄文土器 深鉢	C区 口縁～胴部1/3	口	(20.0)			A 2	４単位の波状口縁か。RL縄文を横位・多段に施文。外面胴部上位煤状炭化物付着、内面やや被熱風化・一部剥離。	黒浜式
第93図 PL.165	72	縄文土器 深鉢	C区 頸部片					A10	幅広半截竹管状具の連続爪形文で菱形意匠を構成か。内面横位磨き。73と同一個体。	有尾式
第93図 PL.165	73	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A10	幅広半截竹管状具の連続爪形文で菱形意匠を構成か。内面横位磨き。72と同一個体。	有尾式
第93図 PL.165	74	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	半截竹管状具の連続爪形文により菱形意匠を構成か。外面被熱風化、内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	75	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 6	波状口縁。半截竹管状具の連続爪形文を複数条施す。内面丁寧な横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	76	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 2	幅広の半截竹管状具の連続爪形文を横位に施す。内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	77	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	波状口縁。半截竹管状具の連続爪形文を複数条施す。外面やや被熱風化、内面やや粗い横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	78	縄文土器 深鉢	C区 頸部片					F 1	半截竹管状具の連続爪形文を横位施文。内外面共にやや被熱風化、内面一部被熱剥離。	有尾式
第93図 PL.165	79	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 1	半截竹管状具の連続爪形文により菱形意匠を構成か。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第93図 PL.165	80	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	半截竹管状具の平行沈線文を複数条施す。内外面共に被熱風化。	有尾式
第93図 PL.165	81	縄文土器 深鉢	C区 頸部片					A 2	RL縄文を横位施文し、幅広・凹線状の並行沈線文で菱形意匠を構成か。内面やや粗い横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	82	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	Ｌ・Ｒ縄文を横位・交互に施文して菱形意匠を構成か。外面から内面への径５㎜の補修孔。内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	83	縄文土器 深鉢	C区 胴部1/4					A 2	括れ部に半截竹管状具の平行沈線文を横位に施文。胴部は０段多条のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化・一部剥離、外面胴部上位に煤状炭化物付着。	有尾式
第93図 PL.165	84	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	半截竹管状具の平行沈線文で菱形意匠を構成か。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	85	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 2	波状口縁。Ｒ・Ｌ縄文を横位・交互に施文し、半截竹管状具の並行沈線文を横位に施す。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第93図 PL.165	86	縄文土器 深鉢	C区 胴部1/4	底	(9.0)			A 3	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	87	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 5	LR縄文を横位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	88	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 4	Ｌ縄文を横位施文。内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	89	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 5	０段多条のRL・LR縄文を横位・交互に施文。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第93図 PL.165	90	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 1	０段多条のLR縄文を横位施文。外面被熱風化・一部剥離、内面横煤状炭化物付着。	有尾式
第93図	91	縄文土器 深鉢	C区 底部1/3	底	(9.8)			A15	０段多条のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共にやや被熱風化。	有尾式
第93図 PL.165	92	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 1	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して羽状意匠を構成。外面被熱風化、内面やや粗い横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	93	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 2	RL縄文を横位施文。内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	94	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A16	０段多条RL縄文を横位施文。内外面共に被熱風化。	有尾式
第93図 PL.165	95	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 1	RL縄文を横位施文。内面縦位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	96	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 7	LR縄文を横位施文。内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	97	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 2	RL縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化、内面縦位磨き。	有尾式
第93図 PL.165	98	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A14	異条のRL縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着。	有尾式
第93図 PL.166	99	縄文土器 深鉢	C区 頸部～胴部1/4					A 2	０段多条のRL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成し、半截竹管状具の平行沈線文を施す。内面横位磨き。	有尾式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第93図 PL.166	100	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					A 2	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。内外面共に被熱風化。	有尾式
第93図 PL.166	101	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 7	RL縄文を横位施文。内外面共に被熱風化、外面一部剥離、内面一部に煤状炭化物付着。	有尾式
第93図 PL.166	102	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A10	0段多条のRL・LR縄文を横位・交互に施文。外面やや被熱風化、内面横位磨き。	有尾式
第93図 PL.166	103	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 1	0段多条RL縄文を横位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	有尾式
第94図 PL.166	104	縄文土器 深鉢	C区 口縁片	口	(47)			A 6	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。外面口縁部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	有尾式
第94図	105	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 6	RL・LR縄文を横位・交互に多段施文して菱形意匠を構成。外面口縁部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	有尾式
第94図 PL.166	106	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					F 2	波状口縁。縦位の円形竹管文や半截竹管状具の横位連続爪形文を施す。内外面共にやや被熱風化。	諸磯a式
第94図 PL.166	107	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					F 2	波状口縁。RL縄文を横位施文し、半截竹管状具の連続爪形文を横位に施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯a式
第94図 PL.166	108	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					F 2	半截竹管状具の肋骨文と同具の先端部回転による縦位刺突文を施す。内外面共にやや被熱風化。	諸磯a式
第94図 PL.166	109	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					A 8	半截竹管状具の横位平行沈線文を複数本施し、下位にLR縄文を横位施文。内面横位磨き。	諸磯a式
第94図 PL.166	110	縄文土器 深鉢	C区 口縁部1/4	口	(8.0)			F 2	ミニチュアの深鉢。LR縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや風化・剥離。	諸磯a式
第94図 PL.166	111	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					F 2	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化、一部に煤状炭化物付着。	諸磯a式
第94図 PL.166	112	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					D 4	RL縄文を横位・多段に施文。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯a式
第94図 PL.166	113	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					E 3	RL縄文を横位・多段に施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯a式
第94図 PL.166	114	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 2	RL縄文を横位施文。内面縦位磨き。	諸磯a式
第94図 PL.166	115	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 8	RL縄文を横位・多段に施文。内面被熱風化。	諸磯a式
第94図 PL.166	116	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					C 2	RL縄文を横位・多段に施文。内面丁寧な横位磨き。	諸磯a式
第94図 PL.166	117	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					I 2	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化・一部剥離、内面煤状炭化物付着。	諸磯a式
第94図 PL.166	118	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 3	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化、内面一部に煤状炭化物付着。	諸磯a式
第94図 PL.166	119	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 6	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化、内面被熱剥離。	諸磯a式
第94図 PL.166	120	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					F 2	LR縄文を横位施文。内外面共に被熱風化。	諸磯a式
第94図 PL.166	121	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 3	RL縄文を横位施文。内面横位磨き。	諸磯a式
第94図 PL.166	122	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					D 6	波状口縁。RL縄文を横位・多段に施文。外面煤状炭化物付着、内面横位磨き。	諸磯b式
第94図 PL.166	123	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					F 3	口唇部～口縁部に浮線文を施す。内面被熱風化・剥離。	諸磯b式
第94図 PL.166	124	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					F 2	RL縄文を横位施文し、横位浮線文を施す。内面やや被熱風化、一部剥離。	諸磯b式
第94図 PL.166	125	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					E 3	低平な浮線文を横・斜位に施す。内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第94図 PL.166	126	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					F 3	RL縄文を横位・多段に施文し、やや低平な浮線文を施す。	諸磯b式
第94図 PL.166	127	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					C 3	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共にやや被熱風化。	諸磯b式
第94図 PL.166	128	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 6	RL縄文を横位施文。内外面共にやや被熱風化、外面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第94図 PL.166	129	縄文土器 深鉢	C区 底部1/4	底	(8.6)			C 3	RL縄文を横位施文。内面横位磨き。	諸磯a式
第94図 PL.166	130	縄文土器 深鉢	C区 胴部下位～底部1/3	底	7.0			F 3	RL縄文を横位・多段に施文。内外面共に被熱風化、一部剥離。	諸磯a式
第94図 PL.166	131	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					H 2	口縁部に横位の微隆起帯を施し、下位にLR縄文を充填的に施文。内外面共にやや被熱風化。	加曽利E 4式
第94図 PL.166	132	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					D 3	波状口縁。微隆起帯により横S字文を施し、外縁にLR縄文を充填的に施文。内面煤状炭化物付着。	加曽利E 4式
第94図 PL.166	133	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					I 2	逆U字状の懸垂文を施し、L縄文を充填施文。内面やや被熱風化、一部剥離。	加曽利E 4式
第94図 PL.166	134	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					I 2	微隆起懸垂文を施し、LR縄文を充填的に縦位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	加曽利E 4式
第94図 PL.166	135	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 8	LR縄文を斜位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面被熱風化。	中期後半

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第95図 PL.167	136	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					I 2	口縁波頂部の外面から内面にかけて捻転した８字状貼付文を施し、LR縄文を充填施文。内面横位磨き。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	137	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					F 3	口縁波頂部下にＳ字状隆帯文を付し、Ｌ縄文を充填施文。口縁部の横位隆線文に沿って円形竹管文を施す。内面横位磨き。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	138	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					E 3	胴部に逆Ｕ字状の微隆起線文を施し、LR縄文を充填的に縦位施文。内外面共にやや被熱風化、外面煤状炭化物付着。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	139	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 9	逆Ｕ字状の沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	140	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					F 1	やや深い渦巻状沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面横位磨き。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	141	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					F 3	やや深いＳ字または８字状沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面横位磨き、一部被熱剥離。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	142	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 7	横位沈線文を施し、RL縄文を充填施文。内面縦位磨き。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	143	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					E 3	沈線区画文内にＬ縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	144	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 6	沈線区画文外縁にRL縄文を充填的に施文。内外面共にやや被熱風化。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	145	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					I 3	沈線区画文を施し、LR縄文を充填施文。内面丁寧な縦位磨き。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	146	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					D 3	沈線区画文内にLR縄文を充填施文。内面一部に煤状炭化物付着。	称名寺Ⅰ式併行
第95図 PL.167	147	縄文土器 深鉢	C区 胴部片					F 2	蛇行懸垂文を施し、LR縄文を充填的に横位施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位磨き。	堀之内１式
第95図 PL.167	148	縄文土器 深鉢	C区 口縁部片					D 1	口唇部の上面に刻み目と内面直下に横線文を施す。口縁には複数本の棒状具による横帯文を施し、やや細密なLR縄文を充填的に施文。内外面共に丁寧な横位磨き。	堀之内２式
第95図 PL.167	149	縄文土器 土器片加工円板	C区 完形	長 厚	3.5 0.85	重	13.0	D 1	深鉢の胴部破片を円形状に打割整形し、全周に摩耗痕を持つ。	後期前半
第95図 PL.167	150	剥片石器 石鏃	C区 ほぼ完形	長 幅	(1.1) 1.2	厚 重	0.2 0.1	珪化凝灰岩	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。先端部欠損。	凹基無茎鏃
第95図 PL.167	151	剥片石器 石鏃	C区 4/5	長 幅	1.5 (1.3)	厚 重	0.3 0.3	黒曜石	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。長脚である。左脚部先端欠損。	凹基無茎鏃
第95図 PL.167	152	剥片石器 石鏃	C区 完形	長 幅	1.8 1.2	厚 重	0.3 0.6	玉髄	表裏面共に押圧剥離痕が認められ丁寧に加工整形する。	凹基無茎鏃
第95図 PL.167	153	剥片石器 石錐(ドリル)	C区 4/5	長 幅	(3.0) 1.7	厚 重	0.6 2.2	赤碧玉	両面加工によって尖頭部を作出する。先端欠損。	
第95図 PL.167	154	剥片石器 石匙	C区 完形	長 幅	2.7 4.3	厚 重	0.9 7.8	黒色頁岩	表裏面に素材剥片の剥離面を大きく残し、横長剥片を素材とする。つまみ部は両面加工であるが、機能部と推定される下部末端は片面加工が主体的である。	
第95図 PL.167	155	剥片石器 楔形石器	C区 完形	長 幅	4.3 2.2	厚 重	1.9 16.8	黒色頁岩	上下端部に両極加撃による剥離痕があり、側面部には両極加撃により生じた剪断面が認められる。	
第95図 PL.167	156	剥片石器 スクレイパー	C区 ほぼ完形	長 幅	3.6 (9.4)	厚 重	1.5 45.5	黒色頁岩	表面の中央に素材剥片の主要剥離面を残す。横長剥片を素材とする。刃部と想定される下方末端部の二次加工は片面加工である。	
第95図 PL.167	157	石製品 石製品	C区 完形	長 幅	2.7 1.5	厚 重	0.5 3.8	変質蛇紋岩	全体的に丁寧に研磨整形されており光沢がある。	
第95図 PL.167	158	剥片石器 敲石	C区 完形	長 幅	15.3 4.7	厚 重	2.6 306.4	変玄武岩	全体的に研磨整形されており磨製石斧の転用品と考えられる。下部先端方向からの剥離面が数多く認められ、先端部にはつぶれが認められる。	
第95図 PL.167	159	礫石器 磨石	C区 完形	長 幅	9.8 8.3	厚 重	4.6 546.7	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。表裏面の中央付近に敲打痕が集中する。	
第95図 PL.167	160	礫石器 磨石	C区 完形	長 幅	10.5 9.7	厚 重	5.1 857.2	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。表面の中央に敲打痕が認められる。	
第96図 PL.167	161	礫石器 石皿	C区 4/5	長 幅	20.5 19.4	厚 重	6.8 8300	粗粒輝石安山岩	亜円礫を利用する。表面の中央付近に非常に滑らかな部分が認められる。非常に滑らかな部分は中央部がわずかに窪んだ形態である。	
第96図 PL.167	162	礫石器 石皿	C区 完形	長 幅	22.4 17.5	厚 重	5.3 3082.5	粗粒輝石安山岩	裏面と側面は自然面であり扁平な円礫を利用する。機能部と推定される表面は中央が窪んでおり全体的に滑らかである。その中央から下方にかけて著しく滑らかな部分が認められる。	
第96図 PL.167	163	礫石器 石皿	C区 1/2	長 幅	(22.0) (16.6)	厚 重	6.5 2869.4	粗粒輝石安山岩	裏面と側面は自然面であり扁平な円礫を利用する。表面の中央には薄い剥離痕が累積し敲打の痕跡と考えられる。表面の下方には滑らかな部分が認められるが敲打痕の方が新しい。	
第96図 PL.168	164	礫石器 石皿	C区 完形	長 幅	30.3 22.5	厚 重	8.5 3978.2	粗粒輝石安山岩	亜円礫を利用する。表面のほぼ全面及び右側面の中央付近に滑らかな部分が認められる。	
第96図 PL.168	165	礫石器 多孔石	C区 不明	長 幅	13.7 9.1	厚 重	3.9 420.3	粗粒輝石安山岩	表面、左側面、上側面には自然面が多く残り亜角礫を利用する。表面の中央に漏斗状の孔が４カ所認められる。裏面は剥離面である。孔が表面の中央に集中することから、この形態で完形の可能性がある。	

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第96図 PL.168	166	礫石器 石皿	C区 完形	長 幅	53.6 46.4	厚 重	18.4 52340	粗粒輝石安山岩	右側面から上側面にかけては風化度合いが低く打割面と考えられる。裏面全体は風化が進行しており自然面と考えられる。亜角礫を利用する。表面は皿状の形態であり全体的に滑らかである。部分的に非常に滑らかな箇所が認められる。	
第96図 PL.168	167	剥片石器 玦状耳飾	C区 1/2	長 幅	(2.7) (1.3)	厚 重	0.7 3.5	葉ろう石	全体的に丁寧に研磨整形されておりわずかに光沢がある。	
第97図 PL.168	168	縄文土器 深鉢	D2竪 口縁部破片					粗:繊維・白色粒/良好/にぶい黄橙色	横位条痕を地文に、絡条体圧痕を加える。器面凹凸顕著。	早期後葉
第97図 PL.168	169	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					粗:繊維・石英・白色粒/良好/橙色	内外面とも斜位条痕を施す。	早期後葉
第97図 PL.168	170	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					細:繊維・石英・片岩・白色粒/良好/にぶい橙色	内外面とも斜位条痕を施す	早期後葉
第97図 PL.168	171	縄文土器 深鉢	D区 口頸部破片					粗:繊維・輝石・白色粒/良好/明赤褐色	口縁部肥厚し絡状体圧痕を縦位に施す。内面横位条痕。	早期後葉
第97図 PL.168	172	縄文土器 深鉢	D区P-Ⅲ-17Ⅶ 体部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい橙色	内外面とも横位条痕を施す。	早期後葉
第97図 PL.168	173	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					細:繊維・石英・片岩・白色粒/良好/にぶい橙色	外面斜位条痕施文後撫でを加える。内面斜位条痕を施す。	早期後葉
第97図 PL.168	174	縄文土器 深鉢	D区L8 3面 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/暗褐色	撚糸ＬとＲによる矢羽状の撚糸圧痕文を横位に配し、刺切文も横位矢羽状に連続する。下位は幅狭のＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面研磨を施す。	前期初頭
第97図 PL.168	175	縄文土器 深鉢	D1方墓 口縁部破片					細:繊維・石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	波状縁波頂部が小環状突起。刻みを付す隆線が口唇部及び波頂部に付され小菱形文を配す。撚糸ＬとＲによる側面圧痕と刺切文が施される。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第97図 PL.168	176	縄文土器 深鉢	D区L4 2面 口縁部破片					細:繊維・白色粒/良好/にぶい褐色	口唇部に突起を付す。撚糸ＬとＲによる矢羽状の撚糸圧痕文と刺切文を施す。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第97図 PL.168	177	縄文土器 深鉢	D区L2 3面 体部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/にぶい褐色	撚糸ＬとＲによる矢羽状の撚糸圧痕文と刺切文を施す。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第97図 PL.168	178	縄文土器 深鉢	D区K6 3面 体部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/明赤褐色	撚糸ＬとＲによる矢羽状の撚糸圧痕文による蕨手状意匠と刺切文を施す。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第97図 PL.168	179	縄文土器 深鉢	D区M-5 3面 体部上半破片					細:繊維・白色粒/良好/にぶい黄橙色	刻みを付す横位隆線３条を設け、隆線間に撚糸ＬとＲの側面圧痕を施す。体部は原体幅の短いＬＲを横位施文する。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第97図 PL.168	180	縄文土器 深鉢	D区L8 3面 体部破片					細:繊維・石英・片岩・白色粒/良好/にぶい褐色	撚糸ＬとＲによる矢羽状の撚糸圧痕文を横位に配し、以下は幅狭ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面研磨を施す。	前期初頭
第97図 PL.168	181	縄文土器 深鉢	D1方墓 体部破片					細:繊維・白色粒/良好/にぶい褐色	幅狭の０段多条ＬＲとＲＬによる横位羽状状文構成。内面は平滑な撫で調整。	前期初頭
第97図 PL.168	182	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/にぶい橙色	横位結節縄文ＬＲを施す。内面横位ヘラ撫で。	前期初頭？
第98図 PL.168	183	縄文土器 深鉢	D区K-8 3面 体部破片					細:繊維・石英・白色粒/良好/明褐色	体部下半か。原体幅の短い０段多条ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面弱い撫で調整。	前期初頭
第98図 PL.168	184	縄文土器 深鉢	D区K5 3面 体部破片					細:繊維・白色粒/良好/にぶい褐色	幅狭の０段多条ＬＲとＲＬによる横位羽状状文構成。内面研磨を加える。	前期初頭
第98図 PL.168	185	縄文土器 深鉢	D区K-5 3面 体部破片					細:繊維・輝石・白色粒/良好/明褐色	原体幅の短い０段多条ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整。	前期初頭
第98図 PL.168	186	縄文土器 深鉢	D区M4 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい褐色	撚糸Ｌ２条による側面圧痕文を多段に配す。内面研磨。	前期初頭
第98図 PL.168	187	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					粗:繊維:石英・白色粒/良好/にぶい黄橙色	円形貼付文が付され、刻みを加えた平行沈線文による山形文が配される。内面丁寧な研磨を施す。	前期前葉 関山Ⅰ式
第98図 PL.168	188	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					細:繊維・石英・チャート・白色粒/良好/明赤褐色	横位低隆線以下横位ＲＬ・ＬＲによる縦位羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整。	前期前葉
第98図 PL.168	189	縄文土器 深鉢	D区L5 3面 口縁部破片					粗:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい赤褐色	双波状口縁。口唇部に刻み。以下環付ＲＬ閉端部の横位多段施文。内面丁寧な研磨を加える。	前期前葉
第98図 PL.168	190	縄文土器 深鉢	D区L5 3面 口縁部破片					粗:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい赤褐色	双波状口縁。口唇部に刻み。以下環付ＲＬ閉端部の横位多段施文。内面丁寧な研磨を加える。	前期前葉
第98図 PL.168	191	縄文土器 深鉢	D区N-8 3面 体部破片					細:繊維・白色粒/良好/灰黄褐色	環付閉端部を横位・斜位多段に施文する。山形あるいは菱形状意匠か。以下はＲＬを施す。内面丁寧な研磨を加える。	前期前葉
第98図 PL.168	192	縄文土器 深鉢	D区 3面 体部破片					粗:繊維・石英・白色粒/良好/赤褐色	環付ＲＬ閉端部の横位多段施文。内面平滑な撫で調整。	前期前葉

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図 PL.168	193	縄文土器 深鉢	D区L4 体部中位破片					粗:繊維・石英少・白色粒/良好/にぶい赤褐色	外反部に縦位内皮沈線を配し、上位に直前段合撚(直前合２L)、下位にＲＬを施す。内面丁寧な横位研磨を加える。	前期前葉
第98図 PL.168	194	縄文土器 深鉢	D区K6　3面 体部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/やや軟質/橙色	４条一組の沈線によるコンパス文を横位に配し、下位は直前段合撚(直前合２R)を施す。内面は研磨を加える。	前期前葉
第98図 PL.169	195	縄文土器 深鉢	D区M-Ⅲ-16　黒 体部破片					粗:繊維・石英大/良好/にぶい橙色	薄手の器厚。原体閉端部の刺突状施文か。内面強い横位撫で調整。	前期前葉
第98図 PL.169	196	縄文土器 深鉢	D2円墓周 体部破片					細:繊維・輝石少・白色粒少/良好/暗褐色	無文ながら、斜格子状に低位隆線が認められる。あるいは繊維束を胎土中に意図的に配したか。内面横位研磨。	前期中葉
第98図 PL.169	197	縄文土器 深鉢	D区L-Ⅲ-18 口縁部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/黒褐色	口縁部外反し体部直立する。口縁部～頸部に横位撚糸Ｌ、体部は横位撚糸Ｒを施す。内面丁寧な横位研磨。	前期中葉
第98図 PL.169	198	縄文土器 深鉢	D区 口縁～体部上半 破片					細:繊維・石英少・白色粒少/良好/黒褐色	薄手の器厚で口唇部角頭状を呈す。０段多条ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成だが菱形状意匠は意図されていない。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第98図 PL.169	199	縄文土器 深鉢	D区K-5　3面 口縁部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/黒褐色	口縁部外反。ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。あるいは菱形状意匠か。内面弱い撫で調整、凹凸顕著。	前期中葉
第98図 PL.169	200	縄文土器 深鉢	D区2面 口縁部破片					細:繊維・白色粒/良好/明褐色	やや薄手の器厚を呈す。口唇部直下より横位コンパス文が多段に配される。内面丁寧な横位研磨を加える。	前期中葉
第98図 PL.169	201	縄文土器 深鉢	D区L-Ⅲ-18 体部破片					細:繊維・石英少・輝石少・チャート少・白色粒/良好/黄褐色	やや薄手の器厚を呈す。外反気味の体部中位か。幅狭の平行沈線による横位波状沈線文が多段に配される。やや乱雑な施文。内面丁寧な研磨を加える。	前期中葉
第98図 PL.169	202	縄文土器 深鉢	D区M19 体部破片					細:繊維・石英少・輝石・白色粒/良好/橙色	無節ＬとＲによる横位羽状縄文構成。内面弱い研磨、少量の煤付着。	前期中葉
第98図 PL.169	203	縄文土器 深鉢	D区L3　3面 体部破片					細:繊維・石英・片岩・白色粒/良好/明褐色	外反する体部中位。０段多条のＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。剥落箇所で追加整形施文の痕跡が看取される。内面研磨、煤付着。	前期中葉
第98図 PL.169	204	縄文土器 深鉢	D区K5　3面 体部破片					粗:繊維・輝石・白色粒/良好/黄灰色	縦位・横位平行沈線群を地文とし、内皮平行沈線による弧状意匠が重なる。内面丁寧な研磨。205と同一個体。	前期中葉
第98図 PL.169	205	縄文土器 深鉢	D区K5　3面 体部破片					粗:繊維・輝石・白色粒/良好/灰黄褐色	縦位・横位の平行沈線文を地文とし、内皮平行沈線によるコンパス文や弧線文を重ねる。内面丁寧な研磨。	前期中葉
第99図 PL.169	206	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					細:繊維・石英少・輝石少・白色粒/良好/にぶい黄褐色	ＬＲとＲＬによる横位羽状縄文構成。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	207	縄文土器 深鉢	D4方周 体部破片					細:繊維・白色粒/良好/明褐色	無節ＬとＲの横位施文による羽状縄文構成。内面横位研磨を加える。	前期中葉
第99図 PL.169	208	縄文土器 深鉢	D区10トレ 体部破片					細:繊維・白色粒/良好/灰黄褐色	外反する体部上半か。横位平行沈線を設け以下、無節Ｌを横位に施す。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	209	縄文土器 深鉢	D区4方周 体部破片					細:繊維・輝石・白色粒/良好/にぶい黄褐色	やや厚手の器厚を呈す。横位ＬＲと縦位ＬＲによる羽状縄文構成。内面研磨を施す。	前期中葉
第99図 PL.169	210	縄文土器 深鉢	D区P-Ⅲ-15Ⅵ 頸部破片					細:繊維・白色粒/良好/にぶい黄橙色	外反する頸部に横位隆線を設ける。隆線貼付後に横位ＬＲを施す。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	211	縄文土器 深鉢	D区L2　3面 体部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/明褐色	ＲＬか？原体不明。内面平滑な横位撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	212	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					細:繊維・褐色粒・白色粒/良好/にぶい黄橙色	体部上半か。幅狭の横位平行沈線以下ＬＲとＲＬによる羽状縄文構成。内面弱い撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	213	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					粗:繊維・石英・チャート・白色粒/良好/褐色	沈線による小波状文。直前段合撚(直前合２R)を施す。内面丁寧な研磨を加える。	前期中葉
第99図 PL.169	214	縄文土器 深鉢	D区K-6・L-2 底部1/2残存			底	7.8	細:繊維・白色粒/良好/赤褐色	強く開く体部下半。上げ底を呈す。体部は細縄文ＲＬを疎らに施文する。施文は底面にも及び。内面は平滑な撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	215	縄文土器 深鉢	D区M6　2面 体部破片					細:繊維・輝石・白色粒/良好/明褐色	無節ＬとＲによる横位羽状縄文構成。内面撫で調整。内外面とも器面磨滅する。	前期中葉
第99図 PL.169	216	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					細:繊維・石英少・褐色粒・白色粒/良好/にぶい褐色	無節Ｌを施す。内面へら状工具による撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	217	縄文土器 深鉢	D区 底部破片					粗:繊維・白色粒・小礫/良好/にぶい黄褐色	上げ底を呈す。底面は撫でを加える。体部文様は器面磨滅し判然としない。ＬＲ施文か。内面は横位撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	218	縄文土器 深鉢	D区 2面 口縁部破片					細:石英少・白色粒/良好/褐色	無繊維か。薄手の器厚で角頭状の口唇部を呈す。幅狭の平行沈線によるコンパス文が横位多段に施される。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	219	縄文土器 深鉢	D区2竪 口縁部破片					細:繊維・石英大・白色粒/良好/にぶい黄橙色	波頂部。刻みを加えた隆線を付し、円形貼付文を加える。内面平滑な撫で調整。	前期中葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第99図 PL.169	220	縄文土器 深鉢	D区M5　2面 体部破片					細:石英少・白色粒/良好/灰黄褐色	外反する体部。横位条線を地文に、幅狭の平行沈線によるコンパス文を横位多段に配し、連続爪形文も加える。内面横位撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	221	縄文土器 深鉢	D区2円墓 体部破片					細:繊維少・石英少・白色粒/良好/灰黄褐色	薄手の器厚を呈す。外反する頸部か。幅狭の平行沈線によるコンパス文が横位多段に施される。内面平滑な撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	222	縄文土器 深鉢	D区M4　2面 体部破片					細:繊維少・輝石・白色粒/良好/黄灰色	体部上半か。薄手の器厚を呈す。幅狭の平行沈線によるコンパス文が横位多段に施される。内面平滑な撫で調整。補修孔を見る。	前期中葉
第99図 PL.169	223	縄文土器 深鉢	D区L2　3面 体部破片					細:輝石・白色粒/良好/にぶい橙色	横位ＬＲが施される。内面は弱い撫で調整に止まり、凹凸が顕著。異質な感があり異系統土器の可能性もある。	前期後葉
第99図 PL.169	224	縄文土器 深鉢	D区4トレ 口縁部破片					細:繊維・輝石・白色粒/良好/灰褐色	外反する口縁部。小型の連続爪型文による小型の菱形状意匠を配す。内面研磨を施す。	前期中葉
第99図 PL.169	225	縄文土器 深鉢	D区M5 3面 口縁部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/褐色	内削状口唇部。幅狭の平行沈線群を口縁部配す。斜位沈線も見られあるいは菱形状意匠か。内面弱い研磨を施す。	前期中葉
第99図 PL.169	226	縄文土器 深鉢	D4方墓1主 口縁部破片					細:繊維・輝石少・白色粒/良好/黒褐色	波状縁。波頂部に小型の連続爪形文による大型菱形状意匠が配される。内面弱い撫で調整。	前期中葉
第99図 PL.169	227	縄文土器 深鉢	D区L2　3面 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/浅黄色	無繊維。横位沈線で口縁部を画し斜位短沈線を充填する。下位に横位小波状沈線と連続刺突文が沿い、連続刺突文による弧状意匠が配される。内面平滑な撫で調整。薄手で異系統土器であろう。	前期中葉
第99図 PL.169	228	縄文土器 深鉢	D区　2面 体部破片					細:繊維・石英少・白色粒/良好/黒褐色	撚糸Ｌ２条による網目状撚糸文。内面は丁寧な研磨。	前期中葉
第99図 PL.169	229	縄文土器 深鉢	D区10トレ 体部上半破片					細:輝石・白色粒/良好/明黄褐色	地文に横位ＲＬを施し、円形刺突文を斜位に配す。内面丁寧な横位研磨を加える。	前期後葉
第99図 PL.170	230	縄文土器 深鉢	D区K6　3面 口縁～体部上半1/3残存					細:石英粒・白色粒/良好/橙色	口縁部外反。横位ＬＲが覆う。内面丁寧な研磨を加える。	前期後葉
第99図 PL.170	231	縄文土器 深鉢	D区L8　3面 体部破片					細:石英・白色粒/良好/灰褐色	横位ＲＬが施される。内面横位削り調整後弱い研磨。	前期後葉
第99図 PL.170	232	縄文土器 深鉢	D区M9　3面 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい褐色	横位・斜位ＲＬが施される。内面丁寧な研磨を施す。	前期後葉
第99図 PL.170	233	縄文土器 深鉢	D区M5　3面 体部破片					細:石英・片岩粒・白色粒/良好/にぶい褐色	横位ＲＬが施される。内面平滑な撫で調整。	前期後葉
第99図 PL.170	234	縄文土器 深鉢	D区2竪 体部破片					細:輝石少・白色粒/良好/浅黄色	斜位ＬＲを施す。内面丁寧な研磨を加える。	前期後葉
第100図 PL.170	235	縄文土器 深鉢	D区L5　3面 体部上半破片					細:石英・輝石多・白色粒/良好/黄灰色	小型の横位連続爪形文を１条配し、以下縦位ＬＲを施す。内面研磨。	前期後葉
第100図 PL.170	236	縄文土器 深鉢	D区3方墓周 体部破片					粗:白色粒/良好/にぶい赤褐色	刻みを付す横位浮線文３条を多段に配す。浮線文間に円形刺突文を施す。内面弱い研磨を加える。	前期後葉
第100図 PL.170	237	縄文土器 深鉢	D区L4 体部破片					細:石英・白色粒/良好/にぶい黄橙色	矢羽状刻みを付す横位浮線文を多段に配す。地文は見られない。内面撫で調整。	前期後葉
第100図 PL.170	238	縄文土器 深鉢	D区L5　3面 体部上半破片					細:石英・輝石多・白色粒/良好/黄灰色	小型の横位連続爪形文を１条配し、以下縦位ＬＲを施す。内面研磨。	前期後葉
第100図 PL.170	239	縄文土器 深鉢	D区2面 体部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/橙色	結節縄文ＲＬが横位に施される。内面弱い撫で調整。	前期末葉
第100図 PL.170	240	縄文土器 深鉢	D区2面 体部破片					粗:輝石・白色粒/良好/赤褐色	結節縄文ＲＬが横位に施される。内面弱い研磨を加える。	前期末葉
第100図 PL.170	241	縄文土器 深鉢	D区3トレ 口縁部破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/灰黄褐色	沈線で画された施文部逆Ｕ字状意匠。縦位ＲＬを充填する。内面弱い撫で調整。243と同一個体か。	中期後葉
第100図 PL.170	242	縄文土器 深鉢	D区1D掘　上-2 口縁部破片					粗:輝石・褐色粒・白色粒/良好/灰黄色	口縁部横位隆線に小突起を設け下端より弧状隆線が派生する。渦巻状意匠か。施文部はＲＬ充填施文。内面平滑な撫で。	中期後葉
第100図 PL.170	243	縄文土器 深鉢	D区3トレ 体部破片					粗:石英・輝石・白色粒/良好/灰黄色	沈線で画された施文部と磨消部による懸垂文構成か。施文部は縦位ＲＬ充填施文。磨消部は蕨手状懸垂文が配される。内面弱い撫で調整。241と同一個体か。	中期後葉
第100図 PL.170	244	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					粗:輝石・白色粒/良好/橙色	沈線で画された磨消部逆Ｕ字状懸垂文か。施文部は無節Ｌ縦位充填施文。内面縦位研磨を加える。	中期後葉
第100図 PL.170	245	縄文土器 深鉢	D区　2面 口縁部破片					粗:輝石・白色粒・小礫/良好/にぶい橙色	幅広口縁部下に横位隆線を設け縦位隆線が懸垂する。施文部は横位ＬＲを充填する。内面研磨を加える。	中期末葉
第100図 PL.170	246	縄文土器 深鉢	体部上半破片					粗:石英・輝石/良好/橙色	横位隆線上位に凹線が沿い縦位ＬＲ、下位は横位・縦位ＬＲを施す。内面平滑な撫で。	中期末葉
第100図 PL.170	247	縄文土器 深鉢	3面 体部破片					粗:輝石・白色粒/良好/暗灰黄色	細沈線によるＶ字状区画か。おそらく体部上下２帯構成か。区画内は縦位ＬＲ充填施文。内面横位研磨。	中期末葉
第100図 PL.170	248	縄文土器 深鉢	D区M-Ⅲ-19 口縁部破片					細:輝石・褐色粒・白色粒/良好/淡黄色	口唇部肥厚。沈線で画された施文部と磨消部の弧状意匠が配される。施文部縄文はＬＲ充填施文。内面平滑な撫で。	後期初頭

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第100図 PL.170	249	縄文土器 深鉢	D区0-Ⅳ-1 Ⅶ 体部破片					細:輝石多・白色粒/良好/にぶい黄橙色	細沈線で画された施文部と磨消部の弧状意匠。施文部は無節Ｌ充填施文。内面平滑な撫で調整。	後期初頭
第100図 PL.170	250	縄文土器 深鉢	D区0-Ⅲ-17-Ⅶ 口縁部破片					粗:石英少・輝石少:白色粒/良好/橙色	大型深鉢で頸部で緩やかに屈曲する。口縁部は無文で屈曲部に横位沈線３条を設ける。内面は横位研磨を加える。	後期後葉
第100図 PL.170	251	縄文土器 深鉢	D区0-Ⅲ-16-2 体部破片							
第100図 PL.170	252	縄文土器 深鉢	D区 体部破片					粗:石英・褐色粒・角安/良好/明赤褐色	厚手の器厚。体部下半か。幅狭の平行沈線による縦位波状文や斜位沈線文が施される。乱雑な施文。内面研磨。	後期前葉
第100図 PL.170	253	縄文土器 深鉢	D区0-Ⅲ-16-1 体部破片					粗:石英少・輝石少・白色粒/良好/橙色/良好/橙色	縦位波状沈線や斜位沈線が配される懸垂文構成と思われる。内面は横位研磨を加える。250・251と同一個体か。	後期前葉
第100図 PL.170	254	縄文土器 深鉢	D区9トレ 体部破片							
第100図 PL.170	255	縄文土器 深鉢	D区12トレ 体部破片							
第100図 PL.170	256	縄文土器 深鉢	D区0-Ⅲ-16-Ⅶ 体部破片							
第100図 PL.170	257	縄文土器 土製円盤	D区2円墓 完形	径 径	2.4 2.5	厚 重	0.6 6.2	細:白色粒/良好/赤褐色	体部破片を利用する。小型で周縁を丁寧に磨る。文様はＲＬを施す。	前期後葉
第100図 PL.171	258	剥片石器 打製石斧	1/2	長 幅	(8.3) 4.4	厚 重	1.8 76.3	細粒輝石安山岩	被熱剥離して上端部を欠く。表裏面とも刃部は著しく摩耗、よく使い込まれている。右辺側刃部は再生され大きく変形している。	
第100図 PL.171	259	剥片石器 スクレイパー	D区 完形	長 幅	7.8 7.3	厚 重	1.9 49.3	黒色頁岩	刃部および左辺側の加工は丁寧だが、右辺側は粗く、側縁は鋸歯状を呈する。裏面右辺側剥離が大きく内側に入り込んでしまっている。剥離面の稜はシャープで、完成状態にはないように思う。	
第101図 PL.171	260	礫石器 凹石	D区 完形	長 幅	8.2 7.6	厚 重	3.8 309.5	粗粒輝石安山岩	背面側中央に漏斗状の窪み部１があるほか、裏面側にアバタ状の集合打痕、側縁に打痕がある。表裏面とも摩耗痕に覆われる。	
第101図 PL.171	261	礫石器 凹石	D区 完形	長 幅	9.5 6.9	厚 重	4.9 389.2	粗粒輝石安山岩	表面の中央に凹みが１箇所認められる。表裏面のほぼ中央及び下端部に敲打痕が集中する。円礫を利用していると考えられる。	
第101図 PL.171	262	礫石器 凹石	D区 完形	長 幅	13 10	厚 重	3.4 669.9	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央付近に小さな凹みが多数認められ周辺に磨面が形成される。縁辺部には側面方向からの剥離痕が多く認められ敲打により生じたと考えられる。円礫を利用していると考えられる。	
第101図 PL.171	263	礫石器 凹石	D区 完形	長 幅	11.4 8.2	厚 重	4.4 620.4	粗粒輝石安山岩	表裏面ともアバタ状の集合打痕２ヶ所があるほか、激しく使い込んだ摩耗面が広がる。裏面側は被熱して赤化、ヒビ割れている。	
第101図 PL.171	264	礫石器 凹石	D区 完形	長 幅	9.2 8	厚 重	6 500.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも漏斗状の窪み部２があるほか、弱い摩耗面も広がっているが、小口部や側縁の打痕が優勢。被熱したのか礫面がヒビ割れる。	
第101図 PL.171	265	礫石器 凹石	D区 完形	長 幅	11.1 9	厚 重	5.3 735.1	粗粒輝石安山岩	表裏面とも集合打痕と摩耗痕が広がる。摩耗は著しく礫面の目が潰れるほどである。粗粒石材であるため分かりにくいが側面も摩耗しているように見える。	
第101図 PL.171	266	礫石器 凹石	D区 完形	長 幅	10.3 10.2	厚 重	5.3 748.9	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗痕が広がるほか、礫の中央付近にアバタ状の集合打痕がある。被熱して礫面が爆ぜ、下端側はヒビ割れている。	
第101図 PL.171	267	礫石器 凹石	D区 完形	長 幅	11.7 10.6	厚 重	4.9 839.8	粗粒輝石安山岩	表裏面とも礫中央付近にアバタ状の集合打痕が広がるほか、摩耗痕がある。摩耗痕は石材の目が潰れるほどで、よく使い込まれていることが分かる。	
第101図 PL.171	268	礫石器 磨石？	D区 完形	長 幅	38.2 11.8	厚 重	10.6 8500	粗粒輝石安山岩	厚い板状礫。背面側に広く摩耗痕が広がる。礫形状は略台形状を呈する。第101図271に近接して出土、セットとして捉えるべきものかもしれない。	
第101図 PL.171	269	礫石器 磨石	D区 完形	長 幅	7.2 6.2	厚 重	5.6 321.6	粗粒輝石安山岩	表裏面とも弱く摩耗する。小口部分に敲打痕がある。礫形状は球形状に近い。	
第101図 PL.171	270	礫石器 磨石	D区 完形	長 幅	6.1 5.3	厚 重	3.6 158.9	粗粒輝石安山岩	表裏面とも摩耗痕が広がる。摩耗痕は礫形状に即しており、背面側では中央より右の摩耗が著しい。指先で握れる程度の河床礫を用いる。	
第101図 PL.171	271	礫石器 石皿	D区 ほぼ完形	長 幅	35.2 33.6	厚 重	12.3 22600	粗粒輝石安山岩	背面側に弱い摩耗面、裏面側上半部に著しく摩耗した光沢面が広がる。当初、竪穴建物の出土遺物とされていたが、最終的には弥生期建物が埋没した後に据え置かれたものとされた。器種名称の検討を要す。	

弥生時代

D24号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第106図 PL.172	1	弥生土器 壺	床直 完形	口 高	8.0 15.4	底	5.6	細:石英・白色粒/良好/暗赤褐色	体部最大径を下半に設けた均整の取れた安定した器形。口縁～体部上半は縦位研磨。下半は横位研磨、底部はヘラ削りを施す。内面口縁部は横位研磨、体部は横位撫でか。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第106図 PL.172	2	弥生土器 壺	床直 ほぼ完形	口 高	9.7 17.6	底	6.7	細:白色粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部は長く外傾する。頸部屈曲部に幅広の横位沈線1条を設け、体部中位に瘤状突起を5単位付す。口縁～体部中位縦位研磨、下半は横位研磨。内面口縁部は横位研磨、体部は横位ヘラ撫で。外面に被熱時に煤付着。器面も剥落する。	中期後葉
第106図 PL.172	3	弥生土器 壺	床直 口縁部2/3～体部上半1/3残存	口	12.4			細:輝石・白色粒/良好/橙色	頸部に横位沈線3条を設ける。口唇部に横位ＬＲ、口縁部は横位撫でに弱い研磨を加える。頸部はＬＲ施文後に沈線を設け、体部は縦位研磨を施す。内面口縁部は横位ヘラ撫でに弱い研磨、体部は強いヘラ撫で。外面にカゴ目を見る。外面に少量の煤付着。	中期後葉
第106図 PL.172	4	弥生土器 壺	床直 ほぼ完形	口 高	13.4 25.5	底	8.4	細:石英・白色粒/良好/橙色	均整取れた器形。口唇部に無節Ｒ横位施文。頸部に横位沈線2条と波状沈線を配す。口頸部は横位撫で、体部上半及び下半は縦位、体部中位は横位研磨を施す。内面は口縁部は横位研磨、体部は撫で調整を施す。体部外面にカゴ目を見る。外面には被熱時の煤が環状に付着する。	中期後葉
第106図 PL.172	5	弥生土器 壺	床直 頸部及び体部の一部欠損	口 高	16.5 28.0	底	6.6	細:石英・白色粒/良好/明赤褐色	頸部に横位沈線4条を設ける。口縁部横位撫で後縦位・横位ハケ撫で。体部外面は縦位研磨、中位屈曲部は横位研磨。内面口縁部は横位研磨、体部は横位・斜位ヘラ撫で。体部にカゴ目を見る。	中期後葉
第106図 PL.172	6	弥生土器 壺	床直 体部～底部残存			底	6.3	細:石英少・白色粒/良好/にぶい黄橙色/黒色	小型壺。体部上半は斜位ハケ撫で後縦位研磨、中位は横位研磨、下半は斜位ハケ撫で後弱い研磨。内面横位・斜位ヘラ撫で。	中期後葉
第106図 PL.172	7	弥生土器 壺	床直 口縁部及び体部の一部欠損			底	8.5	粗:石英・白色粒/良好/明黄褐色/黒色	大型壺ながら器厚薄手で軽量。頸部に3条の横位沈線を2段設け小貼付文を付す。5単位か。体部中位を横位沈線1条で画し上半に沈線による大柄の渦巻文を5単位配す。体部下半は軸縄不明の付加条縄文を横位・斜位に施す。内面撫で、器壁剥落著しい。内部に栗多数入る。	中期後葉 陣場式か
第106図 PL.173	8	弥生土器 甕	床下 口縁～体部1/3・底部残存	口 高	11.3 15.5	底	7.0	細:石英少・白色粒/良好/明褐色/黒褐色	口縁部短く外反。口唇部に横位ＬＲ、頸部～体部中位波状文、体部下半は斜位ヘラ撫で後縦位研磨。内面口縁部は横位研磨、体部は斜位ハケ撫で後弱い研磨。	中期後葉
第106図 PL.173	9	弥生土器 甕	床直 頸部及び体部の一部欠損	口 高	16.4 16.8	底 0	6.0 0	細:輝石・白色粒/良好/橙色	口縁部短く外反。口唇部に横位ＬＲ、頸部屈曲部に8本単位の簾状文、体部上半は強いハケ目による横位山形意匠が連続する。体部下半は縦位研磨を施す。内面口縁～体部上半は横位、下半は縦位研磨を加える。外面煤付着。	中期後葉
第106図 PL.173	10	弥生土器 甕	床直 口縁～体部一部欠損	口 高	17.6 20.5	底	8.7	粗:石英・白色粒/良好/明黄褐色	口縁部短く外反。口唇部に横位ＬＲ、頸部に6本単位の簾状文、体部上半は斜位ヘラ撫で後横位波状文を重ね、体部下半は縦位研磨を施す。内面横位研磨。外面煤付着。	中期後葉
第106図 PL.173	11	弥生土器 甕	床直 口縁～体部1/2欠損	口 高	19.7 23.3	底	7.8	細:石英・白色粒/良好/褐灰色	口縁部短く外反。口唇部に刻み、頸部屈曲部に4本単位の簾状文、体部上半に波状文を施す。下半はヘラ撫で調整後縦位研磨。内面は横位・斜位研磨を加える。	中期後葉
第106図 PL.173	12	弥生土器 甕	床直 口縁部～体部上半1/4、体部下半～底部残存	口 高	(24.2) 37.0	底	10.4	細:石英小・白色粒/良好/にぶい黄橙色	大型甕。口縁部は短く外反する。口唇部に横位ＬＲ、頸部屈曲部に5・6本単位の横位波状文、体部上半に強いハケ目による横位山形状意匠が意図される。地文は斜位ハケ目。下半は縦位研磨を施す。内面口縁部～体部上半は横位研磨。体部中位は横位ハケ目、下半は横位研磨を加える。	中期後葉
第106図 PL.173	13	弥生土器 甕	フク土』 体部のみ1/2残存					細:輝石・白色粒/良好/灰黄色	球胴状の器形。振幅の大きい波状文と小さい波状文が横位に配される。外器面磨滅。内面器壁剥落。	中期後葉
第106図 PL.173	14	弥生土器 甕	床上 底部1/2残存			底	9.6	粗:石英小・輝石・褐色粒・白色粒/良好/黒褐色	大型甕か。外反気味に開く体部下半。外面は横位撫で後弱い研磨。研磨は底面にも及ぶ。内面器壁剥落。	中期後葉
第107図 PL.174	15	弥生土器 台付甕	床直 完形	口 高	6.2 9.2	底	4.8	細:石英少・白色粒/良好/黒色/明赤褐色	口縁部4本単位の横位波状文。体部は沈線による重コ字状意匠を4単位配し、頸部屈曲部と体部中位に円形貼付を4単位付す。体部下半及び内面は撫で調整。	中期後葉
第107図 PL.174	16	弥生土器 台付甕	床直 ほぼ完形(口縁部と脚部一部欠損)	口 高	12.8 14.5	底	8.7	細:石英・白色粒/良好/黒色/明赤褐色	口唇部横位ＬＲ、口唇部横位撫で、口縁部は斜位ハケ撫で後横位撫で、体部は沈線によるコの字重ね文を5単位配し、頸部屈曲部と体部中位に円形貼付を5単位付す。体部下半は縦位研磨、脚部は横位研磨を施す。内面口縁～体部は横位・斜位研磨を施し、脚部は横位撫で調整。口縁部には煤が付着する。	中期後葉
第107図 PL.174	17	弥生土器 台付甕	床直 脚部欠損	口	15.6			細:石英・白色粒/良好/にぶい褐色/黒色	口唇部に横位ＬＲ、口縁部は平行沈線による横位波状文、頸部は5・6本の簾状文が巡り、体部は強いハケ目によるコの字重ね文が配される。頸部と体部中位に円形貼付文を付す。6単位を数える。内面ヘラ撫で後横位研磨を重ねる。外面に被熱による煤が付着する。	中期後葉
第107図 PL.174	18	弥生土器 台付甕	フク土 体部破片					粗:輝石・白色粒/良好/明赤褐色	内湾する体部に沈線によるコの字重ね文を施す。地文にＬＲか。内面横位研磨。	中期後葉
第107図 PL.174	19	弥生土器 台付甕	フク土 脚部破片2点			底	(8.0)	細:石英少・白色粒/良好/黒褐色	外面横位撫で後弱い研磨。内面横位ヘラ撫で。	中期後葉
第108図 PL.174	20	弥生土器 高杯	床直 ほぼ完形(脚部一部欠損)	口 高	7.1 11.6	底	8.6	細:石英少・白色粒/良好/黒色/暗赤褐色	均整の取れた安定感ある器形。外面口縁～体部横位研磨、脚部は縦位研磨。内面口縁～体部・脚部とも横位研磨を施す。内外面赤彩を加える。	中期後葉
第108図 PL.174	21	弥生土器 高杯	床直 口縁部の一部と脚部裾欠損	口	18.2			細:白色粒/良好/明赤褐色	口縁部山形突起が水平に突出する。おそらく5単位か。外面口縁～体部は横位研磨、脚部は縦位、裾部は斜位研磨を施す。内面口縁～体部上半は横位研磨、下半は斜位研磨。脚部内面は横位撫で調整ご弱い研磨を加える・脚部内面以外は赤彩を加える。	中期後葉

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第108図 PL.174	22	弥生土器 蓋	床直 完形	口 高	10.2 2.5			細:石英少・白色粒/良好/暗赤褐色	小型で皿状の蓋。頂部に摘みを付さない。2個1対の小孔を2単位設ける。外面丁寧な研磨を施し赤彩を加える。内面は斜位ハケ撫で後弱い研磨。口縁端部は削り調整後研磨する。	中期後葉
第108図 PL.174	23	弥生土器 蓋	床上 1/3残存	口 高	(11.4) 1.9			細:石英・輝石・白色粒/良好/灰黄褐色	小型で皿状の蓋。頂部に摘みを付さない。2個1対の小孔を設ける。縦位沈線による四分割か。区画内は重弧線を充填する。地文にＬＲ。内面研磨を加える。	中期後葉
第108図 PL.174	24	磨製石鏃	床上 ほぼ完形	長 幅	4.5 1.6	厚 重	0.3 1.7	珪質凝灰岩	全体的に丁寧に研磨整形されており多方向の細かい擦痕が認められる。全体的にわずかに光沢がある。孔は中央が狭くなっており両面穿孔の可能性がある。孔径約3mm。	
第108図 PL.174	25	磨製石鏃	床直 完形	長 幅	4.8 2.2	厚 重	0.2 2.2	珪質凝灰岩	全体的に丁寧に研磨整形されており多方向の細かい擦痕が認められる。全体的にわずかに光沢がある。孔は中央が狭くなっており両面穿孔の可能性がある。表面の孔に穿孔途中のものが付随する。孔径約2mm。	
第108図 PL.174	26	太型蛤刃 磨製石斧	床下 ほぼ完形	長 幅	17 6.6	厚 重	3.6 694.9	変輝緑岩	全体的に丁寧に研磨整形されている。刃部の反対側の基部側に色調が異なる部分が帯状に認められ着柄痕と考えられる。表面では帯状部分は淡色であり基部は濃色であることから基部は着柄部でなく外部に露出していたものと考えられる。	
第108図 PL.174	27	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	10.1 9.3	厚 重	8.2 1079.6	粗粒輝石安山岩	全面が滑らかであり磨面の可能性がある。表面から上面及び右側面にかけてと左側面の中央付近に非常に滑らかな部分が認められる。円礫を利用していると考えられる。	
第108図 PL.174	28	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	12.1 8.3	厚 重	4.8 729.1	粗粒輝石安山岩	表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。円礫を利用していると考えられる。	
第108図 PL.174	29	礫石器 台石	床直 4/5	長 幅	(33.3) (26.7)	厚 重	(10.2) 14400	粗粒輝石安山岩	表面の中央に平坦でやや滑らかな部分が認められる。大形円礫を利用していると考えられる。	
第108図 PL.174	30	木器 織具	床直	長 幅	(9.0) (3.15)	厚	1.2		木製の織具。緯打具の破片。	

Ｄ25号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第114図 PL.174	1	弥生土器 壺	床直 口縁部1/3~底部残存	口 高	(12.0) 25.0	底	7.4	細：石英・輝石・白色粒／良好／にぶい橙色／黒色	口縁部は短く外反。口唇部に横位ＬＲ、頸部に横位沈線1条を設け下位は横位ＬＲを施す。体部は縦位ヘラ撫で、横位ハケ撫で後下半に縦位研磨を加える。内面は口縁部は横位研磨、体部は撫で調整。内面体部に煤付着。	中期後葉
第114図 PL.174	2	弥生土器 壺	床直 完形	口 高	9.8 25.2	底	6.0	細：石英・白色粒／良好／黒褐色	均整の取れた器形を呈す。口唇部に横位ＬＲ。頸部に横位沈線2条を設け地文にＬＲを施す。口縁～体部上半縦位研磨、下半は斜位ハケ撫で後縦位研磨を加える。内面口縁部は横位ハケ撫で後弱い研磨、体部はヘラ撫で。	中期後葉
第114図 PL.175	3	弥生土器 壺	床直 口縁部1/3~体部上半1/2~底部残存	口 高	(12.0) 21.2	底	6.0	細：石英・白色粒／良好／にぶい赤褐色	口縁部に横位ＬＲ、頸部は横位沈線を2条設けその間に山形文を施す。地文は横位ＬＲ。体部は斜位ハケ撫で後縦位研磨を加える。内面は口縁部横位撫で、体部は斜位ヘラ撫で、ハケ撫でを施す。	中期後葉
第114図 PL.175	4	弥生土器 壺	床上 口縁部・体部1/2残存	口	12.6			細：石英・輝石・褐色粒・白色粒／良好／橙色	広口で頸部屈曲部に横位沈線1条を設け、体部上半に横位ＬＲを施す。以下撫で調整後弱い縦位研磨を加える。口縁部内面横位撫で、体部は器壁剥落。	中期後葉
第115図 PL.175	5	弥生土器 壺	床直 口縁部3/4のみ残存	口	10.8			粗：石英・輝石・白色粒／良好／黒褐色	小径で口唇部にＬＲ、頸部に横位沈線を設ける。外反する頸部は横位撫で後弱い縦位研磨。内面は強い横位撫で調整。	中期後葉
第115図 PL.175	6	弥生土器 壺	床上 口縁部のみ残存	口	14.2			細：輝石・白色粒／やや軟質／にぶい黄褐色	口唇部に横位ＬＲ。外反する頸部は縦位・斜位ハケ撫でを施す。内面横位撫で後弱い研磨。内外面とも器面磨滅。	中期後葉
第115図 PL.175	7	弥生土器 壺	床直 口縁部一部~頸部残存	口	(14.0)			細：輝石・白色粒／良好／橙色	口唇部僅かに内湾。頸部に横位沈線2条を設ける。口縁部は横位撫で、頸部は斜位ハケ撫でを施す。内面は横位研磨。内外面とも器壁剥落。	中期後葉
第115図 PL.175	8	弥生土器 壺	床直 口縁部欠損・頸部1/3~底部残存			底	7.5	細：輝石少・白色粒／良好／黒褐色	頸部に横位沈線4条を設けＬＲを施す。体部は横位・斜位ハケ撫で後縦位研磨を加える。内面は横位ヘラ撫でとハケ撫でを施す。	中期後葉
第115図 PL.175	9	弥生土器 壺	床直 頸部1/6・体部~底部1/2残存			底	6.3	細：石英・輝石・白色粒／良好／灰褐色／黒色	頸部に横位沈線2条を設ける。以下体部は斜位ハケ撫で後縦位研磨を加える。内面頸部は横位研磨、体部は器壁剥落。	中期後葉
第115図 PL.175	10	弥生土器 壺	フク土 口頸部~体部上半2/3残存・底部破片			底	5.8	粗：石英・白色粒／良好／にぶい黄褐色／黒褐色	頸部外反し4本単位の横位波状文と簾状文が配される。体部上半は斜位ハケ撫で、下半は縦位ハケ撫で。内面は横位削り調整を施し口縁部に弱い研磨を加える。	中期後葉
第115図 PL.175	11	弥生土器 壺	床直 口縁部欠損、頸部~体部1/2欠損			底	6.0	細：石英・白色粒／良好／黒褐色	頸部～体部はハケ撫で後縦位研磨を加える。内面は体部上半は斜位ヘラ撫で、下半はハケ撫でを施す。外面体部下半器面磨滅。	中期後葉
第115図 PL.175	12	弥生土器 壺	フク土 体部上半~底部2/3残存			底	6.5	細：石英少・輝石・白色粒／良好／にぶい褐色	体部上半～中位斜位・横位ハケ撫で後弱い研磨、下半は丁寧な研磨を施す。内面体部上半はハケ撫で、下半は横位ハケ撫で。	中期後葉
第116図 PL.176	13	弥生土器 壺	フク土 体部破片2点					細：石英少・輝石・白色粒／良好／にぶい黄橙色／黒色	外面は横位撫で調整後縦位研磨。内面は横位ヘラ撫で後弱い研磨。器壁剥落。	中期後葉

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第116図 PL.176	14	弥生土器 壺	床直 頸部のみ残存					細：石英・輝石・白色粒／良好／にぶい黄橙色	口縁部は横位撫で、頸部は斜位・縦位ハケ撫で後横位ＬＲを重ねる。内面横位撫で調整。	中期後葉
第116図 PL.176	15	弥生土器 甕	床直 口縁~体部上半一部欠損	口 高	12.8 11.8	底	6.6	粗：石英・輝石・白色粒／良好／にぶい黄褐色	小型甕。上半の器形に歪み。外面横位撫で調整後斜位ハケ撫で。内面は口縁～体部上半ハケ撫で下半は横位研磨が加わる。	中期後葉
第116図 PL.176	16	弥生土器 甕	床直 口縁部~体部上半1/2欠損			底	6.4	粗：輝石・白色粒／やや軟質／灰黄褐色	体部上半外反。2条の縦位平行沈線による懸垂文。下端に円形貼付文を付す。体部上半には乱雑な横位波状文が施される。地文は横位ＬＲ。内面横位撫で。外器面磨滅。	中期後葉
第116図 PL.176	17	弥生土器 甕	床直 口縁の一部と底部欠損	口	16.9			粗：石英・白色粒／やや軟質／黄橙色／黒色	口唇部に横位ＬＲ、口縁部は4本単位の横位波状沈線文と地文ＬＲ、頸部は簾状文を設ける体部は同工具による縦位ハケ目3条を設けるが反対面には施文していない。空白部は横位波状文を多段に施す。内面は横位ヘラ撫で。口縁部内外面に煤付着。	中期後葉
第116図 PL.176	18	弥生土器 鉢	床直 口縁部1/4欠損	口 高	22.2 9.4	底	8.1	細：石英・輝石・チャート・白色粒／良好／赤色	大型の鉢。口縁～体部一体化し内湾。安定感ある器形。内外面横位研磨を入念に施し、赤彩を加える。	中期後葉
第116図 PL.176	19	弥生土器 台付鉢	床直 完形	口 高	10.0 13.3	底	8.2	細：石英・輝石・白色粒／良好／にぶい黄橙色／赤色	口唇部に小孔を2ヶ1対穿つ。焼成前穿孔。口縁部と体部下半に3条の沈線による横位小山形文を配す。体部上半と体部下半～脚部は丁寧な研磨後に赤彩を施す。赤彩は内面にも及ぶ。出土土器中傑出した存在である。	中期後葉
第116図 PL.176	20	弥生土器 台付甕	床直 口縁部2/3欠損	口 高	9.0 10.6	底	5.2	細：石英少・白色粒／良好／橙色	口縁部に横位沈線2条による横位波状沈線を設け、体部に沈線による重コ字状意匠を6単位配す。脚部に縦位ハケ撫で、横位撫で、内面平滑な撫で調整、上半器壁剥落。	栗林1式
第116図 PL.176	21	弥生土器 高杯	床上 体部下半~脚部残存			底	7.9	細：石英・白色粒／良好／橙色／赤色	体部下半は強く開く。斜位・縦位ヘラ撫で後弱い研磨。裾部は横位撫で。内面も研磨を施す。体部内外面赤彩を施す。	中期後葉
第116図 PL.176	22	太型蛤刃 磨製石斧	床直 完形	長 幅	16.8 7.2	厚 重	4.5 940.3	変輝緑岩	全体的に丁寧に研磨整形されている。刃部の反対側の基部側に淡色部分が帯状に認められ着柄痕と考えられる。基部は濃色であり着柄部でなく外部に露出していたものと考えられる。	
第117図 PL.176	23	太型蛤刃 磨製石鏃	床直 完形	長 幅	3.9 1.8	厚 重	0.3 1.9	珪質準片岩	全体的に丁寧に研磨整形されている。体部は横方向の擦痕が主体的であり、基部は縦方向の擦痕が主体的である。一つ一つの擦痕は幅が広く全体的に粗い。	
第117図 PL.176	24	太型蛤刃 磨製石鏃	床直 ほぼ完形	長 幅	4.4 2	厚 重	0.3 2.6	黒色準片岩	全体的に丁寧に研磨整形されている。体部は横方向の擦痕が主体的であり、基部は縦方向の擦痕が主体的である。一つ一つの擦痕は幅が広く全体的に粗い。	
第117図 PL.176	25	太型蛤刃 磨製石鏃	床直 完形	長 幅	4.9 2.1	厚 重	0.3 3.6	黒色準片岩	全体的に丁寧に研磨整形されている。体部は横方向の擦痕が主体的であり、基部は縦方向の擦痕が主体的である。	
第117図 PL.176	26	太型蛤刃 磨製石鏃	床直 2/3	長 幅	(4.7) 2.7	厚 重	0.3 4.9	緑色片岩	全体的に丁寧に研磨整形されている。体部は横方向の擦痕が主体的であり、基部は縦方向の擦痕が主体的である。一つ一つの擦痕は幅が広く全体的に粗い。	
第117図 PL.176	27	偏平片刃 磨製石斧	床上 完形	長 幅	4 3.8	厚 重	0.8 24.2	変質蛇紋岩	全体的に丁寧に研磨整形されており光沢がある。	
第117図 PL.176	28	礫石器 石皿	床直 完形	長 幅	33 13	厚 重	2.7 1390.3	凝灰質砂岩	表裏面のほぼ全面に滑らかな部分が認められる。表面は中央付近がやや窪んだ形態であり全体的に赤褐色物質が付着する。裏面はほぼ平坦であり中央付近が特に滑らかである。	M－Ⅲ－18Gと接合
第117図 PL.176	29	礫石器 台石	床直 完形	長 幅	13.7 14.6	厚 重	5.6 1665.9	粗粒輝石安山岩	表面のほぼ全面に黒色変化が認められる。表面に断面U字形の比較的幅の広い線条痕が多数認められる。円礫を利用していると考えられる。	
第117図 PL.177	30	砥石	床直 1/3	長 幅	(32.0) (15.4)	厚 重	(4.4) 3338.7	粗粒輝石安山岩	表裏面に平坦で滑らかな部分が認められ砥石と判断した。部分的に非常に滑らかな箇所が認められる。表裏面及び右側面は節理面と判断され板状節理の露頭から石材採取していると考えられる。	
第117図 PL.177	31	環状石斧	床直 ほぼ完形	直径 幅	9	厚 重	3.3 277.7	変はんれい岩	全体的に丁寧な研磨整形が認められ光沢がある。中央の孔の内面には横方向の細かい線条痕が多数認められる。	
第118図 PL.177	32	炭化米	床直						炭化米塊。側辺にヘギ材付着。	

Ｃ４号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第119図 PL.178	1	弥生土器 甕	床直 口縁部完存・胴部1/4		18.5			Ｉ１	複合口縁から胴部上位にかけて櫛描波状文を７帯施す。施文具７歯12㎜。外面口縁部～胴部上位煤状炭化物付着、胴部縦位箆磨き。内面口縁部～頸部横位箆磨き、胴部縦位箆磨き。	樽式
第119図 PL.178	2	弥生土器 壺	フク土 口縁部～頸部3/4		17.0			Ｄ６	括れ部から胴部にかけて櫛描Ｔ字文を施す。施文具７歯11㎜。外面縦位・内面横位の箆磨き。	樽式
第119図 PL.178	3	弥生土器 小型甕	床直 ほぼ完形		10.2 4.5		12.0	Ｄ２	口縁部から括れ部にかけてやや粗雑な櫛描波状文を３～４帯施す。施文具６歯11㎜。外面横・斜位箆磨き、胴部下半に煤状炭化物付着。内面やや粗い横・斜位箆磨き、幅10㎜前後の輪積み痕残す。	樽式
第119図 PL.178	4	弥生土器 高杯	床上 脚部完存		14.9			Ｄ７	外面縦位、内面横位の箆磨き。	樽式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第119図 PL.178	5	剥片石器 石鏃	フク土 完形	長 幅	3.1 1.9	孔 重	0.5 2.8	細粒輝石安山岩	裏面に素材剥片の主要剥離面を大きく残す。表面は全面に押圧剥離痕が認められる。	凹基無茎鏃
第119図 PL.178	6	ガラス玉	フク土	長 最	0.35 0.44	孔 重	0.2 0.07		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	
第119図 PL.178	7	ガラス玉	フク土	長 最	3.1 1.9	孔 重	3.1 1.9		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	
第119図 PL.178	8	ガラス玉	フク土	長 最	3.1 1.9	孔 重	3.1 1.9		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	

Ｄ１号竪穴状遺構

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第120図 PL.178	1	弥生土器 甕	フク土 体部下半～底部 残存			底	9.0	細:石英・輝石・白色粒/良好/橙色	体部中位で内湾する。中位は横位研磨、下半は縦位研磨、底面は斜位研磨を施す。内面は横位研磨。	樽式
第120図 PL.178	2	弥生土器 壺	フク土 体部下半～底部 1/3残存			底	(8.0)	細:輝石・白色粒/良好/灰黄褐色	体部中位強く張る。上半と下半は縦位研磨。中位のみ横位研磨を施す。内面横位研磨。被熱の外器面灰色に変色。	樽式
第120図 PL.178	3	弥生土器 甕	フク土 底部1/2残存			底	6.6	細:白色粒/良好/褐色	外反気味に開く体部下半。丁寧な横位研磨を施し底面にまで及ぶ。内面も丁寧な横位・斜位研磨。	樽式
第120図 PL.178	4	弥生土器 甕	フク土 口縁～頸部1/2 残存	口	18.5			細:石英少・白色粒/良好/明黄褐色	外反する頸部。６・７本単位の櫛描波状文が多段に施される。内面丁寧な横位研磨。	樽式
第120図 PL.178	5	弥生土器 高杯	床上 完形	口 高	16.7 12.6	底	11.2	細:輝石・白色粒/良好/橙色	体部及び脚部とも強く開く均整取れた器形。口縁部～体部は丁寧な横位研磨、脚部境は縦位研磨、脚部は横位研磨を施す。内面は横位撫で調整後丁寧な横位研磨を加える。内外面とも赤彩。	樽式
第120図 PL.178	6	弥生土器 高杯	フク土 口縁部1/2、脚部一部欠損	口 高	12.6 10.3	底	8.0	細:白色粒/良好/明褐色	口縁部横位撫で、体部～脚部縦位研磨。裾部は横位削り調整。内面は横位研磨を施す。	樽式
第120図 PL.178	7	弥生土器 蓋	フク土 完形	摘 高	5.8 7.3	底	12.4	細:石英少・白色粒/良好/にぶい黄褐色	底端部の磨滅から蓋と判断した。摘部は横位研磨、接合部は器壁剥落、体部は縦位研磨、裾部は横位研磨。内面体部は横位研磨を施す。摘部内面は撫で、端部は磨滅する。	樽式
第120図 PL.178	8	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	14 8.3	厚 重	3.6 615.6	粗粒輝石安山岩	表裏面の中央付近に磨面が認められる。円礫を利用していると考えられる。	

弥生時代土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第121図 PL.179	1	弥生土器 壺	C4号土坑 体部片						壺体部破片、外面上部赤色塗彩、磨き。内面ナデ。	
第121図 PL.179	2	弥生土器 壺	C4号土坑 体部片						甕体部破片、内外面ナデ。	

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第121図 PL.179	3	剣	C4号土坑	28.3+	24.6+	3.1	0.5	3.7+	(1.9)	(0.4)							刃長が復元を含めれば30㎝近くなる長剣。鎬は認められず、両丸造である。木鞘の痕跡が数箇所に遺存する。茎にも有機質状のものが残るが、明瞭な木質・木目などは不明。刃関は直線状を呈している。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第122図 PL.178	1	弥生土器 高杯	C17号土坑 杯部1/3欠損	台 径	10.0 8.1		10.0	Ｄ７	内外面共に赤色塗彩。内面杯底部剥離。	樽式
第122図 PL.178	2	弥生土器 甕	C17号土坑 口縁～底部3/4		11.0 4.8		(12.5)	Ｄ２	括れ部に櫛描横線文を、口縁部および胴部上位に同波状文を各２帯施す。施文具７歯14㎜。外面同部下位縦位箆磨き、内面横位箆磨き。	樽式
第122図 PL.178	3	弥生土器 壺	C17号土坑 頸部～胴部上位 1/3					Ｄ７	括れ部に櫛描横線文を２帯施す。施文具10歯15㎜。外面横位箆磨き、内面剥離。	樽式

弥生時代ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第123図 PL.179	1	弥生土器 甕	C302号ピット 一部欠損		14.0 6.4		23.5	Ｄ６	括れ部に２連止櫛描簾状文を、口縁部および胴部上位に同波状文を各２帯施す。施文具９歯17㎜。外面胴部縦位箆磨き、内面横位箆磨き・口縁部煤状炭化物付着。	樽式

Ｄ２号方形周溝墓

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第125図 PL.179	1	ガラス玉	フク土	長 最	0.32 0.37	孔 重	0.16 0.06		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	

Ｄ２号円形周溝墓

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第126図 PL.179	1	石製品 管玉	フク土	長 最	1.49 0.36	孔 重	0.08 0.26		珪質頁岩製、２片に割れている。	
第126図 PL.179	2	ガラス玉	フク土	長 最	0.29 0.41	孔 重	0.17 0.05		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	
第126図 PL.179	3	ガラス玉	フク土	長 最	0.30 0.37	孔 重	0.15 0.05		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	
第126図 PL.179	4	ガラス玉	フク土	長 最	0.30 0.36	孔 重	0.14 0.05		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	
第126図 PL.179	5	ガラス玉	フク土	長 最	0.27 0.41	孔 重	0.15 0.05		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	
第126図 PL.179	6	ガラス玉	フク土	長 最	0.26 0.34	孔 重	0.10 0.04		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	
第126図 PL.179	7	ガラス玉	フク土	長 最	0.37 0.33	孔 重	0.12 0.06		銅着色のカリガラス(GroupⅡ)。	

Ｄ１号円形周溝墓

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第127図 PL.179	1	弥生土器 高杯	床上 完形	口 高	12.2 8.7	底	6.3	細:輝石・白色粒/良好/橙色	均整の取れた小型の高杯。体部は強く開き、脚部は小径。口縁～体部横位、体部下半斜位、接合部横位、脚部縦位、裾部横位研磨を施す。内面は丁寧な横位研磨。	後期
第127図 PL.179	2	弥生土器 壺	床上 体部中位～底部残存			底	4.8	粗:石英・白色粒/良好/赤褐色	内外面とも丁寧な斜位研磨を施し赤彩を加えるも、器面剥落著しい。	後期

弥生時代遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第128図 PL.179	1	弥生土器 筒形土器	Ａ区 底部完存		7.1			Ｉ２	底外面に織布痕。内外面共に縦位箆磨き。外面煤状炭化物付着、内面一部に煤状炭化物付着・やや被熱風化。	弥生中期
第128図 PL.179	2	弥生土器 甕	Ａ区 口縁～胴部1/3		(12.5)			Ｉ３	全面にLR縄文を横位・多段に施文し、括れ部に３条の横線文を施す。内外面共にやや被熱風化。	弥生中期
第128図 PL.179	3	弥生土器 鉢	Ａ区 底部4/5		8.1			Ｃ３	丸底状の底部。外面横・縦位箆磨き、一部に煤状炭化物付着。内面横位箆磨き。	弥生中期
第128図 PL.179	4	弥生土器 浅鉢	Ａ区 口縁部片					Ｄ５	口唇部上面にLR縄文や棒状具の押圧を施す。口縁部に方形状の入組文を施し、LR縄文を充填施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面丁寧な横位箆磨き。	弥生中期
第128図 PL.179	5	弥生土器 甕	Ａ区 口縁部片					Ｄ２	口縁部に横線文や鋸歯文を施し、LR縄文を充填施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面丁寧な横位箆磨き。	弥生中期
第128図 PL.179	6	弥生土器 甕	Ａ区 胴部片					Ｄ２	単沈線の横線文や波状文を施し、LR縄文を充填施文。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位箆磨き。	弥生中期
第128図 PL.179	7	弥生土器 筒形土器	Ａ区 口縁～胴部片					Ｄ２	方形状の入組文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共にやや被熱風化、煤状炭化物付着。	弥生中期
第128図 PL.179	8	弥生土器 蓋	Ａ区 胴部片					Ｄ２	楕円文や曲線状入組文を施し、LR縄文を充填施文。内面横位箆磨き。	弥生中期
第128図 PL.179	9	弥生土器 甕	Ａ区 胴部片					Ｂ２	肩部に幅広沈線の重山形文を施し、LR縄文を充填施文。内面被熱風化。	弥生中期
第128図 PL.179	10	弥生土器 蓋	Ａ区 天井部完存	天径	5.6			Ｂ２	長さ18㎜の縦位棒状隆帯を側面３箇所に付し、中心部に径２㎜の緊縛孔(焼成前穿孔)を施すが、２箇所は剥落。方形状の入組文を施し、LR縄文を充填施文。	弥生中期
第128図	11	弥生土器 台付鉢	A区 台部1/4					Ｃ１	３箇所に径８㎜の透かし孔。	弥生中期
第128図 PL.179	12	弥生土器 鉢	A区 胴部片					Ｄ２	方形状の入組文を施し、LR縄文を充填的に施文。外面煤状炭化物付着、内面箆撫で状のやや粗い横位箆磨き。	弥生中期
第128図 PL.179	13	弥生土器 甕	A区 口縁部片					Ｈ１	口唇部上面に刻み目。口縁部以下に横位の条痕文を施す。内外面共にやや被熱風化。	弥生中期
第128図 PL.179	14	弥生土器 壺	A区 胴部片					Ｈ１	方形状の沈線文を施し、LR縄文を充填施文。内外面共にやや風化、内面横位撫で。	弥生中期
第128図 PL.179	15	弥生土器 壺	A区 胴部片					Ｅ３	括れ部に細い竹管状具の横位方形文や縦位刺突文を施し、以下に横線文を施文。外面丁寧な横位磨き、内面一部風化・剥離。	弥生中期
第129図 PL.180	16	弥生土器 蓋	A区 摘部～口縁部1/6	摘径	5.6			Ｄ１	摘天井部に径６㎜の焼成前穿孔。外面縦位、内面横位の刷毛目。	樽式
第129図 PL.180	17	弥生土器 甕	A区 口縁～胴部1/2		(19)			Ｈ１	括れ部に３連止櫛描簾状文を施し、複合口縁から頸部にかけて同波状文を５帯・胴部上位に２帯施す。施文具12歯16㎜。内面櫛状具の横位撫で後・やや粗い横位箆磨き。	樽式
第129図 PL.180	18	弥生土器 甕	A区 口縁～胴部1/4		(9.6)			Ｄ２	口縁部～肩部にかけてやや乱雑な櫛描波状文を４帯施す。施文具７歯12㎜。内面横位箆磨き。	樽式
第129図 PL.180	19	弥生土器 甕	A区 口縁部片		(16.4)			Ｄ２	括れ部に櫛描簾状文を、口縁部に同波状文を２帯施す。施文具７歯11㎜。外面一部に煤状炭化物付着、内面丁寧な横位箆磨き。灰白色。	樽式
第129図 PL.180	20	弥生土器 甕	A区 口縁部1/4		(10)			Ｄ２	く字状に強く内折する口唇部上面に櫛描横線文を、以下に同波状文を複数帯施す。外面一部に煤状炭化物付着、内面横位箆磨き。	樽式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第129図 PL.180	21	弥生土器 甕	A区 口縁部片					D 2	括れ部に３連止櫛描簾状文を施し、複合口縁から頸部にかけて同波状文を５帯施す。内面櫛歯状具の横位撫で後、粗い縦位箆磨き。	樽式
第129図 PL.180	22	弥生土器 甕	A区 口縁～胴部1/2		(14)			E 3	括れ部に２連止櫛描簾状文を施し、やや乱雑な同波状文を口縁部と肩部に各１帯施文。施文具10歯12㎜。内外面共にやや被熱風化、内面口縁部～胴部横位箆磨き。	樽式
第129図 PL.180	23	弥生土器 壺	A区 肩部片					D 2	括れ部に櫛描簾状文を、肩部に３帯の櫛描波状文とＴ字文、ボタン状貼付文を施す。施文具９歯12㎜。内面輪積み痕を残すやや粗い横位箆撫で。灰白色。	樽式
第129図 PL.180	24	弥生土器 壺	A区 底部1/3		(10)			F 1	外面縦位刷毛目後・縦位箆磨き、内面横位箆磨き。	樽式
第129図 PL.180	25	弥生土器 高杯	A区 口縁～胴部1/3		(21)			D 1	口縁外反部分を高さ13㎜ほどスリット状にカットする特殊器形。残存のカット部分延長８cm。内外面共に赤色塗彩。	樽式
第129図 PL.180	26	弥生土器 鉢	A区 口縁～底部1/3		(16.4) 5.4		6.8	D 4	底部上げ底状。外面内外面共に丁寧な横位箆磨き。	樽式
第129図 PL.180	27	弥生土器 高杯	A区 脚部片	脚部	(12)			D 3	外面縦位箆磨き、内面横位箆撫で。	樽式
第129図 PL.180	28	剥片石器 石鏃	A区 完形	長 幅	3.1 1.3	厚 重	0.5 1.2	黒色頁岩	両面加工により整形する。	凹基有茎鏃
第129図 PL.180	29	剥片石器 石鏃	A区 1/2	長 幅	(12.6) (13.1)	厚 重	(2.3) 460.1	細粒輝石安山岩	表裏面に節理面を多く残し石材を露頭採取している可能性がある。表面の先端部末端及び先端部右側辺に摩滅が認められ使用痕の可能性がある。上半部及び先端部左側辺欠損。	
第129図 PL.180	30	剥片石器 石鏃	A区 完形	長 幅	15.5 10.4	厚 重	2.8 529.4	細粒輝石安山岩	表裏面に節理面を多く残し石材を露頭採取している可能性がある。	
第130図	31	弥生土器 壺	C区 底部1/2		6.4			G 2	内外面共に横位箆磨き。	
第130図 PL.180	32	弥生土器 不明	C区 胴部片					H 1	RL縄文を横位施文。内面横位箆磨き。	
第130図 PL.180	33	弥生土器 鉢	C区 口縁～底部2/3		(12.7) 4.0		6.3	D 3	外面底部を除いて全面赤色塗彩。	樽式
第130図 PL.180	34	弥生土器 甕	C区 ほぼ完形		11.8 6.6		15.2	D 6	括れ部に櫛描横線文を施し、同波状文を口縁部に３～４帯、胴部上位に１帯施文。施文具８歯12㎜。外面胴部縦位箆磨き、やや被熱風化・剥離。内面横位箆磨き。外面肩部に籾圧痕。	樽式
第130図 PL.180	35	弥生土器 高杯	C区 坏部2/3		15.0			D 2	外面縦・斜位箆磨き、内面横・縦位箆磨き。	樽式
第130図 PL.181	36	磨製石斧	C区 完形	長 幅	19.4 5.4	厚 重	3 484.6	変玄武岩	全体的に丁寧に研磨整形される。特に先端刃部付近は滑らかであるが使用痕と想定されるような線条痕は認められない。	
第130図 PL.181	37	磨製石斧	C区 完形	長 幅	24.1 5.8	厚 重	3.9 818.3	変玄武岩	全体的に丁寧に研磨整形される。表裏面の先端には刃部にほぼ直行する細かい線条痕が認められ使用痕の可能性がある。	
第130図 PL.181	38	石製品	C区 不明	長 幅	(5.3) 0.9	厚 重	0.6 4.4	珪質頁岩	全体的に研磨整形されており擦痕が数多く認められる。光沢がやや認められる。	
第130図 PL.181	39	礫石器 敲石	C区 完形	長 幅	8.5 3.3	厚 重	2 86.3	頁岩	棒状の円礫を利用する。表裏面の上下端部付近を中心に細かい凹凸の集中箇所が認められ敲打の痕跡と推定される。	
第130図 PL.181	40	剥片石器 石鏃	C区 4/5	長 幅	18.4 (9.8)	厚 重	2.0 504.3	細粒輝石安山岩	表裏面と上側辺に節理面を多く残し石材を露頭採取している可能性がある。表裏面の先端刃部周辺に摩滅が認められ使用痕の可能性がある。右側辺の上方につぶれがあり着柄痕の可能性がある。	
第130図 PL.181	41	剥片石器 石鏃	C区 2/3	長 幅	(15.7) 10.7	厚 重	2.1 407.1	細粒輝石安山岩	表裏面に節理面を大きく残し石材は露頭採取の可能性がある。両側辺上部のえぐり部には摩滅が認められ着柄痕の可能性がある。上部欠損。	
第131図 PL.181	42	土師器 壺	D区N-Ⅲ-20 口縁部破片	口	14.0			細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部は受け口状に内湾する。横位撫でを施し頸部は縦位ハケ撫で、内面は横位・斜位研磨。	古墳前期
第131図 PL.181	43	弥生土器 甕	D区O-Ⅲ-16・M-Ⅲ-18 体部1/4～底部残存			底	6.6	細:石英少・白色粒/良好/橙色	体部中位で内湾する。体部は縦位研磨、底部は斜位ヘラ撫で。内面は横位・斜位研磨。	
第131図 PL.181	44	弥生土器 壺	D区N-Ⅲ-17 V- 1 体部1/4～底部残存			底	4.8	細:石英・輝石・白色粒/やや軟質/橙色	器厚薄手で体部中位で内湾する。体部は縦位研磨、内面は横位・斜位研磨を施す。	
第131図 PL.181	45	弥生土器 壺？	D区 底部残存			底	4.5	細:石英少・白色粒/良好/灰黄褐色	外反気味に開く体部下半。斜位ハケ撫で後縦位研磨。内面は斜位研磨を施す。	
第131図 PL.181	46	弥生土器 鉢？	D23住 底部1/2残存			底	3.4	細:石英少・白色粒/良好/にぶい褐色	小型壺か。外反気味に開く体部下半。平滑な撫で調整。内面は研磨を施す。	
第131図 PL.181	47	弥生土器 甕	D区 底部破片			底	10.1	細:石英・白色粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部欠損。口頸部に横位波状文を密接多段に配す。体部は研磨。内面も横位研磨が覆う。	中期後葉
第131図 PL.181	48	弥生土器 甕	D区O-Ⅲ-16 口縁～体部1/4残存	口	(9.8)			細:輝石・白色粒/やや軟質/浅黄橙色	頸部屈曲。口縁～体部上半は弱い撫で、下半は斜位ヘラ撫で。内面横位撫で調整を施す。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第131図 PL.181	49	弥生土器 甕	D区O-Ⅲ－16 口縁～体部上半 1/3残存	口	(12.4)			細:輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	外反する頸部。４・５本単位の横位波状沈線を２段設け、屈曲部には簾状文と下位に波状文を巡らす。体部は弱い横位研磨、内面は丁寧な横位研磨を施す。	樽式
第131図 PL.181	50	弥生土器 甕	D区N-Ⅲ-17 口縁部～体部上半破片	口	15.0			細:石英・白色粒/良好/にぶい黄褐色	口縁～頸部外反する。縦位・斜位ハケ撫で後横位波状文を多段に密接して施文する。内面丁寧な横位研磨。	樽式
第131図 PL.181	51	弥生土器 甕	D23竪建 口縁部小破片					細:白色粒/良好/にぶい褐色	折返し状口縁。口縁部横位、頸部斜位撫で調整後横位波状文を多段に施す。内面横位研磨。	樽式
第131図 PL.181	52	弥生土器 甕	D区O-Ⅲ-16・18 口縁～体部上半 1/2残存	口	16.4			細:石英・輝石・白色粒/良好/橙色	外反する口縁～体部に横位波状文を密接に施文する。内面横位撫で調整後弱い横位研磨。	樽式
第131図	53	弥生土器 甕	D区 口頸部					細:石英・白色粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部欠損。口頸部に横位波状文を密接多段に配す。	樽式
第131図 PL.181	54	弥生土器 甕	D23竪建 頸部破片					細:石英少・白色粒/良好/にぶい褐色	縦位ハケ撫で後横位波状文を多段に施す。内面横位研磨。	樽式
第131図 PL.181	55	弥生土器 甕	D23竪建 頸部小破片					細:石英・輝石・白色粒/良好/にぶい褐色	縦位ハケ撫で後横位波状文を加える。内面横位研磨。	樽式
第131図 PL.181	56	弥生土器 台付甕	D区N-Ⅲ-17　黒 口縁～体部1/3 欠損	口 高	12.6 16.5	底	7.9	細:石英・輝石・白色粒/良好/明黄褐色/黒色	口縁部横位撫で後５～７本単位の横位波状文と簾状文を配す。体部中位は横位研磨、下半は斜位、脚部は縦位研磨を施す。内面横位研磨。	樽式
第131図 PL.181	57	弥生土器 台付甕	D区N-Ⅲ-15 Ⅴ２ 口縁部1/2欠損	口 高	12.4 12.1	底	7.0	細:石英少・白色粒/良好/淡黄色	口縁部横位撫で後５本単位の簾状文を重複施文する。体部は横位研磨、接合部は縦位ハケ撫で、裾部は縦位研磨を施す。内面丁寧な横位研磨。脚部内面は横位ハケ撫で。	樽式
第131図 PL.181	58	弥生土器 高杯	D区 体部下半～脚部 残存			底	5.0	細:石英少・輝石・白色粒/良好/にぶい黄橙色	身深の体部。脚部は細く小径。体部～脚部は縦位研磨を入念に施し、体部内面も丁寧な研磨を加える。脚部は横位撫で。	樽式
第131図 PL.181	59	弥生土器 高杯	D区O-Ⅲ-17 脚部のみ残存			底	7.6	細:石英・白色粒/良好/赤褐色	体部は強く開く。接合部は縦位研磨、脚部は縦位撫で調整後端部を横位削り。内面体部は丁寧な研磨、脚部は横位撫で調整。	樽式
第131図 PL.181	60	磨製石斧	D区 1/2	長 幅	(10.4) (6.8)	厚 重	363.8	未固結凝灰岩	全体的に丁寧に研磨整形される。	
第131図 PL.181	61	磨製石斧	D区 2/3	長 幅	(13.8) (6.0)	厚 重	(3.4) 432.2	変玄武岩	残存部分のほぼ全面に研磨整形が認められる。擦痕が顕著に認められる。	

古墳時代

Ａ６号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第134図 PL.182	1	土師器 台付甕	床直 口縁部~胴部上位片	口	13.2			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部は縦方向のハケメ後肩に横方向のハケメ。内面は胴部にナデ。	Ｓ字状口縁
第134図 PL.182	2	土師器 台付甕	フク土 口縁部小片					細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はハケメ。内面は胴部にナデ。	
第134図 PL.182	3	土師器 台付甕	床直 脚部	脚	8.7			細砂粒/良好/にぶい黄橙	外面は縦位のヘラ磨き。内面は上半がヘラナデ、下半は横ナデ。	
第134図 PL.182	4	土師器 台付甕	フク土 脚部～胴部下位片	脚	8.4			細砂粒/良好/黒褐	脚部端部は内側に折り曲げ。胴部と脚部上半はハケ目(１㎝あたり６本)。内面胴部はナデ。	Ｓ字状口縁
第134図	5	土師器 台付甕	フク土 脚部上位	底	4			細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部は脚部に巻き上げて成形か。脚部は外面にハケ目(１㎝あたり８本)、内面には砂粒の多い粘土を貼付。	Ｓ字状口縁
第134図 PL.182	6	土師器 台付甕	床直 底部～台部上位片	底	6.0			細砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部と脚部の貼付方法不鮮明。外面は胴部、台部ともハケメ。内面は底部に砂粒の多い年度を貼り付けている。	
第134図	7	土師器 甕か壺	フク土 胴部のみ					細砂粒/良好/明赤褐	内面に輪積痕が残る。外面はハケ目(１㎝あたり９本)、内面はヘラナデ。	
第134図	8	土師器 甕	床直 口縁部小片					細砂粒/良好/にぶい赤褐	外面はハケメ後上半に横ナデ、内面は下半にヘラミガキ。	
第134図 PL.182	9	土師器 甕	フク土 口縁部小片					細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は内外面とも横ナデ。	
第134図 PL.182	10	土師器 杯	フク土 口縁部小片					細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は内外面とも横ナデ。	
第134図 PL.182	11	土師器 壺	フク土 底部片					細砂粒/良好/明赤褐	内面に輪積み痕が残る。外面はハケメを部分的にナデ消している。内面はほぼ全面にハケメが残る。	
第134図 PL.182	12	礫石器 磨石	フク土 完形	長 幅	10.8 10.1	厚 重	3.3 512.7	粗粒輝石安山岩	表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。円礫を利用していると考えられる。	
第134図 PL.182	13	石製品 砥石	フク土 完形	長 幅	12.3 3.9	厚 重	4.8 260.9	流紋岩	砥面は２面認められる。正面が主要な砥面であり研ぎ減りによりやや内湾する。左側面には部分的な研ぎ箇所が認められ、便宜的な砥面と判断できる。	

Ｃ１号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第137図 PL.182	1	土師器 杯	床下 1/4	口	13.8			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部はヘラ削り。内面は体部に右傾の斜放射状ヘラ磨き。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第137図	2	土師器 杯	床上 口縁部～体部片	口	13			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面は体部に右傾の斜放射状ヘラ磨き。	
第137図	3	土師器 杯	床上 口縁部片	口	13			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面は体部から口縁部に右傾の斜放射状ヘラ磨き。	
第137図 PL.182	4	土師器 杯	フク土 口縁部片	口 最	11.7 12.5			細砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。内面は体部から口縁部に右傾の斜放射状ヘラ磨き。	
第137図	5	土師器 杯	フク土 体部～底部片					細砂粒/良好/明赤褐	体部から口縁部はヘラ削り。内面は右傾の斜放射状ヘラ磨き。	
第137図 PL.182	6	土師器 杯	床直 口縁部～底部片	口 稜	12.4 12.2			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第137図 PL.182	7	土師器 杯	床直 1/4	口	13.8			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ、体部から底部はヘラ削り。内面は体部に右傾の斜放射状ヘラ磨き。	
第137図 PL.182	8	土師器 甕	床直 口縁部～胴部中位片	口 胴	12.8 16.2			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、頸部から胴部上位はヘラナデ、中位はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第137図 PL.182	9	土師器 脚付鉢	床直 1/2	口 脚	13.4 9.9	高	13.9	細砂粒/良好/にぶい褐	身部内面は黒色処理。脚部は貼付。身部口縁部は横ナデ、体部上位はナデ、中位から底部、脚部上半はヘラ削り、下半は横ナデ。内面は身部体部に左傾の斜放射状ヘラ磨き。	
第137図 PL.182	10	石製模造 有孔円板	フク土 完形	長 幅	3.4 3.3	厚 重	0.5 8.9	滑石	灰白色～浅黄色。表裏面共に横方向の擦痕が主体的である。表面の孔は周囲がわずかに窪んでおり、裏面からの穿孔の際に表面側が破砕した可能性がある。孔径約２㎜。	
第137図 PL.182	11	石製模造品 剣形品	フク土 完形	長 幅	3.9 2.6	厚 重	0.5 6.2	滑石	明緑灰色。表面は横方向の擦痕が、裏面は斜め方向の擦痕が主体的である。上下の孔径約２㎜。	
第137図 PL.182	12	石製模造品 剣形品	フク土 完形	長 幅	3.6 3.0	厚 重	0.5 10.0	滑石	灰白色。表面は斜め方向の擦痕が、裏面は横方向の擦痕が主体的である。上下の孔径約２㎜。	
第137図 PL.182	13	石製模造品 剣形品	フク土 完形	長 幅	4.7 3.6	厚 重	0.5 13.9	滑石	灰白色。表裏面共に斜め方向の擦痕が主体的である。上下の孔径約２㎜。	
第137図 PL.182	14	石製模造品 剣形品	フク土 完形	長 幅	4.4 2.7	厚 重	0.4 9.7	滑石	灰白色。左側辺には幅約２㎜程度の平坦面が累積して認められ刀子等工具による加工痕の可能性がある。上下の孔径約２㎜。	
第137図 PL.182	15	石製品 臼玉	フク土 完形	長 幅	0.7 0.7	厚 重	0.4 0.3	蛇紋岩	黒褐色。表裏面は平坦であり擦痕がわずかに認められる。側面には斜め方向の擦痕が認められる。孔径約２㎜。	
第137図 PL.182	16	石製品 臼玉	フク土 完形	長 幅	0.7 0.7	厚 重	0.4 0.3	滑石	灰白色。表裏面は平坦であるが擦痕は認められない。側面は擦痕は認められず光沢がある。孔径約２㎜。	
第137図 PL.182	17	礫石器 磨石	床直 完形	長 幅	8.5 5.7	厚 重	4.3 324.2	粗粒輝石安山岩	全面に赤色物質が散在付着する。円礫を利用していると考えられる。	

Ｄ１号方形周溝墓出土

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第140図 PL.182	1	土師器 壺	１周墓 口縁～体部上半 1/3残存 底部破片	口	(9.8)	底	(5.0)	粗:石英・白色粒/良好/にぶい赤褐色	口縁部横位撫で、頸部斜位ヘラ撫で後体部斜位研磨を加える。内面は弱い研磨。器面剥落	２と同一個体
第140図	2	土師器 壺	１周墓 底部破片	口	(9.8)	底	(5.0)	粗:石英・白色粒/良好/にぶい赤褐色	外面ナデ。器面剥落。内面ナデ。	１と同一個体

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第140図 PL.182	3	剣・短剣	１号主体部内 床直	(17.4)	13.9	2.0	0.5	(3.4)	1.2	0.4							刃長20㎝未満の13.9㎝の刃長を持つ短剣。錆がひどく剣本体の明瞭に分る部分が少ない。茎の元部はある程度分る。刃部は鎬の無い両丸造であることが断面から確認できる。鞘木が良く残り、ほぼ全面に剣身部に遺存する。茎にも、木目状に遺存する木質が一部に残る。関は角関と推定する。

Ｄ４号方形周溝墓

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第144図 PL.183	1	土師器 鉢	フク土 ほぼ完形	口 底	12.0 3.5	高	5.2	細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り後ヘラミガキ、器面摩滅のため単位不明、底部はヘラミガキ。内面は底部から体部にヘラナデ。	
第144図 PL.183	2	土師器 高杯	フク土 口縁部1/3残存	口	15.4			細:石英・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁～体部横位撫で調整後弱い研磨。内面平滑な横位撫で	
第144図	3	土師器 壺か	フク土 口縁部小片	口	10.0			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部はヘラ削り後横ナデ。内面は横ナデ。	
第144図 PL.183	4	土師器 小型甕	フク土 口縁～体部上半 1/3残存	口	9.8			細:石英少・白色粒/良好/にぶい黄橙色	口縁部は短く外傾し頸部屈曲。体部中位で強く張る。口縁部横位撫で、体部縦位ハケ撫で後下半は横位研磨。内面横位研磨を施す	

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第144図 PL.183	5	石製品 勾玉	フク土 完形	長	3.4	厚	1.5	ひすい	全体的に丁寧な研磨整形が認められ光沢がある。やや透明感がある。孔は中央付近で段違いになっており両面穿孔と考えられる。表面の孔上部の直径５㎜。	
				幅	2	重	17.4			
第144図 PL.183	6	石製品 棗玉	フク土 完形	長	0.9	厚	1.1	ぎょくずい	全体的に非常に滑らかであり研磨整形される。透明度が比較的高く外部から孔の形状がわずかに透視できる。孔は中央付近が狭くなっており両面穿孔と考えられる。孔径約３㎜。	
				幅	0.9	重	1.48			
第144図 PL.183	7	石製品 算盤玉	フク土 完形	長	0.7	厚	0.8	石英	全体的に非常に滑らかであり研磨整形される。透明度が非常に高く外部から孔の形状が透視できる。孔径約２㎜。	
				幅	0.7	重	0.51			
第144図 PL.183	8	石製品 算盤玉	フク土 完形	長	0.7	厚	0.8	石英	全体的に非常に滑らかであり研磨整形される。透明度が非常に高く外部から孔の形状が透視できる。孔は中央付近で段差が認められ両面穿孔と考えられる。孔径約２㎜。	
				幅	0.7	重	0.41			
第144図 PL.183	9	石製品 算盤玉	フク土 完形	長	0.7	厚	0.6	石英	全体的に非常に滑らかであり研磨整形される。透明度が非常に高く外部から孔の形状が透視できる。孔径約２㎜。	
				幅	0.7	重	0.35			
第144図 PL.183	10	礫石器 凹石	フク土 完形	長	10.5	厚	3.9	粗粒輝石安山岩	背面側に窪み部２ヶ所、裏面側にアバタ状の集合打痕２ヶ所がある。背面側の窪み部は漏斗状を呈する。端部がヒビ割れ、被熱している可能性がある。	
				幅	6.7	重	425.5			
第144図 PL.183	11	礫石器 凹石	フク土 完形	長	10.3	厚	3.2	閃緑岩	表裏面とも礫中央部より下端側にアバタ状の集合打痕が広がる。表裏面とも摩耗しているほか、小口部分の敲打痕も目立つ。やや小形の偏平礫を用いる。	
				幅	5.5	重	262.4			
第144図 PL.183	12	礫石器 磨石	フク土 完形	長	9.7	厚	4.2	粗粒輝石安山岩	表裏両面とも摩耗するほか側縁に敲打痕がある。より平坦な裏面側は石の目が潰れるほど摩耗している。	
				幅	8.4	重	469.4			
第144図 PL.183	13	ガラス玉	フク土	長	0.43	孔	0.25			
				最	0.65	重	0.24			
第144図 PL.183	14	ガラス玉	フク土	長	0.50	孔	0.23			
				最	0.57	重	0.23			
第144図 PL.183	15	ガラス玉	フク土	長	0.41	孔	0.23			
				最	0.51	重	0.14			
第144図 PL.183	16	ガラス玉	フク土	長	0.49	孔	0.20			
				最	0.48	重	0.18			
第144図 PL.183	17	ガラス玉	フク土	長	0.49	孔	0.20			
				最	0.55	重	0.17			
第144図 PL.183	18	ガラス玉	フク土	長	(0.33)	孔				
				最	(0.41)	重	0.02			
第144図 PL.183	19	ガラス玉	フク土	長	0.30	孔				
				最	(0.28)	重	0.01			
第144図 PL.183	20	ガラス玉	フク土	長	0.88	孔	0.33		コバルト着色カリガラス(Group Ⅰ)	
				最	0.95	重	0.45			
第144図 PL.183	21	ガラス玉	床直	長	0.63	孔	0.35		コバルト着色カリガラス(Group Ⅰ)	
				最	0.88	重	0.63			
第144図 PL.183	22	ガラス玉	床直	長	0.63	孔	0.20		コバルト着色カリガラス(Group Ⅰ)	
				最	0.77	重	0.48			
第144図 PL.183	23	ガラス玉	床直	長	0.65	孔	0.30		コバルト着色カリガラス(Group Ⅰ)	
				最	0.68	重	0.39			
第144図 PL.183	24	ガラス玉	フク土	長	0.69	孔	0.39		コバルト着色カリガラス(Group Ⅰ)	
				最	0.64	重	0.37			
第144図 PL.183	25	ガラス玉	フク土	長	0.35	孔	0.15			
				最	0.37	重	0.03			
第144図 PL.183	26	ガラス玉	床直	長	0.36	孔	(0.13)			
				最	0.39	重	0.03			
第144図 PL.183	27	ガラス玉	フク土	長	0.35	孔	0.11			
				最	0.36	重	0.03			
第144図 PL.183	28	ガラス玉	フク土	長	0.49	孔				
				最	(0.34)	重	0.02			
第144図 PL.183	29	ガラス玉	フク土	長	0.25	孔				
				最	(0.43)	重	0.02			
第144図 PL.183	30	ガラス玉	フク土	長	0.37	孔				
				最	(0.38)	重	0.03			
第144図 PL.183	31	ガラス玉	フク土	長	0.25	孔				
				最	(0.37)	重	0.02			
第144図 PL.183	32	ガラス玉	フク土	長	0.49	孔	0.22		コバルト着色カリガラス(Group Ⅰ)	
				最	0.53	重	0.08			
第144図 PL.183	33	ガラス玉	床直	長	(0.48)	孔				
				最	(0.54)	重	0.08			
第144図 PL.183	34	ガラス玉	フク土	長	0.38	孔			コバルト着色カリガラス(Group Ⅰ)	
				最	0.47	重	0.04			
第144図 PL.183	35	ガラス玉	フク土	長	0.25	孔				
				最	(0.28)	重	0.01			
第144図 PL.183	36	ガラス玉	床直	長	0.30	孔				
				最	(0.24)	重	0.01			
第144図 PL.183	37	ガラス玉	フク土	長	0.66	孔	0.25		コバルト着色カリガラス(Group Ⅰ)	
				最	0.72	重	0.41			
第144図 PL.183	38	ガラス玉	フク土	長	0.29	孔	(0.18)			
				最	0.43	重	0.04			

古墳時代集石

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第145図 PL.183	1	土師器 坩	C1号集石 口縁部2/3欠	口 胴	10.6 8.6	底 高	3.6 11	細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ後下半にヘラ削り、頸部にハケ目が残る、胴部は上半がナデ、下半から底部はヘラ削り。内面は口縁部下位にハケ目(1㎝あたり9本)、胴部はヘラナデ。	
第145図 PL.183	2	礫石器 磨石	C1号集石 完形	長 幅	11.2 8.3	厚 重	4.4 478.1	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表面のほぼ全面に磨面が認められる。	
第145図 PL.183	3	礫石器 磨石	C1号集石 完形	長 幅	12 10.3	厚 重	4.2 770.4	粗粒輝石安山岩	円礫を利用する。表裏面のほぼ全面に磨面が認められる。	

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第145図 PL.183	4	板状品	C1号集石	4.0+	2.5+	0.05											2枚の薄板が一部重なっている。径2㎜の穿孔が上下板の重なりのある場所にある。
第145図 PL.183	5	板状品	C1号集石	2.1+	1.7+	0.1											板状品。穿孔が1つ施され、鋲の可能性のあるものが打たれているか?。
第145図 PL.183	6	板状品	C1号集石	1.7+	1.2+	0.05											極薄板状品。植物繊維茎状のものが錆化して付着している。

D2号古墳

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第154図 PL.183	1	埴輪 円筒	周溝東 胴部小片					細砂粒・粗砂粒/良好/にぶい黄橙	体部はハケメ、凸帯は貼付、その上下はナデ。内面はヘラナデ。	
第154図 PL.183	2	埴輪 円筒か	周溝 基部小片	底	17.4			細砂粒・粗砂粒/良好/橙	円筒か形象かは不明。基部端部はヘラナデ、胴部はハケメ。内面はヘラナデ。	
第154図 PL.183	3	ガラス玉	フク土		0.31 0.37		0.10 0.06			

D3号古墳

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第156図 PL.183	1	須恵器 甕	フク土 胴部小片					細砂粒/還元焔/暗灰	外面には平行叩き痕、内面は同心円状アテ具痕が残る。	
第156図 PL.183	2	須恵器 壺	周溝 胴部小片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回りか。外面は回転ヘラ削り。古代。	

古墳時代遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第157図 PL.184	1	土師器 杯	A区 3/4	口 稜	15 13.5			細砂粒/良好/にぶい橙	内面は燻か。口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	
第157図	2	土師器 杯	A区 口縁部片	口 底	15 11.5			細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面は体部から口縁部に右傾の斜放射状ヘラ磨き。	
第157図	3	土師器 杯	A区 口縁部片	口	13.6			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部はヘラ削り。	
第157図	4	土師器 高杯	A区 脚部片	脚	12.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	脚部は縦位にヘラ磨き、裾部は横ナデ。内面は脚部がヘラナデ、裾部は横ナデ。	
第157図	5	土師器 壺	A区 口縁部片					細砂粒/良好/にぶい橙	内面に輪積痕が残る。内外面ともヘラナデ。	
第157図 PL.184	6	石製品 石製品	A区 完形	長 幅	4.3 5.1	厚 重	1.2 38.4	砥沢石	全体的に研磨整形されている。表裏面はほぼ平坦であり非常に滑らかである。孔は中央付近がわずかに狭くなっており両面穿孔の可能性がある。孔径約9㎜。	
第157図 PL.184	7	ガラス玉	C区		0.45 0.57		0.20 0.21		コバルト着色カリガラス(Group Ⅰ)	

古代

A2号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第160図 PL.184	1	土師器 杯	フク土 2/3	口 底	13.4 8.7	高	7.5	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第160図	2	土師器 杯	カマド 口縁部～底部片	口 底	12 7.8	高	3.5	細砂粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第160図 PL.184	3	須恵器 杯	床上 口縁部～底部 1/4	口 底	11.4 7.2	高	3.7	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第160図	4	須恵器 盤	フク土 口縁部片	口	19			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、高台が貼付か。	
第160図	5	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部上位片	口	23			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第160図	6	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上位片	口	22.0			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

A１号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第162図 PL.184	1	須恵器 杯	床直 3/4	口 底	13.2 7.4	高	3.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第162図	2	須恵器 杯	床直 口縁部～底部片	口 底	13.4 7	高	3.5	細砂粒：黒色粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第162図	3	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	13.4 7	高	3.4	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第162図	4	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	13 8	高	3.3	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第162図	5	須恵器 杯	フク土 口縁部片	口	14			細砂粒：黒色粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形。	
第162図	6	須恵器 杯	床上 底部～体部下半	底	7.4			細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第162図 PL.184	7	須恵器 杯	フク土 底部片	底	7			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	底部外面に墨書。文字不明。
第162図 PL.184	8	須恵器 椀	床上 口縁部一部欠	口 底	15.3 8.2	台 高	8.2 3.9	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後高台を貼付。	
第162図 PL.184	9	須恵器 椀	床直 1/3	口 底	15 9	台 高	8.6 5.1	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第162図 PL.184	10	須恵器 皿	フク土 3/4・高台欠損	口 底	12.4 7			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付が剥落。	
第162図	11	須恵器 皿	フク土 1/4	口 底	13 7	台 高	6.8 3	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第162図	12	須恵器 杯蓋	フク土 口縁部片	口	16.8			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。	
第162図	13	須恵器 杯蓋	フク土 口縁部片	口	15.8			細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形。	
第162図	14	須恵器 蓋	フク土 天井部片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘み周辺は回転糸切り痕が残り、その周囲の天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第162図	15	須恵器 鉢	フク土 底部～体部片	底	12			細砂粒/酸化焔/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。底部はヘラナデ、高台は貼付が剥落。	
第163図 PL.184	16	土師器 甕	床上 口縁部～胴部下位片	口 胴	21 22.4			細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第163図	17	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上位片	口	17.8			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第163図	18	須恵器 甕	床上 口縁部～頸部片	口	27			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。	
第163図 PL.184	19	礫石器 石皿	床直 完形	長 幅	44.4 36.8	厚 重	18.8 46980	粗粒輝石安山岩	全面的に自然面と判断される。円礫を利用する。表面は全体的に平坦であり中央付近に帯状に非常に滑らかな部分が認められる。	

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第163図 PL.184	20	両関装具付小刀	フク土	31.2+	18.2	2.5	0.5	13.0+	1.9	0.4	3.2+	3.2	2.1	0.1			刃長が18.2㎝と20㎝未満の小刀である。切先はふくらの弱い平造りである。茎端が欠損している。刃関は両関で、棟関は４㎜ほどに対して、刃関は１㎜ほどの段状である。刀装具は、有機質で、刃部側寄りに1.5㎜ほどの幅で溝が全周している。
第163図 PL.184	21		フク土	2.1+	1.7+	0.1											責金具と思われる部品(長2.3㎝+、上幅1.6㎝)の一部が共伴しており、この小刀の装具と推定される。
第163図 PL.184	22	方頭斧箭鏃	フク土	7.4+	4.5	3.25	0.4				1.6	0.4	2.9+	0.45	0.4		方頭鏃。台形状に拡がる鏃身部先端に刃部を持つ方頭鏃である。群馬県での出土は珍しい。住居から出土している例である。狩猟用あるいは祭儀用か。
第163図 PL.184	23	鉄滓小片	床下土坑	1.9	1.0	0.5											滓。小型のものである。床下土坑内にあった。
第163図 PL.184	24	鉄滓小片	床下土坑	1.7	1.4	0.4											滓。小型のものである。床下土坑内にあった。
第163図 PL.184	25	鉄滓小片	床下土坑	1.5	1.4	1.2											滓。小型のものである。床下土坑内にあった。
第163図 PL.184	26	鉄滓小片	床下土坑	1.1	1.0	0.2											滓。小型のものである。床下土坑内にあった。
第163図 PL.184	27	鉄滓小片	床下土坑	1.6	0.9	0.6											滓。小型のものである。床下土坑内にあった。
第163図 PL.184	28	鉄滓小片	床下土坑	1.4	1.0	0.7											滓。小型のものである。床下土坑内にあった。

Ａ３号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第166図	1	須恵器 杯	フク土 1/4	口 底	10.6 5.8	高	3.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第166図	2	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部片	口 底	11.6 8	高	3.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第166図	3	須恵器 杯	床直 1/3	口 底	12.4 7.2	高	3.3	細砂粒：黒色粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第166図 PL.185	4	須恵器 杯	フク土 4/5	口 底	13.4 7.8	高	3.9	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第166図	5	須恵器 杯	床上 底部～体部下位片	底	8			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第166図	6	須恵器 杯	フク土 底部	底	6.4			細砂粒/還元焔/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第166図 PL.185	7	須恵器 椀	フク土 3/4	口 底	13.7 7	高	4.5	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第166図 PL.185	8	須恵器 椀	フク土 1/2	口 底	15.6 6.8	台 高	6 5.6	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第166図 PL.185	9	須恵器 椀	フク土 1/3	口 底	13.8 7	台 高	6.8 5.1	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第166図	10	須恵器 椀	フク土 口縁部～体部片	口	15.6			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。	
第166図	11	須恵器 椀	床直 口縁部～体部片	口	15			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。	
第166図	12	須恵器 椀	床直 底部～体部下半	底	7.2			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第167図	13	須恵器 杯蓋	フク土 摘部～天井部片	摘	4.3			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部Ｈ亜回転ヘラ削り。	
第167図	14	須恵器 杯蓋	フク土 口縁部片	口	18.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。内面に降灰が付着、焼成時は椀の上に逆さにして重ねて窯入れされている。	
第167図 PL.185	15	須恵器 長頸壺	床直 底部～胴部中位片	底 台	10.4 11.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内面底部も回転ヘラナデ。	
第167図	16	土師器 甕	貯蔵穴内 口縁部～胴部上位片	口	16.8			細砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第167図 PL.185	17	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上位片	口	17.8			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第167図	18	須恵器 甕	フク土 口縁部～頸部片	口	27			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。	
第167図	19	須恵器 甕	床直 口縁部片	口	17.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。	
第167図	20	須恵器 甕	フク土 胴部片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は平行叩き痕がかすかに残る。、内面はアテ具痕がかすかに残るが、残部分の上位ではナデ消されている。。	
第167図	21	須恵器 甕	フク土 頸部～胴部上位片					細砂粒/還元焔/灰白	胴部は外面がヘラナデ、内面はナデ。	
第167図 PL.185	22	礫石器 台石	床上 2/3	長 幅	33.5 (30.4)	厚 重	11.3 18900	粗粒輝石安山岩	亜円礫を利用する。表面の全面に滑らかな部分が認められる。	

Ｃ２号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第170図	1	須恵器 杯	フク土 口縁部～底部	口 底	12.7 7.2	高	3.3	細砂粒/還元焔/淡黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第170図 PL.185	2	須恵器 杯	フク土 1/4	口 底	11.8 6	高	4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第170図 PL.185	3	須恵器 椀	Ｐ５内 完形	口 底	12.3 5.3	高	4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第170図 PL.185	4	須恵器 椀	フク土 1/3	口 底	15.6 7.4	台 高	7 5.7	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第170図 PL.185	5	須恵器 椀	床直 2/3	口 底	15.8 7.7	台 高	6.8 5.7	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面口縁部と内面底部に墨書。「矢」
第170図	6	須恵器 椀	フク土 底部1/2	底 台	8.2 8			細砂粒/酸化焔/に憂い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第170図 PL.185	7	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部片	口	20			細砂粒/良好/明赤褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第170図 PL.185	8	土師器 台付甕	床直 脚部と口縁部～胴部上半の1/4を欠損	口 胴	12 14			細砂粒/良好/明赤褐	脚部は貼付。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り、脚部とも接合部は横ナデ。内面は胴部がヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第170図 PL.185	9	鏃頸・茎部	フク土	6.4+				3.8+	0.4	0.4	0.4	0.4	2.6+	0.2	0.2		鏃頸・茎部片。明瞭な角関を有する鏃。7世紀中～のものか？
第170図 PL.185	10	刀子刃部	床直	4.4	0.5	0.1											小型刀子片。刃先のほうには、あまいが刃が認められるが、茎方向に向かうにつれて明瞭な刃部が無くなり、平坦面を形成する。板状鉄片で、製作途上のものである可能性が高い。
第170図 PL.185	11	滓	床直	3.4	2.5	1.8											大型滓。底部が平らで、甲羅状の高まりを持つ。
第170図 PL.185	12	滓	床直	3.2	2.9	1.8											滓。平面楕円形状を呈する。
第170図 PL.185	13	滓	床直	4.2	2.6	1.6											滓。不定形状である。
第170図 PL.185	14	滓	床直	2.5	1.8	1.4											滓。小型である。
第170図 PL.185	15	滓	床直	1.7	1.3	0.5											滓。小型である。
第170図 PL.185	16	滓	床直	1.5	1.3	0.9											滓。小型である。
第170図 PL.185	17	滓	床直	1.4	1.1	0.8											滓。小型である。

C３号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第173図 PL.186	1	須恵器 杯	床上 1/3	口 底	13.4 7.8	高	3.7	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第173図	2	須恵器 椀	床直 口縁部～体部片	口	13.4			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。	
第173図 PL.186	3	須恵器 椀	床直 口縁部～底部 1/3	口 底	16.2 7.4	台 高	7.2 5.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内外面に煤が付着。
第173図	4	須恵器 杯	土坑内 底部～体部下位片	底	6.5			細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第173図	5	土師器 甕	フク土 口縁部～胴部上位片	口	21			細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第173図	6	土師器 台付甕	フク土 甕底部.台部欠					細砂粒/良好/黄橙	脚部は貼付が剥落。外面はヘラ削り、内面はヘナで。	
第173図	7	須恵器 甕	フク土 胴部片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	内外面ともヘラナデ。	
第173図	8	須恵器 甕	フク土 胴部片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	内外面ともヘラナデ。内面にアテ具痕がかすかに残る。	
第173図 PL.186	9	礫石器 石皿	床直 完形	長 幅	26 11	厚 重	5.5 1505.7	粗粒輝石安山岩	粗粒の礫片である。表面の全体が滑らかでありわずかに内湾する。その中央付近には著しく滑らかな部分が帯状に認められ縦方向の細かい線条痕が比較的多くある。またその中央帯状部分には、斑晶が抜け落ちた微少な穴の内部に橙色の物質が付着する状況がわずかに認められる。著しく滑らかな部分が表面の中央付近にあることから、この形態で完形と考えられる。	

D23号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第174図 PL.186	1	須恵器 杯	フク土 1/2	口 底	13.4 6.6	高	3.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第174図 PL.186	2	須恵器 椀	床直 底部～体部片	底	7.0			酸化焔/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第174図 PL.186	3	須恵器 椀	フク土 底部片	底 台	9.0 8.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第174図 PL.186	4	須恵器 椀	フク土 底部片	底 台	7.0 7.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第174図 PL.186	5	須恵器 椀	床上 口縁部片	口	17.0			細砂粒・粗砂粒/酸化焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第174図 PL.186	6	須恵器 椀	フク土 口縁部小片	口	11.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。	
第174図 PL.186	7	土師器 甕	フク土 頸部～胴部片					細砂粒/良好/明赤褐	口縁部はコの字か。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第174図 PL.186	8	須恵器 甕	フク土 胴部上位片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	外面は降灰付着のため整形不明。内面は微かアテ具痕が残るが、ほとんどナデ消されている。	
第174図 PL.186	9	須恵器 壺	フク土 胴部下位片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回りか。外面は回転ヘラ削り後回転ヘラナデ。	

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第174図 PL.186	10	刀子	床直	7.9+	4.1	1.2	0.25	2.9+	1.2	0.3							刀子片。切先と茎端が欠損する。関は、棟関が角関で、刃関が山形状の関を呈する。また関の位置は、棟と刃でずれており、刃関のほうが切先に近い。茎が屈曲しており、意識的に曲げた可能性が高い。

A５号竪穴建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第175図	1	須恵器 杯	フク土 口縁部片	口	12.4			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。	
第175図	2	須恵器 甕	フク土 胴部下半片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。胴部下位は回転ヘラ削り。内面はヘラナデ。	

古墳時代掘立柱建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第176図 PL.186	1	須恵器 杯	A2号掘立 口縁部～底部 1/4	口 底	12.3 8.5	高	4	細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内面体部に輪積痕が残る。	

古代土坑群

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第177図 PL.186	1	須恵器 杯	B1号土坑群 口縁部一部欠	口 底	13.1 7	高 0	4.1 0	細砂粒/酸化焔/燻/黄橙	内外面とも燻。ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第177図 PL.186	2	須恵器 椀	B1号土坑群 1/2	口 底	15.3 9.8	台 高	8 5.4	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面底部に墨書。「長」の異体字。
第177図 PL.186	3	須恵器 椀	B1号土坑群 2/3	口 底	16.2 7.8	台 高	7.5 6.2	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第177図	4	土師器 甕	B1号土坑群 口縁部～頸部片	口	18			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第177図 PL.186	5	龍泉窯系青磁か 不詳	B1号土坑群 小片					灰	高台境から体部小片か。釉やや厚く粗い貫入入る。内外面無文。	中世か。６と同一個体か。
第177図 PL.186	6	龍泉窯系青磁か 不詳	B1号土坑群 小片					灰	高台境から体部小片か。釉やや厚く粗い貫入入る。内外面無文。	中世か。５と同一個体か。

古代土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第180図	1	須恵器 杯	A5号土坑 底部片	底	7.2			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第180図	2	須恵器 椀	A6号土坑 底部～体部下位片	底 台	7.6 7.0			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第180図 PL.186	3	須恵器 椀	A15号土坑 1/2	口 底	14.2 8.2	台 高	8.8 5.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。右底部回転糸切り後高台を貼付。	
第180図	4	須恵器 杯蓋	A15号土 口縁部～天井部片	口	16.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第180図	5	土師器 甕	A15号土 口縁部～胴部上位片	口	19.7			細砂粒/良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

古代溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第182図	1	須恵器 杯	A3号溝 口縁部片	口	13.8			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	

古代焼土

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図	1	須恵器 杯	A3号焼土 口縁部～体部片	口 底	10.8 6.9			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第185図	2	須恵器 杯	A3号焼土 口縁部～底部片	口 底	12.1 7.0	高	3.9	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
第185図	3	土師器 小型甕	A3号焼土 口縁部～胴部上位片	口	7.8			細砂粒/還元焔/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第185図	4	須恵器 椀	A3号焼土 口縁部～底部片	口 底	14.4 7.8	台 高	7.9 4.9	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。高台は貼付、底部の切り離し技法不明。	
第185図	5	須恵器 甕	A3号焼土 口縁部～胴部上位片	口	43.2+			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、外面は頸部から胴部に平行叩きとみられる痕跡がかすかに残る。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図	6	須恵器 杯蓋	A8号焼土 摘～天井部	摘	3.6			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天助部は回転ヘラ削り。	
第185図	7	土師器 鉢	A8号焼土 体部片					細砂粒/良好/にぶい黄橙	内外面とも赤色塗彩。内外面ともヘラ磨き。	
第185図	8	土師器 甕	A8号焼土 口縁部～頸部片	口	20.0			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ。	
第185図	9	土師器 杯	A7号焼土 口縁部～底部片	口 底	12.9 8.6			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	
第186図	1	須恵器 杯	A5号焼土 口縁部～体部片	口	11.8			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	
第186図	2	須恵器 杯	A5号焼土 底部片	底	7.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は手持ちヘラ削りか、器面磨滅のため不鮮明。	
第186図	3	須恵器 杯	A5号焼土 底部片	底	7.8			細砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転回転ヘラ起し	
第186図 PL.186	4	須恵器 杯	A5号焼土 体部～底部	底	7.0			細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第186図	5	土師器 甕	A5号焼土 口縁部～胴部上位片	口	9.8			細砂粒/良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第186図	6	土師器 甕	A5号焼土 口縁部～胴部上位片	口	12.8			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	

古代集石

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第188図 PL.187	1	須恵器 杯蓋	D8･4号集石 摘欠損	口	17.5			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。口縁部は端部を折り曲げ。	
第188図 PL.187	2	須恵器 壺	D8･4号集石 口縁部と胴部1/5欠損	底 胴	11.4 22.0			細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は不定方向のヘラ削り、胴部は下位がヘラ削り、その上位はヘラナデ。上位に２条の凹線が巡る。	
第188図 PL.187	3	土師器 甕	D8･4号集石 口縁部小片	口	20.0			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は内外面とも横ナデ。	
第188図 PL.187	4	土師器 甕	D8･4号集石 口縁部～胴部上位片					細砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	

古代畠

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第189図 PL.186	1	須恵器 杯蓋	A11号畠 1/5	口	14.6			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形､回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。	

古代遺構外出土遺物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第191図	1	土師器 杯	A区 口縁部～底部	口 底	13.8 10.6	高	3.2	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。	
第191図	2	土師器 杯	A区 底部～体部片	底	9.0			細砂粒/良好/橙	底部と体部はヘラ削り。	
第191図 PL.187	3	須恵器 杯蓋	A区 口縁部一部・摘欠損	口	9.7			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形､回転右回り。天井部は中程まで回転ヘラ削り。摘みは貼付が剥落。	
第191図 PL.187	4	須恵器 杯蓋	A区 口縁部を1/4欠損	口 摘	17.7 4.7	高	4.9	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第191図 PL.187	5	須恵器 杯蓋	A区 1/3	口 摘	16.8 3.7	高	3.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第191図	6	須恵器 杯蓋	A区 口縁部～天井部片	口	16.8			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。内面は中央部に回転ヘラナデ。	
第191図	7	須恵器 杯蓋	A区 口縁部～天井部片	口	19.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。天井部は回転ヘラ削り。	
第191図 PL.187	8	須恵器 杯蓋	A区 摘み～天井部片	摘	4.3			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	
第191図	9	須恵器 杯蓋	A区 口縁部片	摘	3.8			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は回転ヘラ削り。	
第191図	10	須恵器 蓋	A区 摘～天井部片	摘	4.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は回転ヘラ削り。	
第192図 PL.187	11	須恵器 杯	A区 口縁部一部欠損	口 底	13.4 7	高	3.5	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図 PL.187	12	須恵器 杯	A区 口縁部一部欠	口 底	12.6 7.8	高	3.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図 PL.187	13	須恵器 杯	A区 口縁部1/2欠	口 底	13.1 7.5	高	3.8	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第192図 PL.187	14	須恵器 杯	A区 3/4	口 底	12.8 7	高	3.2	細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図 PL.187	15	須恵器 杯	A区 2/3	口 底	12.8 7.2	高	3.7	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図 PL.187	16	須恵器 杯	A区 1/4	口 底	14 8	高	3.5	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	17	須恵器 杯	A区 1/4	口 底	12.4 5.8	高	3.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図 PL.187	18	須恵器 杯	A区 口縁部～底部 1/3	口 底	12 7	高	3.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ起し後回転ヘラ削り。	
第192図	19	須恵器 杯	A区 口縁部～底部 1/2	口 底	11 6.2	高	3.2	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	20	須恵器 杯	A区 1/5	口 底	14.2 8	高	3.4	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	21	須恵器 杯	A区 1/4	口 底	13.2 8	高	3.3	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	22	須恵器 杯	A区 口縁部～底部片	口 底	13 8	高	3.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	23	須恵器 杯	A区 1/5	口 底	13 7	高	3.1	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	24	須恵器 杯	A区 1/5	口 底	12.9 8.8	高	3.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。(径7.8)	
第192図	25	須恵器 杯	A区 口縁部～底部片	口 底	13 8.2	高	3	細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	26	須恵器 杯	A区 口縁部～底部	口 底	13 9	高	3.6	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	27	須恵器 杯	A区 1/4	口 底	12.4 7.2	高	4.2	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	28	須恵器 杯	A区 底部	底	7			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	29	須恵器 杯	A区 口縁部～底部片	口 底	11.4 7	高	3.2	細砂粒：黒班/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整。	
第192図	30	須恵器 杯	A区 口縁部～体部片	口	12.6			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第193図	31	須恵器 杯	A区 口縁部～底部片	底	9.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図	32	須恵器 杯	A区 底部～体部片	底	8.0			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り無調整。糸切りを２度行った痕跡が残る。	
第193図	33	須恵器 杯	A区 底部	底	7.3			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図	34	須恵器 杯	A区 底部片	底	7.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図	35	須恵器 杯	A区 底部～体部片	底	7.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図	36	須恵器 杯	A区 底部片	底	8.2			細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図	37	須恵器 杯	A区 底部～体部片	底	7.6			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図	38	須恵器 杯	A区 底部～体部下位片	底	6.8			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部は疑似高台状を呈す。	
第193図	39	須恵器 杯	A区 底部～体部片	底	7.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図	40	須恵器 杯	A区 底部片	底	7.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図	41	須恵器 杯	A区 底部片	底	7.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図 PL.187	42	須恵器 杯	A区 底部片	底	7.4			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面底部に墨書。「馬」
第193図	43	須恵器 杯	A区 底部～体部片	底	7.4			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第193図	44	須恵器 椀	A区 口縁部～体部片	口	11.8			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第193図	45	須恵器 椀	A区 口縁部～体部片	口	16.4			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。内面に降灰が付着。	
第193図	46	須恵器 椀	A区 口縁部～体部片	口	17.6			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。	
第193図 PL.187	47	須恵器 椀	A区 口縁部片	口	15.8			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。	外面に墨書。「長」の異体字
第193図	48	須恵器 椀	A区 底部～体部下位片	底 台	8.0 8.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

遺物観察表

挿図 PL.№	№	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第193図	49	須恵器 椀	A区 底部	底	8.0			細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。高台は打ち欠かれている。	
第193図	50	灰釉陶器 椀	A区 口縁部片	口	15.8			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。施釉方法不明。	光ケ丘1号窯式期
第193図	51	須恵器 椀	A区 口縁部～底部	口 底	15.8 7.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193図	52	須恵器 椀	A区 底部～体部下半片	底 台	8.8 7.8			細砂粒/良好/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193図	53	須恵器 椀	A区 底部～体部下位片	底 台	8.8 8.6			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第193図	54	須恵器 椀	A区 底部～体部下半片	底	8.6			細砂粒・黒班/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第194図	55	須恵器 椀	A区 底部～体部片	底 台	7.8 8			細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第194図	56	須恵器 椀	A区 底部～体部片	底 台	8.4 8.2			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第194図	57	須恵器 椀	A区 底部～体部片	底 台	7.8 8			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第194図	58	須恵器 椀	A区 底部～体部片	底	7			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付が剥落、体部下位に回転ヘラ削り。11	
第194図	59	須恵器 盤	A区 底部～体部片	底 台	11.4 11.8			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラ削り、高台は貼付。	
第194図	60	須恵器 椀	A区 底部～体部片	底 台	9 8.6			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第194図	61	須恵器 椀	A区 底部片	底 台	7.8 8.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	
第194図	62	須恵器 椀	A区 底部	底 台	8.0 7.8			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第194図	63	須恵器 鉢	A区 口縁部片	口	38			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。	
第194図	64	灰釉陶器 椀	A区 口縁部小片	口	15.8			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。施釉方法不明。	光ケ丘1号窯式期
第194図	65	灰釉陶器 椀	A区 体部小片					微砂粒/還元焔/灰オリーブ」	ロクロ整形。体部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	
第194図	66	灰釉陶器 長頸壺	A区 口縁部片	口	8.2			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法不明。	
第194図 PL.187	67	須恵器 壺蓋	O 摘～天井部片	摘	2.8			細砂粒/還元焔/灰オリーブ	ロクロ整形、回転は右回り。天井部は回転ヘラ削り。摘まみは擬宝珠状のものを貼付。	
第194図	68	須恵器 瓶	A区 胴部上位片					細砂粒/還元焔/灰	胴部と頸部は２段接合か。ロクロ整形。	
第194図	69	須恵器 瓶	A区 胴部上半片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。胴部と頸部は２段接合。外面に降灰が付着。	
第194図	70	須恵器 壺	A区 底部	底	10.4			細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第194図 PL.187	71	灰釉陶器 瓶	A区 胴部片					微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、破片下位に回転ヘラ削り。外面の下段に「実」と「良」が並び、逆転した「加」が上段に刻まれている。	外面に刻書。
第194図	72	灰釉陶器 瓶	A区 胴部片					微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。施釉方法不明。	
第194図	73	須恵器 長頸壺	A区 口縁部～頸部片					細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形。	
第194図	74	土師器 甕	A区 口縁部～胴部上位片	口	21.8			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	
第194図	75	土師器 甕	A区 口縁部～頸部片	口	21.8			細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は内外面とも横ナデ。	
第194図	76	土師器 甕	A区 口縁部片	口	22.8			細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、頸部はナデ。内面は横ナデ。	
第194図	77	土師器 甕	A区 口縁部～頸部片	口	24.0			細砂粒/良好/黄灰	内面は黒色処理。口縁部から頸部は横ナデ後ヘラ磨きか。内面は口唇部が横ナデ、口縁部から頸部は横位のヘラ磨き。	
第194図 PL.187	78	須恵器 甕	A区 口縁部片	口	28.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。口縁部は櫛状工具による痕跡が残る。	
第194図	79	須恵器 甕	A区 口縁部～頸部片	口	15.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。	
第195図	80	須恵器 甕	A区 口縁部片	口	28.7			細砂粒/酸化焔/にぶい橙	ロクロ整形。	
第195図	81	須恵器 甕	A区 口縁部片	口	30.0			細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形。	
第195図	82	須恵器 甕	A区 口縁部片	口	37.0			細砂粒/還元焔/灰オリーブ	ロクロ整形。	

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第195図	83	須恵器 甕	A区 底部～体部片	底 台	8.8 8.9			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第195図	84	須恵器 甕	A区 胴部片					細砂粒/還元焔/灰白	外面Hは叩き痕がナデ消されているが、内面は無文のアテ具痕が残る。	
第195図	85	須恵器 甕	A区 頸部～胴部上位片					細砂粒/還元焔/灰	口縁部はロクロ整形、胴部は叩き痕がかすかに残る。内面は胴部に無文のアテ具痕が残る。	
第195図	86	須恵器 甕	A区 頸部胴部上位片					細砂粒・粗砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、内面胴部にアテ具痕がかすかに残る。	
第195図 PL.187	87	土製品 紡輪	A区 1/3	厚	6.5 1.5	孔	0.7	細砂粒/良好/にぶい黄橙	表裏ともナデ、使用痕はみられない。	

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第195図 PL.187	88	両関細身刀子	D区	19.9+	13.4	1.4	0.4	6.5+	1.0	0.3							全長が19.9cm以上と20cmを超える長さを有する刀子であるが、幅が一番あるところで、1.4cmと細身の刀子である。研ぎべりは認められ無い。柄に木質の明瞭な付着は認められ無い。
第195図 PL.187	89	棒状品	D区	13.3+	1.9	0.7	1.4	0.7	1.7+	0.7							鑿に形態が近似し、鑿状工具とする。上部に打ち叩く面あり。下部にいくに従いやや細くなるも、端部はやや広がりを見せるとともに刃を形成するのか厚みは薄くなる。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第196図	90	須恵器 杯	B区 底部	底	6.2			細砂粒：黒班/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第196図	91	須恵器 瓶	B区 胴部上位片					細砂粒/還元焔/褐灰	ロクロ整形。外面はカキ目、内面はヘラナデ。	
第196図	92	須恵器 杯	C区 1/5	口 底	12.2 6.8	高	4.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第196図	93	須恵器 椀	C区 口縁部～底部片	口 底	12.4 7.8	台 高	7.7 4.9	細砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し技法などは不明、高台は貼付。	
第196図	94	須恵器 椀	C区 底部片	底 台	8 7.8			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	
第196図	95	須恵器 椀	C区 口縁部～底部片	底 台	8 7.7			細砂粒/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第196図 PL.188	96	鈎状棒状品	C区	7.4	0.7	0.7	1.1+	0.7	0.9								先が屈曲する鈎状の鉄製品。新しい鉄製可能性あり。
第196図 PL.188	97	棒状品	C区	2.4+	0.78	0.7											棒状品。鏃頸部あるいは釘の茎部の可能性あり。
第196図 PL.188	98	棒状品	C区	3.4+	0.8+	0.3+											棒状品。鏃頸部あるいは釘の茎部の可能性あり。
第196図 PL.188	99	棒状品	C区	3.8+	0.5	0.3											棒状品。鏃頸部あるいは釘の茎部の可能性あり。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第196図 PL.188	100	須恵器 杯	D区 1/4	口 底	13.0 5.2	高	2.8	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第196図 PL.188	101	須恵器 杯	D区 底部～体部	底	7.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第196図 PL.188	102	須恵器 杯	D区 底部～体部片	底	7.0			細砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第196図 PL.188	103	須恵器 杯	D区 底部～体部片	底	6.6			細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。	
第196図 PL.188	104	須恵器 椀	D区 口縁部～底部片	口 底	14.0 7.6	台 高	8.0 5.3	細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第196図 PL.188	105	須恵器 椀	D区 底部～体部	底 台	7.6 7.6			細砂粒・粗砂粒/還元焔/黄灰	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り、高台は貼付。	
第196図 PL.188	106	須恵器 無台椀	D区 底部～体部片	底	7.0			細砂粒・粗砂粒・礫/還元焔/灰黄	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転糸切り無調整。内面は器面が擦り磨かれている。	
第196図 PL.188	107	須恵器 椀	D区 口縁部片	口	15.0			細砂粒/酸化焔・燻し/黒	ロクロ整形、回転は右回り。	
第196図 PL.188	108	灰釉陶器 皿	D区 底部～体部片	底 台	8.4 8.2			微砂粒/還元焔/灰白	ロクロ整形、回転は右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	大原２号窯式期

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第196図	109	須恵器 椀	D区 口縁部片					細砂粒/酸化焔/浅黄橙	ロクロ整形、回転は右回り。	
第196図 PL.188	110	須恵器 椀	D区 口縁部片					細砂粒/還元焔/灰	ロクロ整形、回転は右回り。	
第196図 PL.188	111	土師器 甕	D区 口縁部～胴部上位片	口	19.4			細砂粒/良好/明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	
第196図	112	土師器 甕	D区 頸部～胴部上位小片					細砂粒/良好/にぶい赤褐	頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。	
第196図 PL.188	113	須恵器 甕	D区 胴部小片					細砂粒/還元焔/黄灰	外面には平行叩き痕が残るが、内面はアテ具痕が微かに残る。	

中近世

中近世土坑群

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第198図 PL.188	1	肥前磁器 染付皿	B3土坑群 1/2	口 底	(14.8) (8.7)	器	4.6	灰白	口縁部は輪花に作る。体部内面に笹や扇状文。外面は唐草文。残存部の底部内面は無文。高台内１重圏線。残存部に銘はない。	17世紀末から18世紀中葉。
第198図 PL.188	2	瀬戸・美濃 陶器 不詳	B3土坑群 底部	底	10.8			灰白	底径が大きく内面は錆釉か飴釉が鉄化粧状にかかる。底部内面に重ね焼き痕。大型筒形香炉か。	江戸時代。

中近世土坑

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第201図 PL.188	1	肥前磁器 染付小丸碗	B8土坑 口縁部1/7、底部1/2	口 底	(8.8) 3.3	器	5.5	灰白	瀬戸・美濃の太白手のような色調で焼成不良。外面不明文様。口縁部内面は２重圏線。底部内面１重圏線内にコンニャク印判による五弁花。	18世紀後葉から19世紀初頭。
第201図	2	土師器 小型壺	B9土坑 底部	底	4.5			細砂粒/良好/にぶい黄橙	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラ磨き。	
第202図	1	瀬戸・美濃 陶器 丸碗	B11土坑 底部	底	5.6			灰白	内面飴釉、外面は高台内まで化粧風に薄い飴釉。高台周縁を打ち欠いて円盤状に加工。	江戸時代。二次加工品。
第203図 PL.188	1	肥前磁器 染付筒型碗	B19土坑 底部1/2	底	(3.6)			白	高台脇と高台境に１重圏線。底部内面１重圏線内に簡略化した五弁花。	18世紀後葉から19世紀初頭。

中近世ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第207図	1	瀬戸・美濃 陶器 志野丸皿	A1号ピット 完形	口 底	11.3 6.8	器	2.4	灰白	内面から高台内面に志野釉。高台内は薄く釉がかかる。内面に目跡３カ所。口縁端部に黒っぽい汚れがあり、灯火皿としての使用が推測される。	17世紀中葉

中近世溝

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第215図 PL.188	1	瀬戸・美濃 磁器 染付小碗	C1号溝 1/2	口 底	(7.1) 3.5	器	4.0	白	外面銅板転写による絵付け。内面は無文。高台端部から高台内無釉。	近現代。
第215図 PL.188	2	製作地不詳 磁器 平碗	C1号溝 口縁一部欠	口 底	11.9 4.0	器	5.3	白	機械轆轤成型。外面藍色と緑色による銅板転写絵付け。高台端部無釉。	近現代。
第215図 PL.188	3	肥前磁器 青磁染付鉢	C1号溝 口縁部一部、体部1/4	口	(19.0)			白	体部外面に唐草文、口縁部内面に花卉文。底部内面周縁に２重圏線。体部内面の無文部に青磁釉。	18世紀。
第215図 PL.188	4	在地系土器 火消壺	C1号溝 口縁部1/2、底部完	口 底	(18.8) 17.0	器	17.1	断面赤褐、器表黒	落し蓋タイプの火消壺。３か所の底部外面貼付脚は剥落。	近現代。

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第215図 PL.188	5	鑿？	C1号溝	8.9+	1.8	1.4			1.3	0.7							鑿状工具。鑿・鏨の可能性あり。基部には厚みがあり、先端に向かい細くなる。
第215図 PL.188	6	大型釘	C1号溝	6.8+	1.6	1.1											大型釘。先端欠失。明瞭な釘頭有する。茎に木質付着無し。
第215図 PL.188	7	小型釘	C1号溝	3.8+	0.6+	0.6+		3.4+	0.6	0.4							小型釘。釘頭一部欠損。木質付着無し。
第215図 PL.188	8	引手状鉄製品	C1号溝	3.7+	1.6+	0.6	0.4	2.1	0.5	0.4							引手状の金具片。円環部残る。新しい製品の可能性あり。
第215図 PL.188	9	引手状鉄製品	C1号溝	2.9+	1.4+	0.4	0.3	1.8+	0.6	0.4							引手状の金具片。円環部の一部残る。新しい製品の可能性あり。

天明泥流以降土坑

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第223図 PL.189	1	フック状金具	A2号土坑	10.6+	3.5+	1.2	0.2	7.1+	0.4	0.3							柄部は扁平長方形状のもので、フック部に対して直角方向についている。フック部と想定される部位は、やや下にいくにつれ拡がりを見せるが、途中で欠損してしまい形状は不明である。四戸の古墳群事業団1号墳から同様のものの完形品が1点出土している。

中近世遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第224図 PL.189	1	龍泉窯系 青磁碗	A区 小片	口 底		器		灰	口縁端部は外反。釉はやや厚く貫入入る。	14世紀末から15世紀中葉頃。
第224図 PL.189	2	龍泉窯系 青磁碗		口 底	(14.5)	器		灰	口縁端部は外反。釉はやや薄い。	14世紀末から15世紀中葉頃。
第224図 PL.189	3	肥前陶器か 呉器手碗	A区 底部	口 底	(4.7)	器		灰	胎土が灰色で灰釉の碗。貫入入る。器形と高台の作りは肥前の呉器手と同様。高台端部のみ無釉。	17世紀後葉から18世紀前葉。
第224図 PL.189	4	肥前磁器か 染付碗	A区 底部1/2	口 底	(3.5)	器		白	高台薄い。体部外面に奴様の染付2か所残る。高台端部のみ無釉。	18世紀から19世紀前葉。
第224図	5	肥前磁器か 染付碗	A区 底部1/2	口 底	(3.5)	器		白	高台薄い。体部外面に奴様の染付2か所残る。高台端部のみ無釉。	18世紀から19世紀前葉。
第224図	6	瀬戸・美濃 陶器 尾呂碗か	A区 底部	口 底	5.6	器		灰白	高台幅拾い。内面から高台外面付近飴釉。高台は端部を除き鉄化粧状に釉薄くかかる。底部内面の一部に白っぽい灰釉。	17世紀後葉から18世紀前葉か。
第224図 PL.189	7	在地系土器か 片口鉢	A区 口縁部片					断面にぶい橙 器表黒	口縁部は玉縁をなし、端部は上方にとがり気味。残存部内面下部は使用により摩滅し、平滑となる。	14世紀中葉頃。
第224図 PL.189	8	在地系土器か 箱庭道具植物か	A区 完形	幅 厚	1.6 1.4	高	2.5	鈍黄橙	箱庭道具様の土製品。前後の型による型作り。	江戸から近現代。
第224図 PL.189	9	在地系土器か 天神人形か	A区 一部欠	幅 厚	3.2 1.3	高	3.5	鈍黄橙	前後の型による型作り。烏帽子をかぶり、座り姿で右手に笏を持つ。	江戸から近現代。
第224図	10	古銭	A区	幅 厚	2.25 0.2				寛永通寶	
第224図 PL.189	11	肥前磁器 染付小広東碗	B区 口縁部一部、底部完	口 底	(7.7) 3.0	器	3.8	白	外面○内に壽字文と不明文様。高台内1重圏線内に不明文様。	18世紀末から19世紀前葉。
第224図 PL.189	12	肥前磁器 染付小皿	B区 口縁部1/8、底部1/3	口 底	(9.3) (4.1)	器	2.6	灰白	体部外面と底部内面に染付。底部内面の一部に釉切れ。	江戸時代。
第224図 PL.189	13	製作地不詳 磁器 赤絵小碗	B区 1/2	口 底	(7.2) 3.0	器	3.3	白	外面僅かに赤絵と上絵痕残る。	近現代。
第224図 PL.189	14	製作地不詳 磁器 染付鉢	B区 底部完	口 底	8.6	器		白	８角形の鉢。酸化コバルトによる染付。底部内面は鶴と植物文で目跡３か所。蛇の目凹型高台。	近現代。
第224図 PL.189	15	瀬戸・美濃 磁器 染付小杯	B区 口縁部1/2、底部1/3	口 底	(5.1) (3.0)	器	5.8	白	口縁端部に酸化後バルト。外面に３条一組の縦線を酸化後バルトで描く。内面の高台境に1重圏線。	近現代。
第224図 PL.189	16	瀬戸・美濃 陶器 灯火皿	B区 口縁部一部、底部2/3	口 底	(9.9) 4.8	器	1.9	灰白	外面口縁部以下は右回転箆削り。錆釉施釉後に体部外面以下の釉を拭う。	18世紀後葉から19世紀前葉。

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	観察内容
第224図 PL.189	17	銅製品 毛抜	B区	6.8	0.7	0.6	0.7	0.1									銅製の毛抜きと推定。片方のつまみ部は折れて欠失。つまみ部に向けてやや拡がる。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第225図 PL.189	18	瀬戸・美濃 陶器 仏飯器か	C区 1/3	口 底	(6.8)	器		灰白	口縁部外面呉須による不明文様。内外面灰釉。粗い貫入入る。	江戸時代。
第225図 PL.189	19	肥前磁器 青磁鉢か皿	C区 1/4	口 底	(9.0)	器		灰	内外面に青磁釉。発色はやや悪い。蛇の目凹型高台。	江戸時代。
第225図	20	銅製品 煙管	C区	長 厚	6.3 0.2	高	1.0		吸口	

遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第225図 PL.189	21	引手状鉄製品	C区	3.2+	1.6+	0.3	0.3	1.7	0.5	0.4							引手状金具。茎部途中から欠損。新しい鉄製品の可能性あり。
第225図 PL.189	22	釘	C区	5.9+	0.6+	0.5	0.4	5.5+	(0.6)	(0.6)							釘が錆割れしているもの。かなり傷んでおり、原形の復元は難しい。
第225図 PL.189	23	釘	C区	3.9+	1.05	0.8	0.3	3.6+	0.7	0.7							中型の釘。明瞭な釘頭部を有する。
第225図 PL.189	24	鏃	C区	4.2+		0.4	0.4	3.8+	0.5	0.4							釘の茎部か？
第225図 PL.189	25	釘	C区	4.0+				4.0+	0.3	0.2							鏃の茎部か。細めの断面四角形の棒状品。
第225図 PL.189	26	釘	C区	3.6+				3.6+	0.5	0.5							釘茎部片と推定する。木質の遺存はない。
第225図 PL.189	27	滓	C区	2.5	2.3	2.3											滓の可能性高い。石に付着している。
第225図 PL.189	28	椀型滓	C区	5.7	4.7	1.2											大きい椀形滓である。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第225図	29	瀬戸・美濃陶器 碗類	D区 口縁部片	口		器		灰	古瀬戸か。口縁部は緩やかに内湾し、端部は小さく外反。内外面灰釉。	14世紀から15世紀か。
				底						

挿図 PL.No.	No.	細別器種	出土位置	法量													観察内容
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
第225図 PL.189	30	茎片	不明	3.5+									3.5+	0.3	0.25		鏃の茎の端部と推定する。有機質の遺存は無し。
第225図 PL.189	31	頸部？	不明	6.1	0.4	0.15											棒板状品。薄手の細板状品。両端とも欠失している。